

1. 調査の目的と方法

「革命」の名を与えられているITは、高等教育の世界にもさまざまな変化を引き起こしつつある。同期・非同期双方向のコミュニケーションを可能とするインターネットに代表されるITは、遠隔教育の可能性を拡大したが、それにとどまらず既存のキャンパスをもつ高等教育機関がITを利用して遠隔教育をおこなう契機をもたらした。ITの浸透は、キャンパスの有無による遠隔教育か否かという区別や境界を、あいまいにするようになった。

また、従来の教室型の授業においても、各種のマルチメディアの利用が活発になっており、それは伝統的な講義中心の授業から、学生参加型の授業への転換をもたらすものとなっている。

わが国の高等教育もこうした世界的な動きと無縁ではなく、海外の大学との交換授業や国内の機関間のネットワークにマルチメディアが利用される先端的な事例は大いに注目されている。また、その利用の推進が審議会等においても検討され、それに応じた政策的な措置がとられはじめている。

しかし、高等教育全体としては、どの程度マルチメディアやITが普及し、教育に利用されているのか、また、高等教育のどのセクターで利用されているのかといったマクロな見取り図を描く作業はこれまでなされてこなかったうえに、普及や利用にあたっての目的や障害、マルチメディアの利用に関する将来計画といった問題も検討されているとはいいがたい。

そこで、メディア教育開発センターでは、2000年1月、わが国の全高等教育機関を対象に、高等教育機関におけるマルチメディア利用の実態、とくに教育の場面におけるそれを明らかにすることを目的としてアンケート調査を実施した。4年制大学、短期大学、高等専門学校を含む全高等教育機関を対象としている点、調査項目がマルチメディア全般にわたっている点で、わが国では類をみない調査であるといつてよい。

今年度は、第1回ということで探索的な意味合いをもって行われたが、今後はこれをベースにして継続的な調査として毎年実施し、トレンドを追って情報を蓄積することを計画している。

こうした利用実態の全体図を描くというアプローチをとる本調査では、1つの前提を置く。それは、技術としてのマルチメディアは国境を超えて全世界に拡大しているが、それが高等教育において利用される場合には、組織のインフラの整備の状態、利用を支援するシステム、組織の風土などの状況によって利用実態が異なってくる、というものである。すなわち、利用する組織の状況に大きく規定されて技術は利用されるのであり、技術水準が利用を規定するわけではないと考える。

したがって、利用の実態を明らかにする作業は、同時に、組織のどのような要因が利用を促進し、どのような要因が利用を疎外するのかという利用実態の規定要因を明らかにする作業となるのである。

こうしたアプローチをとることによって、今後のわが国の高等教育におけるマルチメディア利用についての政策的インプリケーションを得ることができるだけでなく、高等教育におけるマルチメディア利用の日本的な特徴を考察することも可能となると考える。

なお、これに類するアメリカにおける代表的な全国調査としては、National Center for

Education Statisticsによる*Distance Education in Higher Education Institutions*¹⁾ と The Campus Computing Projectによる*Campus Computing Survey*²⁾ とがある。いずれも、サンプル調査ではあるが、毎年ないし2～3年ごとに行われており、遠隔高等教育ないし高等教育機関におけるマルチメディア利用に関する調査としては代表的な調査である。アメリカと日本との高等教育におけるマルチメディアの普及ならびに利用状況における社会的文脈の相違があるため、アメリカの調査項目をそのまま日本語にして調査が実施することは現段階では不可能であるが、いずれ、国際比較を行うことも視野に入れておきたい。

調査の方法は、4年制大学については大学本部（学長宛）と各学部（学部長宛）に別個の調査票を送付した。大規模な4年制大学では学部ごとにマルチメディアの利用が異なるであろうことと、本部で教育場面におけるITに利用を十分に把握できないことが想定されたためである。短期大学と高等専門学校には、4年制大学の本部と学部の調査項目を合併した内容の調査票を送付した。したがって、大学本部から高等専門学校まで同一の内容をたずねている項目と、本部のみにきいている項目とがある。それらの関連については資料編の調査票と単純集計表を参照されたい。

以下の図1-1が、今回の調査の基本的な枠組みであり、それにもとづいて調査項目を作成した。1のマルチメディアの利用実態については、各種のマルチメディアに加えて、衛星系や地上系の情報通信技術やインターネットの教育への利用も含めてきいた。2はマルチメディアの利用の目的、3は利用にあたっての障害であるが、これらからわが国の高等教育におけるマルチメディアの利用の問題点ないし政策的なインプリケーションを得ることを意図している。4は、機関として利用の利便性をはかるための支援体制をどのように組織化しているかをきいたもので、具体的には支援センターの設置の有無とそこでの活動、全学レベルの委員会とそこでの活動、マルチメディア利用のための研修体制についてきいている。5と6は、とくにインターネットに焦点をあて、機関として、今後それをどの程度利用しようと考えているのか、また一般論としてオンライン教育についてどう思うかについて意見をきいた。

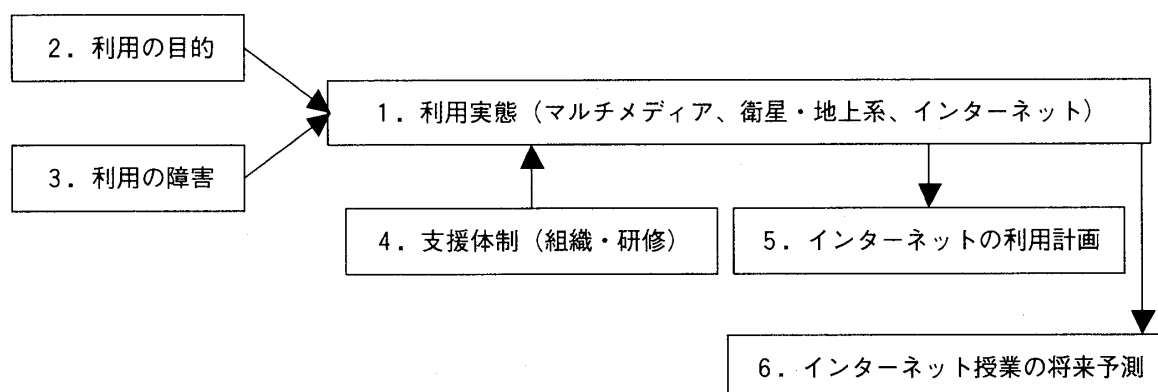


図1-1. 調査の枠組み

調査の回収率は、表1-1に示すように、平均で約70%にのぼりアンケート調査としてはきわめて高い。これはメディア教育開発センターの公文書がはいった調査票が送付されたために、

機関対象の行政調査として各機関の事務局の扱いによって回答されたことによるものと思われる。

表 1－1. 有効回収率

| | 配 布 数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|----------|-------|-------|-------|
| 大学本部 | 620 | 449 | 72.4% |
| 大学学部・研究科 | 1,606 | 1,059 | 65.9% |
| 短期大学 | 582 | 406 | 69.8% |
| 高等専門学校 | 62 | 58 | 93.6% |
| 合 計 | 2,870 | 1,972 | 68.7% |

- 1) National Center for Education Statistics (1997) *Distance Education in Higher Education Institutions: 1994-95*, U.S Department of Education, Office of Educational Research and Imprivement, National Center for Education Statistics (1999) *Distance Education at Postsecondary Education Institutions: 1997-98*, U.S Department of Education, Office of Educational Research and Imprivement
- 2) Kenneth C. Green, The Campus Computing Project (1989～annually) *Campus Computing Survey*

2. マルチメディアの利用頻度

マルチメディアの教育への利用は、教室型の対面式の授業のなかでマルチメディアを利用する場合と、遠隔授業というカテゴリーにおいてマルチメディアをコミュニケーションの手段とする場合とを区別することができる。また、直接授業において用いられるものと授業を補完するものとして用いられるものがある。これらの相違を踏まえて、14項目を設定し、それぞれの利用頻度をきいた。

前者の教室型授業に関しては、「オーディオ・カセット教材の利用」、「録画ビデオの授業への利用」など従来から利用されているメディア機器、パソコンの普及を反映した「CD-ROM教材の利用」、「マルチメディア教材の作成」、「パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション」、「ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用」、「インターネットによる教材の提供」をあげることができる。

遠隔授業に関しては、「通信衛星などによる授業」、「教室の授業のWWW情への公開」がある。

授業を補完するものとしては、「電子掲示版や電子メールによる授業への質問や学生間の討議」、「電子メールや電子掲示版による事務連絡」、「電子メールによる課題の提出」、「図書資料のデータ・ベース化」、「シラバスのインターネットなどによる公開」をあげることができる。

これらの利用実態を表2-1からみると、教室の授業においてはビデオやオーディオ・カセットなど旧来型のメディアがもっともよく利用されており、それぞれ約3分の1が「よく行われている」、「ある程度行われている」を合わせると70~80%になっている。

「CD-ROM教材の利用」、「マルチメディア教材の作成」、「パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション」、「ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用」、「インターネットによる教材の提供」などコンピュータとインターネットの普及を背景とするマルチメディアの利用に関しては、「パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション」のみが「よく行われている」が18.4%と他に比較してやや利用頻度が高いが、「ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用」、「インターネットによる教材の提供」では「よく行われている」は10%前後で、「CD-ROM教材の利用」、「マルチメディア教材の作成」では「よく行われている」が5%前後であり、利用頻度は低い。

「ある程度行われている」を加えると、「ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用」、「インターネットによる教材の提供」は約半数、「CD-ROM教材の利用」は約40%、「マルチメディア教材の作成」は約3分の1である。

こうしてみると教室型の授業では、オーディオ・カセットや録画ビデオといった旧来型のメディアに比較して、コンピュータを利用したマルチメディアの利用はすすんでいないことがわかる。

マルチメディアを利用した遠隔授業についてはどうだろう。それに相当するのは「教室の授業のWWW上への公開」、「通信衛星などによる授業」だが、それらを行っている機関はきわめて少ない。「よく行われている」、「ある程度行われている」を合わせても10%に満たない。

わが国においては、通信制の大学教育は通学制の教育と区別され、それぞれの教育の制度的

枠組みを規定する設置基準もそれぞれ別につくられているが、1998年の大学設置基準の改訂により、通学制の大学も同時双方向性を維持できれば、遠隔教育を単位化できることになった。その条件を充たすには、通信衛星を利用したテレビ会議システムという手段が有効であるのだが、実際にはさほど行われていないことがここに示されている。

また、設置基準との関連でいえば、インターネットを利用して授業をおこなうことについては、現段階では単位化することができないが、2001年4月からは大学審議会の答申をうけて設置基準が改訂される見込みであり、インターネットを利用した授業が通学制では60単位まで認められることになる。そうなったとき「教室の授業のWWW上への公開」はさらにすすむのかもしれない。

授業を補完するものとしては、「図書資料のデータ・ベース化」がもっともよくすすんでいる。「よく行われている」で約40%、「ある程度行われている」で約3分の1の機関がこれに相当すると回答している。次いで、「電子メールや電子掲示板による事務連絡」（「よく行われている」約30%、「ある程度行われている」約30%）が多く、それらと比較すると「電子メールによる課題の提出」、「電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議」の頻度は低い（どちらも「よく行われている」約10%、「ある程度行われている」約30%）。「シラバスのインターネットなどによる公開」は、「よく行われている」約10%、「ある程度行われている」約15%であり、頻度は高くない。社会的にも急速に普及している電子メールや電子掲示板であるが、高等教育機関でも比較的に利用されている。マルチメディアを通じて授業そのものを遠隔でおこなうという形態でのマルチメディアの利用はほとんどないものの、授業の周辺には電子メールに代表されるマルチメディアがかなり浸透しているとみてよいだろう。ただし、事務連絡をはじめとする教育の周辺での利用が主であり、授業そのものの中での利用はまだ限られているようである。

また、シラバスを作成することはほぼすべての高等教育機関で行われているが、それらは電子化してインターネットに掲載することはあまり行われずに、ほとんどが印刷物によっているのであろう。

これらのマルチメディアの利用に関して、高等教育機関別の違いをみよう。

大学、短大、高専の間では、おおむね利用の傾向は一致しているといえる。ただし、「オーディオ・カセット教材の利用」、「録画ビデオの授業への利用」については、短大で多く、「よく行われている」が「オーディオ・カセット教材の利用」で約40%、「録画ビデオの授業への利用」で約50%であり、大学や高専と比較して10ポイントから20ポイントも高くなっている。

ただし、短大は他のマルチメディアについては大学や高専と比較して利用頻度が低い。とくに、「電子メールや電子掲示板による事務連絡」や「シラバスのインターネットによる公開」が低くなっている。

表 2-1. マルチメディアの利用頻度（総計）

（％）

| | よく行われている | ある程度行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|-----------------------------|----------|------------|------------|-------------|
| オーディオ・カセット教材の利用 | 30.2 | 43.8 | 18.2 | 7.8 |
| 録画ビデオの授業への利用 | 34.4 | 52.7 | 10.7 | 2.2 |
| CD-ROM教材の利用 | 6.3 | 38.3 | 37.7 | 17.6 |
| インターネットによる教材の提供 | 11.4 | 42.2 | 29.8 | 16.7 |
| マルチメディア教材の作成 | 3.9 | 31.3 | 37.8 | 27.0 |
| パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション | 18.4 | 44.9 | 24.2 | 12.5 |
| ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | 9.5 | 41.3 | 33.3 | 15.9 |
| 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議 | 10.9 | 33.4 | 26.9 | 28.7 |
| 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 29.6 | 29.7 | 15.2 | 25.5 |
| 電子メールによる課題の提出 | 13.2 | 36.2 | 25.1 | 25.4 |
| 図書資料のデータ・ベース化 | 40.7 | 33.8 | 11.6 | 13.8 |
| シラバスのインターネットなどによる公開 | 11.5 | 14.7 | 19.0 | 54.8 |
| 通信衛星などによる授業 | 1.3 | 6.5 | 10.0 | 82.2 |
| 教室の授業のWWW上への公開 | 1.1 | 7.7 | 14.9 | 76.4 |

高専では、逆に、マルチメディアの利用頻度の高い項目があることが特徴である。「パワーポイントによるプレゼンテーション」や「電子メールや電子掲示板による事務連絡」の頻度が高い。高専で高くなっているのは、工業系の学校ということで施設・設備の整備があることや教員や学生ともに機器の利用に慣れていることなどが背景にあると思われる。

4年制大学については、設置者別の違いをみておこう。設置者別にみても、各種のマルチメディアの利用頻度の傾向はおおむね一致している。それらの違いを強いてみれば、国立大学での利用が、公立大学や私立大学よりもやや高いことがあげられよう。具体的には、「電子メールや電子掲示板による事務連絡」、掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議、「電子メールによる課題の提出」など電子メールや電子掲示板の利用は国立大学ですすんでいる。また、「シラバスのインターネットなどによる公開」も国立大学で多く、授業の周辺でのマルチメディアの利用は国立大学の方がすすんでいるとみることができよう。また、「通信衛星などによる授業」では「よく行われている」と「ある程度行われている」を合わせて国立大学で20%強になっており、その利用頻度の高さは群を抜いている。これは、スペース・コラボレーション・システムという通信衛星ネットワークが国立を中心に拡がっていることによるところが大きい。

表2-2. マルチメディアの利用頻度（機関別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|-----------------------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| オーディオ・カセット教材の利用 | | | | | | |
| よく行われている | 14.3 | 25.6 | 31.3 | 26.1 | 41.3 | 22.8 |
| ある程度行われている | 39.0 | 38.4 | 48.2 | 44.8 | 39.3 | 57.9 |
| あまり行われていない | 30.3 | 26.7 | 14.5 | 19.9 | 14.6 | 14.0 |
| ほとんど行われていない | 16.4 | 9.3 | 6.0 | 9.2 | 4.8 | 5.3 |
| 録画ビデオの授業への利用 | | | | | | |
| よく行われている | 28.1 | 31.4 | 29.5 | 29.3 | 48.5 | 28.1 |
| ある程度行われている | 59.7 | 46.5 | 57.1 | 57.0 | 41.5 | 54.4 |
| あまり行われていない | 9.7 | 19.8 | 11.2 | 11.5 | 7.8 | 15.8 |
| ほとんど行われていない | 2.4 | 2.3 | 2.1 | 2.2 | 2.3 | 1.8 |
| CD-ROM教材の利用 | | | | | | |
| よく行われている | 4.5 | 4.7 | 5.7 | 5.3 | 9.3 | 3.5 |
| ある程度行われている | 35.9 | 43.0 | 41.0 | 39.8 | 36.2 | 28.1 |
| あまり行われていない | 41.1 | 37.2 | 39.2 | 39.6 | 30.7 | 50.9 |
| ほとんど行われていない | 18.5 | 15.1 | 14.0 | 15.3 | 23.9 | 17.5 |
| インターネットによる教材の提供 | | | | | | |
| よく行われている | 10.8 | 11.6 | 11.1 | 11.1 | 13.1 | 5.3 |
| ある程度行われている | 45.1 | 40.7 | 45.6 | 45.0 | 32.9 | 56.1 |
| あまり行われていない | 31.9 | 31.4 | 29.0 | 30.0 | 28.4 | 29.8 |
| ほとんど行われていない | 12.2 | 16.3 | 14.3 | 13.9 | 25.6 | 8.8 |
| マルチメディア教材の作成 | | | | | | |
| よく行われている | 4.2 | 7.0 | 4.5 | 4.6 | 2.5 | 1.8 |
| ある程度行われている | 34.8 | 29.1 | 31.8 | 32.4 | 27.6 | 36.8 |
| あまり行われていない | 37.3 | 40.7 | 38.6 | 38.4 | 34.7 | 43.9 |
| ほとんど行われていない | 23.7 | 23.3 | 25.2 | 24.6 | 35.2 | 17.5 |
| パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション | | | | | | |
| よく行われている | 21.9 | 25.6 | 17.5 | 19.4 | 13.8 | 33.3 |
| ある程度行われている | 52.8 | 37.2 | 44.4 | 46.1 | 41.2 | 49.1 |
| あまり行われていない | 19.8 | 27.9 | 27.3 | 25.3 | 22.4 | 14.0 |
| ほとんど行われていない | 5.6 | 9.3 | 10.8 | 9.2 | 22.6 | 3.5 |
| ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | | | | | | |
| よく行われている | 10.1 | 15.1 | 7.5 | 8.9 | 10.8 | 10.5 |
| ある程度行われている | 40.6 | 33.7 | 37.7 | 38.2 | 51.6 | 29.8 |
| あまり行われていない | 37.2 | 30.2 | 37.9 | 37.1 | 20.8 | 49.1 |
| ほとんど行われていない | 12.2 | 20.9 | 16.8 | 15.9 | 16.8 | 10.5 |
| 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議 | | | | | | |
| よく行われている | 11.9 | 12.8 | 11.5 | 11.7 | 9.3 | 8.8 |
| ある程度行われている | 42.3 | 26.7 | 34.7 | 36.2 | 26.6 | 35.1 |
| あまり行われていない | 30.8 | 37.2 | 29.9 | 30.8 | 15.0 | 38.6 |
| ほとんど行われていない | 15.0 | 23.3 | 23.8 | 21.3 | 49.1 | 17.5 |
| 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | | | | | | |
| よく行われている | 50.3 | 41.9 | 23.0 | 32.1 | 17.3 | 68.4 |
| ある程度行われている | 32.6 | 27.9 | 33.3 | 32.7 | 22.6 | 26.3 |
| あまり行われていない | 10.1 | 12.8 | 18.4 | 15.6 | 15.5 | 1.8 |
| ほとんど行われていない | 6.9 | 17.4 | 25.3 | 19.6 | 44.6 | 3.5 |
| 電子メールによる課題の提出 | | | | | | |
| よく行われている | 13.9 | 11.6 | 12.3 | 12.7 | 14.1 | 15.8 |
| ある程度行われている | 45.8 | 40.7 | 37.2 | 39.9 | 25.6 | 42.1 |
| あまり行われていない | 28.8 | 25.6 | 28.6 | 28.4 | 16.3 | 26.3 |
| ほとんど行われていない | 11.5 | 22.1 | 21.9 | 19.0 | 44.0 | 15.8 |
| 図書資料のデータ・ベース化 | | | | | | |
| よく行われている | 31.0 | 48.8 | 43.2 | 40.3 | 41.0 | 49.1 |
| ある程度行われている | 45.6 | 37.5 | 32.6 | 36.6 | 27.6 | 29.8 |
| あまり行われていない | 14.2 | 6.3 | 11.8 | 12.0 | 11.1 | 10.5 |
| ほとんど行われていない | 9.3 | 7.5 | 12.4 | 11.1 | 20.4 | 10.5 |
| シラバスのインターネットなどによる公開 | | | | | | |
| よく行われている | 27.9 | 9.3 | 9.3 | 14.4 | 4.8 | 8.8 |
| ある程度行われている | 24.0 | 14.0 | 15.1 | 17.5 | 6.5 | 22.8 |
| あまり行われていない | 21.3 | 24.4 | 22.8 | 22.5 | 10.0 | 19.3 |
| ほとんど行われていない | 26.8 | 52.3 | 52.8 | 45.6 | 78.7 | 49.1 |
| 通信衛星などによる授業 | | | | | | |
| よく行われている | 3.5 | 0.0 | 0.9 | 1.5 | 0.3 | 3.5 |
| ある程度行われている | 20.4 | 2.4 | 4.5 | 8.7 | 0.8 | 8.8 |
| あまり行われていない | 25.6 | 9.4 | 7.6 | 12.7 | 2.8 | 14.0 |
| ほとんど行われていない | 50.5 | 88.2 | 87.0 | 77.1 | 96.2 | 73.7 |
| 教室の授業のWWW上への公開 | | | | | | |
| よく行われている | 1.1 | 4.7 | 0.7 | 1.2 | 0.8 | 1.8 |
| ある程度行われている | 13.3 | 9.4 | 7.8 | 9.5 | 3.0 | 8.8 |
| あまり行われていない | 21.8 | 8.2 | 16.6 | 17.4 | 9.0 | 12.3 |
| ほとんど行われていない | 63.9 | 77.6 | 74.8 | 72.0 | 87.2 | 77.2 |

4年制大学については、表2-3から学部別の傾向もみておこう。学部については、「人文系」から「家政系」までの8分類を選択肢として提示し、それらのいずれにも当てはまらない場合について「その他」の選択肢を提示した。まず、学部別に違いのある項目をみると、「オーディオカセットの利用」、「録画ビデオの授業への利用」については、人文系、芸術系、教育学系で高くなっている。他方、「パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション」や「電子メールや電子掲示板による事務連絡」では理工学系、農学系、医・歯・薬・保健系で高くなっている。人文系と理工学系のメディア機器に対するスタンスの違いや、教員や学生のメディア機器に対する慣れが、旧来的なメディアとコンピュータによるプレゼンテーションの違いとなっていることをみることができる。

ただし、「電子メールや電子掲示板による事務連絡」や「シラバスのインターネットなどによる公開」では、理工系とともに教育学系でも高くなっており、教育学系では比較的メディアの利用がすすんでいることがうかがえる。

ここであげている14項目について、「よく行われている」比率の順位をつけると、理工学系では「オーディオカセットの利用」は8番目、「録画ビデオの授業への利用」は7番目と順位が低くなっており、人文系ではそれぞれ1番目と3番目となっていることと対照的である。また、理工学系では「パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション」は3番目、「電子メールや電子掲示板による事務連絡」が1番目であるのに対し、人文系ではそれぞれ6番目と4番目になっていることも対照的である。

「通信衛星による授業」「教室の授業のWWWへの公開」などの遠隔授業については、どの学部でもおしなべて低く、大学が遠隔教育を行うことはどの分野でもまだまだ限られた範囲内でしか行われていないことがわかる。

それ以外の項目では、学部間による利用頻度の大きな違いはみられない。

このように、機関の種別、設置別、学部別にマルチメディアの利用をみると、いくつかの差異はみられるものの、おおむね利用頻度の傾向に大きな差がないことの方を強調できるだろう。すなわち、現段階では、高等教育システムのどの部分へも比較的均一にマルチメディアが浸透していることを、わが国の特徴としてあげることができるのではないだろうか。

表2-3. マルチメディアの利用頻度 (学部別)

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|------------------------------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| オーディオ・カセット教材の利用 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 49.2 | 26.5 | 27.6 | 7.9 | 12.2 | 13.9 | 37.5 | 31.8 | 29.9 |
| ある程度行われている | 42.8 | 43.1 | 43.1 | 42.1 | 44.9 | 54.3 | 46.9 | 45.5 | 45.5 |
| あまり行われていない | 6.4 | 22.3 | 25.9 | 34.1 | 22.4 | 19.2 | 12.5 | 22.7 | 11.7 |
| ほとんど行われていない | 1.6 | 8.1 | 3.4 | 15.9 | 20.4 | 12.6 | 3.1 | 0.0 | 13.0 |
| 録画ビデオの授業への利用 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 43.6 | 23.9 | 52.5 | 11.6 | 18.4 | 25.0 | 50.0 | 36.4 | 40.3 |
| ある程度行われている | 52.1 | 60.6 | 45.8 | 65.9 | 73.5 | 57.9 | 34.4 | 45.5 | 46.8 |
| あまり行われていない | 3.2 | 13.7 | 1.7 | 18.9 | 6.1 | 13.8 | 15.6 | 9.1 | 10.4 |
| ほとんど行われていない | 1.1 | 1.8 | 0.0 | 3.7 | 2.0 | 3.3 | 0.0 | 9.1 | 2.6 |
| CD-ROM教材の利用 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 5.3 | 6.3 | 5.2 | 2.5 | 0.0 | 6.0 | 6.3 | 4.5 | 9.2 |
| ある程度行われている | 47.6 | 36.4 | 39.7 | 36.6 | 34.7 | 40.4 | 28.1 | 63.6 | 40.8 |
| あまり行われていない | 34.2 | 43.4 | 31.0 | 45.3 | 34.7 | 37.7 | 43.8 | 31.8 | 38.2 |
| ほとんど行われていない | 12.8 | 14.0 | 24.1 | 15.5 | 30.6 | 15.9 | 21.9 | 0.0 | 11.8 |
| インターネットによる教材の提供 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 8.6 | 13.8 | 10.2 | 7.9 | 6.1 | 9.2 | 6.3 | 13.6 | 22.1 |
| ある程度行われている | 44.4 | 50.9 | 49.2 | 51.8 | 32.7 | 36.8 | 25.0 | 40.9 | 44.2 |
| あまり行われていない | 31.0 | 27.6 | 27.1 | 26.8 | 49.0 | 34.2 | 43.8 | 40.9 | 18.2 |
| ほとんど行われていない | 16.0 | 7.8 | 13.6 | 13.4 | 12.2 | 19.7 | 25.0 | 4.5 | 15.6 |
| マルチメディア教材の作成 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 4.8 | 3.2 | 5.1 | 5.5 | 2.1 | 3.9 | 3.1 | 0.0 | 10.7 |
| ある程度行われている | 28.3 | 28.1 | 44.1 | 31.3 | 31.3 | 41.4 | 31.3 | 36.4 | 38.7 |
| あまり行われていない | 40.1 | 40.7 | 28.8 | 44.8 | 45.8 | 30.3 | 31.3 | 50.0 | 30.7 |
| ほとんど行われていない | 26.7 | 28.1 | 22.0 | 18.4 | 20.8 | 24.3 | 34.4 | 13.6 | 20.0 |
| パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション | | | | | | | | | |
| よく行われている | 9.0 | 17.1 | 10.2 | 29.4 | 22.4 | 24.3 | 18.8 | 9.5 | 29.9 |
| ある程度行われている | 38.3 | 49.7 | 47.5 | 54.6 | 44.9 | 49.3 | 21.9 | 47.6 | 41.6 |
| あまり行われていない | 35.6 | 24.8 | 25.4 | 13.5 | 28.6 | 21.1 | 34.4 | 28.6 | 24.7 |
| ほとんど行われていない | 17.0 | 8.4 | 16.9 | 2.5 | 4.1 | 5.3 | 25.0 | 14.3 | 3.9 |
| ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 9.0 | 4.9 | 15.3 | 3.7 | 6.1 | 13.9 | 18.8 | 4.8 | 19.5 |
| ある程度行われている | 43.1 | 32.7 | 57.6 | 33.5 | 49.0 | 39.1 | 31.3 | 38.1 | 37.7 |
| あまり行われていない | 34.0 | 41.2 | 23.7 | 48.8 | 32.7 | 30.5 | 28.1 | 42.9 | 27.3 |
| ほとんど行われていない | 13.8 | 21.1 | 3.4 | 14.0 | 12.2 | 16.6 | 21.9 | 14.3 | 15.6 |
| 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 5.9 | 14.0 | 8.5 | 14.6 | 8.2 | 7.2 | 6.3 | 0.0 | 29.3 |
| ある程度行われている | 34.0 | 42.5 | 28.8 | 50.6 | 32.7 | 25.7 | 18.8 | 36.4 | 25.3 |
| あまり行われていない | 36.7 | 30.9 | 42.4 | 25.0 | 32.7 | 28.3 | 31.3 | 22.7 | 24.0 |
| ほとんど行われていない | 23.4 | 12.6 | 20.3 | 9.8 | 26.5 | 38.8 | 43.8 | 40.9 | 21.3 |
| 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 18.1 | 26.6 | 39.0 | 53.0 | 40.8 | 35.5 | 12.5 | 18.2 | 40.3 |
| ある程度行われている | 34.0 | 37.1 | 35.6 | 32.9 | 24.5 | 28.9 | 21.9 | 31.8 | 27.3 |
| あまり行われていない | 22.3 | 18.5 | 16.9 | 5.5 | 14.3 | 13.2 | 15.6 | 13.6 | 15.6 |
| ほとんど行われていない | 25.5 | 17.8 | 8.5 | 8.5 | 20.4 | 22.4 | 50.0 | 36.4 | 16.9 |
| 電子メールによる課題の提出 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 9.6 | 13.0 | 8.5 | 17.1 | 6.1 | 8.6 | 9.7 | 0.0 | 28.6 |
| ある程度行われている | 42.0 | 46.7 | 37.3 | 53.7 | 38.8 | 25.0 | 12.9 | 36.4 | 27.3 |
| あまり行われていない | 28.2 | 31.2 | 40.7 | 20.1 | 28.6 | 28.9 | 29.0 | 31.8 | 24.7 |
| ほとんど行われていない | 20.2 | 9.1 | 13.6 | 9.1 | 26.5 | 37.5 | 48.4 | 31.8 | 19.5 |
| 図書資料のデータ・ベース化 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 45.1 | 42.4 | 37.9 | 33.8 | 29.2 | 41.6 | 45.2 | 40.9 | 38.2 |
| ある程度行われている | 33.2 | 32.2 | 41.4 | 46.3 | 45.8 | 35.6 | 29.0 | 22.7 | 39.5 |
| あまり行われていない | 10.3 | 13.8 | 13.8 | 12.5 | 10.4 | 9.4 | 12.9 | 18.2 | 10.5 |
| ほとんど行われていない | 11.4 | 11.7 | 6.9 | 7.5 | 14.6 | 13.4 | 12.9 | 18.2 | 11.8 |
| シラバスのインターネットなどによる公開 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 9.0 | 10.5 | 27.1 | 25.2 | 12.2 | 12.5 | 0.0 | 4.8 | 22.1 |
| ある程度行われている | 16.0 | 19.6 | 22.0 | 23.3 | 10.2 | 15.8 | 6.3 | 14.3 | 14.3 |
| あまり行われていない | 20.7 | 26.9 | 22.0 | 20.9 | 22.4 | 19.1 | 18.8 | 14.3 | 23.4 |
| ほとんど行われていない | 54.3 | 43.0 | 28.8 | 30.7 | 55.1 | 52.6 | 75.0 | 66.7 | 40.3 |
| 通信衛星などによる授業 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 0.0 | 1.0 | 5.2 | 1.8 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 5.3 |
| ある程度行われている | 5.4 | 5.9 | 27.6 | 13.4 | 12.2 | 3.9 | 3.1 | 0.0 | 13.3 |
| あまり行われていない | 13.4 | 6.6 | 27.6 | 22.6 | 20.4 | 11.2 | 6.3 | 9.1 | 5.3 |
| ほとんど行われていない | 81.2 | 86.4 | 39.7 | 62.2 | 67.3 | 82.9 | 90.6 | 90.9 | 76.0 |
| 教室の授業のWWW上への公開 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 0.5 | 1.4 | 1.7 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 4.0 |
| ある程度行われている | 7.0 | 8.0 | 6.9 | 14.7 | 4.1 | 9.3 | 9.4 | 9.1 | 13.3 |
| あまり行われていない | 16.0 | 18.2 | 27.6 | 20.9 | 14.3 | 11.9 | 6.3 | 18.2 | 20.0 |
| ほとんど行われていない | 76.5 | 72.4 | 63.8 | 63.2 | 81.6 | 78.1 | 84.4 | 72.7 | 62.7 |

3. 遠隔授業の手段としての情報通信技術

3-1. 利用率と利用計画

教室内で利用されるマルチメディアと比較して、遠隔授業を成立させるために用いられるITの利用頻度はきわめて低いことが明らかになったが、それらについてもう少し、詳細にみておこう。

近年の情報通信技術（IT）の特徴は、双方向のコミュニケーションがとれることにある。これまで、時間と空間を異にする人々の間に教育という現象を成立させるために用いられた技術としては、印刷物の郵送、テレビ・ラジオによる放送があるが、これらはいずれも一方向のコミュニケーションによるものであった。しかし、衛星通信、地上系通信、インターネットなどを利用することで、同期のコミュニケーションをとることが可能となり、それがより遠隔教育を教室型の教育の形態に近づけたのであった。

わが国の高等教育機関でも、衛星通信、地上系通信によるテレビ会議システムを用いた同期双方向のコミュニケーションやインターネットによる非同期双方向のコミュニケーションを用いて授業を行う試みがはじまっている。

衛星通信、地上系通信、インターネットの教育などへの利用についてみると（表3-1）、高等教育機関全体では地上系通信の利用がもっとも多く34.4%、インターネットが16.3%、衛星通信が14.2%となっている。わが国の高等教育機関では、各種の情報通信技術をもちいた遠隔授業は普及していないことが示されている。

表3-1. 情報通信技術による遠隔授業（総計）（%）

| | 利用している | 利用を予定している | 利用する予定はない |
|-----------------------|--------|-----------|-----------|
| 衛星通信 | 14.2 | 13.4 | 72.4 |
| 地上系通信 | 34.4 | 15.6 | 50.1 |
| インターネットによる オンライン教育 | 16.3 | 11.9 | 71.8 |

機関の種別や設置者別の違いは表3-2にみるように、衛星通信は短大での利用が、2.3%ときわめて少ないこと以外、地上系やインターネットでは大きな違いがない。また、4年制大学の設置者別では、衛星通信が国立で40.8%と群を抜いて利用されているが、これは先にも指摘したように、国立大学を中心にスペース・コラボレーション・システムが設置されていることによるものである。インターネットを利用したオンライン教育については、機関の種別による違いはほとんどない。

4年制大学における設置者別では、国立で20.4%とやや高い傾向があるがその差異は大きくはない。

表 3－2．情報通信技術による遠隔授業（機関別・設置者別）

（％）

| | 4 年 制 大 学 | | | | 短大 | 高専 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 衛星通信 | | | | | | |
| 利用している | 40.8 | 7.6 | 16.2 | 2.3 | 25.5 | |
| 利用を予定している | 23.4 | 12.8 | 13.2 | 16.0 | 5.2 | 36.4 |
| 利用する予定はない | 35.8 | 87.2 | 79.3 | 67.9 | 92.5 | 38.2 |
| 地上系通信 | | | | | | |
| 利用している | 33.2 | 24.7 | 29.6 | 30.1 | 26.0 | 25.5 |
| 利用を予定している | 19.4 | 14.1 | 17.0 | 17.4 | 11.7 | 17.6 |
| 利用する予定はない | 47.4 | 61.2 | 53.4 | 52.5 | 62.2 | 56.9 |
| インターネットによるオンライン教育 | | | | | | |
| 行っている | 20.4 | 14.0 | 16.1 | 17.1 | 14.2 | 17.5 |
| 予定している | 11.4 | 10.5 | 13.5 | 12.7 | 9.9 | 12.3 |
| 行う予定はない | 68.2 | 75.6 | 70.4 | 70.2 | 75.9 | 70.2 |

学部別では表 3－3 にみるように、衛星通信、地上系通信ともに教育学系で利用していると回答している学部が多く、どちらも約半数にのぼる。教育学系のうち国立の教員養成系では、附属の小中学校と大学とを結んでの実験授業などを行っていることなどがこうした回答となつてあらわれているのであろう。

衛星通信では、次いで、理工学系が25.5%、農学系19.6%と続く。地上系通信では、同じく理工学系が35.9%で教育学系に続くが、その次に芸術系が33.1%、家政系が31.8%と近接している。全体として、衛星通信では、教育学系と理工学系とを除いて他の学部での利用率は低い。地上系通信では学部間の差が大きいことが特徴である。すなわち、人文、社会、芸術、家政系において、衛星通信を利用する学部は少ないが、地上系通信は利用されていることを示している。

インターネットを利用したオンライン上の教育では、理工学系が22.0%ともっとも多いが、それ以外の学部ではほぼ15%前後で差がない。衛星通信や地上系通信と比較して、インターネットを利用した教育については、機関の種別、設置者別、学部別などでみて差異が小さいことが特徴である。これは、インターネットが、衛星通信や地上系通信と比較して、大きな機器設備を必要としないことや高度な技術的知識をもたなくても利用できるといった簡便性によるところが大きいと思われる。

表 3-3. 情報通信技術の利用による遠隔授業（学部別）
(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 衛星通信 | | | | | | | | | |
| 利用している | 11.5 | 9.4 | 50.9 | 25.5 | 19.6 | 14.0 | 9.7 | 0.0 | 17.1 |
| 利用を予定している | 14.2 | 14.1 | 19.3 | 19.3 | 30.4 | 16.0 | 3.2 | 19.0 | 14.5 |
| 利用する予定はない | 74.3 | 76.5 | 29.8 | 55.3 | 50.0 | 70.0 | 87.1 | 81.0 | 68.4 |
| 地上系通信 | | | | | | | | | |
| 利用している | 29.7 | 27.6 | 49.1 | 35.9 | 24.4 | 23.4 | 33.3 | 31.8 | 31.2 |
| 利用を予定している | 17.6 | 15.2 | 13.2 | 17.9 | 31.1 | 20.0 | 13.3 | 4.5 | 19.5 |
| 利用する予定はない | 52.7 | 57.2 | 37.7 | 46.2 | 44.4 | 56.6 | 53.3 | 63.6 | 49.4 |
| インターネットによるオンライン教育 | | | | | | | | | |
| 行っている | 14.5 | 16.5 | 15.5 | 22.0 | 15.6 | 13.2 | 12.9 | 9.5 | 31.2 |
| 予定している | 15.1 | 10.2 | 15.5 | 15.1 | 6.7 | 12.6 | 19.4 | 9.5 | 11.7 |
| 行いう予定はない | 70.4 | 73.2 | 69.0 | 62.9 | 77.8 | 74.2 | 67.7 | 81.0 | 57.1 |

現段階ではあまり普及していない情報通信技術の教育への利用であったが、今後はどのような計画をもっているのだろうか。ITによる遠隔授業は、今後、より行われるようになるのだろうか。今後利用を予定している機関は、衛星通信では13.4%、地上系通信では15.6%、インターネットでは11.9%と全高等教育機関のうち、1割強が利用を計画している。これと現在利用している比率とを合わせれば、衛星通信では約30%、地上系通信では約50%、インターネットでは約30%の機関がここ数年のうちには利用することが示されており、今後、急速な普及を予想させるものである。

衛星通信の利用を予定している高等教育機関としては高専がもっとも多く36.4%、短大はもっとも少なく5.2%でしかない。4年制大学では国立が23.4%と多くなっている。地上系通信の場合は、短大が11.7%とやや低いが、4年制大学と高専はそれぞれ17.6%と17.4%とほぼ同じである。また、4年制大学では設置者別にも違いがない。インターネットの教育への利用を計画している機関は大学、短大、高専はそれぞれ12.7%、9.9%、12.7%とほとんど差がない。また、設置者別でもほとんど差がない。インターネットの利用計画がどの機関でも同じように進んでいることがみてとれる。

学部別ではどうだろうか。通信衛星を利用している学部は、農学系がもっとも多く30.4%で群を抜いている。もっとも低いのは芸術系の3.2%である。それ以外の学部はほぼ15%～20%でほとんど差がない。地上系通信についても、農学系が31.1%ともっとも多く、家政系が4.5%ともっとも低い。それ以外の学部は15～20%程度で差がない。現在もっとも利用しているのは教育学系であったが、ここ数年のうちには農学系での利用の伸びが見込まれる。インターネットでは、農学系で6.7%とやや低いが、それ以外の学部間の差はあまりない。

3-2. 利用頻度

これらの情報通信技術を現在利用している、あるいは利用を計画しているという機関における1年間における利用頻度をみると(表3-4)、衛星通信では、年間5回以下がもっとも多く11.0%、ついで6～15回が5.3%であり、それ以上の利用あるいは利用を計画している機関はごくわずかである。利用頻度も決して多くはないことがわかる。地上系通信では、5回以下が9.5%、6～15回が7.8%であることに加えて、36回以上が16.3%もあることが注目される。これがどのような理由によるものかは不明であるが、衛星通信に比較すると地上系通信の利用頻度は高いといえよう。

表 3－4．情報通信技術の利用頻度（総計・機関別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|--------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 衛星通信 | | | | | | | |
| ～ 5 回 | 29.8 | 4.6 | 7.3 | 13.2 | 4.5 | 15.8 | 11.0 |
| 6 ～15回 | 15.2 | 2.3 | 3.1 | 6.4 | 0.5 | 17.5 | 5.3 |
| 16～25回 | 4.5 | 0.0 | 2.2 | 2.7 | 0.7 | 5.3 | 2.2 |
| 26～35回 | 4.2 | 0.0 | 1.0 | 1.8 | 0.2 | 1.8 | 1.4 |
| 36～ | 5.5 | 1.1 | 2.5 | 3.2 | 0.2 | 10.5 | 2.7 |
| 地上系通信 | | | | | | | |
| ～ 5 回 | 13.5 | 6.9 | 8.1 | 9.5 | 9.2 | 14.0 | 9.5 |
| 6 ～15回 | 11.1 | 8.0 | 8.4 | 9.1 | 4.0 | 10.5 | 7.8 |
| 16～25回 | 5.5 | 4.6 | 4.7 | 4.9 | 2.5 | 8.8 | 4.4 |
| 26～35回 | 1.4 | 2.3 | 1.6 | 1.6 | 0.7 | 0.0 | 1.4 |
| 36～ | 13.8 | 13.8 | 18.2 | 16.7 | 17.1 | 5.3 | 16.3 |

この利用頻度について、機関の種別や設置者別にみると（表 3－4）、衛星通信では利用率の高い高専では 5 回以下は 15.8％、6 ～15 回が 17.5％と多くなっているが、それとともに 36 回以上利用している機関が 10.5％となっており、利用頻度が高いことが特徴である。4 年制大学や短大では 5 回以下に集中していることと対照的である。地上系通信では、4 年制大学と短大において 36 回以上利用している機関がもっとも多く、それぞれ 16.7％、17.1％となっている。他方、高専では 5 回以下、6 ～15 回での利用が 14.0％、10.5％と多い。

設置者別では、通信衛星の場合はどこでも 5 回以下と 6 ～15 回に集中しており、利用頻度はあまり高くない。地上系通信の場合、国公私立ともに 36 回以上がもっとも多いことが特徴である。

学部別では（表 3－5）、衛星通信の場合、教育学系において 5 回以下の利用がもっとも多く、それに次いで理工学系や農学系での 5 回以下の頻度が高くなっている。他の学部でも、5 回以下ないし 6 回～15 回が多くなっていることは共通している。しかし、教育学系では 36 回以上の頻度が他に比較して多くなっていることが特徴である。地上系通信の場合、教育学系と農学系において頻度が高くなっている。それだけでなく、36 回以上の利用頻度が、ほぼすべての学部で高くなっていることが注目される。

表 3－5．情報通信技術の利用頻度（学部別）
(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 衛星通信 | | | | | | | | | |
| ～5回 | 8.4 | 9.4 | 25.4 | 20.5 | 24.5 | 13.7 | 12.5 | 0.0 | 11.5 |
| 6～15回 | 5.3 | 5.2 | 11.9 | 9.0 | 14.3 | 3.9 | 0.0 | 13.6 | 5.1 |
| 16～25回 | 3.7 | 1.7 | 10.2 | 3.6 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 26～35回 | 1.1 | 1.0 | 6.8 | 1.8 | 2.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 5.1 |
| 36～ | 2.1 | 2.1 | 10.2 | 5.4 | 2.0 | 3.9 | 0.0 | 0.0 | 2.6 |
| 地上系通信 | | | | | | | | | |
| ～5回 | 5.8 | 9.4 | 16.9 | 10.2 | 14.3 | 11.1 | 15.6 | 0.0 | 6.4 |
| 6～15回 | 8.4 | 10.1 | 11.9 | 9.0 | 14.3 | 10.5 | 3.1 | 9.1 | 3.8 |
| 16～25回 | 5.3 | 4.2 | 6.8 | 6.6 | 10.2 | 2.6 | 6.3 | 0.0 | 5.1 |
| 26～35回 | 2.1 | 2.1 | 1.7 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 9.1 | 1.3 |
| 36～ | 18.4 | 14.6 | 18.6 | 19.9 | 8.2 | 12.4 | 9.4 | 18.2 | 26.9 |

全体として、衛星通信と地上系通信とを比較すると、地上系通信の方が利用率が高いだけでなく、利用頻度も高いことが明らかになった。

3-3. 通信の方向

衛星通信と地上系通信の通信の方向性についてみると（表3-6）、「双方向で音声と映像による同時の交信」を行っている機関が、衛星通信で16.3%、地上系通信で20.2%でもっとも多い。これを、それぞれの手段を「利用している」、「利用を予定している」機関のうちに占める比率でみれば、衛星通信で約70%、地上系通信で約40%が音声・映像の同時双方向で交信できる環境にある。

地上系通信の場合、「音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信」や「音声・映像による送信と、その後にその他の手段による返信」が、音声・映像の同時双方向の約半数を占めている。

ただし、双方向性という点に着目すると、衛星通信で約90%、地上系通信で約80%が何らかの形態で双方向性が確保された環境で利用されていることになり、双方向のコミュニケーションが重視されて、衛星通信や地上系通信が利用されていることがわかる。

表3-6. 情報通信技術の通信の方向（総計・機関別・設置者別） (%)

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------------------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 衛星通信 | | | | | | | |
| 双方向の音声・映像による同時の交信 | 51.2 | 1.1 | 9.6 | 20.4 | 2.5 | 42.1 | 16.3 |
| 音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信 | 4.5 | 2.3 | 2.5 | 3.0 | 1.0 | 3.5 | 2.5 |
| 音声・映像による送信と、その後にその他の手段による返信 | 4.5 | 0.0 | 1.9 | 2.5 | 0.2 | 3.5 | 1.9 |
| 一方向の音声・映像 | 5.5 | 2.3 | 3.0 | 3.6 | 1.2 | 12.3 | 3.3 |
| 地上系通信 | | | | | | | |
| 双方向の音声・映像による同時の交信 | 29.8 | 17.2 | 21.3 | 23.3 | 12.2 | 21.1 | 20.2 |
| 音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信 | 9.0 | 10.3 | 11.4 | 10.7 | 10.7 | 1.8 | 10.4 |
| 音声・映像による送信と、その後にその他の手段による返信 | 11.1 | 5.7 | 10.8 | 10.5 | 10.7 | 14.0 | 10.7 |
| 一方向の音声・映像 | 10.4 | 10.3 | 12.4 | 11.7 | 11.9 | 0.0 | 11.3 |

機関の種別では（表3-6）、通信衛星の場合、高専では41.4%が同時双方向でのコミュニケーションがとれるようになっているが、他方で12.1%が一方向の音声と映像になっている。「利用している」、「利用を予定している」機関のうちに占める比率では同時双方向が約70%に

表 3-7. 情報通信技術の通信の方向 (学部別) (%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------------------------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 衛星通信 | | | | | | | | | |
| 双方向の音声・映像 による同時の通信 | 15.8 | 10.4 | 55.9 | 34.9 | 32.7 | 19.6 | 3.1 | 9.1 | 16.7 |
| 音声・映像による送 信と、同時にその他 の手段による返信 | 4.7 | 3.1 | 3.4 | 3.6 | 0.0 | 1.3 | 3.1 | 0.0 | 3.8 |
| 音声・映像による送 信と、その後による返 信と、その後の返信 | 2.1 | 3.5 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 2.6 |
| 一方向の音声・映像 | 2.1 | 4.5 | 5.1 | 5.4 | 4.1 | 2.0 | 3.1 | 0.0 | 3.8 |
| 地上系通信 | | | | | | | | | |
| 双方向の音声・映像 による同時の通信 | 18.4 | 24.0 | 33.9 | 29.5 | 36.7 | 14.4 | 18.8 | 13.6 | 26.9 |
| 音声・映像による送 信と、同時にその他 の手段による返信 | 13.2 | 9.4 | 13.6 | 11.4 | 14.3 | 7.8 | 3.1 | 13.6 | 12.8 |
| 音声・映像による送 信と、その後による返 信と、その後の返信 | 14.7 | 7.6 | 13.6 | 15.7 | 14.3 | 5.2 | 3.1 | 4.5 | 10.3 |
| 一方向の音声・映像 | 12.6 | 10.4 | 13.6 | 13.3 | 8.2 | 14.4 | 18.8 | 9.1 | 5.1 |

対し、一方向が約20%ということになる。大学や短大と比較すると一方向が多いことが高専の特徴である。地上系通信の場合は、高専で双方向、それも音声と映像の同時双方向が多くなっている。

大学の設置者別では（表3－6）、衛星通信も地上系通信も国立で、音声と映像の同時双方向が多くなっている。

学部別には（表3－7）、衛星通信の「双方向の音声と映像による同時の交信」が、教育学系で高くなっていること、地上系通信の「双方向の音声と映像による同時の交信」が教育学系、農学系で高くなっている。

3－4．接続地点

衛星や地上系の通信やインターネットを教育に用いている機関は、それぞれの手段を用いてどのような相手と接続しているのだろうか。

表3－8にみるように、衛星通信では国内の他機関と結んでいる場合がもっとも多く17.2%であるが、同一機関内が3.4%、海外の他機関が2.6%ある。地上系通信では、同一機関がもっとも多く24.1%だが、それと並んで国内の他機関が22.7%ある。海外の他機関も7.2%ある。インターネットの場合は、それを教室内の授業に限定して利用している機関がもっとも多く20.7%だが、同一機関内の遠隔地が6.0%、国内の他機関が6.4%、一般への公開が6.4%、海外の他機関が3.5%と多様に用いられていることがわかる。

表3－8．情報通信技術の接続地点（総計・機関別・設置者別） (%)

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 衛星通信 | | | | | | | |
| 同一機関内 | 6.6 | 1.1 | 3.9 | 4.4 | 1.0 | 3.5 | 3.4 |
| 国内の他機関 | 53.3 | 1.1 | 9.3 | 20.7 | 4.0 | 47.4 | 17.2 |
| 海外の他機関 | 3.5 | 2.3 | 3.6 | 3.4 | 0.5 | 1.8 | 2.6 |
| 地上系通信 | | | | | | | |
| 同一機関内 | 30.8 | 17.2 | 27.9 | 27.8 | 16.4 | 8.8 | 24.1 |
| 国内の他機関 | 22.5 | 25.3 | 21.8 | 22.3 | 20.8 | 31.6 | 22.3 |
| 海外の他機関 | 6.2 | 6.9 | 8.4 | 7.7 | 5.7 | 5.3 | 7.2 |
| インターネット | | | | | | | |
| 教室内の授業 | 1.0 | 1.1 | 1.5 | 1.3 | 18.9 | 21.1 | 20.7 |
| 同一機関の遠隔地 | 7.6 | 5.7 | 7.3 | 7.2 | 3.5 | 1.8 | 6.0 |
| 国内の他機関 | 9.0 | 8.0 | 7.0 | 7.6 | 3.7 | 5.3 | 6.4 |
| 海外の他機関 | 3.8 | 3.4 | 4.7 | 4.4 | 1.2 | 5.3 | 3.5 |
| 一般への公開 | 8.0 | 10.3 | 7.0 | 7.5 | 3.7 | 5.3 | 6.4 |

表 3－9．情報通信技術の接続地点（学部別）

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|----------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 衛星通信 | | | | | | | | | |
| 同一機関内 | 3.2 | 5.2 | 5.1 | 6.0 | 14.3 | 2.0 | 6.3 | 0.0 | 0.0 |
| 国内の他機関 | 14.7 | 12.5 | 57.6 | 30.7 | 28.6 | 21.6 | 6.3 | 9.1 | 21.8 |
| 海外の他機関 | 5.8 | 3.8 | 0.0 | 4.8 | 2.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 2.6 |
| 地上系通信 | | | | | | | | | |
| 同一機関内 | 27.4 | 25.3 | 30.5 | 36.7 | 40.8 | 24.8 | 25.0 | 18.2 | 23.1 |
| 国内の他機関 | 21.6 | 21.5 | 32.2 | 21.7 | 16.3 | 19.6 | 18.8 | 18.2 | 32.1 |
| 海外の他機関 | 6.8 | 9.4 | 8.5 | 9.0 | 6.1 | 6.5 | 6.3 | 0.0 | 7.7 |
| インターネット | | | | | | | | | |
| 教室内の授業 | 22.6 | 21.5 | 16.9 | 26.5 | 16.3 | 17.6 | 18.8 | 18.2 | 25.6 |
| 同一機関の遠隔地 | 5.8 | 6.3 | 8.5 | 10.2 | 2.0 | 8.5 | 6.3 | 0.0 | 10.3 |
| 国内の他機関 | 5.8 | 6.9 | 8.5 | 10.2 | 2.0 | 7.2 | 9.4 | 4.5 | 14.1 |
| 海外の他機関 | 5.3 | 3.8 | 1.7 | 5.4 | 2.0 | 3.3 | 6.3 | 0.0 | 9.0 |
| 一般への公開 | 7.4 | 5.9 | 5.1 | 13.3 | 2.0 | 6.5 | 9.4 | 9.1 | 9.0 |

これを機関の種別や設置者別にみると（表3-8）、衛星通信では、高専の47.4%が国内の他機関と結んでおり圧倒的に多い。次いで大学の20.7%が国内の他機関と結んでいるが、このうち国立では53.3%が国内の他機関と結んでいる。

地上系通信になると、大学では27.8%が同一機関内で用いておりもっとも多いが、高専では国内の他機関との接続が31.6%ともっとも多くなっている。4年制大学のうち、国立や私立では同一機関内が多いが、公立では国内の他機関が多い。

インターネットの場合は、どの機関でも教室内の授業に限定して用いられている場合が多く、国内外の他機関との接続する場合や、同一機関内で接続する場合は多くはない。

表3-9から学部別にみると、衛星通信においても地上系通信においても、教育学系は国内の他機関と接続する比率が高く、農学系は同一機関内で高くなっている。

3-5. 利用される教育分野

これらの情報通信技術は、どのような教育に利用されているのだろうか。表3-10は複数回答であるが、それによれば衛星通信では、「学部生対象の専門教育」（13.2%）、「教員や学生の研究会」（12.9%）、「大学院生対象の教育」（11.3%）、「社会人対象の研修や公開講座」（10.8%）がほぼ並んで10%強となっている。地上系通信では、「学部生対象の専門教育」（26.3%）と「教員や職員の会議」（20.3%）が多い他、「共通教養教育」（19.9%）が多くなっている。また、インターネットでは、「学部生対象の専門教育」（19.4%）他、「共通教養教育」（11.2%）、「大学院生対象の教育」（9.4%）が多くなっている。衛星通信と地上系通信が学部生と大学院生を含む学生の教育に多く利用されているが、それとともに社会人対象の研修や公開講座や教員や学生の研究会に利用されているのに対し、インターネットでは学生対象の教育に特化していることが特徴である。

機関の種別や設置者別の違いをみれば（表3-10）、通信衛星ではどの機関でも「教員や学生の研究会」、「学部生対象の専門教育」で多く利用されているほか、大学では「教員や職員の研究会」、「社会人対象の研修や公開講座」で多く利用されている。地上系通信については、「共通教養教育」や「学部生対象の専門教育」に多く利用されているほか、大学では「教員や職員の会議」での利用が多くなっている。インターネットについては、高専で「語学教育」が多くなっているほかは「学部生対象の専門教育」や「共通教養教育」での利用が高くなっている。

学部別では、衛星通信についいえは教育学系での利用頻度の高さが注目される。地上系通信でも同様に教育学系での利用の高さが注目される。インターネットについていえば、教育学系での各種の教育場面での利用頻度の高さとともに、理工学系での利用頻度の高さが注目される。

同時双方向のコミュニケーションがとれる衛星通信や地上系通信では、広い意味での学生の教育とともに社会人対象の研修や公開講座、あるいは教員や学生の公開講座など、大学教育の辺縁を広げる活動にも用いられるのに対し、インターネットの場合、学生の教育に特化して用いられることを特徴としてあげることができよう。

表3-10. 情報通信技術の利用分野（総計・機関別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|---------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 衛星通信 | | | | | | | |
| 共通教養教育 | 15.2 | 2.3 | 6.8 | 8.8 | 4.0 | 28.1 | 8.1 |
| 専門教育 | 26.3 | 2.3 | 8.7 | 13.0 | 4.2 | 36.8 | 11.6 |
| 語学教育 | 6.2 | 1.1 | 5.6 | 5.4 | 3.0 | 22.8 | 5.4 |
| 補習教育 | 1.4 | 0.0 | 2.7 | 2.1 | 0.7 | 12.3 | 2.1 |
| 社会人対象の研修や公開講座 | 20.4 | 4.6 | 7.4 | 10.8 | 1.7 | 15.8 | 8.5 |
| 教員や学生の研究会 | 33.9 | 5.7 | 4.7 | 12.8 | 1.0 | 42.1 | 10.8 |
| 教員や職員の会議 | 20.4 | 1.1 | 3.6 | 8.0 | 1.0 | 33.3 | 7.0 |
| 大学院生対象の教育 | 29.4 | 1.1 | 4.7 | 11.2 | — | — | — |
| 地上系通信 | | | | | | | |
| 共通教養教育 | 16.6 | 21.8 | 20.7 | 19.7 | 19.9 | 19.3 | 19.8 |
| 専門教育 | 24.6 | 23.0 | 27.9 | 26.5 | 25.1 | 26.3 | 26.1 |
| 語学教育 | 5.5 | 18.4 | 14.2 | 12.2 | 10.9 | 17.5 | 12.0 |
| 補習教育 | 5.9 | 6.9 | 9.0 | 8.0 | 6.7 | 8.8 | 7.6 |
| 社会人対象の研修や公開講座 | 17.0 | 13.8 | 16.1 | 16.2 | 12.4 | 17.5 | 15.2 |
| 教員や学生の研究会 | 20.8 | 11.5 | 15.4 | 16.6 | 12.7 | 17.5 | 15.7 |
| 教員や職員の会議 | 26.0 | 17.2 | 18.2 | 20.3 | 7.7 | 12.3 | 16.6 |
| 大学院生対象の教育 | 20.8 | 11.5 | 15.1 | 16.4 | — | — | — |
| インターネット | | | | | | | |
| 共通教養教育 | 10.4 | 13.8 | 11.1 | 11.1 | 13.2 | 12.3 | 11.7 |
| 専門教育 | 19.7 | 12.6 | 19.9 | 19.2 | 15.4 | 14.0 | 18.0 |
| 語学教育 | 3.1 | 8.0 | 10.1 | 8.0 | 7.7 | 17.5 | 8.3 |
| 補習教育 | 1.7 | 6.9 | 7.0 | 5.5 | 5.2 | 3.5 | 5.3 |
| 社会人対象の研修や公開講座 | 9.3 | 11.5 | 7.9 | 8.6 | 7.7 | 8.8 | 8.4 |
| 教員や学生の研究会 | 7.3 | 4.6 | 5.2 | 5.7 | 3.0 | 3.5 | 4.9 |
| 大学院生対象の教育 | 13.8 | 6.9 | 7.6 | 9.2 | — | — | — |

表3—11. 情報通信技術の利用分野（学部別）

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|----------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 衛星通信 | | | | | | | | | |
| 共通教養教育 | 9.5 | 7.3 | 11.9 | 13.3 | 10.2 | 5.2 | 6.3 | 4.5 | 10.3 |
| 専門教育 | 12.6 | 11.1 | 28.8 | 17.5 | 16.3 | 12.4 | 6.3 | 4.5 | 6.4 |
| 語学教育 | 7.4 | 4.9 | 5.1 | 6.6 | 4.1 | 5.2 | 3.1 | 0.0 | 5.1 |
| 補習教育 | 3.7 | 2.4 | 1.7 | 1.8 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 |
| 社会人対象の研修や公開講座 | 9.5 | 8.7 | 30.5 | 11.4 | 16.3 | 10.5 | 0.0 | 4.5 | 10.3 |
| 教員や学生の研究会 | 7.4 | 5.9 | 37.3 | 21.7 | 22.4 | 14.4 | 6.3 | 4.5 | 11.5 |
| 教員や職員の会議 | 3.7 | 4.5 | 27.1 | 12.7 | 22.4 | 7.2 | 0.0 | 4.5 | 3.8 |
| 大学院生対象の教育 | 5.8 | 5.9 | 37.3 | 21.7 | 20.4 | 9.2 | 0.0 | 0.0 | 9.0 |
| 地上系通信 | | | | | | | | | |
| 共通教養教育 | 21.6 | 18.8 | 16.9 | 21.1 | 26.5 | 19.6 | 18.8 | 13.6 | 17.9 |
| 専門教育 | 23.2 | 26.4 | 32.2 | 27.1 | 26.5 | 28.8 | 31.3 | 22.7 | 26.9 |
| 語学教育 | 17.4 | 12.2 | 6.8 | 10.8 | 12.2 | 11.8 | 6.3 | 9.1 | 12.8 |
| 補習教育 | 7.4 | 6.9 | 6.8 | 10.2 | 12.2 | 9.2 | 0.0 | 4.5 | 9.0 |
| 社会人対象の研修や公開講座 | 15.3 | 16.7 | 27.1 | 19.3 | 20.4 | 11.8 | 6.3 | 13.6 | 14.1 |
| 教員や学生の研究会 | 13.7 | 13.2 | 27.1 | 24.1 | 18.4 | 15.7 | 9.4 | 9.1 | 19.2 |
| 教員や職員の会議 | 15.8 | 15.3 | 32.2 | 27.7 | 34.7 | 17.0 | 21.9 | 13.6 | 24.4 |
| 大学院生対象の教育 | 11.1 | 11.8 | 23.7 | 26.5 | 26.5 | 14.4 | 6.3 | 13.6 | 23.1 |
| インターネット | | | | | | | | | |
| 共通教養教育 | 11.6 | 9.7 | 6.8 | 15.1 | 4.1 | 10.5 | 12.5 | 9.1 | 16.7 |
| 専門教育 | 17.9 | 17.4 | 15.3 | 25.3 | 10.2 | 19.0 | 25.0 | 18.2 | 25.6 |
| 語学教育 | 12.1 | 11.1 | 0.0 | 7.2 | 2.0 | 2.6 | 6.3 | 4.5 | 10.3 |
| 補習教育 | 4.7 | 4.9 | 0.0 | 7.8 | 0.0 | 7.8 | 3.1 | 9.1 | 7.7 |
| 社会人対象の研修や公開講座 | 7.4 | 6.6 | 13.6 | 10.8 | 4.1 | 8.5 | 6.3 | 9.1 | 14.1 |
| 教員や学生の研究会 | 4.7 | 3.8 | 13.6 | 8.4 | 2.0 | 5.9 | 6.3 | 4.5 | 6.4 |
| 大学院生対象の教育 | 7.4 | 8.0 | 18.6 | 13.3 | 4.1 | 4.6 | 6.3 | 9.1 | 17.9 |

4. インターネットの利用環境

マルチメディアやITの利用のためには、各種の機器設備が整備されている必要があるが、わが国の高等教育機関の場合、どの程度整備されているのだろうか。すでにみた利用実態から、利用していると回答している機関はそれらのインフラが整備されていることがわかるが、ここでは今後一層利用がすすむであろうインターネットに焦点をあてて、学内でそれらが利用できる環境が、どの程度整備されているのかをみることにしよう。

4-1. インターネットの利用環境

まず、インターネットの導入状況についてみると（表4-1）、全体で97.4%がすでに導入しており、導入を予定している機関もふくめると98.9%がインターネットを利用できる環境ができることがわかる。機関の種別でみると大学で98.5%、高専で100.0%、短大がやや低く93.0%である。短大では導入予定がない機関が3.0%あるが、これらはかなり例外的存在であろう。少なくともインターネットはわが国の高等教育機関のすべてに普及しているとみることができる。

表4-1. インターネットの導入の比率（総計・機関別・設置者別・学部別）（%）

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|----------|-------|------|------|------|------|-------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 導入している | 100.0 | 98.8 | 97.9 | 98.5 | 93.0 | 100.0 | 97.4 |
| 導入を予定してる | 0.0 | 1.2 | 1.2 | 0.9 | 4.0 | 0.0 | 1.5 |
| 導入の予定はない | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.1 |

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|----------|-------|-------|-------|------|-------|-----------|------|------|------|
| 導入している | 98.9 | 99.3 | 100.0 | 98.8 | 100.0 | 98.6 | 93.5 | 90.9 | 97.3 |
| 導入を予定してる | 0.5 | 0.4 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 1.4 | 3.2 | 4.5 | 1.3 |
| 導入の予定はない | 0.5 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.2 | 4.5 | 1.3 |

では、それを誰が利用できるようにしているのか、インターネットを利用可能なIDを誰に対して発行しているかについてみよう（表4-2）。教員、事務職員、学部学生については、半数以上の機関が「全員に与えている」としている。4年制大学の大学院生については、やや下がるが、45.0%が「全員に与えている」としている。また、「希望者に与えている」がそれぞれ、30%程度あり、「全員に与えている」を加えると、教員で89.1%、事務職員で81.3%、学部学生で75.8%が、大学院生で74.9%がインターネットのIDを与えられているとみることができる。しかし、卒業生に対しては「与えていない」としているのが81.1%であり、機関に在職、在学する者に限定していることがわかる。

表4-2. インターネット利用のIDの付与（総計・機関別・設置者別）（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 教員に | | | | | | | |
| 全員に与えている | 62.6 | 72.4 | 55.1 | 58.6 | 44.2 | 96.5 | 56.2 |
| 希望者に与えている | 32.5 | 25.3 | 37.0 | 34.8 | 31.5 | 1.8 | 32.9 |
| 一部に与えている | 0.7 | 0.0 | 1.8 | 1.3 | 8.4 | 0.0 | 3.2 |
| 与えていない | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 1.3 | 11.4 | 1.8 | 4.0 |
| 事務職員に | | | | | | | |
| 全員に与えている | 64.4 | 47.1 | 54.8 | 56.8 | 38.7 | 89.5 | 53.2 |
| 希望者に与えている | 26.3 | 32.2 | 29.8 | 29.0 | 28.3 | 5.3 | 28.1 |
| 一部に与えている | 4.8 | 11.5 | 7.6 | 7.1 | 15.9 | 0.0 | 9.2 |
| 与えていない | 0.0 | 4.6 | 3.4 | 2.6 | 12.7 | 3.5 | 5.3 |
| 学部学生に | | | | | | | |
| 全員に与えている | 55.7 | 60.9 | 52.4 | 54.0 | 42.7 | 56.1 | 51.2 |
| 希望者に与えている | 28.4 | 19.5 | 27.4 | 27.0 | 18.6 | 19.3 | 24.6 |
| 一部に与えている | 4.2 | 9.2 | 4.4 | 4.8 | 10.4 | 21.1 | 6.8 |
| 与えていない | 4.2 | 5.7 | 10.2 | 8.2 | 23.8 | 3.5 | 12.1 |
| 卒業生に | | | | | | | |
| 全員に与えている | 0.3 | 1.1 | 1.0 | 0.9 | 0.2 | 0.0 | 0.7 |
| 希望者に与えている | 3.8 | 5.7 | 5.0 | 4.8 | 2.7 | 0.0 | 4.0 |
| 一部に与えている | 6.9 | 4.6 | 5.5 | 5.8 | 4.7 | 7.0 | 5.5 |
| 与えていない | 81.0 | 71.3 | 78.2 | 78.4 | 85.6 | 93.0 | 81.1 |
| 大学院生に | | | | | | | |
| 全員に与えている | 56.4 | 43.7 | 40.3 | 45.0 | | | |
| 希望者に与えている | 36.7 | 20.7 | 28.1 | 29.9 | | | |
| 一部に与えている | 1.4 | 6.9 | 2.2 | 2.4 | | | |
| 与えていない | 0.0 | 2.3 | 5.2 | 3.5 | | | |

機関の種別や設置者別で見れば、高専では96.5%が全教員に、89.5%が全事務職員に付与しており、大学では58.6%が全教員に、短大では44.2%が全教員に付与していることと比較して際立って高い。また、全事務職員に付与している大学が56.8%、短大が38.7%であることをみても、高専のインターネットの利用環境は整備されていることがわかる。

学部学生については、大学、高専で大きな違いはなく半数強が全員に付与しているが、短大では42.7%とやや比率が下がっている。また、短大では23.8%がIDを「与えていない」としており、短大では学生のインターネット利用環境は充分でないことがわかる。

大学の国公立別ではさほど大きな違いはないが、全大学院生に付与している比率は国立大

表4-3. インターネット利用のIDの付与 (学部別)

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 教員に | | | | | | | | | |
| 全員に与えている | 46.8 | 63.5 | 39.0 | 75.3 | 69.4 | 55.6 | 21.9 | 40.9 | 66.7 |
| 希望者に与えている | 45.8 | 31.9 | 52.5 | 21.1 | 28.6 | 37.9 | 46.9 | 45.5 | 26.9 |
| 一部に与えている | 2.6 | 0.0 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 9.4 | 4.5 | 1.3 |
| 与えていない | 3.2 | 0.0 | 1.7 | 0.0 | 2.0 | 0.7 | 12.5 | 4.5 | 0.0 |
| 事務職員に | | | | | | | | | |
| 全員に与えている | 47.9 | 61.1 | 49.2 | 75.3 | 59.2 | 52.3 | 31.3 | 45.5 | 51.3 |
| 希望者に与えている | 33.7 | 27.1 | 37.3 | 18.1 | 36.7 | 33.3 | 28.1 | 36.4 | 26.9 |
| 一部に与えている | 11.1 | 5.6 | 6.8 | 1.8 | 2.0 | 9.2 | 15.6 | 4.5 | 12.8 |
| 与えていない | 4.2 | 1.4 | 1.7 | 1.2 | 2.0 | 1.3 | 15.6 | 9.1 | 2.6 |
| 学部学生に | | | | | | | | | |
| 全員に与えている | 48.4 | 59.0 | 49.2 | 66.3 | 38.8 | 49.0 | 18.8 | 36.4 | 62.8 |
| 希望者に与えている | 33.7 | 26.4 | 40.7 | 22.3 | 46.9 | 23.5 | 15.6 | 36.4 | 12.8 |
| 一部に与えている | 3.7 | 3.1 | 0.0 | 3.6 | 6.1 | 7.8 | 25.0 | 9.1 | 3.8 |
| 与えていない | 10.5 | 4.5 | 3.4 | 1.2 | 6.1 | 15.7 | 31.3 | 13.6 | 10.3 |
| 卒業生に | | | | | | | | | |
| 全員に与えている | 1.1 | 1.4 | 1.7 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 希望者に与えている | 1.1 | 4.5 | 6.8 | 4.8 | 0.0 | 10.5 | 3.1 | 0.0 | 7.7 |
| 一部に与えている | 7.9 | 5.9 | 6.8 | 4.8 | 2.0 | 7.8 | 9.4 | 0.0 | 1.3 |
| 与えていない | 81.6 | 76.4 | 78.0 | 82.5 | 95.9 | 71.2 | 71.9 | 86.4 | 74.4 |
| 大学院生に | | | | | | | | | |
| 全員に与えている | 37.9 | 44.1 | 37.3 | 64.5 | 42.9 | 47.1 | 9.4 | 22.7 | 48.7 |
| 希望者に与えている | 30.0 | 29.2 | 54.2 | 22.9 | 49.0 | 33.3 | 15.6 | 36.4 | 17.9 |
| 一部に与えている | 3.2 | 0.7 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 3.9 | 21.9 | 4.5 | 1.3 |
| 与えていない | 5.3 | 2.4 | 0.0 | 0.0 | 6.1 | 3.9 | 15.6 | 13.6 | 2.6 |

学で56.4%であり、公立や私立よりも高くなっている。

学部別では、理工学系で「全員に与えている」とする比率が、卒業生を除く誰に対しても高くなっており、芸術系では低くなっている。それ以外の学部では、「希望者に与えている」を加えれば、理工学系とほぼ同じ比率になる。そうしたなか、芸術系のみ、「一部に与えている」、「与えていない」が多く他の学部と異なる傾向を示している。

4-2. ホーム・ページ

インターネットの普及によって、ホーム・ページを開設する機関も増加している。WWW上に公認のホーム・ページを作成している機関は91.1%、非公認のホーム・ページを作成している機関は3.7%と、ほぼすべての機関がホーム・ページをもっている。

表4-4. 組織のホーム・ページの有無（総計・機関別・設置者別） (%)

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|---------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 公認のページを作成している | 95.5 | 92.0 | 90.7 | 92.1 | 83.3 | 96.5 | 91.1 |
| 非公認のページがある | 3.8 | 5.7 | 3.0 | 3.5 | 5.2 | 3.5 | 3.7 |
| 作成してない | 0.7 | 2.3 | 6.3 | 4.4 | 11.5 | 0.0 | 5.2 |

機関の種別でみると、短大では「作成していない」が11.5%とやや多いが、大学も高専もほぼすべての機関が公認のホーム・ページを作成しているといつてよい。学部別にみても、芸術系を除いて、それ以外の他の学部はいずれも90%が学部の公認のホーム・ページを作成している。芸術系では15.6%がホーム・ページを作成しておらず、インターネットのIDの付与でもみたように、ITがあまり浸透していない領域であることがわかる。

表4-5. 組織のホーム・ページの有無（学部別） (%)

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|---------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 公認のページを作成している | 92.5 | 91.2 | 89.7 | 94.6 | 95.9 | 94.1 | 78.1 | 90.9 | 93.6 |
| 非公認のページがある | 0.5 | 4.6 | 6.9 | 3.6 | 0.0 | 4.6 | 6.3 | 0.0 | 3.8 |
| 作成してない | 7.0 | 4.2 | 3.4 | 1.8 | 4.1 | 1.3 | 15.6 | 9.1 | 2.6 |

こうしたホーム・ページの作成や更新を誰が担当しているかをみると（表4-6）、担当委員会の教員（31.2%）、あるいは、事務職員の（31.8%）が主な担当者である。次いで、ボランティアの教員が10.5%、外部企業への委託が7.8%である。TAやRA、ボランティアの学生が担

当するという傾向は少なく、基本的には教員が作成・更新を担当しているとみてよい。

表４－６．ホーム・ページ作成・更新の担当者（総計・機関別・設置者別）（％）

| | ４年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 担当委員会の教員 | 55.4 | 40.2 | 29.0 | 37.2 | 24.1 | 54.4 | 31.2 |
| 事務職員 | 15.6 | 19.5 | 31.4 | 26.1 | 29.8 | 17.5 | 31.8 |
| TAやRA | 0.3 | 1.1 | 1.2 | 1.0 | 0.2 | 0.0 | 0.7 |
| ボランティアの教員 | 16.6 | 16.1 | 11.0 | 12.9 | 11.2 | 7.0 | 10.5 |
| ボランティアの学生 | 0.3 | 2.3 | 0.7 | 0.8 | 0.5 | 0.0 | 0.6 |
| 外部企業に委託 | 1.4 | 6.9 | 8.1 | 6.2 | 11.9 | 0.0 | 7.8 |
| その他 | 4.2 | 5.7 | 7.0 | 6.1 | 5.2 | 17.5 | 7.4 |

機関の種別でみれば（表４－６）、高専では担当委員会の教員が担っている比率が54.4%と大きく、外部企業への委託で行っているところがまったくないことが特徴である。他方、短大では担当委員会の教員が担っている比率が24.1%と低く、外部企業への委託が11.9%と他に比較して高いことが対照的である。

学部別では（表４－７）、農学系、理工学系、教育学系では担当委員会の教員が担っている比率が40～50%で高い。ボランティアの教員が担当者となっているのは、医歯薬保健系（19.6%）、農学系（18.4%）で高くなっている。人文系や家政系では外部企業への委託がやや高いことが特徴である。

表４－７．ホーム・ページ作成・更新の担当者（学部別）（％）

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|-----------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 担当委員会の教員 | 35.3 | 35.1 | 44.1 | 42.2 | 49.0 | 39.9 | 21.9 | 31.8 | 33.3 |
| 事務職員 | 30.5 | 27.4 | 22.0 | 28.3 | 10.2 | 21.6 | 28.1 | 27.3 | 28.2 |
| TAやRA | 0.5 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 0.0 | 3.8 |
| ボランティアの教員 | 8.4 | 11.8 | 13.6 | 12.7 | 18.4 | 19.6 | 6.3 | 13.6 | 14.1 |
| ボランティアの学生 | 0.5 | 0.7 | 0.0 | 0.6 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 |
| 外部企業に委託 | 10.0 | 6.9 | 0.0 | 3.0 | 6.1 | 3.9 | 6.3 | 13.6 | 9.0 |
| その他 | 5.8 | 5.9 | 3.4 | 6.0 | 6.1 | 7.2 | 12.5 | 0.0 | 3.8 |

主に学内の教員によって作成・更新されているホーム・ページであるが、それにはどのような内容を掲載しているのだろうか。公表している内容についてみると（表４－８）、「学部・学科紹介」（79.7%）、「公表している」の比率、以下同様）、「入学要件・入試情報」（76.9%）、「機

表4-8. ホーム・ページの掲載内容（総計・機関別・設置者別）

(%)

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 機関・部局の沿革・組織構成 | | | | | | | |
| 公表している | 81.3 | 79.3 | 63.3 | 69.6 | 54.3 | 87.7 | 68.4 |
| 一部を公表している | 9.7 | 8.0 | 17.5 | 14.6 | 17.9 | 8.8 | 14.9 |
| 公表を計画している | 1.0 | 1.1 | 1.8 | 1.5 | 3.5 | 0.0 | 1.7 |
| 掲載していない | 2.8 | 3.4 | 6.5 | 5.2 | 7.2 | 0.0 | 5.3 |
| 機関・部局のニュース・イベント | | | | | | | |
| 公表している | 41.2 | 46.0 | 40.3 | 41.0 | 41.9 | 64.9 | 45.3 |
| 一部を公表している | 34.6 | 24.1 | 27.9 | 29.4 | 22.6 | 24.6 | 27.2 |
| 公表を計画している | 5.9 | 12.6 | 7.0 | 7.1 | 5.0 | 1.8 | 6.3 |
| 掲載していない | 12.1 | 9.2 | 12.7 | 12.3 | 12.7 | 5.3 | 10.7 |
| 学部・学科紹介 | | | | | | | |
| 公表している | 84.6 | 79.1 | 83.7 | 83.4 | 73.9 | 93.0 | 79.7 |
| 一部を公表している | 11.5 | 11.6 | 8.3 | 9.2 | 6.2 | 3.5 | 7.6 |
| 公表を計画している | 1.3 | 2.3 | 0.6 | 0.9 | 1.2 | 0.0 | 1.0 |
| 掲載していない | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.4 | 1.7 | 0.0 | 1.1 |
| 開講科目一覧・シラバス | | | | | | | |
| 公表している | 16.6 | 6.9 | 10.1 | 11.6 | 5.2 | 1.8 | 9.0 |
| 一部を公表している | 32.2 | 20.7 | 31.7 | 30.9 | 21.3 | 28.1 | 29.1 |
| 公表を計画している | 12.1 | 16.1 | 16.3 | 15.1 | 12.9 | 12.3 | 14.3 |
| 掲載していない | 32.5 | 48.3 | 30.5 | 32.5 | 43.2 | 54.4 | 37.4 |
| 授業の教材など | | | | | | | |
| 公表している | 10.7 | 3.4 | 5.5 | 6.8 | 2.2 | 0.0 | 5.0 |
| 一部を公表している | 28.7 | 14.9 | 23.6 | 24.3 | 13.2 | 29.8 | 21.2 |
| 公表を計画している | 9.0 | 12.6 | 13.9 | 12.5 | 8.7 | 5.3 | 11.0 |
| 掲載していない | 44.6 | 60.9 | 45.0 | 46.2 | 58.1 | 61.4 | 51.9 |
| 入学要件・入試情報 | | | | | | | |
| 公表している | 69.2 | 70.1 | 76.7 | 74.1 | 74.2 | 71.9 | 76.9 |
| 一部を公表している | 12.5 | 11.5 | 4.7 | 7.4 | 5.0 | 17.5 | 6.8 |
| 公表を計画している | 3.5 | 3.4 | 1.2 | 2.0 | 1.0 | 7.0 | 1.7 |
| 掲載していない | 9.3 | 6.9 | 5.8 | 6.9 | 3.0 | 0.0 | 4.6 |
| 図書館の蔵書カタログ・検索 | | | | | | | |
| 公表している | 40.8 | 40.2 | 34.8 | 36.9 | 16.4 | 31.6 | 34.7 |
| 一部を公表している | 13.1 | 13.8 | 11.9 | 12.4 | 6.0 | 10.5 | 10.6 |
| 公表を計画している | 4.8 | 6.9 | 9.2 | 7.8 | 10.9 | 19.3 | 9.5 |
| 掲載していない | 32.9 | 29.9 | 31.6 | 31.8 | 49.1 | 35.1 | 34.0 |
| 教員・研究室の紹介 | | | | | | | |
| 公表している | 50.2 | 37.9 | 35.1 | 39.5 | 14.6 | 31.6 | 32.2 |
| 一部を公表している | 39.4 | 36.8 | 37.3 | 37.9 | 28.0 | 59.6 | 37.9 |
| 公表を計画している | 2.1 | 8.0 | 7.3 | 5.9 | 9.9 | 3.5 | 6.7 |
| 掲載していない | 3.5 | 9.2 | 9.5 | 7.8 | 30.0 | 1.8 | 13.4 |
| 学生のサークル活動 | | | | | | | |
| 公表している | 11.8 | 16.1 | 16.6 | 15.2 | 14.6 | 21.1 | 17.2 |
| 一部を公表している | 22.5 | 24.1 | 28.6 | 26.5 | 26.1 | 57.9 | 29.1 |
| 公表を計画している | 5.5 | 6.9 | 11.1 | 9.2 | 10.9 | 3.5 | 9.6 |
| 掲載していない | 52.2 | 42.5 | 32.0 | 38.4 | 31.3 | 14.0 | 33.3 |
| 就職・求人情報 | | | | | | | |
| 公表している | 17.6 | 13.8 | 17.9 | 17.5 | 16.1 | 22.8 | 18.8 |
| 一部を公表している | 15.9 | 14.9 | 21.9 | 19.7 | 17.1 | 31.6 | 21.0 |
| 公表を計画している | 8.0 | 6.9 | 10.8 | 9.7 | 6.9 | 5.3 | 9.0 |
| 掲載していない | 50.9 | 52.9 | 37.3 | 42.3 | 42.4 | 36.8 | 40.4 |
| 同窓会情報 | | | | | | | |
| 公表している | 11.8 | 9.2 | 12.9 | 12.3 | 5.7 | 35.1 | 12.0 |
| 一部を公表している | 11.8 | 12.6 | 11.7 | 11.8 | 4.2 | 19.3 | 10.6 |
| 公表を計画している | 7.3 | 6.9 | 15.6 | 12.6 | 11.7 | 12.3 | 12.5 |
| 掲載していない | 60.6 | 59.8 | 47.1 | 51.9 | 61.0 | 29.8 | 53.5 |
| 外部サイトへのリンク | | | | | | | |
| 公表している | 39.4 | 39.1 | 31.9 | 34.5 | 24.6 | 49.1 | 34.0 |
| 一部を公表している | 29.1 | 27.6 | 23.1 | 25.1 | 15.9 | 35.1 | 23.0 |
| 公表を計画している | 4.2 | 6.9 | 6.5 | 5.9 | 7.9 | 0.0 | 6.3 |
| 掲載していない | 20.1 | 17.2 | 25.5 | 23.3 | 33.5 | 12.3 | 25.5 |

関・部局の沿革・組織構成」(68.4%)の3つがもっとも多く掲載されているものである。

それらに次ぐのが、「機関・部局のニュース・イベント」(45.3%)、「図書館の蔵書カタログ・検索」(34.7%)、「外部サイトへのリンク」(34.0%)、「教員・研究室の紹介」(32.2%)である。ただし、これらは「一部を公表している」の比率をあわせれば60～70%にはなる。公表の範囲が限定されていたり、掲載が個々の教員の自由裁量であったりするためであろう。

これらから、機関や学部のホーム・ページが、主として高校生や受験生を対象としたPRに力が注がれており、在学生を対象にしたPRはそれに次ぐものとなっていることがわかる。さらに、学生の授業やその後の進路に関わる情報に関しては、ホーム・ページという手段はあまり用いられていないこと、また、「開設科目一覧・シラバス」(21.6%)、「授業の内容・課題」(9.0%)、「授業の教材など」(5.0%)、「就職・求人情報」(18.8%)が公表されている比率が低いことからわかる。

こうした全体的な傾向は、機関の種別や設置者別にみてもほぼ妥当するものである(表4-8)。「機関・部局の沿革・組織構成」、「機関・部局のニュース・イベント」「学部・学科紹介」「同窓会情報」、「外部サイトへのリンク」などにおいて高専で公表している比率が高いこと、また、短大では全般的に公表している比率が低いことがあげられる。4年制大学の設置者別においては、大きな差はみられない。

学部別にみると、高校生や受験生対象のPRについては学部間の差が少ないが、在学生対象のPRや教育活動に関しては、理工学系で「公表している」あるいは「一部公表している」を加えた比率が高い項目が多い。たとえば、「機関・部局のニュース・イベント」(78.9%)、「公表している」+「一部公表している」の比率、以下同様)、「外部サイトへのリンク」(68.6%)、「開設科目一覧・シラバス」(62.6%)、「授業の内容・課題」(53.7%)、「授業の教材など」(47.0%)などが他学部と比較して高くなっている。

また、ホーム・ページを作成していない比率の高い芸術系では、公表している項目の比率が押し並べて低くなる傾向がある。

4-3. パソコン所持の方針

インターネットの利用のためにはパソコンが不可欠であるが、学生のパソコンの所持に対してどのような方針をとっているのだろうか。「義務づけている」、「一部に義務づけている」、「推奨している」、「どちらでもない」の4カテゴリーできいたところ、義務づけている、「一部に義務づけている」はどちらも4%程度で多くはない。パソコンの所持を義務づけている機関は10%に満たない。ただし、「推奨している」が28.3%であり、義務づけている機関と合わせて、約40%の機関は学生が自分のパソコンを持つべきという方針を出しているのである。

機関の種別でみると、4年生大学はそうした方針をとる機関が40%強あるのに対し、短大では25%程度、高専にいたっては12%程度であり、パソコンの所持についての方針を明確にしているのは大学が中心であることがわかる。ただし、4年生大学の設置者別にみると、学部学生についても大学院生についても国公立間の差異はほとんどない。

学部別には、学部学生に対して「義務づけている」、「一部に義務づけている」のは、理工学系と芸術系に多く、どちらも約15%になっている。しかし、芸術系では「どちらでもない」も

表４－９．ホーム・ページの掲載内容（学部別）

（％）

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|----------------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 機関・部局の沿革・組織構成 | | | | | | | | | |
| 公表している | 64.7 | 64.2 | 78.0 | 75.3 | 81.6 | 71.9 | 59.4 | 68.2 | 78.2 |
| 一部を公表している | 15.8 | 16.0 | 8.5 | 16.3 | 12.2 | 13.7 | 3.1 | 9.1 | 15.4 |
| 公表を計画している | 2.1 | 2.8 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 1.3 | 3.1 | 0.0 | 0.0 |
| 掲載していない | 7.4 | 6.6 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 5.9 | 12.5 | 13.6 | 0.0 |
| 部局のニュース・イベント | | | | | | | | | |
| 公表している | 36.3 | 42.4 | 39.0 | 43.4 | 40.8 | 43.1 | 46.9 | 27.3 | 43.6 |
| 一部を公表している | 33.2 | 22.9 | 22.0 | 35.5 | 32.7 | 30.1 | 15.6 | 40.9 | 37.2 |
| 公表を計画している | 7.4 | 9.4 | 5.1 | 6.0 | 6.1 | 5.2 | 12.5 | 9.1 | 3.8 |
| 掲載していない | 11.6 | 14.2 | 20.3 | 7.8 | 14.3 | 13.7 | 3.1 | 13.6 | 9.0 |
| 開講科目一覧・シラバス | | | | | | | | | |
| 公表している | 25.3 | 24.3 | 35.6 | 30.7 | 30.6 | 18.3 | 15.6 | 22.7 | 29.5 |
| 一部を公表している | 25.8 | 30.2 | 18.6 | 31.9 | 28.6 | 26.1 | 21.9 | 22.7 | 30.8 |
| 公表を計画している | 16.8 | 18.1 | 8.5 | 14.5 | 10.2 | 19.6 | 25.0 | 27.3 | 15.4 |
| 掲載していない | 22.6 | 16.3 | 22.0 | 17.5 | 24.5 | 29.4 | 15.6 | 13.6 | 17.9 |
| 授業の内容・課題 | | | | | | | | | |
| 公表している | 13.7 | 9.7 | 11.9 | 14.5 | 10.2 | 11.1 | 9.4 | 9.1 | 12.8 |
| 一部を公表している | 31.6 | 34.0 | 28.8 | 39.2 | 28.6 | 21.6 | 21.9 | 18.2 | 29.5 |
| 公表を計画している | 10.0 | 18.1 | 8.5 | 13.3 | 12.2 | 19.0 | 25.0 | 40.9 | 9.0 |
| 掲載していない | | | | | | | | | |
| 授業の教材など | | | | | | | | | |
| 公表している | 5.8 | 5.6 | 3.4 | 8.4 | 12.2 | 7.8 | 0.0 | 4.5 | 11.5 |
| 一部を公表している | 25.3 | 24.0 | 27.1 | 38.6 | 10.2 | 16.3 | 15.6 | 9.1 | 23.1 |
| 公表を計画している | 5.3 | 17.4 | 5.1 | 8.4 | 10.2 | 16.3 | 18.8 | 36.4 | 9.0 |
| 掲載していない | 52.6 | 42.4 | 47.5 | 36.7 | 59.2 | 52.9 | 43.8 | 36.4 | 50.0 |
| 入学要件・入試情報 | | | | | | | | | |
| 公表している | 80.0 | 73.6 | 62.7 | 69.9 | 79.6 | 78.4 | 56.3 | 77.3 | 78.2 |
| 一部を公表している | 3.2 | 5.9 | 6.8 | 11.4 | 12.2 | 7.2 | 15.6 | 4.5 | 10.3 |
| 公表を計画している | 0.5 | 2.4 | 3.4 | 3.0 | 0.0 | 2.0 | 6.3 | 0.0 | 1.3 |
| 掲載していない | 6.3 | 6.6 | 13.6 | 10.2 | 2.0 | 5.9 | 0.0 | 4.5 | 3.8 |
| 図書館の蔵書カタログ・検索 | | | | | | | | | |
| 公表している | 38.9 | 39.9 | 44.1 | 31.3 | 34.7 | 39.9 | 12.5 | 27.3 | 35.9 |
| 一部を公表している | 8.9 | 10.4 | 6.8 | 19.9 | 8.2 | 14.4 | 12.5 | 13.6 | 14.1 |
| 公表を計画している | 9.5 | 7.3 | 0.0 | 9.0 | 6.1 | 5.9 | 18.8 | 9.1 | 9.0 |
| 掲載していない | 32.1 | 30.9 | 33.9 | 32.5 | 36.7 | 31.4 | 34.4 | 36.4 | 29.5 |
| 教員・研究室の紹介 | | | | | | | | | |
| 公表している | 27.9 | 35.8 | 32.2 | 56.0 | 57.1 | 47.1 | 12.5 | 22.7 | 42.3 |
| 一部を公表している | 41.1 | 39.2 | 42.4 | 37.3 | 34.7 | 32.7 | 34.4 | 45.5 | 35.9 |
| 公表を計画している | 8.9 | 6.6 | 3.4 | 0.0 | 2.0 | 4.6 | 21.9 | 13.6 | 7.7 |
| 掲載していない | 12.6 | 8.3 | 8.5 | 1.2 | 2.0 | 9.2 | 9.4 | 9.1 | 7.7 |
| 学生のサークル活動 | | | | | | | | | |
| 公表している | 15.3 | 14.6 | 10.2 | 18.1 | 14.3 | 12.4 | 6.3 | 22.7 | 23.1 |
| 一部を公表している | 25.8 | 29.5 | 27.1 | 30.7 | 20.4 | 24.2 | 21.9 | 13.6 | 23.1 |
| 公表を計画している | 6.8 | 9.4 | 8.5 | 7.2 | 6.1 | 12.4 | 18.8 | 18.2 | 9.0 |
| 掲載していない | 41.1 | 35.4 | 37.3 | 37.3 | 49.0 | 44.4 | 31.3 | 31.8 | 34.6 |
| 就職・求人情報 | | | | | | | | | |
| 公表している | 17.4 | 18.8 | 22.0 | 21.1 | 12.2 | 9.8 | 18.8 | 4.5 | 23.1 |
| 一部を公表している | 28.9 | 18.4 | 13.6 | 22.9 | 16.3 | 14.4 | 9.4 | 27.3 | 16.7 |
| 公表を計画している | 8.4 | 10.8 | 6.8 | 8.4 | 10.2 | 10.5 | 15.6 | 13.6 | 9.0 |
| 掲載していない | 34.7 | 41.0 | 40.7 | 41.6 | 51.0 | 56.9 | 34.4 | 36.4 | 41.0 |
| 同窓会情報 | | | | | | | | | |
| 公表している | 9.5 | 12.2 | 3.4 | 15.1 | 6.1 | 21.6 | 15.6 | 0.0 | 10.3 |
| 一部を公表している | 10.5 | 12.8 | 6.8 | 18.1 | 10.2 | 10.5 | 3.1 | 22.7 | 6.4 |
| 公表を計画している | 12.6 | 13.5 | 10.2 | 9.6 | 14.3 | 11.8 | 21.9 | 18.2 | 12.8 |
| 掲載していない | 56.3 | 49.7 | 61.0 | 50.6 | 55.1 | 47.7 | 34.4 | 50.0 | 57.7 |
| 外部サイトへのリンク | | | | | | | | | |
| 公表している | 31.6 | 34.0 | 40.7 | 37.3 | 32.7 | 41.2 | 15.6 | 22.7 | 33.3 |
| 一部を公表している | 20.0 | 27.1 | 18.6 | 31.3 | 32.7 | 21.6 | 34.4 | 27.3 | 23.1 |
| 公表を計画している | 6.8 | 6.9 | 3.4 | 2.4 | 0.0 | 3.9 | 12.5 | 13.6 | 10.3 |
| 掲載していない | 28.4 | 20.1 | 22.0 | 22.3 | 22.4 | 26.1 | 15.6 | 22.7 | 24.4 |

多く71.0%になっている。大学院学生については、「義務づけている」、「一部に義務づけている」が学部学生よりも低くなっている。

表4-10. パソコン所持の方針（総計・機関別・設置者別）（%）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 学部学生に | | | | | | | |
| 義務づけている | 3.2 | 0.0 | 5.6 | 2.5 | 0.0 | 3.8 | 3.8 |
| 一部に義務づけている | 3.2 | 0.0 | 5.9 | 2.8 | 3.6 | 4.1 | 4.1 |
| 推奨している | 29.6 | 38.4 | 33.3 | 19.5 | 8.9 | 28.3 | 28.3 |
| どちらでもない | 63.9 | 61.6 | 55.2 | 75.2 | 87.5 | 63.9 | 63.9 |
| 大学院生に | | | | | | | |
| 義務づけている | 0.0 | 1.5 | 1.5 | 1.0 | | | |
| 一部に義務づけている | 3.9 | 0.0 | 2.1 | 2.5 | | | |
| 推奨している | 32.2 | 38.5 | 34.7 | 34.2 | | | |
| どちらでもない | 64.0 | 60.0 | 61.7 | 62.3 | | | |

表4-11. パソコン所持の方針（学部別）（%）

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 学部学生に | | | | | | | | | |
| 義務づけている | 3.7 | 7.8 | 1.7 | 4.9 | 2.1 | 1.3 | 3.2 | 0.0 | 5.6 |
| 一部に義務づけている | 5.9 | 2.5 | 1.7 | 9.9 | 2.1 | 1.3 | 12.9 | 4.8 | 6.9 |
| 推奨している | 34.2 | 38.8 | 32.8 | 27.8 | 18.8 | 33.1 | 12.9 | 38.1 | 33.3 |
| どちらでもない | 56.1 | 50.9 | 63.8 | 57.4 | 77.1 | 64.2 | 71.0 | 57.1 | 54.2 |
| 大学院生に | | | | | | | | | |
| 義務づけている | 1.4 | 1.8 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.8 |
| 一部に義務づけている | 4.1 | 1.8 | 0.0 | 3.9 | 2.0 | 1.4 | 8.0 | 0.0 | 1.8 |
| 推奨している | 38.4 | 36.7 | 31.6 | 35.1 | 22.4 | 35.3 | 12.0 | 43.8 | 30.4 |
| どちらでもない | 56.2 | 59.7 | 68.4 | 60.4 | 75.5 | 62.6 | 80.0 | 56.3 | 66.1 |

学生に対するパソコン所持の方針については、学問分野の性格上必要であるため学生に所持を義務づけたり、推奨する場合と、そうした方針を打ち出さなくても学生は自分のパソコンを所持するために方針を必要としない場合とが考えられるが、大学院学生に対して所持の方針を打ち出している機関が少ないのは、後者の理由によるところが大きいと考えられる。

5. マルチメディア利用の目的・障害・雰囲気

高等教育において利用されるマルチメディアは、何を目的としているのだろうか。また、利用にあたっての障害はどこにあるのだろうか。また、学内においてマルチメディアの利用に関してどのような雰囲気があるのだろうか。こうした、目的と障害を探る作業は、わが国の高等教育システムにおいて、マルチメディアがどのように浸透しているのかを明らかにするだけでなく、今後の利用の方向を探る作業や、目的と障害との関係を明らかにして目的の遂行に対するインプリケーションを得ることができる。

5-1. 目的

これらITは、どのような目的で利用されているのだろうか。表5-1より、11項目について「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの4段階での回答からそれをみよう。

「よくあてはまる」とする比率がもっとも高いのは「教育の効果を上げるため」(54.3%)であり、それに「あてはまる」を加えると97.2%が教育の効果をねらってマルチメディアを利用していることがわかる。次いで、「学生の動機づけを高めるため」(38.9%)、「新技術を教育へ応用するため」(38.3%)を目的とする機関が多い。これらより、新技術の利用によって、学生の動機づけを高め、教育効果を上げることを期待してITが利用されていくサイクルがあることがわかる。

また、「広報活動のため」(37.8%)、「機関の活動の公開のため」(27.6%)、「事務運営の効率化のため」(29.1)を「よくあてはまる」とする機関も比較的多く、機関の経営上の理由からマルチメディアを利用する機関も多いことが示されている。

しかし、「カリキュラム改革のため」(15.5%)や「新たな学生層の開拓のため」(15.9%)と目的とする比率は低い。すなわち、授業上での直接的な効果を期待して用いることに集中しており、高等教育システムや教育の改革を期待して用いられているものではないことが注目される。

さらに、「教員の負荷を減少するため」(5.3%)、「教育のコストを抑えるため」(2.9%)といった人的・物的コストの削減に関しては、「よくあてはまる」とする比率は低く、むしろ、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」とが合わせて70~80%である。マルチメディアの利用にあたって、教員の授業負担を軽くすることや教育にかかる費用を削減することは視野に入れられることなく利用されていることがわかる。

これらをみるかぎり、教育問題やコストの問題など現在抱えている何らかの問題解決のためにITを利用するというよりも、むしろ、新技術を利用すれば、それでもって教育効果が上がるという楽観論に支配されて利用される場合が多いようだ。

ちなみに、これらの目的について、もっともデータ数が多い大学の学部について因子分析を行い、その結果をみると(表5-2)、教育効果、活動の公開、負荷の減少の3つの因子が析出されており、第1因子として教育効果が析出されている。そこには「学生の動機づけを高めるため」、「教育の効果をあげるため」、「新技術を教育へ応用するため」、「新たな学生層を開拓

するため」、「カリキュラム改革のため」が含まれる。この第1因子の寄与率は21.4%であり、これもきわめて高い。IT利用の目的として教育効果をあげることが、いかに期待されているものであるかをうかがうことができる。

表5－1. マルチメディアや情報通信技術を利用目的（総計） (%)

| | よくあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|---------------|---------|---------|------------|-------------|
| 教育のコストを抑えるため | 2.9 | 17.4 | 56.3 | 23.4 |
| カリキュラム改革のため | 15.5 | 52.5 | 25.4 | 6.6 |
| 教育の効果をあげるため | 54.3 | 42.9 | 2.2 | 0.6 |
| 新技術を教育へ応用するため | 38.3 | 47.5 | 11.8 | 2.3 |
| 新たな学生層を開拓するため | 15.9 | 42.2 | 35.6 | 6.3 |
| 研究上の知見を共有するため | 28.2 | 53.2 | 16.3 | 2.4 |
| 教員の負荷を減少するため | 5.3 | 27.1 | 50.4 | 17.3 |
| 学生の動機づけを高めるため | 38.9 | 51.6 | 8.3 | 1.2 |
| 機関の活動の公開のため | 27.6 | 51.0 | 17.5 | 3.9 |
| 広報活動のため | 37.0 | 48.9 | 11.6 | 2.5 |
| 事務運営の効率化のため | 29.1 | 47.4 | 18.8 | 4.7 |

表5－2. マルチメディアや情報通信技術の利用目的の因子分析（大学学部） (%)

| | 因子1 教育効果 | 因子2 活動の公開 | 因子3 コスト |
|---------------|-------------|--------------|------------|
| 学生の動機づけを高めるため | 0.762 | 0.109 | 6.071E－02 |
| 教育の効果をあげるため | 0.751 | －8.213E－03 | 4.383E－02 |
| 新技術を教育へ応用するため | 0.674 | 0.239 | －1.628E－02 |
| 新たな学生層を開拓するため | 0.565 | 0.271 | 0.171 |
| 機関の活動の公開のため | 0.120 | 0.866 | 9.266E－02 |
| 広報活動のため | 9.535E－02 | 0.866 | 6.032E－02 |
| 事務運営の効率化のため | 0.106 | 0.598 | 0.367 |
| 研究上の知見を共有するため | 0.415 | 0.542 | 7.425E－02 |
| 教育のコストを抑えるため | 6.931E－02 | 0.104 | 0.836 |
| 教員の負荷を減少するため | 3.793E－02 | 0.191 | 0.775 |
| 固有値 | 2.354 | 2.342 | 1.682 |
| 寄与率 (%) | 21.4 | 21.3 | 15.3 |
| 累積寄与率 (%) | 21.4 | 42.7 | 58.0 |

注) 主成分分析による因子抽出。因子負荷量は絶対値が0.5以上のものを採用。

表5-3. マルチメディアや情報通信技術の利用目的（機関の種別・設置者別）（%）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|---------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 教育のコストを抑えるため | | | | | | |
| よくあてはまる | 2.8 | 1.2 | 3.5 | 3.1 | 2.8 | 1.8 |
| ややあてはまる | 21.7 | 17.6 | 15.2 | 17.2 | 17.9 | 17.9 |
| あまりあてはまらない | 55.9 | 54.1 | 58.1 | 57.2 | 53.1 | 55.4 |
| まったくあてはまらない | 19.6 | 27.1 | 23.3 | 22.6 | 26.2 | 25.0 |
| カリキュラム改革のため | | | | | | |
| よくあてはまる | 17.0 | 9.2 | 12.6 | 13.5 | 21.6 | 10.5 |
| ややあてはまる | 53.5 | 50.6 | 54.9 | 54.1 | 47.8 | 54.4 |
| あまりあてはまらない | 23.6 | 27.6 | 26.8 | 26.0 | 23.4 | 26.3 |
| まったくあてはまらない | 5.9 | 12.6 | 5.8 | 6.4 | 7.1 | 8.8 |
| 教育の効果をあげるため | | | | | | |
| よくあてはまる | 50.5 | 52.9 | 51.5 | 51.3 | 61.9 | 54.4 |
| ややあてはまる | 44.6 | 44.8 | 45.8 | 45.4 | 36.0 | 45.6 |
| あまりあてはまらない | 3.8 | 2.3 | 2.7 | 3.0 | 0.5 | 0.0 |
| まったくあてはまらない | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 1.5 | 0.0 |
| 新技術を教育へ応用するため | | | | | | |
| よくあてはまる | 32.9 | 41.4 | 37.0 | 36.2 | 44.5 | 36.8 |
| ややあてはまる | 49.8 | 49.4 | 48.4 | 48.9 | 42.5 | 54.4 |
| あまりあてはまらない | 14.9 | 8.0 | 12.7 | 12.9 | 9.4 | 7.0 |
| まったくあてはまらない | 2.4 | 1.1 | 1.8 | 1.9 | 3.6 | 1.8 |
| 新たな学生層を開拓するため | | | | | | |
| よくあてはまる | 11.5 | 12.8 | 16.8 | 15.0 | 19.4 | 10.5 |
| ややあてはまる | 35.1 | 32.6 | 45.0 | 41.2 | 47.3 | 28.1 |
| あまりあてはまらない | 44.4 | 45.3 | 34.6 | 38.2 | 27.1 | 40.4 |
| まったくあてはまらない | 9.0 | 9.3 | 3.6 | 5.6 | 6.1 | 21.1 |
| 研究上の知見を共有するため | | | | | | |
| よくあてはまる | 32.2 | 31.0 | 30.3 | 30.9 | 20.7 | 28.1 |
| ややあてはまる | 49.8 | 57.5 | 54.0 | 53.1 | 54.1 | 50.9 |
| あまりあてはまらない | 15.9 | 9.2 | 14.8 | 14.6 | 19.6 | 21.1 |
| まったくあてはまらない | 2.1 | 2.3 | 0.9 | 1.3 | 5.6 | 0.0 |
| 教員の負荷を減少するため | | | | | | |
| よくあてはまる | 6.9 | 5.8 | 4.4 | 5.2 | 4.9 | 10.5 |
| ややあてはまる | 31.5 | 32.6 | 25.9 | 28.0 | 25.4 | 22.8 |
| あまりあてはまらない | 47.4 | 44.2 | 51.3 | 49.6 | 52.3 | 47.4 |
| まったくあてはまらない | 14.2 | 17.4 | 18.5 | 17.2 | 17.4 | 19.3 |
| 学生の動機づけを高めるため | | | | | | |
| よくあてはまる | 38.1 | 34.5 | 38.6 | 38.1 | 40.8 | 39.3 |
| ややあてはまる | 51.6 | 51.7 | 53.2 | 52.6 | 49.0 | 51.8 |
| あまりあてはまらない | 9.0 | 11.5 | 7.8 | 8.4 | 7.9 | 8.9 |
| まったくあてはまらない | 1.4 | 2.3 | 0.4 | 0.9 | 2.3 | 0.0 |
| 機関の活動の公開のため | | | | | | |
| よくあてはまる | 41.9 | 31.0 | 25.7 | 30.6 | 18.9 | 31.6 |
| ややあてはまる | 48.1 | 58.6 | 52.5 | 51.8 | 50.4 | 43.9 |
| あまりあてはまらない | 8.0 | 9.2 | 18.6 | 14.9 | 23.5 | 19.3 |
| まったくあてはまらない | 2.1 | 1.1 | 3.2 | 2.7 | 7.2 | 5.3 |
| 広報活動のため | | | | | | |
| よくあてはまる | 48.8 | 37.9 | 34.2 | 38.6 | 32.7 | 36.8 |
| ややあてはまる | 41.5 | 50.6 | 50.7 | 48.1 | 51.0 | 49.1 |
| あまりあてはまらない | 8.7 | 10.3 | 13.0 | 11.6 | 12.0 | 8.8 |
| まったくあてはまらない | 1.0 | 1.1 | 2.1 | 1.7 | 4.3 | 5.3 |
| 事務運営の効率化のため | | | | | | |
| よくあてはまる | 38.1 | 24.1 | 25.6 | 28.9 | 30.1 | 26.8 |
| ややあてはまる | 48.1 | 55.2 | 47.2 | 48.1 | 46.4 | 39.3 |
| あまりあてはまらない | 11.4 | 17.2 | 22.4 | 18.9 | 18.1 | 25.0 |
| まったくあてはまらない | 2.4 | 3.4 | 4.8 | 4.1 | 5.4 | 8.9 |

機関の種別や 設置者別（表 5－3）にみると、短大で「教育の効果をあげるため」（61.9%）、「新技術を教育へ応用するため」（44.5%）が多くなっている一方で、「研究上の知見を共有するため」（20.7%）、「機関の活動の公開のため」（18.9%）が少なくなっている。

また、国立大学では、「広報活動のため」（48.8%）、「事務運営の効率化のため」（38.1%）といった運営面での項目については、目的とする比率がやや高いものの、それ以外は大きな差異はない。

学部別（表 5－4）では、「教育の効果をあげるため」、「新技術を教育へ応用するため」に代表される新技術の応用により教育効果をあげることを期待する項目では、学部間に差異がなく、どの学部でも期待が高いことが特徴である。マルチメディアを教育へ利用する目的、マルチメディアに対する期待が、学問領域によって差がないことがわが国の高等教育システムの特徴であるとみることができよう。

また「機関の活動の公開のため」、「広報活動のため」、「事務運営の効率化のため」といった機関の経営に関する項目では、どちらかといえば社会科学系であまり期待が高くなっていない。

さらに、「教員の負荷を減少するため」、「教育のコストを抑えるため」といった人的・物的コストの削減に関しては、農学系や医歯薬保健系でやや他学部よりも高いが大きなさいではない。

このように詳細にみれば、機関の種別、設置者、学部によって若干の違いはあるものの、さほど大きな差ではない。ここから、マルチメディアを教育へ利用する目的、マルチメディアに対する期待が、学問領域によって差がないことがわが国の高等教育システムの特徴であるとみることができよう。

5－2. 障 害

では、実際の利用にあたっては、何が障害となるのだろうか。表 5－5 にみるように、障害に関しては12項目を提示して、それぞれ4段階の選択肢から選択する方式をとったが、それによれば、「機器設備の導入費用がかかる」（63.5%）、「よくあてはまる」の比率、以下同様）、「機器設備の維持費用がかかる」（52.1%）、「機器設備の数が不十分」（44.5%）など、機器設備の導入とその維持管理に関する、いわゆる物的コストがかかることを障害として問題視する声が高い。この「よくあてはまる」の比率に「ある程度あてはまる」を加えると、のきなみ90%を超えきわめて高くなっている。ほとんどの機関がこうした物的コストの問題を障害として抱えていることがわかる。

それとともに、「支援スタッフが不足している」（53.3%）、「特定の者に負担がかかる」（54.7%）、「利用の準備に時間がかかる」（34.4%）など、人的資源の不足を問題とする比率も高く、これらに「ある程度あてはまる」を加えると90%を超える比率となり、物的コストを障害とするのと同程度に高い。

こうした、人的資源の不足については、第1に支援スタッフをメディア・スペシャリストとして系統だって養成する仕組みが日本の高等教育に欠けており、第2に、教員と事務職員で構成される日本の大学においては、たとえそうした人材を見いだしたとしても、スペシャリスト

表5-4. マルチメディアや情報通信技術の利用目的（大学学部別）

（％）

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|----------------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 教育のコストを抑えるため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 4.3 | 3.2 | 3.5 | 2.4 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 5.3 |
| ややあてはまる | 16.6 | 16.1 | 10.5 | 14.6 | 29.2 | 19.6 | 15.6 | 4.5 | 22.4 |
| あまりあてはまらない | 61.0 | 55.1 | 68.4 | 64.6 | 50.0 | 51.0 | 56.3 | 77.3 | 44.7 |
| まったくあてはまらない | 18.2 | 25.6 | 17.5 | 18.3 | 20.8 | 26.8 | 28.1 | 18.2 | 27.6 |
| カリキュラム改革のため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 16.0 | 14.6 | 10.2 | 13.3 | 10.2 | 11.8 | 9.4 | 9.1 | 14.3 |
| ややあてはまる | 54.5 | 54.4 | 67.8 | 58.8 | 51.0 | 43.8 | 37.5 | 50.0 | 61.0 |
| あまりあてはまらない | 21.9 | 25.4 | 15.3 | 23.6 | 36.7 | 36.6 | 43.8 | 36.4 | 14.3 |
| まったくあてはまらない | 7.5 | 5.6 | 6.8 | 4.2 | 2.0 | 7.8 | 9.4 | 4.5 | 10.4 |
| 教育の効果をあげるため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 53.5 | 51.9 | 42.4 | 55.4 | 38.8 | 53.9 | 40.6 | 40.9 | 51.9 |
| ややあてはまる | 42.8 | 47.4 | 55.9 | 41.0 | 53.1 | 40.1 | 50.0 | 54.5 | 46.8 |
| あまりあてはまらない | 3.2 | 0.7 | 1.7 | 3.0 | 8.2 | 5.3 | 9.4 | 4.5 | 1.3 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 新技術を教育へ応用するため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 32.8 | 37.3 | 37.3 | 39.8 | 22.4 | 33.6 | 37.5 | 36.4 | 46.8 |
| ややあてはまる | 53.2 | 45.3 | 44.1 | 50.6 | 59.2 | 51.3 | 46.9 | 59.1 | 37.7 |
| あまりあてはまらない | 11.3 | 16.0 | 18.6 | 7.8 | 16.3 | 12.5 | 12.5 | 4.5 | 14.3 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 1.4 | 0.0 | 1.8 | 2.0 | 2.6 | 3.1 | 0.0 | 1.3 |
| 新たな学生層を開拓するため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 15.7 | 16.4 | 8.5 | 15.8 | 6.1 | 9.9 | 18.8 | 9.1 | 25.0 |
| ややあてはまる | 46.5 | 40.8 | 39.0 | 41.8 | 65.3 | 25.2 | 53.1 | 59.1 | 39.5 |
| あまりあてはまらない | 36.2 | 38.7 | 50.8 | 37.6 | 24.5 | 46.4 | 25.0 | 31.8 | 31.6 |
| まったくあてはまらない | 1.6 | 4.2 | 1.7 | 4.8 | 4.1 | 18.5 | 3.1 | 0.0 | 3.9 |
| 研究上の知見を共有するため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 30.3 | 25.9 | 32.2 | 33.7 | 22.4 | 33.3 | 28.1 | 45.5 | 40.3 |
| ややあてはまる | 54.3 | 52.4 | 50.8 | 54.8 | 53.1 | 52.9 | 56.3 | 50.0 | 51.9 |
| あまりあてはまらない | 14.9 | 19.6 | 15.3 | 10.8 | 22.4 | 12.4 | 12.5 | 4.5 | 6.5 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 2.1 | 1.7 | 0.6 | 2.0 | 1.3 | 3.1 | 0.0 | 1.3 |
| 教員の負荷を減少するため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 3.8 | 4.2 | 6.8 | 5.4 | 6.1 | 5.9 | 3.1 | 4.5 | 6.5 |
| ややあてはまる | 23.9 | 25.6 | 15.3 | 31.9 | 36.7 | 34.6 | 28.1 | 31.8 | 28.6 |
| あまりあてはまらない | 54.3 | 47.4 | 64.4 | 47.6 | 46.9 | 45.8 | 50.0 | 45.5 | 50.6 |
| まったくあてはまらない | 17.9 | 22.8 | 13.6 | 15.1 | 10.2 | 13.7 | 18.8 | 18.2 | 14.3 |
| 学生の動機づけを高めるため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 39.9 | 42.3 | 33.9 | 37.3 | 22.4 | 30.1 | 34.4 | 45.5 | 48.1 |
| ややあてはまる | 52.1 | 52.1 | 57.6 | 56.6 | 57.1 | 54.9 | 43.8 | 45.5 | 40.3 |
| あまりあてはまらない | 7.4 | 5.2 | 8.5 | 5.4 | 18.4 | 13.1 | 18.8 | 9.1 | 10.4 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.6 | 2.0 | 2.0 | 3.1 | 0.0 | 1.3 |
| 機関の活動の公開のため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 24.9 | 24.2 | 32.2 | 40.4 | 30.6 | 31.4 | 37.5 | 36.4 | 40.3 |
| ややあてはまる | 54.6 | 51.6 | 55.9 | 45.8 | 55.1 | 57.5 | 50.0 | 50.0 | 42.9 |
| あまりあてはまらない | 17.3 | 20.4 | 8.5 | 12.7 | 10.2 | 9.8 | 9.4 | 9.1 | 15.6 |
| まったくあてはまらない | 3.2 | 3.9 | 3.4 | 1.2 | 4.1 | 1.3 | 3.1 | 4.5 | 1.3 |
| 広報活動のため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 32.6 | 30.8 | 37.3 | 48.2 | 38.8 | 45.1 | 46.9 | 40.9 | 45.5 |
| ややあてはまる | 51.3 | 50.3 | 52.5 | 43.4 | 53.1 | 43.8 | 43.8 | 45.5 | 44.2 |
| あまりあてはまらない | 13.4 | 15.7 | 8.5 | 7.2 | 8.2 | 11.1 | 9.4 | 9.1 | 10.4 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 3.1 | 1.7 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 |
| 事務運営の効率化のため | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 31.9 | 21.4 | 30.5 | 30.1 | 34.7 | 34.2 | 34.4 | 22.7 | 31.2 |
| ややあてはまる | 47.8 | 48.8 | 55.9 | 56.0 | 44.9 | 39.5 | 50.0 | 40.9 | 45.5 |
| あまりあてはまらない | 15.4 | 23.9 | 11.9 | 10.8 | 18.4 | 23.0 | 15.6 | 31.8 | 20.8 |
| まったくあてはまらない | 4.9 | 6.0 | 1.7 | 3.0 | 2.0 | 3.3 | 0.0 | 4.5 | 2.6 |

をフルタイムで配置する構造がないという制度面での問題点に起因するものである。大学におけるスペシャリストの問題は、IT問題にかかわらず日本の大学のなかではさまざまな局面で問題となっており、新たな社会変化に対応可能な柔構造への転換を模索する必要がある。

人的資源とも関わるもう1つの問題としては、「利用できる教材が不足している」(19.6%)という問題を指摘できる。教員が教材を自ら制作するには、技術的知識の問題や授業時間以外の時間の確保という点から、往々にして負担にしかならず、かといってすぐに利用できる適切な市販教材の数は多くはないという問題に突き当たるのである。先にみた、利用の実態でも「CD-ROM教材の利用」や「マルチメディア教材の作成」は決して多くはなかったことは、こうした事情を物語っている。

また、「教員のメディア活用能力が低い」(17.0%)、「事務職員が対応できない」(12.5%)、「学生のメディア活用能力が低い」(3.3%)といった利用者側のリテラシーの問題については、もっとも問題が多いのは教員で、次いで事務職員、ほとんど問題がないといってよいのは学生である。とくに、学生については、「よくあてはまる」とする機関は3%でしかない。メディアリテラシーに関しては、教職員よりも学生の方が高いことが示唆されている。

最後に、「利用による教育効果がない」、「授業で利用する必要がない」を「よくあてはまる」あるいは「あてはまる」とする比率はきわめて低い。ということは、教育の効果がないという問題は生じていないとみなされていることが示されており、目的の項目でみたように「教育効果をあげるため」と対応していることがわかる。

表5-5. マルチメディアや情報通信技術の利用の障害(総計) (%)

| | よくあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|----------------|---------|---------|------------|-------------|
| 機器設備の導入費用がかかる | 63.5 | 32.2 | 4.0 | 0.3 |
| 機器設備の数が不十分 | 44.5 | 42.9 | 44.5 | 42.9 |
| 機器設備の維持費用がかかる | 52.1 | 39.2 | 8.3 | 0.4 |
| 教員のメディア活用能力が低い | 17.0 | 58.2 | 23.0 | 1.8 |
| 授業で利用する必要がない | 1.3 | 21.2 | 54.5 | 23.1 |
| 利用による教育効果がない | 0.7 | 11.9 | 59.4 | 28.0 |
| 利用できる教材が不足している | 19.6 | 55.6 | 22.0 | 2.9 |
| 学生のメディア活用能力が低い | 3.3 | 32.4 | 54.2 | 10.1 |
| 事務職員が対応できない | 12.5 | 47.1 | 34.4 | 6.1 |
| 支援スタッフが不足している | 53.0 | 41.3 | 5.2 | 0.6 |
| 利用の準備に時間がかかる | 34.4 | 51.4 | 13.3 | 0.9 |
| 特定の者に負担がかかる | 54.7 | 39.8 | 4.6 | 0.9 |

機関の種別や設置者別(表5-6)にみると、資金面での問題については、短大が「機器設備の導入費用がかかる」(76.1%)、「機器設備の維持費用がかかる」(59.3%)において障害と

表5－6．マルチメディアや情報通信技術の利用の障害（機関の種別・設置者別）（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|----------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 機器設備の導入費用がかかる | | | | | | |
| よくあてはまる | 62.9 | 55.2 | 57.4 | 58.8 | 76.1 | 64.9 |
| ややあてはまる | 31.8 | 36.8 | 39.0 | 36.8 | 20.3 | 28.1 |
| あまりあてはまらない | 5.2 | 6.9 | 3.4 | 4.2 | 3.0 | 7.0 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 1.1 | 0.1 | 0.2 | 0.5 | 0.0 |
| 機器設備の数が不十分 | | | | | | |
| よくあてはまる | 56.6 | 37.2 | 39.5 | 44.0 | 45.5 | 43.9 |
| ややあてはまる | 36.7 | 40.7 | 49.1 | 45.0 | 38.7 | 35.1 |
| あまりあてはまらない | 6.3 | 17.4 | 11.1 | 10.3 | 14.2 | 21.1 |
| まったくあてはまらない | 0.3 | 4.7 | 0.3 | 0.7 | 1.5 | 0.0 |
| 機器設備の維持費用がかかる | | | | | | |
| よくあてはまる | 57.2 | 49.4 | 46.7 | 49.8 | 59.3 | 47.4 |
| ややあてはまる | 34.7 | 35.6 | 44.3 | 41.0 | 33.8 | 40.4 |
| あまりあてはまらない | 8.1 | 12.6 | 9.0 | 9.0 | 5.9 | 12.3 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 2.3 | 0.0 | 0.2 | 1.0 | 0.0 |
| 教員のメディア活用能力が低い | | | | | | |
| よくあてはまる | 12.6 | 9.3 | 18.2 | 15.9 | 19.7 | 17.5 |
| ややあてはまる | 54.7 | 59.3 | 59.2 | 58.0 | 60.5 | 42.1 |
| あまりあてはまらない | 31.9 | 29.1 | 20.4 | 24.3 | 17.9 | 38.6 |
| まったくあてはまらない | 0.7 | 2.3 | 2.2 | 1.8 | 1.8 | 1.8 |
| 授業で利用する必要がない | | | | | | |
| よくあてはまる | 1.4 | 1.1 | 1.5 | 1.4 | 1.0 | 0.0 |
| ややあてはまる | 22.4 | 21.8 | 21.6 | 21.8 | 18.9 | 21.1 |
| あまりあてはまらない | 50.7 | 52.9 | 55.0 | 53.6 | 55.8 | 63.2 |
| まったくあてはまらない | 25.5 | 24.1 | 21.9 | 23.1 | 24.3 | 15.8 |
| 利用による教育効果がない | | | | | | |
| よくあてはまる | 1.1 | 1.2 | 0.6 | 0.8 | 0.8 | 0.0 |
| ややあてはまる | 13.7 | 8.2 | 14.1 | 13.5 | 7.7 | 10.5 |
| あまりあてはまらない | 57.5 | 58.8 | 57.8 | 57.8 | 62.1 | 70.2 |
| まったくあてはまらない | 27.7 | 31.8 | 27.5 | 27.9 | 29.5 | 19.3 |
| 利用できる教材が不足している | | | | | | |
| よくあてはまる | 19.0 | 23.0 | 20.3 | 20.2 | 16.8 | 28.1 |
| ややあてはまる | 58.8 | 52.9 | 56.8 | 57.0 | 51.5 | 56.1 |
| あまりあてはまらない | 19.4 | 19.5 | 20.3 | 20.0 | 28.6 | 14.0 |
| まったくあてはまらない | 2.8 | 4.6 | 2.7 | 2.9 | 3.1 | 1.8 |
| 学生のメディア活用能力が低い | | | | | | |
| よくあてはまる | 2.5 | 2.4 | 3.4 | 3.1 | 4.3 | 1.8 |
| ややあてはまる | 26.1 | 22.4 | 32.7 | 30.0 | 40.2 | 19.3 |
| あまりあてはまらない | 55.6 | 65.9 | 55.9 | 56.6 | 46.8 | 66.7 |
| まったくあてはまらない | 15.8 | 9.4 | 8.0 | 10.3 | 8.7 | 12.3 |
| 事務職員が対応できない | | | | | | |
| よくあてはまる | 12.2 | 17.4 | 13.0 | 13.2 | 11.0 | 10.7 |
| ややあてはまる | 50.7 | 47.7 | 46.0 | 47.5 | 47.6 | 41.1 |
| あまりあてはまらない | 31.5 | 25.6 | 35.9 | 33.8 | 34.3 | 42.9 |
| まったくあてはまらない | 5.6 | 9.3 | 5.1 | 5.6 | 7.2 | 5.4 |
| 支援スタッフが不足している | | | | | | |
| よくあてはまる | 65.4 | 60.9 | 48.3 | 54.0 | 50.3 | 52.6 |
| ややあてはまる | 31.8 | 35.6 | 45.8 | 41.1 | 41.0 | 45.6 |
| あまりあてはまらない | 2.4 | 2.3 | 5.1 | 4.1 | 8.5 | 1.8 |
| まったくあてはまらない | 0.3 | 1.1 | 0.9 | 0.8 | 0.3 | 0.0 |
| 利用の準備に時間がかかる | | | | | | |
| よくあてはまる | 43.3 | 34.9 | 33.1 | 36.0 | 29.1 | 42.9 |
| ややあてはまる | 45.1 | 50.0 | 54.7 | 51.7 | 51.3 | 46.4 |
| あまりあてはまらない | 11.6 | 12.8 | 11.6 | 11.7 | 17.9 | 10.7 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 2.3 | 0.6 | 0.6 | 1.8 | 0.0 |
| 特定の者に負担がかかる | | | | | | |
| よくあてはまる | 66.8 | 52.9 | 49.2 | 54.3 | 54.2 | 64.9 |
| ややあてはまる | 31.1 | 39.1 | 44.6 | 40.4 | 38.9 | 35.1 |
| あまりあてはまらない | 2.1 | 5.7 | 5.3 | 4.5 | 5.6 | 0.0 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 2.3 | 0.9 | 0.8 | 1.3 | 0.0 |

する比率が高く、一般に財政規模の小さい短大では、マルチメディアを利用する際に、まずもって、導入と維持にかかる高額な費用が問題となることがわかる。

高専では、「特定の者に負担がかかる」(64.8%)、「利用の準備に時間がかかる」(42.9%)といった人的スタッフの不足の問題について障害を感じている比率が高い。

設置者別でみれば、国立大学においてコストがかかること(「機器設備の導入費用がかかる」、「機器設備の維持費用がかかる」、「機器設備の数が不十分」)や支援体制の欠如(「支援スタッフが不足している」、「特定の者に負担がかかる」、「利用の準備に時間がかかる」)を障害とする比率が高いことが注目される。一般に、国立大学の方が、施設設備や組織の充実がすすんでいるように思われがちだが、それとは逆の傾向が示されている。それ以外には、設置者別や学部別に大きな差異はない。

学部別(表5-7)にみれば、医歯薬保健系ではコスト面、人的スタッフの不足、教材の不足を障害とする比率が高い。また、「授業で利用する必要がない」について「よくあてはまる」と「あてはまる」とする比率がもっとも低い。すなわち、これらの学部、とくに医学系では人体構造や病理組織などの映像を教材とすることが多く、それが授業での必要性に対する回答となってあらわれているのであるが、それはまた、マルチメディアを利用することの必要性を認識しているからこそ、それに対する障害も大きくなることを示しているのである。

これと対照的なのが、芸術系である。ここでは、資金面での障害をあげる比率は、医歯薬保健系と同程度に高いが、それを障害としているのは医歯薬保健系とが逆に利用する必然性がないからである。なぜなら、「授業で利用する必要がない」において「よくあてはまる」と「あてはまる」の比率がもっとも高く、さらに「学生のメディア活用能力が低い」ことを障害としてあげる比率が高いからである。すなわち、学問上の性質よりマルチメディア利用の必要性がなく、したがって、学生の活用能力が低い。そうした状況のなかで、マルチメディア機器設備の費用負担感が大きくなっているのであろう。

これらの結果より、目的と障害との関係を推察すれば、当初より、IT利用による教育のコスト・ダウンは目的ではなかった。しかし、実際には予想以上のコストがかかり、それが障害となっていることがわかる。また、教員の負荷の減少を期待していたわけではなかったが、実際には、支援スタッフが不足し、利用しようとするれば特定の者に負担がかかり、かつ、利用の準備に時間がかかることが障害となっているのである。こうしてみると、ITの導入や維持にコストがかかること、利用にあたっての支援のシステムがないことが、ITの利用の促進を阻んでいると推測できる。

他方で、それでも利用が進むのは、新技術の応用によって、学生の動機づけが高まり、教育効果を上げることが期待され、そして実際にも教育効果は上がったとみなされているからだといえよう。

教育効果に関する目的と障害との関連について、大学学部のデータを用いて相関をみると(表5-8)、「教育の効果をあげるため」という目的と、「利用による教育効果がない」、「授業で利用する必要がない」という障害との間の相関係数はそれぞれ-.289、-.244とマイナスの相関がみられる。また、目的としての「新技術を教育へ応用するため」と、「利用による教育効果がない」、「授業で利用する必要がない」との間にはそれぞれ-.213、-.164と、さらに、

表5-7. マルチメディアや情報通信技術の利用の障害 (学部別)

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|----------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 機器設備の導入費用がかかる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 59.4 | 56.3 | 55.9 | 51.2 | 66.7 | 66.0 | 71.9 | 63.6 | 59.0 |
| ややあてはまる | 36.4 | 38.2 | 39.0 | 45.1 | 31.3 | 32.0 | 25.0 | 31.8 | 33.3 |
| あまりあてはまらない | 4.3 | 5.2 | 5.1 | 3.0 | 2.1 | 2.0 | 3.1 | 4.5 | 7.7 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 機器設備の数が不十分 | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 41.5 | 40.8 | 54.2 | 35.2 | 52.1 | 55.6 | 53.1 | 45.5 | 44.2 |
| ややあてはまる | 47.3 | 44.6 | 35.6 | 53.1 | 41.7 | 39.1 | 43.8 | 45.5 | 42.9 |
| あまりあてはまらない | 10.6 | 13.6 | 8.5 | 11.1 | 6.3 | 4.6 | 3.1 | 9.1 | 13.0 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 1.0 | 1.7 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 機器設備の維持費用がかかる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 52.1 | 44.6 | 50.8 | 43.6 | 56.3 | 59.9 | 54.8 | 54.5 | 50.0 |
| ややあてはまる | 42.0 | 41.8 | 44.1 | 43.6 | 33.3 | 34.2 | 41.9 | 40.9 | 44.9 |
| あまりあてはまらない | 5.9 | 13.6 | 5.1 | 12.3 | 10.4 | 5.3 | 3.2 | 4.5 | 5.1 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 教員のメディア活用能力が低い | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 19.3 | 16.7 | 22.4 | 12.2 | 16.7 | 11.8 | 15.6 | 18.2 | 14.3 |
| ややあてはまる | 64.7 | 65.6 | 56.9 | 49.4 | 47.9 | 51.0 | 59.4 | 68.2 | 49.4 |
| あまりあてはまらない | 15.0 | 16.0 | 20.7 | 35.4 | 35.4 | 35.3 | 25.0 | 13.6 | 31.2 |
| まったくあてはまらない | 1.1 | 1.7 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 5.2 |
| 授業で利用する必要がない | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 1.1 | 0.7 | 3.4 | 1.8 | 2.1 | 2.6 | 3.1 | 0.0 | 0.0 |
| ややあてはまる | 26.2 | 22.6 | 20.3 | 23.2 | 18.8 | 15.7 | 37.5 | 18.2 | 17.9 |
| あまりあてはまらない | 54.0 | 55.4 | 59.3 | 51.2 | 50.0 | 52.9 | 43.8 | 54.5 | 51.3 |
| まったくあてはまらない | 18.7 | 21.3 | 16.9 | 23.8 | 29.2 | 28.8 | 15.6 | 27.3 | 30.8 |
| 利用による教育効果がない | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 1.1 | 0.7 | 0.0 | 1.8 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ややあてはまる | 20.2 | 10.1 | 12.1 | 10.4 | 10.4 | 19.0 | 21.9 | 9.1 | 7.8 |
| あまりあてはまらない | 56.4 | 57.8 | 55.2 | 62.8 | 56.3 | 54.2 | 56.3 | 68.2 | 57.1 |
| まったくあてはまらない | 22.3 | 31.4 | 32.8 | 25.0 | 31.3 | 26.8 | 21.9 | 22.7 | 35.1 |
| 利用できる教材が不足している | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 15.5 | 24.0 | 20.7 | 17.8 | 18.8 | 23.5 | 15.6 | 13.6 | 20.8 |
| ややあてはまる | 60.4 | 54.2 | 56.9 | 64.4 | 60.4 | 54.9 | 50.0 | 54.5 | 48.1 |
| あまりあてはまらない | 21.4 | 18.4 | 20.7 | 14.1 | 18.8 | 20.3 | 34.4 | 27.3 | 26.0 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 3.5 | 1.7 | 3.7 | 2.1 | 1.3 | 0.0 | 4.5 | 5.2 |
| 学生のメディア活用能力が低い | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 6.4 | 2.4 | 6.9 | 0.6 | 2.1 | 3.3 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |
| ややあてはまる | 32.4 | 33.3 | 22.4 | 20.1 | 25.0 | 34.2 | 46.9 | 40.9 | 26.3 |
| あまりあてはまらない | 54.3 | 57.3 | 58.6 | 63.4 | 52.1 | 54.6 | 50.0 | 50.0 | 53.9 |
| まったくあてはまらない | 6.9 | 6.9 | 12.1 | 15.9 | 20.8 | 7.9 | 3.1 | 9.1 | 18.4 |
| 事務職員が対応できない | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 12.3 | 13.3 | 13.6 | 10.4 | 8.3 | 18.3 | 15.6 | 13.6 | 10.4 |
| ややあてはまる | 44.9 | 41.6 | 52.5 | 49.7 | 50.0 | 51.6 | 43.8 | 54.5 | 55.8 |
| あまりあてはまらない | 35.3 | 40.2 | 25.4 | 35.0 | 33.3 | 27.5 | 40.6 | 31.8 | 23.4 |
| まったくあてはまらない | 7.5 | 4.9 | 8.5 | 4.9 | 8.3 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 10.4 |
| 支援スタッフが不足している | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 52.1 | 49.7 | 59.3 | 53.7 | 56.3 | 62.7 | 46.9 | 50.0 | 59.0 |
| ややあてはまる | 41.5 | 44.8 | 40.7 | 40.9 | 43.8 | 34.6 | 50.0 | 36.4 | 33.3 |
| あまりあてはまらない | 5.9 | 5.6 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 2.0 | 3.1 | 13.6 | 6.4 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | .0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |
| 利用の準備に時間がかかる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 35.3 | 40.4 | 32.8 | 37.8 | 43.8 | 31.6 | 18.8 | 27.3 | 39.0 |
| ややあてはまる | 53.5 | 46.3 | 56.9 | 50.6 | 45.8 | 61.2 | 71.9 | 59.1 | 40.3 |
| あまりあてはまらない | 10.7 | 13.2 | 10.3 | 11.0 | 10.4 | 7.2 | 9.4 | 13.6 | 15.6 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.2 |
| 特定の者に負担がかかる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 54.3 | 54.2 | 67.8 | 53.7 | 56.3 | 52.9 | 50.0 | 45.5 | 55.1 |
| ややあてはまる | 41.0 | 39.2 | 30.5 | 41.5 | 43.8 | 43.8 | 43.8 | 45.5 | 33.3 |
| あまりあてはまらない | 4.3 | 6.6 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 3.3 | 6.3 | 9.1 | 6.4 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.1 |

「学生の動機づけを高めるため」と、「利用による教育効果がない」、「授業で利用する必要がない」との間にもそれぞれ－.200、－.156とマイナスの相関がみられる。これらは、目的と障害との間でもっとも強い相関であり、教育効果を目的としてITを利用する場合は、実際に利用してその効果や必要性があると認識されていることがわかる。

新技術を応用し、学生の動機づけを高め、教育効果をあげるとされて利用されるITは、実際に利用されて効果があるとみなされているのである。わが国の場合、コストの点での障害はあるものの、それにも関わらずこうした教育的意義に導かれて利用が促進されるということができよう。

表5－8. マルチメディアや情報通信技術の利用目的と障害との相関
(%)

| | 授業で利用する 必要がない | 利用による 教育効果がない |
|---------------|------------------|------------------|
| 教育効果を上げるため | －0.244 | －0.298 |
| 新技術を教育へ応用するため | －0.164 | －0.213 |
| 学生の動機づけを高めるため | －0.156 | －0.200 |

注) Kendallのタウによる相関係数。すべて $p < 0.01$

5－3. 雰囲気

マルチメディアや情報通信技術の導入にあたって、機関の雰囲気はどのようなものだろう。教員、事務職員、学生、また教員のなかでも管理運営層と一般の教員とではどのように異なるのだろう。マルチメディアやITは、どちらかといえば、これまでの高等教育の世界ではごく一部に限定されて利用されてきており、機関全体の問題ではなかった。しかし、急速にIT化が進み高等教育もそれらと無縁でいられなくなりつつある現在、高等教育に身を置く人々は、どのような受け止め方をしているのだろう。こうした雰囲気といったものが、案外、学内でのマルチメディアの利用に影響力をもっているのではないだろうか。

表5－9にみるように、「全体として積極的」の比率の高い順に並べれば、大学院生(42.2%)、学部・学科学生(38.2%)、本部の管理層(31.9%)、事務職員(26.5%)、教員(22.9%)となる。学生がもっとも積極的であることは明白である。障害の項目でもみたように、「学生のメディア活用能力が低い」とする比率は低く、若い世代は各種のマルチメディアに抵抗なくなじんでいっている状況がうかがえる。

それに対し、教員は全体としては積極的ではないが、「一部が積極的」では逆にもっとも高くなっており(65.4%)、教員間でマルチメディアに対する温度差が大きいことがわかる。それは教員の専門領域とも関連するであろうが、積極的に取り入れ様々な試みをしていく教員とそれなしで教育・研究をすませている教員とに分化している状況がうかがえる。

ただし、導入や利用に「一部が消極的」、「全体として消極的」とする比率は、どのカテゴリーの人々でも低く、わが国の高等教育がマルチメディアを無縁とはしていない、あるいは、無縁としてはしてられないことをよくあらわしている。

機関の種別や設置者別にみると、高専において管理運営層から学生まで、「全体として積極的」の比率が低く、「一部が積極的」が高いことが他と異なっている。高専の性格上、マルチメディアともっとも関わりの深い機関のような印象をうけるが、この調査結果から見るかぎり、それが機関内の一部の人々に限定されたものであるようだ。

表 5－9．マルチメディアや情報通信技術の利用に関する雰囲気（総計）（％）

| | 全体として積極的 | 一部が積極的 | 一部が消極的 | 全体として消極的 |
|---------|----------|--------|--------|----------|
| 本部の管理層 | 31.9 | 49.5 | 9.5 | 9.2 |
| 教 員 | 22.9 | 65.4 | 8.3 | 3.4 |
| 事務職員 | 26.5 | 55.9 | 10.9 | 6.7 |
| 学部・学科学生 | 38.2 | 52.2 | 4.8 | 4.8 |

設置者別では、国立で本部の管理層と事務職員が「全体として積極的」とする比率が高く、学生と大学院生については公立で「全体として積極的」とする比率が高い（表 5－10）。

4 年制大学の学部別（表 5－11）では、人文系、社会科学系、教育学系では本部の管理層においては「全体として積極的」とする比率が高いが、教員においては「一部が積極的」とする比率が高い。それに対し、理工学系、農学系、医歯薬保健系では、本部の管理層も比較的「全体として積極的」とする比率が高いが、それにも増して教員において「全体が積極的」とする比率が高い。すなわち、少なくとも教員が押し並べてマルチメディアや情報通信技術の導入や利用に関して積極的である理系と、一部の教員が積極的である文系とに分化していることがわかる。

また、芸術系に特徴として、本部の管理層から教員、事務職員、大学院生、学生に至まで「全体として積極的」とする比率の低いことが指摘できる。そして芸術系では、本部の管理層から事務職員、大学院生や学生に至るまで、「一部が消極的」、「全体として消極的」が多いことも指摘することができる。

表5-10. マルチメディアや情報通信技術の利用に関する雰囲気（機関の種別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|----------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 本部の管理層 | | | | | | |
| 全体として積極的 | 41.8 | 30.5 | 30.8 | 33.7 | 28.0 | 30.4 |
| 一部が積極的 | 46.2 | 48.8 | 51.2 | 49.7 | 47.0 | 58.9 |
| 一部が消極的 | 6.9 | 13.4 | 10.3 | 9.6 | 9.5 | 7.1 |
| 全体として消極的 | 5.1 | 7.3 | 7.7 | 7.0 | 15.4 | 3.6 |
| 教 員 | | | | | | |
| 全体として積極的 | 28.9 | 30.2 | 21.3 | 24.1 | 21.3 | 15.8 |
| 一部が積極的 | 62.7 | 60.5 | 66.2 | 64.8 | 64.6 | 78.9 |
| 一部が消極的 | 5.6 | 7.0 | 10.6 | 8.9 | 7.6 | 3.5 |
| 全体として消極的 | 2.8 | 2.3 | 1.9 | 2.2 | 6.6 | 1.8 |
| 事務職員 | | | | | | |
| 全体として積極的 | 30.1 | 23.2 | 26.8 | 27.4 | 26.0 | 17.9 |
| 一部が積極的 | 55.2 | 59.8 | 55.4 | 55.7 | 54.5 | 67.9 |
| 一部が消極的 | 8.7 | 11.0 | 12.2 | 11.2 | 10.9 | 5.4 |
| 全体として消極的 | 5.9 | 6.1 | 5.6 | 5.7 | 8.7 | 8.9 |
| 学部・学科学生 | | | | | | |
| 全体として積極的 | 41.2 | 55.3 | 37.4 | 39.9 | 36.3 | 21.1 |
| 一部が積極的 | 52.0 | 37.6 | 54.0 | 52.1 | 50.5 | 68.4 |
| 一部が消極的 | 2.9 | 4.7 | 4.9 | 4.3 | 6.1 | 3.5 |
| 全体として消極的 | 4.0 | 2.4 | 3.8 | 3.7 | 7.1 | 7.0 |
| 大学院生 | | | | | | |
| 全体として積極的 | 43.9 | 53.1 | 40.0 | 42.2 | | |
| 一部が積極的 | 48.8 | 37.5 | 50.8 | 49.1 | | |
| 一部が消極的 | 3.2 | 4.7 | 3.5 | 3.5 | | |
| 全体として消極的 | 4.2 | 4.7 | 5.8 | 5.2 | | |

表5-11. マルチメディアや情報通信技術の利用に関する雰囲気 (学部別) (%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | その他 |
|----------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|
| 本部の管理層 | | | | | | | | |
| 全体として積極的 | 28.1 | 36.7 | 43.6 | 35.0 | 34.7 | 32.2 | 21.9 | 33.3 |
| 一部が積極的 | 54.6 | 48.2 | 41.8 | 49.1 | 44.9 | 50.0 | 56.3 | 46.7 |
| 一部が消極的 | 9.7 | 8.3 | 7.3 | 10.4 | 12.2 | 8.2 | 15.6 | 13.3 |
| 全体として消極的 | 7.6 | 6.8 | 7.3 | 5.5 | 8.2 | 9.6 | 6.3 | 6.7 |
| 教 員 | | | | | | | | |
| 全体として積極的 | 16.0 | 20.5 | 10.3 | 34.3 | 32.7 | 31.4 | 6.3 | 32.9 |
| 一部が積極的 | 71.1 | 69.1 | 72.4 | 57.2 | 57.1 | 58.2 | 81.3 | 55.3 |
| 一部が消極的 | 11.2 | 8.7 | 13.8 | 6.6 | 8.2 | 6.5 | 12.5 | 9.2 |
| 全体として消極的 | 1.6 | 1.7 | 3.4 | 1.8 | 2.0 | 3.9 | 0.0 | 2.6 |
| 事務職員 | | | | | | | | |
| 全体として積極的 | 32.4 | 31.0 | 27.6 | 26.7 | 26.5 | 19.2 | 21.9 | 28.0 |
| 一部が積極的 | 52.7 | 55.3 | 56.9 | 58.2 | 61.2 | 57.6 | 53.1 | 45.3 |
| 一部が消極的 | 9.9 | 9.2 | 10.3 | 9.7 | 10.2 | 14.6 | 12.5 | 20.0 |
| 全体として消極的 | 4.9 | 4.6 | 5.2 | 5.5 | 2.0 | 8.6 | 12.5 | 6.7 |
| 学部・学科学生 | | | | | | | | |
| 全体として積極的 | 36.8 | 39.4 | 37.9 | 48.1 | 39.6 | 36.8 | 29.0 | 43.7 |
| 一部が積極的 | 52.4 | 56.6 | 51.7 | 45.7 | 50.0 | 50.0 | 61.3 | 50.7 |
| 一部が消極的 | 5.4 | 2.2 | 8.6 | 5.6 | 6.3 | 4.6 | 0.0 | 2.8 |
| 全体として消極的 | 5.4 | 1.8 | 1.7 | 0.6 | 4.2 | 8.6 | 9.7 | 2.8 |
| 大学院生 | | | | | | | | |
| 全体として積極的 | 39.9 | 39.8 | 38.6 | 56.5 | 45.8 | 34.1 | 20.8 | 50.8 |
| 一部が積極的 | 52.4 | 51.6 | 54.4 | 38.3 | 43.8 | 55.1 | 58.3 | 39.0 |
| 一部が消極的 | 3.5 | 2.7 | 5.3 | 2.6 | 6.3 | 2.9 | 4.2 | 3.4 |
| 全体として消極的 | 4.2 | 5.9 | 1.8 | 2.6 | 4.2 | 8.0 | 16.7 | 6.8 |

6. マルチメディア利用の支援体制

マルチメディア利用の目的や障害から浮かび上がってくるのは、それらを教育に利用しようとするば、支援体制の未整備がネックになるという構図である。これは、インストラクショナル・デザイナーなどのITと教育に関するスペシャリストが学内組織に位置づけられていないという、わが国の高等教育の組織構造の問題に由来するものであり、インフラの整備が進むほどこの問題は大きくなる可能性がある。また、インフラが整備された状況においては、それを機関としてどのように利用していくか学内の方針を決定することが重要になってくる。

そこで、全学的にマルチメディアの利用の問題を扱う委員会の有無や、そこでどのような議論がなされているかについてみるとともに、学内にマルチメディアの利用促進のための支援センターの設置の有無とその構成についてきいた。この質問は、大学に関しては本部に送付した調査票においてのみきいているため、学部別の傾向をみることができないことを注記しておく。

6-1. 全学的な委員会組織

まず、機関として全学レベルの委員会を設けている機関は全体で56.9%、設置を予定している機関の10.0%とあわせれば、70%弱が委員会組織でもって学内の方針を決定する仕組みをもっている。

また、委員会の構成人数は、6～10人がもっとも多く、全体の26.2%占めている。これを委員会を設けている機関のうちの比率に直せば、約半数にあたる47.5%が6～10人の規模の委員会を設けていることになる。

表6-1. マルチメディアや情報通信技術の利用に関する全学委員会

(総計・機関の種別・設置者別)

(%)

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 設置している | 68.8 | 62.8 | 61.2 | 62.7 | 49.9 | 62.5 | 56.9 |
| 設置を予定してる | 10.4 | 7.0 | 12.1 | 11.3 | 8.6 | 10.7 | 10.0 |
| 設置する予定はない | 20.8 | 30.2 | 26.7 | 26.0 | 41.5 | 26.8 | 33.1 |

委員会そのものを設けている機関の種別をみれば、短大で49.9%と他に比べて低く、また、短大では設置する予定はないとする比率が41.5%と高い。すなわち比較的小規模であり、全体としてマルチメディアの利用が活発とはいいがたい短大ではこの種の委員会を設置する必要性が4年制大学や高専と比較して低いのであろう。

委員会の人数については、4年制大学、短大、高専の間では差がないが、設置者別では、国立は6～10人、11～15人、16～20人のカテゴリーにおいて比較的均等に分布しているのに対し、公立や私立では6～10人に集中している。これはひとえに、国立大学が公立大学や私立大学に比較して大規模であることによるものであろう。

次にこれらの委員会において、どのような内容が審議されているかをみることにしよう（表6－2）。「よく審議される」ことがらは、「ネットワーク・セキュリティの問題」（18.1%）、「機器・設備の選定」（19.1%）であり、「知的所有権処理の問題」（2.2%）、「マルチメディア利用に関するファカルティ・ディベロップメント」（2.3%）、「マルチメディアの遠隔教育利用の問題」（2.7%）、「マルチメディア関連のカリキュラムの問題」（5.4%）など、実際の利用方針をめぐる問題は十分に審議されていない。

表6－2．全学委員会の審議内容（総計）

(%)

| | よく審議する | ときどき審議する | あまり審議しない | ほとんど審議しない |
|-------------------------------|--------|----------|----------|-----------|
| マルチメディア関連カリキュラムの問題 | 5.4 | 19.2 | 14.1 | 16.0 |
| マルチメディア支援センターの構築・改革 | 6.8 | 18.2 | 13.3 | 16.2 |
| マルチメディア利用の将来計画の策定 | 10.2 | 27.2 | 9.6 | 8.0 |
| ネットワーク・セキュリティの問題 | 18.1 | 27.4 | 5.8 | 4.1 |
| マルチメディア利用に関するファカルティ・ディベロップメント | 2.3 | 15.4 | 18.2 | 18.6 |
| マルチメディアの遠隔教育の利用の問題 | 2.7 | 14.8 | 14.1 | 23.0 |
| 知的所有権処理の問題 | 2.2 | 18.7 | 17.4 | 16.2 |

ある程度全学的な方針の決定や今後の方向性を左右する委員会組織であるが、そこで問題とされているのは機器設備などハードの側面に傾斜し、それを教育にどのように利用していくのかなどのソフトな側面については十分に検討されるに至っていないことが示されている。

表6－3のように、機関の種別でみれば、「ネットワーク・セキュリティの問題」、「機器・設備の選定」などよく審議される項目については、高専の比率が大学や短大に比較して低くなっている。それ以外の項目についての機関の種別による差異は、さほど大きくはない。

設置者別にみると、「マルチメディアの遠隔教育利用の問題」について国立で審議される比率が多くなっているほかは、どの項目についても違いはほとんどない。

6－2．支援センターの設置

表6－4にみるように、マルチメディアや情報通信技術の利用促進のための支援センターを設置している機関は全体で41.9%、設置を予定している機関が10.1%であり、約半数が支援センターを設置することになる。その支援センターの施設が、全学付属の施設である場合が90%である。

これを機関の種別や設置者別にみれば、支援センターを設置している比率は短大で低く25.9%であり、4年制大学で54.9%と高い。さらに、4年制大学のうちでは、国立で62.8%、公立で39.5%、私立で55.0%と国立でやや設置率が高い。その施設の所属をみれば、ほぼすべてが全学付属の施設となっている。強いていえば、4年制大学では、部局付属の施設やそれ以外の施設が多くなっている。

表6-3. 全学委員会の審議内容（機関の種別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|-------------------------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 機器・設備の選定 | | | | | | |
| よく審議する | 17.9 | 16.3 | 20.9 | 19.9 | 18.6 | 17.5 |
| ときどき審議する | 33.3 | 25.6 | 28.8 | 29.3 | 20.8 | 31.6 |
| あまり審議しない | 7.7 | 14.0 | 6.4 | 7.4 | 4.7 | 3.5 |
| ほとんど審議しない | 6.4 | 4.7 | 4.3 | 4.7 | 3.5 | 8.8 |
| マルチメディア関連カリキュラムの問題 | | | | | | |
| よく審議する | 7.7 | 2.3 | 5.8 | 5.8 | 5.5 | 1.8 |
| ときどき審議する | 24.4 | 11.6 | 22.1 | 21.5 | 16.6 | 19.3 |
| あまり審議しない | 15.4 | 16.3 | 16.0 | 15.9 | 12.4 | 12.3 |
| ほとんど審議しない | 16.7 | 30.2 | 15.3 | 17.0 | 13.4 | 28.1 |
| マルチメディア支援センターの構築・改革 | | | | | | |
| よく審議する | 11.5 | 0.0 | 9.2 | 8.7 | 4.2 | 10.5 |
| ときどき審議する | 25.6 | 25.6 | 21.2 | 22.4 | 14.4 | 12.3 |
| あまり審議しない | 12.8 | 11.6 | 16.3 | 15.2 | 12.2 | 5.3 |
| ほとんど審議しない | 14.1 | 23.3 | 12.3 | 13.6 | 16.9 | 33.3 |
| マルチメディア利用の将来計画の策定 | | | | | | |
| よく審議する | 19.2 | 2.3 | 11.7 | 12.1 | 9.4 | 1.8 |
| ときどき審議する | 32.1 | 20.9 | 33.4 | 32.0 | 20.1 | 38.6 |
| あまり審議しない | 7.7 | 20.9 | 9.8 | 10.5 | 8.7 | 10.5 |
| ほとんど審議しない | 6.4 | 16.3 | 4.9 | 6.3 | 9.7 | 10.5 |
| ネットワーク・セキュリティの問題 | | | | | | |
| よく審議する | 28.2 | 20.9 | 18.1 | 20.1 | 15.4 | 22.8 |
| ときどき審議する | 26.9 | 30.2 | 32.5 | 31.3 | 23.8 | 22.8 |
| あまり審議しない | 6.4 | 4.7 | 5.5 | 5.6 | 6.0 | 5.3 |
| ほとんど審議しない | 5.1 | 4.7 | 4.0 | 4.3 | 3.0 | 10.5 |
| マルチメディア利用に関するファカルティ・ディベロップメント | | | | | | |
| よく審議する | 6.4 | 0.0 | 2.5 | 2.9 | 1.7 | 1.8 |
| ときどき審議する | 19.2 | 18.6 | 19.6 | 19.5 | 12.2 | 8.8 |
| あまり審議しない | 19.2 | 7.0 | 20.6 | 19.0 | 16.6 | 24.6 |
| ほとんど審議しない | 19.2 | 34.9 | 16.3 | 18.6 | 17.4 | 26.3 |
| マルチメディアの遠隔教育の利用の問題 | | | | | | |
| よく審議する | 11.5 | 4.7 | 2.1 | 4.0 | 1.2 | 3.5 |
| ときどき審議する | 29.5 | 16.3 | 17.5 | 19.5 | 9.7 | 15.8 |
| あまり審議しない | 11.5 | 16.3 | 17.8 | 16.6 | 11.2 | 14.0 |
| ほとんど審議しない | 11.5 | 23.3 | 21.8 | 20.1 | 25.8 | 28.1 |
| 知的所有権処理の問題 | | | | | | |
| よく審議する | 3.8 | 0.0 | 2.5 | 2.5 | 2.0 | 1.8 |
| ときどき審議する | 21.8 | 11.6 | 23.0 | 21.7 | 16.9 | 10.5 |
| あまり審議しない | 21.8 | 16.3 | 20.9 | 20.6 | 13.4 | 21.1 |
| ほとんど審議しない | 15.4 | 32.6 | 13.2 | 15.4 | 15.4 | 28.1 |

表6－4．マルチメディア利用の支援センターの設置率（総計・機関の種別・設置者別）

（％）

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 設置している | 62.8 | 39.5 | 55.0 | 54.9 | 25.9 | 46.4 | 41.6 |
| 設置を予定している | 14.1 | 4.7 | 10.6 | 10.7 | 9.3 | 12.5 | 10.1 |
| 設置する予定はない | 23.1 | 55.8 | 34.4 | 34.5 | 64.8 | 41.1 | 48.3 |

この比率をみるかぎり、多くの大学がマルチメディアやITの利用促進のための支援センターを設置しているが、それにも関わらず、障害の項目では、支援スタッフの不足や特定の者への負荷が問題となっていた。そこで、支援センターがどのような活動をしているのかをみると（表6－5）、「積極的に行っている」のは「ネットワークの管理」（28.4％）のみといってもよく、「マルチメディア機器の利用相談」（8.1％）、「マルチメディア機器の利用方法の講習」（5.8％）、「マルチメディア教材の制作ならびにその支援」（4.4％）など機器の使い方の講習や教材制作の支援といったサービスがあまり行われていないことに、障害が生じる原因があると考えられる。

表6－5．支援センターの活動内容（総計）

（％）

| | 積極的に行っている | 行っている | あまり行っていない | まったく行っていない |
|----------------------|-----------|-------|-----------|------------|
| マルチメディア機器の利用方法の講習 | 5.8 | 18.2 | 10.8 | 5.9 |
| コンピュータ・プログラミング講習 | 2.4 | 9.1 | 10.3 | 18.4 |
| データベース・サービス | 3.4 | 10.7 | 12.4 | 13.5 |
| ネットワークの管理 | 28.4 | 10.5 | 1.0 | 1.1 |
| マルチメディア教材の制作ならびにその支援 | 4.4 | 12.7 | 14.3 | 8.8 |
| マルチメディア機器の利用相談 | 8.1 | 22.8 | 6.9 | 2.6 |

これを機関の種別や設置者別にみれば（表6－6）、機関の種別による差異は大きくない。さらに、設置者別の違いも大きくはなく、わが国の高等教育が設置しているマルチメディアの支援センターの果たしている機能がどこでも同じようなものであることがわかる。

表6-6. 支援センターの活動内容（機関の種別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|----------------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| マルチメディア機器の利用方法の講習 | | | | | | |
| 積極的に行っている | 7.7 | 2.3 | 8.0 | 7.4 | 4.5 | 3.5 |
| 行っている | 32.1 | 16.3 | 24.8 | 25.3 | 11.4 | 10.5 |
| あまり行っていない | 11.5 | 14.0 | 14.1 | 13.6 | 6.0 | 21.1 |
| まったく行っていない | 11.5 | 7.0 | 6.7 | 7.6 | 3.5 | 10.5 |
| コンピュータ・プログラミング講習 | | | | | | |
| 積極的に行っている | 6.4 | 0.0 | 2.5 | 2.9 | 1.0 | 8.8 |
| 行っている | 19.2 | 14.0 | 10.7 | 12.5 | 4.5 | 14.0 |
| あまり行っていない | 20.5 | 4.7 | 13.5 | 13.9 | 5.7 | 14.0 |
| まったく行っていない | 16.7 | 20.9 | 26.1 | 23.9 | 13.6 | 8.8 |
| データベース・サービス | | | | | | |
| 積極的に行っている | 7.7 | 0.0 | 5.2 | 5.1 | 1.7 | 1.8 |
| 行っている | 11.5 | 16.3 | 17.5 | 16.3 | 4.7 | 8.8 |
| あまり行っていない | 17.9 | 4.7 | 15.0 | 14.5 | 8.7 | 22.8 |
| まったく行っていない | 24.4 | 16.3 | 15.3 | 17.0 | 9.4 | 12.3 |
| ネットワークの管理 | | | | | | |
| 積極的に行っている | 47.4 | 20.9 | 37.4 | 37.6 | 16.9 | 38.6 |
| 行っている | 11.5 | 16.3 | 13.5 | 13.4 | 7.4 | 7.0 |
| あまり行っていない | 2.6 | 2.3 | 1.5 | 1.8 | 0.2 | 0.0 |
| まったく行っていない | 1.3 | 0.0 | 1.5 | 1.3 | 1.0 | 0.0 |
| マルチメディア教材の制作ならびにその支援 | | | | | | |
| 積極的に行っている | 5.1 | 2.3 | 7.1 | 6.3 | 2.7 | 1.8 |
| 行っている | 23.1 | 7.0 | 17.2 | 17.2 | 7.7 | 10.5 |
| あまり行っていない | 20.5 | 16.3 | 19.0 | 19.0 | 9.2 | 15.8 |
| まったく行っていない | 14.1 | 14.0 | 9.2 | 10.5 | 5.5 | 17.5 |
| マルチメディア機器の利用相談 | | | | | | |
| 積極的に行っている | 9.0 | 7.0 | 11.3 | 10.5 | 6.2 | 3.5 |
| 行っている | 33.3 | 16.3 | 32.5 | 31.1 | 14.1 | 17.5 |
| あまり行っていない | 16.7 | 11.6 | 7.4 | 9.4 | 2.5 | 17.5 |
| まったく行っていない | 3.8 | 4.7 | 2.1 | 2.7 | 2.0 | 7.0 |

7. マルチメディア利用に関する教育・研修

7-1. マルチメディア利用のための教育・研修

近年になって高等教育に浸透してきたマルチメディアやITは、それを一部の専門家の手にゆだねればよいという状況ではなく、誰もが利用できて当然だとする状況を生み出しつつある。したがって、機器設備の導入、支援センターの設置の後には、それを誰もが利用できるようにするための研修の必要性が生じてくる。支援センターなどの恒常的な組織の業務としてではなくとも、アド・ホックな形態での教育や研修として行うことが可能である。

それでは、ITの利用に関する教育や研修を行っている機関は、どの程度あるのかを教員、事務職員、TA・RA、大学院生、学部学生それぞれについてみると（表7-1）、教員に対して「充分に行っている」とするのは1.8%にすぎず、事務職員に対しても「充分に行っている」比率は3.5%に過ぎない。これらに比較すれば学部学生に対して「充分に行っている」比率は高いが、それでも18.1%である。学部学生に対しては、「ある程度行っている」が63.2%であるため、約80%強の高等教育機関が何らかの教育・研修を行っているといえることができる。しかし、教員や事務職員に対しては、「行っていない」が半数近くを占めており、教職員のマルチメディアの利用に関する教育・研修はあまり行われてはいない。

だが、先にみたように、メディア・リテラシーの点でいえば、学生より教職員の方が問題を抱えていたが、それにもかかわらず、実際はそれに対するケアはなされていないのである。もっとも必要とされる教員に対して十分な教育・研修を行っていないことも、メディア利用の障害に関して、「支援スタッフが不足している」、「特定の者に負担がかかる」といった問題を生ぜしめる一因となっていると考えられる。

これを、機関の種別と設置者別にみると、教員への教育・研修の頻度については、ほとんど差がみられない。事務職員については、短大において「行っていない」が48.8%と約半数にのぼり他に比較して高い比率である。また、TA・RAや学部学生についても短大で「行っていない」とする比率が高い。TA・RAについては、短大ではそうした制度を持っていない場合が多いことによるのであろうが、おおむね短大では、十分な教育・研修を行う体制が整備されていないとみてよいだろう。

4年制大学のうちでは、国立で事務職員、TA・RA、大学院生に対して教育・研修を「行っていない」とする比率が低く、ここから、国立大学では比較的教育・研修が行われているとみることができよう。

学部別では、理工学系では、TA・RA、大学院生、学部学生に対して「充分行っている」、「行っている」を合わせた比率が高い。それと対照的なのは、芸術系と家政系であり、これらでは、教員や事務職員に対して「行っている」とする比率が高いことが特徴である。

また、インターネットの利用に関する教育・研修については、教員や事務職員については、「全員に行っている」とする比率は高くはないが（教員8.8%、事務職員15.3%）、「希望者に行っている」を含めれば教員で44.7%、事務職員で48.0%になる。「一部に行っている」についても20%程度に達しており、全体として60~70%が何らかの教育・研修を行っていることがわかる。

表 7-1. マルチメディア利用のための教育・研修（総計・機関の種別・設置者別）
(%)

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 教 員 | | | | | | | |
| 充分に行っている | 3.1 | 2.4 | 1.4 | 1.9 | 0.8 | 1.8 | 1.8 |
| ある程度行っている | 47.0 | 53.6 | 50.8 | 50.0 | 49.9 | 55.4 | 50.9 |
| 行っていない | 49.8 | 44.0 | 47.8 | 48.1 | 49.4 | 42.9 | 47.3 |
| 事務職員 | | | | | | | |
| 充分に行っている | 4.6 | 1.2 | 4.2 | 4.1 | 2.3 | 3.6 | 3.5 |
| ある程度行っている | 61.3 | 53.6 | 56.3 | 57.4 | 48.8 | 57.1 | 55.7 |
| 行っていない | 34.2 | 45.2 | 39.5 | 38.5 | 48.8 | 39.3 | 40.8 |
| TA・RA | | | | | | | |
| 充分に行っている | 7.4 | 7.2 | 5.7 | 6.3 | 2.9 | 0.0 | 5.1 |
| ある程度行っている | 46.5 | 40.6 | 33.0 | 37.7 | 20.1 | 24.3 | 32.5 |
| 行っていない | 46.1 | 52.2 | 61.3 | 55.9 | 77.0 | 75.7 | 62.4 |
| 学部学生 | | | | | | | |
| 充分に行っている | 16.2 | 23.5 | 15.7 | 16.5 | 23.5 | 16.1 | 18.1 |
| ある程度行っている | 67.2 | 64.7 | 66.9 | 66.8 | 52.2 | 62.5 | 63.2 |
| 行っていない | 16.6 | 11.8 | 17.5 | 16.8 | 24.3 | 21.4 | 18.7 |
| 大学院生 | | | | | | | |
| 充分に行っている | 10.2 | 6.0 | 7.5 | 8.3 | | | |
| ある程度行っている | 62.7 | 56.7 | 51.5 | 55.5 | | | |
| 行っていない | 27.1 | 37.3 | 40.9 | 36.2 | | | |

マルチメディア利用のための教育研修と比較するとかなり高い比率である。先にみたように、インターネットはほぼすべての機関で導入され、ほとんどの者がそれを利用できる環境があるなかでは、教員や事務職員にも、利用のための教育・研修を行わざるを得ないのであろう。また、学生に対する教育・研修では、43.9%の機関が「全員に行っている」としており、「希望者に行っている」(26.9%)、「一部に行っている」(14.5%)を加えて、約75%が行っていることになる。その比率の高さは、教員や事務職員をはるかに超えており、インターネット利用に関しては、学生への何らかの配慮はなされているものとみることができる。ただし、大学院生になると、「希望者に行っている」が32.8%あるが、「全員に行っている」(14.2%)、「一部に行っている」(13.3%)もさほど多くはない。これはすでに、学部学生の段階で教育・研修を受けていることによるものだろう。

表7-2. マルチメディア利用のための教育・研修 (学部別) (%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 教 員 | | | | | | | | | |
| 充分に行っている | 1.1 | 1.8 | 1.7 | 4.3 | 4.1 | 0.7 | 3.1 | 0.0 | 1.3 |
| ある程度行っている | 48.4 | 48.4 | 50.8 | 49.1 | 51.0 | 60.3 | 37.5 | 45.5 | 48.1 |
| 行っていない | 50.5 | 49.8 | 47.5 | 46.6 | 44.9 | 39.1 | 59.4 | 54.5 | 50.6 |
| 事務職員 | | | | | | | | | |
| 充分に行っている | 2.7 | 5.7 | 5.1 | 6.7 | 4.2 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 2.6 |
| ある程度行っている | 62.3 | 56.3 | 62.7 | 60.1 | 56.3 | 53.3 | 46.9 | 50.0 | 57.1 |
| 行っていない | 35.0 | 38.0 | 32.2 | 33.1 | 39.6 | 44.7 | 53.1 | 50.0 | 40.3 |
| TA・RA | | | | | | | | | |
| 充分に行っている | 4.7 | 5.3 | 10.7 | 8.7 | 4.2 | 2.9 | 4.8 | 4.8 | 14.9 |
| ある程度行っている | 30.7 | 34.1 | 32.1 | 52.2 | 47.9 | 41.9 | 23.8 | 23.8 | 29.9 |
| 行っていない | 64.7 | 60.6 | 57.1 | 39.1 | 47.9 | 55.1 | 71.4 | 71.4 | 55.2 |
| 大学院生 | | | | | | | | | |
| 充分に行っている | 5.5 | 6.3 | 8.9 | 14.2 | 4.1 | 7.1 | 8.3 | 5.6 | 15.3 |
| ある程度行っている | 53.4 | 50.9 | 62.5 | 63.9 | 57.1 | 55.0 | 50.0 | 44.4 | 57.6 |
| 行っていない | 41.1 | 42.9 | 28.6 | 21.9 | 38.8 | 37.9 | 41.7 | 50.0 | 27.1 |
| 学部学生 | | | | | | | | | |
| 充分に行っている | 12.1 | 18.1 | 17.2 | 19.1 | 8.5 | 13.2 | 6.5 | 13.6 | 31.0 |
| ある程度行っている | 72.0 | 64.1 | 63.8 | 68.2 | 59.6 | 70.4 | 71.0 | 63.6 | 60.6 |
| 行っていない | 15.9 | 17.8 | 19.0 | 12.7 | 31.9 | 16.4 | 22.6 | 22.7 | 8.5 |

表7-3. インターネット利用のための教育・研修（総計・機関の種別・設置者別）

（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 教員に | | | | | | | |
| 全員に行っている | 4.5 | 6.9 | 10.5 | 8.6 | 8.2 | 15.8 | 8.8 |
| 希望者に行っている | 28.7 | 40.2 | 40.7 | 37.4 | 33.0 | 26.3 | 35.9 |
| 一部に行っている | 20.8 | 16.1 | 17.8 | 18.5 | 17.4 | 31.6 | 18.8 |
| 行っていない | 39.4 | 34.5 | 27.0 | 31.0 | 37.0 | 26.3 | 32.3 |
| 事務職員に | | | | | | | |
| 全員に行っている | 11.8 | 9.2 | 20.3 | 17.0 | 9.9 | 22.8 | 15.3 |
| 希望者に行っている | 34.6 | 34.5 | 32.3 | 33.1 | 31.5 | 28.1 | 32.7 |
| 一部に行っている | 20.8 | 20.7 | 18.2 | 19.1 | 19.9 | 26.3 | 19.6 |
| 行っていない | 27.0 | 29.9 | 24.1 | 25.4 | 34.5 | 22.8 | 27.6 |
| 学部学生に | | | | | | | |
| 全員に行っている | 46.0 | 54.0 | 41.6 | 43.9 | 40.9 | 63.2 | 43.9 |
| 希望者に行っている | 21.1 | 21.8 | 32.4 | 28.4 | 24.8 | 10.5 | 26.9 |
| 一部に行っている | 16.6 | 11.5 | 12.0 | 13.2 | 16.9 | 22.8 | 14.5 |
| 行っていない | 8.3 | 9.2 | 8.6 | 8.6 | 12.7 | 3.5 | 9.4 |
| 大学院生に | | | | | | | |
| 全員に行っている | 15.2 | 18.4 | 13.2 | 14.2 | | | |
| 希望者に行っている | 33.9 | 25.3 | 33.3 | 32.8 | | | |
| 一部に行っている | 22.1 | 12.6 | 9.6 | 13.3 | | | |
| 行っていない | 21.8 | 17.2 | 19.3 | 19.8 | | | |

機関の種別や設置者別では、高専において、教員、事務職員、学生に対して「全員に行っている」とする比率が高い。それに対し、短大では、教員、事務職員、学生すべてに対し「行っていない」とする比率が高く、高専と対照的である。4年制大学の国立、公立私立の別ではほとんど差はみられない。

学部別にみると、教員や事務職員に対して「全員行っている」については、学部間の差がほとんどないが、「希望者に対して」をみると人文系、社会系、教育学系においてやや高くなっている傾向がある。学部学生に対しては、医歯薬保健系、理工学系、社会科学系で「全員に行っている」比率がやや高く、芸術系、家政系でその比率が低い。

大学院生に対しては、人文、社会、芸術、家政系において、無回答の比率が高いが、これは大学院をもたない学部に対応する。無回答を差し引いて再計算した比率をみると、人文系、社会系、教育学系において「希望者に行っている」がやや高い傾向が明らかになる。

表7-4. インターネット利用のための教育・研修（学部別）
(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 教員に | | | | | | | | | |
| 全員に行っている | 8.4 | 10.8 | 1.7 | 6.0 | 14.3 | 10.5 | 6.3 | 13.6 | 5.1 |
| 希望者に行っている | 45.3 | 46.5 | 40.7 | 27.7 | 28.6 | 28.8 | 21.9 | 40.9 | 29.5 |
| 一部に行っている | 15.8 | 13.9 | 20.3 | 21.7 | 20.4 | 22.2 | 37.5 | 9.1 | 19.2 |
| 行っていない | 28.4 | 23.6 | 32.2 | 38.6 | 34.7 | 34.6 | 28.1 | 31.8 | 41.0 |
| 事務職員に | | | | | | | | | |
| 全員に行っている | 22.6 | 19.8 | 13.6 | 15.7 | 20.4 | 13.1 | 9.4 | 13.6 | 10.3 |
| 希望者に行っている | 33.7 | 36.5 | 40.7 | 32.5 | 24.5 | 26.8 | 21.9 | 40.9 | 35.9 |
| 一部に行っている | 15.8 | 16.7 | 13.6 | 21.7 | 24.5 | 25.5 | 28.1 | 4.5 | 20.5 |
| 行っていない | 24.7 | 20.1 | 27.1 | 25.3 | 30.6 | 30.1 | 31.3 | 36.4 | 26.9 |
| 大学院生に | | | | | | | | | |
| 全員に行っている | 13.2 | 12.5 | 13.6 | 17.5 | 18.4 | 13.1 | 6.3 | 4.5 | 23.1 |
| 希望者に行っている | 33.7 | 36.5 | 49.2 | 31.3 | 38.8 | 26.1 | 21.9 | 40.9 | 20.5 |
| 一部に行っている | 7.9 | 10.8 | 18.6 | 18.7 | 18.4 | 19.0 | 15.6 | 4.5 | 10.3 |
| 行っていない | 20.0 | 15.6 | 10.2 | 20.5 | 22.4 | 30.7 | 21.9 | 27.3 | 15.4 |
| 学部学生に | | | | | | | | | |
| 全員に行っている | 36.3 | 47.6 | 40.7 | 47.0 | 36.7 | 52.3 | 12.5 | 13.6 | 48.7 |
| 希望者に行っている | 38.9 | 29.2 | 32.2 | 24.1 | 28.6 | 17.6 | 40.6 | 50.0 | 20.5 |
| 一部に行っている | 11.6 | 12.8 | 13.6 | 14.5 | 20.4 | 12.4 | 25.0 | 18.2 | 9.0 |
| 行っていない | 9.5 | 4.2 | 5.1 | 7.2 | 12.2 | 14.4 | 15.6 | 9.1 | 11.5 |

このようにマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育・研修を行う体制は現段階では充分ではないことが明らかになったが、この問題は将来的にはどうあるべきだと考えられているのだろう。

これをみると、教員、事務職員、TA・RA、大学院生、学部学生だれに対しても、「もっと行うべき」だと考えられており、TA・RAをのぞいては、すべて80%を超えている。TA・RAのみ「現状のままでよい」が24.0%あることが他と異なる特徴である。「あまり行わなくてもよい」は皆無に等しい。

表7-5. マルチメディア利用のための教育・研修の将来のあり方

(総計・機関の種別・設置者別)

(%)

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 教 員 | | | | | | | |
| もっと行うべき | 77.5 | 78.8 | 86.7 | 83.6 | 85.7 | 78.6 | 84.3 |
| 現状のままでよい | 19.2 | 20.0 | 12.5 | 14.9 | 12.0 | 21.4 | 14.2 |
| あまり行わなくてよい | 3.3 | 1.3 | 0.8 | 1.5 | 2.3 | 0.0 | 1.5 |
| 事務職員 | | | | | | | |
| もっと行うべき | 82.8 | 74.7 | 85.5 | 83.9 | 83.0 | 82.1 | 83.4 |
| 現状のままでよい | 16.1 | 25.3 | 14.2 | 15.6 | 14.4 | 17.9 | 15.6 |
| あまり行わなくてよい | 1.1 | 0.0 | 0.3 | 0.5 | 2.6 | 0.0 | 1.1 |
| TA・RA | | | | | | | |
| もっと行うべき | 75.0 | 69.2 | 74.2 | 74.1 | 66.4 | 64.9 | 71.9 |
| 現状のままでよい | 24.3 | 26.2 | 23.5 | 23.9 | 24.1 | 18.9 | 24.0 |
| あまり行わなくてよい | 0.7 | 4.6 | 2.4 | 2.0 | 9.4 | 16.2 | 4.1 |
| 学部学生 | | | | | | | |
| もっと行うべき | 76.1 | 80.3 | 82.1 | 80.0 | 82.3 | 75.0 | 82.5 |
| 現状のままでよい | 23.5 | 19.7 | 17.0 | 19.3 | 16.4 | 25.0 | 16.9 |
| あまり行わなくてよい | 0.4 | 0.0 | 1.0 | 0.7 | 1.3 | 0.0 | 0.6 |
| 大学院生 | | | | | | | |
| もっと行うべき | 77.5 | 78.0 | 85.1 | 82.5 | | | |
| 現状のままでよい | 22.1 | 22.0 | 14.4 | 17.1 | | | |
| あまり行わなくてよい | 0.4 | 0.0 | 0.5 | 0.4 | | | |

また、機関の種別や設置者別による違いはほとんどないが、学部別にみるとやや違いがあらわれている。たとえば、もっとも研修を行っていなかった芸術系では、「もっと行うべき」とする比率がもっとも高くなっており、ここでは必要性は認識されていても、実際にはそれが可能とならない状況があるのだろう。対照的に、比較的教育・研修を行っていた理工学系では「現状のままでよい」が高い。

表7-6. マルチメディア利用のための教育・研修の将来のあり方 (学部別)

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|---------------|-------|------|------|
| 教 員 | | | | | | | | | |
| もっと行うべき | 86.6 | 84.7 | 87.5 | 76.3 | 76.1 | 83.2 | 96.8 | 85.0 | 82.4 |
| 現状のままでよい | 12.8 | 14.9 | 10.7 | 20.0 | 21.7 | 15.4 | 3.2 | 15.0 | 13.5 |
| あまり行わなくてよい | 0.6 | 0.4 | 1.8 | 3.8 | 2.2 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 4.1 |
| 事務職員 | | | | | | | | | |
| もっと行うべき | 87.0 | 82.9 | 87.5 | 78.3 | 86.7 | 84.6 | 96.7 | 80.0 | 81.1 |
| 現状のままでよい | 13.0 | 16.7 | 12.5 | 21.1 | 11.1 | 14.7 | 3.3 | 20.0 | 17.6 |
| あまり行わなくてよい | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 0.6 | 2.2 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.4 |
| TA・RA | | | | | | | | | |
| もっと行うべき | 75.7 | 75.0 | 82.7 | 72.3 | 75.6 | 72.9 | 84.2 | 73.7 | 60.9 |
| 現状のままでよい | 22.2 | 22.1 | 17.3 | 25.2 | 24.4 | 24.8 | 15.8 | 26.3 | 39.1 |
| あまり行わなくてよい | 2.1 | 2.9 | 0.0 | 2.5 | 0.0 | 2.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 大学院生 | | | | | | | | | |
| もっと行うべき | 81.6 | 81.9 | 84.9 | 72.7 | 71.7 | 82.0 | 100.0 | 70.6 | 78.3 |
| 現状のままでよい | 17.7 | 17.2 | 15.1 | 26.6 | 28.3 | 16.5 | 0.0 | 29.4 | 21.7 |
| あまり行わなくてよい | 0.7 | 0.9 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 学部学生 | | | | | | | | | |
| もっと行うべき | 86.1 | 84.1 | 85.2 | 77.7 | 72.7 | 82.1 | 96.6 | 80.0 | 75.4 |
| 現状のままでよい | 13.9 | 15.9 | 14.8 | 21.0 | 27.3 | 16.6 | 3.4 | 20.0 | 24.6 |
| あまり行わなくてよい | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

これらより、わが国の高等教育機関では、教育・研修の必要性を感じつつも、現状ではそれを充分に行うことができないというのが実態であるのかもしれない。

7-2. 教材制作支援

これまでみてきたように、わが国ではマルチメディアといっても、旧来型のカセットやビデオなどのメディアが中心であり、コンピュータ・ベースのメディアの利用、とくに、「CD-ROM教材の利用」や「マルチメディア教材の作成」などはあまり行われていなかった。また、マルチメディアを利用するにあたっての障害としては「利用できる教材が不足している」とする回答が多かった。

講義中心の授業のなかで用いられるマルチメディアはおのずから教材の一部としての用いられるものとなる。そして、それらの教育への利用といったとき、それは単に機器を操作できればよいものではなく、そうした機器の特性を活かして、教材を制作することや、授業そのものを教員の講義形式から、自学自習が容易になる形態へ変えていくことが必要になってくる。とすると、もっとも必要な支援は、教材を自作する場合の組織的な支援ということになるのだが、それについてはどの程度の支援体制があるのだろうか。

それについては、教員が教材を自作する場合の学内の支援体制の有無をきいた。教材を制作する場合に、「学内組織の組織的な支援」が「よく行われている」ケースは4.5%でしかなく、「行われている」を含めても25.6%程度であり、「機関・部局内の担当教職員の支援」では、31.5%である。これらを見るかぎり、組織的な支援体制が行われている機関は30%程度でしかないことがわかる。

ボランティアの教員や学生の支援があるかという点、それも同様に少なく、「ボランティア教員の支援」では、「よく行われている」と「行われている」とを合わせて30.3%、「ボランティア学生の支援」では、19.5%程度でしかない。学内の支援体制がないとしたら、「民間企業などへの外注」は11.6%とさらに少ない。

他方、教材を自作する場合の支援が「ほとんど行われていない」とする比率は、「学内組織の組織的な支援」については52.5%、「機関・部局内の担当教職員の支援」では40.3%と高く、支援が行われないことの方が多いようだ。また、これは、自作することそのものがないことを表しているのかもしれないが、いずれにせよ学内に教材制作の支援体制が充分に整備されているとはいえない。

表7-7. マルチメディア教材自作の場合の支援体制（総計） (%)

| | よく行われている | やや行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|-----------------|----------|----------|------------|-------------|
| 学内組織の組織的支援 | 4.5 | 21.1 | 21.8 | 52.5 |
| 機関・部局内の担当教職員の支援 | 4.7 | 26.8 | 28.2 | 40.3 |
| ボランティア教員の支援 | 4.7 | 25.6 | 25.5 | 44.2 |
| ボランティア学生の支援 | 2.0 | 17.5 | 25.5 | 55.1 |
| 民間企業などへの外注 | 1.3 | 10.3 | 17.7 | 70.7 |

こうした状況を機関別、設置者別にみれば、高専・短大においては各種の支援が「ほとんど行われていない」とする比率が高い。とりわけ、短大ではボランティアの教員や学生からの支援を受けることがないようである。だからといって、4年制大学において支援体制が整備されているのかといえば決してそうではなく、「学内組織の支援」が「やや行われている」で高くなっているが、「よく行われている」に関しては差がみられない。

また、4年制大学のうちでは、国立では「ボランティア学生の支援」が「やや行われている」で高い傾向がみられるが、それ以外では差異がみられない。

表7-8. マルチメディア教材自作の場合の支援体制（機関の種別・設置者別）（%）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|-----------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 学内組織の組織的支援 | | | | | | |
| よく行われている | 2.4 | 4.7 | 6.2 | 5.0 | 3.8 | 0.0 |
| やや行われている | 18.8 | 16.5 | 29.6 | 25.5 | 11.5 | 12.3 |
| あまり行われていない | 32.1 | 21.2 | 19.8 | 23.3 | 17.8 | 22.8 |
| ほとんど行われていない | 46.7 | 57.6 | 44.4 | 46.1 | 66.9 | 64.9 |
| 機関・部局内の担当教職員の支援 | | | | | | |
| よく行われている | 2.8 | 3.5 | 5.0 | 4.2 | 5.9 | 5.4 |
| やや行われている | 23.7 | 27.1 | 28.3 | 26.9 | 27.0 | 26.8 |
| あまり行われていない | 34.5 | 24.7 | 31.0 | 31.4 | 20.1 | 21.4 |
| ほとんど行われていない | 39.0 | 44.7 | 35.8 | 37.4 | 47.1 | 46.4 |
| ボランティア教員の支援 | | | | | | |
| よく行われている | 4.9 | 4.7 | 4.4 | 4.6 | 5.1 | 5.3 |
| やや行われている | 27.6 | 23.5 | 28.5 | 27.9 | 19.2 | 24.6 |
| あまり行われていない | 33.2 | 23.5 | 26.1 | 27.9 | 19.2 | 26.3 |
| ほとんど行われていない | 34.3 | 48.2 | 41.0 | 39.7 | 56.4 | 43.9 |
| ボランティア学生の支援 | | | | | | |
| よく行われている | 3.8 | 2.4 | 1.8 | 2.4 | 0.8 | 1.8 |
| やや行われている | 24.7 | 16.5 | 19.4 | 20.6 | 9.0 | 17.5 |
| あまり行われていない | 33.4 | 27.1 | 27.7 | 29.3 | 16.3 | 19.3 |
| ほとんど行われていない | 38.0 | 54.1 | 51.1 | 47.7 | 73.9 | 61.4 |
| 民間企業などへの外注 | | | | | | |
| よく行われている | 0.7 | 1.2 | 1.5 | 1.3 | 1.5 | 0.0 |
| やや行われている | 10.5 | 10.6 | 11.6 | 11.2 | 8.9 | 5.3 |
| あまり行われていない | 23.8 | 16.5 | 18.9 | 20.0 | 12.7 | 7.0 |
| ほとんど行われていない | 65.0 | 71.8 | 68.0 | 67.5 | 76.8 | 87.7 |

学部別では、人文系（33.5%）、社会系（34.0%）では「学内組織の支援」が比較的行われており（「よく行われている」＋「行われている」の比率）、医歯薬保健系では、「ボランティア教員の支援」（37.8%）が行われている比率が高いとともに、「民間企業などへの外注」（22.7%）も高い。すなわち、学内の組織的な支援体制よりもボランティアやアウトソーシングに依存しているのである。理工学系では、「ボランティア教員の支援」（37.8%）や「ボランティア学生の支援」（36.0%）が高いことが特徴であり、とくにボランティア学生の支援の比率が高いことが特徴である。

教材制作については、先にみたように「マルチメディア教材の作成」は、「よく行われている」、「ある程度行われている」とを合わせて40%弱であり、各種のマルチメディア・テクノロジーのなかでは利用が進んでいない部類であり、また、利用にあたっての障害についても「利用できる教材が不足している」という問題があった。しかし、教材を作成するための体制も充分だということはできず、現状では打開策がないように見える。教材の性格をどのように定義するのか、はたして教材制作の機能を個々の機関がもつことが望ましいのかなど、今後のわが国の高等教育機関の針路を考える際に検討すべき問題だろう。

表7-9. マルチメディア教材自作の場合の支援体制（学部別）
(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・ 薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|-----------------|-------|-------|------|------|------|---------------|------|------|------|
| 学内組織の支援 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 8.5 | 6.3 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 4.7 | 0.0 | 9.1 | 5.3 |
| やや行われている | 25.0 | 27.7 | 22.0 | 23.2 | 22.4 | 25.3 | 25.0 | 18.2 | 33.3 |
| あまり行われていない | 18.1 | 23.9 | 30.5 | 33.5 | 28.6 | 20.0 | 12.5 | 18.2 | 16.0 |
| ほとんど行われていない | 48.4 | 42.1 | 47.5 | 40.2 | 49.0 | 50.0 | 62.5 | 54.5 | 45.3 |
| 機関・部局内の担当教職員の支援 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 5.9 | 5.3 | 0.0 | 1.8 | 2.0 | 3.3 | 3.1 | 9.1 | 6.6 |
| やや行われている | 21.9 | 27.5 | 18.6 | 29.9 | 6.1 | 36.0 | 31.3 | 22.7 | 32.9 |
| あまり行われていない | 31.0 | 32.0 | 39.0 | 34.8 | 44.9 | 26.0 | 21.9 | 31.8 | 22.4 |
| ほとんど行われていない | 41.2 | 35.2 | 42.4 | 33.5 | 46.9 | 34.7 | 43.8 | 36.4 | 38.2 |
| ボランティア教員の支援 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 3.3 | 4.9 | 1.7 | 4.3 | 2.0 | 5.4 | 6.3 | 4.8 | 7.9 |
| やや行われている | 23.4 | 24.4 | 27.1 | 33.5 | 26.5 | 32.4 | 21.9 | 38.1 | 32.9 |
| あまり行われていない | 25.5 | 31.4 | 33.9 | 32.3 | 28.6 | 22.3 | 15.6 | 23.8 | 23.7 |
| ほとんど行われていない | 47.8 | 39.2 | 37.3 | 29.9 | 42.9 | 39.9 | 56.3 | 33.3 | 35.5 |
| ボランティア学生の支援 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 1.1 | 2.1 | 3.4 | 3.7 | 2.0 | 2.0 | 3.1 | 4.8 | 3.9 |
| やや行われている | 15.8 | 20.8 | 18.6 | 32.3 | 22.4 | 13.3 | 12.5 | 9.5 | 27.6 |
| あまり行われていない | 29.9 | 28.3 | 35.6 | 34.1 | 28.6 | 27.3 | 28.1 | 23.8 | 23.7 |
| ほとんど行われていない | 53.3 | 48.8 | 42.4 | 29.9 | 46.9 | 57.3 | 56.3 | 61.9 | 44.7 |
| 民間企業などへの外注 | | | | | | | | | |
| よく行われている | 1.1 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 4.8 | 3.9 |
| やや行われている | 5.4 | 10.5 | 5.1 | 11.0 | 8.2 | 22.0 | 9.4 | 19.0 | 13.2 |
| あまり行われていない | 19.6 | 17.9 | 18.6 | 26.4 | 24.5 | 19.3 | 9.4 | 14.3 | 21.1 |
| ほとんど行われていない | 73.9 | 69.5 | 76.3 | 62.6 | 67.3 | 58.0 | 81.3 | 61.9 | 61.8 |

8. インターネットの利用に関する将来計画

8-1. インターネットの利用計画

ここわずか2～3年の間に急速に普及しているインターネットであるが、高等教育機関では、今後、それをどのような場面にどの程度利用しようと考えているのか、場面として設定した11項目を検討しよう。

「積極的に利用したい」とする比率がもっとも高い項目は「電子メールや電子掲示板による事務連絡」(64.5%)、「図書資料のオンライン・カタログ」(64.5%)、「電子メールや電子掲示板によるレポート等の提出」(53.4%)、「電子図書館」(52.2%)、「電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の討議」(51.2%)である。これらは、先にみた現在教育で利用しているマルチメディアにおいても、比較的良好に利用されていた項目である。

それに対し、「ホームページを利用した学生の情報交換」(39.9%)、「学生がインターネットによって収集した情報による授業」(37.8%)、「授業の提供」(35.8%)などは、いずれも情報源としてのインターネットの特性を利用した方法であるが、これらを「積極的に利用したい」とする比率はさほど高くはない。

さらに、「他機関との単位互換による授業」(19.6%)、「WWW上での公開講座」(18.7%)、「WWW上への教室の授業の一般公開」(13.2%)などは遠隔授業の範疇にはいるものであるが、そうしたことがらにインターネットを「積極的に利用したい」とする機関はあまりない。

表8-1. インターネットの教育への利用の将来計画(総計) (%)

| | 積極的に利用したい | ある程度は利用したい | 利用の必要がない |
|-----------------------------|-----------|------------|----------|
| 授業の提供 | 35.3 | 52.1 | 12.7 |
| 学生がインターネットによって収集した情報による授業 | 37.8 | 52.8 | 9.5 |
| 電子メールによる学生からのレポート等の提出 | 53.4 | 41.3 | 5.3 |
| 電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の討議 | 51.2 | 43.8 | 5.0 |
| 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 66.8 | 29.7 | 3.5 |
| ホームページを利用した学生の情報交換 | 39.9 | 49.8 | 10.3 |
| 図書資料のオンライン・カタログ化 | 64.5 | 30.7 | 4.8 |
| 電子図書館 | 52.2 | 39.6 | 8.2 |
| 他機関との単位互換による授業 | 19.6 | 54.8 | 25.6 |
| WWW上での公開講座 | 18.7 | 53.7 | 27.5 |
| WWW上への教室の授業の一般公開 | 13.2 | 51.1 | 35.7 |

機関の種別や設置者別ではどうだろう。おおむね、どのような利用方法についても大学において「積極的に活用したい」とする比率が高く、高専がそれに準じ、短大は両者に比較すると押し並べて低いといった傾向がある。それだけでなく、短大では「利用の必要がない」についても他より高い傾向があり、インターネットの利用にはあまり積極的でない。設置者別では、とくにどのタイプの大学が「積極的に利用したい」という一貫した傾向はみられない。

学部別では、社会科学系において、「学生がインターネットによって収集した情報による授業」、「授業の提供」に「積極的に利用したい」比率が高く、理工学系、農学系、医歯薬保健系では、「電子メールや電子掲示版による事務連絡」、「図書資料のオンライン・カタログ」、「電子図書館」の利用に、教育系は「WWW上での公開講座」、「WWW上への教室の授業の一般公開」に積極的である比率がやや高いことが積極的であることが対照的である。インターネットを利用した授業方法をかえることに積極的なのは、理系ではなくむしろ文系なのである。また、ここでも芸術系は、ほぼすべての項目で「利用の必要がない」が高い。

こうしてみると、インターネットは導入されていても、現段階ではそれは、電子メールによる事務連絡や討議など授業の周辺場面で使用されていた。それは、インフラはあっても、それを利用するサポートシステムが欠如しているために生じている問題だとみてきたが、将来の利用計画、すなわち、現実の障害といった要因を考慮しなくてもよい希望と期待をみても、やはり授業の周辺にとどまっているのである。授業そのものを変える方向での利用、たとえば、これまで教員による講義中心であった形態を、ウェブの多様な情報を利用して学習者中心の形態へと変化させるといった方向での利用形態に対してはさほど積極的であるようにはみられない。

表8-2. インターネットの教育への利用の将来計画（機関の種別・設置者別）（%）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|-----------------------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 授業の提供 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 32.0 | 30.2 | 38.0 | 35.7 | 35.5 | 29.8 |
| ある程度は利用したい | 52.1 | 45.3 | 53.4 | 52.3 | 48.8 | 64.9 |
| 利用の必要がない | 15.8 | 24.4 | 8.7 | 12.0 | 15.6 | 5.3 |
| 学生がインターネットによって収集した情報による授業 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 28.3 | 38.4 | 39.5 | 36.3 | 42.7 | 35.7 |
| ある程度は利用したい | 58.7 | 47.7 | 52.5 | 53.8 | 48.6 | 58.9 |
| 利用の必要がない | 13.1 | 14.0 | 8.0 | 9.9 | 8.7 | 5.4 |
| 電子メールによる学生からのレポート等の提出 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 54.9 | 56.3 | 53.5 | 54.1 | 50.9 | 59.6 |
| ある程度は利用したい | 41.6 | 39.1 | 42.5 | 42.0 | 39.7 | 38.6 |
| 利用の必要がない | 3.5 | 4.6 | 4.1 | 3.9 | 9.4 | 1.8 |
| 電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の討議 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 51.8 | 54.0 | 54.4 | 53.7 | 46.2 | 42.1 |
| ある程度は利用したい | 45.1 | 40.2 | 42.7 | 43.1 | 44.4 | 50.9 |
| 利用の必要がない | 3.2 | 5.7 | 2.9 | 3.2 | 9.5 | 7.0 |
| 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 79.6 | 79.1 | 66.5 | 71.2 | 52.7 | 83.9 |
| ある程度は利用したい | 19.4 | 19.8 | 32.0 | 27.5 | 37.9 | 14.3 |
| 利用の必要がない | 1.0 | 1.2 | 1.5 | 1.3 | 9.4 | 1.8 |
| ホームページを利用した学生の情報交換 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 42.0 | 40.2 | 42.7 | 42.3 | 35.0 | 33.3 |
| ある程度は利用したい | 48.1 | 50.6 | 48.2 | 48.3 | 51.8 | 57.9 |
| 利用の必要がない | 9.9 | 9.2 | 9.1 | 9.3 | 13.2 | 8.8 |
| 図書資料のオンライン・カタログ化 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 74.1 | 80.5 | 67.0 | 70.1 | 48.8 | 73.2 |
| ある程度は利用したい | 22.3 | 16.1 | 30.7 | 27.2 | 40.6 | 23.2 |
| 利用の必要がない | 3.5 | 3.4 | 2.3 | 2.7 | 10.5 | 3.6 |
| 電子図書館 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 72.7 | 60.5 | 52.2 | 58.6 | 35.3 | 55.4 |
| ある程度は利用したい | 24.8 | 37.2 | 42.2 | 36.9 | 45.9 | 41.1 |
| 利用の必要がない | 2.5 | 2.3 | 5.6 | 4.4 | 18.8 | 3.6 |
| 他機関との単位互換による授業 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 25.1 | 18.1 | 21.0 | 21.9 | 14.2 | 20.0 |
| ある程度は利用したい | 53.8 | 51.8 | 57.8 | 56.2 | 50.0 | 56.4 |
| 利用の必要がない | 21.1 | 30.1 | 21.2 | 21.9 | 35.8 | 23.6 |
| WWW上での公開講座 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 23.5 | 24.4 | 19.7 | 21.1 | 14.0 | 12.7 |
| ある程度は利用したい | 54.2 | 45.1 | 57.1 | 55.3 | 48.7 | 60.0 |
| 利用の必要がない | 22.4 | 30.5 | 23.2 | 23.6 | 37.3 | 27.3 |
| WWW上への教室の授業の一般公開 | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 16.1 | 18.1 | 14.0 | 14.9 | 9.9 | 7.3 |
| ある程度は利用したい | 50.4 | 38.6 | 54.7 | 52.2 | 48.1 | 54.5 |
| 利用の必要がない | 33.6 | 43.4 | 31.3 | 32.9 | 42.1 | 38.2 |

表 8-3. インターネットの教育への利用の将来計画 (学部別)

(%)

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|------------------------------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 授業の提供 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 31.9 | 41.3 | 36.2 | 36.6 | 16.7 | 31.3 | 35.5 | 31.8 | 40.3 |
| ある程度は利用したい | 53.8 | 49.5 | 51.7 | 52.4 | 68.8 | 55.3 | 41.9 | 59.1 | 50.6 |
| 利用の必要がない | 14.3 | 9.3 | 12.1 | 11.0 | 14.6 | 13.3 | 22.6 | 9.1 | 9.1 |
| 学生がインターネットによって収集した情報による授業 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 33.9 | 47.2 | 31.0 | 25.3 | 16.7 | 32.7 | 41.9 | 40.9 | 44.2 |
| ある程度は利用したい | 60.1 | 47.5 | 55.2 | 61.4 | 66.7 | 50.7 | 45.2 | 54.5 | 50.6 |
| 利用の必要がない | 6.0 | 5.3 | 13.8 | 13.3 | 16.7 | 16.7 | 12.9 | 4.5 | 5.2 |
| 電子メールによる学生からのレポート等の提出 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 44.6 | 62.5 | 58.6 | 56.6 | 50.0 | 49.7 | 35.5 | 31.8 | 60.3 |
| ある程度は利用したい | 50.5 | 34.7 | 39.7 | 40.4 | 50.0 | 43.0 | 54.8 | 59.1 | 37.2 |
| 利用の必要がない | 4.8 | 2.8 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 7.3 | 9.7 | 9.1 | 2.6 |
| 電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の討議 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 45.9 | 58.9 | 55.2 | 59.6 | 43.8 | 51.0 | 41.9 | 31.8 | 62.3 |
| ある程度は利用したい | 50.3 | 40.4 | 41.4 | 39.2 | 52.1 | 41.7 | 38.7 | 63.6 | 37.7 |
| 利用の必要がない | 3.8 | 0.7 | 3.4 | 1.2 | 4.2 | 7.3 | 19.4 | 4.5 | 0.0 |
| 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 60.3 | 72.2 | 69.5 | 80.1 | 75.5 | 78.1 | 51.6 | 54.5 | 74.4 |
| ある程度は利用したい | 38.6 | 27.1 | 28.8 | 19.9 | 24.5 | 19.9 | 35.5 | 40.9 | 25.6 |
| 利用の必要がない | 1.1 | 0.7 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 12.9 | 4.5 | 0.0 |
| ホームページを利用した学生の情報交換 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 40.3 | 43.2 | 51.7 | 40.4 | 39.6 | 42.0 | 32.3 | 40.9 | 47.4 |
| ある程度は利用したい | 50.3 | 48.8 | 34.5 | 53.0 | 45.8 | 46.7 | 48.4 | 45.5 | 48.7 |
| 利用の必要がない | 9.4 | 8.1 | 13.8 | 6.6 | 14.6 | 11.3 | 19.4 | 13.6 | 3.9 |
| 図書資料のオンライン・カタログ化 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 66.7 | 69.6 | 69.0 | 73.5 | 74.5 | 73.3 | 58.1 | 63.6 | 69.7 |
| ある程度は利用したい | 29.4 | 27.6 | 27.6 | 25.3 | 25.5 | 24.0 | 32.3 | 31.8 | 28.9 |
| 利用の必要がない | 3.9 | 2.8 | 3.4 | 1.2 | 0.0 | 2.7 | 9.7 | 4.5 | 1.3 |
| 電子図書館 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 51.4 | 53.2 | 68.4 | 69.1 | 63.0 | 66.4 | 41.9 | 36.4 | 61.3 |
| ある程度は利用したい | 41.2 | 43.3 | 24.6 | 29.1 | 37.0 | 28.8 | 41.9 | 59.1 | 36.0 |
| 利用の必要がない | 7.3 | 3.5 | 7.0 | 1.8 | 0.0 | 4.8 | 16.1 | 4.5 | 2.7 |
| 他機関との単位互換による授業 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 21.1 | 25.5 | 28.1 | 23.5 | 19.6 | 14.0 | 13.3 | 0.0 | 30.1 |
| ある程度は利用したい | 55.4 | 52.7 | 52.6 | 65.4 | 56.5 | 53.1 | 56.7 | 72.7 | 52.1 |
| 利用の必要がない | 23.4 | 21.8 | 19.3 | 11.1 | 23.9 | 32.9 | 30.0 | 27.3 | 17.8 |
| WWW上での公開講座 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 15.8 | 24.0 | 29.8 | 20.1 | 14.9 | 20.0 | 23.3 | 4.5 | 28.0 |
| ある程度は利用したい | 59.9 | 49.5 | 52.6 | 62.2 | 57.4 | 57.2 | 36.7 | 68.2 | 52.0 |
| 利用の必要がない | 24.3 | 26.5 | 17.5 | 17.7 | 27.7 | 22.8 | 40.0 | 27.3 | 20.0 |
| WWW上への教室の授業の一般公開 | | | | | | | | | |
| 積極的に利用したい | 10.8 | 18.2 | 23.2 | 14.9 | 8.7 | 14.6 | 6.7 | 9.1 | 14.7 |
| ある程度は利用したい | 58.5 | 50.2 | 46.4 | 59.6 | 47.8 | 46.5 | 40.0 | 59.1 | 50.7 |
| 利用の必要がない | 30.7 | 31.6 | 30.4 | 25.5 | 43.5 | 38.9 | 53.3 | 31.8 | 34.7 |

8-2. インターネットによる遠隔授業と対面授業との比較

わが国の高等教育において設置基準上で通学制と通信制との区別があり、通学制においては、学士課程124単位中60単位まで遠隔授業によって単位を取得することが可能である。その遠隔授業とは、テレビ会議方式などによる同期の双方向であることが条件であった。そこでは非同期の双方向性をもつインターネットによる授業は単位として認定されていないが、それも2000年11月の大学審議会の答申を受けて、2001年4月より非同期双方向のインターネットを利用した授業も単位化される見込みである。

そこで、それに先立ち、インターネットを利用した双方向授業が、教室における対面式授業と比較してどのようなものになると考えるのか、14項目を設定しそれに対する意見の一致度をきいた。

14項目のうち、もっとも「よくあてはまる」とする比率が高いのは、「授業以外の学習支援が必要」(36.0%)、「教材の制作が容易ではない」(35.9%)、「最先端の情報を収集した教育ができる」(28.2%)、「対面式の授業の補助が必要」(25.7%)、「対面式の補助として用いるべき」(25.1%)、「高等教育の活性化につながる」(24.7%)と続く。

これらをみると、インターネットの授業がそれだけでは完全に教室での対面式の授業には及ばないとして、インターネットを主に、それに対面式の授業の補助が必要という意見や、その逆に対面式の授業の補助としてインターネット授業を用いるべきとする意見、あるいは、授業以外の学習の支援が必要などの意見となってあらわれている。インターネットのみで対面式の環境なしに教育が行われることに対しては懐疑的である。

それとともに、インターネット授業の場合の教材制作の困難さを上げる声も高い。これは、インターネットに限らず、マルチメディアの利用全般における問題点であったものだ。

これらの意見と対照的に、インターネットの利点に着目した、最先端の情報を収集した教育ができるや高等教育の活性化につながるといった期待も大きい。これは、マルチメディアの利用目的でもみたように、新技術が教育が導入されることが教育効果をあげるといった楽観的な期待と同種のものである。

インターネットによる授業に対しては、懐疑と期待とがないまざったまなざしが注がれているのである。しかし、インターネットによる授業が「教育の質が下がる」(1.7%)、「学生の学習の継続が困難」(5.5%)という問題はほとんど生じないと考えられているようである。むしろ、これらにあてはまらない(「まったくあてはまらない」+「あまりあてはまらない」の合計)とする意見は、前者で82.4%、後者で60.4%と高い比率を示しており、遠隔教育で常に問題とされる学習の継続や教育の質の問題は、ほとんど懸念されていない。

これら以外には、「社会人学生が増加する」(19.7%)、「他機関との交換授業が増加する」(17.5%)は、高等教育の性格の変化をいうものである。これらは、「よくあてはまる」の比率はあまり高くないが、「ある程度あてはまる」を加えると、前者が70.3%、後者が77.7%と高い比率を示している。インターネットの非同期双方向という特性を利用すれば、キャンパスは外に開かれるというものである。「民間企業との連携が増加する」(10.0%)はやや比率が低い、これなども、キャンパスは外に開かれるとみる意見である。

また、教育のコストの問題に対しても、「学生の教育費負担が減少する」(11.7%)、「教育の

コストが下がる」(1.8%)、「教員の授業負担が減少する」(1.8%)であり、インターネットによる授業を行ってもコストは下がらないと考えられている。そもそもがマルチメディアの利用目的においても教育のコストを下げることは期待されていなかったが、コストがかかることは大きな障害となっていた。何らかの新しいテクノロジーを利用するときコストが度外視して導入されている構図があったが、インターネットにおいてもそれは同様なのである。

表 8－4. インターネットによる授業と対面授業の比較（総計） (%)

| | よくあてはまる | ある程度あてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|-------------------|---------|-----------|------------|-------------|
| 最先端の情報を収集した教育ができる | 28.2 | 51.9 | 17.8 | 2.1 |
| 社会人学生が増加する | 19.7 | 50.6 | 2.3 | 4.4 |
| 学生の学習の継続が困難 | 5.5 | 34.1 | 52.8 | 7.6 |
| 教材の制作が容易ではない | 35.9 | 49.3 | 13.0 | 1.8 |
| 民間企業との連携が増加する | 10.0 | 48.4 | 36.1 | 5.5 |
| 授業以外の学習支援が必要 | 36.0 | 56.0 | 7.6 | 0.4 |
| 対面式の補助として用いるべき | 25.1 | 53.5 | 19.0 | 2.4 |
| 学生の教育費負担が増加する | 11.7 | 41.3 | 41.7 | 5.3 |
| 対面式の授業の補助が必要 | 25.7 | 56.5 | 15.0 | 2.3 |
| 教員の授業負担が減少する | 1.8 | 11.0 | 60.4 | 26.9 |
| 教育のコストが下がる | 1.8 | 16.7 | 62.6 | 18.8 |
| 他機関との交換授業が増加する | 17.5 | 60.2 | 19.2 | 3.1 |
| 教育の質が下がる | 1.7 | 15.9 | 63.1 | 19.3 |
| 高等教育の活性化につながる | 24.7 | 59.9 | 14.0 | 1.4 |

これらを、機関の種別や設置者別で検討しよう。インターネットだけでなく対面式などとの組み合わせが必要とする意見については、機関の種別による一貫した傾向はみられない。との組み合わせが必要とする意見に関しては、機関の種別による一貫した傾向はみられない。「授業以外の学習支援が必要」と「対面式の授業の補助が必要」については、高専で「よくあてはまる」とする比率が低い、「対面式の補助として用いるべき」では逆に高専で「よくあてはまる」とする比率が高い。また、「高等教育の活性化につながる」、「最先端の情報を収集した教育ができる」、「教育の質が下がる」などの楽観的な期待については差異がみられないが、「学生の学習の継続が困難」については高専において懸念する比率が高い。

キャンパスが外に開かれるという意見のうち、「社会人学生が増加する」については、4年制大学の期待が高い。

「教育のコストが下がる」、「教員の授業負担が減少する」というコストの問題については、「よくあてはまる」については差異がないが、「ある程度あてはまる」までを加えてみると、高専では問題視する意見の比率が低い。

設置者別では、国立大学は「学生の学習の継続が困難」、「教育の質が下がる」などのインターネットによる授業がポジティブに機能しないことを懸念する声が高いのに対し、私立大学は「最先端の情報を収集した教育ができる」、「高等教育の活性化につながる」などポジティブな側面を肯定する意見が多いことが特徴である。

学部別では、社会科学系において、「学生の学習の継続が困難」、「教育の質が下がる」などをあてはまるとする意見の比率がやや低い。それに対し、「社会人学生が増加する」をあてはまるとする比率が高い。社会科学系では、インターネットによる授業を、主に社会人を対象として考えていることにより、モチベーションの高い社会人であれば、教育の質が下がるといったことをあまり問題にしていないのであらうと思われる。

教育学系では、「対面式の授業の補助が必要」、「対面式の授業の補助としてもちいるべき」に「よくあてはまる」とする意見がやや高く、教育方法や授業法をその研究教育領域としている教育系の学部ならではの懸念である。

農学系では、「最先端の情報を収集した教育ができる」、「高等教育の活性化につながる」に「よくあてはまる」とする比率が低いことに加えて、社会科学系と対照的に、「教育の質が下がる」ことに対しても懸念する声が高い。しかし、他方では、「教員の授業負担が減少する」、「教育のコストが下がる」についてはあてはまるとする比率が高い。

芸術系や家政系では、「最先端の情報を収集した教育ができる」、「高等教育の活性化につながる」にあてはまるとする比率が高いことが特徴である。

インターネットによる授業がどのようなものになるのか、日本ではほとんど事例がないだけに期待も懸念も懷疑もあるのだが、それが学部別にある一定の傾向を見いだせることは興味深い。2001年4月からの大学設置基準の改訂とともにインターネットによる授業の問題がそれぞれの高等教育期間内で議論の対象となったときに、それぞれの学部がどのようなスタンスをとるかを予見させるものとなっているように思われる。

表8-5. インターネットによる授業と対面授業の比較（機関の種別・設置者別）（％）

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 |
|-------------------|--------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | |
| 最先端の情報を収集した教育ができる | | | | | | |
| よくあてはまる | 22.3 | 27.7 | 28.4 | 26.7 | 27.2 | 20.8 |
| ある程度あてはまる | 48.4 | 45.8 | 53.1 | 51.2 | 52.9 | 56.6 |
| あまりあてはまらない | 25.3 | 21.7 | 16.6 | 19.4 | 17.5 | 20.8 |
| まったくあてはまらない | 4.0 | 4.8 | 1.9 | 2.7 | 2.4 | 1.9 |
| 社会人学生が増加する | | | | | | |
| よくあてはまる | 22.3 | 14.6 | 20.7 | 20.6 | 16.0 | 11.5 |
| ある程度あてはまる | 58.0 | 54.9 | 47.5 | 51.0 | 52.8 | 40.4 |
| あまりあてはまらない | 15.7 | 22.0 | 28.1 | 24.1 | 26.7 | 34.6 |
| まったくあてはまらない | 4.0 | 8.5 | 3.8 | 4.2 | 4.5 | 13.5 |
| 学生の学習の継続が困難 | | | | | | |
| よくあてはまる | 8.2 | 3.6 | 6.3 | 6.6 | 3.2 | 9.8 |
| ある程度あてはまる | 37.2 | 33.7 | 29.5 | 32.0 | 42.4 | 45.1 |
| あまりあてはまらない | 46.5 | 55.4 | 55.7 | 53.2 | 47.5 | 39.2 |
| まったくあてはまらない | 8.2 | 7.2 | 8.4 | 8.2 | 6.9 | 5.9 |
| 教材の制作が容易ではない | | | | | | |
| よくあてはまる | 36.9 | 40.5 | 36.8 | 37.1 | 35.1 | 43.4 |
| ある程度あてはまる | 51.1 | 45.2 | 48.4 | 48.9 | 49.9 | 52.8 |
| あまりあてはまらない | 10.2 | 11.9 | 13.6 | 12.5 | 12.9 | 3.8 |
| まったくあてはまらない | 1.8 | 2.4 | 1.2 | 1.5 | 2.1 | 0.0 |
| 民間企業との連携が増加する | | | | | | |
| よくあてはまる | 8.9 | 12.0 | 10.1 | 9.9 | 8.4 | 7.5 |
| ある程度あてはまる | 47.6 | 47.0 | 48.5 | 48.1 | 45.4 | 56.6 |
| あまりあてはまらない | 37.2 | 30.1 | 37.3 | 36.7 | 39.1 | 32.1 |
| まったくあてはまらない | 6.3 | 10.8 | 4.1 | 5.3 | 7.1 | 3.8 |
| 授業以外の学習支援が必要 | | | | | | |
| よくあてはまる | 40.7 | 33.7 | 36.8 | 37.6 | 33.9 | 28.3 |
| ある程度あてはまる | 50.0 | 53.0 | 56.3 | 54.3 | 58.2 | 66.0 |
| あまりあてはまらない | 9.3 | 12.0 | 6.4 | 7.6 | 7.4 | 5.7 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 1.2 | 0.5 | 0.4 | 0.5 | 0.0 |
| 対面式の補助として用いるべき | | | | | | |
| よくあてはまる | 30.5 | 29.3 | 25.2 | 27.0 | 23.5 | 32.1 |
| ある程度あてはまる | 48.2 | 52.4 | 54.5 | 52.6 | 53.2 | 50.9 |
| あまりあてはまらない | 18.8 | 15.9 | 18.0 | 18.0 | 21.4 | 17.0 |
| まったくあてはまらない | 2.6 | 2.4 | 2.3 | 2.4 | 1.9 | 0.0 |
| 学生の教育費負担が増加する | | | | | | |
| よくあてはまる | 11.1 | 20.5 | 11.5 | 12.2 | 14.8 | 9.6 |
| ある程度あてはまる | 38.7 | 37.3 | 40.8 | 39.9 | 43.8 | 44.2 |
| あまりあてはまらない | 43.2 | 33.7 | 43.1 | 42.4 | 37.2 | 38.5 |
| まったくあてはまらない | 7.0 | 8.4 | 4.6 | 5.6 | 4.2 | 7.7 |
| 対面式の授業の補助が必要 | | | | | | |
| よくあてはまる | 33.9 | 30.5 | 25.8 | 28.4 | 27.7 | 11.5 |
| ある程度あてはまる | 48.3 | 56.1 | 57.2 | 54.7 | 55.6 | 63.5 |
| あまりあてはまらない | 15.5 | 12.2 | 14.0 | 14.3 | 14.2 | 25.0 |
| まったくあてはまらない | 2.2 | 1.2 | 3.0 | 2.6 | 2.4 | 0.0 |
| 教員の授業負担が減少する | | | | | | |
| よくあてはまる | 1.5 | 2.4 | 1.4 | 1.5 | 2.9 | 0.0 |
| ある程度あてはまる | 9.9 | 12.0 | 9.8 | 10.0 | 11.6 | 5.7 |
| あまりあてはまらない | 53.1 | 51.8 | 60.8 | 58.0 | 63.0 | 73.8 |
| まったくあてはまらない | 35.5 | 33.7 | 28.0 | 30.5 | 22.5 | 20.8 |
| 教育のコストが下がる | | | | | | |
| よくあてはまる | 0.7 | 2.4 | 1.7 | 1.5 | 1.6 | 0.0 |
| ある程度あてはまる | 15.1 | 15.7 | 15.6 | 15.5 | 17.0 | 7.5 |
| あまりあてはまらない | 63.2 | 63.9 | 61.6 | 62.2 | 63.7 | 73.6 |
| まったくあてはまらない | 21.0 | 18.1 | 21.1 | 20.8 | 17.8 | 18.9 |
| 他機関との交換授業が増加する | | | | | | |
| よくあてはまる | 16.9 | 13.3 | 15.6 | 15.8 | 14.6 | 13.2 |
| ある程度あてはまる | 62.5 | 65.1 | 59.7 | 60.9 | 57.7 | 62.3 |
| あまりあてはまらない | 17.3 | 19.3 | 20.5 | 19.5 | 24.2 | 22.6 |
| まったくあてはまらない | 3.3 | 2.4 | 4.2 | 3.8 | 3.5 | 1.9 |
| 教育の質が下がる | | | | | | |
| よくあてはまる | 3.3 | 4.8 | 1.9 | 2.5 | 1.1 | 3.8 |
| ある程度あてはまる | 23.8 | 21.7 | 14.0 | 17.3 | 16.4 | 11.3 |
| あまりあてはまらない | 57.6 | 57.8 | 62.3 | 60.7 | 63.9 | 69.8 |
| まったくあてはまらない | 15.2 | 15.7 | 21.8 | 19.5 | 18.6 | 15.1 |
| 高等教育の活性化につながる | | | | | | |
| よくあてはまる | 21.1 | 24.1 | 23.7 | 23.0 | 24.9 | 13.2 |
| ある程度あてはまる | 51.9 | 53.0 | 61.4 | 58.1 | 63.0 | 71.7 |
| あまりあてはまらない | 24.8 | 19.3 | 13.8 | 17.3 | 10.3 | 13.2 |
| まったくあてはまらない | 2.2 | 3.6 | 1.1 | 1.6 | 1.9 | 1.9 |

表8-6. インターネットによる授業と対面授業の比較 (学部別)

(%)

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 |
|--------------------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 最先端の情報を収集した教育ができる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 27.2 | 32.7 | 28.6 | 18.6 | 10.6 | 22.9 | 35.5 | 47.6 | 26.3 |
| ある程度あてはまる | 57.6 | 44.6 | 41.1 | 57.1 | 61.7 | 50.0 | 38.7 | 47.6 | 53.9 |
| あまりあてはまらない | 14.1 | 20.1 | 26.8 | 20.5 | 23.4 | 25.7 | 12.9 | 4.8 | 17.1 |
| まったくあてはまらない | 1.1 | 2.6 | 3.6 | 3.7 | 4.3 | 1.4 | 12.9 | 0.0 | 2.6 |
| 社会人学生が増加する | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 21.3 | 19.9 | 21.4 | 19.8 | 19.1 | 16.8 | 25.8 | 23.8 | 26.3 |
| ある程度あてはまる | 48.6 | 50.6 | 62.5 | 53.1 | 57.4 | 46.0 | 48.4 | 57.1 | 48.7 |
| あまりあてはまらない | 27.3 | 26.6 | 16.1 | 24.7 | 17.0 | 22.6 | 22.6 | 19.0 | 23.7 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 3.0 | 0.0 | 2.5 | 6.4 | 14.6 | 3.2 | 0.0 | 1.3 |
| 学生の学習の継続が困難 | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 7.3 | 3.7 | 14.5 | 5.6 | 8.5 | 10.1 | 6.5 | 4.8 | 4.1 |
| ある程度あてはまる | 37.3 | 27.9 | 30.9 | 36.9 | 31.9 | 28.1 | 25.8 | 57.1 | 29.7 |
| あまりあてはまらない | 51.4 | 56.9 | 49.1 | 50.6 | 53.2 | 49.6 | 58.1 | 38.1 | 59.5 |
| まったくあてはまらない | 4.0 | 11.5 | 5.5 | 6.9 | 6.4 | 12.2 | 9.7 | 0.0 | 6.8 |
| 教材の制作が容易ではない | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 42.1 | 35.6 | 28.6 | 37.0 | 29.8 | 38.6 | 25.8 | 23.8 | 44.7 |
| ある程度あてはまる | 42.6 | 49.5 | 57.1 | 53.1 | 57.4 | 47.1 | 54.8 | 52.4 | 43.4 |
| あまりあてはまらない | 14.8 | 12.4 | 10.7 | 8.6 | 12.8 | 13.6 | 16.1 | 23.8 | 10.5 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 2.5 | 3.6 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 3.2 | 0.0 | 1.3 |
| 民間企業との連携が増加する | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 9.4 | 8.9 | 16.1 | 10.7 | 13.0 | 7.9 | 16.1 | 4.8 | 9.2 |
| ある程度あてはまる | 44.4 | 49.3 | 46.4 | 52.2 | 45.7 | 46.0 | 41.9 | 42.9 | 53.9 |
| あまりあてはまらない | 42.2 | 37.0 | 32.1 | 36.5 | 37.0 | 30.2 | 38.7 | 47.6 | 35.5 |
| まったくあてはまらない | 3.9 | 4.8 | 5.4 | 0.6 | 4.3 | 15.8 | 3.2 | 4.8 | 1.3 |
| 授業以外の学習支援が必要 | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 40.2 | 36.0 | 42.9 | 31.9 | 34.8 | 41.0 | 32.3 | 28.6 | 43.4 |
| ある程度あてはまる | 55.4 | 55.1 | 50.0 | 58.8 | 54.3 | 50.4 | 61.3 | 61.9 | 50.0 |
| あまりあてはまらない | 3.8 | 8.1 | 7.1 | 9.4 | 10.9 | 7.9 | 6.5 | 9.5 | 6.6 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 対面式の補助として用いるべき | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 29.9 | 24.6 | 27.3 | 27.8 | 30.4 | 29.7 | 25.8 | 19.0 | 23.7 |
| ある程度あてはまる | 50.0 | 51.5 | 47.3 | 58.6 | 47.8 | 51.4 | 48.4 | 71.4 | 52.6 |
| あまりあてはまらない | 17.9 | 20.6 | 21.8 | 12.3 | 19.6 | 16.7 | 25.8 | 9.5 | 19.7 |
| まったくあてはまらない | 2.2 | 3.3 | 3.6 | 1.2 | 2.2 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 3.9 |
| 学生の教育費負担が増加する | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 14.9 | 10.7 | 7.1 | 11.2 | 8.5 | 12.4 | 23.3 | 19.0 | 10.7 |
| ある程度あてはまる | 42.5 | 35.6 | 46.4 | 37.9 | 40.4 | 41.6 | 46.7 | 42.9 | 41.3 |
| あまりあてはまらない | 37.6 | 47.8 | 39.3 | 46.0 | 42.6 | 40.9 | 23.3 | 38.1 | 41.3 |
| まったくあてはまらない | 5.0 | 5.9 | 7.1 | 5.0 | 8.5 | 5.1 | 6.7 | 0.0 | 6.7 |
| 対面式の授業の補助が必要 | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 29.4 | 27.0 | 37.5 | 26.1 | 25.5 | 27.0 | 25.8 | 38.1 | 34.2 |
| ある程度あてはまる | 58.3 | 53.3 | 48.2 | 61.5 | 51.1 | 51.8 | 48.4 | 52.4 | 50.0 |
| あまりあてはまらない | 8.9 | 15.2 | 14.3 | 11.2 | 21.3 | 17.5 | 25.8 | 9.5 | 15.8 |
| まったくあてはまらない | 3.3 | 4.4 | 0.0 | 1.2 | 2.1 | 3.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 教員の授業負担が減少する | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 0.0 | 1.8 | 1.8 | 0.6 | 2.1 | 2.9 | 9.7 | 0.0 | 0.0 |
| ある程度あてはまる | 8.7 | 9.2 | 7.1 | 9.9 | 19.1 | 10.0 | 6.5 | 9.5 | 15.8 |
| あまりあてはまらない | 64.1 | 58.8 | 57.1 | 56.8 | 55.3 | 51.4 | 58.1 | 61.9 | 52.6 |
| まったくあてはまらない | 27.2 | 30.1 | 33.9 | 32.7 | 23.4 | 35.7 | 25.8 | 28.6 | 31.6 |
| 教育のコストが下がる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 1.6 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 0.7 | 6.5 | 0.0 | 1.3 |
| ある程度あてはまる | 15.4 | 14.1 | 16.1 | 13.6 | 21.7 | 13.9 | 19.4 | 9.5 | 22.4 |
| あまりあてはまらない | 65.4 | 64.4 | 64.3 | 64.2 | 63.0 | 54.0 | 54.8 | 71.4 | 53.9 |
| まったくあてはまらない | 17.6 | 18.9 | 19.6 | 22.2 | 13.0 | 31.4 | 19.4 | 19.0 | 22.4 |
| 他機関との交換授業が増加する | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 18.6 | 14.7 | 19.6 | 12.3 | 15.2 | 17.3 | 9.7 | 14.3 | 18.4 |
| ある程度あてはまる | 60.7 | 58.8 | 58.9 | 67.3 | 60.9 | 57.6 | 51.6 | 61.9 | 64.5 |
| あまりあてはまらない | 18.0 | 21.0 | 19.6 | 18.5 | 21.7 | 17.3 | 32.3 | 23.8 | 17.1 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 5.5 | 1.8 | 1.9 | 2.2 | 7.9 | 6.5 | 0.0 | 0.0 |
| 教育の質が下がる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 2.8 | 1.1 | 1.8 | 5.6 | 6.7 | 2.2 | 3.2 | 0.0 | 0.0 |
| ある程度あてはまる | 18.3 | 13.3 | 21.4 | 21.7 | 26.7 | 13.7 | 25.8 | 14.3 | 14.5 |
| あまりあてはまらない | 60.6 | 61.3 | 64.3 | 60.2 | 55.6 | 61.2 | 51.6 | 85.7 | 60.5 |
| まったくあてはまらない | 18.3 | 24.4 | 12.5 | 12.4 | 11.1 | 23.0 | 19.4 | 0.0 | 25.0 |
| 高等教育の活性化につながる | | | | | | | | | |
| よくあてはまる | 22.1 | 25.8 | 28.6 | 20.5 | 13.0 | 21.6 | 22.6 | 9.5 | 25.0 |
| ある程度あてはまる | 60.8 | 56.8 | 50.0 | 56.5 | 63.0 | 57.6 | 61.3 | 81.0 | 57.9 |
| あまりあてはまらない | 16.6 | 15.5 | 21.4 | 19.9 | 21.7 | 19.4 | 12.9 | 9.5 | 15.8 |
| まったくあてはまらない | 0.6 | 1.8 | 0.0 | 3.1 | 2.2 | 1.4 | 3.2 | 0.0 | 1.3 |

9. マルチメディア利用の規定要因

マルチメディアの利用に関して設置者別、学部別に大きな違いがなく、さらにそれらの違いにも一貫した傾向がみられないことが明らかになっており、それがわが国の高等教育の特徴であるかもしれないことを指摘してきた。もし、そうだとすると、利用頻度を規定している要因として何が考えられるだろうか。

次に考えられるのが、大学機関内部の組織化の程度である。学内にマルチメディア戦略をもち、各種の支援体制を設けた方が、利用頻度が上がり、障害とみなされるその程度は低くなるのではないかと考えられる。

そこで、大学学部のデータに限定して、この調査の質問項目である、メディア関連の学内センターの有無、教員へのマルチメディア利用の研修の程度、マルチメディア教材制作の組織的な支援と、マルチメディアの利用頻度との関連を検討し、関連している項目のみをとりだしたのが、表9-1、表9-2である。マルチメディア教材の制作における学内の組織的支援の有無と、各種のメディア・テクノロジーの利用頻度との関連をみた表9-1によれば、組織的支援があると「CD-ROM教材の利用」、「インターネットによる教材の提供」、「マルチメディア教材の作成」、「パワーポイントによるプレゼンテーション」といった項目で、利用頻度が高くなっている傾向がみられる。また、逆に組織的支援が行われていないと、それぞれのメディア・テクノロジーの利用頻度も低くなっているという傾向が読みとれる。

また、教員に対するマルチメディア利用の研修を充分に行っている機関と、各種のメディア・テクノロジーの利用頻度との関連をみた表9-2によれば、おおむね研修が行われているほど利用頻度が高い傾向が認められるが、とくに「インターネット教材の提供」、「マルチメディア教材の制作」、「パワーポイントによるプレゼンテーション」、「ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用」、「電子メールによる課題の提出」、「シラバスのインターネットなどによる公開」で、研修を行っているほど利用頻度が高い。教員に対する研修が各種のメディア機器の授業での利用に結びついていることが確認できる。

このように、教材制作の組織的支援や教員に対するマルチメディア利用の組織的研修が行われているところほど、いくつかのメディア・テクノロジーの利用頻度が高いことが明らかになった。ここで得られた結果について、2点ほど考察しよう。まず、ここで、組織的な支援と関連をもったメディア・テクノロジーが、「CD-ROM教材の利用」、「インターネット教材の提供」、「マルチメディア教材の自作」、「パワーポイントによるプレゼンテーション」という共通した項目であったことである。これらは、いずれも教室内授業の補完・活性化を目的として用いられるコンピュータ・ベースのメディア・テクノロジーである。

ここから、わが国では、これらコンピュータ・ベースの教室型授業を補完の役割をはたすメディア・テクノロジーが教育の効果をあげるとみなされて利用され、それには学内の組織的支援の有無が重要な役割を果たしているというサイクルがあることが推測される。

表 9-1. マルチメディア教材制作における学内支援とマルチメディア利用頻度との関連

(%)

| 学内支援 利用頻度 | よく行われて いる | ある程度行わ れている | あまり行われ ていない | ほとんど行わ れていない |
|----------------------------|--------------|----------------|----------------|-----------------|
| CD-ROM教材の利用 | | | | |
| よく利用されている | 21.2 | 6.5 | 4.1 | 3.7 |
| ある程度利用されている | 42.2 | 50.8 | 36.5 | 35.3 |
| あまり利用されていない | 30.8 | 32.3 | 48.2 | 40.4 |
| ほとんど利用されていない | 5.8 | 10.4 | 11.2 | 20.6 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| インターネットによる教材の提供 | | | | |
| よく利用されている | 28.8 | 14.7 | 8.2 | 8.7 |
| ある程度利用されている | 30.8 | 52.8 | 47.4 | 40.5 |
| あまり利用されていない | 30.8 | 22.3 | 36.6 | 31.5 |
| ほとんど利用されていない | 9.6 | 10.2 | 7.8 | 19.3 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| マルチメディア教材の制作 | | | | |
| よく利用されている | 17.3 | 6.9 | 4.1 | 2.3 |
| ある程度利用されている | 46.2 | 46.0 | 36.0 | 21.9 |
| あまり利用されていない | 25.0 | 34.5 | 45.0 | 38.8 |
| ほとんど利用されていない | 11.5 | 12.6 | 14.9 | 37.0 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| パワーポイントによるプレゼンテーション | | | | |
| よく利用されている | 46.2 | 22.8 | 21.4 | 13.6 |
| ある程度利用されている | 28.8 | 51.4 | 48.5 | 44.3 |
| あまり利用されていない | 15.4 | 20.9 | 24.3 | 29.1 |
| ほとんど利用されていない | 9.6 | 4.9 | 5.8 | 13.0 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

表9－2．教員に対するマルチメディア利用研修とマルチメディア利用頻度との関連

(%)

| 研 修 利用頻度 | 充分に行っている | ある程度 行っている | 行っていない |
|-----------------------|----------|---------------|--------|
| インターネットによる教材の提供 | | | |
| よく利用されている | 30.0 | 13.6 | 7.8 |
| ある程度利用されている | 45.0 | 47.8 | 42.0 |
| あまり利用されていない | 20.0 | 29.0 | 31.7 |
| ほとんど利用されていない | 5.0 | 9.6 | 18.5 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| マルチメディア教材の制作 | | | |
| よく利用されている | 25.0 | 6.8 | 1.6 |
| ある程度利用されている | 35.0 | 38.7 | 25.8 |
| あまり利用されていない | 30.0 | 37.1 | 39.8 |
| ほとんど利用されていない | 10.0 | 17.4 | 32.8 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| パワーポイントによるプレゼンテーション | | | |
| よく利用されている | 60.0 | 23.3 | 13.7 |
| ある程度利用されている | 35.0 | 50.2 | 42.6 |
| あまり利用されていない | — | 19.8 | 31.7 |
| ほとんど利用されていない | 5.0 | 6.7 | 12.0 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | | | |
| よく利用されている | 20.0 | 11.7 | 5.6 |
| ある程度利用されている | 45.0 | 41.2 | 35.1 |
| あまり利用されていない | 25.0 | 36.3 | 37.7 |
| ほとんど利用されていない | 10.0 | 10.8 | 21.6 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 電子メールによる課題の提出 | | | |
| よく利用されている | 30.0 | 15.6 | 9.0 |
| ある程度利用されている | 50.0 | 41.3 | 38.1 |
| あまり利用されていない | 15.0 | 28.3 | 29.1 |
| ほとんど利用されていない | 5.0 | 14.8 | 23.8 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| シラバスのインターネットなどによる公開 | | | |
| よく利用されている | 45.0 | 14.6 | 13.0 |
| ある程度利用されている | 30.0 | 21.2 | 13.4 |
| あまり利用されていない | 15.0 | 24.6 | 20.6 |
| ほとんど利用されていない | 10.0 | 39.6 | 53.0 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

第2に、組織的な支援といったとき、メディア・センターの設置の有無は、どのメディア・テクノロジーの利用頻度とほとんど関連がみられなかった。それは、おそらくメディア・センターのサービスがネットワークの管理中心になっていることによるものと思われる。メディア・センターが利用を直接支援する機能を十分に果たしていないのである。したがって、教材制作の支援体制や教員研修を行っているところでは、利用頻度が高くなっていたわけだが、こうしたところでは、表9-3にみるように、障害のうち、「支援スタッフが不足している」、「特定の者に負担がかかる」といった人的資源の不足にかかわる問題が、やや解消しているのである。支援体制の整備の遅れが、人的資源の不足という障害につながっているのである。

このように、わが国においては機関の設置者が国立か公立か私立かという違いは、各種のメディア・テクノロジーの利用頻度とさほど関連していなかった。また、大学の学部別でも利用頻度の大きな違いはなかった。すなわち、必ずしも国立がインフラの整備が進んでマルチメディアの利用がすすんでいるわけでも、理系の学部の方が文系の学部よりも利用がすすんでいるわけでもないということである。

マルチメディアの利用頻度と関連をみせるのは、学内に利用のための組織的な支援があるか否か、教員研修があるのか否かという、学内の組織体制の有無であった。設置者や学部の違いこえて、学内の支援体制が利用を規定しているといつてよい。

そうしたとき、教員や事務職員の研修をどのように組織化するか、インストラクショナル・デザイナーなどのメディア関連のスペシャリストの養成や配置が、日本の高等教育の次の課題となろう。

表 9－3. 教材制作の学内支援・教員研修とマルチメディア利用の障害との関連 (%)

| 障 害 \ 教材制作の組織的支援 | よく行われている | ある程度行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|------------------|----------|------------|------------|-------------|
| 支援スタッフが不足している | | | | |
| よくあてはまる | 34.6 | 46.2 | 45.6 | 64.4 |
| ある程度あてはまる | 40.4 | 48.1 | 49.1 | 33.3 |
| あまりあてはまらない | 23.1 | 4.9 | 4.1 | 1.9 |
| まったくあてはまらない | 1.9 | 0.8 | 1.2 | 0.4 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 特定の者に負担がかかる | | | | |
| よくあてはまる | 38.4 | 50.3 | 51.5 | 59.6 |
| ある程度あてはまる | 30.8 | 43.2 | 43.6 | 38.3 |
| あまりあてはまらない | 23.1 | 5.7 | 4.1 | 2.1 |
| まったくあてはまらない | 7.7 | 0.8 | 2.1 | — |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 101.3 | 100.0 |

| 障 害 \ 教員研修 | 充分に行っている | ある程度行っている | 行っていない |
|---------------|----------|-----------|--------|
| 支援スタッフが不足している | | | |
| よくあてはまる | 27.8 | 49.5 | 59.4 |
| ある程度あてはまる | 44.4 | 45.5 | 36.6 |
| あまりあてはまらない | 22.2 | 4.2 | 3.4 |
| まったくあてはまらない | 5.6 | 0.8 | 0.6 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 特定の者に負担がかかる | | | |
| よくあてはまる | 33.3 | 53.7 | 55.6 |
| ある程度あてはまる | 44.5 | 40.9 | 39.8 |
| あまりあてはまらない | 22.2 | 4.2 | 4.2 |
| まったくあてはまらない | — | 1.2 | 0.4 |
| 合 計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |

10. まとめの議論

さて、わが国の大学におけるマルチメディアやITの利用実態を多面的にみるなかで、いくつか議論すべき問題や解決すべき問題が浮かび上がってきた。最後に、それらの問題をいくつか議論し、本稿を閉じることにしたい。

10-1. コスト

まず、第1にコストの問題である。コストの削減ということは度外視して導入されるマルチメディアやITは、実際に利用すると、さまざまなコストがかかるという問題があることが明らかになった。それは学内のインフラの整備、機器の維持管理はもちろんのこと、機器の利用に慣れていない教職員や学生を対象とした研修や教育にかかる費用や時間も含めてそうといえる。余分に発生するコストを誰が負担するのか、政府か学生か、あるいは機器を販売する企業か、コストの負担者の問題は避けて通ることはできない。

アメリカにおけるマルチメディアやITによる教育にどの程度のコストがかかるのかについての実証的な研究によれば、必ずしも廉価な費用ではないことが示されているし、これまでの大学教育では必要なかったコストも発生することも指摘されている (Morgan, 2000)。

また、コスト問題の系として、教材の制作や学習の支援の問題にかかる費用も考えねばならない、教員の誰でもがマルチメディア教材の制作ができないうえ、学内に教材制作の支援体制があまりなく、かつ、優れた教材が十分に利用できない状況の中で、マルチメディアを利用していこうとすると特定の者への過度の負担を免れることはできない。効果的な利用を考えるならば、教員に負担をかけずに優れた教材を制作することが重要である。これまで日本の大学では、マルチメディアやIT関連の教材制作は、教員の自己負担として行われる場合が多かったが、もし、本格的にマルチメディアやIT教材を制作しようとするならば、アメリカやカナダのように、それをメディア・スペシャリストとの共同で行う必要があるだろう。学内にスペシャリストのポジションがない日本の大学においては、スペシャリストを配置するとしたら、そのコストの問題は当然ながら、同時に組織をどのように改変するかという組織問題も生じることになる。

さらに、バーチャル・ユニバーシティのような教育形態においては、教員以外に学習の支援者が不可欠であり、それを学内の人事管理のうえでどのような地位として位置づけるかは、現状では困難が多い。

10-2. 教育効果

こうした状況が認識されているにも関わらず、マルチメディアやITの利用に関しては、教育の効果や高等教育の活性化という点で期待が寄せられている。おそらく、こうした期待こそが現在の日本の大学のマルチメディアやITの利用を促進しようとするドライブだとみることができが、それについては決して楽観視すべきではないと思われる。なぜなら、教育の質を下げないのか、あるいはどのような教育効果をもたらすのかについて一般化できる実証的な研究が乏しいからである。確かに、遠隔高等教育について長い歴史を有するアメリカでは、研究上

の知見が蓄積されているといえるが、それでも、これまでの「遠隔教育やメディアを媒介にした教育は効果がないとはいえない」という結論を導いた先行研究の再検討が行われはじめ、結論に疑問が呈せられているからである（The InstマルチメディアやITute for Higher Education Policy (1999)）。とくに、これまでの遠隔教育における各種のメディアの教育効果については研究がなされているが、はたしてマルチメディアやITが、それもオンラインによる対面式の授業を一切もたないオンライン上での双方向の授業が、これまでのメディアと同等に位置付けてその効果を測定することができるのかといった問題については、さらに研究の蓄積が必要とされる。

今後、わが国でもこれらの研究の知見や方法論を参考にしつつ、マルチメディアやITの教育効果についての研究が必至となろう。

10－3．教育方法

とはいえ、急速に浸透してくるマルチメディアやITについて手をこまねているわけには行かないだろう。各種のサポートシステムの整備と学生の学習の支援が必要である。そのためには、どのように用いたらより効果的か、どのように教えたら学生の学習はすすむかといった、教育方法についての研究が必要であろう。とくに、オンラインによる教育が急速に普及しているアメリカでは、効果的な教育方法の模索がすすめられている（Dirr, Peter J. (1999), The InstマルチメディアやITute for Higher Education Policy (2000)）。しかし、日本ではまだそうした事態そのものが、それほど一般化しているわけではないので、それについての認識も深まっているとも、それへの対処法が考案されているともいいがたい。

ただし、本稿では紙幅の関係から割愛せざるをえなかったが、調査では対面式の授業を欠いたオンラインによる教育についてどのように考えるかをきいている。それによれば、オンラインによる教育は、対面式授業の補助として用いるか、あるいは、対面式の授業をその補助として設けるか、いずれにせよ対面式の授業を全く欠いた状況で教育が行われることに対しては、危惧の念が發せられていると同時に、各種の授業を成立させるための各種の支援を必要とする声も高い。こうした意見が多数を占めている状況をみる限り、マルチメディアやITがさらに日本の高等教育に浸透していく際に、それを極端に賛美したり忌避したりするのではなく、その長所と短所を見分ようとするドライブがはたらくこと可能性を信じることができるのではないと思われる。

10－4．戦略的計画

最後に現在の日本の高等教育にとってもっとも必要とされるのは、高等教育においてマルチメディアやITをどのように利用していくのか、その戦略的な総合計画である。マルチメディアやITに対する賛美や忌避を超えて、今後の高等教育に対する社会的需要を見据え、高等教育システムのどの部分にどの程度利用していくのかについての計画の策定が必要である。

わが国の高等教育システムがおかれた状況をみれば、高等教育進学率は50%に達しようとし、少子化のなかでの進学率上昇という現象が同時発生しており、今後は拡大を遂げる高等教育システムという未来図を描くことはできない。しかし、システムの縮小の傾向のなかで、学生層

の多様化、需要の多様化は必須であろう。

こうしたなか、マルチメディアやITが高等教育システムのどこの部分で利用可能なのか、また期待された効果をもたらすのかといった、システム内部での位置づけに関する研究にもとづくプランが必要である。というのは、オルターナティブな部分なのかコアの部分なのかといった問題は、どのような学生層との親和性が深いのかといった視点と関連するため、高等教育需要を視野において問題を考える必要があるからである。

その際に、決して文部省や審議会の意向に従うのではなく、個別大学が、あるいは、いくつかの大学が共同してそれぞれに必要な戦略的なプランを考えることが重要である。それは、わが国の高等教育そのものが独自性の発揮を求められている状況であるからであるとともに、マルチメディアやITがきわめて個別化したメディアであるという特性によるものだからである。

<引用文献・参考文献>

大学審議会『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について（審議の概要）』

Dirr, Peter J. (1999), *Putting Principles Into Practice: Promoting Effective Support Services For Students In Distance Learning Programs*, The Western Cooperative for Educational Telecommunications

Morgan, Brian M. (2000) *Is Distance Learning Worth It?: Helping to Determine the Costs of Online Courses* {<http://webpages.marshall.edu/~morgan16/onlinecosts/>}

館 昭 (2000) 「ITと大学－高等教育IT戦略形成の課題－」『IDE』 pp. 5－11.

The Institute for Higher Education Policy (2000), *Quality on the Line: Benchmarks for Success in Internet－Based Distance Education*

The Institute for Higher Education Policy (1999), *What's the Difference: A Review of Contemporary Research on the Effectiveness of Distance Learning in Higher Education*

吉田 文 (1999) 「カナダ・アサバスカ大学MBA」『カレッジマネジメント』 98、リクルート社、pp.68－71.

吉田 文 (2000) 「ITの浸透を促すもの・阻むもの－高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査より－」『IDE』、pp.43－49.

< 資 料 編 >

1. 基礎集計表 I (総計・機関の種別・設置者別)

問1. 貴機関では、下記のマルチメディアや情報通信技術をどの程度利用されていますか。

Q1-1. オーディオ・カセット教材の利用

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よく行われている | 14.3 | 25.6 | 31.3 | 26.1 | 41.3 | 22.8 | 30.2 |
| ある程度行われている | 39.0 | 38.4 | 48.2 | 44.8 | 39.3 | 57.9 | 43.8 |
| あまり行われていない | 30.3 | 26.7 | 14.5 | 19.9 | 14.6 | 14.0 | 18.2 |
| ほとんど行われていない | 16.4 | 9.3 | 6.0 | 9.2 | 4.8 | 5.3 | 7.8 |

Q1-2. 録画ビデオの授業への利用

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 28.1 | 31.4 | 29.5 | 29.3 | 48.5 | 28.1 | 34.4 |
| ある程度行われている | 59.7 | 46.5 | 57.1 | 57.0 | 41.5 | 54.4 | 52.7 |
| あまり行われていない | 9.7 | 19.8 | 11.2 | 11.5 | 7.8 | 15.8 | 10.7 |
| ほとんど行われていない | 2.4 | 2.3 | 2.1 | 2.2 | 2.3 | 1.8 | 2.2 |

Q1-3. CD-ROM教材の利用

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 4.5 | 4.7 | 5.7 | 5.3 | 9.3 | 3.5 | 6.3 |
| ある程度行われている | 35.9 | 43.0 | 41.0 | 39.8 | 36.2 | 28.1 | 38.3 |
| あまり行われていない | 41.1 | 37.2 | 39.2 | 39.6 | 30.7 | 50.9 | 37.7 |
| ほとんど行われていない | 18.5 | 15.1 | 14.0 | 15.3 | 23.9 | 17.5 | 17.6 |

Q1-4. インターネットによる教材の提供

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 10.8 | 11.6 | 11.1 | 11.1 | 13.1 | 5.3 | 11.4 |
| ある程度行われている | 45.1 | 40.7 | 45.6 | 45.0 | 32.9 | 56.1 | 42.2 |
| あまり行われていない | 31.9 | 31.4 | 29.0 | 30.0 | 28.4 | 29.8 | 29.8 |
| ほとんど行われていない | 12.2 | 16.3 | 14.3 | 13.9 | 25.6 | 8.8 | 16.7 |

Q1-5. マルチメディア教材の作成

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 4.2 | 7.0 | 4.5 | 4.6 | 2.5 | 1.8 | 3.9 |
| ある程度行われている | 34.8 | 29.1 | 31.8 | 32.4 | 27.6 | 36.8 | 31.3 |
| あまり行われていない | 37.3 | 40.7 | 38.6 | 38.4 | 34.7 | 43.9 | 37.8 |
| ほとんど行われていない | 23.7 | 23.3 | 25.2 | 24.6 | 35.2 | 17.5 | 27.0 |

Q1-6. パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 21.9 | 25.6 | 17.5 | 19.4 | 13.8 | 33.3 | 18.4 |
| ある程度行われている | 52.8 | 37.2 | 44.4 | 46.1 | 41.2 | 49.1 | 44.9 |
| あまり行われていない | 19.8 | 27.9 | 27.3 | 25.3 | 22.4 | 14.0 | 24.2 |
| ほとんど行われていない | 5.6 | 9.3 | 10.8 | 9.2 | 22.6 | 3.5 | 12.5 |

Q1-7. ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よく行われている | 10.1 | 15.1 | 7.5 | 8.9 | 10.8 | 10.5 | 9.5 |
| ある程度行われている | 40.6 | 33.7 | 37.7 | 38.2 | 51.6 | 29.8 | 41.3 |
| あまり行われていない | 37.2 | 30.2 | 37.9 | 37.1 | 20.8 | 49.1 | 33.3 |
| ほとんど行われていない | 12.2 | 20.9 | 16.8 | 15.9 | 16.8 | 10.5 | 15.9 |

Q1-8. 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 11.9 | 12.8 | 11.5 | 11.7 | 9.3 | 8.8 | 10.9 |
| ある程度行われている | 42.3 | 26.7 | 34.7 | 36.2 | 26.6 | 35.1 | 33.4 |
| あまり行われていない | 30.8 | 37.2 | 29.9 | 30.8 | 15.0 | 38.6 | 26.9 |
| ほとんど行われていない | 15.0 | 23.3 | 23.8 | 21.3 | 49.1 | 17.5 | 28.7 |

Q1-9. 電子メールや電子掲示板による事務連絡

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 50.3 | 41.9 | 23.0 | 32.1 | 17.3 | 68.4 | 29.6 |
| ある程度行われている | 32.6 | 27.9 | 33.3 | 32.7 | 22.6 | 26.3 | 29.7 |
| あまり行われていない | 10.1 | 12.8 | 18.4 | 15.6 | 15.5 | 1.8 | 15.2 |
| ほとんど行われていない | 6.9 | 17.4 | 25.3 | 19.6 | 44.6 | 3.5 | 25.5 |

Q1-10. 電子メールによる課題の提出

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 13.9 | 11.6 | 12.3 | 12.7 | 14.1 | 15.8 | 13.2 |
| ある程度行われている | 45.8 | 40.7 | 37.2 | 39.9 | 25.6 | 42.1 | 36.2 |
| あまり行われていない | 28.8 | 25.6 | 28.6 | 28.4 | 16.3 | 26.3 | 25.1 |
| ほとんど行われていない | 11.5 | 22.1 | 21.9 | 19.0 | 44.0 | 15.8 | 25.4 |

Q1-11. 図書資料のデータ・ベース化

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 31.0 | 48.8 | 43.2 | 40.3 | 41.0 | 49.1 | 40.7 |
| ある程度行われている | 45.6 | 37.5 | 32.6 | 36.6 | 27.6 | 29.8 | 33.8 |
| あまり行われていない | 14.2 | 6.3 | 11.8 | 12.0 | 11.1 | 10.5 | 11.6 |
| ほとんど行われていない | 9.3 | 7.5 | 12.4 | 11.1 | 20.4 | 10.5 | 13.8 |

Q1-12. シラバスのインターネットなどによる公開

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 27.9 | 9.3 | 9.3 | 14.4 | 4.8 | 8.8 | 11.5 |
| ある程度行われている | 24.0 | 14.0 | 15.1 | 17.5 | 6.5 | 22.8 | 14.7 |
| あまり行われていない | 21.3 | 24.4 | 22.8 | 22.5 | 10.0 | 19.3 | 19.0 |
| ほとんど行われていない | 26.8 | 52.3 | 52.8 | 45.6 | 78.7 | 49.1 | 54.8 |

Q1-13. 通信衛星などによる授業

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 3.5 | 0.0 | 0.9 | 1.5 | 0.3 | 3.5 | 1.3 |
| ある程度行われている | 20.4 | 2.4 | 4.5 | 8.7 | 0.8 | 8.8 | 6.5 |
| あまり行われていない | 25.6 | 9.4 | 7.6 | 12.7 | 2.8 | 14.0 | 10.0 |
| ほとんど行われていない | 50.5 | 88.2 | 87.0 | 77.1 | 96.2 | 73.7 | 82.2 |

Q1-14. 教室の授業のWWW上への公開

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よく行われている | 1.1 | 4.7 | 0.7 | 1.2 | 0.8 | 1.8 | 1.1 |
| ある程度行われている | 13.3 | 9.4 | 7.8 | 9.5 | 3.0 | 8.8 | 7.7 |
| あまり行われていない | 21.8 | 8.2 | 16.6 | 17.4 | 9.0 | 12.3 | 14.9 |
| ほとんど行われていない | 63.9 | 77.6 | 74.8 | 72.0 | 87.2 | 77.2 | 76.4 |

問2. (=大学本部問1.)

問2. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用を促進するための支援センターを設置されていますか。

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 設置している | 62.8 | 39.5 | 55.0 | 54.9 | 25.9 | 46.4 | 41.6 |
| 設置を予定している | 14.1 | 4.7 | 10.6 | 10.7 | 9.3 | 12.5 | 10.1 |
| 設置する予定はない | 23.1 | 55.8 | 34.4 | 34.5 | 64.8 | 41.1 | 48.3 |

Q2-SQ1-B所属

| | | | | | | | |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全学附属の施設 | 47.4 | 30.2 | 40.5 | 40.7 | 18.6 | 43.9 | 30.9 |
| 部局附属の施設 | 1.3 | 0.0 | 4.0 | 3.1 | 0.0 | 0.0 | 1.5 |
| その他 | 3.8 | 0.0 | 2.8 | 2.7 | 1.5 | 0.0 | 2.0 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 10.3 | 9.3 | 8.6 | 8.9 | 6.7 | 3.5 | 8.0 |

Q2-SQ2-1. マルチメディア機器の利用方法の講習

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に行っている | 7.7 | 2.3 | 8.0 | 7.4 | 4.5 | 3.5 | 5.8 |
| 行っている | 32.1 | 16.3 | 24.8 | 25.3 | 11.4 | 10.5 | 18.2 |
| あまり行っていない | 11.5 | 14.0 | 14.1 | 13.6 | 6.0 | 21.1 | 10.8 |
| まったく行っていない | 11.5 | 7.0 | 6.7 | 7.6 | 3.5 | 10.5 | 5.9 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 1.6 | 1.5 | 1.8 | 1.6 |

Q2-SQ2-2. コンピュータ・プログラミング講習

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に行っている | 6.4 | 0.0 | 2.5 | 2.9 | 1.0 | 8.8 | 2.4 |
| 行っている | 19.2 | 14.0 | 10.7 | 12.5 | 4.5 | 14.0 | 9.1 |
| あまり行っていない | 20.5 | 4.7 | 13.5 | 13.9 | 5.7 | 14.0 | 10.3 |
| まったく行っていない | 16.7 | 20.9 | 26.1 | 23.9 | 13.6 | 8.8 | 18.4 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 2.2 | 2.0 | 1.8 | 2.2 |

Q2-SQ2-3. データベース・サービス

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 積極的に行っている | 7.7 | 0.0 | 5.2 | 5.1 | 1.7 | 1.8 | 3.4 |
| 行っている | 11.5 | 16.3 | 17.5 | 16.3 | 4.7 | 8.8 | 10.7 |
| あまり行っていない | 17.9 | 4.7 | 15.0 | 14.5 | 8.7 | 22.8 | 12.4 |
| まったく行っていない | 24.4 | 16.3 | 15.3 | 17.0 | 9.4 | 12.3 | 13.5 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 1.3 | 2.3 | 2.8 | 2.5 | 2.2 | 1.8 | 2.4 |

Q2-SQ2-4. ネットワークの管理

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に行っている | 47.4 | 20.9 | 37.4 | 37.6 | 16.9 | 38.6 | 28.4 |
| 行っている | 11.5 | 16.3 | 13.5 | 13.4 | 7.4 | 7.0 | 10.5 |
| あまり行っていない | 2.6 | 2.3 | 1.5 | 1.8 | 0.2 | 0.0 | 1.0 |
| まったく行っていない | 1.3 | 0.0 | 1.5 | 1.3 | 1.0 | 0.0 | 1.1 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 1.3 | 1.2 | 1.8 | 1.4 |

Q2-SQ2-5. マルチメディア教材の制作ならびにその支援

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に行っている | 5.1 | 2.3 | 7.1 | 6.3 | 2.7 | 1.8 | 4.4 |
| 行っている | 23.1 | 7.0 | 17.2 | 17.2 | 7.7 | 10.5 | 12.7 |
| あまり行っていない | 20.5 | 16.3 | 19.0 | 19.0 | 9.2 | 15.8 | 14.3 |
| まったく行っていない | 14.1 | 14.0 | 9.2 | 10.5 | 5.5 | 17.5 | 8.8 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 3.4 | 2.5 | 1.7 | 1.8 | 2.2 |

Q2-SQ2-6. マルチメディア機器の利用相談

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に行っている | 9.0 | 7.0 | 11.3 | 10.5 | 6.2 | 3.5 | 8.1 |
| 行っている | 33.3 | 16.3 | 32.5 | 31.1 | 14.1 | 17.5 | 22.8 |
| あまり行っていない | 16.7 | 11.6 | 7.4 | 9.4 | 2.5 | 17.5 | 6.9 |
| まったく行っていない | 3.8 | 4.7 | 2.1 | 2.7 | 2.0 | 7.0 | 2.6 |
| 非該当 | 37.2 | 60.5 | 44.2 | 44.5 | 73.2 | 52.6 | 57.6 |
| 無回答 | 0.0 | 0.0 | 2.5 | 1.8 | 2.0 | 1.8 | 2.0 |

問 3. (=大学本部問 2.)

問 3. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用に関する全学レベルの委員会が設けられていますか。

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 設置している | 68.8 | 62.8 | 61.2 | 62.7 | 49.9 | 62.5 | 56.9 |
| 設置を予定してる | 10.4 | 7.0 | 12.1 | 11.3 | 8.6 | 10.7 | 10.0 |
| 設置する予定はない | 20.8 | 30.2 | 26.7 | 26.0 | 41.5 | 26.8 | 33.1 |

Q3-SQ-A. 委員の人数

| | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|
| 0～5人 | 5.1 | 7.0 | 6.4 | 6.3 | 14.1 | 0.0 | 9.3 |
| 6～10人 | 16.7 | 37.2 | 28.2 | 27.1 | 25.6 | 22.8 | 26.2 |
| 11～15人 | 19.2 | 11.6 | 17.5 | 17.2 | 5.0 | 28.1 | 12.4 |
| 16～20人 | 16.7 | 7.0 | 5.5 | 7.6 | 1.7 | 8.8 | 5.0 |
| 21人～ | 10.3 | 0.0 | 2.5 | 3.6 | 1.0 | 1.8 | 2.3 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 1.3 | 0.0 | 1.5 | 1.3 | 3.5 | 1.8 | 2.4 |

Q3-SQ-B. 審議内容

Q3-SQ-B-1. 機器・設備の選定

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 17.9 | 16.3 | 20.9 | 19.9 | 18.6 | 17.5 | 19.1 |
| ときどき審議する | 33.3 | 25.6 | 28.8 | 29.3 | 20.8 | 31.6 | 25.7 |
| あまり審議しない | 7.7 | 14.0 | 6.4 | 7.4 | 4.7 | 3.5 | 5.9 |
| ほとんど審議しない | 6.4 | 4.7 | 4.3 | 4.7 | 3.5 | 8.8 | 4.4 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 3.8 | 2.3 | 1.2 | 1.8 | 3.2 | 1.8 | 2.5 |

Q3-SQ-B-2. マルチメディア関連カリキュラムの問題

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 7.7 | 2.3 | 5.8 | 5.8 | 5.5 | 1.8 | 5.4 |
| ときどき審議する | 24.4 | 11.6 | 22.1 | 21.5 | 16.6 | 19.3 | 19.2 |
| あまり審議しない | 15.4 | 16.3 | 16.0 | 15.9 | 12.4 | 12.3 | 14.1 |
| ほとんど審議しない | 16.7 | 30.2 | 15.3 | 17.0 | 13.4 | 28.1 | 16.0 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 5.1 | 2.3 | 2.5 | 2.9 | 3.0 | 1.8 | 3.0 |

Q3-SQ-B-3. マルチメディア支援センターの構築・改革

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 11.5 | 0.0 | 9.2 | 8.7 | 4.2 | 10.5 | 6.8 |
| ときどき審議する | 25.6 | 25.6 | 21.2 | 22.4 | 14.4 | 12.3 | 18.2 |
| あまり審議しない | 12.8 | 11.6 | 16.3 | 15.2 | 12.2 | 5.3 | 13.3 |
| ほとんど審議しない | 14.1 | 23.3 | 12.3 | 13.6 | 16.9 | 33.3 | 16.2 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 5.1 | 2.3 | 2.8 | 3.1 | 3.2 | 1.8 | 3.2 |

Q3-SQ-B-4. マルチメディア利用の将来計画の策定

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よく審議する | 19.2 | 2.3 | 11.7 | 12.1 | 9.4 | 1.8 | 10.2 |
| ときどき審議する | 32.1 | 20.9 | 33.4 | 32.0 | 20.1 | 38.6 | 27.2 |
| あまり審議しない | 7.7 | 20.9 | 9.8 | 10.5 | 8.7 | 10.5 | 9.6 |
| ほとんど審議しない | 6.4 | 16.3 | 4.9 | 6.3 | 9.7 | 10.5 | 8.0 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 3.8 | 2.3 | 1.8 | 2.2 | 3.0 | 1.8 | 2.6 |

Q3-SQ-B-5. ネットワーク・セキュリティの問題

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 28.2 | 20.9 | 18.1 | 20.1 | 15.4 | 22.8 | 18.1 |
| ときどき審議する | 26.9 | 30.2 | 32.5 | 31.3 | 23.8 | 22.8 | 27.4 |
| あまり審議しない | 6.4 | 4.7 | 5.5 | 5.6 | 6.0 | 5.3 | 5.8 |
| ほとんど審議しない | 5.1 | 4.7 | 4.0 | 4.3 | 3.0 | 10.5 | 4.1 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 2.6 | 2.3 | 1.5 | 1.8 | 2.7 | 1.8 | 2.3 |

Q3-SQ-B-6. マルチメディア利用に関するファカルティ・ディベロップメント

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 6.4 | 0.0 | 2.5 | 2.9 | 1.7 | 1.8 | 2.3 |
| ときどき審議する | 19.2 | 18.6 | 19.6 | 19.5 | 12.2 | 8.8 | 15.4 |
| あまり審議しない | 19.2 | 7.0 | 20.6 | 19.0 | 16.6 | 24.6 | 18.2 |
| ほとんど審議しない | 19.2 | 34.9 | 16.3 | 18.6 | 17.4 | 26.3 | 18.6 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 5.1 | 2.3 | 2.8 | 3.1 | 3.0 | 1.8 | 3.1 |

Q3-SQ-B-7. マルティメディアの遠隔教育の利用の問題

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 11.5 | 4.7 | 2.1 | 4.0 | 1.2 | 3.5 | 2.7 |
| ときどき審議する | 29.5 | 16.3 | 17.5 | 19.5 | 9.7 | 15.8 | 14.8 |
| あまり審議しない | 11.5 | 16.3 | 17.8 | 16.6 | 11.2 | 14.0 | 14.1 |
| ほとんど審議しない | 11.5 | 23.3 | 21.8 | 20.1 | 25.8 | 28.1 | 23.0 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 5.1 | 2.3 | 2.5 | 2.9 | 3.0 | 1.8 | 3.0 |

Q3-SQ-B-8. 知的所有権処理の問題

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく審議する | 3.8 | 0.0 | 2.5 | 2.5 | 2.0 | 1.8 | 2.2 |
| ときどき審議する | 21.8 | 11.6 | 23.0 | 21.7 | 16.9 | 10.5 | 18.7 |
| あまり審議しない | 21.8 | 16.3 | 20.9 | 20.6 | 13.4 | 21.1 | 17.4 |
| ほとんど審議しない | 15.4 | 32.6 | 13.2 | 15.4 | 15.4 | 28.1 | 16.2 |
| 非該当 | 30.8 | 37.2 | 38.3 | 36.9 | 49.1 | 36.8 | 42.4 |
| 無回答 | 6.4 | 2.3 | 2.1 | 2.9 | 3.2 | 1.8 | 3.1 |

問 4. (大学学部問 2.)

問 4. 下記の人々を対象としたマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育や研修について。

(イ) 現在おこなっていますか。

Q04-イ-1. 教員

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|---------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 充分に行っている | 3.1 | 2.4 | 1.4 | 1.9 | 0.8 | 1.8 | 1.8 |
| やや(ある程度)行っている | 47.0 | 53.6 | 50.8 | 50.0 | 49.9 | 55.4 | 50.9 |
| 行っていない | 49.8 | 44.0 | 47.8 | 48.1 | 49.4 | 42.9 | 47.3 |

Q4-イ-2. 事務職員

| | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 4.6 | 1.2 | 4.2 | 4.1 | 2.3 | 3.6 | 3.5 |
| やや(ある程度)行っている | 61.3 | 53.6 | 56.3 | 57.4 | 48.8 | 57.1 | 55.7 |
| 行っていない | 34.2 | 45.2 | 39.5 | 38.5 | 48.8 | 39.3 | 40.8 |

Q4-イ-3. TA・RA

| | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 7.4 | 7.2 | 5.7 | 6.3 | 2.9 | 0.0 | 5.1 |
| やや(ある程度)行っている | 46.5 | 40.6 | 33.0 | 37.7 | 20.1 | 24.3 | 32.5 |
| 行っていない | 46.1 | 52.2 | 61.3 | 55.9 | 77.0 | 75.7 | 62.4 |

Q4-イ-4. 学部学生

| | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 16.2 | 23.5 | 15.7 | 16.5 | 23.5 | 16.1 | 18.1 |
| やや(ある程度)行っている | 67.2 | 64.7 | 66.9 | 66.8 | 52.2 | 62.5 | 63.2 |
| 行っていない | 16.6 | 11.8 | 17.5 | 16.8 | 24.3 | 21.4 | 18.7 |

Q4-イ-5. 大学院生

| | | | | |
|---------------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 10.2 | 6.0 | 7.5 | 8.3 |
| やや(ある程度)行っている | 62.7 | 56.7 | 51.5 | 55.5 |
| 行っていない | 27.1 | 37.3 | 40.9 | 36.2 |

(ロ) 将来はどうあるべきと考えますか。

Q4-ロ-1. 教員

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 77.5 | 78.8 | 86.7 | 83.6 | 85.7 | 78.6 | 84.3 |
| 現状のままでよい | 19.2 | 20.0 | 12.5 | 14.9 | 12.0 | 21.4 | 14.2 |
| あまり行わなくてよい | 3.3 | 1.3 | 0.8 | 1.5 | 2.3 | 0.0 | 1.5 |

Q04-ロ-2. 事務職員

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 82.8 | 74.7 | 85.5 | 83.9 | 83.0 | 82.1 | 83.4 |
| 現状のままでよい | 16.1 | 25.3 | 14.2 | 15.6 | 14.4 | 17.9 | 15.6 |
| あまり行わなくてよい | 1.1 | 0.0 | 0.3 | 0.5 | 2.6 | 0.0 | 1.1 |

Q4-ロ-3. TA・RA

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| もっと行うべき | 75.0 | 69.2 | 74.2 | 74.1 | 66.4 | 64.9 | 71.9 |
| 現状のままでよい | 24.3 | 26.2 | 23.5 | 23.9 | 24.1 | 18.9 | 24.0 |
| あまり行わなくてよい | 0.7 | 4.6 | 2.4 | 2.0 | 9.4 | 16.2 | 4.1 |

Q4-ロ-4. 学部学生

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 76.1 | 80.3 | 82.1 | 80.0 | 82.3 | 75.0 | 82.5 |
| 現状のままでよい | 23.5 | 19.7 | 17.0 | 19.3 | 16.4 | 25.0 | 16.9 |
| あまり行わなくてよい | 0.4 | 0.0 | 1.0 | 0.7 | 1.3 | 0.0 | 0.6 |

Q4-ロ-5. 大学院生

| | | | | |
|------------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 77.5 | 78.0 | 85.1 | 82.5 |
| 現状のままでよい | 22.1 | 22.0 | 14.4 | 17.1 |
| あまり行わなくてよい | 0.4 | 0.0 | 0.5 | 0.4 |

問5. (大学学部問3.)

問5. 貴機関・部局では、教員がマルチメディア教材を自作する場合、以下のような支援が行われていますか。

Q5-1. 学内組織の組織的支援

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よく行われている | 2.4 | 4.7 | 6.2 | 5.0 | 3.8 | 0.0 | 4.5 |
| やや行われている | 18.8 | 16.5 | 29.6 | 25.5 | 11.5 | 12.3 | 21.1 |
| あまり行われていない | 32.1 | 21.2 | 19.8 | 23.3 | 17.8 | 22.8 | 21.8 |
| ほとんど行われていない | 46.7 | 57.6 | 44.4 | 46.1 | 66.9 | 64.9 | 52.5 |

Q5-2. 機関・部局内の担当教職員の支援

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 2.8 | 3.5 | 5.0 | 4.2 | 5.9 | 5.4 | 4.7 |
| やや行われている | 23.7 | 27.1 | 28.3 | 26.9 | 27.0 | 26.8 | 26.8 |
| あまり行われていない | 34.5 | 24.7 | 31.0 | 31.4 | 20.1 | 21.4 | 28.2 |
| ほとんど行われていない | 39.0 | 44.7 | 35.8 | 37.4 | 47.1 | 46.4 | 40.3 |

Q5-3. ボランティア教員の支援

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 4.9 | 4.7 | 4.4 | 4.6 | 5.1 | 5.3 | 4.7 |
| やや行われている | 27.6 | 23.5 | 28.5 | 27.9 | 19.2 | 24.6 | 25.6 |
| あまり行われていない | 33.2 | 23.5 | 26.1 | 27.9 | 19.2 | 26.3 | 25.5 |
| ほとんど行われていない | 34.3 | 48.2 | 41.0 | 39.7 | 56.4 | 43.9 | 44.2 |

Q5－4. ボランティア学生の支援

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よく行われている | 3.8 | 2.4 | 1.8 | 2.4 | 0.8 | 1.8 | 2.0 |
| やや行われている | 24.7 | 16.5 | 19.4 | 20.6 | 9.0 | 17.5 | 17.5 |
| あまり行われていない | 33.4 | 27.1 | 27.7 | 29.3 | 16.3 | 19.3 | 25.5 |
| ほとんど行われていない | 38.0 | 54.1 | 51.1 | 47.7 | 73.9 | 61.4 | 55.1 |

Q5－5. 民間企業などへの外注

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 0.7 | 1.2 | 1.5 | 1.3 | 1.5 | 0.0 | 1.3 |
| やや行われている | 10.5 | 10.6 | 11.6 | 11.2 | 8.9 | 5.3 | 10.3 |
| あまり行われていない | 23.8 | 16.5 | 18.9 | 20.0 | 12.7 | 7.0 | 17.7 |
| ほとんど行われていない | 65.0 | 71.8 | 68.0 | 67.5 | 76.8 | 87.7 | 70.7 |

問6. (＝大学学部問4.)

問6. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術を利用される目的をどのようにお考えですか。

Q6－1. 教育のコストを抑えるため

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 2.8 | 1.2 | 3.5 | 3.1 | 2.8 | 1.8 | 2.9 |
| ややあてはまる | 21.7 | 17.6 | 15.2 | 17.2 | 17.9 | 17.9 | 17.4 |
| あまりあてはまらない | 55.9 | 54.1 | 58.1 | 57.2 | 53.1 | 55.4 | 56.3 |
| まったくあてはまらない | 19.6 | 27.1 | 23.3 | 22.6 | 26.2 | 25.0 | 23.4 |

Q6－2. カリキュラム改革のため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 17.0 | 9.2 | 12.6 | 13.5 | 21.6 | 10.5 | 15.5 |
| ややあてはまる | 53.5 | 50.6 | 54.9 | 54.1 | 47.8 | 54.4 | 52.5 |
| あまりあてはまらない | 23.6 | 27.6 | 26.8 | 26.0 | 23.4 | 26.3 | 25.4 |
| まったくあてはまらない | 5.9 | 12.6 | 5.8 | 6.4 | 7.1 | 8.8 | 6.6 |

Q6－3. 教育の効果をあげるため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 50.5 | 52.9 | 51.5 | 51.3 | 61.9 | 54.4 | 54.3 |
| ややあてはまる | 44.6 | 44.8 | 45.8 | 45.4 | 36.0 | 45.6 | 42.9 |
| あまりあてはまらない | 3.8 | 2.3 | 2.7 | 3.0 | 0.5 | 0.0 | 2.2 |
| まったくあてはまらない | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 1.5 | 0.0 | 0.6 |

Q6－4. 新技術を教育へ応用するため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 32.9 | 41.4 | 37.0 | 36.2 | 44.5 | 36.8 | 38.3 |
| ややあてはまる | 49.8 | 49.4 | 48.4 | 48.9 | 42.5 | 54.4 | 47.5 |
| あまりあてはまらない | 14.9 | 8.0 | 12.7 | 12.9 | 9.4 | 7.0 | 11.8 |
| まったくあてはまらない | 2.4 | 1.1 | 1.8 | 1.9 | 3.6 | 1.8 | 2.3 |

Q6－5．新たな学生層を開拓するため

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 11.5 | 12.8 | 16.8 | 15.0 | 19.4 | 10.5 | 15.9 |
| ややあてはまる | 35.1 | 32.6 | 45.0 | 41.2 | 47.3 | 28.1 | 42.2 |
| あまりあてはまらない | 44.4 | 45.3 | 34.6 | 38.2 | 27.1 | 40.4 | 35.6 |
| まったくあてはまらない | 9.0 | 9.3 | 3.6 | 5.6 | 6.1 | 21.1 | 6.3 |

Q6－6．研究上の知見を共有するため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 32.2 | 31.0 | 30.3 | 30.9 | 20.7 | 28.1 | 28.2 |
| ややあてはまる | 49.8 | 57.5 | 54.0 | 53.1 | 54.1 | 50.9 | 53.2 |
| あまりあてはまらない | 15.9 | 9.2 | 14.8 | 14.6 | 19.6 | 21.1 | 16.3 |
| まったくあてはまらない | 2.1 | 2.3 | 0.9 | 1.3 | 5.6 | 0.0 | 2.4 |

Q6－7．教員の負荷を減少するため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 6.9 | 5.8 | 4.4 | 5.2 | 4.9 | 10.5 | 5.3 |
| ややあてはまる | 31.5 | 32.6 | 25.9 | 28.0 | 25.4 | 22.8 | 27.1 |
| あまりあてはまらない | 47.4 | 44.2 | 51.3 | 49.6 | 52.3 | 47.4 | 50.4 |
| まったくあてはまらない | 14.2 | 17.4 | 18.5 | 17.2 | 17.4 | 19.3 | 17.3 |

Q6－8．学生の動機づけを高めるため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 38.1 | 34.5 | 38.6 | 38.1 | 40.8 | 39.3 | 38.9 |
| ややあてはまる | 51.6 | 51.7 | 53.2 | 52.6 | 49.0 | 51.8 | 51.6 |
| あまりあてはまらない | 9.0 | 11.5 | 7.8 | 8.4 | 7.9 | 8.9 | 8.3 |
| まったくあてはまらない | 1.4 | 2.3 | 0.4 | 0.9 | 2.3 | 0.0 | 1.2 |

Q6－9．機関の活動の公開のため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 41.9 | 31.0 | 25.7 | 30.6 | 18.9 | 31.6 | 27.6 |
| ややあてはまる | 48.1 | 58.6 | 52.5 | 51.8 | 50.4 | 43.9 | 51.0 |
| あまりあてはまらない | 8.0 | 9.2 | 18.6 | 14.9 | 23.5 | 19.3 | 17.5 |
| まったくあてはまらない | 2.1 | 1.1 | 3.2 | 2.7 | 7.2 | 5.3 | 3.9 |

Q6－10．広報活動のため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 48.8 | 37.9 | 34.2 | 38.6 | 32.7 | 36.8 | 37.0 |
| ややあてはまる | 41.5 | 50.6 | 50.7 | 48.1 | 51.0 | 49.1 | 48.9 |
| あまりあてはまらない | 8.7 | 10.3 | 13.0 | 11.6 | 12.0 | 8.8 | 11.6 |
| まったくあてはまらない | 1.0 | 1.1 | 2.1 | 1.7 | 4.3 | 5.3 | 2.5 |

Q6－11．事務運営の効率化のため

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 38.1 | 24.1 | 25.6 | 28.9 | 30.1 | 26.8 | 29.1 |
| ややあてはまる | 48.1 | 55.2 | 47.2 | 48.1 | 46.4 | 39.3 | 47.4 |
| あまりあてはまらない | 11.4 | 17.2 | 22.4 | 18.9 | 18.1 | 25.0 | 18.8 |
| まったくあてはまらない | 2.4 | 3.4 | 4.8 | 4.1 | 5.4 | 8.9 | 4.7 |

問 7. (=大学学部問 5.)

問 7. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用に関して、どのような雰囲気がありますか。

Q7-1. 本部の管理層

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 全体として積極的 | 41.8 | 30.5 | 30.8 | 33.7 | 28.0 | 30.4 | 31.9 |
| 一部が積極的 | 46.2 | 48.8 | 51.2 | 49.7 | 47.0 | 58.9 | 49.5 |
| 一部が消極的 | 6.9 | 13.4 | 10.3 | 9.6 | 9.5 | 7.1 | 9.5 |
| 全体として消極的 | 5.1 | 7.3 | 7.7 | 7.0 | 15.4 | 3.6 | 9.2 |

Q7-2. 教 員

| | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 28.9 | 30.2 | 21.3 | 24.1 | 21.3 | 15.8 | 22.9 |
| 一部が積極的 | 62.7 | 60.5 | 66.2 | 64.8 | 64.6 | 78.9 | 65.4 |
| 一部が消極的 | 5.6 | 7.0 | 10.6 | 8.9 | 7.6 | 3.5 | 8.3 |
| 全体として消極的 | 2.8 | 2.3 | 1.9 | 2.2 | 6.6 | 1.8 | 3.4 |

Q7-3. 事務職員

| | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 30.1 | 23.2 | 26.8 | 27.4 | 26.0 | 17.9 | 26.5 |
| 一部が積極的 | 55.2 | 59.8 | 55.4 | 55.7 | 54.5 | 67.9 | 55.9 |
| 一部が消極的 | 8.7 | 11.0 | 12.2 | 11.2 | 10.9 | 5.4 | 10.9 |
| 全体として消極的 | 5.9 | 6.1 | 5.6 | 5.7 | 8.7 | 8.9 | 6.7 |

Q7-4. 学部・学科学生

| | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 41.2 | 55.3 | 37.4 | 39.9 | 36.3 | 21.1 | 38.2 |
| 一部が積極的 | 52.0 | 37.6 | 54.0 | 52.1 | 50.5 | 68.4 | 52.2 |
| 一部が消極的 | 2.9 | 4.7 | 4.9 | 4.3 | 6.1 | 3.5 | 4.8 |
| 全体として消極的 | 4.0 | 2.4 | 3.8 | 3.7 | 7.1 | 7.0 | 4.8 |

Q7-5. 大学院生

| | | | | |
|----------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 43.9 | 53.1 | 40.0 | 42.2 |
| 一部が積極的 | 48.8 | 37.5 | 50.8 | 49.1 |
| 一部が消極的 | 3.2 | 4.7 | 3.5 | 3.5 |
| 全体として消極的 | 4.2 | 4.7 | 5.8 | 5.2 |

問 8. (=学部問 6.)

問 8. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用にあたって、何が障害になると思われますか。

Q 8-1. 機器設備の導入費用がかかる

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 62.9 | 55.2 | 57.4 | 58.8 | 76.1 | 64.9 | 63.5 |
| ややあてはまる | 31.8 | 36.8 | 39.0 | 36.8 | 20.3 | 28.1 | 32.2 |
| あまりあてはまらない | 5.2 | 6.9 | 3.4 | 4.2 | 3.0 | 7.0 | 4.0 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 1.1 | 0.1 | 0.2 | 0.5 | 0.0 | 0.3 |

Q 8-2. 機器設備の数が不十分

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 56.6 | 37.2 | 39.5 | 44.0 | 45.5 | 43.9 | 44.5 |
| ややあてはまる | 36.7 | 40.7 | 49.1 | 45.0 | 38.7 | 35.1 | 42.9 |
| あまりあてはまらない | 6.3 | 17.4 | 11.1 | 10.3 | 14.2 | 21.1 | 11.7 |
| まったくあてはまらない | 0.3 | 4.7 | 0.3 | 0.7 | 1.5 | 0.0 | 0.9 |

Q 8-3. 機器設備の維持費用がかかる

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 57.2 | 49.4 | 46.7 | 49.8 | 59.3 | 47.4 | 52.1 |
| ややあてはまる | 34.7 | 35.6 | 44.3 | 41.0 | 33.8 | 40.4 | 39.2 |
| あまりあてはまらない | 8.1 | 12.6 | 9.0 | 9.0 | 5.9 | 12.3 | 8.3 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 2.3 | 0.0 | 0.2 | 1.0 | 0.0 | 0.4 |

Q 8-4. 教員のメディア活用能力が低い

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 12.6 | 9.3 | 18.2 | 15.9 | 19.7 | 17.5 | 17.0 |
| ややあてはまる | 54.7 | 59.3 | 59.2 | 58.0 | 60.5 | 42.1 | 58.2 |
| あまりあてはまらない | 31.9 | 29.1 | 20.4 | 24.3 | 17.9 | 38.6 | 23.0 |
| まったくあてはまらない | 0.7 | 2.3 | 2.2 | 1.8 | 1.8 | 1.8 | 1.8 |

Q 8-5. 授業で利用する必要がない

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 1.4 | 1.1 | 1.5 | 1.4 | 1.0 | 0.0 | 1.3 |
| ややあてはまる | 22.4 | 21.8 | 21.6 | 21.8 | 18.9 | 21.1 | 21.2 |
| あまりあてはまらない | 50.7 | 52.9 | 55.0 | 53.6 | 55.8 | 63.2 | 54.5 |
| まったくあてはまらない | 25.5 | 24.1 | 21.9 | 23.1 | 24.3 | 15.8 | 23.1 |

Q 8-6. 利用による教育効果がない

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 1.1 | 1.2 | 0.6 | 0.8 | 0.8 | 0.0 | 0.7 |
| ややあてはまる | 13.7 | 8.2 | 14.1 | 13.5 | 7.7 | 10.5 | 11.9 |
| あまりあてはまらない | 57.5 | 58.8 | 57.8 | 57.8 | 62.1 | 70.2 | 59.4 |
| まったくあてはまらない | 27.7 | 31.8 | 27.5 | 27.9 | 29.5 | 19.3 | 28.0 |

Q8－7. 利用できる教材が不足している

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 19.0 | 23.0 | 20.3 | 20.2 | 16.8 | 28.1 | 19.6 |
| ややあてはまる | 58.8 | 52.9 | 56.8 | 57.0 | 51.5 | 56.1 | 55.6 |
| あまりあてはまらない | 19.4 | 19.5 | 20.3 | 20.0 | 28.6 | 14.0 | 22.0 |
| まったくあてはまらない | 2.8 | 4.6 | 2.7 | 2.9 | 3.1 | 1.8 | 2.9 |

Q8－8. 学生のメディア活用能力が低い

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 2.5 | 2.4 | 3.4 | 3.1 | 4.3 | 1.8 | 3.3 |
| ややあてはまる | 26.1 | 22.4 | 32.7 | 30.0 | 40.2 | 19.3 | 32.4 |
| あまりあてはまらない | 55.6 | 65.9 | 55.9 | 56.6 | 46.8 | 66.7 | 54.2 |
| まったくあてはまらない | 15.8 | 9.4 | 8.0 | 10.3 | 8.7 | 12.3 | 10.1 |

Q8－9. 事務職員が対応できない

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 12.2 | 17.4 | 13.0 | 13.2 | 11.0 | 10.7 | 12.5 |
| ややあてはまる | 50.7 | 47.7 | 46.0 | 47.5 | 47.6 | 41.1 | 47.1 |
| あまりあてはまらない | 31.5 | 25.6 | 35.9 | 33.8 | 34.3 | 42.9 | 34.4 |
| まったくあてはまらない | 5.6 | 9.3 | 5.1 | 5.6 | 7.2 | 5.4 | 6.1 |

Q8－10. 支援スタッフが不足している

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 65.4 | 60.9 | 48.3 | 54.0 | 50.3 | 52.6 | 53.0 |
| ややあてはまる | 31.8 | 35.6 | 45.8 | 41.1 | 41.0 | 45.6 | 41.3 |
| あまりあてはまらない | 2.4 | 2.3 | 5.1 | 4.1 | 8.5 | 1.8 | 5.2 |
| まったくあてはまらない | 0.3 | 1.1 | 0.9 | 0.8 | 0.3 | 0.0 | 0.6 |

Q8－11. 利用の準備に時間がかかる

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 43.3 | 34.9 | 33.1 | 36.0 | 29.1 | 42.9 | 34.4 |
| ややあてはまる | 45.1 | 50.0 | 54.7 | 51.7 | 51.3 | 46.4 | 51.4 |
| あまりあてはまらない | 11.6 | 12.8 | 11.6 | 11.7 | 17.9 | 10.7 | 13.3 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 2.3 | 0.6 | 0.6 | 1.8 | 0.0 | 0.9 |

Q8－12. 特定の者に負担がかかる

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 66.8 | 52.9 | 49.2 | 54.3 | 54.2 | 64.9 | 54.7 |
| ややあてはまる | 31.1 | 39.1 | 44.6 | 40.4 | 38.9 | 35.1 | 39.8 |
| あまりあてはまらない | 2.1 | 5.7 | 5.3 | 4.5 | 5.6 | 0.0 | 4.6 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 2.3 | 0.9 | 0.8 | 1.3 | 0.0 | 0.9 |

問 9. (=大学学部問 7.)

問 9. 貴機関では、現在、下記の通信技術を教育などに利用されていますか。

Q 9-1. 衛星通信

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 利用している | 40.8 | | 7.6 | 16.2 | 2.3 | 25.5 | 14.2 |
| 利用を予定している | 23.4 | 12.8 | 13.2 | 16.0 | 5.2 | 36.4 | 13.4 |
| 利用する予定はない | 35.8 | 87.2 | 79.3 | 67.9 | 92.5 | 38.2 | 72.4 |

Q 9-2. 地上系通信

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 利用している | 33.2 | 24.7 | 29.6 | 30.1 | 26.0 | 25.5 | 34.4 |
| 利用を予定している | 19.4 | 14.1 | 17.0 | 17.4 | 11.7 | 17.6 | 15.6 |
| 利用する予定はない | 47.4 | 61.2 | 53.4 | 52.5 | 62.2 | 56.9 | 50.1 |

Q 9-SQ 1-1. 衛星通信の年間利用回数

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| ～ 5 回 | 29.8 | 4.6 | 7.3 | 13.2 | 4.5 | 15.8 | 11.0 |
| 6 ～ 15 回 | 15.2 | 2.3 | 3.1 | 6.4 | 0.5 | 17.5 | 5.3 |
| 16 ～ 25 回 | 4.5 | 0.0 | 2.2 | 2.7 | 0.7 | 5.3 | 2.2 |
| 26 ～ 35 回 | 4.2 | 0.0 | 1.0 | 1.8 | 0.2 | 1.8 | 1.4 |
| 36 ～ | 5.5 | 1.1 | 2.5 | 3.2 | 0.2 | 10.5 | 2.7 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| 無回答 | 14.9 | 32.2 | 34.5 | 28.9 | 34.7 | 17.5 | 30.0 |

Q 9-SQ 1-2. 地上系通信の年間利用回数

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| ～ 5 回 | 13.5 | 6.9 | 8.1 | 9.5 | 9.2 | 14.0 | 9.5 |
| 6 ～ 15 回 | 11.1 | 8.0 | 8.4 | 9.1 | 4.0 | 10.5 | 7.8 |
| 16 ～ 25 回 | 5.5 | 4.6 | 4.7 | 4.9 | 2.5 | 8.8 | 4.4 |
| 26 ～ 35 回 | 1.4 | 2.3 | 1.6 | 1.6 | 0.7 | 0.0 | 1.4 |
| 36 ～ | 13.8 | 13.8 | 18.2 | 16.7 | 17.1 | 5.3 | 16.3 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| 無回答 | 28.7 | 4.6 | 9.5 | 14.4 | 7.4 | 29.8 | 13.1 |

Q 9-SQ 2-1. 衛星通信の利用場面

Q 9-SQ 2-1(1). 共通教養教育

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 15.2 | 2.3 | 6.8 | 8.8 | 4.0 | 28.1 | 8.1 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 58.8 | 37.9 | 43.9 | 47.5 | 37.0 | 40.4 | 44.5 |

Q 9-SQ 2-2(2). 専門教育

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 26.3 | 2.3 | 8.7 | 13.0 | 4.2 | 36.8 | 11.6 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 47.8 | 37.9 | 41.9 | 43.2 | 36.7 | 31.6 | 41.0 |

Q9-SQ2-1(3). 語学教育

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| あてはまる | 6.2 | 1.1 | 5.6 | 5.4 | 3.0 | 22.8 | 5.4 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 67.8 | 39.1 | 45.0 | 50.8 | 38.0 | 45.6 | 47.1 |

Q9-SQ2-1(4). 補習教育

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 1.4 | 0.0 | 2.7 | 2.1 | 0.7 | 12.3 | 2.1 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 72.7 | 40.2 | 48.0 | 54.1 | 40.2 | 56.1 | 50.5 |

Q9-SQ2-1(5). 社会人対象の研修や公開講座

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 20.4 | 4.6 | 7.4 | 10.8 | 1.7 | 15.8 | 8.5 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 53.6 | 35.6 | 43.3 | 45.5 | 39.2 | 52.6 | 44.1 |

Q9-SQ2-1(6). 教員や学生の研究会

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 33.9 | 5.7 | 4.7 | 12.8 | 1.0 | 42.1 | 10.8 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 40.1 | 34.5 | 45.9 | 43.4 | 40.0 | 26.3 | 41.8 |

Q9-SQ2-1(7). 教員や職員の会議

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 20.4 | 1.1 | 3.6 | 8.0 | 1.0 | 33.3 | 7.0 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 53.6 | 39.1 | 47.1 | 48.2 | 40.0 | 35.1 | 45.6 |

Q9-SQ2-1(8). 大学院生対象の教育

| | | | | |
|-------------|------|------|------|------|
| あてはまる | 29.4 | 1.1 | 4.7 | 11.2 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 |
| あてはまらない・無回答 | 44.6 | 39.1 | 45.9 | 45.0 |

Q9-SQ2-2. 地上系通信の利用場面

Q9-SQ2-2(1). 共通教養教育

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 16.6 | 21.8 | 20.7 | 19.7 | 19.9 | 19.3 | 19.8 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 57.4 | 18.4 | 29.9 | 36.5 | 21.1 | 49.1 | 32.8 |

Q9-SQ2-2(2). 専門教育

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 24.6 | 23.0 | 27.9 | 26.5 | 25.1 | 26.3 | 26.1 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.8 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 49.5 | 17.2 | 22.8 | 29.7 | 15.9 | 42.1 | 26.5 |

Q9-SQ2-2(3). 語学教育

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| あてはまる | 5.5 | 18.4 | 14.2 | 12.2 | 10.9 | 17.5 | 12.0 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 68.5 | 21.8 | 36.4 | 44.1 | 30.0 | 50.9 | 40.6 |

Q9-SQ2-2(4). 補習教育

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.9 | 6.9 | 9.0 | 8.0 | 6.7 | 8.8 | 7.6 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 68.2 | 33.3 | 41.6 | 48.2 | 34.2 | 59.6 | 45.0 |

Q9-SQ2-2(5). 社会人対象の研修や公開講座

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 17.0 | 13.8 | 16.1 | 16.2 | 12.4 | 17.5 | 15.2 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 57.1 | 26.4 | 34.5 | 40.1 | 28.5 | 50.9 | 37.4 |

Q9-SQ2-2(6). 教員や学生の研究会

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 20.8 | 11.5 | 15.4 | 16.6 | 12.7 | 17.5 | 15.7 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 53.3 | 28.7 | 35.3 | 39.7 | 28.3 | 50.9 | 36.9 |

Q9-SQ2-2(7). 教員や職員の会議

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 26.0 | 17.2 | 18.2 | 20.3 | 7.7 | 12.3 | 16.6 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 48.1 | 23.0 | 32.4 | 36.0 | 33.3 | 56.1 | 36.0 |

Q9-SQ2-2(8). 大学院生対象の教育

| | | | | |
|-------------|------|------|------|------|
| あてはまる | 20.8 | 11.5 | 15.1 | 16.4 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 |
| あてはまらない・無回答 | 53.3 | 28.7 | 35.6 | 39.9 |

Q9-SQ3. どのような方法によって通信を確保していますか。

Q9-SQ3-1. 衛星通信の確保

Q9-SQ3-1(1). 双方向の音声・映像による同時の交信

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 51.2 | 1.1 | 9.6 | 20.4 | 2.5 | 42.1 | 16.3 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 22.8 | 39.1 | 41.0 | 35.9 | 38.5 | 26.3 | 36.2 |

Q9-SQ3-1(2). 音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 4.5 | 2.3 | 2.5 | 3.0 | 1.0 | 3.5 | 2.5 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 69.6 | 37.9 | 48.1 | 53.2 | 40.0 | 64.9 | 50.1 |

Q9-SQ3-1(3). 音声・映像による送信と、その後にその他の手段による返信

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| あてはまる | 4.5 | 0.0 | 1.9 | 2.5 | 0.2 | 3.5 | 1.9 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 69.6 | 40.2 | 48.7 | 53.8 | 40.7 | 64.9 | 50.7 |

Q9-SQ3-1(4). 一方向の音声・映像

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.5 | 2.3 | 3.0 | 3.6 | 1.2 | 12.3 | 3.3 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 68.5 | 37.9 | 47.7 | 52.6 | 39.7 | 56.1 | 49.2 |

Q9-SQ3-2. 地上系通信の確保

Q9-SQ3-2(1). 双方向の音声・映像による同時の交信

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 29.8 | 17.2 | 21.3 | 23.3 | 12.2 | 21.1 | 20.2 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 44.3 | 23.0 | 29.3 | 32.9 | 28.8 | 47.4 | 32.4 |

Q9-SQ3-2(2). 音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 9.0 | 10.3 | 11.4 | 10.7 | 10.7 | 1.8 | 10.4 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 65.1 | 29.9 | 39.3 | 45.6 | 30.3 | 66.7 | 42.2 |

Q9-SQ3-2(3). 音声・映像による送信と、その後にその他の手段による返信

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 11.1 | 5.7 | 10.8 | 10.5 | 10.7 | 14.0 | 10.7 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 63.0 | 34.5 | 39.9 | 45.8 | 30.3 | 54.4 | 41.9 |

Q9-SQ3-2(4). 一方向の音声・映像

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 10.4 | 10.3 | 12.4 | 11.7 | 11.9 | 0.0 | 11.3 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 63.7 | 29.9 | 38.2 | 44.5 | 29.0 | 68.4 | 41.3 |

Q9-SQ4. どの地点と接続していますか

Q9-SQ4-1. 衛星通信

Q9-SQ4-1(1). 同一機関内

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 6.6 | 1.1 | 3.9 | 4.4 | 1.0 | 3.5 | 3.4 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 67.5 | 39.1 | 46.8 | 51.9 | 40.0 | 64.9 | 49.2 |

Q9-SQ4-1(2). 国内の他機関

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 53.3 | 1.1 | 9.3 | 20.7 | 4.0 | 47.4 | 17.2 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 20.8 | 39.1 | 41.3 | 35.5 | 37.0 | 21.1 | 35.4 |

Q9-SQ4-1(3). 海外の他機関

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| あてはまる | 3.5 | 2.3 | 3.6 | 3.4 | 0.5 | 1.8 | 2.6 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 70.6 | 37.9 | 47.1 | 52.8 | 40.4 | 66.7 | 50.0 |

Q9-SQ4-2. 地上系通信

Q9-SQ4-2(1). 同一機関内

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 30.8 | 17.2 | 27.9 | 27.8 | 16.4 | 8.8 | 24.1 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 43.3 | 23.0 | 22.8 | 28.4 | 24.6 | 59.6 | 28.5 |

Q9-SQ4-2(2). 国内の他機関

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 22.5 | 25.3 | 21.8 | 22.3 | 20.8 | 31.6 | 22.3 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 51.6 | 14.9 | 28.9 | 34.0 | 20.1 | 36.8 | 30.3 |

Q9-SQ4-2(3). 海外の他機関

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 6.2 | 6.9 | 8.4 | 7.7 | 5.7 | 5.3 | 7.2 |
| 非該当 | 26.0 | 59.8 | 49.3 | 43.8 | 59.1 | 31.6 | 47.4 |
| あてはまらない・無回答 | 67.8 | 33.3 | 42.2 | 48.5 | 35.2 | 0.0 | 45.4 |

問10. (=大学学部問8.)

問10. 貴機関ではインターネットを導入されていますか。

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|----------|-------|------|------|------|------|-------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 導入している | 100.0 | 98.8 | 97.9 | 98.5 | 93.0 | 100.0 | 97.4 |
| 導入を予定してる | 0.0 | 1.2 | 1.2 | 0.9 | 4.0 | 0.0 | 1.5 |
| 導入の予定はない | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.1 |

Q10-SQ1. IDの付与

Q10-SQ1-1. 教員に

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 62.6 | 72.4 | 55.1 | 58.6 | 44.2 | 96.5 | 56.2 |
| 希望者に与えている | 32.5 | 25.3 | 37.0 | 34.8 | 31.5 | 1.8 | 32.9 |
| 一部に与えている | 0.7 | 0.0 | 1.8 | 1.3 | 8.4 | 0.0 | 3.2 |
| 与えていない | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 1.3 | 11.4 | 1.8 | 4.0 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 4.2 | 2.3 | 3.1 | 3.3 | 1.5 | 0.0 | 2.6 |

Q10-SQ1-2. 事務職員に

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 全員に与えている | 64.4 | 47.1 | 54.8 | 56.8 | 38.7 | 89.5 | 53.2 |
| 希望者に与えている | 26.3 | 32.2 | 29.8 | 29.0 | 28.3 | 5.3 | 28.1 |
| 一部に与えている | 4.8 | 11.5 | 7.6 | 7.1 | 15.9 | 0.0 | 9.2 |
| 与えていない | 0.0 | 4.6 | 3.4 | 2.6 | 12.7 | 3.5 | 5.3 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 4.5 | 4.6 | 3.6 | 3.9 | 1.5 | 1.8 | 3.0 |

Q10-SQ1-3. 学部学生に

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 55.7 | 60.9 | 52.4 | 54.0 | 42.7 | 56.1 | 51.2 |
| 希望者に与えている | 28.4 | 19.5 | 27.4 | 27.0 | 18.6 | 19.3 | 24.6 |
| 一部に与えている | 4.2 | 9.2 | 4.4 | 4.8 | 10.4 | 21.1 | 6.8 |
| 与えていない | 4.2 | 5.7 | 10.2 | 8.2 | 23.8 | 3.5 | 12.1 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 7.6 | 4.6 | 4.6 | 5.4 | 1.5 | 0.0 | 4.1 |

Q10-SQ1-4. 卒業生に

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 0.3 | 1.1 | 1.0 | 0.9 | 0.2 | 0.0 | 0.7 |
| 希望者に与えている | 3.8 | 5.7 | 5.0 | 4.8 | 2.7 | 0.0 | 4.0 |
| 一部に与えている | 6.9 | 4.6 | 5.5 | 5.8 | 4.7 | 7.0 | 5.5 |
| 与えていない | 81.0 | 71.3 | 78.2 | 78.4 | 85.6 | 93.0 | 81.1 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 8.0 | 17.2 | 9.3 | 9.6 | 3.7 | 0.0 | 7.5 |

Q10-SQ1-5. 大学院生に

| | | | | |
|-----------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 56.4 | 43.7 | 40.3 | 45.0 |
| 希望者に与えている | 36.7 | 20.7 | 28.1 | 29.9 |
| 一部に与えている | 1.4 | 6.9 | 2.2 | 2.4 |
| 与えていない | 0.0 | 2.3 | 5.2 | 3.5 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 |
| 無回答 | 5.5 | 26.4 | 23.3 | 18.6 |

Q10-SQ2. インターネット利用に関する教育・研修

Q10-SQ2-1. 教員に

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 4.5 | 6.9 | 10.5 | 8.6 | 8.2 | 15.8 | 8.8 |
| 希望者に行っている | 28.7 | 40.2 | 40.7 | 37.4 | 33.0 | 26.3 | 35.9 |
| 一部に行っている | 20.8 | 16.1 | 17.8 | 18.5 | 17.4 | 31.6 | 18.8 |
| 行っていない | 39.4 | 34.5 | 27.0 | 31.0 | 37.0 | 26.3 | 32.3 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 6.6 | 2.3 | 3.1 | 4.0 | 1.5 | 0.0 | 3.0 |

Q10-SQ2-2. 事務職員に

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 全員に行っている | 11.8 | 9.2 | 20.3 | 17.0 | 9.9 | 22.8 | 15.3 |
| 希望者に行っている | 34.6 | 34.5 | 32.3 | 33.1 | 31.5 | 28.1 | 32.7 |
| 一部に行っている | 20.8 | 20.7 | 18.2 | 19.1 | 19.9 | 26.3 | 19.6 |
| 行っていない | 27.0 | 29.9 | 24.1 | 25.4 | 34.5 | 22.8 | 27.6 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 5.9 | 5.7 | 4.1 | 4.8 | 1.5 | 0.0 | 3.5 |

Q10-SQ2-3. 学部学生に

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 46.0 | 54.0 | 41.6 | 43.9 | 40.9 | 63.2 | 43.9 |
| 希望者に行っている | 21.1 | 21.8 | 32.4 | 28.4 | 24.8 | 10.5 | 26.9 |
| 一部に行っている | 16.6 | 11.5 | 12.0 | 13.2 | 16.9 | 22.8 | 14.5 |
| 行っていない | 8.3 | 9.2 | 8.6 | 8.6 | 12.7 | 3.5 | 9.4 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 | 3.0 | 0.0 | 1.2 |
| 無回答 | 8.0 | 3.4 | 4.4 | 5.3 | 1.7 | 0.0 | 4.1 |

Q10-SQ2-4. 大学院生に

| | | | | |
|-----------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 15.2 | 18.4 | 13.2 | 14.2 |
| 希望者に行っている | 33.9 | 25.3 | 33.3 | 32.8 |
| 一部に行っている | 22.1 | 12.6 | 9.6 | 13.3 |
| 行っていない | 21.8 | 17.2 | 19.3 | 19.8 |
| 非該当 | 0.0 | 0.0 | 0.9 | 0.6 |
| 無回答 | 6.9 | 26.4 | 23.7 | 19.3 |

問11. (=大学学部問9.)

問11. 貴機関では学生にパソコンの所持を義務づけていますか。

Q11-1. 学部学生に

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 義務づけている | 3.2 | 0.0 | 5.6 | 4.5 | 2.5 | 0.0 | 3.8 |
| 一部に義務づけている | 3.2 | 0.0 | 5.9 | 4.7 | 2.8 | 3.6 | 4.1 |
| 推奨している | 29.6 | 38.4 | 33.3 | 32.7 | 19.5 | 8.9 | 28.3 |
| どちらでもない | 63.9 | 61.6 | 55.2 | 58.1 | 75.2 | 87.5 | 63.9 |

Q11-2. 大学院生に

| | | | | |
|------------|------|------|------|------|
| 義務づけている | 0.0 | 1.5 | 1.5 | 1.0 |
| 一部に義務づけている | 3.9 | 0.0 | 2.1 | 2.5 |
| 推奨している | 32.2 | 38.5 | 34.7 | 34.2 |
| どちらでもない | 64.0 | 60.0 | 61.7 | 62.3 |

問12. (=大学学部問10. & 大学本部問 7-2-3)

問12. 貴機関ではWWW上にホームページを作成していますか。

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|---------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 公認のページを作成している | 95.5 | 92.0 | 90.7 | 92.1 | 83.3 | 96.5 | 91.1 |
| 非公認のページがある | 3.8 | 5.7 | 3.0 | 3.5 | 5.2 | 3.5 | 3.7 |
| 作成していない | 0.7 | 2.3 | 6.3 | 4.4 | 11.5 | 0.0 | 5.2 |

SQ12-1. ホームページの作成・更新の担当者

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 担当委員会の教員 | 55.4 | 40.2 | 29.0 | 37.2 | 24.1 | 54.4 | 31.2 |
| 事務職員 | 15.6 | 19.5 | 31.4 | 26.1 | 29.8 | 17.5 | 31.8 |
| TAやRA | 0.3 | 1.1 | 1.2 | 1.0 | 0.2 | 0.0 | 0.7 |
| ボランティアの教員 | 16.6 | 16.1 | 11.0 | 12.9 | 11.2 | 7.0 | 10.5 |
| ボランティアの学生 | 0.3 | 2.3 | 0.7 | 0.8 | 0.5 | 0.0 | 0.6 |
| 外部企業に委託 | 1.4 | 6.9 | 8.1 | 6.2 | 11.9 | 0.0 | 7.8 |
| その他 | 4.2 | 5.7 | 7.0 | 6.1 | 5.2 | 17.5 | 7.4 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 1.7 | 0.0 | 2.4 | 2.0 | 1.0 | 0.0 | 1.3 |

SQ12-SQ2-1. 機関・部局の沿革・組織構成

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 81.3 | 79.3 | 63.3 | 69.6 | 54.3 | 87.7 | 68.4 |
| 一部を公表している | 9.7 | 8.0 | 17.5 | 14.6 | 17.9 | 8.8 | 14.9 |
| 公表を計画している | 1.0 | 1.1 | 1.8 | 1.5 | 3.5 | 0.0 | 1.7 |
| 掲載していない | 2.8 | 3.4 | 6.5 | 5.2 | 7.2 | 0.0 | 5.3 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 0.7 | 0.0 | 1.8 | 1.3 | 1.0 | 0.0 | 1.0 |

SQ12-SQ2-2. 機関・部局のニュース・イベント

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 41.2 | 46.0 | 40.3 | 41.0 | 41.9 | 64.9 | 45.3 |
| 一部を公表している | 34.6 | 24.1 | 27.9 | 29.4 | 22.6 | 24.6 | 27.2 |
| 公表を計画している | 5.9 | 12.6 | 7.0 | 7.1 | 5.0 | 1.8 | 6.3 |
| 掲載していない | 12.1 | 9.2 | 12.7 | 12.3 | 12.7 | 5.3 | 10.7 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 1.7 | 0.0 | 3.0 | 2.4 | 1.7 | 0.0 | 1.7 |

SQ12-SQ2-3. 学部・学科紹介

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 84.6 | 79.1 | 83.7 | 83.4 | 73.9 | 93.0 | 79.7 |
| 一部を公表している | 11.5 | 11.6 | 8.3 | 9.2 | 6.2 | 3.5 | 7.6 |
| 公表を計画している | 1.3 | 2.3 | 0.6 | 0.9 | 1.2 | 0.0 | 1.0 |
| 掲載していない | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.4 | 1.7 | 0.0 | 1.1 |
| 非該当 | 1.3 | 4.7 | 6.4 | 5.4 | 16.1 | 3.5 | 10.0 |
| 無回答 | 1.3 | 2.3 | 0.3 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.7 |

SQL2-SQ2-4. 開講科目一覧・シラバス

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 公表している | 33.9 | 13.8 | 23.7 | 25.7 | 16.1 | 29.8 | 21.6 |
| 一部を公表している | 27.7 | 25.3 | 28.1 | 27.8 | 26.8 | 40.4 | 29.2 |
| 公表を計画している | 13.5 | 21.8 | 17.3 | 16.7 | 13.9 | 15.8 | 16.0 |
| 掲載していない | 18.7 | 31.0 | 19.7 | 20.4 | 26.3 | 10.5 | 23.2 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 1.7 | 0.0 | 1.9 | 1.7 | 0.7 | 0.0 | 1.3 |

SQL2-SQ2-5. 授業の内容・課題

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 16.6 | 6.9 | 10.1 | 11.6 | 5.2 | 1.8 | 9.0 |
| 一部を公表している | 32.2 | 20.7 | 31.7 | 30.9 | 21.3 | 28.1 | 29.1 |
| 公表を計画している | 12.1 | 16.1 | 16.3 | 15.1 | 12.9 | 12.3 | 14.3 |
| 掲載していない | 32.5 | 48.3 | 30.5 | 32.5 | 43.2 | 54.4 | 37.4 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 2.1 | 0.0 | 2.2 | 2.0 | 1.2 | 0.0 | 1.5 |

SQL2-SQ2-6. 授業の教材など

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 10.7 | 3.4 | 5.5 | 6.8 | 2.2 | 0.0 | 5.0 |
| 一部を公表している | 28.7 | 14.9 | 23.6 | 24.3 | 13.2 | 29.8 | 21.2 |
| 公表を計画している | 9.0 | 12.6 | 13.9 | 12.5 | 8.7 | 5.3 | 11.0 |
| 掲載していない | 44.6 | 60.9 | 45.0 | 46.2 | 58.1 | 61.4 | 51.9 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 2.4 | 0.0 | 2.8 | 2.5 | 1.7 | 0.0 | 2.1 |

SQL2-SQ2-7. 入学要件・入試情報

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 69.2 | 70.1 | 76.7 | 74.1 | 74.2 | 71.9 | 76.9 |
| 一部を公表している | 12.5 | 11.5 | 4.7 | 7.4 | 5.0 | 17.5 | 6.8 |
| 公表を計画している | 3.5 | 3.4 | 1.2 | 2.0 | 1.0 | 7.0 | 1.7 |
| 掲載していない | 9.3 | 6.9 | 5.8 | 6.9 | 3.0 | 0.0 | 4.6 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 1.0 | 0.0 | 2.4 | 1.8 | 0.7 | 0.0 | 1.2 |

SQL2-SQ2-8. 図書館の蔵書カタログ・検索

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 40.8 | 40.2 | 34.8 | 36.9 | 16.4 | 31.6 | 34.7 |
| 一部を公表している | 13.1 | 13.8 | 11.9 | 12.4 | 6.0 | 10.5 | 10.6 |
| 公表を計画している | 4.8 | 6.9 | 9.2 | 7.8 | 10.9 | 19.3 | 9.5 |
| 掲載していない | 32.9 | 29.9 | 31.6 | 31.8 | 49.1 | 35.1 | 34.0 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 3.8 | 1.1 | 3.4 | 3.3 | 1.5 | 0.0 | 2.4 |

SQ12-SQ2-9. 教員・研究室の紹介

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-----------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 公表している | 50.2 | 37.9 | 35.1 | 39.5 | 14.6 | 31.6 | 32.2 |
| 一部を公表している | 39.4 | 36.8 | 37.3 | 37.9 | 28.0 | 59.6 | 37.9 |
| 公表を計画している | 2.1 | 8.0 | 7.3 | 5.9 | 9.9 | 3.5 | 6.7 |
| 掲載していない | 3.5 | 9.2 | 9.5 | 7.8 | 30.0 | 1.8 | 13.4 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 0.3 | 0.0 | 1.6 | 1.1 | 1.2 | 0.0 | 1.0 |

SQ12-SQ2-10. 学生のサークル活動

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 11.8 | 16.1 | 16.6 | 15.2 | 14.6 | 21.1 | 17.2 |
| 一部を公表している | 22.5 | 24.1 | 28.6 | 26.5 | 26.1 | 57.9 | 29.1 |
| 公表を計画している | 5.5 | 6.9 | 11.1 | 9.2 | 10.9 | 3.5 | 9.6 |
| 掲載していない | 52.2 | 42.5 | 32.0 | 38.4 | 31.3 | 14.0 | 33.3 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 3.5 | 2.3 | 2.5 | 2.8 | 1.0 | 0.0 | 1.9 |

SQ12-SQ2-11. 就職・求人情報

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 17.6 | 13.8 | 17.9 | 17.5 | 16.1 | 22.8 | 18.8 |
| 一部を公表している | 15.9 | 14.9 | 21.9 | 19.7 | 17.1 | 31.6 | 21.0 |
| 公表を計画している | 8.0 | 6.9 | 10.8 | 9.7 | 6.9 | 5.3 | 9.0 |
| 掲載していない | 50.9 | 52.9 | 37.3 | 42.3 | 42.4 | 36.8 | 40.4 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 3.1 | 3.4 | 2.8 | 2.9 | 1.2 | 0.0 | 2.0 |

SQ12-SQ2-12. 同窓会情報

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 11.8 | 9.2 | 12.9 | 12.3 | 5.7 | 35.1 | 12.0 |
| 一部を公表している | 11.8 | 12.6 | 11.7 | 11.8 | 4.2 | 19.3 | 10.6 |
| 公表を計画している | 7.3 | 6.9 | 15.6 | 12.6 | 11.7 | 12.3 | 12.5 |
| 掲載していない | 60.6 | 59.8 | 47.1 | 51.9 | 61.0 | 29.8 | 53.5 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 4.2 | 3.4 | 3.6 | 3.7 | 1.2 | 0.0 | 2.6 |

SQ12-SQ2-13. 外部サイトへのリンク

| | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 39.4 | 39.1 | 31.9 | 34.5 | 24.6 | 49.1 | 34.0 |
| 一部を公表している | 29.1 | 27.6 | 23.1 | 25.1 | 15.9 | 35.1 | 23.0 |
| 公表を計画している | 4.2 | 6.9 | 6.5 | 5.9 | 7.9 | 0.0 | 6.3 |
| 掲載していない | 20.1 | 17.2 | 25.5 | 23.3 | 33.5 | 12.3 | 25.5 |
| 非該当 | 4.5 | 8.0 | 9.2 | 7.8 | 16.1 | 3.5 | 8.8 |
| 無回答 | 2.8 | 1.1 | 3.9 | 3.3 | 2.0 | 0.0 | 2.4 |

問13. (=大学学部問11.)

問13. 貴機関では、今後インターネットをどの程度利用しようとお考えですか。

Q13-1. 授業の提供

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 積極的に利用したい | 32.0 | 30.2 | 38.0 | 35.7 | 35.5 | 29.8 | 35.3 |
| ある程度は利用したい | 52.1 | 45.3 | 53.4 | 52.3 | 48.8 | 64.9 | 52.1 |
| 利用の必要がない | 15.8 | 24.4 | 8.7 | 12.0 | 15.6 | 5.3 | 12.7 |

Q13-2. 学生がインターネットによって収集した情報による授業

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 28.3 | 38.4 | 39.5 | 36.3 | 42.7 | 35.7 | 37.8 |
| ある程度は利用したい | 58.7 | 47.7 | 52.5 | 53.8 | 48.6 | 58.9 | 52.8 |
| 利用の必要がない | 13.1 | 14.0 | 8.0 | 9.9 | 8.7 | 5.4 | 9.5 |

Q13-3. 電子メールによる学生からのレポート等の提出

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 54.9 | 56.3 | 53.5 | 54.1 | 50.9 | 59.6 | 53.4 |
| ある程度は利用したい | 41.6 | 39.1 | 42.5 | 42.0 | 39.7 | 38.6 | 41.3 |
| 利用の必要がない | 3.5 | 4.6 | 4.1 | 3.9 | 9.4 | 1.8 | 5.3 |

Q13-4. 電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の討議

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 51.8 | 54.0 | 54.4 | 53.7 | 46.2 | 42.1 | 51.2 |
| ある程度は利用したい | 45.1 | 40.2 | 42.7 | 43.1 | 44.4 | 50.9 | 43.8 |
| 利用の必要がない | 3.2 | 5.7 | 2.9 | 3.2 | 9.5 | 7.0 | 5.0 |

Q13-5. 電子メールや電子掲示板による事務連絡

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 79.6 | 79.1 | 66.5 | 71.2 | 52.7 | 83.9 | 66.8 |
| ある程度は利用したい | 19.4 | 19.8 | 32.0 | 27.5 | 37.9 | 14.3 | 29.7 |
| 利用の必要がない | 1.0 | 1.2 | 1.5 | 1.3 | 9.4 | 1.8 | 3.5 |

Q13-6. ホームページを利用した学生の情報交換

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 42.0 | 40.2 | 42.7 | 42.3 | 35.0 | 33.3 | 39.9 |
| ある程度は利用したい | 48.1 | 50.6 | 48.2 | 48.3 | 51.8 | 57.9 | 49.8 |
| 利用の必要がない | 9.9 | 9.2 | 9.1 | 9.3 | 13.2 | 8.8 | 10.3 |

Q13-7. 図書資料のオンライン・カタログ化

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 74.1 | 80.5 | 67.0 | 70.1 | 48.8 | 73.2 | 64.5 |
| ある程度は利用したい | 22.3 | 16.1 | 30.7 | 27.2 | 40.6 | 23.2 | 30.7 |
| 利用の必要がない | 3.5 | 3.4 | 2.3 | 2.7 | 10.5 | 3.6 | 4.8 |

Q13-8. 電子図書館

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 72.7 | 60.5 | 52.2 | 58.6 | 35.3 | 55.4 | 52.2 |
| ある程度は利用したい | 24.8 | 37.2 | 42.2 | 36.9 | 45.9 | 41.1 | 39.6 |
| 利用の必要がない | 2.5 | 2.3 | 5.6 | 4.4 | 18.8 | 3.6 | 8.2 |

Q13－9．他機関との単位互換による授業

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|------------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 積極的に利用したい | 25.1 | 18.1 | 21.0 | 21.9 | 14.2 | 20.0 | 19.6 |
| ある程度は利用したい | 53.8 | 51.8 | 57.8 | 56.2 | 50.0 | 56.4 | 54.8 |
| 利用の必要がない | 21.1 | 30.1 | 21.2 | 21.9 | 35.8 | 23.6 | 25.6 |

Q13－10. WWW上での公開講座

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 23.5 | 24.4 | 19.7 | 21.1 | 14.0 | 12.7 | 18.7 |
| ある程度は利用したい | 54.2 | 45.1 | 57.1 | 55.3 | 48.7 | 60.0 | 53.7 |
| 利用の必要がない | 22.4 | 30.5 | 23.2 | 23.6 | 37.3 | 27.3 | 27.5 |

Q13－11. WWW上への教室の授業の一般公開

| | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 16.1 | 18.1 | 14.0 | 14.9 | 9.9 | 7.3 | 13.2 |
| ある程度は利用したい | 50.4 | 38.6 | 54.7 | 52.2 | 48.1 | 54.5 | 51.1 |
| 利用の必要がない | 33.6 | 43.4 | 31.3 | 32.9 | 42.1 | 38.2 | 35.7 |

問14. (=大学学部問12.)

問14. 貴機関では、インターネットを利用したオンライン上の教育などを行っていますか。

| | 4 年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|---------|--------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| 行っている | 20.4 | 14.0 | 16.1 | 17.1 | 14.2 | 17.5 | 16.3 |
| 予定している | 11.4 | 10.5 | 13.5 | 12.7 | 9.9 | 12.3 | 11.9 |
| 行う予定はない | 68.2 | 75.6 | 70.4 | 70.2 | 75.9 | 70.2 | 71.8 |

Q14－SQ 1. インターネット利用のオンライン上の教育場面

Q14－SQ 1－1. 共通教養教育

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 10.4 | 13.8 | 11.1 | 11.1 | 13.2 | 12.3 | 11.7 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 23.5 | 11.5 | 21.0 | 20.9 | 12.4 | 17.5 | 18.5 |

Q14－SQ 1－2. 専門教育

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 19.7 | 12.6 | 19.9 | 19.2 | 15.4 | 14.0 | 18.0 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 14.2 | 12.6 | 12.3 | 12.8 | 10.2 | 15.8 | 12.1 |

Q14－SQ 1－3. 語学教育

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 3.1 | 8.0 | 10.1 | 8.0 | 7.7 | 17.5 | 8.3 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 30.8 | 17.2 | 22.1 | 24.1 | 17.9 | 12.3 | 21.9 |

Q14-SQ1-4. 補習教育

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| あてはまる | 1.7 | 6.9 | 7.0 | 5.5 | 5.2 | 3.5 | 5.3 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 32.2 | 18.4 | 25.2 | 26.5 | 20.3 | 26.3 | 24.8 |

Q14-SQ1-5. 教員の研究会

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.3 | 4.6 | 5.2 | 5.7 | 3.0 | 3.5 | 4.9 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 26.6 | 20.7 | 27.0 | 26.4 | 22.6 | 26.3 | 25.3 |

Q14-SQ1-6. 社会人対象の研修や公開講座

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 9.3 | 11.5 | 7.9 | 8.6 | 7.7 | 8.8 | 8.4 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 24.6 | 13.8 | 24.3 | 23.5 | 17.9 | 21.1 | 21.7 |

Q14-SQ1-7. その他

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 1.0 | 1.1 | 1.5 | 1.3 | 0.5 | 1.8 | 1.1 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 32.9 | 24.1 | 30.7 | 30.7 | 25.1 | 28.0 | 29.0 |

Q14-SQ1-8. 大学院生対象の教育

| | | | | |
|-------|------|------|------|------|
| あてはまる | 13.8 | 6.9 | 7.6 | 9.2 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 |
| 無回答 | 20.1 | 18.4 | 24.6 | 22.8 |

Q14-SQ2. オンライン上の教育の範囲

Q14-SQ2-1. 教室内の授業

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 1.0 | 1.1 | 1.5 | 1.3 | 18.9 | 21.1 | 20.7 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 32.9 | 24.1 | 30.7 | 30.7 | 6.7 | 8.8 | 9.5 |

Q14-SQ2-2. 同一機関の遠隔地

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.6 | 5.7 | 7.3 | 7.2 | 3.5 | 1.8 | 6.0 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 26.3 | 19.5 | 24.9 | 24.8 | 22.1 | 28.1 | 24.1 |

Q14-SQ2-3. 国内の他機関

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 9.0 | 8.0 | 7.0 | 7.6 | 3.7 | 5.3 | 6.4 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 24.9 | 17.2 | 25.2 | 24.5 | 21.8 | 24.6 | 23.7 |

Q14—SQ2—4. 海外の他機関

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| あてはまる | 3.8 | 3.4 | 4.7 | 4.4 | 1.2 | 5.3 | 3.5 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 30.1 | 21.8 | 27.4 | 27.7 | 24.3 | 24.8 | 26.6 |

Q14—SQ2—5. 一般への公開

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 8.0 | 10.3 | 7.0 | 7.5 | 3.7 | 5.3 | 6.4 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 26.0 | 14.9 | 25.2 | 24.5 | 21.8 | 24.6 | 23.7 |

Q14—SQ2—6. その他

| | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 1.7 | 0.0 | 1.5 | 1.4 | 1.2 | 0.0 | 1.3 |
| 非該当 | 66.1 | 74.7 | 67.9 | 67.9 | 74.4 | 70.2 | 69.9 |
| 無回答 | 32.2 | 25.3 | 30.7 | 30.6 | 24.3 | 29.8 | 28.8 |

問15. (=大学学部問13.)

問15. インターネットを利用した双方向授業は教室における対面授業と比較してどのようなものになるとお考えですか。

Q15—1. 最先端の情報を収集した教育ができる

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 22.3 | 27.7 | 28.4 | 26.7 | 27.2 | 20.8 | 28.2 |
| ある程度あてはまる | 48.4 | 45.8 | 53.1 | 51.2 | 52.9 | 56.6 | 51.9 |
| あまりあてはまらない | 25.3 | 21.7 | 16.6 | 19.4 | 17.5 | 20.8 | 17.8 |
| まったくあてはまらない | 4.0 | 4.8 | 1.9 | 2.7 | 2.4 | 1.9 | 2.1 |

Q15—2. 社会人学生が増加する

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 22.3 | 14.6 | 20.7 | 20.6 | 16.0 | 11.5 | 19.7 |
| ある程度あてはまる | 58.0 | 54.9 | 47.5 | 51.0 | 52.8 | 40.4 | 50.6 |
| あまりあてはまらない | 15.7 | 22.0 | 28.1 | 24.1 | 26.7 | 34.6 | 23.3 |
| まったくあてはまらない | 4.0 | 8.5 | 3.8 | 4.2 | 4.5 | 13.5 | 4.4 |

Q15—3. 学生の学習の継続が困難

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 8.2 | 3.6 | 6.3 | 6.6 | 3.2 | 9.8 | 5.5 |
| ある程度あてはまる | 37.2 | 33.7 | 29.5 | 32.0 | 42.4 | 45.1 | 34.1 |
| あまりあてはまらない | 46.5 | 55.4 | 55.7 | 53.2 | 47.5 | 39.2 | 52.8 |
| まったくあてはまらない | 8.2 | 7.2 | 8.4 | 8.2 | 6.9 | 5.9 | 7.6 |

Q15－４．教材の制作が容易ではない

| | ４年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 36.9 | 40.5 | 36.8 | 37.1 | 35.1 | 43.4 | 35.9 |
| ある程度あてはまる | 51.1 | 45.2 | 48.4 | 48.9 | 49.9 | 52.8 | 49.3 |
| あまりあてはまらない | 10.2 | 11.9 | 13.6 | 12.5 | 12.9 | 3.8 | 13.0 |
| まったくあてはまらない | 1.8 | 2.4 | 1.2 | 1.5 | 2.1 | 0.0 | 1.8 |

Q15－５．民間企業との連携が増加する

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 8.9 | 12.0 | 10.1 | 9.9 | 8.4 | 7.5 | 10.0 |
| ある程度あてはまる | 47.6 | 47.0 | 48.5 | 48.1 | 45.4 | 56.6 | 48.4 |
| あまりあてはまらない | 37.2 | 30.1 | 37.3 | 36.7 | 39.1 | 32.1 | 36.1 |
| まったくあてはまらない | 6.3 | 10.8 | 4.1 | 5.3 | 7.1 | 3.8 | 5.5 |

Q15－６．授業以外の学習支援が必要

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 40.7 | 33.7 | 36.8 | 37.6 | 33.9 | 28.3 | 36.0 |
| ある程度あてはまる | 50.0 | 53.0 | 56.3 | 54.3 | 58.2 | 66.0 | 56.0 |
| あまりあてはまらない | 9.3 | 12.0 | 6.4 | 7.6 | 7.4 | 5.7 | 7.6 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 1.2 | 0.5 | 0.4 | 0.5 | 0.0 | 0.4 |

Q15－７．対面式の補助として用いるべき

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 30.5 | 29.3 | 25.2 | 27.0 | 23.5 | 32.1 | 25.1 |
| ある程度あてはまる | 48.2 | 52.4 | 54.5 | 52.6 | 53.2 | 50.9 | 53.5 |
| あまりあてはまらない | 18.8 | 15.9 | 18.0 | 18.0 | 21.4 | 17.0 | 19.0 |
| まったくあてはまらない | 2.6 | 2.4 | 2.3 | 2.4 | 1.9 | 0.0 | 2.4 |

Q15－８．学生の教育費負担が増加する

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 11.1 | 20.5 | 11.5 | 12.2 | 14.8 | 9.6 | 11.7 |
| ある程度あてはまる | 38.7 | 37.3 | 40.8 | 39.9 | 43.8 | 44.2 | 41.3 |
| あまりあてはまらない | 43.2 | 33.7 | 43.1 | 42.4 | 37.2 | 38.5 | 41.7 |
| まったくあてはまらない | 7.0 | 8.4 | 4.6 | 5.6 | 4.2 | 7.7 | 5.3 |

Q15－９．対面式の授業の補助が必要

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 33.9 | 30.5 | 25.8 | 28.4 | 27.7 | 11.5 | 25.7 |
| ある程度あてはまる | 48.3 | 56.1 | 57.2 | 54.7 | 55.6 | 63.5 | 56.5 |
| あまりあてはまらない | 15.5 | 12.2 | 14.0 | 14.3 | 14.2 | 25.0 | 15.0 |
| まったくあてはまらない | 2.2 | 1.2 | 3.0 | 2.6 | 2.4 | 0.0 | 2.3 |

Q15－10．教員の授業負担が減少する

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 1.5 | 2.4 | 1.4 | 1.5 | 2.9 | 0.0 | 1.8 |
| ある程度あてはまる | 9.9 | 12.0 | 9.8 | 10.0 | 11.6 | 5.7 | 11.0 |
| あまりあてはまらない | 53.1 | 51.8 | 60.8 | 58.0 | 63.0 | 73.8 | 60.4 |
| まったくあてはまらない | 35.5 | 33.7 | 28.0 | 30.5 | 22.5 | 20.8 | 26.9 |

Q15-11. 教育のコストが下がる

| | 4年制大学 | | | | 短大 | 高専 | 総計 |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|------|
| | 国立 | 公立 | 私立 | 小計 | | | |
| よくあてはまる | 0.7 | 2.4 | 1.7 | 1.5 | 1.6 | 0.0 | 1.8 |
| ある程度あてはまる | 15.1 | 15.7 | 15.6 | 15.5 | 17.0 | 7.5 | 16.7 |
| あまりあてはまらない | 63.2 | 63.9 | 61.6 | 62.2 | 63.7 | 73.6 | 62.6 |
| まったくあてはまらない | 21.0 | 18.1 | 21.1 | 20.8 | 17.8 | 18.9 | 18.8 |

Q15-12. 他機関との交換授業が増加する

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 16.9 | 13.3 | 15.6 | 15.8 | 14.6 | 13.2 | 17.5 |
| ある程度あてはまる | 62.5 | 65.1 | 59.7 | 60.9 | 57.7 | 62.3 | 60.2 |
| あまりあてはまらない | 17.3 | 19.3 | 20.5 | 19.5 | 24.2 | 22.6 | 19.2 |
| まったくあてはまらない | 3.3 | 2.4 | 4.2 | 3.8 | 3.5 | 1.9 | 3.1 |

Q15-13. 教育の質が下がる

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 3.3 | 4.8 | 1.9 | 2.5 | 1.1 | 3.8 | 1.7 |
| ある程度あてはまる | 23.8 | 21.7 | 14.0 | 17.3 | 16.4 | 11.3 | 15.9 |
| あまりあてはまらない | 57.6 | 57.8 | 62.3 | 60.7 | 63.9 | 69.8 | 63.1 |
| まったくあてはまらない | 15.2 | 15.7 | 21.8 | 19.5 | 18.6 | 15.1 | 19.3 |

Q15-14. 高等教育の活性化につながる

| | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 21.1 | 24.1 | 23.7 | 23.0 | 24.9 | 13.2 | 24.7 |
| ある程度あてはまる | 51.9 | 53.0 | 61.4 | 58.1 | 63.0 | 71.7 | 59.9 |
| あまりあてはまらない | 24.8 | 19.3 | 13.8 | 17.3 | 10.3 | 13.2 | 14.0 |
| まったくあてはまらない | 2.2 | 3.6 | 1.1 | 1.6 | 1.9 | 1.9 | 1.4 |

2. 基礎集計表Ⅱ（大学学部別）

問1.貴部局では、下記のマルチメディアや情報通信技術をどの程度利用されていますか。

Q1-1. オーディオ・カセット教材の利用

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よく行われている | 49.2 | 26.5 | 27.6 | 7.9 | 12.2 | 13.9 | 37.5 | 31.8 | 29.9 | 25.9 |
| ある程度行われている | 42.8 | 43.1 | 43.1 | 42.1 | 44.9 | 54.3 | 46.9 | 45.5 | 45.5 | 45.0 |
| あまり行われていない | 6.4 | 22.3 | 25.9 | 34.1 | 22.4 | 19.2 | 12.5 | 22.7 | 11.7 | 19.9 |
| ほとんど行われていない | 1.6 | 8.1 | 3.4 | 15.9 | 20.4 | 12.6 | 3.1 | 0.0 | 13.0 | 9.2 |

Q1-2. 録画ビデオの授業への利用

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 43.6 | 23.9 | 52.5 | 11.6 | 18.4 | 25.0 | 50.0 | 36.4 | 40.3 | 29.4 |
| ある程度行われている | 52.1 | 60.6 | 45.8 | 65.9 | 73.5 | 57.9 | 34.4 | 45.5 | 46.8 | 57.1 |
| あまり行われていない | 3.2 | 13.7 | 1.7 | 18.9 | 6.1 | 13.8 | 15.6 | 9.1 | 10.4 | 11.3 |
| ほとんど行われていない | 1.1 | 1.8 | 0.0 | 3.7 | 2.0 | 3.3 | 0.0 | 9.1 | 2.6 | 2.2 |

Q1-3. CD-ROM教材の利用

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 5.3 | 6.3 | 5.2 | 2.5 | 0.0 | 6.0 | 6.3 | 4.5 | 9.2 | 5.3 |
| ある程度行われている | 47.6 | 36.4 | 39.7 | 36.6 | 34.7 | 40.4 | 28.1 | 63.6 | 40.8 | 39.8 |
| あまり行われていない | 34.2 | 43.4 | 31.0 | 45.3 | 34.7 | 37.7 | 43.8 | 31.8 | 38.2 | 39.4 |
| ほとんど行われていない | 12.8 | 14.0 | 24.1 | 15.5 | 30.6 | 15.9 | 21.9 | 0.0 | 11.8 | 15.5 |

Q1-4. インターネットによる教材の提供

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 8.6 | 13.8 | 10.2 | 7.9 | 6.1 | 9.2 | 6.3 | 13.6 | 22.1 | 11.0 |
| ある程度行われている | 44.4 | 50.9 | 49.2 | 51.8 | 32.7 | 36.8 | 25.0 | 40.9 | 44.2 | 45.3 |
| あまり行われていない | 31.0 | 27.6 | 27.1 | 26.8 | 49.0 | 34.2 | 43.8 | 40.9 | 18.2 | 30.1 |
| ほとんど行われていない | 16.0 | 7.8 | 13.6 | 13.4 | 12.2 | 19.7 | 25.0 | 4.5 | 15.6 | 13.6 |

Q1-5. マルチメディア教材の作成

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 4.8 | 3.2 | 5.1 | 5.5 | 2.1 | 3.9 | 3.1 | 0.0 | 10.7 | 4.5 |
| ある程度行われている | 28.3 | 28.1 | 44.1 | 31.3 | 31.3 | 41.4 | 31.3 | 36.4 | 38.7 | 32.7 |
| あまり行われていない | 40.1 | 40.7 | 28.8 | 44.8 | 45.8 | 30.3 | 31.3 | 50.0 | 30.7 | 38.4 |
| ほとんど行われていない | 26.7 | 28.1 | 22.0 | 18.4 | 20.8 | 24.3 | 34.4 | 13.6 | 20.0 | 24.3 |

Q1-6. パーソナル・コンピュータによるプレゼンテーション

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 9.0 | 17.1 | 10.2 | 29.4 | 22.4 | 24.3 | 18.8 | 9.5 | 29.9 | 19.4 |
| ある程度行われている | 38.3 | 49.7 | 47.5 | 54.6 | 44.9 | 49.3 | 21.9 | 47.6 | 41.6 | 46.4 |
| あまり行われていない | 35.6 | 24.8 | 25.4 | 13.5 | 28.6 | 21.1 | 34.4 | 28.6 | 24.7 | 25.0 |
| ほとんど行われていない | 17.0 | 8.4 | 16.9 | 2.5 | 4.1 | 5.3 | 25.0 | 14.3 | 3.9 | 9.2 |

Q1-7. ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 9.0 | 4.9 | 15.3 | 3.7 | 6.1 | 13.9 | 18.8 | 4.8 | 19.5 | 9.0 |
| ある程度行われている | 43.1 | 32.7 | 57.6 | 33.5 | 49.0 | 39.1 | 31.3 | 38.1 | 37.7 | 38.3 |
| あまり行われていない | 34.0 | 41.2 | 23.7 | 48.8 | 32.7 | 30.5 | 28.1 | 42.9 | 27.3 | 36.7 |
| ほとんど行われていない | 13.8 | 21.1 | 3.4 | 14.0 | 12.2 | 16.6 | 21.9 | 14.3 | 15.6 | 16.0 |

Q1-8. 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よく行われている | 5.9 | 14.0 | 8.5 | 14.6 | 8.2 | 7.2 | 6.3 | 0.0 | 29.3 | 11.6 |
| ある程度行われている | 34.0 | 42.5 | 28.8 | 50.6 | 32.7 | 25.7 | 18.8 | 36.4 | 25.3 | 36.4 |
| あまり行われていない | 36.7 | 30.9 | 42.4 | 25.0 | 32.7 | 28.3 | 31.3 | 22.7 | 24.0 | 30.7 |
| ほとんど行われていない | 23.4 | 12.6 | 20.3 | 9.8 | 26.5 | 38.8 | 43.8 | 40.9 | 21.3 | 21.3 |

Q1-9. 電子メールや電子掲示板による事務連絡

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 18.1 | 26.6 | 39.0 | 53.0 | 40.8 | 35.5 | 12.5 | 18.2 | 40.3 | 32.4 |
| ある程度行われている | 34.0 | 37.1 | 35.6 | 32.9 | 24.5 | 28.9 | 21.9 | 31.8 | 27.3 | 32.7 |
| あまり行われていない | 22.3 | 18.5 | 16.9 | 5.5 | 14.3 | 13.2 | 15.6 | 13.6 | 15.6 | 15.6 |
| ほとんど行われていない | 25.5 | 17.8 | 8.5 | 8.5 | 20.4 | 22.4 | 50.0 | 36.4 | 16.9 | 19.3 |

Q1-10. 電子メールによる課題の提出

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 9.6 | 13.0 | 8.5 | 17.1 | 6.1 | 8.6 | 9.7 | 0.0 | 28.6 | 12.6 |
| ある程度行われている | 42.0 | 46.7 | 37.3 | 53.7 | 38.8 | 25.0 | 12.9 | 36.4 | 27.3 | 40.1 |
| あまり行われていない | 28.2 | 31.2 | 40.7 | 20.1 | 28.6 | 28.9 | 29.0 | 31.8 | 24.7 | 28.4 |
| ほとんど行われていない | 20.2 | 9.1 | 13.6 | 9.1 | 26.5 | 37.5 | 48.4 | 31.8 | 19.5 | 18.9 |

Q1-11. 図書資料のデータ・ベース化

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 45.1 | 42.4 | 37.9 | 33.8 | 29.2 | 41.6 | 45.2 | 40.9 | 38.2 | 40.3 |
| ある程度行われている | 33.2 | 32.2 | 41.4 | 46.3 | 45.8 | 35.6 | 29.0 | 22.7 | 39.5 | 36.5 |
| あまり行われていない | 10.3 | 13.8 | 13.8 | 12.5 | 10.4 | 9.4 | 12.9 | 18.2 | 10.5 | 12.0 |
| ほとんど行われていない | 11.4 | 11.7 | 6.9 | 7.5 | 14.6 | 13.4 | 12.9 | 18.2 | 11.8 | 11.3 |

Q1-12. シラバスのインターネットなどによる公開

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 9.0 | 10.5 | 27.1 | 25.2 | 12.2 | 12.5 | 0.0 | 4.8 | 22.1 | 14.3 |
| ある程度行われている | 16.0 | 19.6 | 22.0 | 23.3 | 10.2 | 15.8 | 6.3 | 14.3 | 14.3 | 17.7 |
| あまり行われていない | 20.7 | 26.9 | 22.0 | 20.9 | 22.4 | 19.1 | 18.8 | 14.3 | 23.4 | 22.4 |
| ほとんど行われていない | 54.3 | 43.0 | 28.8 | 30.7 | 55.1 | 52.6 | 75.0 | 66.7 | 40.3 | 45.6 |

Q1-13. 通信衛星などによる授業

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 0.0 | 1.0 | 5.2 | 1.8 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 1.6 |
| ある程度行われている | 5.4 | 5.9 | 27.6 | 13.4 | 12.2 | 3.9 | 3.1 | 0.0 | 13.3 | 8.6 |
| あまり行われていない | 13.4 | 6.6 | 27.6 | 22.6 | 20.4 | 11.2 | 6.3 | 9.1 | 5.3 | 12.9 |
| ほとんど行われていない | 81.2 | 86.4 | 39.7 | 62.2 | 67.3 | 82.9 | 90.6 | 90.9 | 76.0 | 77.0 |

Q1-14. 教室の授業のWWW上への公開

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 0.5 | 1.4 | 1.7 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 4.0 | 1.2 |
| ある程度行われている | 7.0 | 8.0 | 6.9 | 14.7 | 4.1 | 9.3 | 9.4 | 9.1 | 13.3 | 9.3 |
| あまり行われていない | 16.0 | 18.2 | 27.6 | 20.9 | 14.3 | 11.9 | 6.3 | 18.2 | 20.0 | 17.4 |
| ほとんど行われていない | 76.5 | 72.4 | 63.8 | 63.2 | 81.6 | 78.1 | 84.4 | 72.7 | 62.7 | 72.1 |

問2. 下記の人々を対象としたマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育や研修

(イ) 現在おこなっていますか。

Q2-イ-1. 教 員

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|---------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 1.1 | 1.8 | 1.7 | 4.3 | 4.1 | 0.7 | 3.1 | 0.0 | 1.3 | 2.0 |
| やや(ある程度)行っている | 48.4 | 48.4 | 50.8 | 49.1 | 51.0 | 60.3 | 37.5 | 45.5 | 48.1 | 50.1 |
| 行っていない | 50.5 | 49.8 | 47.5 | 46.6 | 44.9 | 39.1 | 59.4 | 54.5 | 50.6 | 47.9 |

Q2-イ-2. 事務職員

| | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 2.7 | 5.7 | 5.1 | 6.7 | 4.2 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 4.1 |
| やや(ある程度)行っている | 62.3 | 56.3 | 62.7 | 60.1 | 56.3 | 53.3 | 46.9 | 50.0 | 57.1 | 57.6 |
| 行っていない | 35.0 | 38.0 | 32.2 | 33.1 | 39.6 | 44.7 | 53.1 | 50.0 | 40.3 | 38.3 |

Q2-イ-3. TA・RA

| | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 4.7 | 5.3 | 10.7 | 8.7 | 4.2 | 2.9 | 4.8 | 4.8 | 14.9 | 6.4 |
| やや(ある程度)行っている | 30.7 | 34.1 | 32.1 | 52.2 | 47.9 | 41.9 | 23.8 | 23.8 | 29.9 | 37.7 |
| 行っていない | 64.7 | 60.6 | 57.1 | 39.1 | 47.9 | 55.1 | 71.4 | 71.4 | 55.2 | 55.8 |

Q2-イ-4. 大学院生

| | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 5.5 | 6.3 | 8.9 | 14.2 | 4.1 | 7.1 | 8.3 | 5.6 | 15.3 | 8.4 |
| やや(ある程度)行っている | 53.4 | 50.9 | 62.5 | 63.9 | 57.1 | 55.0 | 50.0 | 44.4 | 57.6 | 55.7 |
| 行っていない | 41.1 | 42.9 | 28.6 | 21.9 | 38.8 | 37.9 | 41.7 | 50.0 | 27.1 | 35.9 |

Q2-イ-5. 学部学生

| | | | | | | | | | | |
|---------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 充分に行っている | 12.1 | 18.1 | 17.2 | 19.1 | 8.5 | 13.2 | 6.5 | 13.6 | 31.0 | 16.4 |
| やや(ある程度)行っている | 72.0 | 64.1 | 63.8 | 68.2 | 59.6 | 70.4 | 71.0 | 63.6 | 60.6 | 66.8 |
| 行っていない | 15.9 | 17.8 | 19.0 | 12.7 | 31.9 | 16.4 | 22.6 | 22.7 | 8.5 | 16.8 |

(ロ) 将来はどうあるべきと考えますか。

Q2-ロ-1. 教 員

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 86.6 | 84.7 | 87.5 | 76.3 | 76.1 | 83.2 | 96.8 | 85.0 | 82.4 | 83.4 |
| 現状のままでよい | 12.8 | 14.9 | 10.7 | 20.0 | 21.7 | 15.4 | 3.2 | 15.0 | 13.5 | 15.1 |
| あまり行わなくてよい | 0.6 | 0.4 | 1.8 | 3.8 | 2.2 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 4.1 | 1.5 |

Q2-ロ-2. 事務職員

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 87.0 | 82.9 | 87.5 | 78.3 | 86.7 | 84.6 | 96.7 | 80.0 | 81.1 | 83.8 |
| 現状のままでよい | 13.0 | 16.7 | 12.5 | 21.1 | 11.1 | 14.7 | 3.3 | 20.0 | 17.6 | 15.7 |
| あまり行わなくてよい | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 0.6 | 2.2 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.4 | 0.5 |

Q2-ロ-3. TA・RA

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| もっと行うべき | 75.7 | 75.0 | 82.7 | 72.3 | 75.6 | 72.9 | 84.2 | 73.7 | 60.9 | 73.9 |
| 現状のままでよい | 22.2 | 22.1 | 17.3 | 25.2 | 24.4 | 24.8 | 15.8 | 26.3 | 39.1 | 24.1 |
| あまり行わなくてよい | 2.1 | 2.9 | 0.0 | 2.5 | 0.0 | 2.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.9 |

Q2-ロ-4. 大学院生

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|
| もっと行うべき | 81.6 | 81.9 | 84.9 | 72.7 | 71.7 | 82.0 | 100.0 | 70.6 | 78.3 | 79.8 |
| 現状のままでよい | 17.7 | 17.2 | 15.1 | 26.6 | 28.3 | 16.5 | 0.0 | 29.4 | 21.7 | 19.5 |
| あまり行わなくてよい | 0.7 | 0.9 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 |

Q2-10-5. 学部学生

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|---------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| もっと行わなければならない | 86.1 | 84.1 | 85.2 | 77.7 | 72.7 | 82.1 | 96.6 | 80.0 | 75.4 | 82.4 |
| 現状のままでよい | 13.9 | 15.9 | 14.8 | 21.0 | 27.3 | 16.6 | 3.4 | 20.0 | 24.6 | 17.2 |
| あまり行わなくてよい | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 1.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.4 |

問3. 機関では、教員がマルチメディア教材を自作する場合、以下のような支援が行われていますか。

Q3-1. 学内組織の支援

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よく行われている | 8.5 | 6.3 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 4.7 | 0.0 | 9.1 | 5.3 | 5.1 |
| やや行われている | 25.0 | 27.7 | 22.0 | 23.2 | 22.4 | 25.3 | 25.0 | 18.2 | 33.3 | 25.7 |
| あまり行われていない | 18.1 | 23.9 | 30.5 | 33.5 | 28.6 | 20.0 | 12.5 | 18.2 | 16.0 | 23.3 |
| ほとんど行われていない | 48.4 | 42.1 | 47.5 | 40.2 | 49.0 | 50.0 | 62.5 | 54.5 | 45.3 | 45.9 |

Q3-2. 機関・部局内の担当教職員の支援

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 5.9 | 5.3 | 0.0 | 1.8 | 2.0 | 3.3 | 3.1 | 9.1 | 6.6 | 4.2 |
| やや行われている | 21.9 | 27.5 | 18.6 | 29.9 | 6.1 | 36.0 | 31.3 | 22.7 | 32.9 | 27.0 |
| あまり行われていない | 31.0 | 32.0 | 39.0 | 34.8 | 44.9 | 26.0 | 21.9 | 31.8 | 22.4 | 31.4 |
| ほとんど行われていない | 41.2 | 35.2 | 42.4 | 33.5 | 46.9 | 34.7 | 43.8 | 36.4 | 38.2 | 37.4 |

Q3-3. ボランティア教員の支援

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 3.3 | 4.9 | 1.7 | 4.3 | 2.0 | 5.4 | 6.3 | 4.8 | 7.9 | 4.5 |
| やや行われている | 23.4 | 24.4 | 27.1 | 33.5 | 26.5 | 32.4 | 21.9 | 38.1 | 32.9 | 28.0 |
| あまり行われていない | 25.5 | 31.4 | 33.9 | 32.3 | 28.6 | 22.3 | 15.6 | 23.8 | 23.7 | 28.0 |
| ほとんど行われていない | 47.8 | 39.2 | 37.3 | 29.9 | 42.9 | 39.9 | 56.3 | 33.3 | 35.5 | 39.6 |

Q3-4. ボランティア学生の支援

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 1.1 | 2.1 | 3.4 | 3.7 | 2.0 | 2.0 | 3.1 | 4.8 | 3.9 | 2.5 |
| やや行われている | 15.8 | 20.8 | 18.6 | 32.3 | 22.4 | 13.3 | 12.5 | 9.5 | 27.6 | 20.6 |
| あまり行われていない | 29.9 | 28.3 | 35.6 | 34.1 | 28.6 | 27.3 | 28.1 | 23.8 | 23.7 | 29.4 |
| ほとんど行われていない | 53.3 | 48.8 | 42.4 | 29.9 | 46.9 | 57.3 | 56.3 | 61.9 | 44.7 | 47.5 |

Q3-5. 民間企業などへの外注

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よく行われている | 1.1 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 4.8 | 3.9 | 1.3 |
| やや行われている | 5.4 | 10.5 | 5.1 | 11.0 | 8.2 | 22.0 | 9.4 | 19.0 | 13.2 | 11.3 |
| あまり行われていない | 19.6 | 17.9 | 18.6 | 26.4 | 24.5 | 19.3 | 9.4 | 14.3 | 21.1 | 20.0 |
| ほとんど行われていない | 73.9 | 69.5 | 76.3 | 62.6 | 67.3 | 58.0 | 81.3 | 61.9 | 61.8 | 67.4 |

問４．貴部局では、マルチメディアや情報通信技術を利用される目的をどのようにお考えですか。

Ｑ４－１．教育のコストを抑えるため

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 4.3 | 3.2 | 3.5 | 2.4 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 5.3 | 3.0 |
| ややあてはまる | 16.6 | 16.1 | 10.5 | 14.6 | 29.2 | 19.6 | 15.6 | 4.5 | 22.4 | 17.0 |
| あまりあてはまらない | 61.0 | 55.1 | 68.4 | 64.6 | 50.0 | 51.0 | 56.3 | 77.3 | 44.7 | 57.3 |
| まったくあてはまらない | 18.2 | 25.6 | 17.5 | 18.3 | 20.8 | 26.8 | 28.1 | 18.2 | 27.6 | 22.7 |

Ｑ４－２．カリキュラム改革のため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 16.0 | 14.6 | 10.2 | 13.3 | 10.2 | 11.8 | 9.4 | 9.1 | 14.3 | 13.5 |
| ややあてはまる | 54.5 | 54.4 | 67.8 | 58.8 | 51.0 | 43.8 | 37.5 | 50.0 | 61.0 | 54.0 |
| あまりあてはまらない | 21.9 | 25.4 | 15.3 | 23.6 | 36.7 | 36.6 | 43.8 | 36.4 | 14.3 | 26.1 |
| まったくあてはまらない | 7.5 | 5.6 | 6.8 | 4.2 | 2.0 | 7.8 | 9.4 | 4.5 | 10.4 | 6.4 |

Ｑ４－３．教育の効果をあげるため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 53.5 | 51.9 | 42.4 | 55.4 | 38.8 | 53.9 | 40.6 | 40.9 | 51.9 | 51.3 |
| ややあてはまる | 42.8 | 47.4 | 55.9 | 41.0 | 53.1 | 40.1 | 50.0 | 54.5 | 46.8 | 45.4 |
| あまりあてはまらない | 3.2 | 0.7 | 1.7 | 3.0 | 8.2 | 5.3 | 9.4 | 4.5 | 1.3 | 3.0 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.3 |

Ｑ４－４．新技術を教育へ応用するため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 32.8 | 37.3 | 37.3 | 39.8 | 22.4 | 33.6 | 37.5 | 36.4 | 46.8 | 36.3 |
| ややあてはまる | 53.2 | 45.3 | 44.1 | 50.6 | 59.2 | 51.3 | 46.9 | 59.1 | 37.7 | 48.8 |
| あまりあてはまらない | 11.3 | 16.0 | 18.6 | 7.8 | 16.3 | 12.5 | 12.5 | 4.5 | 14.3 | 13.0 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 1.4 | 0.0 | 1.8 | 2.0 | 2.6 | 3.1 | 0.0 | 1.3 | 1.8 |

Ｑ４－５．新たな学生層を開拓するため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 15.7 | 16.4 | 8.5 | 15.8 | 6.1 | 9.9 | 18.8 | 9.1 | 25.0 | 14.8 |
| ややあてはまる | 46.5 | 40.8 | 39.0 | 41.8 | 65.3 | 25.2 | 53.1 | 59.1 | 39.5 | 41.4 |
| あまりあてはまらない | 36.2 | 38.7 | 50.8 | 37.6 | 24.5 | 46.4 | 25.0 | 31.8 | 31.6 | 38.1 |
| まったくあてはまらない | 1.6 | 4.2 | 1.7 | 4.8 | 4.1 | 18.5 | 3.1 | 0.0 | 3.9 | 5.7 |

Ｑ４－６．研究上の知見を共有するため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 30.3 | 25.9 | 32.2 | 33.7 | 22.4 | 33.3 | 28.1 | 45.5 | 40.3 | 30.8 |
| ややあてはまる | 54.3 | 52.4 | 50.8 | 54.8 | 53.1 | 52.9 | 56.3 | 50.0 | 51.9 | 53.2 |
| あまりあてはまらない | 14.9 | 19.6 | 15.3 | 10.8 | 22.4 | 12.4 | 12.5 | 4.5 | 6.5 | 14.6 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 2.1 | 1.7 | 0.6 | 2.0 | 1.3 | 3.1 | 0.0 | 1.3 | 1.4 |

Ｑ４－７．教員の負荷を減少するため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 3.8 | 4.2 | 6.8 | 5.4 | 6.1 | 5.9 | 3.1 | 4.5 | 6.5 | 5.0 |
| ややあてはまる | 23.9 | 25.6 | 15.3 | 31.9 | 36.7 | 34.6 | 28.1 | 31.8 | 28.6 | 28.0 |
| あまりあてはまらない | 54.3 | 47.4 | 64.4 | 47.6 | 46.9 | 45.8 | 50.0 | 45.5 | 50.6 | 49.7 |
| まったくあてはまらない | 17.9 | 22.8 | 13.6 | 15.1 | 10.2 | 13.7 | 18.8 | 18.2 | 14.3 | 17.3 |

Ｑ４－８．学生の動機づけを高めるため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 39.9 | 42.3 | 33.9 | 37.3 | 22.4 | 30.1 | 34.4 | 45.5 | 48.1 | 38.1 |
| ややあてはまる | 52.1 | 52.1 | 57.6 | 56.6 | 57.1 | 54.9 | 43.8 | 45.5 | 40.3 | 52.5 |
| あまりあてはまらない | 7.4 | 5.2 | 8.5 | 5.4 | 18.4 | 13.1 | 18.8 | 9.1 | 10.4 | 8.5 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.6 | 2.0 | 2.0 | 3.1 | 0.0 | 1.3 | 0.9 |

Q4－9．機関の活動の公開のため

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 24.9 | 24.2 | 32.2 | 40.4 | 30.6 | 31.4 | 37.5 | 36.4 | 40.3 | 30.6 |
| ややあてはまる | 54.6 | 51.6 | 55.9 | 45.8 | 55.1 | 57.5 | 50.0 | 50.0 | 42.9 | 51.8 |
| あまりあてはまらない | 17.3 | 20.4 | 8.5 | 12.7 | 10.2 | 9.8 | 9.4 | 9.1 | 15.6 | 14.9 |
| まったくあてはまらない | 3.2 | 3.9 | 3.4 | 1.2 | 4.1 | 1.3 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 2.7 |

Q4－10．広報活動のため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 32.6 | 30.8 | 37.3 | 48.2 | 38.8 | 45.1 | 46.9 | 40.9 | 45.5 | 38.6 |
| ややあてはまる | 51.3 | 50.3 | 52.5 | 43.4 | 53.1 | 43.8 | 43.8 | 45.5 | 44.2 | 47.9 |
| あまりあてはまらない | 13.4 | 15.7 | 8.5 | 7.2 | 8.2 | 11.1 | 9.4 | 9.1 | 10.4 | 11.7 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 3.1 | 1.7 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 1.7 |

Q4－11．事務運営の効率化のため

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 31.9 | 21.4 | 30.5 | 30.1 | 34.7 | 34.2 | 34.4 | 22.7 | 31.2 | 28.9 |
| ややあてはまる | 47.8 | 48.8 | 55.9 | 56.0 | 44.9 | 39.5 | 50.0 | 40.9 | 45.5 | 48.2 |
| あまりあてはまらない | 15.4 | 23.9 | 11.9 | 10.8 | 18.4 | 23.0 | 15.6 | 31.8 | 20.8 | 18.8 |
| まったくあてはまらない | 4.9 | 6.0 | 1.7 | 3.0 | 2.0 | 3.3 | 0.0 | 4.5 | 2.6 | 4.0 |

問5．貴部局では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用に関して、どのような雰囲気がありますか。

Q5－1．本部の管理層

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|----------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 28.1 | 36.7 | 43.6 | 35.0 | 34.7 | 32.2 | 21.9 | 27.3 | 33.3 | 33.5 |
| 一部が積極的 | 54.6 | 48.2 | 41.8 | 49.1 | 44.9 | 50.0 | 56.3 | 63.6 | 46.7 | 49.8 |
| 一部が消極的 | 9.7 | 8.3 | 7.3 | 10.4 | 12.2 | 8.2 | 15.6 | 9.1 | 13.3 | 9.7 |
| 全体として消極的 | 7.6 | 6.8 | 7.3 | 5.5 | 8.2 | 9.6 | 6.3 | 0.0 | 6.7 | 7.1 |

Q5－2．教 員

| | | | | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 16.0 | 20.5 | 10.3 | 34.3 | 32.7 | 31.4 | 6.3 | 18.2 | 32.9 | 24.0 |
| 一部が積極的 | 71.1 | 69.1 | 72.4 | 57.2 | 57.1 | 58.2 | 81.3 | 68.2 | 55.3 | 64.9 |
| 一部が消極的 | 11.2 | 8.7 | 13.8 | 6.6 | 8.2 | 6.5 | 12.5 | 13.6 | 9.2 | 9.0 |
| 全体として消極的 | 1.6 | 1.7 | 3.4 | 1.8 | 2.0 | 3.9 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 2.1 |

Q5－3．事務職員

| | | | | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 32.4 | 31.0 | 27.6 | 26.7 | 26.5 | 19.2 | 21.9 | 13.6 | 28.0 | 27.5 |
| 一部が積極的 | 52.7 | 55.3 | 56.9 | 58.2 | 61.2 | 57.6 | 53.1 | 77.3 | 45.3 | 55.7 |
| 一部が消極的 | 9.9 | 9.2 | 10.3 | 9.7 | 10.2 | 14.6 | 12.5 | 9.1 | 20.0 | 11.2 |
| 全体として消極的 | 4.9 | 4.6 | 5.2 | 5.5 | 2.0 | 8.6 | 12.5 | 0.0 | 6.7 | 5.6 |

Q5－4．大学院生

| | | | | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 39.9 | 39.8 | 38.6 | 56.5 | 45.8 | 34.1 | 20.8 | 31.3 | 50.8 | 42.2 |
| 一部が積極的 | 52.4 | 51.6 | 54.4 | 38.3 | 43.8 | 55.1 | 58.3 | 62.5 | 39.0 | 49.2 |
| 一部が消極的 | 3.5 | 2.7 | 5.3 | 2.6 | 6.3 | 2.9 | 4.2 | 6.3 | 3.4 | 3.4 |
| 全体として消極的 | 4.2 | 5.9 | 1.8 | 2.6 | 4.2 | 8.0 | 16.7 | 0.0 | 6.8 | 5.2 |

Q5－5. 学部・学生

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|----------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 全体として積極的 | 36.8 | 39.4 | 37.9 | 48.1 | 39.6 | 36.8 | 29.0 | 31.8 | 43.7 | 39.7 |
| 一部が積極的 | 52.4 | 56.6 | 51.7 | 45.7 | 50.0 | 50.0 | 61.3 | 63.6 | 50.7 | 52.4 |
| 一部が消極的 | 5.4 | 2.2 | 8.6 | 5.6 | 6.3 | 4.6 | 0.0 | 4.5 | 2.8 | 4.3 |
| 全体として消極的 | 5.4 | 1.8 | 1.7 | 0.6 | 4.2 | 8.6 | 9.7 | 0.0 | 2.8 | 3.7 |

問6. 貴部局では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用にあたって、何が障害になると思われますか。

Q6－1. 機器設備の導入費用がかかる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 59.4 | 56.3 | 55.9 | 51.2 | 66.7 | 66.0 | 71.9 | 63.6 | 59.0 | 58.8 |
| ややあてはまる | 36.4 | 38.2 | 39.0 | 45.1 | 31.3 | 32.0 | 25.0 | 31.8 | 33.3 | 36.9 |
| あまりあてはまらない | 4.3 | 5.2 | 5.1 | 3.0 | 2.1 | 2.0 | 3.1 | 4.5 | 7.7 | 4.2 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 0.3 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 |

Q6－2. 機器設備の数が不十分

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 41.5 | 40.8 | 54.2 | 35.2 | 52.1 | 55.6 | 53.1 | 45.5 | 44.2 | 44.2 |
| ややあてはまる | 47.3 | 44.6 | 35.6 | 53.1 | 41.7 | 39.1 | 43.8 | 45.5 | 42.9 | 44.8 |
| あまりあてはまらない | 10.6 | 13.6 | 8.5 | 11.1 | 6.3 | 4.6 | 3.1 | 9.1 | 13.0 | 10.2 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 1.0 | 1.7 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 |

Q6－3. 機器設備の維持費用がかかる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 52.1 | 44.6 | 50.8 | 43.6 | 56.3 | 59.9 | 54.8 | 54.5 | 50.0 | 49.9 |
| ややあてはまる | 42.0 | 41.8 | 44.1 | 43.6 | 33.3 | 34.2 | 41.9 | 40.9 | 44.9 | 41.0 |
| あまりあてはまらない | 5.9 | 13.6 | 5.1 | 12.3 | 10.4 | 5.3 | 3.2 | 4.5 | 5.1 | 8.9 |
| まったくあてはまらない | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 |

Q6－4. 教員のメディア活用能力が低い

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 19.3 | 16.7 | 22.4 | 12.2 | 16.7 | 11.8 | 15.6 | 18.2 | 14.3 | 15.8 |
| ややあてはまる | 64.7 | 65.6 | 56.9 | 49.4 | 47.9 | 51.0 | 59.4 | 68.2 | 49.4 | 58.0 |
| あまりあてはまらない | 15.0 | 16.0 | 20.7 | 35.4 | 35.4 | 35.3 | 25.0 | 13.6 | 31.2 | 24.3 |
| まったくあてはまらない | 1.1 | 1.7 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 5.2 | 1.8 |

Q6－5. 授業で利用する必要がない

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 1.1 | 0.7 | 3.4 | 1.8 | 2.1 | 2.6 | 3.1 | 0.0 | 0.0 | 1.5 |
| ややあてはまる | 26.2 | 22.6 | 20.3 | 23.2 | 18.8 | 15.7 | 37.5 | 18.2 | 17.9 | 22.0 |
| あまりあてはまらない | 54.0 | 55.4 | 59.3 | 51.2 | 50.0 | 52.9 | 43.8 | 54.5 | 51.3 | 53.4 |
| まったくあてはまらない | 18.7 | 21.3 | 16.9 | 23.8 | 29.2 | 28.8 | 15.6 | 27.3 | 30.8 | 23.1 |

Q6－6. 利用による教育効果がない

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 1.1 | 0.7 | 0.0 | 1.8 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 |
| ややあてはまる | 20.2 | 10.1 | 12.1 | 10.4 | 10.4 | 19.0 | 21.9 | 9.1 | 7.8 | 13.6 |
| あまりあてはまらない | 56.4 | 57.8 | 55.2 | 62.8 | 56.3 | 54.2 | 56.3 | 68.2 | 57.1 | 57.7 |
| まったくあてはまらない | 22.3 | 31.4 | 32.8 | 25.0 | 31.3 | 26.8 | 21.9 | 22.7 | 35.1 | 27.9 |

Q6-7. 利用できる教材が不足している

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 15.5 | 24.0 | 20.7 | 17.8 | 18.8 | 23.5 | 15.6 | 13.6 | 20.8 | 20.2 |
| ややあてはまる | 60.4 | 54.2 | 56.9 | 64.4 | 60.4 | 54.9 | 50.0 | 54.5 | 48.1 | 56.9 |
| あまりあてはまらない | 21.4 | 18.4 | 20.7 | 14.1 | 18.8 | 20.3 | 34.4 | 27.3 | 26.0 | 19.9 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 3.5 | 1.7 | 3.7 | 2.1 | 1.3 | 0.0 | 4.5 | 5.2 | 2.9 |

Q6-8. 学生のメディア活用能力が低い

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 6.4 | 2.4 | 6.9 | 0.6 | 2.1 | 3.3 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 3.0 |
| ややあてはまる | 32.4 | 33.3 | 22.4 | 20.1 | 25.0 | 34.2 | 46.9 | 40.9 | 26.3 | 30.3 |
| あまりあてはまらない | 54.3 | 57.3 | 58.6 | 63.4 | 52.1 | 54.6 | 50.0 | 50.0 | 53.9 | 56.5 |
| まったくあてはまらない | 6.9 | 6.9 | 12.1 | 15.9 | 20.8 | 7.9 | 3.1 | 9.1 | 18.4 | 10.2 |

Q6-9. 事務職員が対応できない

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 12.3 | 13.3 | 13.6 | 10.4 | 8.3 | 18.3 | 15.6 | 13.6 | 10.4 | 13.0 |
| ややあてはまる | 44.9 | 41.6 | 52.5 | 49.7 | 50.0 | 51.6 | 43.8 | 54.5 | 55.8 | 47.4 |
| あまりあてはまらない | 35.3 | 40.2 | 25.4 | 35.0 | 33.3 | 27.5 | 40.6 | 31.8 | 23.4 | 34.0 |
| まったくあてはまらない | 7.5 | 4.9 | 8.5 | 4.9 | 8.3 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 10.4 | 5.6 |

Q6-10. 支援スタッフが不足している

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 52.1 | 49.7 | 59.3 | 53.7 | 56.3 | 62.7 | 46.9 | 50.0 | 59.0 | 54.2 |
| ややあてはまる | 41.5 | 44.8 | 40.7 | 40.9 | 43.8 | 34.6 | 50.0 | 36.4 | 33.3 | 40.9 |
| あまりあてはまらない | 5.9 | 5.6 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 2.0 | 3.1 | 13.6 | 6.4 | 4.2 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.8 |

Q6-11. 利用の準備に時間がかかる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 35.3 | 40.4 | 32.8 | 37.8 | 43.8 | 31.6 | 18.8 | 27.3 | 39.0 | 36.4 |
| ややあてはまる | 53.5 | 46.3 | 56.9 | 50.6 | 45.8 | 61.2 | 71.9 | 59.1 | 40.3 | 51.7 |
| あまりあてはまらない | 10.7 | 13.2 | 10.3 | 11.0 | 10.4 | 7.2 | 9.4 | 13.6 | 15.6 | 11.3 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.2 | 0.6 |

Q6-12. 特定の者に負担がかかる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 54.3 | 54.2 | 67.8 | 53.7 | 56.3 | 52.9 | 50.0 | 45.5 | 55.1 | 54.6 |
| ややあてはまる | 41.0 | 39.2 | 30.5 | 41.5 | 43.8 | 43.8 | 43.8 | 45.5 | 33.3 | 40.1 |
| あまりあてはまらない | 4.3 | 6.6 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 3.3 | 6.3 | 9.1 | 6.4 | 4.6 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 0.8 |

問7. 貴部局では、現在、下記の通信技術を教育などに利用されていますか。

Q7-1. 衛星通信

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-----------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 利用している | 11.5 | 9.4 | 50.9 | 25.5 | 19.6 | 14.0 | 9.7 | 0.0 | 17.1 | 16.3 |
| 利用を予定している | 14.2 | 14.1 | 19.3 | 19.3 | 30.4 | 16.0 | 3.2 | 19.0 | 14.5 | 16.1 |
| 利用する予定はない | 74.3 | 76.5 | 29.8 | 55.3 | 50.0 | 70.0 | 87.1 | 81.0 | 68.4 | 67.7 |

Q7-2. 地上系通信

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-----------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 利用している | 29.7 | 27.6 | 49.1 | 35.9 | 24.4 | 23.4 | 33.3 | 31.8 | 31.2 | 30.2 |
| 利用を予定している | 17.6 | 15.2 | 13.2 | 17.9 | 31.1 | 20.0 | 13.3 | 4.5 | 19.5 | 17.4 |
| 利用する予定はない | 52.7 | 57.2 | 37.7 | 46.2 | 44.4 | 56.6 | 53.3 | 63.6 | 49.4 | 52.4 |

Q7-SQ1-1. 衛星通信1年間の利用回数

| | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ～5回 | 8.4 | 9.4 | 25.4 | 20.5 | 24.5 | 13.7 | 12.5 | 0.0 | 11.5 | 13.3 |
| 6～15回 | 5.3 | 5.2 | 11.9 | 9.0 | 14.3 | 3.9 | 0.0 | 13.6 | 5.1 | 6.5 |
| 16～25回 | 3.7 | 1.7 | 10.2 | 3.6 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.7 |
| 26～35回 | 1.1 | 1.0 | 6.8 | 1.8 | 2.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 1.8 |
| 36～ | 2.1 | 2.1 | 10.2 | 5.4 | 2.0 | 3.9 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 3.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| 無回答 | 33.7 | 29.2 | 11.9 | 24.1 | 34.7 | 28.1 | 37.5 | 27.3 | 32.1 | 28.7 |

Q7-SQ1-1. 衛星通信1年間の利用回数

| | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ～5回 | 8.4 | 9.4 | 25.4 | 20.5 | 24.5 | 13.7 | 12.5 | 0.0 | 11.5 | 13.3 |
| 6～15回 | 5.3 | 5.2 | 11.9 | 9.0 | 14.3 | 3.9 | 0.0 | 13.6 | 5.1 | 6.5 |
| 16～25回 | 3.7 | 1.7 | 10.2 | 3.6 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.7 |
| 26～35回 | 1.1 | 1.0 | 6.8 | 1.8 | 2.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 5.1 | 1.8 |
| 36～ | 2.1 | 2.1 | 10.2 | 5.4 | 2.0 | 3.9 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 3.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| 無回答 | 33.7 | 29.2 | 11.9 | 24.1 | 34.7 | 28.1 | 37.5 | 27.3 | 32.1 | 28.7 |

Q7-SQ1-2. 地上系通信1年間の利用回数

| | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ～5回 | 5.8 | 9.4 | 16.9 | 10.2 | 14.3 | 11.1 | 15.6 | 0.0 | 6.4 | 9.5 |
| 6～15回 | 8.4 | 10.1 | 11.9 | 9.0 | 14.3 | 10.5 | 3.1 | 9.1 | 3.8 | 9.3 |
| 16～25回 | 5.3 | 4.2 | 6.8 | 6.6 | 10.2 | 2.6 | 6.3 | 0.0 | 5.1 | 5.0 |
| 26～35回 | 2.1 | 2.1 | 1.7 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 9.1 | 1.3 | 1.6 |
| 36～ | 18.4 | 14.6 | 18.6 | 19.9 | 8.2 | 12.4 | 9.4 | 18.2 | 26.9 | 16.6 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| 無回答 | 14.2 | 8.3 | 20.3 | 17.5 | 30.6 | 16.3 | 15.6 | 4.5 | 12.8 | 14.3 |

Q7-SQ2. 用いる場面

Q7-SQ2-1. 衛星通信

Q7-SQ2-1(1). 共通教養教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 9.5 | 7.3 | 11.9 | 13.3 | 10.2 | 5.2 | 6.3 | 4.5 | 10.3 | 8.9 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 44.7 | 41.3 | 64.4 | 51.2 | 67.3 | 48.4 | 43.8 | 36.4 | 46.2 | 47.4 |

Q7-SQ2-1(2). 学部生対象の専門教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 12.6 | 11.1 | 28.8 | 17.5 | 16.3 | 12.4 | 6.3 | 4.5 | 6.4 | 13.2 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 41.6 | 37.5 | 47.5 | 47.0 | 61.2 | 41.2 | 43.8 | 36.4 | 50.0 | 43.1 |

Q7-SQ2-1(3). 大学院生対象の教育

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.8 | 5.9 | 37.3 | 21.7 | 20.4 | 9.2 | 0.0 | 0.0 | 9.0 | 11.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 48.4 | 42.7 | 39.0 | 42.8 | 57.1 | 44.4 | 50.0 | 40.9 | 47.4 | 45.0 |

Q7-SQ2-1(4). 語学教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.4 | 4.9 | 5.1 | 6.6 | 4.1 | 5.2 | 3.1 | 0.0 | 5.1 | 5.5 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 46.8 | 43.8 | 71.2 | 57.8 | 73.5 | 48.4 | 46.9 | 40.9 | 51.3 | 50.8 |

Q7-SQ2-1(5). 補習教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 3.7 | 2.4 | 1.7 | 1.8 | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 2.1 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 50.5 | 46.2 | 74.6 | 62.7 | 77.6 | 51.6 | 50.0 | 36.4 | 56.4 | 54.2 |

Q7-SQ2-1(6). 社会人対象の研修や公開講座

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 9.5 | 8.7 | 30.5 | 11.4 | 16.3 | 10.5 | 0.0 | 4.5 | 10.3 | 10.9 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 44.7 | 39.9 | 45.8 | 53.0 | 61.2 | 43.1 | 50.0 | 36.4 | 46.2 | 45.4 |

Q7-SQ2-1(7). 教員や大学院生の研究会

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.4 | 5.9 | 37.3 | 21.7 | 22.4 | 14.4 | 6.3 | 4.5 | 11.5 | 12.9 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 46.8 | 42.7 | 39.0 | 42.8 | 55.1 | 39.2 | 43.8 | 36.4 | 44.9 | 43.4 |

Q7-SQ2-1(8). 教員や職員の会議

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 3.7 | 4.5 | 27.1 | 12.7 | 22.4 | 7.2 | 0.0 | 4.5 | 3.8 | 8.0 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 50.5 | 44.1 | 49.2 | 51.8 | 55.1 | 46.4 | 50.0 | 36.4 | 52.6 | 48.3 |

Q7-SQ2-2. 地上系通信

Q7-SQ2-2(1). 共通教養教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 21.6 | 18.8 | 16.9 | 21.1 | 26.5 | 19.6 | 18.8 | 13.6 | 17.9 | 19.9 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 32.6 | 29.9 | 59.3 | 43.4 | 51.0 | 34.0 | 31.3 | 27.3 | 38.5 | 36.5 |

Q7-SQ2-2(2). 学部生対象の専門教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 23.2 | 26.4 | 32.2 | 27.1 | 26.5 | 28.8 | 31.3 | 22.7 | 26.9 | 26.7 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 31.1 | 22.2 | 44.1 | 37.3 | 51.0 | 24.8 | 18.8 | 18.2 | 29.5 | 29.6 |

Q7-SQ2-2(3). 大学院生対象の教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 11.1 | 11.8 | 23.7 | 26.5 | 26.5 | 14.4 | 6.3 | 13.6 | 23.1 | 16.5 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 43.2 | 36.8 | 52.5 | 38.0 | 51.0 | 39.2 | 43.8 | 27.3 | 33.3 | 39.8 |

Q7-SQ2-2(4). 語学教育

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 17.4 | 12.2 | 6.8 | 10.8 | 12.2 | 11.8 | 6.3 | 9.1 | 12.8 | 12.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 36.8 | 36.5 | 69.5 | 53.6 | 65.3 | 41.8 | 43.8 | 31.8 | 43.6 | 44.0 |

Q7-SQ2-2(5). 補習教育

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.4 | 6.9 | 6.8 | 10.2 | 12.2 | 9.2 | 0.0 | 4.5 | 9.0 | 8.0 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 46.8 | 41.7 | 69.5 | 54.2 | 65.3 | 44.4 | 50.0 | 36.4 | 47.4 | 48.3 |

Q7-SQ2-2(6). 社会人対象の研修や公開講座

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 15.3 | 16.7 | 27.1 | 19.3 | 20.4 | 11.8 | 6.3 | 13.6 | 14.1 | 16.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 38.9 | 31.9 | 49.2 | 45.2 | 57.1 | 41.8 | 43.8 | 27.3 | 42.3 | 40.0 |

Q7-SQ2-2(7). 教員や大学院生の研究会

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 13.7 | 13.2 | 27.1 | 24.1 | 18.4 | 15.7 | 9.4 | 9.1 | 19.2 | 16.7 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 40.5 | 35.4 | 49.2 | 40.4 | 59.2 | 37.9 | 40.6 | 31.8 | 37.2 | 39.6 |

Q7-SQ2-2(8). 教員や職員の会議

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 15.8 | 15.3 | 32.2 | 27.7 | 34.7 | 17.0 | 21.9 | 13.6 | 24.4 | 20.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 38.4 | 33.3 | 44.1 | 36.7 | 42.9 | 36.6 | 28.1 | 27.3 | 32.1 | 36.0 |

Q7-SQ3. どのような方法によって通信を確保していますか

Q7-SQ3-1. 衛星通信

Q7-SQ3-1(1). 双方向の音声・映像による同時の交信

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 15.8 | 10.4 | 55.9 | 34.9 | 32.7 | 19.6 | 3.1 | 9.1 | 16.7 | 20.5 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 38.4 | 38.2 | 20.3 | 29.5 | 44.9 | 34.0 | 46.9 | 31.8 | 39.7 | 35.8 |

Q7-SQ3-1(2). 音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 4.7 | 3.1 | 3.4 | 3.6 | 0.0 | 1.3 | 3.1 | 0.0 | 3.8 | 3.1 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 49.5 | 45.5 | 72.9 | 60.8 | 77.6 | 52.3 | 46.9 | 40.9 | 52.6 | 53.2 |

Q7-SQ3-1(3). 音声・映像による送信と、その後にその他の手段による返信

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 2.1 | 3.5 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 2.5 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 52.1 | 45.1 | 74.6 | 61.4 | 77.6 | 51.0 | 50.0 | 40.9 | 53.8 | 53.8 |

Q7-SQ3-1(4). 一方向の音声・映像

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 2.1 | 4.5 | 5.1 | 5.4 | 4.1 | 2.0 | 3.1 | 0.0 | 3.8 | 3.7 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 52.1 | 44.1 | 71.2 | 59.0 | 73.5 | 51.6 | 46.9 | 40.9 | 52.6 | 52.7 |

Q7-SQ3-2. 地上系通信

Q7-SQ3-2(1). 双方向の音声・映像による同時の交信

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 18.4 | 24.0 | 33.9 | 29.5 | 36.7 | 14.4 | 18.8 | 13.6 | 26.9 | 23.4 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 35.8 | 24.7 | 42.4 | 34.9 | 40.8 | 39.2 | 31.3 | 27.3 | 29.5 | 32.9 |

Q7-SQ3-2(2). 音声・映像による送信と、同時にその他の手段による返信

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| あてはまる | 13.2 | 9.4 | 13.6 | 11.4 | 14.3 | 7.8 | 3.1 | 13.6 | 12.8 | 10.8 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 41.1 | 39.2 | 62.7 | 53.0 | 63.3 | 45.8 | 46.9 | 27.3 | 43.6 | 45.5 |

Q7-SQ3-2(3). 音声・映像による送信と、その後その他の手段による返信

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 14.7 | 7.6 | 13.6 | 15.7 | 14.3 | 5.2 | 3.1 | 4.5 | 10.3 | 10.5 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 39.5 | 41.0 | 62.7 | 48.8 | 63.3 | 48.4 | 46.9 | 36.4 | 46.2 | 45.8 |

Q7-SQ3-2(4). 一方の音声・映像

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 12.6 | 10.4 | 13.6 | 13.3 | 8.2 | 14.4 | 18.8 | 9.1 | 5.1 | 11.8 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 41.6 | 38.2 | 62.7 | 51.2 | 69.4 | 39.2 | 31.3 | 31.8 | 51.3 | 44.6 |

Q7-SQ4. どの地点と接続していますか

Q7-SQ4. 接続地点

Q7-SQ4-1. 衛星通信

Q7-SQ4-1(1). 同一機関内

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 3.2 | 5.2 | 5.1 | 6.0 | 14.3 | 2.0 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 4.4 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 51.1 | 43.4 | 71.2 | 58.4 | 63.3 | 51.6 | 43.8 | 40.9 | 56.4 | 51.9 |

Q7-SQ4-1(2). 国内の他機関

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 14.7 | 12.5 | 57.6 | 30.7 | 28.6 | 21.6 | 6.3 | 9.1 | 21.8 | 20.9 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 39.5 | 36.1 | 18.6 | 33.7 | 49.0 | 32.0 | 43.8 | 31.8 | 34.6 | 35.4 |

Q7-SQ4-1(3). 海外の他機関

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.8 | 3.8 | 0.0 | 4.8 | 2.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 2.6 | 3.5 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 48.4 | 44.8 | 76.3 | 59.6 | 75.5 | 51.6 | 50.0 | 40.9 | 53.8 | 52.8 |

Q7-SQ4-2. 地上系通信

Q7-SQ4-2(1). 同一機関内

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 27.4 | 25.3 | 30.5 | 36.7 | 40.8 | 24.8 | 25.0 | 18.2 | 23.1 | 28.2 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 26.8 | 23.3 | 45.8 | 27.7 | 36.7 | 28.8 | 25.0 | 22.7 | 33.3 | 28.2 |

Q7-SQ4-2(2). 国内の他機関

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 21.6 | 21.5 | 32.2 | 21.7 | 16.3 | 19.6 | 18.8 | 18.2 | 32.1 | 22.3 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 32.6 | 27.1 | 44.1 | 42.8 | 61.2 | 34.0 | 31.3 | 22.7 | 24.4 | 34.0 |

Q7-SQ4-2(3). 海外の他機関

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 6.8 | 9.4 | 8.5 | 9.0 | 6.1 | 6.5 | 6.3 | 0.0 | 7.7 | 7.8 |
| 非該当 | 45.8 | 51.4 | 23.7 | 35.5 | 22.4 | 46.4 | 50.0 | 59.1 | 43.6 | 43.7 |
| あてはまらない・無回答 | 47.4 | 39.2 | 67.8 | 55.4 | 71.4 | 47.1 | 43.8 | 40.9 | 48.7 | 48.5 |

問 8. 貴部局ではインターネットを導入されていますか。

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|----------|-------|-------|-------|------|-------|-----------|------|------|------|------|
| 導入している | 98.9 | 99.3 | 100.0 | 98.8 | 100.0 | 98.6 | 93.5 | 90.9 | 97.3 | 98.6 |
| 導入を予定してる | 0.5 | 0.4 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 1.4 | 3.2 | 4.5 | 1.3 | 0.9 |
| 導入の予定はない | 0.5 | 0.4 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.2 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |

Q 8－SQ 1. インターネット利用のためのID付与

Q 8－SQ 1－1. 教員に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 46.8 | 63.5 | 39.0 | 75.3 | 69.4 | 55.6 | 21.9 | 40.9 | 66.7 | 58.5 |
| 希望者に与えている | 45.8 | 31.9 | 52.5 | 21.1 | 28.6 | 37.9 | 46.9 | 45.5 | 26.9 | 35.0 |
| 一部に与えている | 2.6 | 0.0 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 9.4 | 4.5 | 1.3 | 1.4 |
| 与えていない | 3.2 | 0.0 | 1.7 | 0.0 | 2.0 | 0.7 | 12.5 | 4.5 | 0.0 | 1.4 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 1.1 | 4.2 | 5.1 | 3.6 | 0.0 | 3.9 | 6.3 | 0.0 | 3.8 | 3.3 |

Q 8－SQ 1－2. 事務職員に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 47.9 | 61.1 | 49.2 | 75.3 | 59.2 | 52.3 | 31.3 | 45.5 | 51.3 | 56.9 |
| 希望者に与えている | 33.7 | 27.1 | 37.3 | 18.1 | 36.7 | 33.3 | 28.1 | 36.4 | 26.9 | 29.0 |
| 一部に与えている | 11.1 | 5.6 | 6.8 | 1.8 | 2.0 | 9.2 | 15.6 | 4.5 | 12.8 | 7.2 |
| 与えていない | 4.2 | 1.4 | 1.7 | 1.2 | 2.0 | 1.3 | 15.6 | 9.1 | 2.6 | 2.6 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 2.6 | 4.5 | 5.1 | 3.6 | 0.0 | 3.9 | 6.3 | 0.0 | 5.1 | 3.8 |

Q 8－SQ 1－3. 大学院生に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 37.9 | 44.1 | 37.3 | 64.5 | 42.9 | 47.1 | 9.4 | 22.7 | 48.7 | 45.0 |
| 希望者に与えている | 30.0 | 29.2 | 54.2 | 22.9 | 49.0 | 33.3 | 15.6 | 36.4 | 17.9 | 30.2 |
| 一部に与えている | 3.2 | 0.7 | 0.0 | 1.2 | 0.0 | 3.9 | 21.9 | 4.5 | 1.3 | 2.4 |
| 与えていない | 5.3 | 2.4 | 0.0 | 0.0 | 6.1 | 3.9 | 15.6 | 13.6 | 2.6 | 3.5 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 23.2 | 23.3 | 8.5 | 11.4 | 2.0 | 11.8 | 34.4 | 18.2 | 28.2 | 18.4 |

Q 8－SQ 1－4. 学部学生に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 48.4 | 59.0 | 49.2 | 66.3 | 38.8 | 49.0 | 18.8 | 36.4 | 62.8 | 53.8 |
| 希望者に与えている | 33.7 | 26.4 | 40.7 | 22.3 | 46.9 | 23.5 | 15.6 | 36.4 | 12.8 | 27.3 |
| 一部に与えている | 3.7 | 3.1 | 0.0 | 3.6 | 6.1 | 7.8 | 25.0 | 9.1 | 3.8 | 4.8 |
| 与えていない | 10.5 | 4.5 | 3.4 | 1.2 | 6.1 | 15.7 | 31.3 | 13.6 | 10.3 | 8.2 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 3.2 | 6.6 | 6.8 | 6.6 | 2.0 | 3.9 | 6.3 | 0.0 | 9.0 | 5.4 |

Q 8－SQ 1－5. 卒業生に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に与えている | 1.1 | 1.4 | 1.7 | 0.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.8 |
| 希望者に与えている | 1.1 | 4.5 | 6.8 | 4.8 | 0.0 | 10.5 | 3.1 | 0.0 | 7.7 | 4.8 |
| 一部に与えている | 7.9 | 5.9 | 6.8 | 4.8 | 2.0 | 7.8 | 9.4 | 0.0 | 1.3 | 5.9 |
| 与えていない | 81.6 | 76.4 | 78.0 | 82.5 | 95.9 | 71.2 | 71.9 | 86.4 | 74.4 | 78.5 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 7.9 | 11.5 | 6.8 | 7.2 | 2.0 | 10.5 | 12.5 | 9.1 | 15.4 | 9.5 |

Q8-SQ2. インターネット利用のための教育・研修

Q8-SQ2-1. 教員に

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-----------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 8.4 | 10.8 | 1.7 | 6.0 | 14.3 | 10.5 | 6.3 | 13.6 | 5.1 | 8.7 |
| 希望者に行っている | 45.3 | 46.5 | 40.7 | 27.7 | 28.6 | 28.8 | 21.9 | 40.9 | 29.5 | 37.3 |
| 一部に行っている | 15.8 | 13.9 | 20.3 | 21.7 | 20.4 | 22.2 | 37.5 | 9.1 | 19.2 | 18.4 |
| 行っていない | 28.4 | 23.6 | 32.2 | 38.6 | 34.7 | 34.6 | 28.1 | 31.8 | 41.0 | 31.1 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 1.6 | 4.9 | 5.1 | 6.0 | 2.0 | 3.9 | 3.1 | 0.0 | 3.8 | 4.0 |

Q8-SQ2-2. 事務職員に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 22.6 | 19.8 | 13.6 | 15.7 | 20.4 | 13.1 | 9.4 | 13.6 | 10.3 | 17.2 |
| 希望者に行っている | 33.7 | 36.5 | 40.7 | 32.5 | 24.5 | 26.8 | 21.9 | 40.9 | 35.9 | 33.2 |
| 一部に行っている | 15.8 | 16.7 | 13.6 | 21.7 | 24.5 | 25.5 | 28.1 | 4.5 | 20.5 | 19.2 |
| 行っていない | 24.7 | 20.1 | 27.1 | 25.3 | 30.6 | 30.1 | 31.3 | 36.4 | 26.9 | 25.4 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 2.6 | 6.6 | 5.1 | 4.8 | 0.0 | 4.6 | 6.3 | 0.0 | 5.1 | 4.6 |

Q8-SQ2-3. 大学院生に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 13.2 | 12.5 | 13.6 | 17.5 | 18.4 | 13.1 | 6.3 | 4.5 | 23.1 | 14.3 |
| 希望者に行っている | 33.7 | 36.5 | 49.2 | 31.3 | 38.8 | 26.1 | 21.9 | 40.9 | 20.5 | 32.9 |
| 一部に行っている | 7.9 | 10.8 | 18.6 | 18.7 | 18.4 | 19.0 | 15.6 | 4.5 | 10.3 | 13.5 |
| 行っていない | 20.0 | 15.6 | 10.2 | 20.5 | 22.4 | 30.7 | 21.9 | 27.3 | 15.4 | 19.9 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 24.7 | 24.3 | 8.5 | 12.0 | 2.0 | 11.1 | 31.3 | 18.2 | 29.5 | 19.0 |

Q8-SQ2-4. 学部学生に

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 全員に行っている | 36.3 | 47.6 | 40.7 | 47.0 | 36.7 | 52.3 | 12.5 | 13.6 | 48.7 | 43.5 |
| 希望者に行っている | 38.9 | 29.2 | 32.2 | 24.1 | 28.6 | 17.6 | 40.6 | 50.0 | 20.5 | 28.7 |
| 一部に行っている | 11.6 | 12.8 | 13.6 | 14.5 | 20.4 | 12.4 | 25.0 | 18.2 | 9.0 | 13.4 |
| 行っていない | 9.5 | 4.2 | 5.1 | 7.2 | 12.2 | 14.4 | 15.6 | 9.1 | 11.5 | 8.6 |
| 非該当 | 0.5 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 4.5 | 1.3 | 0.5 |
| 無回答 | 3.2 | 5.9 | 8.5 | 7.2 | 2.0 | 3.3 | 3.1 | 4.5 | 9.0 | 5.3 |

問9. 貴部局では学生にパソコンの所持を義務づけていますか。

Q9-1. 大学院生に

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 義務づけている | 1.4 | 1.8 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 1.0 |
| 一部に義務づけている | 4.1 | 1.8 | 0.0 | 3.9 | 2.0 | 1.4 | 8.0 | 0.0 | 1.8 | 2.5 |
| 推奨している | 38.4 | 36.7 | 31.6 | 35.1 | 22.4 | 35.3 | 12.0 | 43.8 | 30.4 | 34.3 |
| どちらでもない | 56.2 | 59.7 | 68.4 | 60.4 | 75.5 | 62.6 | 80.0 | 56.3 | 66.1 | 62.1 |

Q9-2. 学部学生に

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 義務づけている | 3.7 | 7.8 | 1.7 | 4.9 | 2.1 | 1.3 | 3.2 | 0.0 | 5.6 | 4.5 |
| 一部に義務づけている | 5.9 | 2.5 | 1.7 | 9.9 | 2.1 | 1.3 | 12.9 | 4.8 | 6.9 | 4.7 |
| 推奨している | 34.2 | 38.8 | 32.8 | 27.8 | 18.8 | 33.1 | 12.9 | 38.1 | 33.3 | 32.8 |
| どちらでもない | 56.1 | 50.9 | 63.8 | 57.4 | 77.1 | 64.2 | 71.0 | 57.1 | 54.2 | 57.9 |

問10. 貴部局ではWWW上にホームページを作成していますか。

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|---------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 公認のページを作成している | 92.5 | 91.2 | 89.7 | 94.6 | 95.9 | 94.1 | 78.1 | 90.9 | 93.6 | 92.3 |
| 非公認のページがある | 0.5 | 4.6 | 6.9 | 3.6 | 0.0 | 4.6 | 6.3 | 0.0 | 3.8 | 3.5 |
| 作成してない | 7.0 | 4.2 | 3.4 | 1.8 | 4.1 | 1.3 | 15.6 | 9.1 | 2.6 | 4.2 |

SQ10-SQ1. ホームページの作成・更新の担当者

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 担当委員会の教員 | 35.3 | 35.1 | 44.1 | 42.2 | 49.0 | 39.9 | 21.9 | 31.8 | 33.3 | 37.5 |
| 事務職員 | 30.5 | 27.4 | 22.0 | 28.3 | 10.2 | 21.6 | 28.1 | 27.3 | 28.2 | 26.2 |
| TAやRA | 0.5 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.1 | 0.0 | 3.8 | 1.0 |
| ボランティアの教員 | 8.4 | 11.8 | 13.6 | 12.7 | 18.4 | 19.6 | 6.3 | 13.6 | 14.1 | 12.9 |
| ボランティアの学生 | 0.5 | 0.7 | 0.0 | 0.6 | 4.1 | 0.0 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 0.7 |
| 外部企業に委託 | 10.0 | 6.9 | 0.0 | 3.0 | 6.1 | 3.9 | 6.3 | 13.6 | 9.0 | 6.3 |
| その他 | 5.8 | 5.9 | 3.4 | 6.0 | 6.1 | 7.2 | 12.5 | 0.0 | 3.8 | 5.9 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 1.6 | 1.7 | 6.8 | 1.8 | 2.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 1.9 |

SQ10-SQ2. 外部への公表

SQ10-SQ2-1. 部局の沿革・組織構成

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 64.7 | 64.2 | 78.0 | 75.3 | 81.6 | 71.9 | 59.4 | 68.2 | 78.2 | 69.8 |
| 一部を公表している | 15.8 | 16.0 | 8.5 | 16.3 | 12.2 | 13.7 | 3.1 | 9.1 | 15.4 | 14.5 |
| 公表を計画している | 2.1 | 2.8 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 1.3 | 3.1 | 0.0 | 0.0 | 1.5 |
| 掲載していない | 7.4 | 6.6 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 5.9 | 12.5 | 13.6 | 0.0 | 5.3 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 2.6 | 1.7 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |

SQ10-SQ2-2. 部局のニュース・イベント

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 36.3 | 42.4 | 39.0 | 43.4 | 40.8 | 43.1 | 46.9 | 27.3 | 43.6 | 41.2 |
| 一部を公表している | 33.2 | 22.9 | 22.0 | 35.5 | 32.7 | 30.1 | 15.6 | 40.9 | 37.2 | 29.5 |
| 公表を計画している | 7.4 | 9.4 | 5.1 | 6.0 | 6.1 | 5.2 | 12.5 | 9.1 | 3.8 | 7.1 |
| 掲載していない | 11.6 | 14.2 | 20.3 | 7.8 | 14.3 | 13.7 | 3.1 | 13.6 | 9.0 | 12.2 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 4.2 | 2.4 | 3.4 | 1.8 | 2.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.3 |

SQ10-SQ2-3. 開講科目一覧・シラバス

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-----------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 公表している | 25.3 | 24.3 | 35.6 | 30.7 | 30.6 | 18.3 | 15.6 | 22.7 | 29.5 | 25.7 |
| 一部を公表している | 25.8 | 30.2 | 18.6 | 31.9 | 28.6 | 26.1 | 21.9 | 22.7 | 30.8 | 28.0 |
| 公表を計画している | 16.8 | 18.1 | 8.5 | 14.5 | 10.2 | 19.6 | 25.0 | 27.3 | 15.4 | 16.8 |
| 掲載していない | 22.6 | 16.3 | 22.0 | 17.5 | 24.5 | 29.4 | 15.6 | 13.6 | 17.9 | 20.3 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 2.1 | 2.4 | 5.1 | 0.0 | 2.0 | 0.7 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 1.6 |

SQ10-SQ2-4. 授業の内容・課題

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 13.7 | 9.7 | 11.9 | 14.5 | 10.2 | 11.1 | 9.4 | 9.1 | 12.8 | 11.8 |
| 一部を公表している | 31.6 | 34.0 | 28.8 | 39.2 | 28.6 | 21.6 | 21.9 | 18.2 | 29.5 | 31.0 |
| 公表を計画している | 10.0 | 18.1 | 8.5 | 13.3 | 12.2 | 19.0 | 25.0 | 40.9 | 9.0 | 15.1 |
| 掲載していない | 34.2 | 27.4 | 35.6 | 26.5 | 40.8 | 41.8 | 21.9 | 22.7 | 42.3 | 32.6 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 3.2 | 2.1 | 5.1 | 1.2 | 4.1 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.9 |

SQ10-SQ2-5. 授業の教材など

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 5.8 | 5.6 | 3.4 | 8.4 | 12.2 | 7.8 | 0.0 | 4.5 | 11.5 | 6.8 |
| 一部を公表している | 25.3 | 24.0 | 27.1 | 38.6 | 10.2 | 16.3 | 15.6 | 9.1 | 23.1 | 24.3 |
| 公表を計画している | 5.3 | 17.4 | 5.1 | 8.4 | 10.2 | 16.3 | 18.8 | 36.4 | 9.0 | 12.3 |
| 掲載していない | 52.6 | 42.4 | 47.5 | 36.7 | 59.2 | 52.9 | 43.8 | 36.4 | 50.0 | 46.5 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 3.7 | 2.1 | 6.8 | 2.4 | 4.1 | 0.7 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 2.4 |

SQ10-SQ2-6. 入学要件・入試情報

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 80.0 | 73.6 | 62.7 | 69.9 | 79.6 | 78.4 | 56.3 | 77.3 | 78.2 | 74.4 |
| 一部を公表している | 3.2 | 5.9 | 6.8 | 11.4 | 12.2 | 7.2 | 15.6 | 4.5 | 10.3 | 7.4 |
| 公表を計画している | 0.5 | 2.4 | 3.4 | 3.0 | 0.0 | 2.0 | 6.3 | 0.0 | 1.3 | 2.0 |
| 掲載していない | 6.3 | 6.6 | 13.6 | 10.2 | 2.0 | 5.9 | 0.0 | 4.5 | 3.8 | 6.8 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 2.6 | 2.8 | 3.4 | 0.0 | 2.0 | 0.7 | 0.0 | 4.5 | 0.0 | 1.7 |

SQ10-SQ2-7. 図書館の蔵書カタログ・検索

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 38.9 | 39.9 | 44.1 | 31.3 | 34.7 | 39.9 | 12.5 | 27.3 | 35.9 | 36.9 |
| 一部を公表している | 8.9 | 10.4 | 6.8 | 19.9 | 8.2 | 14.4 | 12.5 | 13.6 | 14.1 | 12.3 |
| 公表を計画している | 9.5 | 7.3 | 0.0 | 9.0 | 6.1 | 5.9 | 18.8 | 9.1 | 9.0 | 7.8 |
| 掲載していない | 32.1 | 30.9 | 33.9 | 32.5 | 36.7 | 31.4 | 34.4 | 36.4 | 29.5 | 32.0 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 3.2 | 2.8 | 5.1 | 1.8 | 10.2 | 2.6 | 0.0 | 4.5 | 5.1 | 3.3 |

SQ10-SQ2-8. 教員・研究室の紹介

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-----------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 公表している | 27.9 | 35.8 | 32.2 | 56.0 | 57.1 | 47.1 | 12.5 | 22.7 | 42.3 | 39.5 |
| 一部を公表している | 41.1 | 39.2 | 42.4 | 37.3 | 34.7 | 32.7 | 34.4 | 45.5 | 35.9 | 38.0 |
| 公表を計画している | 8.9 | 6.6 | 3.4 | 0.0 | 2.0 | 4.6 | 21.9 | 13.6 | 7.7 | 6.0 |
| 掲載していない | 12.6 | 8.3 | 8.5 | 1.2 | 2.0 | 9.2 | 9.4 | 9.1 | 7.7 | 7.8 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 2.1 | 1.4 | 3.4 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.1 |

SQ10-SQ2-9. 学生のサークル活動

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 15.3 | 14.6 | 10.2 | 18.1 | 14.3 | 12.4 | 6.3 | 22.7 | 23.1 | 15.2 |
| 一部を公表している | 25.8 | 29.5 | 27.1 | 30.7 | 20.4 | 24.2 | 21.9 | 13.6 | 23.1 | 26.6 |
| 公表を計画している | 6.8 | 9.4 | 8.5 | 7.2 | 6.1 | 12.4 | 18.8 | 18.2 | 9.0 | 9.3 |
| 掲載していない | 41.1 | 35.4 | 37.3 | 37.3 | 49.0 | 44.4 | 31.3 | 31.8 | 34.6 | 38.6 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 3.7 | 2.4 | 6.8 | 1.2 | 6.1 | 0.7 | 0.0 | 4.5 | 3.8 | 2.7 |

SQ10-SQ2-10. 就職・求人情報

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 17.4 | 18.8 | 22.0 | 21.1 | 12.2 | 9.8 | 18.8 | 4.5 | 23.1 | 17.5 |
| 一部を公表している | 28.9 | 18.4 | 13.6 | 22.9 | 16.3 | 14.4 | 9.4 | 27.3 | 16.7 | 19.9 |
| 公表を計画している | 8.4 | 10.8 | 6.8 | 8.4 | 10.2 | 10.5 | 15.6 | 13.6 | 9.0 | 9.7 |
| 掲載していない | 34.7 | 41.0 | 40.7 | 41.6 | 51.0 | 56.9 | 34.4 | 36.4 | 41.0 | 42.4 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 3.2 | 2.4 | 6.8 | 0.6 | 6.1 | 2.6 | 0.0 | 9.1 | 3.8 | 2.9 |

SQ10-SQ2-11. 同窓会情報

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 9.5 | 12.2 | 3.4 | 15.1 | 6.1 | 21.6 | 15.6 | 0.0 | 10.3 | 12.4 |
| 一部を公表している | 10.5 | 12.8 | 6.8 | 18.1 | 10.2 | 10.5 | 3.1 | 22.7 | 6.4 | 11.9 |
| 公表を計画している | 12.6 | 13.5 | 10.2 | 9.6 | 14.3 | 11.8 | 21.9 | 18.2 | 12.8 | 12.6 |
| 掲載していない | 56.3 | 49.7 | 61.0 | 50.6 | 55.1 | 47.7 | 34.4 | 50.0 | 57.7 | 51.8 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 3.7 | 3.1 | 8.5 | 1.2 | 10.2 | 2.6 | 3.1 | 0.0 | 6.4 | 3.7 |

SQ10-SQ2-12. 外部サイトへのリンク

| | | | | | | | | | | |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 公表している | 31.6 | 34.0 | 40.7 | 37.3 | 32.7 | 41.2 | 15.6 | 22.7 | 33.3 | 34.6 |
| 一部を公表している | 20.0 | 27.1 | 18.6 | 31.3 | 32.7 | 21.6 | 34.4 | 27.3 | 23.1 | 25.4 |
| 公表を計画している | 6.8 | 6.9 | 3.4 | 2.4 | 0.0 | 3.9 | 12.5 | 13.6 | 10.3 | 5.8 |
| 掲載していない | 28.4 | 20.1 | 22.0 | 22.3 | 22.4 | 26.1 | 15.6 | 22.7 | 24.4 | 23.3 |
| 非該当 | 7.4 | 8.7 | 10.2 | 5.4 | 4.1 | 5.9 | 21.9 | 9.1 | 6.4 | 7.6 |
| 無回答 | 5.8 | 3.1 | 5.1 | 1.2 | 8.2 | 1.3 | 0.0 | 4.5 | 2.6 | 3.3 |

問11. 貴部局では、今後インターネットをどの程度利用しようとお考えですか。

Q11-1. 授業の提供

| | 人文科学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|------------|-------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 31.9 | 41.3 | 36.2 | 36.6 | 16.7 | 31.3 | 35.5 | 31.8 | 40.3 | 35.4 |
| ある程度は利用したい | 53.8 | 49.5 | 51.7 | 52.4 | 68.8 | 55.3 | 41.9 | 59.1 | 50.6 | 52.7 |
| 利用の必要がない | 14.3 | 9.3 | 12.1 | 11.0 | 14.6 | 13.3 | 22.6 | 9.1 | 9.1 | 11.8 |

Q11-2. 学生がインターネットによって収集した情報による授業

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 33.9 | 47.2 | 31.0 | 25.3 | 16.7 | 32.7 | 41.9 | 40.9 | 44.2 | 36.2 |
| ある程度は利用したい | 60.1 | 47.5 | 55.2 | 61.4 | 66.7 | 50.7 | 45.2 | 54.5 | 50.6 | 54.2 |
| 利用の必要がない | 6.0 | 5.3 | 13.8 | 13.3 | 16.7 | 16.7 | 12.9 | 4.5 | 5.2 | 9.6 |

Q11-3. 電子メールによる学生からのレポート等の提出

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 44.6 | 62.5 | 58.6 | 56.6 | 50.0 | 49.7 | 35.5 | 31.8 | 60.3 | 54.0 |
| ある程度は利用したい | 50.5 | 34.7 | 39.7 | 40.4 | 50.0 | 43.0 | 54.8 | 59.1 | 37.2 | 42.0 |
| 利用の必要がない | 4.8 | 2.8 | 1.7 | 3.0 | 0.0 | 7.3 | 9.7 | 9.1 | 2.6 | 4.0 |

Q11-4. 電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の討議

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 45.9 | 58.9 | 55.2 | 59.6 | 43.8 | 51.0 | 41.9 | 31.8 | 62.3 | 53.8 |
| ある程度は利用したい | 50.3 | 40.4 | 41.4 | 39.2 | 52.1 | 41.7 | 38.7 | 63.6 | 37.7 | 43.0 |
| 利用の必要がない | 3.8 | 0.7 | 3.4 | 1.2 | 4.2 | 7.3 | 19.4 | 4.5 | 0.0 | 3.2 |

Q11-5. 電子メールや電子掲示板による事務連絡

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 60.3 | 72.2 | 69.5 | 80.1 | 75.5 | 78.1 | 51.6 | 54.5 | 74.4 | 71.4 |
| ある程度は利用したい | 38.6 | 27.1 | 28.8 | 19.9 | 24.5 | 19.9 | 35.5 | 40.9 | 25.6 | 27.3 |
| 利用の必要がない | 1.1 | 0.7 | 1.7 | 0.0 | 0.0 | 2.0 | 12.9 | 4.5 | 0.0 | 1.3 |

Q11-6. ホームページを利用した学生の情報交換

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 40.3 | 43.2 | 51.7 | 40.4 | 39.6 | 42.0 | 32.3 | 40.9 | 47.4 | 42.3 |
| ある程度は利用したい | 50.3 | 48.8 | 34.5 | 53.0 | 45.8 | 46.7 | 48.4 | 45.5 | 48.7 | 48.4 |
| 利用の必要がない | 9.4 | 8.1 | 13.8 | 6.6 | 14.6 | 11.3 | 19.4 | 13.6 | 3.9 | 9.3 |

Q11-7. 図書資料のオンライン・カタログ化

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 66.7 | 69.6 | 69.0 | 73.5 | 74.5 | 73.3 | 58.1 | 63.6 | 69.7 | 70.0 |
| ある程度は利用したい | 29.4 | 27.6 | 27.6 | 25.3 | 25.5 | 24.0 | 32.3 | 31.8 | 28.9 | 27.3 |
| 利用の必要がない | 3.9 | 2.8 | 3.4 | 1.2 | 0.0 | 2.7 | 9.7 | 4.5 | 1.3 | 2.8 |

Q11-8. 電子図書館

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 51.4 | 53.2 | 68.4 | 69.1 | 63.0 | 66.4 | 41.9 | 36.4 | 61.3 | 58.6 |
| ある程度は利用したい | 41.2 | 43.3 | 24.6 | 29.1 | 37.0 | 28.8 | 41.9 | 59.1 | 36.0 | 36.9 |
| 利用の必要がない | 7.3 | 3.5 | 7.0 | 1.8 | 0.0 | 4.8 | 16.1 | 4.5 | 2.7 | 4.5 |

Q11-9. 他機関との単位互換による授業

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 21.1 | 25.5 | 28.1 | 23.5 | 19.6 | 14.0 | 13.3 | 0.0 | 30.1 | 22.0 |
| ある程度は利用したい | 55.4 | 52.7 | 52.6 | 65.4 | 56.5 | 53.1 | 56.7 | 72.7 | 52.1 | 56.1 |
| 利用の必要がない | 23.4 | 21.8 | 19.3 | 11.1 | 23.9 | 32.9 | 30.0 | 27.3 | 17.8 | 22.0 |

Q11-10. WWW上での公開講座

| | | | | | | | | | | |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 15.8 | 24.0 | 29.8 | 20.1 | 14.9 | 20.0 | 23.3 | 4.5 | 28.0 | 21.1 |
| ある程度は利用したい | 59.9 | 49.5 | 52.6 | 62.2 | 57.4 | 57.2 | 36.7 | 68.2 | 52.0 | 55.3 |
| 利用の必要がない | 24.3 | 26.5 | 17.5 | 17.7 | 27.7 | 22.8 | 40.0 | 27.3 | 20.0 | 23.6 |

Q11-11. WWW上への教室の授業の一般公開

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 積極的に利用したい | 10.8 | 18.2 | 23.2 | 14.9 | 8.7 | 14.6 | 6.7 | 9.1 | 14.7 | 14.8 |
| ある程度は利用したい | 58.5 | 50.2 | 46.4 | 59.6 | 47.8 | 46.5 | 40.0 | 59.1 | 50.7 | 52.3 |
| 利用の必要がない | 30.7 | 31.6 | 30.4 | 25.5 | 43.5 | 38.9 | 53.3 | 31.8 | 34.7 | 32.9 |

問12. 貴部局では、インターネットを利用したオンライン上の教育などを行っていますか。

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|---------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| 行っている | 14.5 | 16.5 | 15.5 | 22.0 | 15.6 | 13.2 | 12.9 | 9.5 | 31.2 | 17.3 |
| 予定している | 15.1 | 10.2 | 15.5 | 15.1 | 6.7 | 12.6 | 19.4 | 9.5 | 11.7 | 12.7 |
| 行う予定はない | 70.4 | 73.2 | 69.0 | 62.9 | 77.8 | 74.2 | 67.7 | 81.0 | 57.1 | 70.0 |

Q12-SQ1. インターネットを利用したオンライン教育を用いる場面

Q12-SQ1-1. 共通教養教育

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 11.6 | 9.7 | 6.8 | 15.1 | 4.1 | 10.5 | 12.5 | 9.1 | 16.7 | 11.2 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 22.1 | 18.1 | 25.4 | 24.7 | 24.5 | 16.3 | 21.9 | 13.6 | 26.9 | 21.0 |

Q12-SQ1-2. 学部生対象の専門教育

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 17.9 | 17.4 | 15.3 | 25.3 | 10.2 | 19.0 | 25.0 | 18.2 | 25.6 | 19.4 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 15.8 | 10.4 | 16.9 | 14.5 | 18.4 | 7.8 | 9.4 | 4.5 | 17.9 | 12.8 |

Q12-SQ1-3. 大学院生対象の教育

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.4 | 8.0 | 18.6 | 13.3 | 4.1 | 4.6 | 6.3 | 9.1 | 17.9 | 9.4 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 26.3 | 19.8 | 13.6 | 26.5 | 24.5 | 22.2 | 28.1 | 13.6 | 25.6 | 22.9 |

Q12-SQ1-4. 語学教育

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 12.1 | 11.1 | 0.0 | 7.2 | 2.0 | 2.6 | 6.3 | 4.5 | 10.3 | 8.0 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 21.6 | 16.7 | 32.2 | 32.5 | 26.5 | 24.2 | 28.1 | 18.2 | 33.3 | 24.2 |

Q12-SQ1-5. 補習教育

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 4.7 | 4.9 | 0.0 | 7.8 | 0.0 | 7.8 | 3.1 | 9.1 | 7.7 | 5.5 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 28.9 | 22.9 | 32.2 | 31.9 | 28.6 | 19.0 | 31.3 | 13.6 | 35.9 | 26.7 |

Q12-SQ1-6. 教員や大学院生の研究会

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 4.7 | 3.8 | 13.6 | 8.4 | 2.0 | 5.9 | 6.3 | 4.5 | 6.4 | 5.8 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 28.9 | 24.0 | 18.6 | 31.3 | 26.5 | 20.9 | 28.1 | 18.2 | 37.2 | 26.4 |

Q12-SQ1-7. 社会人対象の研修や公開講座

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.4 | 6.6 | 13.6 | 10.8 | 4.1 | 8.5 | 6.3 | 9.1 | 14.1 | 8.6 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 26.3 | 21.2 | 18.6 | 28.9 | 24.5 | 18.3 | 28.1 | 13.6 | 29.5 | 23.6 |

Q12-SQ1-8. その他

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| あてはまる | 0.5 | 2.1 | 3.4 | 1.2 | 0.0 | 0.0 | 6.3 | 0.0 | 1.3 | 1.4 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 33.2 | 25.7 | 28.8 | 38.6 | 28.6 | 26.8 | 28.1 | 22.7 | 42.3 | 30.9 |

Q12-SQ2. オンライン利用の範囲

Q12-SQ2-1. 教室内の授業

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 22.6 | 21.5 | 16.9 | 26.5 | 16.3 | 17.6 | 18.8 | 18.2 | 25.6 | 21.6 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 11.1 | 6.3 | 15.3 | 13.3 | 12.2 | 9.2 | 15.6 | 4.5 | 17.9 | 10.6 |

Q12-SQ2-2. 同一機関の遠隔地

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.8 | 6.3 | 8.5 | 10.2 | 2.0 | 8.5 | 6.3 | 0.0 | 10.3 | 7.2 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 27.9 | 21.5 | 23.7 | 29.5 | 26.5 | 18.3 | 28.1 | 22.7 | 33.3 | 25.0 |

Q12-SQ2-3. 国内の他機関

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.8 | 6.9 | 8.5 | 10.2 | 2.0 | 7.2 | 9.4 | 4.5 | 14.1 | 7.7 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 27.9 | 20.8 | 23.7 | 29.5 | 26.5 | 19.6 | 25.0 | 18.2 | 29.5 | 24.5 |

Q12-SQ2-4. 海外の他機関

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 5.3 | 3.8 | 1.7 | 5.4 | 2.0 | 3.3 | 6.3 | 0.0 | 9.0 | 4.4 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 28.4 | 24.0 | 30.5 | 34.3 | 26.5 | 23.5 | 28.1 | 22.7 | 34.6 | 27.8 |

Q12-SQ2-5. 一般への公開

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 7.4 | 5.9 | 5.1 | 13.3 | 2.0 | 6.5 | 9.4 | 9.1 | 9.0 | 7.6 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 26.3 | 21.9 | 27.1 | 26.5 | 26.5 | 20.3 | 25.0 | 13.6 | 34.6 | 24.6 |

Q12-SQ2-6. その他

| | | | | | | | | | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| あてはまる | 0.0 | 0.7 | 3.4 | 1.2 | 2.0 | 3.9 | 3.1 | 0.0 | 1.3 | 1.4 |
| 非該当 | 66.3 | 72.2 | 67.8 | 60.2 | 71.4 | 73.2 | 65.6 | 77.3 | 56.4 | 67.8 |
| 無回答 | 33.7 | 27.1 | 28.8 | 38.6 | 26.5 | 22.9 | 31.3 | 22.7 | 42.3 | 30.8 |

問13. インターネットを利用した双方向授業は、教室における対面授業と比較してどのようなものになるとお考えですか。

Q13-1. 最先端の情報を収集した教育ができる

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 27.2 | 32.7 | 28.6 | 18.6 | 10.6 | 22.9 | 35.5 | 47.6 | 26.3 | 26.6 |
| ある程度あてはまる | 57.6 | 44.6 | 41.1 | 57.1 | 61.7 | 50.0 | 38.7 | 47.6 | 53.9 | 51.1 |
| あまりあてはまらない | 14.1 | 20.1 | 26.8 | 20.5 | 23.4 | 25.7 | 12.9 | 4.8 | 17.1 | 19.6 |
| まったくあてはまらない | 1.1 | 2.6 | 3.6 | 3.7 | 4.3 | 1.4 | 12.9 | 0.0 | 2.6 | 2.7 |

Q13- 2. 社会人学生が増加する

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 21.3 | 19.9 | 21.4 | 19.8 | 19.1 | 16.8 | 25.8 | 23.8 | 26.3 | 20.5 |
| ある程度あてはまる | 48.6 | 50.6 | 62.5 | 53.1 | 57.4 | 46.0 | 48.4 | 57.1 | 48.7 | 50.9 |
| あまりあてはまらない | 27.3 | 26.6 | 16.1 | 24.7 | 17.0 | 22.6 | 22.6 | 19.0 | 23.7 | 24.3 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 3.0 | 0.0 | 2.5 | 6.4 | 14.6 | 3.2 | 0.0 | 1.3 | 4.3 |

Q13- 3. 学生の学習の継続が困難

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 7.3 | 3.7 | 14.5 | 5.6 | 8.5 | 10.1 | 6.5 | 4.8 | 4.1 | 6.6 |
| ある程度あてはまる | 37.3 | 27.9 | 30.9 | 36.9 | 31.9 | 28.1 | 25.8 | 57.1 | 29.7 | 32.2 |
| あまりあてはまらない | 51.4 | 56.9 | 49.1 | 50.6 | 53.2 | 49.6 | 58.1 | 38.1 | 59.5 | 53.0 |
| まったくあてはまらない | 4.0 | 11.5 | 5.5 | 6.9 | 6.4 | 12.2 | 9.7 | 0.0 | 6.8 | 8.2 |

Q13- 4. 教材の制作が容易ではない

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 42.1 | 35.6 | 28.6 | 37.0 | 29.8 | 38.6 | 25.8 | 23.8 | 44.7 | 36.9 |
| ある程度あてはまる | 42.6 | 49.5 | 57.1 | 53.1 | 57.4 | 47.1 | 54.8 | 52.4 | 43.4 | 49.0 |
| あまりあてはまらない | 14.8 | 12.4 | 10.7 | 8.6 | 12.8 | 13.6 | 16.1 | 23.8 | 10.5 | 12.5 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 2.5 | 3.6 | 1.2 | 0.0 | 0.7 | 3.2 | 0.0 | 1.3 | 1.5 |

Q13- 5. 民間企業との連携が増加する

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 9.4 | 8.9 | 16.1 | 10.7 | 13.0 | 7.9 | 16.1 | 4.8 | 9.2 | 9.9 |
| ある程度あてはまる | 44.4 | 49.3 | 46.4 | 52.2 | 45.7 | 46.0 | 41.9 | 42.9 | 53.9 | 48.1 |
| あまりあてはまらない | 42.2 | 37.0 | 32.1 | 36.5 | 37.0 | 30.2 | 38.7 | 47.6 | 35.5 | 36.8 |
| まったくあてはまらない | 3.9 | 4.8 | 5.4 | 0.6 | 4.3 | 15.8 | 3.2 | 4.8 | 1.3 | 5.2 |

Q13- 6. 授業以外の学習支援が必要

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 40.2 | 36.0 | 42.9 | 31.9 | 34.8 | 41.0 | 32.3 | 28.6 | 43.4 | 37.5 |
| ある程度あてはまる | 55.4 | 55.1 | 50.0 | 58.8 | 54.3 | 50.4 | 61.3 | 61.9 | 50.0 | 54.7 |
| あまりあてはまらない | 3.8 | 8.1 | 7.1 | 9.4 | 10.9 | 7.9 | 6.5 | 9.5 | 6.6 | 7.4 |
| まったくあてはまらない | 0.5 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.4 |

Q13- 7. 対面式の補助として用いるべき

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 29.9 | 24.6 | 27.3 | 27.8 | 30.4 | 29.7 | 25.8 | 19.0 | 23.7 | 27.1 |
| ある程度あてはまる | 50.0 | 51.5 | 47.3 | 58.6 | 47.8 | 51.4 | 48.4 | 71.4 | 52.6 | 52.4 |
| あまりあてはまらない | 17.9 | 20.6 | 21.8 | 12.3 | 19.6 | 16.7 | 25.8 | 9.5 | 19.7 | 18.1 |
| まったくあてはまらない | 2.2 | 3.3 | 3.6 | 1.2 | 2.2 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 3.9 | 2.4 |

Q13- 8. 学生の教育費負担が増加する

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 14.9 | 10.7 | 7.1 | 11.2 | 8.5 | 12.4 | 23.3 | 19.0 | 10.7 | 12.1 |
| ある程度あてはまる | 42.5 | 35.6 | 46.4 | 37.9 | 40.4 | 41.6 | 46.7 | 42.9 | 41.3 | 39.9 |
| あまりあてはまらない | 37.6 | 47.8 | 39.3 | 46.0 | 42.6 | 40.9 | 23.3 | 38.1 | 41.3 | 42.4 |
| まったくあてはまらない | 5.0 | 5.9 | 7.1 | 5.0 | 8.5 | 5.1 | 6.7 | 0.0 | 6.7 | 5.6 |

Q13- 9. 対面式の授業の補助が必要

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 29.4 | 27.0 | 37.5 | 26.1 | 25.5 | 27.0 | 25.8 | 38.1 | 34.2 | 28.6 |
| ある程度あてはまる | 58.3 | 53.3 | 48.2 | 61.5 | 51.1 | 51.8 | 48.4 | 52.4 | 50.0 | 54.5 |
| あまりあてはまらない | 8.9 | 15.2 | 14.3 | 11.2 | 21.3 | 17.5 | 25.8 | 9.5 | 15.8 | 14.2 |
| まったくあてはまらない | 3.3 | 4.4 | 0.0 | 1.2 | 2.1 | 3.6 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.7 |

Q13-10. 教員の授業負担が減少する

| | 人文学系 | 社会科学系 | 教育学系 | 理工学系 | 農学系 | 医・歯・薬・保健系 | 芸術系 | 家政系 | その他 | 計 |
|-------------|------|-------|------|------|------|-----------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 0.0 | 1.8 | 1.8 | 0.6 | 2.1 | 2.9 | 9.7 | 0.0 | 0.0 | 1.5 |
| ある程度あてはまる | 8.7 | 9.2 | 7.1 | 9.9 | 19.1 | 10.0 | 6.5 | 9.5 | 15.8 | 10.1 |
| あまりあてはまらない | 64.1 | 58.8 | 57.1 | 56.8 | 55.3 | 51.4 | 58.1 | 61.9 | 52.6 | 57.7 |
| まったくあてはまらない | 27.2 | 30.1 | 33.9 | 32.7 | 23.4 | 35.7 | 25.8 | 28.6 | 31.6 | 30.6 |

Q13-11. 教育のコストが下がる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 1.6 | 2.6 | 0.0 | 0.0 | 2.2 | 0.7 | 6.5 | 0.0 | 1.3 | 1.5 |
| ある程度あてはまる | 15.4 | 14.1 | 16.1 | 13.6 | 21.7 | 13.9 | 19.4 | 9.5 | 22.4 | 15.4 |
| あまりあてはまらない | 65.4 | 64.4 | 64.3 | 64.2 | 63.0 | 54.0 | 54.8 | 71.4 | 53.9 | 62.1 |
| まったくあてはまらない | 17.6 | 18.9 | 19.6 | 22.2 | 13.0 | 31.4 | 19.4 | 19.0 | 22.4 | 21.0 |

Q13-12. 他機関との交換授業が増加する

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 18.6 | 14.7 | 19.6 | 12.3 | 15.2 | 17.3 | 9.7 | 14.3 | 18.4 | 15.8 |
| ある程度あてはまる | 60.7 | 58.8 | 58.9 | 67.3 | 60.9 | 57.6 | 51.6 | 61.9 | 64.5 | 60.8 |
| あまりあてはまらない | 18.0 | 21.0 | 19.6 | 18.5 | 21.7 | 17.3 | 32.3 | 23.8 | 17.1 | 19.6 |
| まったくあてはまらない | 2.7 | 5.5 | 1.8 | 1.9 | 2.2 | 7.9 | 6.5 | 0.0 | 0.0 | 3.9 |

Q13-13. 教育の質が下がる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 2.8 | 1.1 | 1.8 | 5.6 | 6.7 | 2.2 | 3.2 | 0.0 | 0.0 | 2.6 |
| ある程度あてはまる | 18.3 | 13.3 | 21.4 | 21.7 | 26.7 | 13.7 | 25.8 | 14.3 | 14.5 | 17.2 |
| あまりあてはまらない | 60.6 | 61.3 | 64.3 | 60.2 | 55.6 | 61.2 | 51.6 | 85.7 | 60.5 | 61.0 |
| まったくあてはまらない | 18.3 | 24.4 | 12.5 | 12.4 | 11.1 | 23.0 | 19.4 | 0.0 | 25.0 | 19.2 |

Q13-14. 高等教育の活性化につながる

| | | | | | | | | | | |
|-------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| よくあてはまる | 22.1 | 25.8 | 28.6 | 20.5 | 13.0 | 21.6 | 22.6 | 9.5 | 25.0 | 22.7 |
| ある程度あてはまる | 60.8 | 56.8 | 50.0 | 56.5 | 63.0 | 57.6 | 61.3 | 81.0 | 57.9 | 58.2 |
| あまりあてはまらない | 16.6 | 15.5 | 21.4 | 19.9 | 21.7 | 19.4 | 12.9 | 9.5 | 15.8 | 17.4 |
| まったくあてはまらない | 0.6 | 1.8 | 0.0 | 3.1 | 2.2 | 1.4 | 3.2 | 0.0 | 1.3 | 1.6 |

3. 自由記述 I

マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関してのご意見を、ご自由にお書き下さい。

<大学本部>

| | |
|--|----|
| ●利用を図るために、運営する専任のスタッフの確保及び運営センターの設置を希望します。 | 国立 |
| ●当分の間、日本における情報化の底上げの意味でコンピュータリテラシー教育が必要と思われる。将来的には、その分野の教育は中等レベルで行われるべきであり、高等教育レベルではマルチメディア等を他分野の教育へ取り入れた形での教育が積極的に進められるべきであろう。 | 私立 |
| ●紙の発明によって大量情報の保存、複写が可能になり、印刷技術の発展によりその度合いが大きくなったことはいうまでもない。近代の高等教育において書物の果たした役割は上記の技術なくしては達成し得なかったことではあるが、書物があつたからといって文化的・文明的・技術的・科学的な資産が必然のものとなったとは考えにくい。前置きが長くなったが、マルチメディアや情報通信技術の利用に関しても、紙・鉛筆・複写機・印刷機と同様、そこに存在するだけでは教育効果の向上に役立つとは思えない。すなわち、何を教育するためにどう使うかが教育機関での課題である。紙の上に文字を書けない人に「今日の社会での問題点」についてレポートを書かせられないように、マルチメディア・情報通信技術に関して基本的なレクチャーは必要ではある。ただし、電話の細かい技術的な仕組みを知らなくても大多数の人は電話を掛けられるように、インターフェイスが重要である。電話のかけ方よりも何を話すかに集中できるようにすべきである。 | 私立 |
| ●1. 通信回線料が高すぎて、高等教育への適用ニーズを圧迫している。米国なみに、距離や時間と独立に定額制になって欲しい。2. 同一の滞域を皆でシェアするインターネットには、限界がある。高等教育専用的高速ネットワークも視野に入れないと、商業ベースに圧迫されてしまう。3. 開発企業は教育現場のニーズをもっと探るべきである。今の機器は、現場で不要な機能が多すぎて価格の低下の支障になっている。4. 高等教育において、マルチメディアの何が適切なのかを深く、幅広く議論しないままに、ムードだけで利用することは教育の本質を歪めてしまう。メディアによる、デメリットについても、しっかりと直視せねばならないであろう。5. 逆に、従来、困難であつた、情報発信型の教育は、マルチメディアや情報通信技術は不可欠である。 | 私立 |
| ●今までの教育方法から情報通信技術を駆使した教授方によって変わって来ると考える。社会の変化に対応できる大学に改革するためには、教職員の努力がなおい | 私立 |

| | |
|--|----|
| 層必要であり、対応できない大学は取り残されると思う。 | |
| ●高等教育を受ける学生側は比較的容易にツールを使いこなし、マルチメディアに対応できると思われる。問題は、教育する側の情報武装能力である。大学教員は豊富な知識をもつが、それを電子化することは容易ではない。マルチメディア支援センターのような組織をつくっていかなければ、自助努力だけでは到底成果は望めない。現在、日本の大学には、マルチメディア教育システムのデファクトスタンダードがない。個人的には、米国で主流になっているものを受け入れていくしかないと思っている。 | 私立 |
| ●環境、及びシステムは構築したいが予算が伴うし、導入後の稼働率も心配だ。県内にこのような環境について相談できる業者が少ない。事例集の類があればとても助かります。 | 私立 |
| ●マルチメディア等の高等教育への利用に関するNews Letterをメディア教育開発センターから発刊して欲しい。細かな内容よりは、概要に加えて情報源、利用実情等の情報を1／4頁程度にまとめたものが有効のように思われる。最先端の技術情報とは別に、まずは簡単に導入できるような手法についての情報提供をお願いしたい。 | 国立 |
| ●動画による英会話や、現実には行うことのできない物理・化学の実験をシミュレーション実験できるなど、従来不可能であったことが可能になりその有効性は大きいと思う。問題点はゼミ・実験・実習などで、人と人のふれあひまた直接物に触れ、技能を高める機会が少なくなることである。いずれにせよ、21世紀はマルチメディアや情報通信技術を高等教育へ生かしていくことは不可欠なことであろう。 | 私立 |
| ●大学の教育・研究は以下のように分けられます。(1) 教授からの授業、と学生がその内容理解に努める。この過程で、学生が疑問を明示、教授が学生の疑問内容の確認、と教授がその回答を示します。(1・1) 基幹科目(講義、演習、実験などを通して初めて理解できるもの)について、学生の質問内容に未整理のものと、整理されたものとがあり、このときには、質問内容の確認は、顔と顔を合わせた会話が適切であります。(1・2) 専門選択科目について、幅広い知識、多面的な資料の提示、動画像、博物館が所蔵しているもの、などの説明によって、誤解なく即座に伝達・理解されるものがあります。(2) 教授からの問題提示と学生による回答。(3) 学生の研究成果の報告とその内容に関する指導。(4) 教授による学生ガイダンス：学生が持っている才能、社会の変化と需要の変化、など多くの学生の将来に関する問題が学生の脳裏を駆け巡り、学生からの相談を教授層は受けております。上記の項目の分類は、科学・技術の総合的大学に、特化した分類ではあります。科学・技術の学部教育および大学院では、(1・1) 基幹科目、(2) 教授からの問題提示と学生による回答、(4) 教授による学生ガイダンス、などのマルチメディア導入には、まだ時間がかかる要素が多々あります。しかし(1・2) 専門選択科目につい | 私立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>て、幅広い知識、多面的な資料の提示、動画像、博物館が所蔵しているものなどの説明によって、誤解なく即座に教授から伝達・学生による理解の形式があります。これはマルチメディアに依存したいと考えており、既にこの線で、一部試みられております。また、新たな試みとし、本学では、研究・教育の高度な体験を持つ高等学校教員をそだてるため、大学院修士課程、理数教育専攻があります。ここでは、修士論文の指導を双方向でインターネットを通して行っております。また、本学では、マルチメディア導入による教育方法などをマルチメディアセンターで研究しております。最近、本学の教員から外国の大学による地球環境科学に関する授業が良くできているとの話を聞いております。この例のように教授層では諸処でバーチャル・ユニバーシティの議論がなされております。しかし本学では、自らバーチャル・ユニバーシティの制度化は試みられておりません。大学院修士課程で、理数科学専攻が半分この機能を利用しております。</p> | |
| <p>●本学のマルチメディアを利用した授業についての認識は、わかり易い授業を行えるし、学生も興味を持てる授業が行える。等の長所があるが一方その呼吸した知識が浅く、学生が解ったつもりになる等の本当の知識に成り得ていないと言う意見もある。原因としては学生の理解の速度より早い教材の提示があると思う。マルチメディア授業は、わかり易くとつき易いが後に残らないという特長がある。今後は学習の導入時にマルチメディア授業を利用し、その反面、実物を利用する実験、実習、演習等にもウエイトをおき「残る知識を教える」と言う事が必要になってくると思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●実務支援スタッフの充実が成否の鍵となると考えられる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●SCSの他、様々な遠隔教育のシステムが検討されているが、ある程度のシステムの統一が心配されれば、より広範囲の連携が可能になるものと思われる。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●教育手段としては有用であるため、積極的に利用していきたいと考えている。しかし、一方でトラフィックの増加によるネットワークの諸問題や個人認証などのユーザー管理方法が確立していない現状では、早期実施にはかなりの費用負担と労力が必要と感じている。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●1. 教育の硬直化を打破するのに、極めて有効な手段であると思う。小・中・高では、大学より授業での利用が進んでいるように思う。大学の先生のみが教授法等について専門的な教育を受けておらず、いわば独断で授業している状況である。このような中でマルチメディアや情報通信技術を使って、授業を「こなそう」としている教官が多いが、内容が一方的で効果が上がっているように思えない。2. 教育者の徹底した再教育、英語での授業など、教育者を教育する以外に我が国の大学が米国の有名大学並に高レベル化するのは難しい。3. 教職員の数を増やすこと、授業料をもっと高くすること、遊べないような教育システムを構築することが必要である。4. 大学は県立などにして、お互いに競争させないと、更正できない。5. 大学教官が任期制を導入し、マルチメデ</p> | <p>国立</p> |

| | |
|---|----|
| <p>ィアを使えない教官は雇用しないこと。</p> | |
| <p>●教育の在り方、方法に大きな改革をもたらすと思うが、情報通信技術の高度化に見合う高度の倫理観、道德観を涵養する必要がある。</p> | 国立 |
| <p>●バーチャル・ユニバーシティー等の遠隔教育について、遠隔教育においては、教材（テキストやリソース）を豊富に揃え、学生が主体的に自学自習できる環境を整える必要があり、これを支援する組織の整備が不可欠であること。また、卒業論文等の指導は、実際の対面指導が必要であり、現在、バーバルコミュニケーションはネットワーク上で比較的とりやすいのであるが、ノンバーバルコミュニケーションは、現在のMPEG2規格のテレビ会議システムでは、抜け落ちる情報があり、新たな規格の開発などのインフラ整備が望まれるところである。</p> | 国立 |
| <p>●これらの利用は、時間的・地理的条件にとらわれない点が大きなメリットではあるが、教職員のスキルアップや日々変化する技術に対応する為の設置投資、外部との接続料金等の負担も大きい。</p> | 私立 |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を利用する教育のメリットとして、授業場面内容をデジタル化しておくことで学生が授業時間外で教育が不在であっても学習することが可能となることや、ネットワークで外部の専門家から実社会の事例をリアルタイムで紹介することで学生の授業への参加意欲を高めることなどがあげられるが、反面、著作権やサポート体制などが問題となる。</p> | 私立 |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用については、可能なものから実現に向けて積極的に取り組みたいと考えているが、時差の大きな海外など遠隔地との双方向授業の問題をどのように解決するか、また設備に係る費用の問題など、解決すべき課題も多い。</p> | 私立 |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を使った講義は今後も増加する方向で進むと思います。インターネットやビデオを利用した講義、インターネットによる双方向型の授業など可能性は数多くあると思います。ただ重要なのはそのような技術を講義等を行なう上で有効に活用するためには、講義方法の工夫、ソフトウェアの開発などが必要であると思います。マルチメディアや高度な情報通信技術はあくまでも手段であり、それを有効に活用するための工夫が必要であると思います。</p> | 私立 |
| <p>●施設充実の補助金支出、スキルアップの研修会、講演会等の実施、意見交換の出来る組織の作成を要望します。</p> | 私立 |
| <p>●財政的に現状では困難かと思われる。</p> | 公立 |
| <p>●1. マルチメディアや情報通信技術の発達がものすごく早いので、大学経費に占める割合が年々高くなっており、予算を圧迫して来ている。より安く、より精度の良いものの開発を期待したい。2. 情報教育という視点に立つと、現在入学してくる学生は他の教科と比較してレベル差がかなり大きいので、対応した授業としての取り組みが必要となる。小・中学校や高等学校でも取り組みは</p> | 私立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>じめてきたが、しばらくは現状の対応が続くものと思われる。まずはコンピュータリテラシーとしての習得であろう。マルチメディアや情報通信技術という観点からみると、技術的な発展に授業形態がほとんど追いつかない状況から、教育現場で利用するというよりも、教育体系のあり方を変えていくような施策からその利用が生まれてくるのではないか。例えば、バーチャル・ユニバーシティのようなものが考えられる。</p> | |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は今後、更に必要になると思うが、ビデオ等の視聴覚媒体の導入の時もそうであったように、ある程度自発的に技術を習得してくれる教材を開発してくれる教員グループの存在が不可欠である。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●今後大いに進めていく必要があると思われる。本学には「マルチメディア等の教育利用検討委員会」が設置されておりマルチメディアやSCSの教育での利用の検討を進めている。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●大学での専門の教育研究の補助的な利用に関しては、非常に効果的であると考ええる。すなわち、専門講義や教育研究において、具体的な情報を即座に、かつリアル（映像等で）検索することが可能であるからである。この意味において、大学では、その大学の特徴ある研究内容（論文発表したもの）を分かりやすく公開して、大学間で相互に利用できるシステムにすればよいと考える。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●本学のような医療系の学部教育では、最新の医療情報を得る事がきわめて利用価値が高いと思われる。特にEBM（Evidens Based Medicine）が臨床での診断・治療の重要な核となりつつある今日では必須となるものと考えられる。又、医療情報を患者と共有することによるメリットは、インフォームドコンセントの観点からの医療のあり方として望まれる姿であろう。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●ますますの発展が望めます。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●これらの利用は理解の支援や、情報の入手・交換で有効であり、コスト面の制約も小さくなりつつある現在、現実的な意味でも教育に役立つと考えられる。ただし、その利用方法に関するノウハウや教員側の負担についての検討はまだ十分でないと思われるので、経験の蓄積やその情報交換が望まれる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●今までも、LL教室で、ビデオテープ・カセットテープ等視聴覚教材を用いた教育は行われ、外国語教育等、一部の教育分野ではある程度の効果を上げている。ここでいう、マルチメディアや情報通信技術をインターネット上のもの、コンピュータ利用を伴うものに限るとすれば、その利用技術の教育に主点が置かれ、本来の教育目的からはずれて来てしまうことがよくある。マルチメディア、情報通信技術共に、あくまでも教育のための手段であり、その利用技術の教育が目的になってしまうのはどうかと思うが、教育機関において、設備・機器が整い、高等教育を受ける以前に誰もが ある程度の利用技術を身に付けているというような社会環境が整えば、教育のための一つの手段として有効であると思われるので、大いに活用すべきであると思う。</p> | <p>国立</p> |

| | |
|--|----|
| ●単科小規模大学にとっては、積極的に利用したとしても、財政的に大きな負担であり困難である。 | 私立 |
| ●教育レベルのマルチメディアの活用は、おそらく代替的な意味しかもたないであろうが、交通改革と同じように情報改革の技術としての情報通信技術は、おそらく大学の存立基盤の相当大きな変革を迫るものだと考えられる。例えば、カリフォルニア・システムを基盤において、エリート・マス・ユニバーサルの三段階説を唱えたマーチン・トロウが情報通信革命による研究大学の危機を唱えていることは、従来型の量的拡大をメルクマールにした高等教育論が破綻をきしていることを示唆する。情報通信技術の存在を前提とし、真の意味でのユニバーサル・アクセスを前提とした大学の構造を考察する必要がすでに発注しているものと考えられる。 | 私立 |
| ●社会の情報化は激的な進展の様相を提しています。企業は苛烈な開発競争を繰り広げており、その最先端の分野の一つが情報・通信と思われます。そのような状況の中では、新しい技術も数多く創出されることになります。このような社会現象は、大学でも例外ではなく、人材の養成を一つの業としている以上、時勢に則した対応は必要です。それは単に、社会に出てから必要になるから、学習させるのではなく、教育方法、場合によっては大学の在り方まで問い直さなければならない事態に至っているように思われます。21世紀は確実にメディアの時代であり、問われるのは、そのコンテンツです。大学もそのコンテンツを発信する場であり、そしてそれを活用した教育の場でなければならないと思われます。 | 私立 |
| ●この方面の取組みは、私立大学においては、大学間の較差が著しいと思う。較差を広げるのではなく、縮める方向で研究や成果の交流が行われることを期待したい。又、そのための政策の実現も求めたい。 | 私立 |
| ●これからのマルチメディア教育については、益々発展してもらわなくては、日本未来が心配です。高校教育においては、最低限の文字や画像、動画、音声などの様々な種類のメディアをコンピュータによってデジタル化し、それを複合してインタラクティブなメディア教育の発展が必要とされる時代が来ているので、これから先もコンピュータ教育は必ず必要である。私の考えは、小学校からもっとコンピュータ教育を進めるべきである。現代の大学生は、大容量記憶媒体の操作も分からない学生が数名いるが、それはその学生が悪いのではなく、その教育に問題があるのではないだろうか？。これからの日本の教育者にマルチメディア教育についてもっと考えてもらいたい。 | 私立 |
| ●大いに進めるべきである。 | 国立 |
| ●高度情報化社会への対応、高齢化社会への対応。生きる力の育成には、メリットが限りなく広がる。しかし、教員全員のコンセンサスを得ることがむずかしい。 | 私立 |
| ●国策としての文部省補助金の増加。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●視・聴・覚一体となった即効的な教育効果は大きいと思う。しかし奥深く身に付けるという効果があるかどうか疑問である。 | 私立 |
| ●初期の段階が非常に経費がかかるため、インフラ整備に向けて援助が必要である（人的な援助、通信システム費用、回線使用等）。 | 公立 |
| ●高等教育に限らず、教育の現場のあらゆる場面にマルチメディアや情報通信技術が浸透してゆくことは必然である。実際、過去にはワープロの使用の可否が議論されたことがあるが、現在はそのような議論はナンセンスに聞こえる。またこうした表現力を得ることによって、教育技術に革新がもたされるであろうし、またそうすべく努力すべきである。特に通信技術の進歩は遠隔教育という新しい教育のパラダイムをもたらし、これによって特に高等教育はグローバルな競争の時代に突入する。まもなく地理的・時間的制約を超えて、学習者は世界中の教育機関からより良い教育サービスを享受できる、いわば「個人がそれぞれの大学を持つ」時代となる。又、こうしたことを可能とする教育サービスの存在が重要であり、日本の高等教育で欠けているキャリア・カウンセリングのようなサービスを早急に整備する必要があると考える。また最後に、教育結果のアセスメント及びそのための社会的コンセンサスである各種資格（学位含む）の国際化が最大の問題であると指摘しておきたい。 | 公立 |
| ●広く利用が進むためには通信費用や機器（の保守）費用が下がる必要がある。研究環境（利便性）とセキュリティを両立させる工夫が必要である。 | 公立 |
| ●時代の流れとして、マルチメディア情報の活用や情報通信技術を利用した教育方法の改善は避けることのできないことになりつつある。しかし、忘れてはならないのは、教育内容と教育内容の確実性への伝達である。マルチメディア技術や情報通信技術の教育への導入は、この補助的な存在であると思われます。 | 私立 |
| ●教員や職員の特定研究者の利用が盛んとなってきているが、利用技術習得の方法は見るだけ、聴くだけの研修となっていたように思える。その結果、技術習得という目的を果たせないまま、技術の高度化のみがすすんでしまうというジレンマに陥っていた感がする。利用技術のひろがりを図るためには、強力な意識改革と実行が必要だと考える。効果的な活用法について、さまざまなかたちでPRしていくべきではないか。 | 私立 |
| ●今後の教育には不可欠。種々のレベルの教育ニードに対して、サービスを広げるべき。特に世界が変動している今、中高年者向け再教育システムとして期待出来る。 | 私立 |
| ●2003年から高等学校で、情報教育の必修が施行されるが、今まで大学で行ってきた情報教育が高校で行われることになるもので、大学では更なるレベルアップの教育を考えなければならないと思う。また、高校での情報教育が地域によって差が生じる可能性もあり、大学でレベルを平行する補講のようなものも考えていかなければならないだろう。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術は日々進歩しているものの、それらを駆使して | 私立 |

| | |
|---|----|
| 教育なさる方は特定の人に限定されてしまっているのが現状だと思います。それらをどのように一般化していくかが今後の課題になると思います。 | |
| ●官民上げてのボトムアップが希求されます。 | 私立 |
| ●遠隔地にある本学では、関心を持ち続けているが、費用等の点でまだ本格的に導入していない。しかし、将来導入出来るよう検討はしている。 | 私立 |
| ●上記のことを積極的に押し進めるための専任の教職員を配置すべきである。 | 国立 |
| ●本学は文系の大学であるが、今後、情報分野の就職希望者が増加する傾向にあるので、マルチメディアや情報通信技術を活用していきたいものである。 | 公立 |
| ●めまぐるしく進歩するハード・ソフトの更新メンテナンスのコストと学習効果をどう評価していくかが課題である。通信機器、通信料金、使いやすいソフト、生活に根ざしたマルチメディアや情報通信技術の開発など今後の検討課題であろう。 | 公立 |
| ●前々項に書いたように、社会の自己変革の契機になりうる。現在の日本にとって極めて重要な意味を持つ。アメリカのDistance Learningの研究・調査が不可欠である。 | 国立 |
| ●・設備や維持費に関する補助金等の制度が必要になってくるのではないか。 ・各校での独自の対応より、最低・最小限の画一的なラインが欲しい。 | 公立 |
| ●アンケートではマルチメディアやインターネットを利用した教育を行っていないと回答した。これは大学がまだ組織的に取り組んでいないということであり、教育現場においては教員の裁量により、一部実施されているようである。今後、全学レベルでの検討の必要性が感じられる。 | 私立 |
| ●本学では予ねてより、コンピュータネットワークを利用した単に問題解決型の情報処理教育を超えて、マルチメディアの統合的な活用を基にしたのコンピュータコントロールな新しい視聴覚教育への展開を全学的に進めております。コンピュータをテーマとしていない文科系の広範かつ多様な学習分野においても人間の五感に訴える高度視聴覚教育による情報活用が学習の効率的な促進と新たな創造へのインセンティブを与えるものと確信しております。 | 私立 |
| ●今後益々かつ急速に利用が拡大することは確かであろう。そのための取り組みにかなりのエネルギーをさいている現状である。プラス面の高い効果とともに、倫理、セキュリティ面などマイナス面をカバーしながら教育内容の充実に努めていきたい。 | 私立 |
| ●日本が早急に取り組むべき課題の一つであるものと思う。しかしその普及には種々の障害があり、最大の問題点として、(1) 設備の設置や通信料金等の経済的な問題。(2) 機器の操作や教材の作成を行う人材の確保。が考えられる。経済的な問題については、研究が開始された「ギガビットネットワーク」を広く開放すること、また人材については共同利用施設の有功な活用を図ること等が望まれる。 | 私立 |
| ●情報システム技術やインターネット技術等の情報インフラの急速な進歩と普及 | 公立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>で社会の有様を変革しようという現在、教育の中にそれらが取り入れられ活用されることにより、学生が情報リテラシーを身に付けることは必須であろう。又、医学教育においては、情報通信技術を用いて、遠隔の教育施設間での情報交換や遠隔教育を積極的に試みるべきである。</p> | |
| <p>●医学分野では、X線・心電図等を含んだ電子教材が学生・医師の自己学習教材として優れている。インターネット、LANを通じこれらの電子教材を学習資源として用いる。また、コンピュータテストがすでにECFMGで利用され、その効力を発揮している。将来的には、学内試験もコンピュータテストを用いる方向に向かうと思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●ハード面：デジタルビデオ・デジタルカメラなどのデジタル機器の一般市場への普及に伴い低価格になっているので、購入しやすかつ使用法も簡単になってきていると思う。ただ、医・歯学の場合、一般市場で使われるビデオカメラでは解像度・色調の問題などで使えない場合も多く、これらの分野で使えるビデオカメラ及び周辺装置はまだ高価格である。また、ビデオは編集しなければならないため、編集装置が必要になってくるが、パソコンに備わっているビデオ編集機能はファミリーユース仕様（ソフトウェアによるもの）でハード的にビデオ編集機能に特化していないため、機能不足である。従って、ビデオ編集装置が必要になってくるがまだ高価であるため、普及するに至っていない。これら価格の問題が解決するとビデオ画像を駆使したマルチメディア応用は高まると思う。情報通信技術の応用は、マルチメディアコンテンツが出来上がってからの応用になると思う。イントラネットとしてのVODシステムの低価格化やストリーミング技術の発達に伴いイントラネットとしての通信インフラはかなり整ってきたと思うが、学外に向けてのインターネット利用は、インターネットのインフラが整ってからの課題である。ソフト面：教員の意識改革が行われないとマルチメディアの高等教育への応用はおぼつかない。現在のパソコン・ビデオカメラの組み合わせでも、ケースによってはある程度応用は可能であるが、教員の意識が従来型の教育から抜けていないため、その教育効果などについて認識されていない。まして情報通信技術を高等教育に応用するためには、更なる意識改革が必要である。また、教員の意識改革とともにマルチメディア制作の技術支援が決定的に不足している。パソコン・ビデオカメラのシステムでも技術支援があれば部分的にでもマルチメディアコンテンツはできくと思うが、それがない状態ではコンテンツ作成の意欲も出て来にくいと思う。一方、コンピュータグラフィックの応用は技術的にも一般の教員が作成することはほとんど不可能であろう。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●あらゆる分野で情報化が叫ばれているが、社会の多くの組織が対応できずに混乱した状況になっている。まずはこの現状の正確な認識・原因の分析・対応方法の立案、速やかな実行が必要であるが、その第1段階から充分になされていない。マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は積極的に進める必</p> | <p>私立</p> |

| | |
|--|-----------|
| <p>要がある。現状の技術でも十分に実用になるが、その将来的な可能性や更なる技術革新の必要性和方向性を見極めるためには、現在の技術を実用に使ってみることが必須であろう。将来の人材を教育し、創造してゆく使命を持つ高等教育機関では情報化は避けて通れないと思われるが、教育現場でマルチメディアを高度に使いこなせる教育者が少ないことがネックの1つになっている。教員に対するサポート体制を含めて組織的な対応が必要と思われる。</p> | |
| <p>●本学では、最近マルチメディアやインターネットを活用した授業が多くなってきた。この傾向は今後さらに増加してゆくであろうし、社会の変化、学生のニーズもそのようになってきた。それに対応するためには、教職員の一層の努力と整備が必要になってくると思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●・基本はスクーリング。映像を見ただけで学んだ気になるのは極めて危険だと思う。しかし、映像は理解を飛躍的に高める。良質の画像、新しいデータが必要。・SCSは、チャンネル数を増やす必要がある。・本学図書館におけるマルチメディアや情報通信技術については、図書資料の検索、電子メールの利用等は比較的多く利用があるが、その設備、スペースに関しては、視聴覚機能等も含め、必ずしも利用者の要求を満たしてはならず、その意味も含め利用者が利用しやすい環境整備が必要であろう。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●視覚・聴覚等の感覚器官を刺激して教育効果を高める分野の教育には、積極的に導入すべきと思う。換言すれば非常にシンプルな概念を教えこむには、マルチメディアは大変有効である。しかし、大変複雑な概念構成や論理構成を必要とするような分野の教育には、マルチメディアは逆に教育効果を阻害すると思われるので、避けるべきである。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●インターネットを始めとする情報技術の進歩は目を見張るものがある。大学教育においてもその影響があるのは当然であり、それを避けて通ることは出来ず、積極的に受け止めていかなければならないと考える。今後、マルチメディアや情報通信技術を高等教育の場で積極的に利用していくためには何を・何のために・何時・何処で・どのように教えるかを明確にする必要があり、授業の目的に合致した適切な教材を用意する必要がある。又、担当教員の創意工夫によって、インターネットなどを活用した授業をより多く展開していく必要があると考え、センターもこれらの支援を積極的にしていかなければならないと考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●技術の進展によって可能となったことを助成があるからと次々に導入するのではなく、主体的に取捨選択して、最適な時期に最適な技術を用いることにしたい。たんに機器の操作やソフトの利用方法を教え込むのではなく、マルチ化が進行しているメディア全体に関するリテラシー向上を図りたい。技術の本質・危険性・社会におけるその利用のされ方への批判能力をも養う必要があると考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●通信料が安くなることと、通信回線の高速化が最大の課題だと思います。</p> | <p>公立</p> |

| | |
|--|----|
| ●マルチメディアは、複合的に利用して初めて価値が生じると考えます。例えば画像のみでは伝えられる情報は限られておりますし、また、抽象的な概念を画像で伝えることは不可能に近いです。従って、一つのメディアに頼り過ぎることは禁物であると感じます。また、マルチメディアに依存し過ぎると、文字による理解や思考に障害の生じる危険があります。具体的に、プレゼンテーションでグラフなどが例え綺麗に描けていても伝えるべき内容が貧しいというケースも見受けられます。従って、バランスのとれたマルチメディア利用が望まれます。 | 私立 |
| ●興味はあるが、検討するまでには至っていない。学生が学習を継続出来るかどうかが気にかかる問題である。 | 私立 |
| ●情報化社会の到来により、これら媒体や技術に教育機関が対応するのは当然である。教育行政に情報インフラの整備および教育機関への税制上の優遇処理を望む。 | 私立 |
| ●基礎的な情報処理能力とコミュニケーション能力を確実の身に付けさせることが重要であり、このために、マルチメディアや情報通信技術を全面的に利用する。具体的には、1. パソコンの基本的な操作方法の習得。2. ファイル操作(作成、保存、複写、移動、更新、削除)。3. 日本語文書処理 (WORD)。4. 表計算ソフトウェアの利用 (EXCEL)。5. データベース処理 (作成、検索)。6. マルチメディア情報処理 (文字、映像、音声の複合作成)。7. プレゼンテーションソフトウェアの利用。(画面作成、表示実演)。8. インターネット操作 (ウェブとハイパーテキスト操作、電子メール操作) の項目について、クライアント・サーバーシステムを用いた、長時間の演習を必修科目として行う。また、今後は、衛星通信またはギガHzネットワークを利用した学外教育機関との遠隔授業、および、インターネットまたは公衆通信網で接続する学生との在宅学習の実施に向けて取り組みたい。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を利用するための設備整備状況について、各大学間での隔差が広がっているように思われる。各校の技術力や財力に限界がある以上、何らかの形で人的・財政的補助を充実していく必要があるのではないか。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の裏側にある個人情報、知的所有権、コンピュータ犯罪などの諸問題を十分に認識した情報倫理教育が技術教育と同等に重要であるとする。 | 私立 |
| ●教材の共同開発の組織化が必要。 | 国立 |
| ●遠隔地に5つのキャンパスを持つ本学としては、大いに重視し活用したいと考えているが、問題点として以下2点がある。(1) 教員がまだ利用のノウハウを持っていない(継続的な講習会などの実施が不可欠)。(2) 機器の操作・維持管理のため、専門的な技術を持った職員が必要。特に単科大学では、技官等の確保が難しい。 | 国立 |

| | |
|---|----|
| ●遠隔授業（在宅受講）を考える時、通信費負担が課題と思われる。 | 公立 |
| ●とにかく真に必要な情報が少なすぎるのと、これらの技術の進むスピードがはやすぎるために、教員間に大きなスキルの差が生じてしまっている。これは今後さらに広がるであろう。あるいは学生とのスキルの逆転現象すらおこるのではないかと何をどれくらい大学で教えるのか？。教えるスタッフのスキルはどれほど必要か？世の中のハード、ソフトの変化に大学はおくれずやっていけるのか。非常に不安な感じを持っている。 | 私立 |
| ●学生が最も習得すべき科目として語学を挙げている以上、その学習に支障のない範囲内での質問の教育方法は可能な限り採用する方向で目下実施し、さらに検討を加えていく予定である。 | 私立 |
| ●1. 学生にとっては、講義内容がより明確に伝わる可能性がある。2. 教員にとっては講義内容をより理解し易い形式にする努力が求められる。また、オーサリング等の手法で、表現する場合には、極めて大きな負担を強いる可能性がある。2a. 教員一個人では教材作成は困難である。2b. インフラ整備、支援部隊の組織化、実用的なソフト環境、要素データ・ベース、 β テスト環境等々成熟した組織の支援と意欲的な教員の取り組みが必要である。3. 利用が進めば、教員の活性化や、講義内容の質の向上につながる可能性がある。 | 私立 |
| ●思考力・持続力・展開力等の低下が懸念される現状では、あくまで補完的手段として位置付ける必要がある。 | 私立 |
| ●通信費用がかかりすぎることと、保守管理費が大きい。人材の確保が困難である（ボランティア、学生が少ない、医学部のため、学生数が少ない為）。 | 私立 |
| ●活発に行っていくべきだと思うが、本筋をはずしてはならないと思う。 | 私立 |
| ●・講義コンテンツ：ネットワークを介して、いつでもどこからでも見る事のできるデジタルコンテンツは、ネットワーク型授業はもちろん、講義室での授業資料として利用される。技術進歩と教員のコンテンツ作成との兼ね合いがポイント。・ネットワーク型講義：大学間の交換授業、企業、大学間講義等ネットワーク型講義ができるかできないかが大学の運営に大きく影響する。最終的には、大学の系列化につながるとと思われる。・評価、単位の認定：教育のパッケージ化とネットワーク化は、学習評価、単位認定の外部化孤立化につながる。新しい教育環境に対応した評価制度が必要。 | 私立 |
| ●高等教育において必要不可欠な教育手段であると認識し、これまで積極的に導入を進めてきているが施設設備面での負担、人材確保の困難が今後ますます増大するものと思われる。 | 私立 |
| ●学生の学習をサポートする分野で、マルチメディアや情報通信技術の利用が進んでいくと思われる。 | 私立 |
| ●ハード面での進歩普及に対応できるように、利用者を支援できる人的資源の配置・充実が不可欠です。 | 国立 |
| ●教職員全般の知識と意欲をいかに向上させるかが、進展への課題である。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●マルチメディア及び情報通信技術をうまく活用することで、大学の講義のあり方を大きく変える事ができる。その必要性、教育効果は非常に大きいと考えるが、一方そのような「情報化」の必要性を理解出来ない大学構成メンバーが多くいることも事実である。マルチメディアや情報通信技術というものは、そのような環境を教育現場に提供することが重要で、環境が提供されなければそれを活用して講義形態を変えていくというようなことも全く起こりえない。マルチメディアおよび情報通信技術の利用では、この「教育現場の理解を深める」ということが、最も困難で解決できない問題点となっているのが現状である。 | 私立 |
| ●1) マルチメディアを活用した教育、研究の展開に向けて答申(資料1)。2) 「全学生のパソコン必携について」に関する回答資料(資料2)。・当大学では、上記計画や実践をさらに強化発展させるために「学術情報の基盤の整備を推進するセンターの設置」についての概算要求を全学的な位置付けの委員会のもと行っている。 | 国立 |
| ●・担当職員をサポートする組織がないと教員に負荷がかかりすぎる。・大学として、教員の技術向上のための制度的バックアップが必要である。 | 私立 |
| ●教育効果の向上を見込み、今後さらに検討したい。 | 私立 |
| ●インターネットを利用した双方向授業や、バーチャルユニバーシティ等を発展させるために必要なことは、コンテンツ及びネットワークスピードの高速化を含めマルチメディア環境をいかに整備するかになる。例えば・時代にマッチした教育内容にするためには、技術進展に合わせて毎年教育内容を見直し、教材を作り直す人手が必要になる。・教育効果を高める為には、TAやRAの充実が要望される。・ハードの性能向上やソフトのバージョンアップに追従するためにコストがかかる等。しかし日本の教育水準を高め、維持していくためには最低レベルの基本的なことである。そこで補助金などの支援を国策として是非取り上げていただきたい。この施策は、教育界全体の活性化を図るだけでなく現日本の課題でもある。産業構造変化に対応した労働移動を図り、雇用の創出に結びつくことになる。 | — |
| ●大学院及び、研究者のための教育研究の情報収集及び情報交換には大いに役立つと思われる。学生自身が積極的に利用して理解を深めるのには役立つが、情報の開示が進んでも役立つのは利用する個人の問題であり、本質的には教育効果が表面的になってくる可能性も大きくなると考える。競争社会では当然のことではあるが、学生の能力によって今迄以上に大きな学力差を拡幅する危険性も潜在すると考える。 | 私立 |
| ●予算、人材の不足。 | 公立 |
| ●コンピュータリテラシー教育から問題解決型情報教育に変わっていく中で、マルチメディアやインターネットをツールとして使う高等教育のカリキュラムを早く作る必要がある。 | 私立 |
| ●教育効果の向上及び学習の機会をより拡大するため、マルチメディアや情報通 | 国立 |

| | |
|--|-----------|
| <p>信技術の高等教育への導入は積極的に進めるべきである。一方、ハードウェアのスピードに対し、教育内容・方法の開発が遅れている。高等教育に携わる教員の意識改革とともに今後の大きな課題である。</p> | |
| <p>●本学においては、平成9年度に学内LANの整備、情報処理実習室の機器拡充、加えてインターネットサービスを導入したことにより、従来一部の教員、学生のみが利用していた状況から、誰もが利用する環境へ変化してきました。このことが文科系の学生もコンピュータも利用できなければという考え方と絡み合い、本学の情報化を進め授業においても従来のプログラミングや情報処理実習の授業に加え、語学やゼミナールなどの授業でもコンピュータが利用され始めました。今後はハード面に加え、サポート体制等のソフト面を充実させることはもちろん、コンピュータを利用した教育の効果を分析し、大学教育においてコンピュータの果たす役割を考えていく必要があると思います。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●これからの高等教育についてバーチャルユニバーシティ等がたくさん出来ると、実際に大学に出向いて授業を受けることが少なくなり、学生が足を運ぶ機会が減ると思われるのでバーチャルユニバーシティよりも、まず学生が足を運んで大学に行きたいと思うようなマルチメディアや情報通信技術を備えた大学というものについて考えたい。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●・機器やアプリケーションソフトの操作を教員が一定程度、一人で出来るようにならなければいけない。・教材作成には、多くの労力を要するので支援体制を整備する必要がある。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●研究成果を利用し、共有する点についてはまことに有効で必要なことと考える。しかし、それらはあくまで手段であり、教育研究の一方法として捉えるべきではないかと考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●ITが教員に十分活用される方法を現在検討中です。なおそれに伴って教室の改善をどのようにするか、情報化投資を全学的にすることも検討中です。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●現在大学間の遠隔講義については、SCSなど高度情報通信システムの利用が可能であるが、学校現場の教師を対象として大学間研修会や公開講座には、SCSの利用が出来ない状況にある。従って研修会、公開講座についてはISDN回線を利用して大学間の講義を交換している現状である。特に文部省認定の現職教員向けの公開講座については、SCSが比較的空いている土・日曜日の時間帯を利用出来るよう対処していただきたい。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●今後、マルチメディア教育の拡充は高等教育における戦略的課題であり、コンテンツの確保は当面の最優先課題であると認識している。しかしながら、教育の実践現場を担当する教員の情報リテラシーとスキル不足が大きなネックとなっている。これは、本学に限らず全高等教育機関にも該当するものであるが、年齢構成や専門性の影響が大きく教員の情報化の遅れは否めない。従って今後、高等教育における情報環境と教育現場とのギャップが一部で広がることもあり得るだろう。</p> | <p>私立</p> |

| | |
|---|----|
| ●有効かつ、円滑な運営等を行うには人的なサポートが不可欠である。とくに専門技術職員などは早急に措置される必要がある。 | 国立 |
| ●1. 手術など外科系の場合には、シュミレーション技術の進歩に期待したい。 2. 医用画像の遠隔地通信による診断学教育（テレメディシン）のための通信コストの低減を期待する。3. 救急救命医療、大災害医療などの場合を想定したバーチャル教育は役に立つと考える。 | 私立 |
| ●衛星を利用したSCS、あるいは地上回線で構成されるネットワークの利・活用は距離的、時間的な制約が緩和され、オープンで柔軟性に富んだ教育研究システムが実現でき、次のような効果が期待できる。 ・単独の教室（研究室）あるいは大学で行われていた教育、研究等が多くの大学との交流の中で行われ、活発化することで情報の公開、人的交流が発展する。 ・一つの大学では、専門とする教官がいなかったりして実現できなかった講義、討論（義）等がこれらのネットワークを活用することで実施できるようになる。また異なる大学の複数の教官が共同してチームを組むことで、大学における教育方法が改善できる。 ・SCSあるいは地上回線で構成されるネットワークを用いた教育研究は、マルチメディアの利・活用を前提としている。講義資料あるいは、教材の開発を通してマルチメディア活用の最も基本となる「見やすい映像」、「利用しやすい資料」等に関するノウハウが教官（あるいは大学）に蓄積され、このことは通常の「対面講義」の教材開発にも有用である。このようにマルチメディアと情報通信技術（ここでは衛星を利用したSCSあるいは地上回線で構成されるネットワークを想定）が合体することで、単一の教室（あるいは大学、研究室）で行われていたのとは異なる新しい効果的な教育方法を可能にし、教育改善を促進すると共に、大学の公開の促進、人的ネットワークの拡大等、様々な効果が期待できる。 | 国立 |
| ●情報通信技術を学生独自の方法で身につけ勉学の手段と出来、さらにそこから新しい発想を生み情報発信の出来る能力を身につけさせるのにふさわしい教育環境基盤の整備に力を入れている。特にコンテンツやソフト面での充実に多年の歳月を使っている。 | 私立 |
| ●CSとテレビ会議システム等を併せた教育システムの構成が望まれる（インターネットで学習支援、教材流通等の学習支援を併用）。 | 私立 |
| ●本学の様な文科系の大学には、情報通信に関する知識を持った教職員が少ないので、貴メディア教育開発センターからの積極的なご支援をお願いしたい。 | 私立 |
| ●・オンライン上教育のみで学位を授与することについてはその教育効果等検討する必要がある。しかし、今後マルチメディア、情報通信技術を利用推進することは、学内においても理解されている。特に通学等の時間を省略可能なことは、社会人教育等に有益である。今後は、より手軽に利活用可能なネットワークの構築とより効果的教育ソフトの開発が望まれる。 ・通常の講義の中の一部をマルチメディア活用の遠隔授業する等して、教育効果を確認して行き、充分 | 国立 |

| | |
|--|----|
| な教育効果が得られるところで本格的な導入を検討したい。・JAを活用する等、より教育効果の高まる努力・工夫する必要がある。 | |
| ●学生に知識を伝える教育では、これまでの文字資料のみならず、情報通信技術を駆使して全世界から集められたマルチメディア資料を用いることは大きな効果につながると考える。ただ、映像・生の声の再現などマルチメディアは情報を具体的でストレートに伝達出来るが、それによってこれまで抽象的かつあいまいな情報を処理するにあたり想像力が必要であった時に比べて、生理的に人間の脳がより大きな認知効果をあげることが出来るかどうかは分からない。 | 私立 |
| ●これからの時代に求められる“課題を自主的に発見し解決していく人材の育成”に新しい技術をどのように活用するか、そのための具体的なモデル作りが重要な課題になると考える。その際、どの部分が対面式授業でどの部分がオンライン上の授業で行うかを十分に検討する必要があるだろう。 | 私立 |
| ●視覚による情報は最も重要な手段であり、今後ますます要望される。自ら考える機会を与えることが肝要な高等教育においては、尚一層必要なものとなる。 | 私立 |
| ●一連の教育の中で適切な利用をすることで、教育の効果を図ることが必要でしょう。 | 私立 |
| ●利用の仕方によっては、効果は一部の生徒には大きいと思う。 | 公立 |
| ●マルチメディア関連技術とそれを活用した教育技術が発展すれば、将来性のある教育方法、あるいは教育形態に発展することが期待できる。21世紀は生涯学習などの持続的教育に対する要求が益々増加する。あるいは急速に増加する傾向にあると思われる。それに応える最も有力な方法になり得る可能性が大きいと考える。 | 国立 |
| ●大量かつ最新の情報を教育に取り入れることは、学生の興味・関心の幅を広げ、勉学意欲の向上につながり、教員の研究活動の活性化にもつながると思われるので、今後も積極的に利用していきたい。 | 私立 |
| ●問9でも述べたように、理論は良いと思うが、実際には効率よく機能させるためには多くの困難を克服しなければならない。その方法論が特定の大学のみで適用されるなら国全体の教育に問題を残すと思う。施設・設備等に関して国立と私立では補助金などあまりに格差がありすぎるのではないかな？ | 私立 |
| ●個々の大学、教育研究機関では、インターネットによる情報収集やメールによる情報交換は必須な条件がある。学習者の便宜を優先するならば、face to faceでは対応できないケースが多くなってきている。従ってITによる教育の機会が今後さらに増加するであろう。高等教育への利用に関しては、まずセキュリティを確実にする努力が常には行わなければならない。利用の理念、目的、方法についての体系が必要。費用面でのうら付が必要など、いくつかの課題があるが、世界標準の枠で考えるならば、喫緊の課題がある。 | 私立 |
| ●個々のパソコンと繋ぐネットワークにならないと多数の学生との同時、対話的教育がしにくいと思われる。 | 国立 |

| | |
|--|----|
| ●教育効果を上げる為に大いに利用すべきである。 | 私立 |
| ●当アンケートを記入する際、学内ネットワークを主に考えての回答です。マルチメディアとネットワークは別ものと考えております。もちろんネットワークがマルチメディアの前提になりますがマルチメディアそのものについては本大学は未だ不十分です。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の発達に伴い従来の教育方法では不可能であった授業形態が可能になった。例えば従来決まった時間（時間割）に決まった場所（教室）において行われるべき形態に幅がでてきて、時間もフリーになり場所も学生が自宅にいながらに授業を受けることが出来る。もっとも従来の通信制では可能であったが、郵便という手段では時間がかかってしまう弊害があった。即時性と双方向性が確保されしかもオーディオやビジュアルを活用した一段と効果の高い授業が行える可能性が出てきた。これも統計では利用人口1700万人（推計）ともいわれているインターネット普及という背景があるためである。その潮流下において高等教育に限らず利用の環境整備は整ったかと思われる。現状では技術の発達に速度に人材の育成が追いついていないが、いずれ近いうちにインターネット教育、遠隔授業（衛星利用、独自放送施設利用）などによって高等教育の形態が多様化していくことであろう。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を利用することは、本学以外の授業を受けることが可能となるため、広範囲の知識の享受が可能となる。しかし、目的とするものを検索することが繁雑になるので、例えばインターネットを利用する場合のサーチ機能等のデータベースツールやリンク機能を利用出来れば多少の問題解決につながるのではないと思われる。また、これらの技術を利用するにあたっては、最新の専門知識を習得した人材の育成が欠くことの出来ない条件となってくる。そして、それらの活用には少なからず個人情報に関わってくるため、個人情報の保護を含めた情報倫理（秩序）の確立が不可欠である。教育という分野で考えるならば、カリキュラム編成や教室の設備・整備等急を要するが慎重に行なわなければならない非常に難しい問題に思われる。 | 私立 |
| ●従来の高等教育は、あまりにも教材研究、プレゼンテーション研究をおろそかにしてきたと思う。マルチメディアや情報通信技術が高等教育に導入されることによって、こうした点が改善に向かうと期待出来る。しかし、現時点までに見るところでは、ただ単にマルチメディアを使っています。情報通信技術を利用しています。というだけでほとんど評価すべき点がないのではないのか、あるいはむしろ教育の質を落としているのではないと思われるものが多い。新しいメディア・技術の有効利用には、教員の絶えざる研究努力が必要で、有効利用の方法の研究会、教材の開発、相互利用、相互評価などが必要である。そうでなければ、高価な機器備品も無駄であるばかりでなく、かえって教育の質を落とす道具となってしまう。また、どれほど良い教材が開発され、良い授業方法が工夫されても、それが教育の自発性を生み自ら教育に参加してくるような | 私立 |

| | |
|--|-----------|
| <p>ものでなければ、マーシャル・マクルーハンの言うクールなメディアとなってしまう。マルチメディアが情報通信技術が学ぶ者の自発性を生み、自ら問題を発見し、自ら解決の道を操り出す能力を育てるホットなメディアとして用いられることを望む。</p> | |
| <p>●マルチメディア教材を利用した授業は、教科書と黒板への板書だけの授業に比べて学生の学修効果が飛躍的に上がることは明らかである。また、実験を伴う授業や様々な現象、生データを利用する授業等では、それを実際に行うことが困難な場合、映像等を示して講義を行うなど、授業内容改善の一端を担うものとして昨今話題のFD活動とも密接な関連があると考ええる。しかしながら、一大学の教育研究設備・備品経費だけでは、最近のマルチメディア技術の進歩の早さを追いつけるには、もはや無理があるように考える。今、重要なことは、一歩先の技術革新を予測して、的確によりよいマルチメディア教材を選択していくことと、マルチメディア教材を取り入れて、授業内容の改善を積極的に行おうとする場合の経費補助にあると考える。その意味から、国あるいは地方公共団体からの公的な補助の増大を期待したい。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●とにかく機器・設備など環境面ばかりに関心が向きがちですが、教育の場に役立つコンテンツこそが重大です。ついては「教育ワークショップ」など学内行事の際に、教員手づくりのコンテンツを発表し、批判しあうことを行っております。よく練れたコンテンツがもっと沢山必要です。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●関連する機器の利用がまた困難である。特別な知識を持たなくても使えるようなシステムが必要である。ワードプロセッサと同程度の使い易さが実現出来れば、利用価値は大きいと考える。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●現在SCSが設置されているが、授業での利用は非常に少ない。その理由としては：1. 利用の手続きに日数を要する。2. 各大学での時間割上、双方に都合の良い日時を決めづらい。3. 単位を認定するには協定が必要である。などが考えられる。今後、高等教育への利用を図るには、設備のみではなく、利用しやすい環境を積極的に作る必要がある。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●高等教育への応用は今後情報化社会の進展に伴い、益々必要とされる所である。現在、我々の委員会では、いくつかの問題点を提起している。先ず基本的なソフトの応用、活用さらにプログラミングの基礎について学習を深める事、その上で積極的にインターネットの活用と情報発信に関する授業を確実に行う。広域的な情報網を設定して、現在の専用回線のレベルを64KBSから128KBSにまで高める。そして、学生（院生）が利用出来る端末を増やして、設備の改善を推進する点である。モバイル型教育実践に早く取り組む必要を感じている現在である。</p> | <p>公立</p> |
| <p>●ここでは、大学における「教育」（研究分野は除外）についてのみ触れたい。マルチメディアや情報通信技術が受講生の学習を援助するための貴重なツールであることは多くが認めることだろう。しかしながらその効果を定量的に見極</p> | <p>私立</p> |

| | |
|---|----|
| めることもまた難しい。対して、設備面では初期導入、維持管理含めて定期的に相当な額の費用を必要とする。情報リテラシー教育を例に取れば、技術進歩に即応するための環境の設備はいずれの大学においても重要な課題であろうと推測される。この様な観点から考えると、いわゆる「所有」から「利用」へのパラダイム変換も必要と思われる。ハード・ソフト・運用等の側面から特定のリソースを複数の大学で共同利用出来るようにするといった対応も一考に価すると思われる。 | |
| ●マルチメディアや情報通信技術を高等教育へ活用することは今後ますます重要かつ必須であると思われるが、それだけに開発に掛かる費用も無視できず、投資効果を見極めた活用が重要と考える。 | 私立 |
| ●本学各学部からの意見を参照願います。 | 国立 |
| ●今後、積極的に利用すべきである。しかし、その前提として遠隔授業の方法論、そのための教材開発等が必要となる。特に、遠隔授業に関し、本学マルチメディアシステムセンターでは、高等専門学校及び近隣の大学との間を結んで研究開発を進めているところである。 | 国立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術は、学生が授業を理解する上で有効な手段と思われる。特に視覚的なものに訴えるというのは、最近の学生に良いと思われる。ただし、サポートする人間と費用をいかに獲得するかが今後の課題である。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は、大いにすべきであると考え。ただし、利用の細部については今後の検討が必要であり、理科系実習や現場教育などマルチメディアのみでは解決出来ない問題も多くある。まず、語学や社会科学系などの利用から始めると良いと考える。 | 公立 |
| ●自習システムとして発展させるべきだと思う。これによって、大学の定員削減に対処出来る。学力の低下は、学ぶ側にも問題があり、常時自習できる環境が必要。また、双方向性を高める努力が必要と思う。現在の双方向性は、不完全なものである。双方向の理想的な姿は、リアルタイムにレスポンスが返ってくる状態である。 | 国立 |
| ●高等教育の質的改善の一助となり、また社会人の再教育には、有効であると考えますが、人件費を含めて教育コストの引き下げには結びつかない。あるいは結びつけるべきではないと考えます。また、システムを維持してゆく充分な支援職員を欠いては円滑・有効な実施を継続出来ないと考えます。 | 国立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を利用し、よりひろい視野で教育、研究ができ、例えば他大学等の講義を受けたり、研究に参加したりジャンルを問わず学べる環境が出来るようになると思います。 | 私立 |
| ●技術よりも、教員（授業を行う）のパフォーマンスが変わらなければならない。通常の教室と同じ様な授業では効果は上がらない。 | 私立 |
| ●通信インフラの整備に対する支援、補助の充実が十分とは言えない。また、マルチメディアセンターなどのスタッフの充実にも課題がある。 | 私立 |

| | |
|---|----|
| ●逼迫する財政環境の中で急速に進んでいる情報関連機器・設備の導入・更新の遅れが懸念される。 | 公立 |
| ●セキュリティの問題等から今後大学等においても情報処理教育、特に倫理等の強化が必要と思われる。 | 国立 |
| ●今後さらに増加してゆくだろう。 | 私立 |
| ●マルチメディアを利用した教育を本学でもやろうと試みてますが、マルチメディアの進歩が非常に速い為、予算的にも私立大学ではきついのが現状です。そのような補助を受けられるような文部省、科学技術庁など考慮していただけたらと思います。補助金を1/2補助ではなく、もう少し多く補助していただけたらと思います。 | 私立 |
| ●交通不便な広域に散存する郡部や農村部の地域住民に高等教育の機会を提供し、あるいは現職社会人に対するオン・ザジョブのリカレント・継続教育を可能にする教育の形態として、マルチメディアや情報通信技術の遠隔高等教育への利用は大きな意義を持っている。 | 私立 |
| ●遠隔教育やインターネット利用のWBTは今後の大きな流れになると思います。一番大事なことは良質の教材コンテンツをどう作るかだと思います。 | 公立 |
| ●著作権について具体的なガイドラインを示して欲しい。これがないと恐くて教材など作れない（外部に公開できない）。 | 国立 |
| ●社会で役に立つ授業を低い費用で表現するために、情報通信技術が使われるであろう。 | 私立 |
| ●大いに利用すべきであると考えている。なぜならば、対面式の中に時折組み込んで授業を行っているが、学生には好評である。短所長所を知った上での利用が望まれる。又、教員の研修（マルチメディアの使用能力向上）を併行して行う必要がある。 | 国立 |
| ●有効に活用すべきである。 | 私立 |
| ●マルチメディアを教育で活用しようとする時、最も問題となるのは著作権に関連した部分であると考えています。印刷物の複製が教育の特例で一部許可されているのと同様に、デジタル情報も限られたLAN内で教育に利用する場合のルール（特例）も定める必要があると考えています。 | 私立 |
| ●高等教育に限らず、通信コストが導入障壁となっている。少なくとも教育利用にかかる通信料金は引き下げるべきである。セキュリティ保護の為の技術的、法的整備の推進が必要。現状ではとても危険である。 | 私立 |
| ●学生並びに教員の基礎的な情報活用能力の向上も図らねばならないが、本学においては特にマルチメディアコンテンツ作成者の育成が急務といえるのではないかと考えているところである。 | 私立 |
| ●高精細画像技術、バーチャルリアリティの急速な進展を考慮すれば、マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は専門性を問わず浸透して行くと考える。しかし、これらの技術を熟知した教師・教員は現状では極めて限られ、 | 国立 |

| | |
|---|----|
| <p>優れたソフトの開発が出来ないと考える。従って、上記高度の技術は直ちに教育現場へは入らないと考える。上記技術の普及にはFD (Faculty Development) 導入を北海道大学においては、情報メディア教育研究総合センター等を中心に積極的に進める必要があると考えている。</p> | |
| <p>●各科毎に意見はまちまちであろう。臨床系は概して非積極的である。基礎系の一部は前向きのようなのである。</p> | 公立 |
| <p>●教室における対面授業、すなわち教員が学生と〔直接に〕対話し得る場が必要である。この場においては、マルチメディアは人間の認知過程から言っても積極的な意味を持ち、大いに推進すべきと考える。Networkを介して教育を行う場合においても、教室と同等なリアリティを実現する空間イメージを作る必要性がある。そうでなければ、学生が十分な〔学習意志〕を有しない限り、単なる知識の伝授に終わる。</p> | 私立 |
| <p>●情報機器によるマルチメディア化がもたらした多くのメリットは教育環境の高度化、質の向上などにも活かされている。但し、マルチメディア化によるデメリットも同様に影響を与えており、教育機関の特殊性のためか、その問題に複雑さを与えていると考えている。とりわけマルチメディア化が教育環境にもたらす影響については細心の注意を持って考慮すべきである。</p> | 私立 |
| <p>●大学教育におけるメディア活用には多様な面がある。一部の講義においては、板書に変わるOHPの活用プロジェクタの活用があり、これをオンライン化して教材をネットワークを通して学生が活用できるようにしている例も見られる。この形態では、2Mb/s程度の回線を通して、不十分ながら教室のリアルタイム映像とプロジェクタを使った遠隔講義も可能になる。当面は、こうした試行を各大学においてボトムアップ的に進め、これを大学間に拡張してゆくことになる。教材のオンライン配布は技術的に困難ではないが、教師の教材作成の負担を軽減する支援体制を進めるべきである。</p> | 国立 |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を早い段階から教育することは、今後のインターネット社会に対応するために必要と考えるが、技術面だけでなくマナーや自己責任の重みを考える教育も、技術や使用法と同等かそれ以上の比重で教育していくことが大切である。</p> | 私立 |
| <p>●文字だけでは正確に伝わらなかったことが、音声や映像などのメディアと組み合わせることによって、多大な教育効果を生み出している。このようなマルチメディア教育は本学における情報処理の授業だけに止まらず英語や社会といった教科にも幅広く利用されており、今後他の教科でもマルチメディア教育が実践されるものと思われる。また、情報通信技術の高等教育への利用についても、今後増加していくことが予想される。そうすると今までどちらかという学校及び、学校での授業は閉鎖的であったが、情報通信技術の導入により遠隔地から最新の情報を入手したり、他とのコミュニケーションの場が生まれたりと教育効果が期待できる。今後の遠隔授業やオンデマンド学習システムは、時間や</p> | 私立 |

| | |
|--|-----------|
| <p>場所を選ばないインタラクティブ教育システムとして利用されると思われる。但し、従前から行われている教師対学生の教育方法とも併用していくことが大切であると思われる。</p> | |
| <p>●情報処理技術分野に特化した考えかもしれない事を予めお断りしておく。情報処理とその利用技術の急速な進歩は、情報専門分野の細分化や科学と技術の乖離による技術教育の空洞化、特に産業界からニーズの高い技術分野への教育に即応できなくなる状況をもたらしている。マルチメディアや情報通信技術は、リアルな教材を作成したり他大学教師による遠隔講義を実現するなど、上記問題点を解消する為の教育基盤技術となりうる。しかし、マルチメディア教材を作成するには現在のところ（将来にわたってかも知れないが）、教材作成者による多大な労力が必要であり、教育効果とのコストパフォーマンスを考えると講義全体から見て、ごく限られた部分に対する教材化がせいぜいである。また、多大な労力を使ってもすぐに教材内容が陳腐化する危険性がある。このような問題に対処するためには、マルチメディア教材作成者の手間を軽減する為のツールの構築だけでなく、現在のマルチメディア・情報通信技術に相応した教材作成及び、授業利用に関する方法論を明確にする事が必要であろう。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●分野・利用方法によっては非常に大きな意義・可能性をもつであろうが、実技演習への適用については、さらに検討が必要。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●自然科学系中心の本学のような大学では、映像による教材提示が多くマルチメディアを多用することが、教育上有効である。また、情報通信技術を活用し、遠隔地のキャンパスとの同時講義や一般への公開等多面的な利用が広がると考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●今後より一層整備していくべきであるが、機器のモデルチェンジの早さ、リース・レンタル契約とした場合のその期間内での利用率（対投資効率）を上げる意味で、システム構築・リプレイスの際は、教員事務間でよく議論すべきである。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●本学は、1学部（音楽学部）4学科（音楽学科・宗教音楽学科・声楽学科・器楽学科）及び、1大学院研究科（音楽研究科・修士・博士）の音楽専門の単科大学であるため、これまで衛星通信やインターネットを活用したマルチメディアを利用した教育や研究活動を実施しておらず、学内LANも整備されていない。2年前から学内OA委員会が組織され、インターネットによるホームページ作成と教職希望学生のためのインターネット教育の開始など、学内情報の一元化及び、教育研究や学外への広報戦略を強化し、事務部門間の事務効率を高める為の計画が検討され、平成12年度より具体的な導入が実現することとなった（IBM AS/400ドミノ専用サーバー導入による学内LANシステム）。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術の発達により、高等教育を受けることの出来る人の範囲が格段に広がる。教育機会の平等化という意味で、今後益々その充実化が期待されるだろう。大学教育に直接携わっている我々が、真剣に考えてい</p> | <p>私立</p> |

| | |
|--|----|
| かなければならない課題である。 | |
| ●単なる操作方法を教えるだけの教育になってしまわないことが重要であると思われる。マルチメディアや情報通信技術を利用して、何を教育するのか。つまり教育目的を明確にする必要がある。 | 公立 |
| ●地方大学としては、積極的に利用したいと考えております。しかし設備の問題、セキュリティの問題、運営管理スタッフの確保など、様々な問題もあり、またインターネットのように技術が先行して出来上がった社会には、法律的にグレーな部分が多いように思えます。 | 私立 |
| ●・わが国では、通信コストが高くつくので、利用者の負担が軽くなる対策がひとつようである。・教材を作成するための技術・スタッフが充分でない。・利用を推進・支援する施設（センター）の充実が必要である。・双方向通信が短時間で高効率になれば、利用は拡大できる。・これらをあまり重視すると、人間の協調性等が薄れるので、導入は最小限にするべきと考えている。 | 国立 |
| ●今後はマルチメディア等の双方向通信を積極的に活用し、より視覚・聴覚を利用しての授業を行なうことが多面的に理解力を増すことになるので今後の積極活用が望ましいと思う。 | 私立 |
| ●マルチメディア教育の推進については、ハード・ソフトの両面に関する整備と運用にかかわるノウハウの蓄積が必要であり課題であると考えます。一部の高等教育機関は別として、これらのハードルをクリアしながらシステムを構築していくには、それ相応の年月を要すると考えます。 | 私立 |
| ●担当部署を設けて計画的な利用案策定が必要である。 | 公立 |

＜大学学部＞

| | |
|---|-------------|
| ●マルチメディア教材、例えばウェブ画面の作成の方法が現状では専門的過ぎる。音声入力等で自由に素人が教材をアップロードできるようなインテリジェントウェブ教材作成システムの開発が望まれよう。 | 私立・その他 |
| ●情報の質にバラツキがあり、使い方に注意が必要ですが、巧く利用すれば、教育・研究上の効果は極めて大きいと思います。情報発信の道具としての役割も増大するでしょう。 | 国立・人文科学系 |
| ●積極的に活用してゆきたいが、設備に経費がかかるので段階的に導入したい。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●利用可能な領域と不向きな領域・部門あり。一律に課すべきではなく、自然な進展を望む。 | 国立・芸術系 |
| ●・この分野の専門職をシステムとして大学が組織できることに尽きる。・教育の質は、やはりモノの整備をこえて人材と時間の確保にある。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●講義や演習を多面的かつ立体的なものにするために、マルチメディアや情報通信技術の利用は今後重要性が高すぎるが、教材作成の面ではまだまだコストと時間がかかるために、利用する教員が一部に限られるのが現状である。今後、大学の授業の方法のあり方と連携した形で、教材研究の必要性があると思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●1. 少人数、討論会が型授業の補助に有用。2. 将来の臨床医学の基本理念である。Evidence based medicineの修得に不可欠。3. 医療機関の連携による生涯教育に不可欠。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●私達の家政学部は実学を旨としているので、上記利用は、社会の情報をリアルタイムで学生に与えられ、そこから「生活」を考える手段として極めて有効である。又、授業は、とにかく教員から学生への一方通行になりがちだが、教員と学生の相互による授業構築が可能になる。 | 私立・家政系 |
| ●積極的に利用すべきと考える。 | 国立・その他 |
| ●マルチメディアの高等教育への利用は効果的であるが、ソフト、支援スタッフの充実等が不可欠である。 | 国立・人文科学系 |
| ●文部省の補助金の増額。補助対象範囲の拡大。 | 私立・人文科学系 |
| ●まだまだ、ノウハウが少なく教員が独自で教材作成等行うには荷が重過ぎる。ある程度専従できる専門家がコンピュータセンター等へ配置されているようなスタッフサポートが必要。 | 私立・社会科学系 |
| ●技術やコストの面でも、まだまだ今は整備不十分である。しかし、それに加えて、共有できる音声データ、画像データが少ないことがネックとなっていて、マルチメディアに積極的に取り組もうと | 私立・家政系 |

| | |
|--|----------|
| <p>している人の負担をさらに増しているように思う。教育に必要な素材を著作権フリーで、ある程度集めて公開し、我々はそれを編集して授業に用いることができないものかと思います。お互いに提供しあうことを望んでいます。</p> | |
| <p>●・情報化の負の側面（プライバシー問題、リスクを伴う情報の存在、不特定多数への公開、匿名性による諸問題、ネット上のマナーなど）への配慮を十分に行いつつ進められるよう希望します。・アナログ的な思考・情報伝達というものも軽視すべきでないと思いますし、また今後は情報化の中で逆にこうした側面が重要になってくるように思えます。メディア等の利便性は認識し、利用していく必要性は認めますが、人間や対象とのナマの触れ合いによる学習効果というものもおろそかにしたくないと考えております。</p> | 公立・社会科学系 |
| <p>●一般公衆回線を使ったアクセスに対し、電話使用料の軽減を願いたい。場合によっては、定額性（月200円など）の料金設定を望む。</p> | 公立・理工学系 |
| <p>●今後、積極的に活用を考える必要があるが、人的支援の点で大きな障害がある。この点を改善・工夫することが大切であろう。</p> | 国立・理工学系 |
| <p>●私が所属する材料科学研究科においても積極的に対応していきたい。</p> | 国立・理工学系 |
| <p>●大きな動きは望めないが、若い世代が入り込み易い教育の必要性を感じている今、そのための役割の大きな部分をマルチメディアは持っていると思われる。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●大いに推奨すべきものである。しかし、同時にマルチメディアや情報通信技術が人間関係、人間形成に如何なる影響を与えるのか、又社会的に見て、どのような変化をきたすのかその功罪を正しく見分けることが、大学院レベルの教育・研究内容として、必須なものと思われる。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●先日、パワーポイントによる公開講演を試みたが、準備にかなりの時間を使った。幸い、サポート体制があったのでしたが、それなしには無理であった。パワーポイントによるプレゼンテーションを現段階では日常的授業で使うことに困難を感じた。よほどサポート体制がしっかりしていないと一般の教員が情報通信技術を使って授業をするのは難しいと感じている。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●2月16、17、18日に文部省の通信衛星授業（オープンカレッジエルネット）に参加します。新しい形態の授業が展開できればいいと思っています。</p> | 私立 |
| <p>●単なるコンピュータ操作の実習にならないようにするため、FD</p> | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|-------------|
| のような教授法を十分に工夫する必要がある。 | |
| ●情報通信技術は、場所・距離短縮のために今後ますます利用価値が高まるものと思われます。例えば遠隔地に出向しての会議などは、電子会議にした場合、時間や金銭の大きな節約になると思われます。 | 公立・農学系 |
| ●大学等で他大学との単位互換等積極的に利用されて行くものと考えられる。自分の大学にない特徴ある単位の取得の段階性を秘めており、各大学、研究所等の整備が充分になされる事を願いたい。 | 私立・理工学系 |
| ●一般的には大いに利用すべきと考えています。但し、教育の本質は知識・技術の伝達だけではないので人間性を無視しないという前提があつてのことです。 | 私立・その他 |
| ●現状では、大学側、学生側両者にとって、かなりの投資が必要となる。コンピュータと通信技術の一層の進展と、米国並の通信料金が実現されれば、それほど遠くない将来に（10年とはかからないと思う）マルチメディアと情報通信技術を駆使した教育・研究が当たり前のものとなると考えられる。国立大学の場合、今後、人員と予算の削減が重なるとすれば、実現時期はずれ込んでしまうことになりかねない。特にマルチメディア教材の作成には、強力な支援スタッフを揃えるか、あるいは外注しかなく、外部機関との連携協力が不可欠となってくると思われる。 | 国立・社会科学系 |
| ●21世紀はマルチメディアの時代、その「高等教育」への利用は、積極的に押し進められるべきものであると思います。 | 公立・社会科学系 |
| ●歯学部では、学部学生の教育はほとんど対面教育でないとできない部分があり、応用は難しい。むしろ、現在は一般の市井の歯科医師すなわち卒後の教育に使えないかを考えている。費用と人が圧倒的に不足して現状（学部教育）で手いっぱいというのが本音です。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●すべては教員の意識を適応能力、如何でしょう。 | 私立・人文科学系 |
| ●今後大いに利用できるように積極的に推進すべきと思います。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●高等教育を担当する教職員へのマルチメディア等の定期的な教育・研修の充実が必要である。非常に速いスピードで変化しつづけている技術と、その利用を考える「人材」のギャップが近年、大きくなっている。教育現場で使える技術を、時代に対応した型で実施すべきである。 | 私立・人文科学系 |
| ●利用できるものがあれば積極的に利用したい。しかし、現段階では教材にしても不十分であり、また各自が作成するとすれば、そ | 私立・その他 |

| | |
|---|-------------|
| れに費やされる時間や費用が問題となり、かなり難しい。 | |
| ●大学の授業改善・評価が課題となっているが、通信技術を活用することで、大学教官の間でのTTを実現したり、他の教官等にも公開することが可能となる。このような大学における教育方法の改善に有効となると考えられる。さらに、大学開放の立場からは積極的活用を進めなくてはならないものだと考えられる。 | 国立・教育学系 |
| ●学生や社会のニーズとして、高度情報化された研究・教育環境があるが、そのニーズに応えている大学はそれほど多くはない。ニーズを明確にするためにも、大学の情報環境評価をして、一般に公表する必要があるのではないかと思う。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後の方向としては、不可欠のものになっていくものと考えられる。他大学、教育機関との連携もこれによって盛んになり、そのことの意味も大きい。問題として、ネックになりうるのは、各大学の制度とか規則、職員の強力などが、どれだけ柔軟性を早くとりこめるか、だと思う。 | 私立・その他 |
| ●基本的には、道具の一つであるので、それだけでは本当の力はない（本を読んだだけで力が出ないのと同様）。 | 国立・教育学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術が普及し、多くが利用しているとは言え、発信をする義務をもつ部局としては、利用が進む程に発展していないのが現状である。教育的効果を発揮するためには、送受の頻度が同じような度合になるように発信のための教育が必要である。つまり、publicな情報を作るという教育の必要性を感じる。特に工学の分野では若年層からの発信の量が重要な要素となるため基礎教育の充実を進めたい。 | 私立・理工学系 |
| ●教育の基本は人と人とのふれあいにある。コンピュータを介して、すべての教育を行うことは、現在ある教育のひずみを拡大するものであり、目指すべき方向ではない。しかし、マルチメディアは、教育効果向上には有効な手段であるから、対面教育を基本とした上で、有効な活用を考えるべきであり、この点では今後積極的に取り入れて行くべきものと考えている。 | 国立・農学系 |
| ●早急かつ大型の予算によるインフラ整備を望む。 | 国立・農学系 |
| ●「マルチメディア」という言葉のみが独り歩きしていて、正確な認識をもっている人は小生も含めてほとんどいないのではないか。情報教育技術の専門家がその部局に居ない限り、利用できる分野・方法・ソフトウェア、ならびに利用事例が提示されない限り、単独の部局等で独自のマルチメディア環境を構成・構築・運用・維持・発展させることは不可能である。パソコンのみを与えて「この利用方法を考えろ」というに等しい。適切なソフトと利 | 国立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|---|--------------------------|
| <p>用例が提示されて、人は始めて、そのパソコンを利用して何をするか考えるのだから。</p> | |
| <p>●語学授業において、インターネットや海外の衛星放送を利用することでコミュニケーション能力が高められるため、今後積極的に取り入れたい。</p> | <p>私立・その他</p> |
| <p>●マルチメディアを導入した教育は、無視できなくなることは確実であると思われます。大学の生き残りのための一つのハードルにもなってくると考えます。しかし、具体的取組みに大学でどうするか、まだ進行していない現状にある。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●法学教育における、マルチメディアの利用は、他の領域と異なっており情報分析の手法の確立が重要である。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●時代の趨勢として基本的には結構なことと思うが、各個人がメディアを持つ段階において、経済力の差で差別が生じてこないか（ノートパソコン1台が約30万円もする現状）。</p> | <p>私立・ 医・歯・ 薬・保系</p> |
| <p>●マルチメディア教材を利用した授業は、教科書と黒板への板書だけの授業に比べて学生の学修効果が飛躍的に上がることは明らかである。又、実験を伴う授業や様々な現象、生データを利用する授業では、それを実際に行うことが困難な場合、映像等を示して講義を行うなど、授業内容改善の一端を担うものとして昨今話題のFD活動とも密接な関連があると考ええる。しかしながら、一大学の教育研究設備・備品経費だけでは、最近のマルチメディア技術の進歩の早さを追い続けるには、もはや無理があるように考える。今重要なことは、一歩先の技術革新を予測して、的確によりよいマルチメディア教材を選択していくことと、マルチメディア教材を取り入れて、授業内容の改善を積極的に行おうとする場合の経費補助にあると考える。その意味から、国あるいは地方公共団体からの公的な補助の増大を期待したい。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●教室や一般教材の充実が優先されるべきである。又、マルチメディア教育に必要な専門職員が不可欠である。講義室において、パソコンをプロジェクターに接続し、スクリーン写し出せるようにし、このパソコンをネットワークに接続すれば、多くの資料や教材を授業に活用できると考えられる。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●現状では情報処理についての技術習得がメディア教育のように思われる。リテラシーは必要であるが、授業内容そのものが最も大切である。ITはインパクトを与えるが、ITがすべてを解決するわけではない。創造性に富んだ授業はそのものの中にあるといえよう。授業者の思想であり、考え方であり授業方法展開形式である。ITが空間を拡大させるがこれに思考を追いつかせる必要が</p> | <p>私立・社会科学系</p> |

| | |
|--|-------------|
| ある。発見・発明・工夫・応用などにおいて、学生が主体的に学修することができる環境を整備する。その方法を伝授する。新弟子時代の到来が不可欠である。 | |
| ● 今後はより積極的に活用すべきである。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ● 21世紀はインターネットの世紀となり、その上でマルチメディアは益々多様化が進むであろうし、情報通信技術も革新的に進歩すると思われ、高等教育への利用も進む方向になるであろう。しかし、現在ではインターネット使用料の経済的負担が大きくなること、双方向授業を個人について行う場合には、対面授業と同じ効果をあげようとする教育の負担も増大する。マスプロ教育にはよいが教育効果の面からみると疑問も残る。またマルチメディアは年々形を変え、流動的に変化するであろうから、それに応じ教育用に次々と新素材を提示していく必要がある。このことは教員にとっても負担となろう。このための学科・学部・大学間で協調的にこの問題を検討することが重要な課題であろう。 | 私立・理工学系 |
| ● 本学は公立の為、予算の決定は本庁によるところが大きい、検討する担当がマルチメディアの事がわからない為、こちらの意図・目的が理解されず、これが最大の障害となり、無駄な作業の原因ともなっている。 | 公立・芸術系 |
| ● 専門科目の教育には、教科書以上にマルチメディア教材が有用なので、今後は教科書よりもマルチメディアの方が主流になる。インターネットで教材を無料配布すると国家的な寄与は非常に大きい。著作権の努力は経済的に報われない。これを合理的に発展させる社会的な仕組みを作ってもらいたい。その一環として例えば、文部省がコンクールを行って、優秀作品を国が買上げて全国に無料配布しても良い。また有償で配布できるような仕組みの方がもっと必要と思われる。 | 私立・理工学系 |
| ● 初等中等教育の情報化が進む中、高等教育にあっても教育方法改善の手段として又、リカレント等生涯教育の手段として積極的に情報通信技術を活用すべきである。 | 国立・教育学系 |
| ● 教材製作のコストダウン、技術的な支援が重要。マルチメディア利用は万能ではなく、既存の教育方法より十分にメリットが多い場合にのみ導入するべきである。闇雲に推進するのではなく、適所に部分的に導入を進めていくようなきめの細かい配慮が必要。 | 私立・社会科学系 |
| ● 本学のように単一の学部しかない大学では、情報通信技術を利用して他大学の授業も聴講できるようにすれば、学生にとって大きな刺激となる。 | 私立・家政系 |

| | |
|--|-------------|
| ●SINETの通信速度をもう少し速くして頂きたい。SINETの利用条件を緩和して頂きたい。 | 私立・社会科学系 |
| ●・研究等で利用していない教官に対するコンピュータの利用の有効性を理解させる方策が必要。・教員養成学部でありながら自分も教育者でありながら、教育方法に対する無関心さを是正する方策が必要。・高等教育への利用を推進するためには、大学教官自身の教員としての再教育が必要（元々教官として養成されていない研究者に教育者としての視点を教育すべきだと思う）。 | 国立・教育学系 |
| ●理系教育では、自分の目で実物の現象の動きを観察し、自らの手で実験実習を行うことによって初めて知識が消化されるので、通信教育のみでは充分ではない。但し、現在では数人の教員の知識ではカバーできない広範囲の事象を幅広く「見せる」効果は、否定できない。 | 私立・理工学系 |
| ●単科小規模大学にとっては、積極的に利用したくとも財政的に大きな負担であり困難である。 | 私立・人文科学系 |
| ●他大学、他学部との交流をより高める手段として利用すべきだと考える。 | 私立・その他 |
| ●あくまで教育の補助手段であると考え。 | 私立・その他 |
| ●最先端知識の効率的な伝達グローバルな規模での情報の取得による研究・教育の量的、質的向上に極めて有用であると考え。さらに学生・教師を問わず、知的好奇心の覚醒に良い刺激剤となりうる。 | 私立・社会科学系 |
| ●情報通信革命によって、マルチメディアや情報通信技術の高等教育への波及は不可避のものとなっている。この波にいかに対応し、高等教育の形成と内容をいかに改革するかが、この10年間の課題となろう。 | 国立・人文科学系 |
| ●教員の利用、サポート体制の確立が先ず必要。 | 公立・社会科学系 |
| ●最新の情報の収集、オンラインシステムによる学生への指導等シミュレーションによる学生教育、EBMへの活用。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●技術面においては、教育にマルチメディアを導入するのに十分高水準の機器が出ているが、問題はデータソース（内容）である。提示される内容が旧メディア（文献資料等）では何もならない。媒体やネットワークを通じて提供されるデータソースの質と多様性を増大させていくことが、今後の利用の拡大のための条件となるだろう。 | 国立・人文科学系 |
| ●利用要件として以下のことが挙げられ、これを満たせば利用頻度が高まり効果が出て来ると思われる。1. 画質（フレーム数を含む）、2. タイムラグ、3. 通信コスト。 | 公立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|--|----------|
| ●特定の企業の製品が変化しただけで、教育が変化せざるをえないような状態は是非とも避けるべきである。使い方の教授に終わり、習ったマシンやアプリケーションしか使えない指導者や学生が多い。未だに発展途上のマシンの不備を教育が補っている。慣れている事と使いやすい事が混同されている。 | 国立・教育学系 |
| ●インターネットの普及により、我々の研究・教育のあり方が変化しつつあるのは事実であるし、昨年の私の演習ではリアルタイムな情報を必要とする内容で実施したこともあり、その是非・成果はともかく、従来にはなかった方法・内容の演習だった。ただ（私も検証不十分ではあるが）マルチメディアを利用することと、これまでの方法との違い、成果等を組織的・体系的に分析検討することが必要。多くの情報を即座に収集することではなく、いかに有為な情報を収集し、それをいかに活用するかこそが、情報化社会の課題であろうと考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後、積極的に活用する必要がある。IT革命に対応した教育は、将来不可避。 | 私立・社会科学系 |
| ●・システムの導入、維持管理が大変である。・専任職員あるいは、保守管理などの外注サービスを積極的に利用したいが、経理的・人事的な壁に阻まれている。国立組織のスリム化を図るならば不要な公共投資（土建関係）を止めて、こうした外部サービスに回すべきである。そのためには、手続や事務の民間並みの簡略化が不可欠であろう。 | 国立・芸術系 |
| ●メディアを利用した双方向の授業技法についてのより深い研究を進め、その成果を授業担当者に反映させることが不可欠である。固定したカメラからの映像を流すだけでは、対面型の授業に比べてはるかに少ない教育効果しか上げることが出来ない。適切なカメラアングルの設定、切替、ズーミング等、プロのカメラマンの技法が必要とされる。授業実施時に送信側に少なくとも2名の十分な教育を受けた補助者が必要であり、受信側でも学生からの質問等に対応してカメラを向ける補助者が必要になる。授業担当教員への教育研修に加えて、TA等による補助者の雇用と補助者への教育研修が行われるべきである。 | 国立・理工学系 |
| ●社会のニーズから考えて必要になることは明白であるが、指導者の不足は著しく、そのゆとりがないのが現状である。 | 国立・理工学系 |
| ●教室、機器の点で大幅な見直しが必要である。 | 国立・社会科学系 |
| ●教育への利用、大いに賛成であり結構なことである。むしろ、単位の互換を行うようになればもっと素晴らしい事だと思う。 | 国立・理工学系 |
| ●高度情報通信社会の到来の時代であるから、積極的な利用を図る | 国立・理工学系 |

| | |
|--|----------|
| ことは望ましいと考える。 | |
| ●マルチメディアの積極的利用は、教育効果をあげる上で重要である。しかし、体育大学における専門教育では補助手段の一つという位置付けが妥当であろう。「百聞は一見に如かず」という領域には役立つが、たとえ「百聞」しても泳げるようにはならないなどが好例である。 | 国立・その他 |
| ●マルチメディアや情報通信技術は、これから高等教育でも盛んに利用されるようになると思われる。出来れば、学生一人一人にパソコンを持たせたいが国立大学では強制は難しいと思われる。ノートパソコンを全学生に貸し与えることも考えられるが、予算上も管理上も困難であろう。解決策を模索中である。 | 国立・社会科学系 |
| ●個人的な見解であるが、教育ことに大学レベル以上の高等教育は、基本的には対面教育であるべきと思う。マルチメディアや情報通信技術に重点をおいた場合には、明示知は伝わっても暗黙知（ポランニー）は伝わらない。高等教育においては、実に暗黙知の伝授こそが重要である。この意味で、いわゆるIT適用は限定的にならざるを得ないだろう。ただし、バーチャルユニバーシティ等の試みは、一方で、規制を極力排除した中で積極的に推進されることが望ましい。なぜなら、そのようなプロセスの中で教育に関するイノベーションが登場するかもしれないからである。 | 公立・社会科学系 |
| ●ネットワークで利用することで、より効果的な教育が可能となるが設備、メンテナンス、リプレース等、莫大な費用が必要であり大学全体の予算の中で、どのように考えていくかが課題になる。 | 私立・社会科学系 |
| ●専門領域の教育内容を理解させるのに有用である場合が多いので、積極的に取り入れている。専門領域に関心の深い学生は、その意図を十分にくみ取り、教育内容を理解してくれる。 | 私立・社会科学系 |
| ●補助的な利用は大いに効果があると思われる。その「補助的利用」を行うには、教員自身が利用技術を獲得し、利用技術の向上を図るべく、所属組織等の十分な利用技術の支援体制が必要であろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディアの利用により、教材内容をより理解しやすいようにプレゼンテーションを行うことに大きな期待が持てると思います。 | 国立・理工学系 |
| ●目的を明確にして利用を行わないと、効果が上がらないと考えられる。 | 国立・社会科学系 |
| ●現在の対面式授業を補足充実させるものとする位置付けが適切と考える。 | 国立・社会科学系 |
| ●旧来の教授方法（教科書による）だけでは、教授内容の充実を目 | 私立・その他 |

| | |
|--|-------------|
| <p>指すことは難しいであろう。教授内容を目指すについては最新の研究成果情報を反映させていくことは有効なことと思われるが、マルチメディアや情報通信技術を用いることは1つの手段となりうるだろう。</p> | |
| <p>●補助的手段としては非常に有効であると考え、利用を一層深めていきたい。とくに学生にとっては、自学的側面が非常に伸び、技術利用についての達成度・満足度が高い。卒論指導でも、文献探索・新聞記事の閲覧等効果が大きい。今後の課題は、情報技術の利用によって、他との交流（相互交流）をいかに深めていくかである。ホームページを学生が積極的に開くことによって、自らが発信者として参加する必要がある、そこでとくにプライバシーの保護や情報倫理をシステムとして確立していくのが火急の要件となるだろう。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●これら新技術は、教育効果を一層向上せしめたり、また教育を受ける機会がなかった人々に新たな教育機会を提供できる可能性を秘めている。いずれにしても、試行錯誤が必要であろう。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●現在は、過渡的状況にあると思います。中学校、高等学校で情報リテラシーを身につけた学生が大学に入学するようになれば、利用が進むものと考えられます。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●各高等教育機関にとって今後の情報教育の重要性を考え、今まで以上に教養教育・専門教育の充実を図らなければ、初中等教育で情報教育を受けた学生のニーズに応えられないのは明白である。また高等教育のみならず、生涯教育の場としてあるいは情報提供の場として、施設の公共利用やWeb上での公開講座の開講など、地域社会に貢献することが責務だと考える。</p> | 私立・医・歯・薬・保系 |
| <p>●今後の教育に不可欠であるが、コスト（インフラの整備と維持費）と担当スタッフ（教員は特定の人に負担）などを考えると、できる可能性と現実のギャップは大きい。もちろん、人の教育であるので、全てがこの方式でなく、対面（少人数）講義、ゼミは不可欠である。どちらかになるのではなく、補完的に利用されて、よりよい教育が可能となる。</p> | 公立・家政系 |
| <p>●ビジュアル教育という面では必要と考えている。</p> | 国立・農学系 |
| <p>●こうしたものに頼る教育を推し進めた結果どうなるのか、不安といえば不安。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●将来が読めないので何とも言えないが、役に立つ何かを残してくれそうであることは間違いない。</p> | 国立・社会科学系 |
| <p>●ある程度の知識を有する大学院や、研究室での利用には大いに進めるべきと考えるが、学部教育のためには若干難しい面が多いと</p> | 私立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|--|-----------------|
| 考えられる。 | |
| ●実験系では実際の機器について、その内容・構造を理解し、実際に触れて、正しく操作することが極めて重要です。マルチメディアを利用したシミュレーション、或いはシミュレータによる仮想体験は実際の経験が無くても機器の操作ができる、との誤解を与え、教育上必ずしも好ましくありません。 | 国立・理工学系 |
| ●高度に抽象化された内容を扱う高等教育であればこそ、バーチャル・ワールドでの教育も成立すると思うが、現状の活用方法は初中等教育での導入部分での活用と本質的には変わっておらず、印刷教材の代替品の域を超えてはいないように思う。また現状では、マルチメディアや情報通信技術は「何か特別なもの」という捉えられ方をしている。予算の裏付けを必要としたり講義などへの活用を意図しても教員（しかもほとんどの場合、特定の教員）側の負担増を強いる結果としかならない。これらの技術がごく一般的に教育の基盤となり、その内容が高等教育のカリキュラムに見合うものとなるには、初中等教育の現場も含めた議論が不可欠であり、何より何でもかんでも「オンライン化」「バーチャル化」する（ことによるカリキュラム内容の低下）ような本末転倒な事態に陥ることのないようにしたいものである。 | 公立・社会科学系 |
| ●一番の問題は、通信回線の安定した状態を如何に保つかという事です。現在、本学においてマルチメディアを利用している中ではかなりの障害が発生しております。次に、双方向の授業であるのにどうしても一方的な授業内容になってしまうということです。やはり、先生や学生の両方に通常の講義ではなく、通信を利用した授業の仕方・受け方を事前に理解する必要があると思われます。又、教材等の事前の用意・扱い方にも注意が必要であり、人的な配置問題や教育効果に対する疑問等の問題も発生してくる。 | 私立・農学系 |
| ●設備や技術は進歩したが、それを有効に利用する人材が少ない。そのため、少数の教官に過重な負担となっていることが問題である。 | 国立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●マルチメディアを活用した授業を支援する為の人員配置、教育機器設備、教室のリニューアルが必要である。基盤整備をさらに行っていくことが重要であろう。教員に対するファカルティ・ディベロップメントの一環として関連知識と技術の習得も課題である。 | 私立・人文科学系 |
| ●今後様々な部面での積極的活用を図るべきであり、そのための予算措置の充実が望まれる。 | 国立・社会科学系 |
| ●2000年度に向けてテレビ会議システムを導入し、海外の大学とリ | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>アルタイム共同授業を行うことを計画している。</p> | |
| <p>●大学で今考えられている点を要約すると以下のとおりである。1. 高等教育におけるマルチメディアを利用した教育の推進。2. 知識ナビゲーション機能の充実強化。3. 地域と連携したメディア情報サービス活動の充実。4. 大学における知識メディア情報基盤の戦略的整備とサービス充実。5. メディア情報に関する学際的ないしは専門横断的研究の推進。6. 次世代知識メディア基盤の整備・充実。</p> | <p>国立・農学系</p> |
| <p>●自然科学系での創造性は体験・実習を経て修得される部分が多い。知識を具体的な結果につなげる手法、発想は体験によって理解されるし、生まれると考える。情報を得る手段として、また情報の共有化には有効となるが、情報の生産には向かない手段であるとする。こうした手段に依存する率が高くなれば、研究現場での実験研究者の教育レベルは低下すると思う。</p> | <p>私立・農学系</p> |
| <p>●情報を広く、早く得るという意味で必要であると思う。但し、同時に考える力をどう育成するかが重要である。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●大学院及び研究者のための情報収集、研究の情報交換には大いに役立つと思われる。学生自身が積極的に利用し、理解を深めるのに役立つことは出来るが、情報公開が進んでも要は利用する個人の問題であり、本質的には教育が効果的にされても、効果は表面的になっている可能性も大きいのではないかと考える。競争社会では当然であるが、学生の能力によって今迄以上に大きな差を生ずる危険も存在すると思う。</p> | <p>私立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●本学では予てより、コンピュータ・ネットワークを利用した単に問題解決型の情報処理教育を超えて、マルチメディアの統合的な活用を基にしたコンピュータ・コントラブルな新しい視聴覚教育への展開を全学的に進めております。コンピュータをテーマとしていない文科系の広範かつ多様な学習分野においても人間の五感に訴える高度視聴覚教育による情報活用が学習の効率的な促進と新たな創造へのインセンティブを与えるものと確信しております。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●将来としては、各授業の補助手段として大いに利用すべきである。パスワード、守秘義務など問題は数多くあるので、発展・進歩を待望している。JABEEなど第三者大学評価機関はその活動方針、内容の公表をマルチメディア手法にて発信し、中央のみが有益な現状を打ち破って欲しい。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●現在、比較的成本のかからない自作のCD-ROMソフトやBBSを活用した国際交流により、授業をすすめているが、学外の人的</p> | <p>私立・人文科学系</p> |

| | |
|--|-------------|
| 支援や科研究費補助を受けてはじめて実現している。今後、組織内にメディア開発センターを設け、プログラマー、TA専従スタッフ、予算を確保することにより、マルチメディア教材の開発を行うことが望まれる。また、海外の大学、地域社会と提携を結び、インターネットを活用した学術・教育交流を組織をあげて行っていく必要がある。 | |
| ●高等教育の基本は、やはり人と人とのコミュニケーション。人を思いやる教育がまず大切と考えます。従って対面式授業が人間作りの教養教育には不可欠と思います。ただ、技術力など専門分野の向上は、マルチメディアなど多様な媒体を通じてそれを実践していく方が効率的であるし、また他との関連から広く物事を見ていく、その点で重要と考えます。 | 国立・理工学系 |
| ●大学院レベルでのオンライン教育を積極的にすすめるべき。 | 国立・教育学系 |
| ●機器の購入・維持・管理にお金がかかりすぎる。特に機器購入に関して、公的機関からの補助を強く希望する。 | 私立・人文科学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の利用は、大学教育の質を高めるだけでなく、病気などによる欠席学生や、身障者・老人・主婦などの在宅者にも高等教育を受ける機会を作り出すことが出来、大いに促進されるべきだと思います。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●最新機器類導入には莫大な経費と人的補助が必要です。これらの手当なしでは利用拡大発展は遅れるでしょう。 | 国立・農学系 |
| ●次の各項から、利用は有効であり、今後、推進する必要があると考える。 ・大学の教育人員が削減される傾向がある中、他大学や他機関の機能の活用になる。 ・学際的な教育の展開が出来る。 ・大学の授業公開により、地域貢献につながる。 ・情報通信技術の習熟や応用能力の向上を促す。 ・教育内容を第三者が知る機会となり、第三者の評価が得られる。 ・教育内容が教室内にとどまらないため、教育者に緊張感が生じ、教育技術の向上につながる。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関しては、参加者側にある程度共通した情報インフラが整っていなければ、実現不可能となる。当該利用を促進するには、情報機器購入に対する国の優遇税制、大学に対する当該人材の手当て、当該設備用の予算措置等が今まで以上に必要となるでしょう。また、このようなITを担う人材に対しても、今まで以上に高く評価して欲しい。 | 国立・社会科学系 |
| ●マルチメディア・情報通信技術は、驚異的なスピードで進化しているので、それを利用して教える側の負荷はかなり高い。負荷を軽くするための体制・進化に対応出来るための体制(人・金・物) | 私立・その他 |

| | |
|---|----------|
| を十分検討すべき。また教育を受ける側への配慮として、単にPCのリテラシーが向上するだけでは不足で、その先にある想像力などの開発にまで高めて行く必要があると思う。 | |
| ●1. 重要性は日増しに増加するでしょう。社会が情報化する時、教育だけが遅れているのはおかしいことです。2. 教育のマルチメディア化での最大のネックは人的資源です。国家公務員である教官、技官、事務官の入れ替えが困難なので、専門職員の期限付き採用の枠を増加する等で対応すべきでしょう。現有職員の再教育では対応できません。3. 学生の情報の入門的教育（リテラシー→Windows又はLinnx、ワープロ、表計算、インターネット、情報倫理）を教材化して各大学で利用可能にすれば今後にとって有用ではないでしょうか。 | 国立・理工学系 |
| ●問14で記したとおり、必ずしも具体的な全体像をイメージできないのですが、図書検索その他の実際に導入されている部分では非常によく利用もされており、研究・教育上の能率は確実に上昇しております。そのような小さな経験からみても、以後、設備の充実とさらなる利用が望まれることは言えると思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●Userに優しいapplication softの開発と専門家によるhard面での支援体制の整備が必要不可欠であろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●・これからの社会生活上不可欠。それを大学で使わないのはおかしい。・メンテナンスの問題が大きいし、また、まだまだ思ったことがやれる環境ではない(例：オンライン・アンケートの回収、自動集計等)等の意見が寄せられた。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後、これらの技術を教育に十分活用すべきである。しかし、その利用の仕方は科目内容に大いに依存する。衛星通信や地上系通信の利用についての質問に回答を記入していないが、1998年3月私情協の支援によりSCSシステム（借用）による遠隔講義の実験は行った。その後SCSシステムの導入が実現していないことと、この種のシステムの利用は意義はあるが、準備にかなりの手数がかかり、恒常的に利用出来る体制は当面取れないと判断している。今後、利用の仕方については研究は続ける予定である。 | 私立・理工学系 |
| ●積極的な資金援助を望んでいます。 | 私立・社会科学系 |
| ●積極的に進めるべき事は言うまでもないが、コアとなる人達でどのような事が可能か、まずは見本としてやってみるべきであろう。さもないとかけ声ばかりで先に進まないような気がする。 | 私立・社会科学系 |
| ●大学における教育観（もしくは学習観）の変革のためにも積極的に利用すべきと考えます。但し、大学教員の生身から伝えるもの（伝えられるもの）の本質は見失いたくないものです。 | 私立・理工学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>●・現在どのようなマルチメディア利用形態が可能か、またその教育効果はどの程度と見積られるかなどの具体的実施例に基づく参考資料があるとよい。・講義用のプレゼンテーションをつくるのに多くの時間を費やしているので、容易にプレゼンテーションをつくることのできるソフトウェアの開発を望んでいます。・受講者が参加できるような形式をすすめる必要がある。</p> | <p>私立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●情報機器の進展は目を見張るものがあり、今後ハード面ではかなりのことが実現可能であろうが、何をどのように利用するのかというコンテンツ、即ちソフト面での検討がこのような技術を利用した教育を成功させるために最も重要な課題である。時代が変化していることから今後、マルチメディアや情報通信技術の高等教育への積極的な利用を図るべきである。</p> | <p>私立・理工学系</p> |
| <p>●「マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用」は積極的に行われるべきですが、ボランティア・ワークに依存する部分が大きく、大学内の認知が追いつかないのが現状であると思います。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を利用することで、広範囲での情報の収集が容易になる。また、他教育機関や他部署などと連携を取りながら教育を行うことも出来、遠隔地からの利用も可能となるので、幅広い教育が出来る。そういった意味で高等教育への利用は、これからの教育に大変重要なことだと思う。情報通信技術が進歩するに従って、より速く、より多くの情報を得ることができる反面、豊富すぎる情報に振り回されないようにするため、その情報の有効性を見分ける力を身に付けなくてはならない。</p> | <p>私立・理工学系</p> |
| <p>●未だ発展途上の技術であり、今後の開発をさらに進める必要がある。設備・施設の拡充は勿論重要であるが、それらを運用・保守を行うための人的な支援がないと有効に活用することは困難である。</p> | <p>国立・人文科学系</p> |
| <p>●国公立大学には情報通信環境を履修の場において、整備するための人材とリソースが全く欠如しているといつてよい。現状では、大学でのインターネット環境は、一部のスキルのあるボランティア教員が構築しており、これでは高等教育における情報通信の恩恵を得ることは全く不可能である。欧米ではインターネットを専門に担当・整備するセクションが各部局に必ず設置されている。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●積極的に利用を考えている。他大学との単位互換を考える時には、情報通信技術の高等教育への利用が有効であると考えます。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●教育の基本は人と人であるべきであり、通信メディアはそれを補完するものである。その視点から有効な活用法を探るべきであろ</p> | <p>国立・教育学系</p> |

| | |
|---|----------|
| う。メディアが主となつてはならないと考える。 | |
| ●充実したマルチメディア教材を作成するために、膨大な努力と時間がかかっている。マルチメディア開発システムの導入と共にマルチメディア教材を作成するための人的支援が必要である。 | 国立・農学系 |
| ●必要だが、環境の整備（器材・人材）が困難。 | 国立・社会科学系 |
| ●21世紀は、情報、通信の時代と言われており、高等教育においても積極的にマルチメディアを利用すべき。しかしながら、その具体的内容については、充分実現可能な、また教育成果が上がるような観点から検討する必要がある。さらに設備を整えるための費用も私立大学にとっては、大きな問題である。 | 私立・理工学系 |
| ●利用にあたって、コストの問題が大きい。補助金など大学の負担を軽減する方策が必要と考える。 | 私立・芸術系 |
| ●技術の変化に対する教育内容の確立がなかなか出来ない。変化の方向を見極め、地に足のついた教育をしていきたい。 | 公立・社会科学系 |
| ●現在多くの大学の授業がおかれている状況は、先端ではなくて、日常の授業の活性化ではないかと感じています。従来からの黒板とテキストを使った講義形式に限定することなく、教育上必要な内容を学生に伝えるには、内容に応じてパソコンと液晶ディスプレイを使ったマルチメディア形式の必要性を感じている教員がかなりいます。ですが本学は、そのための設備が欠乏し、そうした取り組みがほとんど進んではいません。ですが、もしこうしたことが可能ならば、単に表示だけではなく、その内容を学生が授業に持ちこむノートパソコンにもLANからも得られるようにすべきと感じています。ITを利用した教育が、教員の能率化（コストの削減）だけに終わらず、学生にとっても能率的であるようにすべきであろうと考えます。例えば、統計データなどを多面的にグラフ化して伝えるなどのことは、ITの本領と思います。こうした授業が可能なように、情報処理実習室以外に一般教室のマルチメディア化促進も期待されています。 | 私立・社会科学系 |
| ●従来、情報過疎地域とされてきた高等教育機関が存在しない地域の住民と大学とを結ぶ手段として、情報ネットワークの利用が考えられる。具体的には、大学院における社会人教育の一方法としてオンライン授業の実施を検討している。ただし、情報インフラ整備が未だ不十分である。また、個人がインターネットに接続して授業を受けるにしても、パソコン端末のほかに接続費用などもかなり高額にのぼる。授業料も値上げされる現状では、我々の計画にブレーキがかかることも予想される。オンライン授業の受け手の側の費用負担の軽減と発信者側の情報インフラの一層の整備 | 国立・社会科学系 |

| | |
|---|-------------|
| が必要である。 | |
| ●教材作成、講義の際の撮影など、結構人手がかかる。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用にあたっては、まず利用技術の習得が不可欠である。そのための教育が現在充分であるとは思えないし、教育方法についても十分なノウハウの蓄積がされているとは思えない。さらに教材作成に関しても個人によるものが通例である。近年はインターネットによって、これらの情報交換も可能にはなってきたが、教育方法のノウハウや教材などの資源を共有し、有効利用できる土壌づくりが必要であると思われる。そのための国家プロジェクトの設立も必要ではないかと考える。 | 私立・理工学系 |
| ●時流や技術革新の波に乗るのではなく、その適用分野や教育効果などを客観的に評価した上で、環境構築・維持に関わるコスト（設備面、人件費）と見合うような活用を望む。 | 私立・社会科学系 |
| ●若手の教官と事務官への支援とトレーニングが必須。学生の私語と居眠りの防止以外のとりたてた教育効果は期待しない方がよい。社会人教育としては有用。 | 国立・社会科学系 |
| ●積極的に利用したいが、人材や費用などの現実問題の解消が大きな問題となるであろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●SCSの利用が特定の教室でないとできないことや機器の操作が容易でないこと。 | 国立・教育学系 |
| ●様々な授業で今後マルチメディアの利用を推進するには、ソフトや制度の充実が必要なのは当然だが、実際の授業でマルチメディアを利用するために必要な高輝度液晶プロジェクタや大画面プラズマディスプレイ、パソコン等を講義室に早急に配備することが重要だと考える。さらに、教官や事務室のマルチメディア機器や情報通信技術に対する知識、理解度を向上させる必要があると思う。 | 国立・理工学系 |
| ●可能な分野で、取り入れて行きたい。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●教材作成の労力が大きすぎる。マルチメディア教育のイメージが示されていない。 | 国立・農学系 |
| ●機械に慣れていない教員の多い部局では、専任スタッフの拡充が必須でしょう。 | 私立・社会科学系 |
| ●本学の美術学部の中にも、デジタル画像を利用するコースが存在する。これらのコースではインターネットに代表される通信技術を用いて、外部との情報の交換、外部への発表と外部からの評価を受ける手段として、更に利用が進むと考えられる。 | 私立・芸術系 |

| | |
|---|-----------------|
| ●情報教育を積極的に推進したい。しかし、新設の私立保育・福祉系のため設備投資の費用が多額となり、これの解決が問題であり、必要な補助金を援助されたいと願っている。人間学部（保育心理専攻・福祉心理専攻）ではUnixSystemを採用しているため、より多くの設備資金が必要である。 | 私立・教育学系 |
| ●日々進展してゆく技術に対応するために、以下の点についての支援の制度が必要と考える。1. ハードに対する資金的な支援。2. 担当者に対する研修機会の確保。3. ソフトの共有化（特に教材面）による経費の減少。4. 上記のソフトを作成するための要員の確保。 | 私立・社会科学系 |
| ●早稲田大学を中心とする衛星通信授業への参画を検討しているが、参加大学との授業時間の連携、担当教育のmailでの返事をどうするか等むづかしい問題もあるので、十分に分析検討して対処したい。 | 私立・人文科学系 |
| ●設備経費負担学と設備内容の進歩のバランスをどこでどのように考えるかが問題であり、技術の進歩が速すぎて設備を導入するタイミングが判断に困る。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●講義に情報通信技術を利用する事は、非常に効果があります。特に電子掲示板やメールの活用は、授業の補完として役に立っています。資料等の配信に、マルチメディアも大切です。今後もさらに利用していきたいと思っています。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育手段の一部としては、効果的なものと考えている。 | 私立・農学系 |
| ●旧来の一斉授業の形態ではなく、自学自習型の学生にとって効果的なものとする。いずれにせよ、教材の作成は相当労力のいるものであり、そのバックアップが大切である。1時間のTV番組制作にはどれ程のコストがかかるものだろうか？それと等価な作業が必要になる。教員は授業のプロデューサーという位置づけであり、それをサポートする人的、物的資源が欠かせない。 | 公立・理工学系 |
| ●今後、マルチメディアや情報通信の発達でマルチメディアコンテンツの重要性がより認識され、これらを作り出す人材が社会で求められて来るでしょう。 | 公立・その他 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の利用がどんどん進んでいくことは明らかである。同時に、対面式授業の有効性・重要性が再確認されることになると思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●興味があり、将来もっと発展するであろう。しかし、教材作成等が容易ではなく、一旦作成した教材にしばられる傾向があり、黒板と会話を通じた教育のような即応が乏しいと思われる。インターネット等の高等教育への利用の一例が家庭と教室を結ぶ双方向 | 国立・医・歯・ 薬・保系 |

| | |
|---|-------------|
| 授業だと考えているが、そのためには、現行のインターネットの料金体系の改正や使用方法の改良が是非とも必要であり、これには国家的な支援と共に一般企業の協力なしでは達成できないと思われる。 | |
| ●一般情報処理教育とともに、各専門分野における情報処理教育を充実すべきと考えるが、担当教官の負担が大きく、また、支援スタッフも不足しているのが現状である。また、ハード面では導入機器を2～3年で新機種に更新するのが現在のマルチメディアを有効利用するには最適と考えられるが、一度導入した機器設備を更新することはまず不可能であり、教育・研究機関に対するマルチメディア機器設備の在り方を根本的に考え直す必要がある。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●本件については、基礎的なネットワーク環境が整備されないと難しいと考える。 | 国立・人文科学系 |
| ●マルチメディア教育にあまり関心のなかった本学部教職員には、このアンケートの内容には考えられることが多く啓蒙的でさえあった。逆に言えば、回答の信憑性に自信が持てない。一過性の横並び的ブームで終わらないようにしたいものである。 | 私立・人文科学系 |
| ●先手必勝の世界だけに、早く手を打ちたい。と同時に生き残るために、研究・教育の質を高めたい。教員間、また、教員・事務職員間など協力体制を早急に講じたい。 | 私立・社会科学系 |
| ●誰もが自由に利用できるマルチメディア教材の大規模なライブラリの構築が望まれる。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディア等は確かに魅力的な面が多いが、実験、Fieldworkなど実際に現場の経験がまず第一に考えられるべきであろう。情報を得ることとそれを健全な批判力で自分のかてとする地道な精神活動がないがしろにされる懸念がある。心ある教官ならば、今の滑って行くような風調に対して身がひけるのもうなずける。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●社会の技術革新のスピードが速い今日、上記技術を駆使しなければ現代の国際社会に通用する人材を育成できない。多くの予算をつけてでも、上記技術の教育研修を行い、制度的環境を整備する必要がある。また、既卒者である社会人に対してもそれらに対する教育研修が必要であり、大学もそれに対処すべき設備と人材を確保する必要がある。 | 国立・理工学系 |
| ●最も深刻なのは、貧弱な通信インフラと、教員のメディアリテラシーの不足である。本学部のような、地方の小学部では、強力な通信インフラを安価に利用できる環境が整わないと、利用効果がコストに見合わない。また、ITを教育に全面的に取り入れるに | 公立 |

| | |
|---|-------------|
| は、全教員が最低限の運用能力を身につけていることが不可欠である。いずれの問題も、自力での解決は難しく、通信インフラ整備の政策的推進と、地方大学の教員が気軽に利用できるFD支援態制の整備を望みたい。 | |
| ●情報の取得、発信という点では、威力を発揮するが、発信する際の準備・整備・維持・管理には、多大な時間と労力が必要で、現在のソフトウェアの状況では、すぐには活用しにくいと考えている。 | 私立・人文科学系 |
| ●本学では情報教育を必修にしており、この成果が序々に上って来ている。特に大学院生の利用はある程度の実力が認められる。又、卒業後の職場においても活用出来る力がついているものと思っている。 | 私立・家政系 |
| ●1.教材を準備するのに精力を注ぐ必要が大きくなると思います。 2.決して教える側の負担軽減にならないと予想されます。良い教材を使えば、教育の質的向上につながるでしょう。3.人間には静かに思考する時間や、散策などのような本当のゆとりが必要です。見せかけではない「心のゆたかさ」を今後の日本の教育全体が味わえる時代を期待いたします（レベル向上にもつなげてゆきたい）。 | 私立・その他 |
| ●積極的に進めて、教育コストを下げるべき。また、社会人の再教育のためにも重要。 | 国立・その他 |
| ●現在、衛星通信を使って大学院の遠隔授業をしていますが、対面授業と比較して臨場感があまりありません。この差を埋める本格的な取り組みが必要であると思います。 | 私立・理工学系 |
| ●この分野での開発は情報化の進展とともに避けては通れないものである。ただ日本の教育が、いまだ多くの問題をかかえているので、その根っここのところを再構築する必要がある。例えば「心の教育」といっても具体的に何をするのかといったことが整理されていない。一日も早く「戦後教育」から脱皮して新しい教育理念を打ち立てることが大切である。 | 私立・教育学系 |
| ●大いに利用すべきであると思います。特に鳥嶋県の沖縄で大学院教育を行うとき、その利用価値は高い。今後、マルチメディアや情報通信技術を遠隔教育（distant education）に活用すべきである。 | 国立・人文科学系 |
| ●現行技術ではまだ異和感がつきまとい、従来教育の完全な代替あるいはそれを超えるものとはなりにくい。バーチャル・リアリティなど今後の技術的发展に期待したい。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●学習の補助として利用し、情報を得て従来の図書館に代替するも | 公立・理工学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>のと考える。</p> | |
| <p>●1. 教育における共学・共習において、指導者・共同学習者の対面、協力の意義が全くなくなることはないであろうが、それが急速に変化してゆくことと思われる。ただし、どのような形になるか予想できない。2. 知識獲得型、単位集積型のものでは、バーチャル・ユニバーシティがどんどん進んでゆくことになると思われる。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●大学内の各部局単位でのサポート人員、機材と設備が全く充足していない。この現状に対して、センター的な組織は高度な高等教育には対応できておらず、将来的にも期待できない。特に医歯薬保健系の部局には専門教育に対応する人員、機器設備を積極的に割り振る必要がある。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●道具立ての相違により、教育そのものが変わるとは思えないが、何かとハサミは使い様（用？）である。インターネット利用により、教育を受ける、もしくは勉強する機会がずっと広がることになる。様々な物理的制約を超えての勉学の利便性は十分に活用されるべきであろう。</p> | <p>国立・社会科学系</p> |
| <p>●教育用に自由に利用できる高速全国通信網（遠隔学習などが行えるエンドユーザまで考慮したネットワーク）の整備が望まれる。</p> | <p>国立・人文科学系</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信の技術は、現代において家電利用レベルに簡易化されていくべきか、又、それにつれて日常生活上の基礎技術となっていくことが望ましい。しかし、このことと、高等教育における有効性とは別の問題でマルチメディア・情報通信の無機的で、デジタルな技術が日常化すればする程、有機的もしくはface to faceで、アナログな手法の意味も強まり、とりわけ高等教育機関では、その要求が強まってくるとも思う。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●教員が個人として出来ることには限りがあるので、NIME等による強力な支援を期待している。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●医学分野では、X線・心電図等を含んだ電子教材が、学生・医師の自己学習教材として優れている。インターネット・LANを通じ、これらの電子教材を学習資源として用いる。また、コンピュータがすでにECFMGで利用され、その効力を発揮している。将来的には、学内試験もコンピュータテストを用いる方向に向かうと思われる。</p> | <p>私立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●将来的には大学教育の方法を変換させるものだと思いますが、人文科学系の場合は、どうしても対面形式の教育が重要だろうと考えます。最も家庭からの接続が安価になれば、講義形式の科目はインターネットで、演習形式のものは対面授業でということに</p> | <p>私立・人文科学系</p> |

| | |
|---|-------------|
| なるでしょう。 | |
| ●今後、利用を拡大したいと思っていますが、当面の問題の一つとして通信コスト負担が大きいということがあります。 | 私立・社会科学系 |
| ●・費用が膨大である。 | 公立・人文科学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の教育への利用は、教育の内容に巾を持たせ、質を高めることにも通じるので、今後、大いに活用すべきである。又、当大学の場合、卒業生の大部分がへき地の医療を担っているので、マルチメディアや情報通信技術を活用して、卒業教育を充実する必要がある。一部の卒業生の間ではネットワークを組んで情報交換を行ったり、遠隔地への情報提供を行っている。大学も図書館を通じて、文献サービスを行っている。またインターネットを使ってEBMの実践を行っていることがNHKの特集でも取り上げられた。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を積極的に取り入れる教育・研究を行いたい。 | 公立・人文科学系 |
| ●利用促進のために専任の教職員の配置を義務づけるべきではないか。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●官民上げてのボトムアップが希求されます。 | 私立・人文科学系 |
| ●SCS等が利用可能な国立機関と違い、公立機関はインターネット等の地上回線のみしかなく、他機関との教育の交流が計りにくい。この辺りの問題（公立大への衛星通信導入、地上回線の大容量化）をクリアする事が第一歩である。又、マルチメディア教材等は、作成する教員の負担が重過ぎるため、現状ではあまり普及しそうではない。今後、利用しやすいオーサリングツールなどの開発が待たれる。 | 公立・社会科学系 |
| ●研究データの公開・交換を有意義に行い、役立てるシステムを作りあげていければ良いと思う。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●情報教育必修にともない、高校で基礎教育を学んできた学生に更なるレベルアップの情報教育ができるように大学側は用意しなければならないだろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●高い可能性があり、自由な教育の場として発展して欲しい。様々な教育ニーズに応える技術と思う。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●平成5年度に私立学校施設整備費補助金の交付を受けて、「パソコンLANによるマルチメディア情報教育システム」の整備を行ったが、その後、情報機器及び通信回線等の更新を行う予算がないので、最新のものへの更新や、インフラの追加整備が困難である。 | 私立・社会科学系 |
| ●大いに利用、活用すべきだと確信しており、より効果的な利用法、活用法の研究・開発がなされるべきだと考える。教材製作におい | 私立・人文科学系 |

| | |
|---|-------------|
| て、マルチメディアや情報通信技術を利用するためには、支援センターの教材やスタッフの助けが必要である。今後、組織、施設、設備の充実が不可欠なものになってくると思う。 | |
| ●IT技術の応用は、日進月歩の早さで進んでいる。その早さゆえに、今日の技術は明日古くなってしまうこともある。ソフトウェアの入替（時に基本ソフト）、ハードウェアの陳腐化等、機器を利用して教育を行う者にとって、非常にやりにくい状況である。本アンケートにもある様に、技術変化にも対応できる教育設備の充実こそが今後望まれる事ではないかと思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●高等教育に限らず、教育の現場のあらゆる場面にマルチメディアや情報通信技術が浸透してゆくことは必然である。実際過去にはワープロの使用の可否が議論されたこともあるが、現在はそのような議論はナンセンスに聞こえる。また、こうした表現力を得ることによって、教育技術に革新がもたらされるであろうし、またそうすべく努力すべきである。特に通信技術の進歩は遠隔教育という新しい教育パラダイスをもたらし、これによって特に高等教育はグローバルな競争の時代に突入する。まもなく、地理的・時間的制約を超えて学習者は世界中の教育機関からより良い教育サービスを楽しむことができる。いわば「個人がそれぞれの大学を持つ」時代となる。またこうしたことを可能とする教育サービスの存在が重要であり、日本の高等教育で欠けているキャリア・カウンセリングのようなサービスを早急に整備する必要があると考える。また最後に教育結果のアセスメント及びそのための社会的コンセンサスである各種資格（学位含む）の国際化が最大の問題であると指摘しておきたい。 | 公立・理工学系 |
| ●初期の段階が非常に経費がかかるため、インフラ整備に向けて援助が必要である（人的な援助、通信システム費用、回線使用等）。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●SCSについて、現状では、事前の設定テストの時間を欠き信頼できる条件での使用が困難であるので、使いにくいと感じている。 | 国立・理工学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の発展に伴い高等教育への利用はさらに容易となり、効果的に運用すれば大きな教育上の成果が期待できる。しかし、これらの技術の利用はあくまで補助的に利用すべきで、教室における対面授業と全く違って変わるものではないと思われる。又、効果的に利用するためには、情報関連の専門家による支援体制作りも必要である。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●教育科目の一部をオンラインに置き換えることは可能で、積極的に取り組むべきであるが、全て、というのは問題がありそうです。 | 私立・社会科学系 |
| ●高等教育の目的の一つとして、「何事に関しても、自分なりの意 | 公立・社会科学系 |

| | |
|--|-------------|
| 見を形成することができるようになる」ことがあると考えるので、マルチメディア教材の利用に際しては、その辺りを押さえた後の教育が必要になると思う。情報の洪水の中を通るだけで、後に何も残らない危険性はあると思います。 | |
| ●設備費や維持運営のための人員確保が不可欠。 | 国立・人文科学系 |
| ●技術の進展によって可能となったことを助成があるからと次々に導入するのではなく、主体的に取捨選択して、最適な時期に最適な技術を用いることにしたい。たんに機器の操作やソフトの利用方法を教え込むのではなく、マルチ化が進行しているメディア全体に関するリテラシー向上を図りたい。技術の本質・危険性・社会におけるその利用のされ方への批判能力をも養う必要があると考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●通信料が安くなることと、通信回線の高速化が最大の課題だと思います。 | 公立・社会科学系 |
| ●マルチメディアは複合的に利用して初めて価値が生じると考えます。例えば、画像のみでは、伝えられる情報は限られておりますし、また抽象的な概念を画像で伝えることは不可能に近いです。従って、一つのメディアに頼り過ぎることは禁物であると感じます。又、マルチメディアに依存しすぎると、文字による理解や思考に障害の生じる危険があります。具体的にプレゼンテーションでグラフなどがたとえ綺麗に描けていても、伝えるべき内容が乏しい。というケースも見受けられます。従って、バランスのとれたマルチメディア利用が望まれます。 | 私立・社会科学系 |
| ●教材作成は、非常に大変で費用も必要である。又、学生が自宅・下宿で利用できなければ、あまり効果がない。 | 私立・理工学系 |
| ●マルチメディア、通信技術等を用いた教育の実施には設備面での投資が前提として必要となります。投資が有効なものであるかの確認を事前に行う上で、貴センターのCD-ROM、ビデオ等は有益な資料となっていると思いますが、小規模校の事例なども御紹介下さるような資料があれば、本学にとって更に有益であると考えております。 | 私立・人文科学系 |
| ●情報化社会の到来により、これら媒体や技術に教育機関が対応するのは当然である。教育行政に情報インフラの整備および教育機関への税制上の優遇処置を望む。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の発展とその積極的な導入により、産業界は新しいネットビジネスを創出し市場全体が活況を呈してきつつある。日常生活の中でマルチメディアや情報通信技術の恩恵を受けている学生諸君は、旧態依然とした教育環境・教育 | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>方法で実施している授業には益々受講意欲が薄れてきているように思われる。教育の情報化や教育の革新化は、学生の向上心を高め、学生が求める教育サービスを実現していくための仕掛けを構築することであり、そのためには、マルチメディアや情報通信技術の導入を前提とした教育プロセスの形成を計ることが必要であると考ええる。昨今、小中高校現場の教育全体に情報技術の習得を義務付ける方策が講じられてきているが、極論を言うと、高等教育機関の教員においても全員が基礎的な情報技術、マルチメディア、通信技術を習得し、21世紀を担う学生を考えた高等教育を実施することにより、教育の再活性化を図っていくべきであると強く主張するものである。</p> | |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用については、今後各大学間での隔差が拡大する方向にあると思われるので、公的な人的・財政的支援システム等を確立していく必要があるのではないかと。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●インフラ整備にもっと費用をいただければ幸いです。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●教材の開発の組織化が必要。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●機器の設置と保守に関わって、経費と人員の必要性を痛感させられる。この種の機械は進歩が早く、それに追いついて行くためには、相応の努力が要求されるのであろう。また、教育内容について、自らの大学の特徴や学生の特質に適合したものを独自に考えていく必要があり、あまり画一化されるべきではないであろう。知識の獲得だけが突出しないように心がけたい。</p> | <p>国立・教育学系</p> |
| <p>●1. マルチメディア教育は、大変有力かつ重要な手段であるが、深い理解には向かない。工夫が必要である。まだまだ活用方法が未開拓で、研究が必要である。2. いろいろ教育に工夫を試みているが、理系の深い理解には「黒板とチョーク」が一番効果がある。上記のマルチメディア教材は、この補助としている。3. 教材の充実、保守、維持が非常に大変である。特に図や写真などがもう少しとりやすくなるとよい。4. パソコン同士でやりとりが出来るようになるとますます利用度が上がっていくと思う。著作権の問題など、考えていく問題も多いと思う。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●現在、Computer Assisted Language Learning (CALL) をマルチメディア教育で実践していますが、大変評価効果あると思います。特にWeb上での資料の提供 (Home page) や、e-mailでの課題提出、personal consultantなど教育改善という点でも有効であると考えます。情報を受けるだけでなく、発信する能力が必要。それ</p> | <p>私立・理工学系</p> |

| | |
|--|----------|
| には発信する情報を自分で考える基礎学力関連学問の教育が不可欠。メディア教育はあくまで手段である（一部のメディア教育を研究開発する学科をのぞいて）。 | |
| ●マルチメディアや情報通信技術を既存の教育・教材に利用する場合、例えば単に既存メディアの全てをマルチメディアへ置き替えるような技術主導のやり方ではなく、マルチメディアの特質を十分に吟味し、最大限に活用できる部分な適用する、ユーザーニーズ主導のやり方をとるべきだと考える。デジタル情報を扱う上での倫理教育も重要であろう。 | 私立・理工学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティのような全面的な利用には、まだ実現への課題が多いと思うが、既存の貴養育の枠組みの中で補助的に、インターネット技術を利用することはメールによる質疑応答・課題提出、講義Webの作成など利用範囲が多く、積極的に教育の中で活用すべきである。とりわけWebの作成などを通じて、アカデミックな見地での情報発信を行うことにより、オンライン教育の実現可能性なども見えてくると思う。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は、未来の経済社会に対する戦略と構想力が問われている。一部局の努力もさることながら、社会全体がその努力や創意工夫を積極的に支援しコミットしていくことは不可欠である。戦略、構想力、政策の貧困は今日焦眉の課題である。 | 私立・社会科学系 |
| ●・本学図書館におけるマルチメディアや情報通信技術については、図書資料の検索、電子メールの利用等は比較的多く利用があるが、その設備、スペースに関しては、視聴覚機能等も含め、必ずしも利用者の要求を満たしてはおらず、その意味も含め利用者が利用しやすい環境整備が必要であろう。 | 国立・農学系 |
| ●双方向性、学生の授業への一体感、個別的な指導により学生の勉学意欲が高まるなど、大きな成果が出ている。 | 私立・社会科学系 |
| ●交通のルールと同様に知識を同等に各人が持つ努力と、決められたルールを各人が遵守する高いモラルが必要とされる。 | 私立・社会科学系 |
| ●高度専門職業人養成の大学院教育に必要と考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●産学官共同研究開発プロジェクト体制がなければ、情報化教育は促進できないほど高額で継続的投資が必要である。格別にリテラシーレベルではなく、専門教育の情報化にはプロジェクト体制の支援をしていただきたい。建物や人件費に関しても、格別に費用がかかるため基金支援が必要だと思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディア教育は、従来型の教育にとって替わるものではなく教育のためのチャンネルが増加したと見るべきであると思いま | 私立・その他 |

| | |
|---|-----------------|
| す。 | |
| ●学生が最も修得すべき科目として語学を挙げている以上、その学習に支障のない範囲内での質問の教育方法は、可能な限り採用する方向で目下実施しさらに検討を加えていく予定である。 | 私立・人文科学系 |
| ●1. 施設はかなり充実しているが、それを管理する側の頭が新しい動きについて行っていない。また、教員についても同じ事が言える。このことによって、マルチメディア教育が大きく阻害されている。2. マルチメディアを利用するには、オープンでかつボーダーレスかつスピードが必要だ。大学の教員、管理者がこの特性をどこまで認識し、許容出来るかがマルチメディア教育が成功するかどうかの分れ目だ。 | 私立・その他 |
| ●経費（保守管理、通信、人件費）が多い。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●これらの技術を社会人の再教育や、生涯教育の方面に利用すると効果的と思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後一層、インターネット利用が進むと思われるので、積極的に活用していく教育を行う必要がある。 | 私立・家政系 |
| ●マルチメディア技術が授業、演習等にどうしても必要であるから道具として使うというのが本来の発想であると思う。便利なシステム、目新しいシステムがあるからそれを使うための授業演習を組むのは、本末転倒である。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●担当教員をサポートする組織がないと教員への負荷がかかりすぎる。大学として教員の技術向上のための制度的バックアップが必要である。 | 私立・家政系 |
| ●担当教員をサポートする組織がないと教員への負荷がかかりすぎる。大学として教員の技術向上のための制度的バックアップが必要である。 | 私立・人文科学系 |
| ●教育効果の向上を見込み、今後さらに検討したい。 | 私立・理工学系 |
| ●専門SEの配置計画が今後重要。でないと特定教員や職員の負担増のみで、マイナス面も増大する。 | 私立・人文科学系 |
| ●教員の状況を見ると、かなり困難があるので教員へのプロモーションが重要になるだろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●ビジュアル世代の学生を引き付ける効果がこれらにはあり、またwww等の蓄積型メディアは学生の理解の向上に有効と考えられるので、積極的に推進したい。しかし、教材準備のコストは従来に比べはるかに大きく、素材の他機関からの提供、より簡便に利用出来る教材の開発・導入が望まれる。また、カリキュラム改革の軸の一つとしてこれらの利用を据えるべく教官への啓蒙が必要 | 国立・教育学系 |

| | |
|---|-------------|
| と考えている。 | |
| ●公立大学に対しても、国庫補助で施設・設備の充実をお願いしたい。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●本学部は、平成11年4月に新設されたばかりでマルチメディアの利用については、積極的姿勢を有しているがまだ緒についた段階にとどまる。本学では、共通教育科目の教養科目の第4群として「情報環境の諸相」という一連の授業科目を設け、特にインターネット演習は必修にしている。従って、本調査については法学部所属の担当講師を通じて、実態を把握し整理を行った。 | 私立・社会科学系 |
| ●技術の進歩についていくのが大変だが、社会のニーズを考えると仕方ない事だと思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●教育利用目的に限定して、現行著作権法の規制が緩和されれば、マルチメディアや情報通信技術の利用は飛躍的に拡大すると思う。 | 私立・その他 |
| ●教育効果の向上及び学習の機会をより拡大するため、マルチメディアや情報通信技術の高等教育への導入は、積極的に進めるべきである。一方ハードウェアのスピードに対し、教育内容・方法の開発が遅れている。高等教育に携わる教員の意識改革と共に今後の大きな課題である。 | 国立・教育学系 |
| ●これからの高等教育についてバーチャルユニバーシティ等がたくさん出来ると、実際に大学に出向いて授業を受けることが少なくなり、学生が足を運ぶ機会が減ると思われるのでバーチャルユニバーシティよりも、まず学生が足を運んで大学に行きたいと思うようなマルチメディアや情報通信技術を備えた大学というものについて考えたい。 | 私立・人文科学系 |
| ●高等教育への利用のためには、1. 優れたマルチメディア教材（教科書、参考書）が必要。2. 遠隔教育システムの開発と開発と利用環境が必要、である。これらは、学部から独立して専門的に行う機関（機能と組織）の設置がないと本格的には進まない。現在の情報処理センターの組織的発展とするのも一方法である。 | 国立・理工学系 |
| ●高等教育の内容及び、その提供方法を現代社会の急速な変化に対応したものにしていく事は、どの大学にとっても極めて重要な課題であり、大学が社会に対して責任を果たしていくためには、かような努力は決して厭うことがあってはならないと考えている。しかし、マルチメディアや情報通信技術を高等教育に利用する際、文科系学部において特に問題となるのは、そのための専門スタッフをどのように学部内に確保するかである。現在のところは、基本的には各教官が自らの努力で教材作成・講義実施をやってい | 国立・社会科学系 |

| | |
|---|----------|
| ねばならず、またホームページなどを通じての情報発信も教官のボランティア作業に負っており、長続きさせるのは極めて厳しい状況である。現在の体制からいって、そうした専門スタッフの確保は一文科学部では特に制度的に非常に難しく、マルチメディアや情報通信技術を利用しようと思っても、企画段階で頓挫してしまいがちだというのが現状である。 | |
| ●国立大学の社会科学系では、通信情報システムのインフラとしての整備が特に遅れており優れたアイデアが活かせない環境にある。物的設備と比較して、人的投資（維持管理、及びサポートスタッフ等）に対する障害が非常に大きな制約となっている。教育に対する利用を考慮すると、それが高度化すればする程、サポートスタッフの充実が必然となる事を考慮すべきである。 | 国立・社会科学系 |
| ●・機器やアプリケーションソフトの操作を教員が一定程度、一人で行えるようにならなければいけない。・教材作成には、多くの労力を要するので支援体制を整備する必要がある。 | 私立・社会科学系 |
| ●研究成果を利用し、共有する点についてはまことに有効で必要なことと考える。しかし、それらはあくまで手段であり、教育・研究の一方法としてとらえるべきではないかと考える。 | 私立 |
| ●1. 学術系の閉じたネットワークの整備ではなく、インターネットへの高速大容量接続を実現する為の予算的裏付けが必要である。2. 組織内のネットワークの維持管理、及びマルチメディアコンテンツの作成・支援のための人的資源の再配分が必要である。3. 大学のキャンパスネットワーク整備が進展していないギガビット基幹及び、無線LANの整備のための予算が必要である。 | 国立・教育学系 |
| ●利用による効果に関する基礎的データの収集と分析が不可欠であり、技術革新のスピードに対応した利用を考えすぎないこと。教育を急速に変える事の問題点もあり、技術にふり回されないことが重要である。効果についての評価は短期的なもののみでなく、中長期的な評価を重視すべきである。 | 国立・教育学系 |
| ●有効かつ円滑な運営などを行うには、人的なサポートが不可欠である。特に専門技術職員等は早急に措置される必要がある。 | 国立・教育学系 |
| ●社会人の多様な授業形態を保障的手段として利用の制度化を考えていきたい。 | 国立・社会科学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術というと、インターネットと放送大学という風にとることが一般のようですが、それと同様に大切なのか外国のマスメディアの利用ではないかと思う。多くの人々が受け取っている情報をその原形で受容することは特殊な小情報を自由にとってくるものと併せて必要なことです。ところが | 国立・人文科学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>CNN、BBCを大学で利用しようとするすると驚くような聴取料を要求されます（最近、鹿児島大が学内ランに流すことで安く契約することに成功していますが）。文部省の援助が送り手側の理解によって、外国の放送（CSなども利用出来るもの）を大学で無理なく受けられる工夫が必要です。</p> | |
| <p>●・専門分野に依ると思うが、狙うレベルに限界があると思う。低いレベルであれば或る程度は成功するかもしれない。・文系の学問分野ではかなりの程度可能かもしれないが、理系の実験系を主体にした分野では、情報技術を一部取り入れた授業は可能でも、全てをこれに変えることは出来ない。また、人と人との接触を教育の一貫であることから、利用できることは考えられても、積極的利用には大きな抵抗感がある。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●利用技術を取得するのに一生懸命で、本来の学問として教育が育実しない面がある実情を憂慮しております。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●・高等教育に利用出来るよう準備するのに多大のエネルギーと時間を要するので、この問題を忙しい日常業務をこなしながら如何に解決するかが、当面の問題である。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●教育の情報化は大学改革に最も大きな位置を占めている。現状を改革するための残された唯一の方法が情報化である。情報化が進むことで、多くの学生をかかえる私立大学においても、個対個を重要とした教育、考えることを重視した教育へと質的転換を計ることが出来る。情報化の推進は「教員の意識」との戦い、そして「時間」との戦いである。とり残された大学を社会が見捨てるまでの！</p> | <p>私立・教育学系</p> |
| <p>●マルチメディア教育の発展をみるにつけ、ひとつの行き方として肯定できる。しかし、よく考えてみると、たとえば、文章の書き方ひとつとってみても機械を用いて書かれたものと、原稿用紙に書かれたものと歴然とそのレベルが違うことに気づくことがある。それは、マルチメディア教育の推進と従来型の教育システムのバランスが大切であることの証唆でもあるように考える。その普及に走る余り、マルチメディアを駆使するのは人間であるといった視点での教育、それとのバランスの中で従来型の教育システムのよさといったものを学生に伝えてゆくべきものと考ええる。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●・可能性の大きさを感ずるが、正直のところまだ実感をもてない教員が大部分であるのが、現状である（とりわけ文系学部において）。・古典的な書物を媒介とする高等教育方式への愛着は強いものがある。・先進事例の紹介、技術の普及、啓発へ期待する。</p> | <p>公立・社会科学系</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術は用うるとそれなりに効果がある</p> | <p>私立・芸術系</p> |

| | |
|---|-------------|
| ものである。ただし、過信するのは考えもので、その利害損失をきっちり検証する必要がある。それらの技術を学生に修得させることは大切であると思う。 | |
| ●今後とも積極的に活用すべし。 | 私立・社会科学系 |
| ●本学部ではインターネットを介したEメールの活用やホームページの公開を行ってすでに3年以上を経過し、初期導入にかかる教育・普及活動は終了している。学部学生、大学院生の教育は十分とは言えないが、徐々に浸透し、学生のネットワーク接続環境も整えた。一步進んだマルチメディアの利用となると、コンテンツ作成の教員と経費負担が大きく、手近に利用可能なものが増えることが期待される。地域医療に対する貢献という意味で、社会人対象の情報関連研修会などの開催が望まれる。音声、動画に関する設備整備は全学的なセンター設立が望まれる。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディアを利用した教育・研究を行えば多くの利用者があると考えます。社会人教育や生涯学習にとどまらず、研究者間や企業等の共同研究並びに社会への情報発達の道具として役立つのではないのでしょうか。また、これらのマルチメディアを積極的に利用するためには、十分な設備はもちろん専門的知識や開発にあたっての人的支援が必要不可欠であると考えます。 | 国立・その他 |
| ●各大学の教育理念その他の実情に合わせながら、なるべく積極的に導入をはかっていく必要があると考えられる。 | 国立・芸術系 |
| ●まずは、予算、人材、時間が必要と考える。 | 国立・教育学系 |
| ●マルチメディアはデジタルコンテンツであり、インフラは充実しつつあるが、このコンテンツが不足している。学生が学んだことながらデジタルコンテンツにまとめることのできるシテラシの修得が必要であろう。教員はマルチメディアを使ってよりわかりやすい教材をネットワーク上に提供できれば、任意の時間に学習することが出来る。 | 私立・その他 |
| ●必要と考えるが、まず教職員のスキルアップが必要。 | 私立・社会科学系 |
| ●学問分野に応じて、その活用形態が大きく異なることから、大学間の横断的な分野毎のパイロットプロジェクト等の振興がもっと試みられる必要があるのではなかろうか。 | 私立・社会科学系 |
| ●高度情報通信技術の進展を踏まえれば、その種の先端技術を高等教育へ活用することは大いに望ましいことではあるが、その拙速な適用は慎むべきである。 | 公立・社会科学系 |
| ●教育は対面式の講義や演習だけでなく、多様なあり方が必要で、それによって教育の効果も高まると思われる。しかし、これを実現するには予算措置が必要である。 | 国立・社会科学系 |

| | |
|--|-----------------|
| <p>●マルチメディアやパソコン、インターネットの利用を当大学では、積極的に進めていますが、その結果出席率が向上したり、私語が減少するなど効果があります。しかし、一方でノートをとる生徒が減少したり、黒板より見難いという意見もあり、また授業での質問が少なくなったという報告もあり、簡単にプラス面だけを指摘することはできません。情報ネットワークは国内外の情報化ということで教員の研究活動の拡大には非常に効果的です。大学教員のFD研修は重要です。情報化に対応しない教員の研修方法、処遇などに問題があると思います。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●ともに今後の教育にとって必須ですが、教員全員の教育も含めた基盤作りと情報インフラの整備が大きな課題です。</p> | <p>公立・理工学系</p> |
| <p>●高等教育におけるマルチメディアや情報通信技術と言ったITの果たす役割は今後、格段に高まるものと考えます。大学における情報化のインパクトの一つは、大学の教育・研究の業務そのものの中にITが極めて有効な手段として入り込んでくること、もう一つは、大学外部つまり社会からの強い要請として情報処理関係への教育の充実が求められてくことと認識しております。当大学では、このような認識のもとに教育リソースの情報処理関係へのシフトの必要性を痛感しており、一方では情報処理関係の教員の増員、他方では情報処理施設の大幅な増強を図るべく、鋭意取り組んでおります。施設については、学園・大学の厳しい財務状況下、教育の公共性を鑑み国や県のご援助、ご支援を是非とも賜りたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●高等教育の目的は何にあるのかを見据えた上で、あくまでもその手段としての利用を考える必要があると思います。逆の思考で言いますと、マルチメディアや情報通信技術の教育が独走し、それが現代社会における教育で主体をなすような流れは、もしそのようなものがあればのことですが、長期的に見て、かたよったものになりはしないかと懸念します。たとえば、マルチメディアや情報通信技術の教育は、語学教育には不可欠のものです、それによって言語習得の先、あるいはその奥にある目的を等閑視するようなことがあれば、高等教育自体が枯湯するのではないかと思います。英文学の古典を研究しつつ、語学教育に携わっている者の一人としての感想です。参考にしていただければ幸甚です。</p> | <p>公立・人文科学系</p> |
| <p>●概念や理論、技術、方法論を可視化することで教育効果の向上が図られ、かつ、それを達成する教育コスト（教官の負担）の節減が図られるのは事実。それ故、これらを利用した教育方法の研究や試みをもっと奨励すべきである。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |

| | |
|---|-------------|
| ●新しい情報教育として、大いにとり組むべきだと思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●絶対に必要と考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●ソフトウェアの充実とハードの充実（廉価化の促進も含めて）両方が不可欠でしょう。特に公立大学の場合、ハードの充実を進めるために導入補助金制度（ある意味では時代に逆行しますが）とか共同研究的な民活を積極的に進める必要があるかと思います。 | 公立・農学系 |
| ●1. 教育には様々な側面があり、知識修得はその一端でしかありえない。一方、マルチメディアや情報通信技術とは一つの手段・方法なのであり、それへの過剰もしくは盲目的な期待は教育の基本を見失わせてしまう危険性がある。この点に留意しつつ、マルチメディア等を活用すべきであろう。2. マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に際しては、受入側の大学等の機構改革も含めて職員の配置が必要と思われる。高等教育担当教官のFD等の研修が必要となる。各高等教育機関へのメディア教育開発センターからの強力な指導が必要と思われる。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●現在の教育のほとんどはコンピュータを坐右としている。学会発表等もコンピュータで資料を作るようになっていく。大学ではほとんど全ての教室にコンピュータから投影できる装置が必要である。大学のどこかには機材が整備されてきている。しかし、人的支援がないところが欧米と異なり、根本的に立ち後れてきている。また、コピーライトをもって自由に使えるメディア教材は自作しなければならない。ここでも人的支援のないこと、ネットワークの整備の点で立ち後れている。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●SCS放映プログラムをインターネットへパスワードつきで配信して欲しい。たとえばDealサーバーを使うなど。 | 国立・教育学系 |
| ●大学内からの情報の提供・発信ができなければ、大学は単なる購入利用者となるしかない。マルチメディア教材作成には、教師・技術者・調整役など複数の陣客を整えることが必須である。そのためには、部局内でマルチメディア・情報通信技術の利用に関わる組織を作り、新たに専従の教職員の配置と予算措置を講じる必要がある。同時にコンピュータプログラムや画像・映像作成などは、学外の専門家へ発注が出来るように、予算の使途を柔軟にする必要がある。全般的に貴センターがこれらの推進役を果たすことを大いに期待している。 | 国立・教育学系 |
| ●教員が積極的に利用するようになるための方策はぜひとも必要。 | 国立・理工学系 |
| ●高度情報化社会のニーズに応える人材の育成のためにマルチメディアや情報通信技術を取り入れた教育が必要になってきている。 | 私立・芸術系 |

| | |
|--|-------------|
| <p>●高等教育の大衆化を招くが、社会人参加も深まり、大学の閉鎖性の打破に役立つだろう。しかし、莫大な投資を先に行って無理やりに「つかわせる」マルチメディア教育政策は好ましくない。あくまで、実際に教育実録の場のニーズに応じるものであって欲しい。</p> | 国立・教育学系 |
| <p>●利用できる通信回線の低料金化、高速化が急務。又、ランニングコストに対する国等の多年度にわたる継続的な補助が望まれる。国の各種委任研究の予算を単年度予算でなく多年度予算にすべき。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●これらの導入により、講義授業が双方向になること、年間授業の構成や組み立てがより合理的あるいは段階的になることが予想される。少なくともそうなるとような授業構成の設計に関心や努力が払われるようになろう。但し、小人数クラスや機器導入などによる費用面での問題もある。当面は数学事務関連や導入が大きな効果を生む授業に関して積極的に取り組み、全面的な導入は次段階になるのではないか。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●マルチメディアコンテンツの作成や購入に経費がかかるので、予算や人材の面での整備が不可欠である。</p> | 国立・農学系 |
| <p>●マルチメディア教材を利用した授業は、教科書と黒板への板書だけの授業に比べて学生の学修効果が飛躍的に上がることは明らかである。また、実験を伴う授業や様々な現象、生データを利用する授業等では、それを実際に行うことが困難な場合、映像等を示して講義を行うなど、授業内容改善の一端を担うものとして、昨今話題のFD活動とも密接な関連があると考ええる。しかしながら、一大学の教育研究設備・備品経費だけでは、最近のマルチメディア技術の進歩の早さを追い続けるには、もはや無理があるように考える。今、重要なことは、一歩先の技術革新を予測して、的確によりよいマルチメディア教材を選択していくことと、マルチメディア教材を取り入れて、授業内容の改善を積極的行おうとする場合の経費補助にあると考える。その意味から、国あるいは地方公共団体からの公的な補助の増大を期待したい。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●技術革新を取り入れた実験的ソフトが、とにかく目につきます。教育の現場で真に役立つ、内容の練れたモノが豊富に出て来ませんと、選択肢も広がりません。本格的な普及まであと暫くの段階。</p> | 私立・医・歯・薬・保系 |
| <p>●本学では2年前にLANが導入され、インフラに関しては整備されつつある。しかしながら、これを100%活用するには、経費面や人的要因により、前途多難である。したがって、マルチメディアや情報通信技術の利用は対面式授業の補助の域をしばらくは出</p> | 私立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|---|-----------------|
| <p>ないものとする。現在のISDN回線速度が飛躍的に上昇し、パソコンもTV、ビデオ以上に普及すれば、全面的に利用することが可能となると思う。しかし、一口に教育といっても、教員により情熱、技術、手法は多様であり、授業にも著作権があるはずである。無尽蔵・無制限に教育が供給されるべきものではないことも付記しておきたい。</p> | |
| <p>●大量かつ最新の情報を教育に取り入れることは、学生の興味・関心の幅を広げ、勉学意欲の向上につながり、教員の研究活動の活性化にもつながると思われるので、今後も積極的に利用していきたい。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●1. 健康上、特に目に関して、将来どのような悪影響が及ぶのかを危惧する。2. コンピュータ使用の際、基礎知識の一貫として利用マナーの徹底を計るべきだと思う。3. 指導者不足に対して、人的・経済的サポートが不可欠だと思う。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●いつでもどこでも広く、速く、グローバルな観点から知識を集め、それを知恵に変える手段のひとつとして、積極的に進めることは望ましいであろう。そのためには、費用を含めて、国策としての展開は喫緊の課題であると思われる。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●・教員各人が個人個人の研究レベルではインターネット等で利用しており、意味もあるが、学生の教育に対してはそれ程意味があるとも思えない。高度な理系教育を行う我々の研究科としてはマルチメディア利用の教育は現状では興味がない。・一般に教科書に書いてあることの教育（基礎教育）の面では、学生毎に理解能力に差があるので、それらを埋める手段として可能性があると思う。マルチメディアの利用により、教育効果を高める方法について、これからますます研究すべき課題である。以上のような意見がある。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●一般的に言えば、これらの媒体や技術は高等教育に大いに活用されてよいと思われる。媒体や技術の利用は、さまざまな形で学習することを容易にし、学習者の学習効果を高めることになると思われるからである。もっとも、それでは、学部全体として、教育の中でこれらの媒体や技術を積極的に活用しなければならないのか、といえ、必ずしもそうすべきではないように思われる。というのは、たとえば教材の作成や学生との電子メールでの質疑応答などで膨大な時間が取られ、通常の講義や演習の準備や研究活動に支障を来たすおそれがあるからである。又、本を深く読み込むことの苦手な学生が多いことから、マルチメディアの活用よりむしろ文章を読む訓練をした方がよい面もあるし、オンライン</p> | <p>公立・社会科学系</p> |

| | |
|---|--------------------|
| <p>上で教育では対面式の講義や演習に比べて学生が緊張感を抱かないため、十分な学習効果が得られない危険も高い。そこで、本学部ではこの問題についてつぎのように考えている。すなわち、これらの媒体や技術は、個々の教員の教育活動の中で、その負担や学習効果を考慮しながらその必要度に応じて利用していくべきものである。そして、その前提として、このような利用を可能にするようなサポート体制の整備が重要である。</p> | |
| <p>●公立大学では予算化が難しい。</p> | <p>公立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●これらをあまり重視すると、人間の協調性等が薄れるので、導入は最小限とするべきと考えている。学校は「教えればよい」ところではない。人間同士のつながりが重要である。</p> | <p>国立・その他</p> |
| <p>●各大学において、その利用を推進・支援する施設（センター）の充実が必要である。</p> | <p>国立・教育学系</p> |
| <p>●これまで、文系学部としては他に比較して極めて積極的に利用への取組みを進めてきた。しかし、それは教育手段として必要だからというよりは、単に新しい情報媒体として、今後、普及が見込まれると判断したからである。SCSに関しては、同じ観点から普及が見込まれるとは思えなかったため、これまで利用を考えてこなかった。教育手段としてのメリットを、これらの新媒体に感じたことは余りない。</p> | <p>国立・人文科学系</p> |
| <p>●現時点で情報通信技術だけにたよったバーチャル・ユニバーシティのような構想は無理があると思う。むしろ現在の授業における有効な活用方法を積極的に進めた方がよいのではないだろうか。</p> | <p>国立・教育学系</p> |
| <p>●マルチメディア教材のリソースを共有する機関の発達が望まれるが、単にVHS・CD-ROMにとどまらず、オンライン上のラリブラリを各大学が企業と構築としていく現状を考えると、著作権の問題も絡み、共有化がむずかしくなるのではないか。各大学で似たような教材を苦労して開発するとムダが多い。何かと効率化をはかれないものだろうか。メディア教育開発センターに仲介をお願いしたい。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●高等教育の質的向上、あるいは高等教育の対象拡大のためとはマルチメディアやインターネットを用いた教育は今度必要となる。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●高等教育に利用するための「下地」が不十分であると思われる。コンピュータリテラシーやメディアリテラシーに関する教育を幼少期からスタートし、情報化社会の中で生きるための最低限のスキルを習得させる必要がある。そのためには、長い期間にわたる継続的な教育が必要となるであろう。読み書きを覚えるのと同様</p> | <p>公立・理工学系</p> |

| | |
|--|-------------|
| の重要性で情報通信に関する教育をとらえる必要がある。そのためには教育政策のレベルでこのような分野の教育方法を考える必要があると思われる。 | |
| ●通信衛星の利用コストが高いので利用しにくいなど、コスト面での問題が多い。 | 私立・社会科学系 |
| ●コンピュータが毎年新しくなり、買い換えができなくなっている。長期間使用できるシステム作りが大切である。 | 国立・家政系 |
| ●インターネットの利用による、マルチメディア教育はIT革命を支える大きな原動力として機能するものと考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●コスト（購入・ランニング）がかかりすぎる。機器の改革が早く追いつけない。利用している人と、していない人の差が歴然としすぎており指導上とまどいが生じる。 | 私立・芸術系 |
| ●支援体制が必要である。予算が必要である。 | 国立・理工学系 |
| ●マルチメディア、情報通信技術は、これまでの教育現場における、OHPや黒板などの道具に単に変わるものの他、受講者の理解を助け、教育効果を上げるための静止画、動画、アニメーションなどを駆使したさまざまな豊富な教材がつけられるという点で期待できると考える。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●教育効果を上げる為に大いに利用すべきである。 | 私立・社会科学系 |
| ●積極的に取り入れ、有効に利用することが望ましい。 | 私立・その他 |
| ●マルチメディア施設の整備が充実できれば、遠隔地キャンパス間の講義・会議が可能になり、また情報処理教育の充実が期待できる。反面、昨今のインターネット利用上のトラブルが頻発している折から、学内LANの管理・防御体制の整備を図るとともに、情報ネット利用上の倫理観を教職員・学生に徹底させる必要がある。 | 私立・理工学系 |
| ●高等教育の中でも学習とは、自らの知識構造を作り上げる作業である。この作業は単に与えられた知識を覚えるのではなく、自らが主体的に行う思考作業の結果としてできるものである。この作業の中で、知識を与えることも重要であり、その意味でマルチメディアによる教材は有効な働きをする。しかし、どのような教材を与えるかとか、与えた教材からの学習者の反応に対応してさらに教育を進めるには、教師のカリキュラムに対する深い理解と学習者別の対応が必要である。このように考えると、マルチメディア教材や通信技術はあくまでも補助的に学習支援をするものである。 | 私立・社会科学系 |
| ●積極的に利用すべきと考えます。教育効果を飛躍的に向上することが期待されるため。そのためには、現在申請している総合情報 | 国立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|--|-------------|
| 処理センター分室の建設が望まれます。 | |
| ●補助的手段として活用することはよいと思う。ただその内容については厳選すべきであろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●ここでは大学における「教育」（研究分野は除外）についてのみに触れたい。マルチメディアや情報通信技術が受講生の学習を援助するための貴重なツールであることは多くが認めることだろう。しかしながらその効果を定量的に見極めることもまた難しい。対して、設備面では初期導入、維持管理含めて長期的に相当な額の費用を必要とする。情報リテラシー教育を例に取れば、技術進歩に即応するための環境の整備はいずれの大学においても重要な課題であろうと推測される。この様な観点から考えると、いわゆる「所有」から「利用」へのパラダイム変換も必要と思われる。ハード・ソフト・運用等の側面から、特定のリソースを複数の大学で共同利用できるようにするといった対応も一考に価すると思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●まずは知識の財源としてデータベースのオンライン活用を十分に提供できる体制を整え、その上で学生には知恵を持つ力を養ってもらうことを教育する。すなわち、メディアの普及は知識力と知恵力を分離させて、高等教育では知恵力をつけさせることに集中できる。このような事から、本当の利用が始まるのではないだろうか。 | 国立・理工学系 |
| ●海外の大学と共同で、いわゆるバーチャル・ユニバーシティを創設していくという形が、今後急速に増加すると予想される。全世界の人々が同じ講義内容を享受できるのは画期的なことである。問題点として共通の言語（例えば英語）で行うことになり受講者の語学力が出てくる。次に通信費用の問題が挙げられる。 | 私立・その他 |
| ●教員と学生の関係を優先すべきであり、マルチメディアはあくまで補助手段と考えるべきだと思う。解剖学では立体的に人体を学ばせる上で有用と思われ、また生化学でも理解を助ける上で役立つと考えられる。さらに臨床実技でもバーチャルな場面を作って訓練することは好ましい事である。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●今後ますます必要性を痛感している。他大学との相互交流によるインターネット上のEキャンパス等の実現を切望している。 | 私立・社会科学系 |
| ●本学においても既に情報教育におけるツールとしてマルチメディア、情報通信技術を積極的に利用しているが、ハードウェアの整備は進んでいるものの、ソフトウェアすなわち、教育方法（倫理教育も含めて）、教材の整備、運用管理、教員のモチベーション等の面で必ずしも十分とは言えない。このためにはこれらのサポ | 私立・理工学系 |

| | |
|--|-------------|
| ートおよび管理体制の整備と充実が急務であるとする。 | |
| ●マルチメディアや情報通信技術の利用は、もっと推進されるべきである。高等教育機関のもつコンテンツを普及させる手段として換言すれば、高等教育機関の社会的貢献を促進する手段として大いに期待している。 | 国立・教育学系 |
| ●有用で今後積極的に取り組むべきであるが、機器（コンピュータ）ソフトウェアの進歩が速く、更新のための十分な予算措置がとられていない（1～2年で更新が必要である）。教材作製への予算並びに設備、スタッフの面においても充実が必要ではないか。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●今後は、マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は必要不可欠だと思います。一方、これまでになかった倫理面の教育についても重要だと思います。 | 国立・理工学系 |
| ●非常に有効な手段で、すでに不可欠のものとなりつつあるが、一方では教材やノウハウの蓄積が肝要である。個々の教員もしくは個別の部局でその都度対応するのでは十分な展開が不可能である。インターネット教材を集めたボランティアのホームページも存在するが、公的な機関で収集・公開・普及することも必要であろう。 | 国立・理工学系 |
| ●国立大学の場合、ハード・ソフトの進歩について行けるような予算の確保が最大の問題であろう。また、専任教官・支援スタッフの人材も大切である。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●学生の勉学・知識・意欲が刺激されやすい分野だと思う。なかには強い興味を持つものもある。又、社会的要請にも適合すると思う。但し、それを活用する基盤となる専門的知識や机上での論理的思考、鍛錬がおろそかになる傾向がある。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディア等の利用により、自ら体験できない事を映像として見る事が可能になるなど、又、オンラインでの教育機会の拡大等利点があるという点が考えられる。しかし、実際にどのようにすれば教育効果が上がるのかなどのソフトウェアが必要だと思われる。 | 国立・その他 |
| ●マルチメディアや情報通信技術は、学生が授業を理解する上で有効な手段と思われる。特に視覚的なものに訴えるというのは最近の学生によいと思われる。但し、サポートする人間と費用をいかに獲得するかが今後の課題である。 | 私立・理工学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は大いにすべきと考える。但し、利用の細部については今後の検討が必要であり、理科系実習や現場教育など、マルチメディアのみでは解決出来ない問題も多くある。まず語学や社会科学系などの利用から始 | 公立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|---|-------------|
| めると良いと考える。 | |
| ●技術の継承の問題として非常に重要と考えている。 | 私立・理工学系 |
| ●授業において補助的な利用は有効と思われる。 | 国立・理工学系 |
| ●当大学では、平成11年、教育の高度化を目指して、マルチメディアシステムを導入した。マルチメディアシステムは、双方向システム、授業支援システム、VOD、編集システム、SCS配信、無線LAN等で構成され、3キャンパスを結んで利用可能となっている。問題は、マルチメディアシステムの運用・利用支援のための人員の確保が難しいこと、またコンテンツの作成、利用支援のための人員の確保ができないこと、更には、利用できるコンテンツが不足していることである。利用技術が進歩しても、利用する側の意識が低いこと、コンテンツの開発が遅れていることに大きな問題がある。 | 国立・その他 |
| ●当大学では平成11年度中途よりCS（スカイパーフェクTVch.207）で一般向けの公開講座（大学院レベル）を開始、平成12年度にはCSを利用した通信制大学院（修士、4専攻）を開設することを準備中である。一部、関係教職員の負担は多大なものがあるが、全学的に支援体制を整えようとしている。 | 私立・その他 |
| ●このアンケートは、教育＝教室授業という発想で作成されているが、このこと自体理系高等教育の本質を見誤ったものである。実験・演習・研究（卒研や修論等）、プレゼンや学会発表等、学生が能動的に活動できるようにすることが人の育成の本質で、マルチメディアはそのためのツールと考えるべきである。当部局では、学生に対して特に研修等実施しなくても、自分の研究に必要な情報の収集や成果公開等、WWWの利用は学生に自由に行われ、常識化している。 | 国立・その他 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を用いた教育を行うには、まだ障害が多いと思われる。又、その利用効果が具体的に見えてこないことが問題である。特に、1. マルチメディア施設が高額であること。2. 教材作成の材料や支援体制が整備されていないこと。3. 各教官のスキルに大きな差があること。4. 学生の使用するパソコンや端末の費用などの負担をどうするか。5. 情報公開の意義があまり確立していない等々、いろいろな解決すべき点がある。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディア等を利用した教育を効率的に行うためには、学生のレベルアップが不可欠である。はっきりとした目的意識と学習意欲がある学生が対象ならば教育効果はたいへん高くなると期待される。しかし、学生のレベルが低い場合は、対面式授業の補助 | 公立・理工学系 |

| | |
|--|-------------|
| の要素が強くなると思う。 | |
| ●モデル事業予算等を計上し、もっと積極的に試行をしたい。特に、スポーツ・健康推進系の部局では、身体運動をマルチメディアで取り扱うことの効果は大きい。いつもアンケートに答えるだけで、現実には手にできないのが残念である。 | 国立・その他 |
| ●情報収集や意見の交換等有用なものが多いが、それでどんなエンジニアが育つか、不明である。過剰情報のため、論理的な思考能力が充分育たなくなる心配がある。マルチメディアは利用するもので、人を育てるものではないと思うが、極論だろうか。 | 国立・理工学系 |
| ●1. 国際教育の展開に不可欠。2. 大学、大学院の教育の考え方を中高教育に生かす道具とすべき。 | 私立・その他 |
| ●教官が黒板や自前の教材を使って講義をするのに比べて、高度に洗練された内容を含むビデオ等での講義は教育の能率化の点で非常に効率的ですので、積極的に進めるべきだと考えます。 | 国立・理工学系 |
| ●教員の研修が必要。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●日本の教育システムやメディア環境が悪すぎるため、外国のようににはなかなかならない。マルチメディアに巨大な投資が必要となるが、誰が負担するのか。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●積極的に利用を推進すべきであるが、有効に活用する為の方法の研究。又それをバックアップする態勢が必要と思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディア等が役立つものが多数あるが、高等教育とくに専門教育については少人数教育が最も有効である。マルチメディアや情報通信に関するインフラと世の中の人の能力が改善されないと、双方向授業やバーチャルユニバーシティは難しい。 | 国立・理工学系 |
| ●積極的に導入する必要があるが、予算・人についての継続した支援体制が必要である。また、技術の進歩に対応した研修の機会が必要である。 | 国立・その他 |
| ●未だ「発展途上」の現状であると思われるが、徐々に進められており今後は充実したものにしていきたい。必要性、効果は十分に理解されている。 | 私立・社会科学系 |
| ●大学間、もしくは大学院間の授業、ゼミナールの相互交流に威力を発揮すると期待しております。また、可能であれば教材の交換等により授業内容の工夫がやり易くなると考えられます。 | 私立・社会科学系 |
| ●積極推進すべきである。 | 私立・社会科学系 |
| ●積極的に推進すべきだと思う。 | 公立・社会科学系 |
| ●情報インフラの整備と同時にコンテンツ構築の方法と支援が、今後重要な課題となろう。 | 私立・社会科学系 |

| | |
|---|----------|
| ●機器設備の導入・維持のための費用について、国や産業界からの大幅な補助をお願いしたい。 | 私立・社会科学系 |
| ●まず、利用しやすいツールを貴センターで開発して欲しい。 | 公立・理工学系 |
| ●パソコン、通信費にもう一段の下げがあればよいが、現状ではパソコンの所有者が全員とは言えず、マルチメディア化は尚早である。これから数年で状況が変わると思われるので、準備はしておきたい。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育研究のグローバル化、高度化を図る上で不可避。ただし、通信費用（機器調達にかかる費用を含む）がかかりすぎる点が現時点での問題点。また著作権（資料の）問題がある。 | 私立・人文科学系 |
| ●情報通信技術、特にインターネットを利用したネットワーク環境の発達は、ここ数年めざましいものがある。現在は、この技術をどのように利用・活用していくか模索している段階ではないだろうか。大学において最も有効な利用法としては、知的財産の共有や広く社会に公開することである。今まで閉鎖的であった大学間の情報の共有（共同研究・合同講義等）の手段として、また広く一般社会人への公開講座などで、積極的に利用することが大学の発展にとって重要であろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●将来的には必要な事だと考えているが、過渡期には一部の教員の負担増などの問題が懸念される。アドバイスや補助を行う技術職員なども必要となってくるのではないか。又、過渡期には一種の「お遊び」の域を出ず、教育の質の低下も懸念される。 | 公立・社会科学系 |
| ●教員の技能、技術が鍵となる。 | 私立・社会科学系 |
| ●やはり教材の充実が必要です。現在は、ボランティア主催ですが企業に発注する方式を取って行くべきと考えます。 | 国立・理工学系 |
| ●新しい諸技術を利用することで、従来は考えられなかった全く新しい形態の教育への可能性が開かれることは間違いないと思う。しかし、単に新技術を使うというだけでは教育効果を上げることは難しい。何より教員側のこうした技術に関する知識を向上させ、意識を改革することが大切であろうし困難だと思われる。全ての教育機関で短期間に普及することは考えにくく、取り組みに差が出るであろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●この利用は時代の趨勢と思うが、教育の質の充実を目指す方向で考えねばと思っている。 | 国立・その他 |
| ●極めて有用な面が多いと思われるが、有効に行うためには我々の現行システムの改善が必要で、私たちの学部は新設で完成年度に達していないので、直ちに対応できない。私達の学部はフィールドワークによる実地調査、体験を重視しているが、これとどう組 | 私立・その他 |

| | |
|--|-----------------|
| <p>み合わせるか課題である。</p> | |
| <p>● 1. 例えば、Windows系のOSに特徴的なPNP機器は、様々なアプリケーションソフトウェアのインストールを容易にした特徴がある反面、アンインストール時にはそれ専用のソフトを使用しなければならない事。また電子メールをメイラーを開いて行う際のバージョンアップ時に生ずるメールホルダーの共有性の問題など、一旦障害が生ずると素人では修復不可能で再インストールしなければならない状態が多い。また高等教育は、多くの学生を受講対象とするためGigabitネットワークの早期導入等、ネットワークトラフィック制御の問題を正確に対処しておく必要がある。</p> <p>2. 人的なサポート体制なしの現在の状態では、教員の負担増となるだけである。可能性は十分あるが現状の予算、人的体制とも、それに対応できない。万能でないため、何が必要で何が不要かを考えることが必要である。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>● マルチメディアやバーチャルユニバーシティの高等教育への利用について本学での評価は、わかり易い授業ができ学生の集中力も増すが、一方では分かったつもりの学生が増えて本物の実力が身に付かないとの評価もある。よって、マルチメディアやバーチャルユニバーシティ教育だけによるのではなく、反対に現物（リアリティ）教育（例えば実習、実験演習など）を増やしバランスを取りながら進めるべきと思う。</p> | <p>私立・理工学系</p> |
| <p>● インターネットの発達によって情報収集が国際化し、同時化しており、ホットな情報を教育に反映させることは、極めて重要である。又、国内外の高等教育機関との交流を活性化する上でも大切である。社会人教育をはじめ、開かれた大学として積極的に公開する機会を提供し、産・官・学の交流を活発化しうるものと考えている。ただし、各教員にとってITを利用する負担が増加して、本来の研究時間を食い潰されるのではないかという懸念がある。教育・研究に使い勝手の良いデータベースの提供が望まれる。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>● 情報機器を操作しているという満足感は期待できるが、教育上の効果については疑問がある。特に現在の学生は、ノートをとるなど自分でまとめる能力が極端に低下していると思われるが、それが今後益々低下することが危惧される。</p> | <p>私立・教育学系</p> |
| <p>● メンテナンスを担う仕組みが重要であろう。ビジネスについての研究教育には欠かすことが出来ず、積極的に取り組んでいきたい。</p> | <p>公立・社会科学系</p> |
| <p>● 教材作成を含め、手軽に利用できるシステム環境の整備がまず必要であると思う。</p> | <p>私立・その他</p> |

| | |
|---|----------|
| ●最先端の研究成果を平易な形で実践化・実用化し、それをより多くの教職員に理解できるようにする為の啓蒙活動が、この分野の活性化・利用促進に必要と考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●何よりも各家庭での通信基盤の低コスト化が必要。 | 公立・社会科学系 |
| ●★積極的に活用すべきと考えるが、そのためには国からの予算上の支援が不可欠である。★本学では、ノートパソコン必携という教育方針をとっているが、専門教育でどのように活用していくかが大きな課題となっている。現状ではパソコンがワープロ化している。他の機関の取り組みを是非紹介してもらいたい。★あくまで手段として導入すべきで、これを教育の中心に据えるのは問題がある。情報通信技術が発達すれば、教育効果が上がるという保障は何もない。考える内容と対人コミュニケーションの研究をもっと行うべき。事務上の効率化などのメリットは否定できないが、マルチメディアに流されてしまうことになってしまう可能性も否定できない。マルチメディアと「心」の関係を十分に考慮すべきであり、マルチメディア利用に関わる倫理も確立すべきであろう。 | 国立・人文科学系 |
| ●コンテンツの充実を早急に努力すべきである。 | 国立・理工学系 |
| ●マルチメディア教材の制作に時間と費用がかかり、購入して利用する費用が高いので利用範囲に限られます。高等教育機関の教育担当者は、研究論文発表にウェートをかけるよりマルチメディア教材作りにウェートを置くべきではないかと考えますが、従来の文部省や大学教育機関の評価基準ではマルチメディア教材作りはボランティア活動としか評価されません。NHKの教育番組の制作費が莫大であるのに比べ、大学教師が使える費用は20-30万円にも至りません。予算が少なくてよい教材を作れない事が多いために、その効果が低く評価されます。制作が容易になってくれば、マルチメディア教材は広く利用されるでしょう。 | 私立・社会科学系 |
| ●交通不便な広域に散在する郡部や農村部に住む地域社会の住民に、最寄の公民館等や職場あるいは住宅において大学からの高等教育の機会を提供できること、さらに現職社会人を対象とするオンザジョブのリカレント教育や継続教育を可能とする教育の形態において、マルチメディアや情報通信技術の遠隔高等教育への利用は大きな意義を持っている。 | 私立・家政系 |
| ●テクニシャンを専任でつけない限り、教員の負担増となり前に進めません。 | 私立・人文科学系 |
| ●サポート要員をもっと増大しないと利用の推進は困難。なおかつ、全学ないし全学的な教職員の関心や意識を根本的に改革しないと | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>推進は難しい「物」だけ作って、実際には何も進まないであろう。</p> | |
| <p>●1. 通信衛星やISDNは、便利ではあるがコストが高い。2. 現状での通信速度では円滑な講義等（双方向）が難しい。3. マルチメディアや情報通信技術の利用には、設備投資の充実が伴うべき。4. マルチメディアや情報通信を促進するのに当っては、マナーやエチケットについてのメディア教育が必要である（ハッカー等の防止など）。</p> | <p>国立・農学系</p> |
| <p>●学生一人に一台パソコンが必要な時代になってきています。教育学部では、マルチメディアをフルに活用することによって授業効果を上げることができると考えます。</p> | <p>国立・教育学系</p> |
| <p>●従来大学は、ともすれば自らの研究成果や専門分野に関する知識の一般国民への“説明”に熱心でなかったきらいがある。責任回避をするわけではないが、その原因の一つとして“説明”を行うにも、その機会が極めて作り難かったということがあげられるが、近年の情報通信技術の発達により、その可能性が広がってきたものと思われる。バーチャルユニバーシティ構想に代表される社会人等への高等教育も含めて、情報通信技術を通じて大学が行うべき課題は少なくないと考えている。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●今後、授業においてリアルタイムの情報を学生に伝える等の手段としては、有効な方法と考える。また資料作成等においても、豊富な情報の中から選択出来、加工などもしやすい利点も多い。しかし、バーチャルユニバーシティのように在宅で授業を受けることは、決して望ましいとは考えない。学生は学校に来ることで授業以外に受ける影響も多いはずなので、行き過ぎた情報通信技術による授業は避けるべきではないか。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●国による積極的な財政支援、補助、研修、ガイダンス等を期待。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●教育の現状をふまえるならば、学生の学習意欲を喚起し、発展させる環境を作ることが急務であるが、そのための手段として非常に有用である。また、社会を学ぶという視点からも、情報化を学ぶには教育自体が情報化されていることは必然である。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●社会人を対象とした教育には有用でしょう。医学部教育の一部には利有できるかもしれません（語学などの共通教育について）。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●「一律」という発想は、教育の害となるものと思う。回答者自身は、この分野での公務を果しているが、適・不適を精査してとりかかる必要があると思っている。Multimedia、通信を考える時、著作権、所有権、肖像権、情報弱者、説明責任、等々考えねばならぬ未解決事項が山積していることも、同時に思うことである。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |

| | |
|--|--------------------|
| <p>●大学間の壁が無くなり、科目毎に異なる大学の授業を聞くことが出来るようになるが、この時、上にも述べたように特定の教員の科目に集中する可能性が多くなる。これは必ずしも悪いことではないが、一人の教員が対応できる人数には限りがあるからある程度制限する必要がある。また海外を含む大学が、世界から受講生を受け入れる可能性があり、国際的な話し合いが必要になる。</p> | <p>私立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●利用は大いに促進されるべきである。もちろん強制ではいけないが、教育を行う上での材料と考えれば、多いに越したことはない。ただし、利用方法やコストに関する問題はクリアされなければならない。最大の問題は、著作物の教育的利用に関することである。著作権問題で時間がかかっているのは、インターネットなどの高速性の利点が生かされていない。</p> | <p>私立・その他</p> |
| <p>●マルチメディアなど高等教育へ積極的に利用していくことは望ましいことである。学生も教師の話のみより楽しく学べる事が出来るであろう。しかし、日本の多くの大学において、教員がマルチメディア教材を開発するには、労力、資金、著作権のことなど多くの問題をかかえている。貴センターなどで教材あるいは教材のための資料を保管され、多くの大学で利用できることが望しい。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●部局内で議論しておりません。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●積極的にとりいれるべきと思われる。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●私共の研究科としての取組みはまだあまり進んでいないと思っています。今は学生個人の対応にまかされている面が多いです。しかしこのままではいけないので、もっと積極的な利用を考える必要があると思っています。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●利用が進んでいくことは、避けられないと思う。大学がこの利用を進めるためには、財政面、人材の面等で色々の問題を解決しなければいけない。マルチメディア・情報通信の技術も進歩の途上なので、大学側から利用の形態や希望する内容を明示していくよう努力すれば、それにあった技術や利用システムが開発されていくと思う。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●マルチメディアや情報処理技術の高等教育への利用は大いに実施していくべきであろうと思うが、現状では利用について高度な知識、技術を必要とする場面が多々あるため十分に利用できるものとなっていない。大学での利用に当たっては、もう少し簡単に利用できるような施設、設備の充実と共に、専門の支援スタッフも置くことを検討する必要がある。</p> | <p>国立・農学系</p> |
| <p>●教育のオンライン化は、積極的に進めると同時に、対面授業の新</p> | <p>私立</p> |

| | |
|---|----------|
| たな可能性について考えて行く必要がある。 | |
| ●専門的な担当者が圧倒的に不足している。技術導入のための資金もない。従って、一部の教官に負担がかぶさってくる可能性がある。導入の前提が現実には存在しない。 | 国立・社会科学系 |
| ●技術は日々進歩していくものの、それらを駆使して教育なさる方は、特定の人に限られてしまっているのが、現状だと思います。それらをどのように一般化していくかが今後の課題になると思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●財政的支援を立ち上げ時に積極的に行って欲しい。 | 公立・その他 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を利用することは、今後、促進していかなければならないと考える。そのために必要なものは教材であるが、現実では実用的な教材を作成するためには、多大なコストが必要となっている。教材のみを購入する方法もあるが、できあいの教材を単純に利用するだけでなく、教育者のオリジナルを付加することができるものや、教材の開発を支援するシステムが待ち望まれている。 | 公立・その他 |
| ●日本の高等教育での利用は海外（特に米国）と比べて遅れているように思われる。より積極的に推進すべきである。 | 私立・社会科学系 |
| ●ハード、ソフト、人的支援がないと達成できないが、うまく機能させることができる環境が得られれば分野により高い教育効果が期待されよう。現時点ではノウハウを試行錯誤から探っている状態である。業界の経済効果に基づいたマルチメディア至上主義あるいは、推進には賛成できない。 | 国立・農学系 |
| ●仕事の成果はマルチメディアや情報通信技術に添ったものだけが評価されるようになっていくものと考えられます。Literacyなのです。 | 私立・理工学系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術を早い段階から教育することは、今後のインターネット社会に対応するために必要と考えるが、技術面だけでなくマナーや自己責任の重みを考える教育も技術や使用法と同等かそれ以上の比重で教育していくことが大切である。 | 私立・理工学系 |
| ●文字だけでは、明確に伝わらなかったものが、音声や映像などのメディアと組み合わせることによって、多大な教育効果をもたらしている。こうしたマルチメディア教育は、本学における情報処理の授業だけに止まらず英語や社会といった教科にも幅広く利用されており、今後、他の教科でもマルチメディア教育が実践されるものと思われる。また、情報通信技術の高等教育への利用についても、今後増加していくことが予想される。そうすると、遠隔地から最新の情報を入手したり、他とのコミュニケーションの場 | 私立・人文科学系 |

| | |
|--|-------------|
| <p>が広がったり、と教育効果が期待できる。今後の遠隔授業やオンデマンド学習システムは、時間や場所を選ばないインタラクティブ教育システムとして、利用されると思われる。但し、従前から行われている教師対学生の教育方法と併用していくことが大切であると思われる。</p> | |
| <p>●自然科学系中心の本学のような大学では、映像による教材提示が多く、マルチメディアを多用することが教育上、有効である。また、情報通信技術を活用し、遠隔地のキンパスとの同時開講や一般への公開等多面的な利用が広がると考える。</p> | 私立・農学系 |
| <p>●本学は人立化学系（文学部）の単科大学でもある為、全教職員のレベルアップを考える必要がある。ハード面について先走りすることが多いが、具体的に機器を用いてどのような教育・研究・学生サービスするかもっとソフト面を、話し合いを先にすべきである。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を利用する教員のスキルの問題や通信回線料が高いこと、情報技術に伴ったシステムを揃える費用がない。</p> | 私立・その他 |
| <p>●本学は、1学部（音楽学部）4学部（音楽学科・宗教音楽学科・声楽学科・器楽学科）及び1大学院研究科（音楽研究科・修士・博士）の音楽専門の単科大学であるため、これまで衛星通信やインターネットを活用したマルチメディアを利用した教育や研究活動を実施しておらず、学内LANも整備されていない。2年前から、学内OA委員会が組織され、インターネットによるホームページ作成と教職希望学生のためのインターネット教育の開始など、学内情報の一元化及び教育研究や学外への広報戦略を強化し、事務部門間の事務効率を高めるための計画が検討され、平成12年度より具体的な導入が実現することになった。（IBM AS/400ドミノ専用サーバー導入による学内LANシステム）</p> | 私立・芸術系 |
| <p>●現在は過度期にあり、教員による意識の差が非常に大きい。Faculty Developmentの積極的な推進が必要だろう。</p> | 私立・理工学系 |
| <p>●費用等がネックとなっているが、将来は本格的に導入できるよう検討中である。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●1. 手術など外科系の場合にはシュミレーション技術の進歩に期待したい。2. 医用画像の遠隔地通信による診断学教育（テレメディシン）のための通信コストの低減を期待する。3. 救急救命医療、大災害医療などの場合を想定したバーチャル教育は役に立つと考える。</p> | 私立・医・歯・薬・保系 |
| <p>●一連の教育の中で、適切な利用をすることで、教育の効果を図る</p> | 私立・家政系 |

| | |
|--|-------------|
| ことが必要でしょう。 | |
| ●教育・学習の機会拡大など、可能性を多く持つ教育システムであると考えます。しかし、質的な保障（単位や資格の取得、既存方法と同等以上の学習効果）がなければ、長期的には継続が困難になると思います。 | 国立・その他 |
| ●マルチメディア等の利用は教育効果をあげるために積極的に利用したいと考えているが、機器設備の不足、機器利用を支援するスタッフの不足により利用しにくいのが現状だと思う。 | 国立・農学系 |
| ●アメリカですでに実施されているのを見れば、この考えは成立するように思える。しかし、日本でこれを実施しようとするには、授業の教材制作に非常な手間暇がかかると予想され、また受講生の側の意義が高いかどうかという需要の問題とインターネットへの家庭からのアクセスが容易で安価であるかどうかという3つの側面が考えられる。日本での最大の問題は、2番目と3番目であろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●海外の大学などのように教材作成の補助スタッフの確保、充実。あるいは民間への委託（予算化）をすすめていく必要がある。 | 私立・社会科学系 |
| ●対面式授業（少人数クラス）と並行した利用（いわゆる教育外学習時間の学習システム）としては大いに意味があると思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●最新の情報を多面的に利用出来るので、今後積極的に利用すべきと考えます。 | 私立・家政系 |
| ●マルチメディアや情報通信技術によって、知識の多面的・融合的な摂取力や情報一般の収集能力の飛躍的増大が見込まれるし、既にその一部は実現しつつある点は歓迎すべき傾向であるが、他方、収集した情報を学生自ら咀嚼の上再構築する能力が流入する情報量に見合っていない点が憂慮される。情報技術が発展すればするほど、情報の選択能力と、読解・分析・統合能力の訓練が必要となる。特に外国語によって、高度な内容の文章を読解する力が以前に比べ格段に落ちている事実に対しては早急な対応が必要である。 | 国立・その他 |
| ●教員の研修が必要。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●マルチメディア、インターネットの高等教育への利用は今後益々必要性、重要性が高まる。このためには、施設設備の充実だけでなく、教員の関係する知識、技術の向上を図るようにしなければ教育への有効利用は達成出来ない。 | 私立・社会科学系 |
| ●文化系においても、これからの授業はマルチメディア利用の授業にしていかなないと対処が困難であり、学生にとっても必要である。 | 公立・人文科学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>ただし、何よりも新技術挿入後のサポート、維持管理、技術ノウハウの継承をしっかりとできるような体制がないと『箱だけ』になり教育に活かせない。導入後の対応が重要になってくる。</p> | |
| <p>●時代の流れとしてマルチメディアや情報通信の教育への利用はますます多くなるが、その利点と欠点をきちんと理解していないと教育がうまくいかなることもありうる。なぜならば学生が多様化、大衆化しているからである。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●マルチメディアをリアルタイムで双方向で行うギガビット通信網ができれば大いに高等教育に利用できると思われる。</p> | <p>国立・教育学系</p> |
| <p>●今後はインターネット、マルチメディアを活用した情報収集能力、加工能力、発信能力が専門分野を問わず必要となる。教育への積極的利用が当然と考えている。インターネット講義、電子質問室等は、www.gifu.shotoku.ac.jpにおいて公開している。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●本センターはマルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用を積極的に行うことを目的として設置されている。工学部の数少ない講義時間をスタッフでやりくりしながら、さらなる利用を企画しています。平成12年度下期には、SCSの利用も可能になり、さらにインターネットの回線の帯域も広げて利用しやすい環境づくりを目標としています。また学内にマルチメディア等の利用についての講習会も積極的に行っていきたいと考えております。21世紀に向けて、本学のオリジナリティーをどの様に確立していくのかを、教育方法および研究の両面から真剣に考えています。私個人としては、バーチャルユニバーシティー構想に大変興味を持っております。</p> | <p>国立・その他</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術の高等教育の利用は、学生の自己学習を助ける意味で重要と考えています。この利用は、同時に大学における教育方法の改革を伴わなければ、あまり意味がないと考えます。我が大学でも教育改革を進め、チュートリアル、クリニカルクラークシップを取り入れましたので、学生自身によるマルチメディアの利用を進めたいと考えています。従来の講義による教育の部分は、マルチメディアにまかせ、教員と学生がより高度な現実の問題についてディスカッションする過程で学生（および教員も）を教育するようにしたいと考えています。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●マルチメディアは情報を簡便に手に入れることに優れていることはいろいろの所で授業に使えるが薬学系では自分で手を加える実験の体験が必要になる。画面上での体験では不十分だし、考える力もつかない。マルチメディアの発展は望ましいことであるが万能ではなく、限界があり、そこに教員としての役割を見い出せ</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |

| | |
|--|-----------------|
| る。 | |
| ●IT革命によって教育の内容も変化する。MM技術、ITの進展の予測がむずかしい現状で、高等教育へどのようなインパクトを与えて行くかも予測がむずかしい。単純に言ってMM、ITの応用は、教育に関して、特に私立大学の場合その通信経費等と人材確保のための経費の確保が教育のネックになるのではなかろうか。 | 私立・理工学系 |
| ●マルチメディア教育の推進については、ハード・ソフトの両面に関する整備と運用にかかわるノウハウの蓄積が必要であり課題であると考えます。一部の高等教育機関は別として、これらのハードルをクリアしながらシステムを構築していくにはそれ相応の年月を要すると考えます。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●今後、マルチメディアや情報通信において利点のあるものは十分利用していきたい。 | 私立・その他 |
| ●マルチメディアの利用は、より理解しやすく迫力のある教育を実現し、情報通信技術の利用は、生活の中での教育の機会を増加させ、かつ教育の質と量に関する選択肢を多様に準備することを可能にする。高等教育は、それらを利用したより効果的な教育の実現へ向かって進む事になるだろうが、教育現場にいる人間があまりにも急激な変化に対応仕切れないこともまた事実である。しかし、これは進んで行かねばならない方向であることは確かであろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●1. 医学系では、対面式の講義・実習が必須であり、インターネット等によるメディアの導入は教育の補助である。2. 非常勤講師（他大学の）を呼んで講義をうけるのではなく、当該講師の授業に参加する形が増えるであろう。その場合、講義の内容が広く広報されていなければならない。3. メディアを通して、学生の質問を受けるのは、よい利用法である。解答は、出来るだけ対面式授業の中で実施したい。 | 公立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●マルチメディア等の利用は、あくまでも補助的なものであり、そういう意味で利用が広がるのは好ましいことである。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |

＜短期大学＞

| | |
|---|----|
| ●コストの大幅な低減を望む。 | 私立 |
| ●出来るだけ利用したい。多くの情報を多くの人が共有出来るので有効と考える。 | 私立 |
| ●その利用に関しては確固たる倫理観の確立が必要だと思われる。 | 私立 |
| ●ハード優先ではなく、コンテンツをしっかりと固めた上で積極的に推進すべきである。 | 私立 |
| ●大変有効なものと思うが、施設、人手がかなり必要でその面での補助がもっと増加されることを望む。 | 私立 |
| ●人件費を低くするためには、マルチメディアを利用する必要があると思う。しかし、初期投資がかなりかかり、その運用経費及び人材の確保も大きな問題である。 | 私立 |
| ●回線使用料の補助又は減額の特典が欲しい。 | 私立 |
| ●設備整備については、地方・中央の差はあまりなくなってきたと思うが、通信基盤についてはまだ格差が大きい。通信費の負担は大きな問題であり、回線の増強は必要であるが、そのメリットがあきらかにしなければ予算化も難しい。 | 公立 |
| ●情報リテラシー教育の充実が早急に望まれる。 | 公立 |
| ●・国内外への情報発信（受信も含む）のための有力なツールであり特に国際交流には不可欠である。・教材作りにはかなりの労力が必要とされる。知識のある特定の教員に負担が増加することもある。・電子メール利用により語学力が向上したと回答する学生が増加していることは喜ばしいが、反面ウィルスの主要感染ルートでもある電子メールの利用について何らかの制限を加えることも検討中である。 | 私立 |
| ●教育効果を上げるために積極的に利用すべきだと思っています。 | 私立 |
| ●コンピュータ・リテラシーの獲得は高度情報化社会では不可欠なものとなり、また専門職業人として情報通信機器の利用度が高まっている中、養成機関として本学でも積極的なマルチメディア教育を行っていく必要がある。 | 公立 |
| ●問題点は：１．ハードのコスト負担が出来るか。２．ソフトの制作及び内容の充実をする人材がいるか。３．法制度の規制緩和がどれだけされるか。 | 私立 |
| ●多くの可能性を示している。クラスを持つ事ができる。 | 私立 |
| ●高等教育のみならず、中等、初等教育においても、この種の教育が進められている。高等教育においては、今後、高等教育としての特色を持った内容の上記教育を行なっていくための教員の研修、カリキュラムの作成等を進めていくべきであろう。 | 私立 |
| ●映像や音声を利用した情報は具体的でわかりやすくネットワークによる情報提供は時間・場所を問わないため、大変便利であり、学生にとっても受け入れやすい。しかし、機器・設備の導入、維持には費用がかかり、マルチメディアの | 私立 |

| | |
|---|----|
| 普及の障害となっているのが現状である。利用を奨励するのであれば、公共機関によるそれなりの援助が必要であると思われる。また、オンライン上の教育は教員と学生及び学生相互のコミュニケーションが電子掲示板、電子会議室などによるものとなり、社交性・自己表現力等の育成面について問題が残る。 | |
| ●費用もさることながら、機器設備のメンテナンスが大変である。 | 私立 |
| ●本学の場合、音楽や演劇のようにマルチメディアや情報通信の発信元としての意義はありますが、教育への利用という点では、あくまでも補助的ということになります。文科においても、小人数制の手づくり教育を基本にしていますので、これまでのところあまり必要性を感じてきませんでした。ただ、これからは学外の環境の整備に伴い、急速に有効性を増すものと思われますので、先走ることなく、うしろからついていく程度に考えております。 | 私立 |
| ●設備・機器面でもそれをサポートするスタッフ（人材面）でも、費用が多額なため、十分に利用するには、教育機関に対する予算補助がもっと必要だと思います。 | 私立 |
| ●教育を効果的にかつ効率的に行うための補助手段として大いに活用すべきである。しかし、これには設備、運用人員、運用経費などを十分に手当てする必要がある。中途半端な設備や人員では、むしろ教育にとって妨げとなる恐れがある。 | 公立 |
| ●学生も望んでおり、充分に活用できる方策を研究したい。 | 国立 |
| ●ア．ハード・ソフトの経費負担が私学では重い。イ．教材の作成・選択に時間が必要で要員不足である。ウ．文部省補助全申請を簡便にされたい。又、2－3年計画実施とされたい。 | 私立 |
| ●人・物・資金面での補助、支援が必須と思う。 | 私立 |
| ●マルチメディアやインターネットなど高等教育への有用性は極めて高いがしかしそれが進むにつれて、社会も個人も“個化”する現象が見られる。個室で一人で外に出る事なく、知識の取得も物品の購入もできる。教師と対面でレポートを改す場面もなくなるとしたら問題である。元来、通信とは、個人のプライバシーを守ることであったと思うが、今日、倫理（人と人の関係）が失われつつあるのではないか。学生を見ていると電子メールや掲示板、チャットに夢中になる姿がある。知らず知らず倫理を求めている様に思えてならない。 | 私立 |
| ●最新機器を導入することが目標となってしまうことが多い。学生の多数は機器の更新を予定していない。大学が最新システムを入れることで、使えなくしてしまうことがあり、そのフォロー体制も困難である。WWWを利用した教育でブラウザのバージョンプラグインの設定など、多くの問題が出ている。 | 私立 |
| ●積極的に活用を計る必要がある。ただ、指導する人の技術の向上を絶えず計る必要がある。 | 私立 |
| ●今後発展する分野だと思うが、教材の作成等を教員のみでおこなうのは無理。技術系職員の支援が必要だが、財政状況から難しい。 | 私立 |

| | |
|---|----|
| ●・コンテンツが重要である。・ビデオカンファレンス等の双方向通信が有用である。・共有フォルダ等のコラボレーションの場の確保が重要である。・Eメールの活用が重要である。・マルチメディアの利用は推奨する。SINET等の学術ネットワークの能力を確保し、講義におけるWebページのブラウジングなどがスムーズに行えるようになると良いと思います。 | 私立 |
| ●マルチメディア、情報通信技術は大いに利用すべきだが、利用することが目的ではない。大学の教育目標を達成するために利用されるものである。真に問われるべきは、教育内容である。 | 私立 |
| ●今後は、大学間単位互換制度の手段としての利用が、最も重要な課題となるものと考えられる。 | 公立 |
| ●今後、時代の変遷を考えるとマルチメディアへの対応は避けて通れないものであるが、学生数減少が顕著な現在、施設の購入・維持・管理に膨大なコストがかかるものも現状である。財団等の助成金も検討しているが、本学のような小規模大学においては、もう少し低額の補助を設定して頂ければ、半額分のコストも現実的な数字になってくる（現状では、1千万以上の事業対象）。 | 私立 |
| ●積極的に推進していくのは当然という状況であるが、初等中等教育における利用の推移を見極めつつ、高等教育独自の利用方法を模索していかなければならないと考える。 | 私立 |
| ●インフラよりもコンテンツが問題である。良いコンテンツを共有できるようになれば、もっと教育の活性化が出来るように思う。 | 私立 |
| ●学内教職員の関心が低く、かつ予算措置を大胆に決断できかねることが取り組みへのネックとなっている。 | 私立 |
| ●情報通信分野は現在革新期にあると指摘されているように、次々に新技術が開発されている。それらの中から、どの技術が教育へ効果的に利用できるのかを見極め、それを教育へ実践していくことは大変に努力を要する作業であると痛感している。また現時点においては、小・中・高での情報教育と高等教育での情報教育との連繋が不足の為に、カリキュラムの重複や欠落が生じている。更に、情報機器の操作の教育に終始してしまう傾向にあるので、情報に関する理論的教育も重要であるとの指摘がある。 | 私立 |
| ●マルチメディア教材の作成には、多大な費用と時間を要するため何らかの補助を考えて頂きたい。 | 私立 |
| ●コンピュータと人間とのインターフェース技術と利用環境が、現状においては昨今よく言われる「人間のための道具（ツール）」として、誰にでも利活用できるレベルには未だ到達していないと考えられます。情報化の旗手としてのコンピュータの適用がその利便性のリテラシー教育のみに偏重されてしまうことのないようなバランスの取れた教育への導入を期待したいと思います。 | 私立 |
| ●積極的に活用したいと思うが、そのための設備更新と維持管理が大変である。特に通信回線の維持にかかる費用の捻出が困難である。国公私の区別なく、最 | 私立 |

| | |
|---|----|
| 低1.5Mbpsの通信回線が確保できるだけの補助金の配布を希望します。 | |
| ●来年度4月より、短大が大学に改組します。その機会にインターネット関連の設備の見直し、拡充を図る予定です。 | 私立 |
| ●昔に比べ目的や目標があって大学・短大へ進学する学生が少なくなりました。そのため、授業の出席率や参加態度が大変悪くなりました。こういった学生に授業で勉強してもらうために、教員は学生の興味を引く魅力的な授業を行う必要があります。教員が口でしゃべるだけの授業よりも、映像やパソコンなどのマルチメディアを積極的に活用した授業のほうが学生には飽きのこないものとなると思います。また最近では、社会生活においてマルチメディアや情報通信技術がいたるところに使われています。学生が就職する際にもインターネットの活用は当然の事となり、就職後もパソコンを扱うことは頻繁にあることになりました。だから大学・短大では費用を惜しまず、学生にマルチメディアを気軽に使える場を設けていくべきだと思います。 | 私立 |
| ●殆ど取り組みが遅れておりますので、認識不足で適切な回答が出来ませんでしたのでご了承下さい。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の利用には、高速な通信回路が必要であり、その点で日本ではまだあまり普及していないが光ファイバー網の整備、衛星通信の利用等により今後発展していく分野だと思う。それらを利用した教育という点で、特に社会人に対する教育というものが多くなっていくのではないかと。公開講座などに集まる人達を見ると、非常に学習意欲が高いのを感じる。そのような人達に本格的な教育を提供するために、家にいながら学習できるオンライン教育はこれからの主流になっていくであろう。 | 私立 |
| ●マルチメディアの利用を積極的に行いたいですが、教材の開発及び機器の整備が予算的に困難である。 | 私立 |
| ●マルチメディアが普及するかしないかは、通信料金にかかっているのも国がもっと力を入れて、通信費補助金を出さないといけないと思います。 | 私立 |
| ●利用の為の教育環境を整備するのに、ハード・ソフト両面でコストと時間がかかる。また運用にも専門的な知識を持った管理グループが必要となり、その体制作りをしなければならない。小規模の短大では、乗り越えるべき幾つかの壁があるように思う。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関しては、現在の社会情勢などを考慮すると必要不可欠だと思われる。しかし、それらを執り行うための機材・人の確保や、そのための教育にかかる費用のフォローをもっとやっていただきたいと考える。 | 私立 |
| ●学習を継続させる方策が大きな課題である。 | 私立 |
| ●マルチメディアや通信技術を安く利用できる環境整備が必要。 | 私立 |
| ●平成12年4月に四年制大学に改組・転換するので開学後は積極的に取り組みたいと思います。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●高等教育機関として、より有効に利用する事を検討していく必要がある。本学においては、さらに組織的な対応を検討していきたい。 | 私立 |
| ●技術が先行し、教育者はそれに追いつけない状態である。 | 私立 |
| ●対面教育の効果を促進する意味で、積極的にマルチメディア教材をオンデマンドで提供していきたいと考えている。また課題レポートや課題作品は、大幅にWebページ提出に切り替えられていくものと思われる。他大学と提携しての「オンライン交換授業」は、どのような科目について有効なのか、これから検討を始めるところである。 | 私立 |
| ●思考力・持続力・展開力等の低下が懸念される現状では、あくまで補完的な手段として位置付ける必要がある。 | 私立 |
| ●21世紀に向けて、一般家庭内のマルチメディア、インターネットの普及は益々盛んになることが予想される。しかしながら、高等教育を担う機関として個々の機関では、設備やコストの面で無理なことが生じてくる。そこで、公の機関で共同利用できるような「情報通信技術」や「マルチメディア」のための施設や体制作りを早め実施して欲しい。 | 私立 |
| ●教育学習の方法・形態をマルチメディアや情報通信技術に対応したものに変革していくことは、高等教育における喫緊の課題である。数年で初等中等教育機関における教育環境に遅れをとってしまう惧れがある。 | 私立 |
| ●とりあえず、HPやEメール利用による学生の個別学習への対応を充実すべきと考えている。 | 私立 |
| ●授業で使用するコンテンツ作りがとにかく大変である。プレゼンテーションツールのPowerPoint等で使用するための説明画面（図面）などが部品化され、自由に使用できればコンテンツ作成の負担が相当軽減される。貴センターで共通に使える授業用の説明画面などを整備し、データベース化していただければ有り難い（ネットワークを通してダウンロードできるようにしておく）。 | 私立 |
| ●このような分野の技術が進んでゆくが、これを教育の場で活用・利用するためには教員の教育方法に対する能力が問われる。教育の内容とそれに合った利用方法を教員が考えていく必要がある。 | 私立 |
| ●導入に関して、経費の問題が大きい。補助金などの対策を考えて欲しい。 | 私立 |
| ●マルチメディアは、それを教員が使いこなすことが出来れば素晴らしい教育の道具となると思う。私自身は、ビジネス関連科目・コンピュータ・商業英語などを教えているが特に実学を教える場合、様々な実際のケーススタディを例示する必要に迫られているので、学生の興味を引くように授業を運営する事を可能とするマルチメディアは、是非活用したい。 | 私立 |
| ●初・中・高等教育と年齢が上の対象となる毎に情報（全てを含む）を扱う割合が増加する。このような視点で高等教育でDigital Informationを扱う部分が増加すれば、新しいメディアは重要になるであろう。しかし、新しいメディアを必要としない教育内容やシステムのままであれば不用ということになる。高等 | 私立 |

| | |
|--|----|
| 教育機関がDigital Informationを適切に扱う体制を整備することが早急に求められている。我々はこれを学校のデジタル化と称して、実践している。 | |
| ●21世紀を真に迎えるために、為すべきことの姿が日々明確になりつつあると感じます。一方、実現のために克服すべき困難も大きく残っています。意識革命と投資資金が効果的に成される事を期待いたします。 | 私立 |
| ●教員のマルチメディアや情報通信技術への研修機会を多くし、十分に教育へ活用できるような技術を高めておく必要があると思われる。また、システムエンジニアを含む技術系の教職員を常勤で確保しておく必要がある。 | 私立 |
| ●多様化する社会において利用が増加すると思われるが、21世紀少子化などにより教育機関の運営において、設備投資が減少することが懸念される。また導入する際の準備段階で、担当者の負担も多いことから具体的なマニュアル化と指導体制の公用化を希望する。 | 私立 |
| ●大変なコストになるが出力が少ない。 | 私立 |
| ●情報通信技術の発展に伴い、教育方法（利用方法）や教材の開発も進み、より一層の利用が進むと思われる。 | 公立 |
| ●1. 施設設備整備のための補助金増額を希望。2. 学生のPC所有は就職以後も大切であり、この点について補助金制度や税金優遇措置（消費税等を含む）を考慮していただきたい。3. セメスター導入の方向として、授業の中にPCをもって双方向性コミュニケーションで自習・課題解答作業を数コマ導入して行うことは、望ましいことである。4. マルチメディアは、授業効果の向上に大いに役立っている。また、公開講座においても同様である。今後も整備を推進する予定である。 | |
| ●1. 今後マルチメディアや情報通信技術などの教育を、益々推進しなくてはならないが教材のデジタル化などに工数がかかるので、全学的な支援が必要といえる。2. 教員の実績を評価するにあたり、教育実績のウエイトを格段に高めることについて、国の支援体制が必要といえる。 | 私立 |
| ●現在、情報リテラシー教育の基礎である情報処理教育は行っていますが、さらに高度なマルチメディアや情報通信技術による高等教育を実現する為には、それを使用するためのコンピュータ（パソコンやサーバ）のみならず、コンテンツの作成と購入が必要です。しかし、これらを準備するためには多額の費用を要するため、容易に実現することは困難な状況にあります。この為これらにかかる費用の補助を必要としています。さらには、マルチメディア教育への支援体制と整備も上記と同様に、補助を必要としています。 | 私立 |
| ●有効であり、また今後は必要性が増すであろう。そのため、ネットワーク接続の低価格化・高速化が早急に望まれる。しかし、対面式の教育に完全に取って代わるものではない。教員に対する教育を先ずしっかりやっていると、進展しないのではなかろうか。 | 私立 |
| ●本学は工学系の短期大学ということで、基本的には「もの作り」を中心とした | 私立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>教育体制を組んでおります。従いまして、様々な専門知識を身につけた上でどのような「もの」を作っていくか、その「もの作り」の課程での問題解決能力、情報収集能力を培うための手段として「マルチメディア」や「情報通信技術」は、デフォルトの技術として位置付けをしたく存じます。そのためにこれらの技術の整備は、早急な課題であると共に「コンテンツ作成」「コンテンツ作成における支援体制」は、非常に重要な課題であると思います。</p> | |
| <p>●高等教育機関としてインターネット上の有用な情報を大いに活用すると共に。自らの専門分野での情報発信にも留意すべきと考える。当面、学内の紀要論文を希望する著者についてはPDF形式で公開する事を紀要委員会として予定している。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●教育には知識の配布・給付の他に、もっと大切なものがある。通信技術の急速な発達で可能になったのは情報伝達だけである。一方的な知識、命令、情報の送達ではできても、教育に必要な受手側からのフィードバックが今の技術水準では不可能に近い。受講者側に十分な学習意欲のある場合の放送大学（その典型例が予備校の通信衛星利用授業である）は一方的知識の配布・給付でも教育は成立つであろうが、現状の学生の学習意欲の無さから見て否定的にならざるを得ない。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●マルチメディア教科の作成に時間がかかるのでこのような教材が提供されれば利用が増加すると思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●技術面・コスト面において、未だ現実的にはいいかねます。継続的に研究を積み重ね、長い目で検討していくべきと考えます</p> | <p>公立</p> |
| <p>●・対面コミュニケーションとネット上でのコミュニケーションのそれぞれの意義をとりちがうことがなければ、新しい価値や教育効果を生む可能性はあると思います。・マルチメディアや情報通信技術に関し、よく「効率」のことがとりあげられがちです。「効率」を第一義としてよいのはあくまで経済活動の世界においてのみであり、教育の世界においてはそこと一線を引いておかなくてはならないと思います。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●情報化社会に一段の展開において是非必要と考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●種々の問題を支援してくれる公的機関があるとありがたい。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●教育において知的活動を支援する手段として、マルチメディアの活動能力がますます重要になり、従来の文字中心から映像音声付きのプレゼンテーションへの移行が必然的になり、その意味からもマルチメディアを学生自らが利用し自己表現力・創造力を育てることが、今後の高等教育にとって重要であると思われます。そのためにも、今後も貴機関（メディア教育開発センター）の研修講座に積極的に参加していきたいと考えております。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●インフラの設備が陳腐すぎる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●本学では、来年度から情報リテラシー教育をはじめようとしている段階です。今後とも宜しくお願いします。</p> | <p>私立</p> |

| | |
|---|----|
| ●マルチメディアや情報通信技術の活用は、これからの高等教育に不可欠であり、その導入に積極的に取り組むべきである。導入実現を可能にする予算設置を切望します。 | 国立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術は、今後とも高等教育に積極的に取り入れていくべきである。特にマルチメディアの利用は今後更に分野を越えて幅広く、また充実したものとなっていくだろう。しかし、教育用コンテンツの作成には、現在多大な労力が必要とされており、各教員が自由にマルチメディアを利用するには、この点が改善される必要がある。一方、情報通信技術、特に通信による遠隔授業などは学校間の提携や通信料金などの制約が多く、この数年の間では利用したくてもできない状況といえる。授業そのものの著作権の問題もあるだろう。しかし、学生や受講者へのサービスとして、また研究用のインフラとしては、今後とも整備を促進していく必要がある。もちろん授業素材の収集のためにも重要である。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の利用は、今後積極的に進めていくべきだと考えております。ところが、私共のような小さな短大においては、その初期投資とメンテナンスのコストが高いということがネックとなっており、必要と思いつつも、なかなか利用が進まないというのが現状です。 | 私立 |
| ●将来に向けて大きな可能性が開かれているのは事実だが、機器導入や改善などの設備投資に費用がかかる。また導入後も通信コストが現在の我が国では高く、社会全体の問題である。教育の場では特に家庭への普及によって大学と学生・親との双方向コミュニケーションを拡張できるという可能性に魅力を感じるが、この点においても通信コストの引き下げが最も重要な契機となるだろう。 | 私立 |
| ●（教官サイドから）マルチメディアや情報通信技術の有力な機能は、情報を広く公開する機能であると思います。高等教育への利用に際しても、学生に必要な情報を公開し、いつでも学生が入手できるようにするということに最も大きな力を発揮すると考えられます。一方、対面授業では、講師と学生との双方向的なコミュニケーションによって授業そのものが変化し、その場に即した形で再構成されていく可能性を持っています。電子メールや電子掲示板はその中間的な双方向性を持っています。このような、教育手段の特性をうまく生かしながら、効果的に使い分けていくことが最も重要であると考えます。（事務サイドから）メディア教育開発センターから各機関へ職員を派遣されて、定期的にセミナーを行っていただけたら、情報通信技術をより一層使いこなした仕事私たちがもできるような気がします。 | 国立 |
| ●マルチメディアは大変魅力的なものであるが、新しきものであるが故に、金と手間と人間が要る。ハードウェアの整備のみであれば資金さえあればそんなに難しくはないが、その維持・運用ということになると大変な負担となる。正直、本学のような小規模短大単独では十分な運用ができないのが実際である。加えて、これに管理運営側の無理解があると、余計に困難が増す。便利なはずのマ | 私立 |

| | |
|---|----|
| ルチメディアがかえって苦悩の元凶となることもあるのではないか。 | |
| ●よく考えて利用しないと上すべりの教育になってしまう。 | 公立 |
| ●情報革命の時代ですから不可欠な事だと思います。デメリットがあるように言われる方もありますが、デメリットを含めて利用ではなく、利用を不可欠な前提として対応する必要があると思います。通信費（電話料金）を全国的に下げる政策が必要だと思います。 | 私立 |
| ●リテラシー、モラルの習得をはじめとして、活用能力の修得を具現化するための一手段・手法として積極的に活用するべきものとする。 | 私立 |
| ●インターネットを利用することで、教職員・学生ともに多くの有益な情報入手することが可能になりましたが、発信という点が不十分であり、受信と発信間のギャップを感じています。今後は、多様な技術を効果的に利活用し、情報の受発信を積極的に行えるよう支援する必要があります。また、遠隔の授業や会議については、多くが構想段階であり、今後、実現に向けた学内の話し合いが必要です。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術はまだまだ進歩・進化していくと考えられるので、高等教育への適用は部分的に実施し、基礎技術の進化の方向を見極めるための検討期間を十分とるべきと思う。一方高等教育の内容自体に根本的な変革が必要な時期にあると考えている。 | 私立 |
| ●メディア教材への依存率は今後全体として高くなっていくと予想されるが、その教育効果は充分高いとはいえない。インターネットの利用については、授業内での積極的な活用というよりも、情報交換のツールとして考えていくべきと思う。本学では、対面式授業の中でのグループウェアの開発を志向していくというのが現状である。通信技術それ自体の教育効果よりも教育内容の焦点はコンピューターのソフトの活用にあると思うからである。端末での操作技術を高めることが現状での最大の課題である。 | 私立 |
| ●今後21世紀に向けて、全世界が1つになる。つまり情報通信により身近になり、益々発展していくことと思われます。高等教育において、その技法等、全世界に遅れを取らぬよう指導していくべきと思われます。 | 私立 |
| ●先の問いでも答えたが、設置費用、維持費用がかかり、補助も充分とはいえない。小規模校で財力のない場合には非常に負担が重い。 | 私立 |
| ●利用を一層促進する必要がある。利用目的に応じた設備の整備が望まれる。 | 国立 |
| ●設備・運用費用等の経済的負担の解決が、まず必要である。 | 私立 |
| ●メディアにはシンプルなものからマルチメディアまでであるが、それぞれの特徴を活かして教育という仕事をすすめるべきである。従来からのものにマルチメディアの良さを加味して、ここまでできなかった教育の方法と技術を目指していくことが大切だと考える。どの方法や技術にも長所と短所があるので、マルチメディアがオールマイティーであるということではないと思う。 | 私立 |
| ●官民上げてのボトムアップが希求される。 | 私立 |

| | |
|--|-----------|
| <p>●動画はデジタルビデオの一般市場への普及に伴い、価格的にも購入しやすくなっているが、医・歯学で有用な高解像度のビデオカメラおよび周辺装置はまだ高価格である。また、編集においては、パソコンのビデオ編集機能では機能不足であるため、専用の編集装置が必要になってくるが、高価であるため普及していない。これら価格の問題が解決するとビデオ画像を駆使したマルチメディア応用は高まると思う。情報通信技術については、VODシステムの低価格やストリーミング技術の発達に伴いイントラネットとしての通信インフラはかなり整ってきたと思うが、インターネット利用はインターネットのインフラが整ってからの課題である。ソフト面、教員の意識改革とマルチメディア制作の技術支援が必要である。現在のパソコン・ビデオカメラの組み合わせでもケースによってはある程度応用は可能であるが、マルチメディア制作の技術支援がない状態では教員のマルチメディアコンテンツ作成の意欲も出て来にくい。一方、コンピュータグラフィックは技術的にも一般の教員が作成することはほとんど不可能である。また教員の意識が従来型の教育から抜けていないため、マルチメディアを応用することによる教育効果などについてまだ認識されていない。まして情報通信技術を応用するためには更なる意識改革が必要である。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●表情、言葉、文字等、人類は、あらゆる手段を用いて、相互の理解を深めようとする努力をしてきた。その目的に、マルチメディアや情報通信技術が生かされていかなければならない。膨大な情報の中から、適切な情報を抽出し、新たな知を創造できる人材育成の要求に、高等教育は応えられる機能を有していなければならない。マルチメディアや情報通信技術の積極的な活用はもとより、そのための機材整備への投資が容易にできる環境が必要である。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●例えば、放送局作成の講義ビデオを上映することが大学での講義とするならば、各大学に教師は要らなくなる。マルチメディアや情報通信施設と技師者で充分になる。もちろんそんなことはありえないが、「マルチメディアの教育への利用」を上記のように考えている教師がいることは事実である。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●・担当教員をサポートする組織がないと教員に負荷がかかりすぎる。・大学として教員の技術向上のための制度的バックアップが必要である。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●「百聞は一見にしかず」という諺どおり、マルチメディアは教育における知識をより豊かなものにしてくれると考えられるので、活用できる分野で積極的に活用していけばよい。また、通信技術はマルチメディア利用の補助として必要になってくるだろう。高等教育だからといって、小・中学校とは違う難しい使い方をするというのではなく、利用するマルチメディアの内容が重要になってくると考えられる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●本学においては平成9年度に学内LANの整備、情報処理実習室の機器拡充、加えてインターネットサービスを導入したことにより、従来一部の教員・学生のみが利用していた状況から、誰もが利用する環境へと変化してきました。このことが文科系の学生もコンピュータを利用できなければという考え方と絡み</p> | <p>私立</p> |

| | |
|--|-----------|
| <p>合い、本学の情報化を進め授業においても従来のプログラミングや情報処理実習の授業に加え、語学やゼミナールなどの授業でもコンピュータが利用され始めました。今後は、ハード面に加えサポート体制等のソフト面を充実させることはもちろん、コンピュータを利用した教育の効果を分析し、大学教育においてコンピュータの果たす役割を考えていく必要があると思います。</p> | |
| <p>●マルチメディア、情報通信技術の利用は予測しがたいほど高度、且つ幅広い利用が期待される。利用には今まで実施されたことのない新しいアイデアの教育法が次々に生まれてくることが予想される。この利用如何が国民の学力、研究推進能力、新規産業振興、ひいては国力に及ぼすところが大い。特に高等教育の質が、マルチメディア利用の差に由来してくると思えられる。マルチメディア万能ではなく、教育は教育者の質がますます明瞭な形で影響を表してくると予想される。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●研究成果を利用し、共有する点についてはまことに有効で必要なことと考える。しかし、それらはあくまで手段であり教育・研究の一方法として、捉えるべきではないかと考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を利用する教員のスキルの問題や、通信回線料が高いこと情報技術に伴ったシステムを揃える費用がない。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●・費用ならびに人的な面で、大規模校と中小規模校との格差が出てしまうことが、結果的に新技術に対する教育的問題となる。・中小規模校に対して、今以上の国庫援助が必要と考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●私共の大学では、福祉系の学科・専攻で構成されています。厚生省の認可を要する課程ですので、その指定に「対面授業」方式があり、また実技実習等の科目が多いので、マルチメディアや情報通信技術の利用はおのずと制限されるのが実情です。</p> | <p>公立</p> |
| <p>●利用価値と必要性は認めるが、本学においてはカリキュラム・授業内容・経費等を検討しながら具体化して行く予定である。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●設置のための費用が高すぎる、スタッフが必要（人件費）の2点が大きなネックと考える。また、作成するための技術がまだ一般的でないと思える。技術力よりも機器の使いやすさに力を入れるべきである。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●高等教育では、学ぶ者が主体的に情報を収集し、処理するケースが多く、またその必要があると思われ。従って、単にマルチメディアの持つインパクトで学生の興味をひくということよりも、理解しやすい、つまり短時間で多くの知識を修得できるマルチメディア教材を開発し、ネットワークの双方向性やリアルタイム性を活かした利用が必要かと思える。</p> | <p>公立</p> |
| <p>●新技術を高等教育へ利用することは、異論はないものと思われるが、教員研修や支援体制（予算、人、設備）が整わず、学生の要求になかなか応えられないのが現状。加えて多くの教員（学生）には、新技術で何が出来るのかイメージが出来ていないとは言えず、先行する事例を身近に示していく啓蒙活動が必要。</p> | <p>私立</p> |

| | |
|---|----|
| ファカルティディベロップメントへの動機付けにもなると考える。 | |
| ●マルチメディアの教材作成には、教員の教育、支援スタッフの確保など多くの課題があり、現状では教員個人の負荷が大きすぎる。 | 私立 |
| ●高等教育であれ、初等教育であれ教育は人格の一部を養うものであろう。問16にも関連するが、ヒトを教育するのは、学生に合った方法を臨機応変に選択し、用いるべきである。技術の進歩による教材提示法の変化はありえても教育の本質に何ら影響する筈はない。それは古くは視聴覚教育の流行による抽象思考能力の低下、今は“マルチメディア”の流行。これがどのような影響をもたらすか？。このような流行に教育が振り回されることを心配する。マルチメディア、情報通信技術はあくまで教材提示の方法である。使い方に注意が肝要であらう。 | 私立 |
| ●大量かつ最新の情報を教育に取り入れることは、学生の興味・関心の幅を広げ、勉学意欲の向上のつながり、教員の研究活動の活性化にもつながると思われるので、今後も積極的に利用していきたい。 | 私立 |
| ●私は専門は、理論物理学、数理物理学で、早くからメールやデータ転送など海外・国内の研究者との共同研究などで情報通信メディアはよく利用していますが、こういったメディアに対する誇大な幻想を抱くのは誤りだと思っています。人間同士が面とむかって行うディスカッションに優るものはありません。あくまで、その補いとして利用すべきだと思います。マルチメディアはたくさんの情報を提供出来ますが、その中からセレクトし、消化し、身につける作業こそが重要でたくさん知っているからといって、たいしたことはありません。テレビやビデオによるプレゼンテーションやコンピュータによる受身的情報吸収が自ら思考しない児童や学生を多く生み出していることは明らかなだと思います。 | 公立 |
| ●部分的な利用は奨励されるべきである。例えば単位を制限したうえで、卒業カウントとして認めるなど。また、外国の大学との単位互換制度の導入・拡大等への道を拓くことにもなろう。 | 私立 |
| ●通信技術の飛躍的な進歩で若者のほとんどが携帯電話を所有しています。モバイルツールとしても機能を充実しつつあり、ケータイさえあればインターネット上の情報を簡単に取得できるようになるのは時間の問題です。これを教育に利用しない手はないと思います。コンピュータはパソコンの様な形をしているという既成概念にとらわれず、あらゆる情報機器を積極的に教育現場に導入していくべきでしょう。若者にとっては新しい技術を習得し、応用することが必要なことは言うまでもありません。教育の現場でそれを実践すべきです。かといってマルチメディアがもたらす、仮想現実の世界と現実を混乱するようなことは避けたいものです。また新しい技術は必ず古い技術の上に成り立っていることを認識させ、手書きのレポートや製図などアナログの技術を廃れさせないことも教育現場の役割と考えます。 | 私立 |
| ●学生はゲームや各種イベント等で日常的に最新の技術製品やマルチメディア関 | 私立 |

| | |
|---|----|
| <p>係のコンテンツに接しているため、高等教育の場で各種情報メディアが使用されることに違和感をもつことは少ないと思われる。また、体験したものに慣れ、操作できるようになるまでの時間も早いと思われる。それ故、なるべく最新の情報技術を導入して、豊かなマルチメディア環境を体験させてあげることが必要と思われます。高等教育で利用するに際してネックとなるのは、むしろ教育の方で技術を磨く時間も限られているため、せっかく使える環境を整えても十分生かされないことになりやすい。教育研修を組織的に行うことやプログラムの開発を早急に行うことが必要と考えます。</p> | |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は、推進すべきものであり、そのためには、まず高速でデータ通信ができるように国家規模で基幹となるネットワークの整備が必要だろう。この点で米国に遅れをとっており、情報インフラの早急な整備をまず教育機関を対象として進めて欲しい。</p> | 国立 |
| <p>●推進するために急激に機器を持ち込む話しが先行しがちになる点に要注意。どのような教育を行うかを決め、それにはどのようなメディアや技術の助けをどのように取り入れるかを考えるようにしたい。一般的に言って技術と機器が優秀である割に、ソフト、教材、利用者への説明等が貧弱であるという印象がぬぐえない。</p> | 私立 |
| <p>●一般企業や学術研究など社会のあらゆる場面において、今後よりいっそうマルチメディアや情報通信技術に関する能力が必要とされるのは明白であろう。これらの分野は、技術の進歩が非常に早いので、常に新しい技術の高等教育への利用を考えなくてはいけないため、教える側である教員自身が技術能力の向上を常に意識する必要があるだろう。本格的なマルチメディア社会の到来には、やはり通信インフラの拡充が不可欠なのは言うまでもないが、現状の通信環境ではまだ不十分であると考え。ネットワークの高速化と低料金化が今後ともますます進展しなければ、十分なマルチメディア教育はできないだろう。</p> | 私立 |
| <p>●情報通信技術の発達による心理的な各種問題、特に年少者の心の問題が発生しております。この点を深く考慮して教育内容を検討する必要があると痛感しております。</p> | 私立 |
| <p>●当機関では現在慎重に検討中である。</p> | 私立 |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を高等教育へ活用する事は今後ますます重要かつ必須であると思われるが、それだけに開発に掛る費用も無視できず、投資効果を見極めた活用が重要と考える。</p> | 私立 |
| <p>●ますます利用できる範囲を拡大していきたいが、設備や維持にお金がかかりすぎると思う。</p> | 私立 |
| <p>●将来的には利用を考えたいのですが、現段階では計画がまとまっておりませんので記入をひかえさせていただきます。</p> | 私立 |
| <p>●新しい技術と安易に教育に転用するのではなく、これまでの対面授業とは異なった特異性を十分に生かすためには、この方面の実践的研究が必要であり、その</p> | 私立 |

| | |
|--|----|
| <p>情報が広く公開されることが大切である。教育現場に立つ教師には、自らの力のみでこれらを体得し、自らの授業に適用するための時間がない。公的機関に多くの実践例が集められ、有用のものをデータベース化して利用できるような支援が必要である。また、利用の方法を学びたい教師が学ぶことのできる公的機関による講習会等が企画されることを望む。</p> | |
| <p>●ますます積極的に進めるべきであると考えます。</p> | 私立 |
| <p>●積極的に利用すべきと考えている。教育の主要な部分は、情報の提供であり、その情報をもとに分析、考慮する能力を身に付けてゆくことが必要である。大量の情報がアクセス可能になった現代をすら、後世の人は「第二の暗黒時計」からの脱出と云うであろう。高等教育は、教える側と教えられる側の情報の共用から、新しい時代を迎えるべきである。</p> | 私立 |
| <p>●本学は情報教室を4教室設置し、ネットワーク・通信インフラの整備を行い、全学生にIDを付与している。今後も多額の設備投資、整備改善等に費用を要するので、公的補助等の充実を要請したい。</p> | 私立 |
| <p>●「本」に代表されるメディアは、可搬性、可読性にすぐれ、追記もできるなど非常にすぐれた媒体である。しかし、情報が文字と静止画に限られるなどの制約も多い。音声、動画などの情報をCDやネットワークで発信、受信できることは、授業においてより新しい情報を分かりやすく示すことができ、積極的な利用を期待したい。それには、良質な教材の作成が必須であり、各教育機関でマルチメディア教材の作成支援体制を確立する必要がある、個々の教員にもスキルが要求される。また、学生に不便な思いをさせ、自ら獲得させた方が教育効果があがることも日常的に経験している。全てがそうであるようにマルチメディア、ネットワークという道具も使い方次第であり、教育者はそれら教材と環境を使いこなす努力が必要である。</p> | 私立 |
| <p>●とにかく単位についての基本的な考え方を変えないと、こうした技術を利用した教育の近代化が進まないと思います（この欄には不適當かも知れませんが）。</p> | 私立 |
| <p>●マルチメディア、情報通信技術を高等教育に活用するためには、人的支援が不可欠だと思います。いくら、設備を整備し、導入したとしてもそれを使いこなすためには、教員やその他のボランティアでは運営が非常に困難です。集合型の研修会を実施していただいたとしても自分の大学に帰ると機種が違うので、全く分からなくなって活用を断念してしまう教員が多いと思います。そのためのサポートを行う人的支援を定期的・継続的に行っていただけると助かります。</p> | 私立 |
| <p>●双方向通信が可能とはいえ、積極的に参加しなければ一方通行に終わってしまうことが多い。さらに教育の応用以前に機器操作の習熟に要する時間がとられてしまう。</p> | 私立 |
| <p>●必要性は十分認識している。教員の意識も少しずつ変化の兆しが見える。十分な利用が出来るためには、今後は設備だけでなく、教員対象の講習会や支援ス</p> | 私立 |

| | |
|---|----|
| タッフの充足などと共に教える側の条件整備が必要となってくる。 | |
| ●積極的にとりいれるべきと考える。 | 私立 |
| ●設備の陳腐化が激しくまたインターネット接続料など維持するための金銭的負担が大きすぎるように感じています。 | 私立 |
| ●総論的には、マルチメディアや情報通信技術による高等教育への利用は、大いに促進すべきだと考えます。しかし、効果の期待できるものと、期待できないものがあります。そこで、これらを明確に選別する必要があります。マルチメディア、情報通信技術を活用して効果が期待出来る分野については、グローバルで全国的なネットワークを駆使し、最新の情報により、最大限の効果を求める必要があります。この際、被教育者の素養、能力を勘案することが大切だと考えます。 | 私立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の急速な発達に対して高等教育機関において教育する側の対応は完全に遅れている。これは教員のみならず事務職員においても同様である。一部の出来る教職員への負担がなくなるぐらいの知識や技術を大多数の教職員が身に付けてこそ、本当の意味での利用が始まると考える。 | 私立 |
| ●大いに活用されることが望ましいし、また、積極的に取り組んでいかなければならないと考える。 | 私立 |
| ●まだまだ暗中模索。 | 私立 |
| ●貴重な教育情報のグローバルな共有や、マルチメディアのシュミレーションによるバーチャル実習など新たな教育の可能性を切り開く、最も力を入れるべき研究分野と考えます。 | 私立 |
| ●利用せざる得なくなる。 | 私立 |
| ●高度情報化社会は、今後益々広がり深まってくるであろう。その中で生きていく人間において、必要とされる能力には個々の専門的領域の知識・技術もさることながら、ネットワークなどを通して交流される情報に対する読み解く力（メディア・リテラシー）が必須の力となるであろう。メディアリテラシーには、水越伸が述べているように、1）情報機器操作能力、2）情報批判的受容能力、3）情報表現力の3つが能力を育成する必要がある。1）及び3）については、これまでも、小・中・高で育成されてきているのであろうが。2）の情報批判的に吟味する力を育成することが緊要な課題ではなかろうかと思う所存である。 | 公立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の利用は、高等教育のみに限らず、初・中等教育にあっても教育手段として有効だと思う。しかし、それは単なる一手段・方法にすぎないのであって、多様な教育方法・手段があってよい。それを教育に取り入れれないことを、「遅れている」というのは良くない風潮だと思う。 | 私立 |
| ●情報通信システムを通しての学習は、対面的な教育の補完として有用である。 | 私立 |
| ●機器設備費面と教員のメディア活用能力面の確立が必要。 | 私立 |
| ●文字だけでは、はっきりと学生に伝わらなかったものが、音声や映像などのメ | 私立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>ディアと組み合わせることによって、多大な教育効果を生み出している。このようなマルチメディア教育は、本学における情報処理の授業だけに止まらず英語や社会といった教科にも幅広く利用されており、今後他の教科でもマルチメディア教育が実践されるものと思われる。また、情報通信技術の高等教育への利用についても、今後増加していくことが予想される。そうになると、今までどちらかというと学校及び学校での授業は閉鎖的であったが、情報通信技術の導入により、遠隔地から最新の情報を入手したり、他とのコミュニケーションの場が広がったり、と教育効果が期待できる。今後の遠隔授業やオンデマンド学習システムは、時間や場所を選ばないインタラクティブ教育システムとして、利用されると思われる。但し、従前から行われている教師対学生の教育方法とも併用していくことが大切であると思われる。</p> | |
| <p>●自然科学系中心の本学のような大学では、映像による教材提示が多く、マルチメディアを多用することが教育上、有効である。また、情報通信技術を活用し、遠隔地のキャンパスとの同時開講や一般への公開等多面的な利用が広がると考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●高等教育に携わる教職員がマルチメディアを有効し、利用できるように、全体的な研修制度が必要と考える。また、共通に利用できるマルチメディア教材の配信などが充実すれば、利用普及に役立つと考える。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●情報収集という点では無限の利用可能性が広がっている訳であるが、一方で、本物の情報と偽物の情報を見分ける能力が必要とされる。仮想と現実の境目のない世界に自分達が入っていつているのだという認識を絶えず持ちながら自らが情報の根拠を確かめるという姿勢をしっかりと根付かせることが高等教育では一層重要になってくると考えられる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●効率的、効果的授業運営に資するものと考えています。斬心的に、利用促進を図りたいと考えています。</p> | <p>公立</p> |

<高等専門学校>

| | |
|--|----|
| ●まだ対面式の授業の枠から抜け出ていない現状では、試行的に新しい授業としてマルチメディア等を導入すべきと考えています。 | 国立 |
| ●マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用は、大いに進めるべきであるが、高等教育というのはそれが全てではないということを教育する者、教育される者が共に自覚しておかなければならない。マルチメディアや情報通信にのめり込むと、教育の全てがこれで足りると錯覚する恐れがある。現に上記のオンライン上の教育のみで学位取得が可能とかバーチャルユニバーシティとかいった論が出てくるのがこの表れかと危惧してやまない。 | 国立 |
| ●専攻科一大学間での単位互換制度の実現が望まれる。大学の単位をマルチメディア遠隔授業によるものに置き換えて学生にとって興味の持てる授業にすることが急務のように思われる。 | 国立 |
| ●これからの教育用教材として標準的に整備されるべきである。教材開発のノウハウの蓄積と公開が必要ではないか。 | 国立 |
| ●教育環境の構築に関して一学習者との応答が容易に行えること、学習支援システムの構築、同システムの保守・更新が容易であることに関し、教師側、学習側もある程度標準的な操作で実行可能な教育環境の構築ツールの開発を希望します。教材作成（コースウェア）ツールに関して一マルチメディア対応の教材を容易に作成可能なツールの提供が必要と考えます。この場合、作る教官側に教材内容以外の部分で過大な負担をかけないように、従来型の授業の補助に使える教材開発が容易に実行できるツールの出現を望みます。 | 国立 |
| ●進む技術と社会的合意がかみ合っていない。無批判に技術を取り入れず、それをどのように教育に生かしていくかの手順というか、段階的なシステムが必要である。トータルとしての教育効果をはかる尺度がないので、ハードウェアだけ進んで、それを本当に生かすソフトウェアが（あるいはソフトウェアの哲学と言うべきか？）できていない。 | 国立 |
| ●1. 教官の代わりに授業する教材ではなく、授業の補助として使える20-30分にまとめられた教材をたくさん作って欲しい。学校での大部分の授業は、その大半が旧態依然とした「テキスト+黒板」の授業であり、教官もそれに慣れてしまっている。そこに食い込んでいくためには、授業中ちょっと見せてみたいなどと思う良質な教材を準備することが大切である。2. 高専にとって社会人を対象とした生涯教育の方法を利用することは大変大切である。というのは高専卒業だけでは大学卒業を基準とした国際的なエンジニア資格を満たすことができないからである。卒業生が働きながら通信教育によって学士号を取得しやすいようにしなければならない。 | 国立 |
| ●ようやく高照度のプロジェクターをほぼ各学科とも購入したのでパソコン、プロジェクタースクリーンを持つ教室（マルチメディアルーム）の構想ができた。いつでも特別の用意をしないで利用できるようにして図面、写真、フローチ | 国立 |

| | |
|--|----|
| <p>ャート、パソコンの操作、インターネットの情報提示ができるようにする予定である。同時に現在のサーバ群を増強し、学生にノートパソコンを買わせて、もっと十分にCAD、CAIが利用できるようにしたいと願っている。</p> | |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術を教育に生かそうとする際に、予算上の制約による環境整備の不完全さが一番のネックになると思います。それに加えてハード面やソフト面の問題、教育の際のスタッフの問題等、クリアすべき課題は多い様に思われます。</p> | 国立 |
| <p>●マルチメディア利用への教育投資に、現在の所あまりにも経費がかかりすぎる。これが安価にシステム構築が可能となればもっと教育への活用が大いに広まると思われる。</p> | 国立 |
| <p>●今後は積極的に利用を図っていく必要に迫られていると強く感じる。</p> | 国立 |
| <p>●新しい設備を使用することになり、教官や技官の学生に対する教育から少し離れた仕事が増加し、担当者は本来の学生教育との両立に時間が取られ、負担が増える。新規の設備や技術の導入に際し、学内の体制づくりに苦慮している。</p> | 国立 |
| <p>●特にVisualでcomputer-asistedな情報によって学生の動機付けあるいはイメージの展開を助けることは極めて効果的だと考えます。しかしこうした情報を日常的な通常の形態の授業で活用するノウハウの早急な開発が必要だと思います。</p> | 国立 |
| <p>●積極的に活用を図りたい。ただし教育以前の問題として、マルチメディア機器のより広い普及が前提となり、そのためにはより多くの人が日常的に使いこなしていることが前提となろう。</p> | 国立 |
| <p>●マルチメディアやネットワークの教育への利用は、教員から複数の学生への単方向教育を行う場合、従来から行われているコンピュータを利用した教育と基本的に同じであり、教員側の新しい技術への学習、そして現状の教育へどのように利用するかの取り組み次第であると思う。しかしネットワーク技術を教育へ利用する場合に従来と異なる点は、1. 情報の伝達が双方向であること、2. 教材として使う情報が過去の知識をまとめた教科書ではなく、インターネット上のその時点でのコンピュータ上にあることなどがあげられる。このことは教員から学生への単方向の教育以上の効果が期待できる。複数の学生が同時に同内容の学習をしなくてよくなる。大切なことは学生がいつでも自由に使えるネットワーク環境を学校側が提供することであるように思う。又同時にネットワークの使い方の教育をしっかりと行う必要がある。</p> | 公立 |
| <p>●SCSを利用するにあたっての申込方法の簡素化および回線数の増を希望する。</p> | 国立 |
| <p>●高度情報通信社会における高等教育の在り方については、学内教官に色々と話をしているが、まだそれ程の理解が得られていない。</p> | 国立 |
| <p>●大衆教育かエリート教育か。マルチメディアの利用は、今後生涯教育など社会人を含めた教育形態を考えると推進されるべき手段で、広く浅く（安く、うまく、早く）といった大衆教育（生涯教育、リフレッシュ教育）には最良と思わ</p> | 国立 |

| | |
|---|----|
| れる。一方、現場で役に立つ技術者を育てるには結局それに見合うコストが必要である。学校現場では対面教育の補助として最新の生産現場、研究現場を紹介するには役立つと思われるが、逆にマルチメディアを主として他機関の講座を受講する場合は、個別指導が必要であり、かえって負担は増える。また単純に機械的な解答が得られる演習などはソフトで対応可能であるがソフト開発、購入のコストも増える問題もある。 | |
| ●収集した情報を如何に学習者に提示するのか、また設備の設置や更新の費用の事等多くの問題がある。 | — |
| ●基本的には今後さらに利用を進める方向で、臨みたいと考えています。限られたインフラの中でも出来ることはかなりあるもので、「出来るところ」から着実に実現したいと考えています。 | 国立 |
| ●本校は平成12年度からマルチメディア教材配信システムが稼動する。またSCS事業に参画して遠隔教育にも取り組む予定である。ハイテク機器を用いた教育は、新しいという意味で興味があり、視野も広がり、一流の教育を受ける機会が増し、大いに結構なことである。しかし教材作成や準備をうまくしないと単なる機械との対話だけになり、血の通った教育にならない危険性がある。授業形態を変更すべき時代を受け入れていかねばならないが、機械が行う教育であってはいけないだろう。 | 国立 |
| ●マルチメディアと通信技術とは切り離して考える事ができない。残念ながら現在のマルチメディア通信技術はいくつかの障害がある。・設備、通信費が高額である。・維持管理に専門的な能力が要求される。・性能的に大量のトラフィックを処理する技術が確立されていない。従ってマルチメディアはビデオがDVD-ROMに置き換わるというメディアのレベルでの進展だけが当面続くと予想される。通信は文字情報と音声の融和が図られるだろうが、画像情報まで双方向になるのには、まだ数年を経ないと一般的にはならないだろう。しかしマルチメディアが双方向になるのは、ごく近い将来のことであり、高等教育機関がこのような近未来にどのように対応していくかを積極的に模索し、実験を重ねる必要がある。 | 国立 |
| ●授業において、機器の準備の都合等で言葉や文章による説明のみで済ませている内容をより効果的に説明するために、標記の技術はもっと積極的に利用されるべきだと思う。 | 国立 |
| ●インターネット利用の場合、ギガビット回線への変更が必要である。また、ソフトの開発に時間がかかるのが問題である。加えて、専門知識を持った専属のスタッフが必要である。 | 国立 |
| ●マルチメディアを駆使して、工学の基礎科目の物理現象等をイメージして伝えることができれば、受講者の理解はより具体的なものとなる。そのための教育素材の活発が今後の課題であると思われる。そうすると工学実験などの実習科目も実際の測定器を用いる形態ではなく、試材から測定器まで全てバーチャル | 公立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>な工学実験も可能となる。これにより実験・実習にかかるコストの削減につながり、学生一人1セットの実験も可能となり、危険も少なくなる。当然、現実の測定器使用経験も果たすことは必須である。情報通信技術は今後、人間の六感全てを伝えられるように発展していかなければならない。もしそれが不可能であるならば、バーチャルリアリティは実現化しても、実際の教室で行われる講義は超えられないと思われる。</p> | |
| <p>●細かい図や動画的な説明はマルチメディアが良いと思う。またその方面の専門家による画像を見ることも良いと思う。ディスカッションなどをネットを介してまたは、双方向通話を介して行うことでより効果的な教育ができると思われる。積極的に進めたいが1. 同意と2. 経済が問題である。第1点については貴機関のような専門集団がPR活動を展開し、環境づくりをしていただければ有り難い。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●従来、遅れを指摘されることの多かった教育施設におけるインフラストラクチャの整備が次第に整いつつある現在、我々が直面しているのはソフト面の整備であり、この点においては各担当者間の取り組みに大きな格差が見られる。語学教育においてLL設備が犯した過ちを繰り返さないためにも、マルチメディアを介した教育形態に則したソフトの開発が急務である。現在のネットワーク社会の発展に初期段階で世界共通フォーマットのWWWブラウザであり、メーラーであったように、今後は各分野に共通のソフトの開発が待たれる。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●これまでの教室における授業形態を中心とした方式からマルチメディアを利用する形態へと移行することで新しい授業方法の方式が確立できると思う。しかし、設備導入、指導スタッフの充実など解決する問題は多い。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●学生には従来から行われている基礎技術の他に、常に前をみた最先端技術を教育していく必要があると思う。このことが新しいものを生み出す原動力となると考える。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●マルチメディアや情報通信技術は、ますます発展し、教育上必須となってきている。機器、ソフト及び使用料等のコスト低減により、環境整備がより容易となることを強く望みます。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●ネットワーク利用や様々な機器に触れる機会を増やしたいと考えている。ネットワーク対応の演習室が一室あるが、学生が日常的に活用するには台数が少なくあふれてしまう。予算措置を望みたい。本校では全教職員がネットワーク接続したパソコンを使用している。しかしカメラ、マイク等は付けられず、マルチメディアの十分な活用に至っていない。これについても予算措置が望まれる。また教育・研究・事務でネットワークが活用されているが、サポート専任の定員が望まれる。当該技術の利用が懸案の全てを解決する訳ではないが、利用による学生の理解力の向上や積極性の発揮など、プラスの側面が考えられます。特に初期投資がかかるにしても制度完成以降はコスト以上の効果が継続することが多いと思われますから、効果検証を慎重に行いながらも、積極的な利用を</p> | <p>国立</p> |

| | |
|---|-----------|
| <p>図るべきであると考えます。</p> | |
| <p>●マルチメディアは有効であるが、利用のための環境（いつでも誰でも好きな時にすぐに使える状態になっている）を用意するのが大変。専従者が常時メンテナンスする必要あり。コンテンツの制作がコストの面と時間の面が高負担。SCSは本当に有効に機能しているのでしょうか。国の補助はいつも物に対してしか行われていない。本当に大変なのは導入した後の運用維持。</p> | <p>私立</p> |

4. 自由記述Ⅱ

オンライン上の教育のみで学位取得が可能な、いわゆるバーチャル・ユニバーシティについてどのようにお考えですか。

<大学本部>

| | |
|--|----|
| ●評価に問題あり。 | 公立 |
| ●あくまで授業の補助としての活用が望ましい。 | 国立 |
| ●条件付だと思われる。科目によっては実習や実験が必要。 | 公立 |
| ●大学の役割との関連によるが、大学が単なる専門教育の場として知識を与えることを目指すなら、バーチャル・ユニバーシティの構想は十分現実性を持つ。但し総合的な人格形成等、人間教育を含むような場合に、Face to Faceの対応も必要となるのではないか。 | 私立 |
| ●学位に足る能力・見職を習得したと判断されれば、授業の形式には依存せず学位取得を認めるのが筋ではある。大学としてはメニューを増やして学生の数を確認する方法で経営の安定化を目指すのも一つの選択ではあるが個人的には地域・社会から質の高い研究を期待されて寄付される資金が経営を安定的なものにしている大学が理想のように感じられる。時代（インターネット活用時代）の必然であって、必ずそうした教育の時代（インターネットハイスクール、インターネットユニバーシティ）が来るものと考えている。従ってアメリカの教育の輸出を阻止するためにも、双方向性を活用した学習システムの構築を急ぐことが必要である。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは、放送大学のように、地域格差の是正や学習人口、低辺拡大には効果がある。しかし、オンライン教育のみでの学位取得は、特定の分野（何がよいかは別として）に制約する方がよいであろう。とくに、理工系の分野においては、実物を相手に作業することが不可欠である。この意味では、シミュレーションだけでは作業は完結しないという立場である。一方、自大学にない設備や講義を広く開放するという点では、期待するものは大きい。 | 私立 |
| ●課題提出等に関して、本当に本人の作業なのか等の確認が困難なのでは？と思う所はある。 | 公立 |
| ●現在は考えていない。 | 公立 |
| ●少子高齢化社会の到来の中で、大学が今後生き残っていくためには18歳から22歳までの伝統的な学生層とは別の新たなマーケットの開拓が必要となる。そのためには大学は、マルチメディア等を利用した教育・学習方法を提供していくことが求められよう。その意味で、新しい形態のバーチャル・ユニバーシティを作ることは有効であると考えている。 | 私立 |

| | |
|---|----|
| ●ネットワークを利用しての学位取得は、今まで様々な問題（社会人・遠隔地・障害者等）で大学で学習が困難であった人が学習の機会を得ることができると思う。それには通信回線の質、安全性などが必要になると思う。 | 私立 |
| ●オンライン上の教育は様々な利点があり、普及してくると思われるが、それだけ学位取得というのは、無理があるでしょう。 | 私立 |
| ●今後、あたりまえに行われてしかるべきシステムである。 | 私立 |
| ●不可能。 | 公立 |
| ●今後の一つの教育のあり方と位置付けられるが、周辺制度整備・条件設定等の問題を見極める必要がある。 | 国立 |
| ●1. 一般教養の場合、特に英語はネイティブとの会話や動画を見ながら会話練習ができ非常に有効と思う。数学・物理・化学等ではレポート提出等のフォローが必要であろう。2. 専門教育の場合、文系及び数学・物理学ではバーチャル・ユニバーシティは可能と思うが、実技を伴う工学・農学等では実験・実習の場をどのように設定するか問題である。 | 私立 |
| ●最近、本学の教育から外国の大学による地球環境科学に関する授業が良くてできるとの話を聞いております。この例のように教授層では諸処でバーチャル・ユニバーシティの議論がなされております。しかし、本学では、自らバーチャル・ユニバーシティの制度化は、試みられておりません。問11に述べましたが、大学院修士課程で、理数科学専攻が半分この機能を利用しております。 | 私立 |
| ●現状のオンライン教育（情報機器利用）について、有効性の判断をする材料に乏しい。また、ユーザーより教員側の操作や技術水準を向上させる事が優先課題と思われる。 | 私立 |
| ●社会人を対象とした大学院教育に有用である。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティを通信教育の一つの形態として実施するのであれば、それは好ましいことだと思います。ホームページや電子メールにより、個別あるいは学生全体に周知・指導することが可能であるだろうし、チャット等を利用してリアルタイムに質疑応答などを行うことができれば、教育指導の補完も行うことができ、既存の通信教育と同様な扱いも可能ではないかと思います。むしろ、インターネットを利用することにより「教員と学生によるリアルタイム質疑応答」が活発に行えたとしたら、現行の通信教育より教育指導方法としては有効であるかも知れません。 | 国立 |
| ●人と人との接触が教育の重要な要素であると思われるので、バーチャル・ユニバーシティがそれを排除するものであれば賛成できない。 | 私立 |
| ●一部の大学に片寄らないような仕組みで、豊富なカリキュラムの提供ができるようになるのが望ましい。 | 国立 |
| ●授業形態および履修学生の認定や出席管理方法を工夫しないと、現状と同等の授業ができないと考えている。これらの問題を克服すれば、より柔軟な授業が可能と考える。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●アメリカの大学のように厳しい教育システムが実施されれば、Virtual Universityによる学位取得も可能であるが、今日のように低いレベルでの教育では、オンライン教育は不可能なように思う。あと一点、スタッフが少な過ぎるので、教材の作成・成績評価・レポートの評価等、教育に十分な労力・時間をかけられない現実がある。「…、マルチメディアの活用Ⅱ海外編」にあるように、UCでは170,000人の学生に対し、140,000人の教職員がいて、はじめて可能になるように思う。 | 国立 |
| ●今後、その方向に進むと思うが、実験実習（野外調査等を含む）を伴う分野で、オンライン上だけの教育で学位を授与することは困難であると考える。 | 国立 |
| ●イギリスのオープンユニバーシティやオーストラリアの各大学に設置されているフレキシブルラーニングセンターの例を見ても、オンライン上での教育で単位取得は実現可能であると思う。この場合、タイムフリー（いつでも）、スペースフリー（どこでも）は、オンライン上で実現可能であるが、インストラクターフリー（自学自習形式）を実現するためには、わかりやすいテキストや教材が重要なポイントとなる。この自学自習形式のコンテンツの開発には時間と労力、そして試行（トライアウト）が不可欠である。フレキシブルラーニングセンターのような独立した組織・スタッフの整備が不可欠である。 | 国立 |
| ●今後、対応していかなければならない項目の中でも重要な1つである。 | 私立 |
| ●近未来型のシステムであると思うが、対面教育にも多くの利点があるので、慎重に考えなければならない。 | 私立 |
| ●時代の趨勢としては、オンライン上での教育の実現に向けての更なる努力が望まれるところであるが、一方で対面教育に対して教育効果という点については必ずしも評価が定まっているとは言えず、学位取得に至るまでにはなお時間が必要であると考える。 | 私立 |
| ●今後の取り組みの一つとして可能性もあり、重要なものであると考えられます。ただまだ情報が不足しているので、今後の動向については情報を集めて、詳しく検討する必要があると思います。その上でいくつかの問題点について述べたいと思います。インフラの整備の問題もあります。コストがどの程度かかるのか。1. 有名大学ならば学生が集まる可能性はあるが、それ以外の大学ではどうなのか。2. 日常の接触がないため、学生の定着率はどうなのか。3. 通信上の交流ではなく、数週間程度、直接対面して交流する必要があるのではないのか。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティに関して、オンライン上の教育は1つの手段としては有効であるが、すべてをオンラインで処理することは困難であり、やはり対面教育も必要であると考えます。 | 私立 |
| ●今後の検討課題としたい。 | 公立 |
| ●未検討。 | 公立 |
| ●対面式授業があつて、その上でオンライン上の教育があるのなら（つまり対面 | 私立 |

| | |
|---|----|
| 式授業の補助としてオンライン上の教育がある) 良いのだが、オンライン上の教育のみというのは、通信教育のようでもあり、賛成できかねない。学生同士、学生と教職員の人間的ふれ合いも、大学教育における大切なものとする。 | |
| ●大学として積極的に取り組んでいくべき事項で、今後の少子高齢化社会に向け、これまでの通信教育のあり方を抜本的に見直す必要があると考えます。ただし現状の制度(文部省の単位認定の上限等)では、実現まで多くの課題があり、より一層の規制緩和と制度改革が必要不可欠と考えます。 | 私立 |
| ●学生の積極的な取り組み姿勢と実質的な評判体勢が必要。 | 私立 |
| ●学位の概念を単位取得の延長上にあるものとみなすならば可能だが、人格的指導を含む人間関係の上で学位が取得されるとみなすならば、いわゆるバーチャル・ユニバーシティにおける学位取得は認めにくい。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは今後ますますグローバル化していく世界においてもその確立が必要である。ただしカリキュラム、教材、評価方法のあり方の確立が課題である。 | 私立 |
| ●現在未検討。 | 私立 |
| ●(動) 画像などを利用したわかりやすい教材が揃っていれば、学位授与も視野に入れたバーチャル・ユニバーシティは可能であるとする。ただし、このような教材を、だれがどのように作成するか、常に新しく更新する体制ができるか、など多くの問題がある。放送大学のように、それなりの機関で作成したものを利用するのであれば大学個々の特徴がいかされないことになる。すなわち、一般教養的な分野においてはある機関で作成したものを利用することができるが、大学の特徴を生かさなければならぬ分野、常に新しい教材を取り揃えなければならぬ分野(先端的な分野)などは教材を作成する負担が大きくなるので、人的体制が整えば可能であるとする。なお、卒業研究等の研究指導に関しては登校が必要である。 | 国立 |
| ●オンラインのみで教育を行う場合、1. 学力が低下するのではないか。2. 対人との討論、会話がなくなるのでは。3. 成績評価はどうするのか。等の問題があると考えられる。 | 国立 |
| ●画期的な意識をもっと考えられる。 | 私立 |
| ●対面教育を教育の基本とする点については今後も変わらないとする。情報通信技術を利用することによって得られる利点を活用することによって対面教育でないことによる欠点を十分にカバーする方法や技術の発見・確立については、更なる研究・経験が必要となろう。現在、種々の実験を通して問題の明確化とその解決努力がなされているが、長期的な観点からのこの種の調査・研究を支援していくべきとする。 | 私立 |
| ●教育をすべてオンライン上でのみで行うということには、違和感があり、あまり魅力も感じられない。というのも、オンライン上のやりとりだけでは相手が見えない。そのため個人に応じたきめ細かな教育が出来ないという大きなデメ | 国立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>リットがあるからである。しかし、訳あって通学が困難な人にとっては家庭で修学できることは大きなメリットになる。空間的なとらわれがなくなるため、一つの大学にこだわらずボーダレスに教育を受けられる。時間的にも制約がなくなり生涯学習を希望する人に教育の機会が増大する。又、閉じられている大学という場所が世界へ解放されるよい機会となる。大学教育がオンライン上のみで行われるバーチャル・ユニバーシティという発想は極端すぎるように思われるが、一部の授業がオンライン上で行われたり、今ある大学の補助的存在としてバーチャル・コース程度のものが併設されることになれば大い歓迎されると思う。</p> | |
| <p>●社会人・学生にとっては、国内外を問わず、志望する大学の学位取得が地域的、時間的制約を越えて可能となり、今後大いに期待できるのではないかと思う。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●オンライン上のみであっても、講義部分はビデオ・オン・デマンドで供給して任意の時間に視聴できるようにし、これと質問、アサインメント、それに対する添削などを施すことは既にまったく問題ないところであるから、今日の日本の大学の授業形態の大部分は置換可能であり、従来の通信教育よりもはるかに優れた教育を行うことは可能である。したがって、高等教育のユニバーサル化段階にあっては、大学教育の相当部分がヴァーチャル・ユニバーサル化することは可能であるのみならず、望ましいと考える。ただし、対面教育のすべての部分が置換可能であるとは考えられない。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●（教育）分野にもよると思われるが、総じて有効な教育方法と思われます。教育を受ける機会を大幅に拡大させます。将来的には、映像・音声も十分利用可能となり、リアルタイムの双方向性にも対応できるようになると思われます。アメリカではすでにインターネットだけを利用して学位取得が行われているそうです。教育の機会均等と多様化の一つの方向と思われます。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●日本でも、今後自然科学系の学問分野を中心に普及していくと思われる。社会人教育にも生かされるであろう。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●制度はあってもよいが、医学部では実習が重視されるため。大幅に取り入れる事は、困難と思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●21世紀を迎える上で、コンピュータによって仮想環境を作り出し、それがあたかも現実の環境のように知覚し、その中で行動することの教育は確かに必要です。又、その中でステレオ画像などの最新CGの技術を駆使して仮想空間を表示する教育も魅力を感じます。これからの時代は、オンライン上で教育が益々変化すると私は、考えます。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●教育の基本は、学生と教師の対面・対話にあると考える。オンライン上の教育は、この教育方法の補完を行うには適しているが、オンライン上の教育のみで学位取得を可能とすることについては、問題がある。</p> | <p>国立</p> |
| <p>●各大学の特色ある教育と教育者個人から育つ人間性などが失われる可能性があるが、生涯教育的な側面からメリットが大きい。しかし、バーチャル・ユニバ</p> | <p>私立</p> |

| | |
|---|----|
| ーシティと同じくらい、若人に個性を育くむ環境整備に力を入れるべきである。 | |
| ●検討したことが無いので、何とも言えませんが、本学の場合、美術学部があり実習系の課題についてはバーチャルでは不可能と考える。芸術分野（音楽・美術等）の大学では、理論系に限られるだろう。 | 私立 |
| ●巾広いニーズに応えるものとしては有効であると考え。しかし学位を与えるための認定方法によっては値打ちが落ちる心配がある。教育コンテンツの内容レベルは上がるものと期待できるのではないかと思う。 | 私立 |
| ●社会人を対象に専門的な知識の補完として役立つ。 | 公立 |
| ●社会人教育を中心として、今後の方向を考える。ただし問題は運用組織をいかに充実させるかであり、これが教育の質を大きく左右する。したがって何らかのガイドラインが必要と思う。 | 公立 |
| ●いわゆるIT技術の進展により、この様な方法が可能になったと思われる。確かに時間を超越した教育ではあるが、教育内容面において、その質が確保されるのか疑問である。指導する側の体勢や評価方法を十分検討する必要があるのではないか。 | 私立 |
| ●受講している学生が本人であるかどうかという確認を、どのようにして行うかが問題になるのではないのでしょうか。 | 私立 |
| ●時間と場所が特定されない授業が可能となり、教育にひろがりが出てくるうえ、繰り返し授業が不要となり、授業導入の事前学習も可能となることが利点と言える。反面、人と人のふれあいが少なくなり、物の質量感が希薄になってしまうおそれは否定できない。又、教材研究面では新技術に対応していくための時間と技能が必要となる。スタッフ、教材といった要素も含め、コンテンツの開発には費用がかかるという問題もある。 | 私立 |
| ●一部の研究科について、学位取得を希望する多くの人々に門戸を開放することとなり、社会と遊離しがちな大学院の存在をより社会と密接な関係と導くと考えられる。 | 私立 |
| ●完全にオンラインで終了するばかりでなく、オフラインのセミナーへ参加する事でも単位を取れる様にすべき。オンラインのみでは個人の努力は続かない。たまには、生の人間に会うチャンスがあった方が良くと思う。 | 私立 |
| ●今後社会では、自宅にいながら仕事をするといったネットワークを利用していく傾向が見られるなか、学校でもネットワークで先生方とやりとりしていく時代がくると思われる。こうした中で最先端の技術を習得していく事も大事ではないかと思う。 | 私立 |
| ●近い将来、このような事が当たり前の事になっていくものと思われる。本学において、どうかについては現在のところ未だ分からない。 | 私立 |
| ●遠隔地や社会人の学生など学生層が広がるのは非常に魅力的だと思います。その一方で、従来の学位取得との関係を考えていく必要があると思います。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●基本的には「対面授業」が望ましい。 | 私立 |
| ●生涯学習による成果を公認する社会通念が出来るように思う。 | 私立 |
| ●働きながら学位取得が可能となり、生涯学習の時代にはもってこいの方法なので、積極的に推進すべきである。 | 国立 |
| ●ある程度の結果が出ないと分からないのでしばらく様子をみたい。 | 公立 |
| ●教材の開発、学習課題達成の評価法など克服すべき問題が多い。オンライン上の教育と講義の出席を併用する方法が現実的である。 | 公立 |
| ●メールを中心とした非同期の授業であれば、社会人もどんどん参加出来るので推進すべきである。社会人も好きな時に大学教育を受けることができることは時代と社会の要請でもあり、そのことによって、社会の変革すら起こる可能性がある。 | 国立 |
| ●大学学部宛てアンケートと同じ。 | 私立 |
| ●本学での規定はかなり難しいと考える。 | 公立 |
| ●高等教育の多様化の観点から積極的に推進すべきである。 | 国立 |
| ●本学では、各授業科目の講義に対する実験・実習に重点を置いたカリキュラムの運営を行っており、その観点からすると、全ての単位を取得可能とすることについては現段階では不可能かと思われる。 | 私立 |
| ●客観的な授業評価も実施しやすく、教員と履修者との双方向性を大前提として確保出来るのであれば、大いに促進されるべきであると考えます。対面式であろうとオンラインであろうと教育のコンテンツが最も重要であり、本来的なものであることにかわりありません。 | 私立 |
| ●資格取得については、適正な認定制度がある限り何ら問題はないが、学位取得に関しては一定期間の対面教育が必要になるのではなかろうか。双方向、複数、同時討論といった条件が整えば、対面教育の必要性はかなりカバー出来ると思われるが、設備費用等で現在では問題が残る。 | 私立 |
| ●地理的な制約に左右されず自由に好きな講義を受講出来るようになるため、全地球的な規模での新しい教育形態として大きな可能性を秘めているものと思う。しかし、実験や実習を伴う自然科学系の科目や、人を相手にする社会科学系の科目の中にはオンライン上のみでは十分でないものもあるため、オンライン上の教育のみで学位取得が可能であるか否かについては疑問がある。 | 私立 |
| ●教育の一形態として、有望であると考え。但し、分野による適性や具体的な方法論については、試行錯誤を含めた研究が必要。 | 公立 |
| ●医師養成校なので、実際の手技・患者さんとの対応等が重要であるため、オンライン教育のみでは単位を認定出来ない。 | 私立 |
| ●今後、広く展開されてゆく分野だと考えます。 | 私立 |
| ●本学のようにカリキュラムに実験・実習を含み、かつ、それが重要な要素をしめる歯科大学や理・農・工・医・薬学系の大学や学部では不可能であろうが、現在行われている文系の大学通信教育で行われている教育（情報通信系の講義 | 私立 |

| | |
|---|-----------|
| <p>も含む)はすべてオンライン上で可能であるし、もっと充実した教育が出来ると思う。また、各種専門学校で行われている教育も可能かつ充実出来る。ただ、日本のインターネット回線インフラが現状のままでは、バーチャル・ユニバーシティは夢である。低・定額料金で常時接続が可能で、最低1MBくらいの回線速度がないとオンラインで授業を受ける気はしないと思う。また、教員・学生のパソコンリテラシーが向上しないと質疑応答が難しく、単に講義を聴くだけ(見るだけ)の垂れ流し教育になりかねない。従って、バーチャル・ユニバーシティに不可欠なのは、ハードとしてはインフラの整備、ソフトとしては教員のスキルの向上と小中学生くらいからのメールやネットワークの使い方の教育である。また、基本的な教育環境として、小中学生の頃から自分の意見を述べる習慣あるいは環境も必要と思う。</p> | |
| <p>●将来的には可能と思われるが、オンライン教育に適した科目や学科があつて、全ての教材についてオンライン教育がふさわしいとは思わない。当面は対面的な授業の補助として導入し、効果を見ながら拡充してゆくのが良いのではないか。しかし、教材を整備する担当教員の負担は大きいであろう。オンライン教材の開発に携わる教員が内容に専念できるように実用的な商業ベースのプロトタイプをもとに容易にカスタマイズできるような専門開発ソフトが必要と思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●現在の技術では可能と思われるが、対面式による人と人との授業には勝てないと思う。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●教育は、知識や技術のみを対象とするものではなく、全人格も対象とすべきものと思われるので、弊害も考えられ、結果として取り返しのつかない事態を招く恐れがある。人格の陶冶はリアルの世界で行うのが、我々にとって使命と思われる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●オンライン上の教育にインターネット等を利用することにより、情報の発信・受信の双方向性・自由性・即時性・広域性・利便性などの特性に基づき、居ながらにして迅速に情報発信が出来る。これにより優れた指導者に地理的なハンディを越えて指導が受ける事が出来るが、利用の集中による順番待ちや知的財産権の問題等が同時に発生する。又、コミュニケーションがとりずらいため、一方通行的な授業になる可能性がある。今後、これらの問題を解決していけば、かなり有効な教育であると考ええる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●フェリス女学院大学にとってはそれほど意味があるようには思えない。「バーチャル」な伝達は双方向であっても直接対面コミュニケーションに比べて情報量・質ともにきわめて大きな落差がある。部分的・補完的な利用は否定しないが、本学のような少人数教育の実践は、むしろバーチャルでなく直接対面して実現されうる人間的な交流・信頼関係を基本としているところにその重要性があると考ええる。</p> | <p>私立</p> |
| <p>●大学に行きたくても行けない社会人や主婦の人達にとって学習する機会が増え</p> | <p>公立</p> |

| | |
|--|----|
| <p>ることはとても良い事だと思います。</p> | |
| <p>●現在の技術は、対面式授業を完全に代替できるものではないですし、また、学生間、教師と学生間のインフォーマルな交流も教育上重要であると思います。技術が進歩してこれらの問題が解決されるとき、バーチャル・ユニバーシティの意義が生じると考えております。</p> | 私立 |
| <p>●理解能力、授業への取り組み姿勢の把握が困難。</p> | 私立 |
| <p>●オンライン上の受講者が間違いなく本人であることを認証するのが難しい。実験学習がオンライン上では不可能教育可能分野が限定されるのではないか。</p> | 私立 |
| <p>●近年少子化の進展と共に、生涯教育のニーズが高まっている。生涯教育では、社会人の再教育が増加しており、特に大学院ではその傾向が強く、本学でも都心にサテライト教室を設置し夜間の授業を行っている。オンライン教育を行うバーチャル・ユニバーシティでは、時間と場所の制約が大幅に改善出来るので、上述の生涯教育、社会人教育の方法として有効と考える。ただし、オンライン教育内容の充実とオンラインレポート提出・論評の多頻度化を行って、教育レベルの維持と向上、教員と学生との親密化を計ることが重要である。この条件が満たせるならば、バーチャル・ユニバーシティに賛成であり、その設置に希望する。</p> | 私立 |
| <p>●非常に魅力的なことであると思うが、現実的には多くの問題がありそうである。本学の場合：・コンテンツの内容。◎情報通信技術を利用する能力（教員と受講者）。・課題の提出と評価の方法。・基盤システムの構築等関わる全てのものに対してゼロからスタートになるといった状況である。</p> | 私立 |
| <p>●理系の場合、バーチャル・リアリティーで実習が修得出来るかどうか問題である。</p> | 国立 |
| <p>●生涯学習社会化の観点から意義をもつと考えられるが、制度上、組織上、現在の高等教育システムと別な独立したものとして推進するのが望ましい。</p> | 国立 |
| <p>●オンライン教育のみで学位を与えるのは学生のレベルダウンにつながってしまうのではないか。オンライン教育は授業の補助のみの目的で使うべきである。</p> | 私立 |
| <p>●・学習の習熟度の客観的判定方法。・教材の充実。・教員のオンライン用技術の修得。などが課題となるかと思われる。</p> | 公立 |
| <p>●そのような可能性があるということは十分に魅力的ではあると思うが、大学の教育の質が広がることに注意をはらわなければいけないと思う。高等学校までが、大部分現在のような学校における対面式授業であり、大学からオンライン上の教育のみとなるのだから、対面式授業を行う大学とのはっきりした区別が必要であろう。工学部に関していえば実験を実際にやらず、ネット上だけで、体験した場合かなり危険な側面があるように感じる。当分の間はあくまで対面式の授業の補助的存在ではないだろうか。ただし、VRの技術の進歩やコンテンツの充実などにより、予想よりはやくバーチャル・ユニバーシティが立ち上がる可能性も否定しない。</p> | 私立 |

| | |
|---|----|
| ●本学は文学部のみの単科大学であり、一学年の学生数が400人程の小規模大学である。それゆえ可能な限り小人数による授業を目指しており、当面は本学教員が積極的に学生と接触を計るべくカリキュラム改正を計画している。従って、質問の意義は目下必要なしと考えている。 | 私立 |
| ●1. 教育機会の拡大という点で良いことである。2. 修了者に対する社会の正当な評価が得られる状況を作る必要がある。つまり、新しい“差別”の対象とならないように権威ある実体とする努力が必要である。 | 私立 |
| ●時間や教室などの制約がなく自由度が高いことは、教育の場・方法として大変有効であるとする。しかしオンライン上ではない人との直接コミュニケーションの機会も学位取得については必要であり、重要であるとする。 | 私立 |
| ●薬学分野では、オンライン上の教育のみでは学位取得は不可能と考える（実習も必要なため）。講義には利用可能。 | 私立 |
| ●現在、各大学において社会人の積極的な受入れを行うため、社会人を対象とした特別選抜制度の導入、夜間その他特定の時間又は、時期における授業を組み合わせた昼夜開講制の採用、サテライトキャンパスの設置等様々な取り組みを行っている。しかし、決められた時間帯に講義を受講することが困難な者や、通学が不可能な地域に居住する者など学習を希望しながら地理的・時間的制約から学ぶ事が困難な社会人も多数いると思われ、こうした学生に教育を提供することが可能となるバーチャルユニバーシティの設置は必要であるとする。 | 私立 |
| ●授業形態の多様化の一つと考えられるが、現状では社会人等に限定した大学院または夜間且つ少人数のカリキュラム展開での有効性しか認められない。 | 私立 |
| ●文科系では可能と考えます。当校は医学部のため不可能と思われます（法律上）。 | 私立 |
| ●芸術系、特に音楽を専門とする大学にとっては難しい。 | 私立 |
| ●学生の学力差とコンピュータの技術力の差の区別が付きにくい。目的が明確でないと、ただパソコンの使い方が上手いだけになる。 | 私立 |
| ●科目によっては、可能となると考える。 | 私立 |
| ●学生だけではなく、教育を受ける機会の限られた社会人から高齢者・障害者にまで広く学習機会を提供することは、大学の社会的使命。大学が中心となって教育プログラムを企画する。その一部は他大学の科目であったり、企業や他の知的資源を有する機関が提供する科目になるかもしれない。時空の制限を越える為にデジタル化情報技術が利用される。教育メソッドもネットワーク型授業に対応していかなければ、大学の使命を果たすことが出来なくなる。 | 私立 |
| ●特に学習効果の確認や本人の認証の問題なので技術的な進歩が必要と考えている。 | 私立 |
| ●あまり望ましいとはいえない。個人の識別等、セキュリティーも難しいと思われます。 | 私立 |
| ●本人が受講しているかどうかの確認が難しいのでは？ | 私立 |

| | |
|---|----|
| ●・今後そういった方向になると予想されます。・また単位互換制度などと合わせて、学習者のニーズに合わせた生涯学習システムの構築が望まれます。・なおオンラインシステムの普及には、ハード面のみでなく人的資源（つまりサポートスタッフ）の充実が不可欠です。 | 国立 |
| ●net活用における学位取得を行う場合、文系等は可能ではないでしょうか。 | 私立 |
| ●将来的には十分可能と思われるが、現在のところオンライン上の教育と対面授業の併用による方式が現実的と考えられる。 | 私立 |
| ●積極的に進めるべきである。 | 国立 |
| ●全ての講義がオンライン上の教育のみというのは問題が多い。やはり対面講義でなければ、議論が生まれるようなコミュニケーションは成立しない。講義の一部に取り入れる程度が限度ではないだろうか。しかし、生涯教育という面からはオンライン上の講義は有効な手段と思う。一部の科目に対して、科目履修生のような形で、オンライン上の講義により単位取得を認めることは意義が大きい。情報の一方的な提供だけに終わらせないような工夫は、必要ではある。 | 私立 |
| ●これからは講義の質が問われる時代となる。そこでは、すべてデジタル化され遠隔講義にも適用される。よって大学間交流や社会人、生涯学習教育の視点からもバーチャルユニバーシティは必要であると考えている。 | 国立 |
| ●学部学科によっては、バーチャルユニバーシティ構想も可能であるかもしれないが、看護等の医療系の学部学科については、現場での教育に大きな意味を持っているので不可能だと思われる。 | 私立 |
| ●教育形態としては良いと思うが、ユーザー認証、授業料の徴収等が問題になってくると思われる。 | 私立 |
| ●知識教育に偏り、人間同士の直接交流によって育まれる人格形成の機会が減少するおそれがある。 | 私立 |
| ●実験・実習科目のバーチャル化は、まだ時間のかかることと考えられるが、座学形式の科目については現在の技術レベルで十分可能であろう。 | 公立 |
| ●体制を作るための時間とコストがかかる割に効果が少ないと思う。又、学位を認めるための仕組作りが課題（公正さや本人の認証など）。 | — |
| ●実際に対面する機会が少なくなるために、人格形成に支障があるのではないか。その事に関連し、社会や組織への適応能力も育ちにくいのではないか？ | 私立 |
| ●不可能である。 | 私立 |
| ●実習等をどうするか。 | 公立 |
| ●社会人の生涯学習として、学位取得がオンライン上（インターネット）で可能となるため、有効なシステムだと思う。 | 私立 |
| ●本学建学理念になじまない。 | 私立 |
| ●社会人に学習の機会を提供するためには、是非とも必要である。特に非同時的に学習できるインターネットの利用は、今後ニーズが高まるものと思われる検討を要する。 | 国立 |

| | |
|---|----|
| ●日々情報化が進み、日常生活の全てがオンライン上で行える時代も遠くないような現在、大学授業のオンライン化も例外とは言えなくなっていると思います。事実本学のある学部でもバーチャルゼミナールを実施する事を検討していたこともあります。オンライン上の教育は、遠隔授業と同様に技術的には可能であると思いますが、実際に全ての教育がオンライン教育に適しているかどうかは疑問です。そのコンテンツを考えるとともに、これを実施する教員とサポートする職員の技量や体制面、加えて費用面を考慮すると教育の実施には時間を要すると考えます。ましてや単位取得ではなく、学位取得となりますと実施するのは難しいと考えます。 | 私立 |
| ●社会人とくに主婦層、高齢者に対する大学開放、正規生としての在籍などの面から活性化が期待されるものと思われる。 | 私立 |
| ●法的な問題が解決されれば、そのような大学も（通信教育による大学のように）必要と思われる。しかし、大学は知識だけでなく人間関係の学習も重要と考えられるので、そのような問題をVirtual Univでも解決しなければならないと考えている。 | 私立 |
| ●今後の検討課題であると考える。 | 私立 |
| ●技術取得を目的とした単位の取得については有効と考えるが、総合的な学習成果を問題とする学位取得については対人関係の教育が必要であり、それのみで行うことは適切でないと考える。 | 私立 |
| ●将来的には十分可能と思われるが、現在のところオンライン上の教育と対面授業の併用による方式が現実的と考えられる。 | 私立 |
| ●特定分野で目的が明確で、かつ限定的な学習目標を持つ分野では有効と思われる。 | 国立 |
| ●本学のように実技授業が学位取得上重要な学科を多く抱える大学では、バーチャルユニバーシティでの学位取得は現実的ではない。バーチャルユニバーシティの実施を高等教育機関全般に強制したり、評価基準内容に盛り込んだりすることは適切でないとと思われる。 | 国立 |
| ●教育の基本はface-to-faceである。これにITで教育改革をすすめる中で、VUの構想が創出されると考えます。従って教育の場でITを十分に活用した上で、UVを構想すべきと考えています。 | 私立 |
| ●教育の機会均等の立場で高等教育が開かれ、社会人学生等の増加が見込まれることは望ましいが、学問分野や授業科目等の中には対人関係を介しての教育の必要性が感じられるものもある。例えば、医学・教員養成系のものが挙げられよう。 | 国立 |
| ●バーチャル大学の登場は、情報化社会に於いて必然的方向であり、教育の機会の拡大は社会にとってもプラスになると思われる。但し、既存の大学にとっては日本社会の少子化に加え、新たな経営環境の変化をもたらすであろう。特に、大学設置基準等の規制緩和と相まって高等教育への異業種からの参入も含め、 | 私立 |

| | |
|---|----|
| 競争の激化が予想される。いずれにせよ教育の内容（コンテンツ）をめぐる大学間の競争になるであろう。 | |
| ●授業内容が豊富になり、学生の選択肢も増すのでこの傾向は好ましいが、通信環境、個別指導、単位認定制度等の問題点も多い。 | 国立 |
| ●医学部のような実地体験教育が求められる分野では、スクーリングのようなものでも代替することは不可。特に高学年では、患者とのコミュニケーションスキルを習熟することが必要なため、コンピュータシュミレーションによるバーチャルリアリティ（VR）では、実地教育が出来ないため絶対に不可。なお、博士号および修士号の学位取得は、個人ごとの研究成果が評価された結果であるため、教育とは別のカテゴリーの問題ではないでしょうか。 | 私立 |
| ●米国の教育事情を日本が参考に行っている以上、その方向に進むと思われる。またITの進歩は日本にも急速にその方面の充実を促進すると思われる。 | 私立 |
| ●学位取得方法の一つとして考えているので、否定も肯定も出来ない。 | 私立 |
| ●学位取得の問題は別にして、教育方法の一つとして有望と思う。 | 私立 |
| ●ここでいう「学位」なるものが何を指しているのかが明確でないので、回答は出来ない。一般に言われる実習、実験あるいは製作を伴うような研究課題を課する学部（あるいは学科）では不可能と思われる。ちなみに私が所属する工学部電気システム工学科では可能である。 | 国立 |
| ●対面式による議論や討論、表現能力等も教育の重要な部分と考えているので部分的にはオンライン上での教育は可能であると思う。 | 私立 |
| ●別に問題なく、大学設置基準授業についての二十五条に特別な条件をつける必要はない。大学の自主性に任せるべき。 | 私立 |
| ●高等教育において情報通信の果たす役割が、今後ますます増大していくのは必至であると思われるが、バーチャルユニバーシティ実現のためには対面式授業との連関、施設設備等、様々な問題があり、本学は文科系の大学なので他学での進捗状況を見ながら検討していきたいと考えている。 | 私立 |
| ●バーチャルユニバーシティは国境を越えて拡大するものと思う。問題点としては、学生間の交流や意見交換の場がないこと。教官との直接的な質疑応答の機会がないことによる不利な点もあると考える。 | 国立 |
| ●・理学系教育で重要な実験・実習はバーチャルで修学不可能であるため、領域を限定せざるを得ない。・オンライン上の教育のみでは、学習到達に疑問がある。詳しく検討する必要がある。 | 国立 |
| ●生涯学習の観点から言えば、学生にとって学習の機会が広がる故、バーチャル・ユニバーシティは有効であると考え。内容に関して言えば専門の知識や情報を伝える教育はこの方法でも十分可能であるが、実験・実習・演習などのリアルな対象の教育では十分な効果は期待出来にくい。また掲示板やチャットなどの手段があるとはいえ、教員と複数の学生との双方向コミュニケーションによって成り立つ教育では、学生が一同に会して音声言語を用いた現行の授業 | 私立 |

| | |
|--|----|
| に比べ、教員、学生双方の作業負担が増加すると考えられる。 | |
| ●オンライン上の教育は、特定分野の専門技能の資格取得には有効であると思うが、学位取得のような教育には対面授業の補助として位置づけられるべきである。 | 私立 |
| ●社会人にとって、有効な教育手段である。 | 私立 |
| ●アメリカですでに実施されているのをみれば、この考えは成立するように思える。しかし、日本でこれを実施しようとするには、授業の教材制作に非常な手間暇がかかると予想され、また受講生の側の意識が高いかどうかという需要の問題とインターネットへの家庭からのアクセスが容易で安価であるかどうかという3つの側面が考えられる。日本での最大の問題は2番目と3番目であろう。 | 私立 |
| ●オンライン教育や通信教育の利便・利点は感じるが、責任を持った教育をすべき時代に対面教育を省略し、学位授与することは難しいと考える。仮に認定となる場合、教育制度改革も必要で、バーチャル学位が世論の中で認められなければ限られた範囲に留まるであろう。 | 私立 |
| ●この方式のみで取得した学位が社会的評価を正しく受ける為には、多くの課題があると思います。 | 私立 |
| ●直接の対話による議論や思考が依然として重要なのでユニークではあるが、存在意義はそれだけであろう。 | 公立 |
| ●その発展が期待される。但し、教育面での技術的進歩には長い時間が必要で相当な困難を克服することが肝要であろう。 | 国立 |
| ●教育の質を保つためには、スクーリングを義務付けるなどのきめの細かいケアを行う必要があると考える。 | 公立 |
| ●現在、本学におけるオンライン上での教育は、その試行が始まったばかりであり、教育をすべてオンライン上で行うことについては今後の大きな検討課題である。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは、情報通信技術の発達によってますます時間・距離・費用等の制約を小さくし、高等教育を受ける機会を様々な人に提供することが出来ると思われる。しかし、いわゆるオン・キャンパスの中で創られる人と人とのコミュニケーションの部分をどのようにして補うのが課題となる。あるいは、敢えてそういった部分を排除することによって、ある一定の目的を持った人々への特殊な履修形態として発展していく可能性も大きいと思われる。 | 私立 |
| ●現代の情報技術の飛躍的な進歩に伴い、そのような可能性を考えることは当然のことと考えられる。但し、ライン上の教育のみで教育の本質が全うするとは考えられない。特に人と人とのかかわり合いなどどのように解決するかは大きな問題である。 | 私立 |
| ●単一の大学がバーチャル化するこの意味はあまり大きくはないであろう。既存 | 私立 |

| | |
|---|----|
| の大学がネットワーク化をはかりながら、学位取得のひとつの形態としてバーチャル・ユニバーシティの可能性を考えることには意味もあろう。 | |
| ●実験系でない分野、特に調査研究が大きな部分を占める社会科学系では社会人に対して将来性があると思う。 | 国立 |
| ●ハード面では通信技術の進歩、ソフト面で人材の確保が要求される。 | 国立 |
| ●当大学では小人数編成の対面式教育を実施し、教育効果を上げている。インターネットを利用した授業・教材はこれらの対面式教育を補完することにはなるが、独立した授業形態になることは困難であると考えている。 | 私立 |
| ●他大との実験を99年9月に実施しました。エル・ネットも前向きに検討していきたいと考えております。 | 私立 |
| ●大学は、資格の取得のみが目的ではなく、キャンパス内での教員、学生との直接の交流による授業、課外活動等を通じての総合的生活体験が教育機関としての重要な要素であると考えている。 | 私立 |
| ●オンライン上の教育といえば通信制の学部・大学院ということになるだろうが、本学においては通信教育部が従来型の通信制学部教育の長い実績を誇っており、そのノウハウを蓄積している。このバーチャル・ユニバーシティはそれをさらに進めた授業形態であり、現在実施の通信制でもその不足をスクーリングで補っている現状から言えば、オンラインのみの教育はその効果に疑問をもたざるを得ない。また効果を考えず実施を試みたとしても負担が多く大学院の一部の専攻を除いてきわめて困難である。担当職員の養成、施設の整備、学生間の公平性などコストを含めて解決しなければならない課題が多い。しかしその将来から利用価値は高いと考えられるので、大学院の一専攻からでも試してみるべきではないかと考える。 | 私立 |
| ●教育の基本はあくまで人間対人間の関係にあると思う。オンライン上のやりとりは、きわめて有用ではあるが、あくまで補助的なものであろう。本学のように開学以来、知育偏重を排し、人格教育を理念とし、そのために教員と学生、及び学生相互の人間的接触を重んじて少人数制教育の維持に努めてきた大学にとって、仮に一見効率が悪くとも、人間対人間の関係は重要である。教育は学位取得あるいは授与のみが目的ではないと考える。こういったからといって、教育にマルチメディア利用が有効でないと主張するつもりは全くない。きわめて有用・有効であると考えている。 | 私立 |
| ●とてもよいことです。 | 国立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは日本ではまだまだ市民権を得てはいないと思う。しかし、情報通信、マルチメディアの急速な発達、旧来の対面教育を重視する考え方からこれらの技術を利用していく方向へと移行していくことになる。本学では、建学の精神であるキリスト教に基づく人間教育の立場から、当面、本来の意味でのバーチャル化を考えるのではなく、あくまで対面教育の補助的手段として、マルチメディアの利用を促進していきたいと考え | 私立 |

| | |
|--|----|
| ている。 | |
| ●医・歯・薬・保健系の大学ですから、実技は重要。オンライン上の教育のみとは論外。 | 私立 |
| ●学位を与えるということは、社会に対して取得者の資質を保障するという面がある。したがって、学習の成果を正しく評価出来るシステムの開発が不可欠と考える。 | 国立 |
| ●インターネットを利用した双方向授業は、対面授業と比較して大きなメリットがあると思われる。特に時間・場所からの制約が大幅に緩和されるので、有職者や地方に住む者にとっては有効であろう。しかしながら、人格形成も教育の目的であることを考えるならインターネットを利用した授業は一部の利用あるいは対面授業の補助として機能させるべきであると考え。 | 国立 |
| ●高度情報化社会に於ける教育システムの変革は空間、時間からの制約から圧倒的に解放される点にあらう。従って、大学間の差異を解消して、情報と知的生産性の共有、さらに創造力に富んだ新しい知性の開発に取り組む事が可能となる。この意味に於て、バーチャル・ユニバーシティの実現は、不可避なものと期待する。 | 公立 |
| ●多様な教育環境を作り、学問を志す者に対して地域・年齢等を問わず均等に門戸を開放するための手段としては効果があると思われる。ただし、当然ではあるが、技術的手段が目的になってはならない。現状のカリキュラムをそのままバーチャルに置き換えても効果があるとは限らない。また制度、運営面でも既存の大学のシステムの集合体として扱うのか、法人格として真にバーチャルな大学を新設するののかも、例えば入試選抜、単位認定の透明性・公平性等について議論が別れる所であらう。しかしこれらもあくまで一面的議論であり、バーチャル大学に対して本質的に必要な議論として、教育環境が挙げられる。大学教育が「講義の集合体」としてモデル化されるか否かは議論が必要であらう。教育環境としては「文化・風土」といった「場」の形成も重要であり、これは日常の相互干渉、相互理解の中から生まれる。単純に情報通信技術＋コンテンツ（講義）のモデルでは無く、国際化社会、少子高齢化社会における我が国の大学のあり方を議論した上で、既存のシステムと共生可能な新しい概念の大学像を実現することが期待される。 | 私立 |
| ●現在のところ実施していないが、将来に向けての要検討課題と考えている。 | 私立 |
| ●実験・実習を必要としない領域については、将来これを導入すべきであるが、実験・実習を必要とする領域では慎重な対応が求められる。 | 国立 |
| ●対面授業による人間と人間の触れ合い教育も人間形式に重要だと思われる。 | 私立 |
| ●受講生が授業科目の内容に対して、ある程度の基礎知識を持ちあわせていれば、教員と受講生との意思疎通はスムーズにいくと思うが、そうでない場合は受講生が途中で挫折してしまうのではないか。 | 私立 |
| ●本学の場合、薬学教育を目的とした単科大学であるので、オンライン上の教育 | 公立 |

| | |
|--|----|
| のみで学位取得を認めることは困難である。 | |
| ●基本的には、積極的に促進すべきだと考える。その理由は、1. オンライン教育によって、教育の機会が格段に増加するため。2. オンライン教育では、教育内容を従来のように1人の教員が1から0まで担わずにすむ潜在的可能性があり、このことによって、教育の質が「一定水準まではスタンダード化できる」という意味で確保出来ると考える。ただし、これは教育内容を細かくモジュール化し、組み合わせや独自性を各教員が工夫することによって成り立つ。大学は将来、1) 双方向通信を利用したマルチメディアコンテンツのジェネレーター、2) 配信者としての意味の方が、従来型の集合・対面教育の場としての意味よりも大きくなると考えている。また大学は、社会的教育ニーズと教育の理想の間でうまくバランスをとりながら、教育のトータルシステム構想を立て、それに沿って種々の人材やメディア、市民活動を融通無碍に組み合わせ、サービスや場所の提供を行う結節点になると考えている。その意味でも、大学はヴァーチャル・ユニバーシティの機能を望むと望まざるに関わらず取り込むことになるだろう。 | 私立 |
| ●通常の大学や学位とは切り離して、バーチャル・ユニバーシティ独自の学位を与えるならば問題ないと思う。例えば、e-大学、e-学士といった具合に名称を使い分ければ良い。 | 国立 |
| ●本学では、大学の設置理念、教育上の諸活動の位置付け等の下に、カリキュラムの編成をし、社会に有用な人材の育成を目指している。オンライン上の授業科目の履修のみで、学位取得に必要な単位の修得が出来るようにするには、それなりに配慮されたシステム・プログラムが不可欠となると考えられ、単位互換制度と同様なレベルでの活用を考え得るに止まる。 | 公立 |
| ●知識の伝達、単純なトレーニングは出来ると思いますから、社会人の再教育などには役立つでしょうが、初中教育を終えてはじめて高等教育を受ける人々にとって十分な教育が出来るか否かはまだ疑問があります。 | 国立 |
| ●一方通行のデータのやりとりでは、あまり授業としては面白味がないが、双方向の授業では意見のやり取りが活発的に出来、電子メールや電子掲示板等の手段でおこなえば、誰でも参加でき、みんなの前で意見を発表するより気楽に自分を表現できるので、よりよい結果が出ると思われます。 | 私立 |
| ●スクーリング等の補助授業等の必要不可欠。 | 私立 |
| ●多くの人に教育の機会が与えられるという意味で非常に望ましいと思う。特に社会人への教育の場としては最適ではないか。ただし、実習を伴う教科については難しい面がある。 | 私立 |
| ●本学のような語学系大学では実現が困難と思う。 | 公立 |
| ●学術領域にもよると考えられる。工学系では「ものづくり」を行ってこそ学位を与えるとも考えられ、オンライン上のみでは実現されない。 | 私立 |
| ●現在、情報システム全般について所管する委員会で検討中である。 | 公立 |

| | |
|--|----|
| ●具体的に検討していないので答えられない。 | 私立 |
| ●補助的にオンライン上の教育を行うことは有効と思われるが、それのみによる学位取得については問題があると思われる。 | 国立 |
| ●一つの教育方法としては、成立しうると考える。但し、授業以外の学習支援が必要とか他の手段を併用しないと教育的効果があがらないと考える。 | 国立 |
| ●実際のオンライン教育での学位取得された例を見たことがないのでわかりませんが、理科系においては、やはり実験をやって先生と議論して力をつけていく事が出来ると思いますので、オンライン教育での学位取得が理科系に応用出来るかどうかは疑問です。 | 私立 |
| ●単純な内容の資格取得のための研修や訓練は別として、教育の場では本来顔を見て話せることが基本要件である。情報革命の今日、人間教育が強く指摘されており、このことからインターネットだけに依存する狭義のバーチャル・ユニバーシティでなく、これに画像・音声の双方向性を取り入れ、また必要に応じて対面式も取り入れた柔軟なバーチャル・ユニバーシティを目指したいと考えている。 | 私立 |
| ●学習の機会が増えて大変いいシステムだと思います。 | 公立 |
| ●非常に有効だと思うが、これを成功させるか否かは教材の質と学生の理解度の評価プログラムにかかっていると思う。 | 国立 |
| ●国民の半数が大学教育を必要とする社会になった現在、今までのように広いキャンパスに建物を建てそこに教員と学生を集めて授業をするというのは費用がかかりすぎる。大学へ進学する人が少数の時代は、今のやり方が必要であるが、今は費用がかかるのは社会の損失である。大学はレポート、試験結果を厳格に審査して、単位を付与する機能を残し、授業は学生が必要とするものをネットワーク経由で受けて必要単位を取得した者のみに学士、修士をさずける。博士のさずけ方は議論が必要であろう。大学教育を受けたい人に、今までの半分以上の費用で受けられるようにする手段として、バーチャル・ユニバーシティは大切である。 | 私立 |
| ●面白い発想であるが、言葉以外で伝えるべきもの（研究態度等）をほとんど伝えることが出来ない。従って対面式の部分も組み込むことが出来れば良いと思う。又、人間性の陶冶など必要のない（既に完成に近づいている）レベルの教育には使用できると考えている。 | 国立 |
| ●実習・演習課目の実施方法や通信に要する経費など、オンライン上の教育のみで学位取得するには課題も多いと思われる。 | 公立 |
| ●文科系は、教育内容の一定の条件が満たされればある程度可能と考えるが、実験・実習が伴う理工系は困難である。 | 国立 |
| ●医・歯・薬・看護など実習・実技や人とのコミュニケーションが重視される学部では、バーチャル・ユニバーシティは不可能だと考えます。現在、行なわれている放送大学や通信制大学と同じような学部であれば問題はないと思います。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●・時間と空間の制約からの解放という点で、本当に学びたい人が学べる環境に近付ける。・対面授業を全廃するのでなければ、どの様に差別化を図るかが課題。・試験等で替え玉を防ぐ認証システムがどのような形で実現するかが課題。 | 私立 |
| ●まだまだ実験の域を出ていないと思われますが、可能性は大きなものと考えます。本学においても、検討課題の一つと思います。 | 私立 |
| ●専門を限定すれば可能と考えている。ただし実習、実技、実験を必修とする課程については現状のオンライン技術レベルでは不可能と考えている。さらに学位取得については、学位授与機構（本年4月より大学評価、学位授与機構）との摺り合せが必要と考えている。 | 国立 |
| ●ハード、ソフト、通信技術を含めた利用環境がもう少し発展しないと、現実的にはまだまだ困難と思う。 | 私立 |
| ●現時点では実現は不可能。 | 公立 |
| ●バーチャルユニバーシティとは、時・場所・環境の点から諸事情で大学に進学できなかった人には願ってもない教育の場の提供であると思う。又、大学既卒者であっても今一度勉強し直すには手軽なシステムであると思う。がしかし、最近の日本を騒がしている事件（新潟少女監禁事件、京都小学生殺害事件）などを聞くと、人間形成に必要な対人関係が持てる対面授業の方が人間として学問以外にも幅のある人間になり得る可能性があるのではと考える。バーチャルユニバーシティは、通学の困難な諸事情のある人にも“教育の場”を提供することが出来、又勉強できる場がインターネット環境下であるので、日本にしながら留学も可能であるなど、色んな可能性が万人に与えられる素晴らしいシステムだと思う（費用が若干心配であるが…）。 | 私立 |
| ●放送大学等では、既に在宅による学習、単位修得、学位取得（一部スクーリングはあるが）が可能になっている。こうした例から見ても、十分実現可能であり、またパソコンをメディアとして用いれば衛星放送によるものより高度な質の高い教育環境の実現が可能になると思われる。但し、現行メディアのインフラ整備が急務となる。 | 私立 |
| ●知識の伝達と学習のプロセスを実現する場として現在の大学の形態が全てでないことは当然である。学生の目的、専門分野に対応して多様なチャンネルがあって社会も学士という肩書きで物を見るのを改めて、能力に対応した処遇をする事が望ましい。このような社会の中では、一つの形態としてバーチャルユニバーシティも存在し得よう。しかし、就職における大学卒の処遇を求めて大学に入ろうというのなら、日本の社会が大学に求めている多様な機能をバーチャルユニバーシティで実現することは困難である。大学の側からも、アメリカに見られるようなケーブルを用いた講義の配信による博士課程の講義のように30年以上の歴史が日本に存在しない状況で、一足飛びにバーチャルユニバーシティに進むには困難がある。バーチャルユニバーシティを長期的目標として、各 | 国立 |

| | |
|--|----|
| 大学ごとに地に足のついた努力をする事が必要である。 | |
| ●オンライン上だけでの学位取得は、個人特定やセキュリティの面から見ても対面授業をある程度同時に行うことが必要である。反面、生涯教育を考えると非常に有効な手段であると考ええる。 | 私立 |
| ●今までは外国の大学で学位を取得するためには、その大学へ留学しなければならなかった。しかし近年日本にしながら、外国の大学のホームページにアクセスしオンライン教育によって学位を取得する人が急増している。これは長期間滞在できない人にとって朗報である。学びたいという意欲はあるが、時間的な制約（社会人）などで学校へ通うことができない場合には、オンライン教育のみで学位取得ができることについて理解出来る。但し、教育現場では教師と学生、つまり人と人との信頼関係で授業が成立していると考えられる。教師と学生が同じ場所で対面しないオンライン教育では、少し冷たい気がする。本来は従前からの教師対学生の授業形態が望ましいが、何らかの理由で通学できない場合にはオンライン上の教育で対処していくことも考えられる。 | 私立 |
| ●インターネットなどを利用したオンライン上での教育は、高性能ゲーム機の普及やケーブルTVネットワークの拡大によるインターネット利用者の増大により、近い将来実用化される見込みの高いプロジェクトである。これは就労者や身障者等といった場所や時間の制約が学習障害となる環境にいる者に対して、学習の機会を増大させる一つの大きな枠組みであり、社会的にも有益なものである。リカレント教育や生涯学習、早期学習を促進するであろうこの考えは、今後大学の取り組むべき一つの流れではなかろうか。しかし、バーチャルユニバーシティがオンライン上の教育のみで、単位取得が可能とするかどうかは議論の余地がある。もし、オンライン上の教育のみとするならば、教育分野を限定してしまうのではないか。オンラインを主体としてスクーリングをある一定期間設けるなどの対面教育を併用・援用する方法が妥当だと思う。また、単位認定の方法については研究開発の余地が大いにある（出席管理・試験・レポート等）。特に教職免許取得に必要な単位や各種資格試験の一次試験免除に必要な単位の認定、学位認定などは資格取得や就職に大きな影響を与えるため、慎重に実施すべきである。 | 国立 |
| ●演奏実技を主体とする大学としては、検討段階にも至っていない。 | 私立 |
| ●居住地に関係なく、遠隔地においていつでも授業を受けることが出来、教育の機会均等が図られる。ただし、知識や教養の修得を行えるが人との触れ合いによる人間性の向上に関し、困難な点があろう。なお実験実習を重んずる科目については、別途工夫が必要と考える。 | 私立 |
| ●授業コンテンツ作成の教員のレベルアップ、それを補助する事務助手のレベルアップをいかにするか？ソフト授業の展開方法をよく話し合う必要があると思う。 | 私立 |
| ●オンライン上の教育とは、「放送大学」のような大学を目指すことで、それに | 私立 |

| | |
|---|----|
| は私学間の連携がさらに必要になってくるように思われる。ただし、本学のよう な実技・演習系の授業の多い大学では学科によって違いはあるが、困難に思 われる。 | |
| ●バーチャルユニバーシティが制度化されれば、これまでの通信教育などの遠隔 教育よりも、より質の高い又時間的ロスの少ない教育を受けることが出来る。 高等教育を受けたくても大学まで足を運ぶことの出来ない人にとって、大変価 値のある方法制度だと考える。ただ、バーチャルという表現は、虚構的なもの をイメージさせるので大学教育の一つの形態として認め、バーチャルという表 現は避けてもらいたい。 | 私立 |
| ●やはり、Face to Faceの部分を残さなければいけないと考える。 | 国立 |
| ●通信教育と同様に、本人の学習姿勢が問われる教育制度であると思う。教室に おける対面授業との併用が望ましい。 | 公立 |
| ●近年、社会人向けの専門大学院が注目されている。しかし、働きながら学ぶ社 会人は時間的な制約が大きく、大学側も夜間授業などの負担が増加する。バー チャルユニバーシティはこのような観点から、専門大学院の実現において教育 を受ける側、行う側両方の問題点を解決するアプローチだと考える。 | 国立 |
| ●グローバルなレベルで今後脅威となる。ただし、知能・技能等の修得は可能な 反面、コミュニケーション等人格面の教育の必要性は残る。 | 私立 |
| ●益々活発に行なわれるであろうマルチメディアをりようした教育であるが各大 学には特に私学においては、建学の理念というものがあると思う。現状では、 教員と学生が直接対面しながら話することも教育の重要な手段と考える。そ こを考えるとオンライン上の教育のみで学位が取得できることについては、現 状消極的にならざるを得ない。 | 私立 |
| ●オンライン上の教育のみで、対面式授業も交えながらバーチャルユニバーシテ ィーを実現することが大切である。 | 国立 |
| ●物理的な様々な理由で大学等に通うことが不可能であった者や今後の高齢化社 会に対応した一つの有益な構想であると思う。 | 私立 |
| ●あまり賛成できない。受講者の達成度が本人か否か区別できない。学位を与え るなら、取得試験が必要と考える。 | 私立 |
| ●現在のところ、実施可能ではない。 | 公立 |

<大学学部・研究科>

| | |
|---|-------------|
| ●インターネットが進化すれば可能と思われる。現状では、マスを対象にした場合、教師側の負荷（電子メールへの返答の時間等）が膨大なものになるというネックがある。ウェブ上のエキスパートシステムが必要不可欠であろう。 | 私立・その他 |
| ●技術的にも時期尚早ではないでしょうか。 | 国立・人文科学系 |
| ●学部の性格上まったく考えていない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●特殊な事情・条件を有する者以外には適用不可と思われる。 | 国立・芸術系 |
| ●・対人サービス（ケア）にかかる倫理・知識・技術の一体化による質の向上という点では疑問がのこる。・ただし双方向のマルチメディアの人、組織、性能が進めば可能になる時がくる。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●将来、可能な教育形態であると思うが、現在の大学制度においては、評価の点で種々の問題があると思う。学生と直接接触することの重要性はまだ高いので実現するには、かなりの時間がかかると思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●医学部の場合、実施研修が不可欠なので、まったく当てはまらない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●現状では難しいと思われる。 | 国立・その他 |
| ●当面、導入は考えていない。 | 国立・人文科学系 |
| ●現時点では難しいと考える。 | 私立・人文科学系 |
| ●現状では可能性が低い。 | 私立・農学系 |
| ●実験系の学科では、困難だと考える。社会学系でも、調査等をどう行うかは大変難しく感じる。 | 私立・農学系 |
| ●オンラインのみで、実際の対話がない教育は信用できない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●社会人対象のものについては、全てオンライン上で行うかどうかは別にして、積極的に取り組むべきと考える。この場合、担当教員への負荷が問題となるが、方策を講じてクリアすべき。 | 私立・社会科学系 |
| ●バーチャルユニバーシティで授業を受け継続することが大変なように感じる。バーチャルユニバーシティで多くの人が学位取得するかは疑問。しかし、多くの人にその機会を与え、又、外出できないような人にも教育の機会を与えるという意味で有意義かつ重要であると思う。 | 私立・家政系 |
| ●教育は学生集団の中での学びあいや、研究対象に直接触れる体験なども含めて効果がある事や、卒論指導などの必要を与えれば、無条件に賛美する気にはなれない。ただし、通学の困難な障害者や社会人など、対象を限定して、かつスクーリングと伴って、と | 公立・社会科学系 |

| | |
|--|----------|
| いうことであれば考えられる。 | |
| ●積極的に賛成でない。少なくとも年間50～100時間程度のスクーリングが必要であろう。 | 公立・理工学系 |
| ●よくないと思う。スクーリングは絶対必要である。 | 国立・理工学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティの有効性は分野によりかなり異なる。 | 国立・理工学系 |
| ●本学においては、今後の懸案事項となっている。 | 私立・人文科学系 |
| ●アメリカではすべてに行われていることでもあり、積極的に具体化を検討すべきである。 | 公立・理工学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティそのものについては推進すべきであるが、オンライン上でのみの教育では対処できない分野等については、今後更なる研究が必要であろう。例えば、口頭による意味発表、プレゼンテーションの訓練及び人間性の涵養等が現下の高等教育に課せられた課題の一つであるが、オンライン上のみでこれらを教育するには限界があると思われる。従って、対面の授業をいかに位置付け、それをオンライン上で授業にどのように絡ませていくかを検討することも必要であろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティ構想は、社会人学生のように通常の講義への出席が不可欠であろうか、困難な学生に対して補完的に利用すれば有効かもしれない。 | 私立・社会科学系 |
| ●オンライン教育が万能であると考えるのは問題です。教育、特に大学・大学院レベルでは、対面式による効果を見逃してはならない、知識の伝達は画像からのみ得られるわけではないように思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●大学院レベルで特に有効ではないかと考えられる。 | 私立・人文科学系 |
| ●出来れば実施したいと考えています。 | 私立・ |
| ●現時点では、具体的なプランはないが、将来行くとすれば学部ではなく、大学院（社会人修士）での実施になると思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●問題がある。 | 私立・理工学系 |
| ●ユニークな試みではありますが、実験などを伴う学部では、かなり困難と思われます。オンライン教育は、あくまで補助として使われるべきかもしれません。 | 公立・農学系 |
| ●環境整備が必要。まだ実行は不可能だと思います。 | 私立・理工学系 |
| ●オンライン教育のみの学位取得のみのバーチャル・ユニバーシティには賛成出来ない。指導者の考え方、ねらい等のヒロソフィーがオンラインのみでは伝わらない。あく迄も全単位取得の1/2程度で考えるべきと思われる。 | 私立・理工学系 |
| ●他機関での試行結果を参考にして検討したい。 | 私立・理工学系 |

| | |
|--|-------------|
| ●人間と人間との触れ合いが重要と考えるので、あまり賛成出来ません。 | 私立・その他 |
| ●多数の学生を対象とする学部レベルで既存形態（対面授業を主とするもの）と並行的にバーチャル・ユニバーシティを開くことは大幅な人的・資金的・設備的な支援増加が無い限り、困難。一方、バーチャル・ユニバーシティー本で行くのは、リスクが大きい。少数社会人を中心としたビジネス・スクールに関しては、バーチャル・ユニバーシティの対象となりうると考えている。 | 国立・社会科学系 |
| ●IXの設立と、それに伴うバーチャル・ユニバーシティ構想はこれからの取り組み課題として、検討しているところである。 | 公立・社会科学系 |
| ●通信教育だけで、単位を取得できる学生は相当優秀と思われる。すなわち、一般的な学生は相当強力なスクーリングが必要になり、負担が対面教育に比べて一人当たりの学生に対して増える恐れがある。従って、バーチャル・ユニバーシティは少なくとも理系では補助的か部分的な導入が望ましいのではないか。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●放送大学のように、そのようなものが一つあればよいかもしれない。 | 私立・人文科学系 |
| ●今後、情報通信技術の教育への利用はますます高まると思われますが、理系では個人が行う実験実習が大変重要な要素になっているので、オンライン上での教育だけでは学位を取得するのは無理であると思われます。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●ネットワークに接続した環境を利用して、1対1の議論による対話の連続ではなく、マルチベースの議論が実施できるような状況を早く実施することが、このシステムを考えるまず最初だと考える。人と、如何に対応でき、また状況に応じた適切な判断が多様に実行可能な人材を育成できるシステムは、今のところ存在しているとは思えない。 | 私立・人文科学系 |
| ●実験・実習等による教育をどのようにするかが問題である。主として文系の講義を中心とする科目であれば、学位取得も可能かも知れないが、それ以外では殆んどできないと考える。 | 私立・その他 |
| ●Webベースの学習によって単位取得可能とすることは、国際的な動向であり、我が国としても重要な事となる。これにより、社会人の学習を支援することが可能となり、リカレント・リフレッシュ教育の場を容易に提供可能となるとともに大学自体の活性化の一助となるものと考えます。 | 国立・教育学系 |
| ●研究・教育活動を活性化し、成果を向上させるには、情報通信技術を有効利用することが必須条件であろう。知識のオープン化、伝達の高速化、強調活動の容易さなど、そのメリットは数え切れ | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|---------------------|
| ない。こうした研究・教育の高度情報化を推進する上でも、バーチャル・ユニバーシティの存在意識は大きい。学位取得条件の規制緩和が望まれる。 | |
| ●積極的に導入したいが設備等に費用がかかりすぎる。 | 国立・理工学系 |
| ●現状では、学生のレベルから行えても、対面的な部分を欠かすことは出来ないと思われる。 | 私立・その他 |
| ●相手（学生）のレポート等の評価をする際に、本当に本人が学習してえた知識かどうか確認できないので、試験が必要だと思います。→紙のレポートでも、ファイルのコピーを回して出してくる学生たちもいるので。 | 国立・教育学系 |
| ●基礎教育の普及という点、社会人教育、生涯教育の手段として有効である。又、教育分野として無限の大きさも取り得るため、社会に対する貢献度は高い。しかし、授業や研究に対しては、ある程度、対間的要素教育内容に入り、実践・実務的な内容（演習・実習）がおろそかになるため、「ユニバーシティ」にはならないと考えている。実大学がバーチャルをフローする形になって完成したシステムと考える。 | 私立・理工学系 |
| ●専攻によっては可能と思われます。 | 私立・社会科学系 |
| ●・教育の基本は対面教育である。オンライン教育ではダイナミックな授業はできない。コンピュータ画面上で人の教育はできない。 ・バーチャル教育で実験・実習などの体験学習は出来ない。 ・オンライン教育は、対面教育の補助と考えるべきである。 | 国立・農学系 |
| ●リフレッシュ教育の一部として積極的に取り上げていってよいと思う。但し、教員の負担は通常の大学以上となる可能性が大きいので、支援体制をしっかりと作っておかなければならない。 | 国立・理工学系 |
| ●バーチャル教育には限界がある。 | 国立・農学系 |
| ●本学部の性格上、講義あるいは授業内容を一般向けに公表するものではない。学部内あるいは研究科内での閉鎖回路における利用は考えている。また他大学との教材の共有という点では利用法があるが、ヒト・カネ・トキが全くないので実現しない。 | 国立・ 医・歯・ 薬・保系 |
| ●想定することは可能と思われるが、具体的に実施するには競合する教育・大学経営・オンライン教育の充実のための投資などクリアすべき点が多いように思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●法学教育においては、討論の時間が重要であるが、バーチャル・ユニバーシティにおいて、このようなオンラインでの討論の時間と機会をどのように確保するかが重要。 | 私立・社会科学系 |
| ●双方向の授業自体は可能だが、学位の認定（試験・レポート等）に関しては、本人がどれだけ学力を得たかを知るのは技術的に | 私立・理工学系 |

| | |
|--|-------------|
| なり難しい。 | |
| ●授業の補助としては有効であるが、学位取得には問題が多い。 | 私立・理工学系 |
| ●実技・実習を基本に置く分野での教育においては考えにくい。又、コミュニケーションがうまく取れない学位取得者が出てくることが懸念される。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは日本ではまだまだ市民権を得ていないと考える。しかし、情報通信、マルチメディアの急速な発達、旧来の対面教育を重視する考え方から、これらの技術を利用していく方向へと移行していくことになるかと考える。本学では、建学の精神であるキリスト教に基づく人間教育の立場からも、当面、本来の意味でのバーチャル化を考えるのではなく、あくまで対面教育の補助的手段として、マルチメディアの利用を促進していきたいと考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは日本ではまだまだ市民権を得ていないと考える。しかし、情報通信、マルチメディアの急速な成達は、旧来の対面教育を重視する考え方から、これらの技術を利用していく方向へと移行していくことになるかと考える。本学では、建学の精神であるキリスト教に基づく人間教育の立場からも、当面、本来の意味でのバーチャル化を考えるのではなく、あくまで対面教育の補助的手段として、マルチメディアの利用を促進していきたいと考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●一般の大学での一般的科目については不要と思われる。とくに、実験系の学部、学科、科目にあっては好ましくない。特別な企画では効果があるかもしれない。 | 国立・理工学系 |
| ●通信教育の発展形と解する方が良い。適時、スクーリングが必要である。オフライン・ミーティング、対面・対話・合宿なども必要である。通信速度の超高速化が必要、画像の解像度を上げる。動画の送信・受信・音声も（いわゆるインターネットTV）、情報技術のイノベーションが必要。更に、コンテンツとコンテキストが重要となる。開かれた大学の一つの可能性を拓く。 | 私立・社会科学系 |
| ●・必要とは思うが時期尚早。・試験機関による十分な試行とその検討が必要。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●社会人の方が新たな知識および学位の取得を欲する際にはバーチャル・ユニバーシティも有効なものと考えられる（一方高校を出たばかりの学生に同様の手法を行う事は、教員のコミュニケーションが重要な時期のため危険性が高いのではないだろうか）。一般的には上のようなことで文系では社会人に対しては可能かと思われるが、実験・実習・演習など理工系では対面授業でないとい | 私立・理工学系 |

| | |
|---|-------------|
| きない内容もあり、教育効果に大きい疑問がある。 | |
| ●全くのバーチャルは難しいのでは？。せめて年数回は顔を合わせる必要がある。 | 公立・芸術系 |
| ●本学の卒業研究は「どこから手をつけていいかわからない問題の不可欠を可能にして解決する精神力を養う」ことを一つの目的としているので、今の所オンラインのみでは不可能。教員1名当たり数名の学生を密接に指導している。この教育密度のレベルを維持するには、バーチャルの場合は、学生1名に対し教員1名が必要で教員の負荷が大きすぎる。教員1名に対学生5?8名で同時に教育できるバーチャルシステムを開発するか、教員の代わりにコンピュータがすべて対応するソフト（無人教育）を作らないとむずかしい。 | 私立・理工学系 |
| ●賛否両論あると思いますが、教育の根本を揺るがすテーマで議論を重ねるべきと思う。個人的には人間の成長・人格形成・集団生活から得られたものなどが、失われていくのではと思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●オンライン上のみの教育では、直接対話する機会がなくなり問題点が多い。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●教育学部では教員養成実地指導の観点から不可能。しかしながら一部授業のオンライン化及び、現職教員を対象としたリカレント教育など、内容によっては可能。 | 国立・教育学系 |
| ●・歯科医療（学）教育には、多くの演習実習並びに臨床研修があり、上記のような方式では大きな制約がある。・医療人の育成機関では、オンラインのみでは不可。ヒューマンインターフェイスの講義実習が不可欠である。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●単位取得や学位論文などを厳正に行う補助的な仕組みが必要であるが、学習意欲のある学生にとっては有効な制度になると思う。運用面の問題の早期解決を望む。 | 私立・社会科学系 |
| ●ゼミのような少人数指導が困難ではないかと考えられる。 | 私立・社会科学系 |
| ●やはり対面式の授業の補助が必要と考えられる。 | 私立・家政系 |
| ●大学設置基準の緩和が必要である。バーチャルユニバーシティが認められるなら積極的に行いたい。 | 私立・社会科学系 |
| ●知識を主体とした教育でも、ヒューマンネットワークのためにはオンラインだけでは問題あり。実験系ではオンライン教育のみでは不可能である。スクーリングユニバーシティの対置は必要です。 | 国立・教育学系 |
| ●放送大学を大学で実施するのみではないか。大学は、授業の「言葉」のみによって成立するものではなく、教室の場や日常の人格の触れ合いによって触発される効果が大きいと信じている。従っ | 私立・理工学系 |

| | |
|---|-------------|
| て知識の糸口を知る補助手段としては認めるが、完全ではないと思う。 | |
| ●社会人学生にとっては、国内外を問わず志望する大学の学位取得が地域的・時間的制約を超えて可能となり、今後大いに期待できるのではないかと思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●バーチャルユニバーシティは、今後社会人大学生などにとっては、有効な教育方法として拡大していくと思われる。但し、定期的に指導者と直接面接することは必要だと思われる。 | 私立・その他 |
| ●対面式授業による学位取得までのプロセスを全く踏まない学位取得が、全人格教育を目標とする大学教育になじむのかどうか疑問である。 | 私立・その他 |
| ●否定的に考える。[理由] 教育の本質は知識の伝達にとどまるものではなく、教育者の人格・人間性の伝達にある。知的伝達の効率性を追うあまり、肉声によるコミュニケーション、スキンシップを通じての人的な触れ合いをおろそかにしてはならない。 | 私立・社会科学系 |
| ●既に通信制や放送大学があり、学位取得が行われていることからして、オンライン上のバーチャルユニバーシティも手段が異なるのみで既存のこれらの大学と同等のものとみなされるべきであろう。もっとも受講者（すなわち入学者）の制限を行わず、不特定多数に開放することが想定されているのであれば、そのようなシステムは運営が困難であると考えられる。 | 国立・人文科学系 |
| ●現に米国の州立大学、私立大学では実現しているので当然の流れ。 | 公立・社会科学系 |
| ●積極的に活用されるべきである。単位認定等に問題はあるが、一定の評価機関と認定方式を広い範囲で設けて行うべきである。 | 私立・人文科学系 |
| ●非現実的である。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●現在の授業内容やプレゼンテーションのやり方とは異なるオンラインに適した授業を提供するためには、ネットワークや映像音声、CG等を利用するなど工夫と技術が必要であり、そのための専門職員が必要ではないかと思われる。 | 国立・人文科学系 |
| ●本人文学部で実践されている人文・社会科学の分野では、基礎的・技術的教養の部分については、可能であると考えられる。ただし、本格的な専門教育については学生個々人の応用力や判断力の育成が重要な課題であるから、その部分についてはオンライン教育は補助的な役割とならざるを得ない。 | 国立・人文科学系 |
| ●検討中。 | 公立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|---|----------|
| ●バーチャルユニバーシティによって身につく学力を明確にする必要がある。学力観のとらえ直しも必要になるだろう。 | 国立・教育学系 |
| ●具体的に検討したことはないが、学問領域・教育レベルにより異なると思われる。一般論としては、学部レベルではある程度可能ではないか（学位まで認めるか、個別の単位かは別にして）ただ、可能であるとしても個人的には（現時点では）賛成しかねる。 | 私立・社会科学系 |
| ●バーチャルユニバーシティによる学位取得については、前向きに対処すべき問題といえる。 | 私立・社会科学系 |
| ●必要性はあると思うが、全くオンラインのみでは一部単位取得が限界ではないかと思う。むしろ、対面教育の質がより重要になると考えられる。 | 国立・芸術系 |
| ●放送大学の発展形として考えることが出来るが、コンテンツの作成に多大なコストがかかるため個々の大学で行うことは困難であろう。メディア教育開発センターのような組織が大学と協力してマルチメディア教材を開発して提供し、大学は補助的な対面型の授業により教育効果を高めることに協力するといった体制が必要と考える。 | 国立・理工学系 |
| ●学位のレベル、分野によっては将来可能性があるかも知れないが、現時点では無理である。 | 国立・理工学系 |
| ●専門のスタッフが要るようなので、財政的な問題がある。一般の学位との扱いをどうするか、全国的な標準が必要と思われる。全国の大学がなべて展開する必要はないと思われる。 | 国立・社会科学系 |
| ●理工系、特に応用研究の実験系のバーチャル実験などにはあり得ないことで、学士修士であっても学位取得は無理と考える。 | 国立・理工学系 |
| ●学部の性格上考えられない。 | 私立・人文科学系 |
| ●オンライン上の教育のみでは、高等教育の在り方として学位取得は妥当とは考えにくい。ただし、多様な形態があって良いと考えるので、一部の高等教育機関でそれを可能にすることには賛同する。 | 国立・理工学系 |
| ●実習や実験に関する授業が多い学問の性質上、オンライン上の教育のみで学位授与は著しい困難を伴う。 | 国立・その他 |
| ●理論経済学や計量経済学のように数式やデータを多用する分野では、オンライン上の教育だけでは不十分でやはり対面授業がある程度必要とされるように思われる。 | 国立・社会科学系 |
| ●実現不可能である。 | 公立・社会科学系 |
| ●個人的な見解であるが、より高度な学問を学びたいという人々のために、多様な高度教育サービスを提供するという観点から極力規制を排除したバーチャルユニバーシティを設立するのであれ | 公立・社会科学系 |

| | |
|--|----------|
| ば、それは大変有意義なことと考える。ただし、その際には、既存の高等教育体系とそれに対する諸規制が大幅に見直されるとともに、それらの整合性が図られる必要がある。 | |
| ●双方向でのやり取りが円滑に行われれば、対面教育と同じように学生の理解度を把握できるものと考えられるので、将来的には設置を検討する価値があるものと考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●高度な情報技術が日常生活、教育等に適用されるにつれて、人間と人間とコミュニケーションが希薄になっているように思われる。教育活動の“一部”をオンラインで行うのは効率的である。しかしながら、教育においては「対面」の重要性を減じることは出来ない。したがって、すべてを「バーチャル」に実施することには疑問を感じる。 | 私立・社会科学系 |
| ●オンライン上の教育のみで学位取得が可能な教育研究は不可能だと思います。教官の限られた時間で、大勢の学生にインターネットのみで対応することは出来ません。 | 国立・理工学系 |
| ●オンライン教育のみで学位を与えるのは問題である。演習などの対面学習による評価が必要である。 | 公立・社会科学系 |
| ●回線速度の問題が、今後どのようにクリアされていくのか危惧している。 | 私立・社会科学系 |
| ●その学部独自の教育があり、活用することとは意味が異なる。 | 国立・社会科学系 |
| ●双方向の授業の場合、学生へのフォローが教員にとって非常に負担になるのではないか。 | 私立・人文科学系 |
| ●海外では実例があるようですが、国内においては「回線速度の遅さ」「高額な回線使用料」が問題になると思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●門前の小僧のたとえがあるように、一定の学術的環境の中で生活することは学位授与の中で重要なことと考えている。このような側面を持たないバーチャルユニバーシティは、大学とはいえないと考える。 | 国立・社会科学系 |
| ●単なる学位取得ではなく、教員と学生の交流による人間形成も教育の重要な要素であろう。従って、バーチャルユニバーシティがそれだけの役割を担いうるかという点で疑問である。 | 私立・その他 |
| ●教育内容についての整備がなされないと、質の高い授業が提供できない。まずコンテンツの検討が必要。 | 私立・社会科学系 |
| ●現在修士課程においては、ノーツR4Jでレジュメの提出アドバイス等の交換を行い、補助的手段としては効果をあげている。しかし中心はfacetofaceの教育にあると考える。学部においては、メールの交換によって学生との接触を密にするよう学部全体として取り組んでいるが、教育の中心は対人（facetoface）の教育の | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|-----------------|
| 比重が大学院以上にあると考える。 | |
| ●教育の原点は、それぞれの専門分野の知識や考え方の伝達のみではなく、教師と学生の全人格的な交流にあると考えられる。オンライン上の教育のみでは、その部分が欠落してしまう可能性が高い。バーチャルユニバーシティでは、その点をいかに克服するかが課題であろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●本学部では、取り組む予定はありません。他大学で実施する場合は、注視していきたいと考えています。 | 私立・社会科学系 |
| ●各機関、各学部の特色に応じて、単位取得の手段としては有用である。しかし、学位取得の面で考えるとインフラなどのハード面、質の高い教育を提供しつづけるソフト面の充実が必要不可欠である。また、教員側の対応カリキュラム改革などを含めたシステム全体を確立しない限り、実施できる段階ではないと思う。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●セキュリティや個人認証などの問題と教育の全体としての位置付けなどの問題も考えて、部分的には有用である。今後の課題として積極的に取り組むべき。 | 公立・家政系 |
| ●まだ具体的なイメージを持ってない。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●あまり賛成できない。 | 国立・農学系 |
| ●学位が得られるようになった。研究指導では、教員から徒弟制のように手取り足取りの部分が必要と思います。それで「オンライン上の教育のみ」での教育は無理と考えます。 | 私立・人文科学系 |
| ●考えたことなし。 | 私立・人文科学系 |
| ●積極的に実行すべき。 | 国立・社会科学系 |
| ●一部の単位のみであればよいが、全ての単位でバーチャル環境で取得させることには疑問が残る。教員と学生とのfacetofaceな関係からも得るところが多いはずである。 | 私立・社会科学系 |
| ●資格を取るようなコースには向いているかもしれないが、創造力が必要な学問分野ではやはり人と人との触れ合いが重要な要素なので、バーチャルユニバーシティには限界がある。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●血の通った教育という観点からは、積極的になれない。また理系学部では実験・研究現場を離れては議論の対象にもならない。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●単位取得の評価をどのようにするか（本人の理解をどのように把握するか）。 | 私立・その他 |
| ●講義だけで成り立っている課程では、存在し得ると思いますが、実験を課す課程では問16に述べるように、危険この上ない人間を生み出すだけです。 | 国立・理工学系 |
| ●リカレント教育等に門戸を開くという意味では、これから将来に | 私立・農学系 |

| | |
|--|-------------|
| 向けて各大学においては施設・設備等の充実も含めて、取り進めて行くべきだと考えます。その中で、当然オンライン上の教育のみでは果たし得ない教育効果に対するケアが問題になるのではないのでしょうか。 | |
| ●制度はあっても良いが、医学部では実習が重視されるため大幅に取り入れることは困難と思われる。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●時代の流れによって、だんだんと生れていくであろうが対面式教育には「教育」の根幹に関わるものがあるので、全ての教育がオンライン化されることはないと思う。 | 私立・芸術系 |
| ●医学専門教育では不可能である。しかし、一般教科科目の中には充分対応可能なものもあると考える。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●人的資源・経費等で早急には不可能と考える。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●生涯教育的な視点に立って考えた場合、その可能性は大いに認められる。 | 私立・人文科学系 |
| ●授業形態を革新して推進すべき。 | 私立・その他 |
| ●今後の検討課題である。 | 国立・社会科学系 |
| ●社会人のrecarrent教育等に変大有効で将来導入を検討してみたい。 | 私立・その他 |
| ●メディア教育には様々な利点と欠点が指摘されており、オンライン上のみの教育で学位が取得できることには問題がある。専門機関でメディア教育の有効性と限界、社会的功罪、人間性に関する影響などを十分検討して、どこまで可能であることを示すことが必要である。 | 国立・農学系 |
| ●現在のところ、特に予定・計画はありません。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育の目標をどこに置くかにより評価は異なる。知識量を目的とするのであれば可能であるが、全人教育や専門教育においては討論の機会や、発表の形式は不可欠な手段である。さらに実習を伴う科目については不可能に近いと思われる。教育活動の一手段と位置づけておくべきである。 | 私立・農学系 |
| ●将来的にはそうなると思う。但し、その場合でもスクーリング的な面談講義も少しは必要となると思う。 | 私立・社会科学系 |
| ●もとより、教育とは人と人が対面する中で成立し、成果を生むものであり、全面的にマルチメディアに依存した教育は、教育の原点に人間があることを忘れ、あるいは否定したマルチメディア至上主義の思い上がりの帰結である。このような方法で手にした学位はまさにヴァーチャル（仮想）のものでしかない。＜記入担当者の個人的見解として＞。 | 国立・農学系 |

| | |
|---|-----------------|
| ●不可能である。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●客観的な授業評価も実施し易く、教員と履修者との双方向性を大前提として確保出来るのであれば、大いに促進されるべきであると考えます。対面式であろうとオンラインであろうと教育のコンテンツが最も重要であり、本来的なものであることにかわりありません。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育には対面が不可欠であり、オンラインは補助として用いるべきである。放送大学をみても、バーチャル・ユニバーシティは現在の手法に限れば、技術問題もコストも大きな未解決テーマである。 | 国立・理工学系 |
| ●教師からのトップダウン的に授業の延長ではなく、TV会議やBBS、Chatなども活用したインタラクティブな交流があれば積極的に推進すべきであると思われる。その際、マルチメディアセンターなどの学内組織が中心となって活動する必要がある、教員の片手間で開講出来るものではない。国や民間との共同事業として地域社会をあげての支援が望まれる。 | 私立・人文科学系 |
| ●コミュニケーション能力、能力判定などが難しい。対面式授業の補助手段として用いるべきと考えます。 | 国立・理工学系 |
| ●今後、そうしたsystemが活動することを大いに期待する。 | 国立・教育学系 |
| ●従来からの通信教育とどのように差別化するのが問題であると思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●実現への努力は必要と思いますが、学問・分野により実物教育の重要性に違いがあり、特定分野では可能だが、「ユニバーシティ」は難しいのではないかと思います。 | 国立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●細部については問題点もあると思われるが、発想は良いと考えます。教官への認識度を高める必要があります。 | 国立・農学系 |
| ●オンライン上の教育のみでは、学位取得は好ましくない。特に本学部（看護・栄養）では、実習・実験が不可欠であり、物理的に不可能である。 | 公立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●工学という学問の性格上、実験・演習を重要視するので難しい。ただし、各科目の内容や研究分野によっては可能であると考えられる。 | 私立・理工学系 |
| ●時代の流れとしては必要と考える。しかし、本人確認、成績評価、参加者側のコンピュータリテラシー能力及び情報インフラなどが問題として出て来る。とにかく情報インフラを整えるのにお金がかかることは認識しておくべきと考える。 | 国立・社会科学系 |
| ●・受講を許す対象者を十分事前審査すべき。・オフラインミーテ | 私立・その他 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>イングを定期的に持つべき。・単位や学位取得のための試験解答が本人のものであるかのチェックはどうか？</p> | |
| <p>●・従来からの対面授業を中心とする大学の授業形態は、国家の文化継承の意味からも重要で、教育の根幹をなすであろう。・入学生が多様化が必然化した中、対面式授業には適合しない学生が増加しつつある。さらに社会人教育、生涯教育を考えるとバーチャル・ユニバーシティはさらに発展するだろう。・この面で日本は、米国や英国に大きく遅れている。教材開発から手をつける必要がある。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●講義形式の授業科目については、単位認定が可能であるが、演習形式のそれについては、直接対面・集団討議方式が教育上有意義であるから、オン・ラインでは単位認定が困難と思われる。従って、全てバーチャルで大学教育を代替できるものと思えない。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●構想の概要は理解できるけれども、今ひとつ具体的なイメージが出来ません。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●現時点では時期早尚と考える。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●生涯教育・リカレント教育を推進する上で有効と思われるが、安易にならないよう方法について十分な検討が必要。</p> | <p>国立・人文科学系</p> |
| <p>●・どのようなキャンパスがあるかが大学にとって魅力創造の場。・オフラインがないと感動や情熱が生まれにくいでしょう。・多様な教育方法が選べるのはよいことなので賛成です。・元来、大学は勉強だけをする場所ではないので、オンライン上の指導だけでは「教育」とは言えないであろう。等の意見が寄せられた。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●あまり好ましいことではないと考えている。なぜならば、教育というものは対面式で行うものと理解しているため。</p> | <p>国立・教育学系</p> |
| <p>●オンラインのコミュニケーションには限度があり、全面的にこの方式のみで学位取得させることが可能かは疑問あり。部分的には可能と思われる。</p> | <p>私立・理工学系</p> |
| <p>●考えていません。</p> | <p>国立・社会科学系</p> |
| <p>●フェイス・トゥ・フェイスの授業が主体である現状からすると実際の能力や教育上の効果など疑問が残ります。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●歯学教育ではオンライン上の教育のみでは不可能。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●一部で進むと思われるが、schooling等の対面授業も不可欠。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●時間・場所等が限定されず、受けたい時にその場で授業が受けられる等の利点はあるが、学生の理解状況はface to faceでないと分からないことがあり、その点が特に不安材料である。</p> | <p>私立・理工学系</p> |

| | |
|---|-------------|
| ●積極的に推進すべきと考えます。 | 私立・理工学系 |
| ●机上の学習や情報収集・分析のみでは創造力は涵養されない。受動的なスプーンフィーディングに終始する。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●実験・実習を行うことが困難なため、現時点では難しい。 | 国立・教育学系 |
| ●以下の点で大いに推進すべきである。・通学に時間がかかるので、一般の社会人が積極的に授業に参加出来る。・多くの情報源から必要な情報を手軽にそして自宅等で選択できる。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●学部の性質上、実習・演習が伴うのでオンライン上のみでは困難である。 | 私立・理工学系 |
| ●実験や卒論指導等でクリアしなければならない課題がある。 | 私立・理工学系 |
| ●大学の本来の姿に反しており反対である。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●社会的インフラから見ても、科学技術庁のサーバーがハッカーにアタックされるなどの技術面から見ても、バーチャルな大学からはバーチャルな学位しか出せないと考えます。また、人文科学の教育はバーチャル・ユニバーシティに最もなじまないものと考えます。 | 私立・人文科学系 |
| ●通学をせずに遠隔地で授業を受けることが出来るので、社会人など通学が困難な人々に学習する機会を与えることが出来る。また、生涯学習を行う意味でも非常に有効だと思う。しかし、対面授業と違い直接人と接することがないため、コミュニケーションをうまくとれるシステムを構築しなくてはただの資料提示にしかない可能性が出てくると思う。 | 私立・理工学系 |
| ●大学教育では人間性・自立といった面の教育が重要でありバーチャル・ユニバーシティだけでは、不十分でありスクーリング等の対面的指導も必要だと思う。 | 国立・人文科学系 |
| ●あまり意味がない。 | 国立・教育学系 |
| ●オンライン上の教育は、現時点では対面教育を補助するものとして、又は情報公開として意味を持つが、対面教育には代わりえないと考えている。 | 国立・社会科学系 |
| ●大学院以上の教育なら可能。 | 私立・社会科学系 |
| ●実習による教育が大きなウェートを占める。本部局では限界があると考えます。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●教育は双方向のやりとりが大切であるので、バーチャル・ユニバーシティで成果をあげるのは困難であると思う。 | 国立・農学系 |
| ●技術教育など特定の科目については可能と考える。それをサポートするには、特に制度的、経済的な支援か、VUに対応して整備されなければならない。今後、VUの実現を中心とした現行制度 | 国立・その他 |

| | |
|--|-------------|
| の矛盾点を調査するとよい。 | |
| ●特定の分野では可能であるかもしれない。 | 国立・教育学系 |
| ●より多くの学習の機会を提供する援助の手段、生涯教育の機会を拡大する意味で有効である。 | 国立・農学系 |
| ●教育成果の確認などの問題があり、スクーリングもある程度必要だと思われる。 | 私立・理工学系 |
| ●芸術系の学部であり、実技が主体となるため、バーチャルな教育は大筋において難しいと考える。 | 私立・芸術系 |
| ●限られた範囲の科目の単位取得は可能。対面教育の重要性からオンライン教育のみでは、十分な教育効果はあがらないと考える。 | 公立・社会科学系 |
| ●社会人対象の研修に活用していきたい。具体的には薬剤師の卒後教育がその中心となる。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●日常的な講義に当たる内容を洗練して、自習可能な形式のテキストを開発することが、まず必要と考えます。次に、定期試験までもバーチャルに可能かどうか大きな問題と思います。バーチャル教育にマッチ可能な科目と、そうでない科目とがあるように考えますので、バーチャル・ユニバースではなくて、バーチャルな科目程度なら十分可能と思います。すべてをバーチャルにすることが適切かどうか、慎重に判断すべきではないかと思っています。 | 私立・社会科学系 |
| ●メディア教育開発センターが作成したビデオ（2巻）とCD-ROMを拝見して、そのようなシステムが米国・カナダでは実現している例を承知しております。当学部・大学院研究科では、オンライン授業のみで学位取得まで可能とする制度を取り入れる予定はありませんが、授業の一部に積極的にオンライン授業を実施する方向で検討を開始したところです。 | 国立・社会科学系 |
| ●これまでも交通機関の発達によって、より広域の学校との競争を意識してきましたが、競争の場がネットワーク上に移行すると距離という壁に守られた領域がまったくなくなってしまう。ただちにバーチャル・ユニバーシティを行うということはありませんが、このような競争環境へも適応していく必要があると考えています。 | 私立・社会科学系 |
| ●現在の「通信制」の発展形態となるのでしょうか。教材・スクーリング、授業料徴収方法、単位決定方法などの課題があると思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●現存の放送大学や通信制の代替として、また新しい形態として推進すべきであると思う。質問とその回答、課題の提出などについては、放送大学や通信制よりも効果的であると思われる。ただし、 | 私立・理工学系 |

| | |
|---|-------------|
| オンライン上の教育のみという点については、本人確認の問題や分野によっては、必ずしも可能でない場合もあると思われるので、必要に応じてスクーリングなどで補うべきである。 | |
| ●従来、日本の大学教育が対象としていた主な人々“18才～22才”にはキャンパスにおける人間と人間の触れ合いが不可欠である。従って完全なバーチャル・ユニバーシティは好ましいものではない。一方、より上の年齢層、特に職業人のリカレント教育や、高齢者の生涯学習にとっては有効な形態となろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●大学全入時代には不要。社会人の再教育等にはある程度必要。専門家の継続教育には重要。 | 国立・社会科学系 |
| ●1. 生の習熟度の把握が困難。2. 他大学との連携が可能ならば、多様なカリキュラムが提供できるだろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●教員と学生のインタラクションをどう維持するかが問題である。 | 私立・理工学系 |
| ●多くの人々に教育・学習の機会を与えるという点で重要。 | 国立・教育学系 |
| ●十分意義あるものとする。ただし、単位認定のための試験やレポートの評価は厳密に行う必要がある。また、実習を必要とする教科については集中講義によるスクーリングが必要であるとする。 | 国立・理工学系 |
| ●人と人とのコミュニケーションが重要である医学教育においては全く不可能。更に実験科学の分野ではOn Line教育のみで学位とは全く考えられない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●対面式の補助として用いるべき。 | 国立・農学系 |
| ●アイデアとしては優れていると思いますが、教員・学生両面で対応しきれないのが現状ではないでしょうか。 | 私立・社会科学系 |
| ●推進する価値があると思います。 | 国立・理工学系 |
| ●社会関係形成能力のある社会人の教育にはよいが、18歳からの学生には、不安があります。 | 私立・社会科学系 |
| ●本学は美術系大学であり、制作と評価は常に必要不可欠な行為である。また作品は二次ばかりではなく、三次元、又は、その作品の置かれる場所を含んで構成される以上現状の技術レベルでは認められない。 | 私立・芸術系 |
| ●今のところ考えていない。 | 私立・教育学系 |
| ●ある程度は可能であるが、すべては不可能であるとする。コラボレーションするための方法や技術は、集団の中から育てる必要がある。また個々人のオフラインネットワークの広がり、の面でも対面の機会は重要。 | 私立・社会科学系 |
| ●試験等の本人確認の手続についてどのように考えるか。 | 私立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|---|-------------|
| ●バーチャル・ユニバーシティだけでは学生、教員、社会人、外国人間の人間関係が空疎なものになる恐れがあるので、実際に直接接触をとって文化交流を行う工夫が必要。 | 私立・人文科学系 |
| ●社会人学生が増加する。 | 私立・社会科学系 |
| ●基本的に不可能であると考えている。学位に対する考え方の違いでもあるが、技術、能力をオンライン上で可能であるとは思っていない。 | 公立・理工学系 |
| ●可能と思うが、教育に必要な知恵の育成に役に立つのか疑問。 | 私立・社会科学系 |
| ●実学（実習、演習）を必要としない学部学科では、開講するのは良いものとする。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●すべての講義内容を配信して、受講生が学習して質問を電子掲示板やメールで行い、その指導ができるならば、バーチャル・ユニバーシティは、良いシステムであると思う。その場合には、配信する講義のレベルと質（内容）が大切であり十分な吟味が必要である。では、大学とバーチャル・ユニバーシティは、どこに違いがあるかということ、同じように受講している学生間での情報の交流とか、その中で、教師あるいは学生間の、いわゆる知識のふれあいではなかろうか。この点を考慮するとバーチャル・ユニバーシティは、社会人教育には、最良の手段であると思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後、国、地域を越え増えていくと思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●教育と言うものの基本的理念を考えると、バーチャル・ユニバーシティと言った無機的な教育だけで学位取得が真の教育と言えるかどうか、疑問である。 | 私立・農学系 |
| ●時間、空間の制約から解放され、学びたい人が学べる環境を提供するものであり、非常に結構である。WIDEプロジェクトのスクールオブインターネットを聴講した経験があるが、専門からやや離れた分野が良くわかるようになった。 | 公立・理工学系 |
| ●システムの形が見えぬ以上、現状では考慮外です。 | 私立・人文科学系 |
| ●高度な専門教育をすべてオンライン上の教育で行うことは難しいですが、一般教養教育プラス語学には、バーチャル・ユニバーシティの方法論が有効と考えています。 | 公立・その他 |
| ●社会人学生にとってはたいへん有効な手段となるであろう。通学がなくなり、学生の負担が減少するだろうが、教育の負担はかなり増加すると思われる。バーチャル・ユニバーシティの（だけの）教員がどんどん増えるのでは？ | 私立・人文科学系 |
| ●単位認定方法等、種々の問題がある（例：単位取得者が本当にオンラインで授業を受けていたか（代人が受けていないのか）等）。現状では無理があると思われる。（設備が不十分、不統一、教官 | 国立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|--|-------------|
| の訓練が不十分等)。 | |
| ●文学部のカリキュラムから考えて実現は難しい（対面性の強さ、少人数教育が基本であるため）。 | 国立・人文科学系 |
| ●在来型大学で不十分な機能や新しい可能性を期待できるので、大いに促進したいものである。しかし、反対に、在来型大学が果している多くの機能をカバーするのも難かしいように思える。逆説的だが、バーチャル・ユニバーシティが普及すればするほど、在来型大学の看過されてきた機能や存在価値（例えば、対面性、心理的安定感、人格モデルの提供、徒弟的訓練、協同作業、を通じての社会化など？）が見直されるようになるのではないか。 | 私立・人文科学系 |
| ●将来バーチャル・ユニバーシティは普及すると思われる。同時に研究・教育のグローバル化が進行するであろうし、教員・事務職員の質が問われるであろう。つまり、質の問われる社会になるであろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●実験や実習を行わないのであればバーチャル・ユニバーシティが成立しうるが、双方向授業を円滑に行うためには、より、高速な回線、でより低料金で利用できる環境をつくることが急務だと思われる。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●実験系なので、考えにくい。教官（ボランティア）の負担は限界に達している実状もある。責任ある、年齢が高い方々のもっと大きくて強いサポートが必要と考える。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●すでにイギリス・アメリカ等であるが、日本では文字文化の違い等があり、今すぐ普及するとは思わないが、中長期的に見れば必ず普及し学位取得可能になると思われる。そのために我々は少しずつでもオンライン教育に慣れ実践を積む必要がある。 | 国立・理工学系 |
| ●薬学では非現実的である。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●将来的な可能性としては、双方向性の点で、放送大学以上のものができると思う。しかし、実現のためには、GBクラスの回線が広汎に利用できるような回線環境の整備が先決であると思う。現状では、帯域の制限から来る、要求と伝送のタイムラグが、学習者にストレスを与えて、教育効果を期待できないレベルだと思う。 | 公立 |
| ●人文系列では対人接触も教育の重要な一面と考えられるので、完全なVirtualUniversityは、必ずしも好ましいとは思われない。 | 私立・人文科学系 |
| ●今のところ全く考えていない。 | 私立・社会科学系 |
| ●この方向は進んでゆくものと考え。現役の学生よりも社会人への教育、研究者等のリフレッシュ教育に活用するのは有効と思う。 | 私立・家政系 |

| | |
|---|-------------|
| ●一般家庭における通信コストの引き下げが必要。 | 私立・人文科学系 |
| ●かなりの部分はこの方式でよいが、どこかでスクーリングなどのような、対面式教育が必要な気がいたします。 | 私立・その他 |
| ●実習等が多いので無理。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●非常に興味深いと思われる。今後、学生数の減少ともに必要となる。 | 国立・その他 |
| ●人間同志のふれあいが欠けがちになり、人格形成などの面に悪い影響が出る不安がある。主として社会人を対象としたほうが良い結果がでるのではないのでしょうか。 | 私立・理工学系 |
| ●マルチメディアは教育の一つの道具であり、研究や教育には向かいあつての議論や討論が不可欠と考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●人間対人間の教育が基本とするので、そうした教育を組み入れた教育体系を先ず確立すべきと考える。現時点では「反対」である。 | 私立・教育学系 |
| ●対面授業と同時並行に進めるべきと考えます。したがって両者の兼ね合いが問題になると考えられます。 | 私立・社会科学系 |
| ●アメリカではすでに実施されているようですが、放送大学のようにスクーリングも必要だと思います。 | 国立・人文科学系 |
| ●対面教育や実技の必要性を否定することになるのであれば賛成できない。結局分野によると思う。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●高等教育は原則は一对一のface to faceが原則である。 | 公立・理工学系 |
| ●理工系でも、情報等においては、大学院レベルの取り組みが可能ではないかと考えている。 | 私立・理工学系 |
| ●将来においてその可能性はあると考えられる。しかし、ごく近い将来ではまだそれだけでは充分ではないと思われる。一定程度の補習とある種のスクーリング・実習で補いつつ展開するだろう。分野・領域によってその特性が異なるので、個別に対応しなければならないであろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●社会人の場合には有効かもしれない。教材を繰り返して使用する定型的な教育には利用できるが、高度の専門教育には不適であろう。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●情報通信インフラが整備されることが必要条件である。低コストで誰もが参加可能な時、そのような需要が生まれてくる。 | 国立・社会科学系 |
| ●疑問点などをサポートするしくみが完備していれば問題ないと思われる（講義内容による）。海外の大学の進出に対応する必要があるのでは。 | 国立・人文科学系 |
| ●一つの選択肢としてはあり得て良い。しかし、オンライン教育は | 私立・社会科学系 |

| | |
|---|-------------|
| 教育内容の充実とは別に伝達技術レベルでのかなりの負担がかかり、特に授業を立ち上げる時にそうである。しかし、その負担に見合う教育効果があるかという点、甚だ疑問。 | |
| ●今後、広く展開されてゆく分野だと考えます。 | 私立・芸術系 |
| ●積極的に推進すべきと考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●医師養成校なので、実際の手段・患者さんとの対応が重要であるため、オンライン教育のみでは単位を認定できない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●補助的な教育手段として発達するでしょうが、それだけで学習活動が充足できるとは思えない。 | 私立・人文科学系 |
| ●積極的に推進していきたい。ただし、事務官・教官のコンピュータ・リテラシー、インターネット・リテラシーの向上が不可欠である。また、データを電子化（デジタル化）する作業に手間がかかり、個々のデータの共有化も計られていないので、移行には時間がかかる。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティの可能性は大きいものと思います。ただ高等教育の内容が徹底的に個人化することの問題や、コストの問題があるように思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●高等教育の多様化の観点から積極的に推進するべきである。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●難しい。どのような問題が存在するか、はっきりしない。 | 公立・人文科学系 |
| ●教育の基本的な目標は知識、技能、態度の修得にある。医学部の教育にあっては医の倫理を含む態度の教育が重要である。バーチャル・ユニバーシティではこの三者をバランスよく教育することは不可能であると思う。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●ある程度の結果が出ないと分からないので、しばらくは様子を見たい。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●積極的に導入すべき。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●基本的には「対面授業」が望ましい。 | 私立・人文科学系 |
| ●学内や他大学との遠隔授業すら実現していない現状では、何も考えていない（考える事ができない）。このような、遠隔授業等が、対面式の授業と何ら変わらない様に行うことが可能になってから、その次のStepとして考えるべきであろう。 | 公立・社会科学系 |
| ●研究分野によっては可能であり、積極的にすすめて良いと思う。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●今後、社会ではインターネットを利用して、自宅にしながら仕事をする世の中になろうとしている中、学校教育も同様に自宅からオンラインで授業をうけられることになるかもしれない。しかし、 | 私立・社会科学系 |

| | |
|---|-------------|
| 現実化するためには設備投資がかぎとなりそうだ。 | |
| ●特定の大学との交換授業を検討する予定である。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●今後、増やすべきと思うが、地上で共に勉ぶ者同志のコミュニケーションするチャンスは不可欠と思う。キャリア・アップの為の道具として、各レベルの物が必要。中年者用、等。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●各大学間の関係をはかり、各大学での特色ある教材の提供ができれば今後、有望なメディアになっていくものと期待できる。 | 私立・社会科学系 |
| ●新しい教育のあり方として注目すべき形態であると言える。しかしながら、学習内容を指導する場合、対面による方法もあわせて実施することがより効果的なのであり、学習形態として対面教育を今後も継続して行うべきだと考える。 | 私立・人文科学系 |
| ●受講している学生が本人であるかという確認を、どのようにして行うかが問題になるのではないのでしょうか。 | 私立・教育学系 |
| ●ネット上では、学生の顔が見えないため、教育内容がどの程度理解されたか分からない。ネットは使用できても話せない学生が現れるかもしれない。試みとしてバーチャル・ユニバーシティを実施し、その結果を考慮して進めることが望まれる。 | 私立・社会科学系 |
| ●社会人教育を中心として、今後の方向を考える。但し、問題は運用組織をいかに充実させるかであり、これが教育の質を大きく左右する。したがって何らかのガイドラインが必要と思う。 | 公立・理工学系 |
| ●社会人を対象に専門的な知識の補完として役に立つ。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●理学部門の教育全般をオンライン化することは不可能に近いので、補助手段としてとらえており、バーチャル・ユニバーシティ化することは考えていない。 | 国立・理工学系 |
| ●実験系の学部では不可能であると思います。 | 私立・家政系 |
| ●今後増加すると考えている。本学の一部の教員間で本学における可能性について議論が始まっている。 | 私立・人文科学系 |
| ●専門教育においても全くその場での人間的ふれあいがなくても良いものか、多少疑問に思います。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●理論的には可能であるが、オンライン上の教育のみで、学位取得は実際に実験等を伴うテーマについては不可能と考える。特に医科・歯科系の場合には困難と考える。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●部分的にせよ、直接の対面教育は必要と思う。同期的、双方向（特に学生からの）的やりとりがスムーズにできれば、オンライン上の教育のみで多くが満たされるとは思いますが…。 | 公立・社会科学系 |
| ●人文・社会科学系では、対面式授業が是非必要。 | 国立・人文科学系 |

| | |
|---|-------------|
| ●当大学にとってはそれほど意味があるようには思えない。「バーチャル」な伝達は双方向であっても直接対面コミュニケーションに比べて情報量・質ともきわめて大きな落差がある。部分的・補完的な利用は否定しないが、本学のような少人数教育の実践は、むしろバーチャルではなく直接対面して実現されうる人間的な交流・信頼関係を基本としているところにその重要性があると考えている。 | 私立・社会科学系 |
| ●大学に行きたくても行けない社会人や主婦の人達にとって学習する機会が増えることはとても良い事だと思います。 | 公立・社会科学系 |
| ●現在の技術は、対面式授業を完全に代替できるものではないですし、又、学生間、教師と学生間のインフォーマルな交流も教育上重要であると思います。技術が進歩して、これらの問題が解決されるとき、バーチャル・ユニバーシティの意義が生じると考えております。 | 私立・社会科学系 |
| ●興味はあるが、検討するまでには至っていない。学生が学習を継続していけるかどうか心配である。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●放送大学と融合させた形式で行って行くべきではないか。また広く教育者も公募すべきである。 | 私立・理工学系 |
| ●理解能力、授業への取組み姿勢の把握が困難。 | 私立・ |
| ●テキスト資料による受講者の評価を行う際に、作成された資料（論文等）が本人のオリジナルな思考の結果として認められるのかという点で、対面した演習等を経験していない場合は、判断が難しくなるケースがあると思われます。 | 私立・人文科学系 |
| ●オンライン上の受講者が間違いなく、本人であることを認証するのが難しい。実験・実習がオンライン上では不可能、教育可能分野が限定されるのではないか。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●考えていない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●欧米の事例をみるまでもなく、ヴァーチャル・ユニバーシティはネットワーク社会における教育システムとして必須のものである。いつでも、どこでも、必要なときに必要なだけの学習ができることは、従来の集合教育形態の学習環境と比較し画期的な教育システムであるという認識をもつ。更に、学習活動への動機付けや学習成果の高めるために、学位の取得が可能になることは極めて有効な方策であると考えている。そのための、教育プログラムの拡充化と制度化の早期実現を期待したい。 | 私立・社会科学系 |
| ●基本的には推進に賛成であるが、人と人との直接コミュニケーションをどう位置づけるか十分な検討を要すると思われる。 | 私立・人文科学系 |

| | |
|---|-------------|
| ●・領域によっては有効であろう。・放送大学が実現するのであるから、V.U.も可能である。 | 私立・社会科学系 |
| ●医系では、バーチャルリアリティーで双方向の模擬患者の利用を考えれば可能性がある。必ずしも適用できない。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●分野によってはある程度可能と思われるが、実験を伴うような科目は原理的に不可能ではないか。教育で基本となることは、単なる知識の教授ではなく、感性を含めた人間活動全般にわたる育成であると思われるので、これがバーチャルな授業でどのように補填されるかがポイントになるのではないか。 | 国立・教育学系 |
| ●現在は行っていない。将来的にも今のところ考えていない。 | 国立・教育学系 |
| ●既存の枠組みを超えた体制作りができ、社会人の参加が可能な点から、生涯教育機関として重要と考えられる。運用にあたっては、公開性や機会均等の原則と透明性の高い客観的な評価基準の採用が必要であり、参加する大学の協力体制も不可欠と考えられます。 | 国立・教育学系 |
| ●教育は本質的にhuman relationの上に成立つものである。単なる文字・数式・図表等を超えたところに成立する人間的営為である。バーチャル・ユニバーシティによる教育は可能であり、時には有効な方法であるかもしれないが、対面教育とは全く異質なもののになるだろう。私としては、その発信者にも受信者にもなりたくない。 | 私立・人文科学系 |
| ●1. スクーリングを適当に含めれば可能と思う。2. 社会人学生、生涯教育など多様化する教育の一環として前向きに考えたい。但し、教育水準をおとしてはならず、また学位授与には公平な判断基準が必要である。試験は必要である。3. 今後は、バーチャル・ユニバーシティは必要になってくると思う。社会人入学、生涯教育、遠隔地教育などと教育の場面は広がっていくように思う。 | 国立・理工学系 |
| ●1. 部分的な利用に限るべきである。2. オンライン上の教育のみでなく、放送大学のようなスクーリングが必要と思われる。3. 講義や個人指導については、ある程度まで可能だと思う。しかし、実際に会う機会を持つ必要があると思う。また、レポートの提出や試験をネットワークを用いて行う場合、セキュリティの問題がまだまだあると思う。 | 国立・教育学系 |
| ●・本学の社会人や地域解放という観点から大賛成です。米国N・Y工科大学を始め、多くの実践例がありますので、教育効果や技術面での資料がありましたら本学でも検討してもよいと考えます。・理系の場合、指導教員、上位または同級の学生との討議 | 私立・理工学系 |

| | |
|---|-------------|
| (ゼミ)、下級生の指導、チームワーク体験、通常の研究発表などの直接、人と人とがコンタクトする教育機会を設けることが必須と考える。 | |
| ●大いに結構であるが、単位認定までのプロセスをどうするか難しいのではないかな？ | 私立・理工学系 |
| ●情報通信機器の発達により、オンライン教育を行う上でのプラットフォームが整い、このような方向の議論が出てくるのは、当然のことではあるが、ソフト的にはまだ実験教育が始まった段階であり、学位取得レベルの話になると、既存の教育と比較した有効性を見極めて考えていく必要があると思う。 | 私立・社会科学系 |
| ●分野の限界を越える方法論を研究開発すべきと考えます。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●現在の技術では可能と思われるが、対面式による人と人との授業には勝てないと思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●経済社会環境の激変に伴って、雇用が流動化し、知識・技術が陳腐化しやすい。生涯学習システムを確立することは急務である。バーチャル・ユニバーシティは生涯学習社会を支える重要なシステムである。教材・教授法の開発、情報通信環境の整備など、官民あげて、社会全体の仕組みと支援が必要不可欠である。 | 私立・社会科学系 |
| ●将来、構想の一つとしては可能性があるものの現在はまだ、検討段階ではないという認識である。 | 私立・社会科学系 |
| ●実行するには、受講者と担当者間で細かい約束が必要。受講者は与えられた課題に対して、忠実に応答する意志がなければ、このバーチャルユニバーシティは成立しない。対面授業が何らかの形で組み込まれていないと「教育」の内容が異なったものになるかと思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●実行するには、受講者と担当者間で細かい約束が必要。受講者は与えられた課題に対して、忠実に応答する意志がなければ、このバーチャルユニバーシティは成立しない。 | 私立・人文科学系 |
| ●実行するには、受講者と担当者間で細かい約束が必要。受講者は与えられた課題に対して、忠実に応答する意志がなければ、このバーチャルユニバーシティは成立しない。 | 私立・社会科学系 |
| ●高度専門職業人養成の教育において、積極的に導入すべきと考えている。時間的制約の強い職業人にとっては、バーチャルユニバーシティの機会は必要と考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●ぜひ欧米の先端大学で実施されているように、単位取得、学位取得の認可を急いで欲しい。本学は、現在バーチャルユニバーシティ構想を実施すべく産学官共同研究を全学レベルで推進している | 私立・社会科学系 |

| | |
|---|-------------|
| が、この課題は日本のバーチャルユニバーシティ推進の大きな障害となっている。 | |
| ●理論的にはともかく「大学のカラー」を重視する私立大学で、キャンパスの雰囲気を実際に体験できないというのは、伝統の継承という点で如何なものか。 | 私立・社会科学系 |
| ●オンライン上の教育のみという点に不安がある。 | 私立・その他 |
| ●本学は文学部のみの単科大学であり、1学年の学生数が400人程の小規模大学である。それゆえ可能な限り少人数による授業を目指しており、当面は本学教員が積極的に学生と接触を図るべくカリキュラム改正を計画している。従って質問の意義は、目下必要なしと考えている。 | 私立・人文科学系 |
| ●1. 学位を与える個人を特定する方法を確立しなければ、替え玉が受講する可能性が出てくる。2. 教育を受ける機会が広くなり、良いことだ。3. 大学の淘汰がさらに進む（高度で、かつ解り易い大学へ学生が流れる）。4. 受講生への人格（人間性？）教育が出来なくなり、大学のカラーor理念が薄らぐ。 | 私立・その他 |
| ●現在、御センターから頂いたVD、CD-ROMを参考とし、個人的興味もあり研究していくつもりです。21世紀へ向けて、そして社会人学習の点からも早急に真剣に取り組む必要を感じています。 | 私立・理工学系 |
| ●時間や教室などの制約がなく自由度が高いことは、教育の場・方法として大変有効であると考えます。しかし、オンライン上ではない人との直接コミュニケーションの機会も学位取得については必要であり、重要であると考えます。 | 私立・芸術系 |
| ●薬学分野では、オンライン上の教育のみでは学位取得は不可能と考える（実習も必要なため）。講義には利用可能。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●現在、各大学において社会人の積極的な受入れを行うため社会人を対象とした特別選抜制度の導入、夜間その他特定の時間又は時期における授業を組み合わせた昼夜開講制の採用、サテライトキャンパスの設置など様々な取り組みを行っている。しかし、決められた時間帯に講義を受講することが困難な者や、通学が不可能な地域に居住する者など、学習を希望しながら地理的・時間的制約から学ぶ事が困難な社会人も多数いると思われ、こうした学生に教育を提供することが可能となるバーチャルユニバーシティの設置は必要であると考えます。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●文科系は可能と思われる。当学部は、医学部のため不可能。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●芸術系、特に音楽を専門とする大学にとっては難しい。 | 私立・芸術系 |
| ●科目によっては十分可能だと考える。 | 私立・理工学系 |

| | |
|--|-------------|
| ●・単位認定及び、学位授与の基準をどうするかが問題である。・ 現在、放送大学があり多少なりとも社会へ貢献している事を考えると、双方向コミュニケーションが可能なシステムはさらに教育効果の高いものとなると考える。・技術講習等には使えるが、全人格的な教育には不向きで教育内容の質を極端に低下させることになる懸念がある。ユニバーシティの語源と矛盾する思想である。 | 国立・理工学系 |
| ●企業人がより専門的な知識や能力を身につけるため、修士レベル以上の高等教育では可能かと思う。しかし、学生自身の意欲、向学心、向上心がなければ、すぐに脱落しやすい。⇒ドロップアウトの増加。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育は、理想的には教員と学生の個人的なコミュニケーションが基本にあるべきであり、特に理工系で重要な実験、実習、演習はオンラインになじまない。その意味で、オンライン上のみで学位取得が可能な分野は理工系、薬学などのいわゆる科学技術的な分野以外に限られてくるのではないか。オンラインでは個人別に対応した教育が難しいのではないかと思う。 | 私立・理工学系 |
| ●オンライン上の教育のみで学位を与えるのには、種々問題点が存在する。単位や学位と切り離して用いる方が有効と思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●スクーリングを充実させる必要がある。 | 私立・家政系 |
| ●実験実習を伴う場合は、困難と思います。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●医学教育の課程では、不可能であるが社会人教育にとっては大きなメリットになるものとする。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●積極的に推進すべきである。 | 国立・その他 |
| ●一部に対しては可能であるし、出来るだけ取り入れたい。しかし、本学園は調理実習など実習が多く、オンライン上の教育は補助的な役割としては大きいですが、バーチャルな実習では困る点も多く、そのあたりの役割分担が難しい。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●学生、教員、大学の三者の考えが一致していない現状では無理がある。 | 私立・その他 |
| ●様々な理由で学習のチャンスを逃している人にとっては、願ってもない学習形態だと思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●学生本人が受講しているのかどうか識別可能であれば、とても有効な授業形態だと思う。様々な制約で学位を取得できない人は多い。 | 私立・人文科学系 |
| ●様々な理由で学習のチャンスを逃している人にとっては、願ってもない学習形態だと思う。 | 私立・人文科学系 |

| | |
|--|-------------|
| ●法的な問題が解決されれば、そのような大学も（通信教育による大学のように）必要と思われる。しかし、大学は知識だけでなく人間関係の学習も重要と考えられるので、そのような問題をバーチャルユニバーシティでも解決しなければならないと考えている。 | 私立・人文科学系 |
| ●対人関係、行動科学的思考を貴重とする医療系、教育系の学問分野では全く意味をなさない、存在意義のないものだと思う。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●教育形態としては良いと思うが、ユーザー認証、授業料の徴収等が問題になってくると思われる。 | 私立・家政系 |
| ●教育形態としては良いと思うが、ユーザー認証、授業料の徴収等が問題になってくると思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●知識教育に偏り、人間同士の直接交流によって育まれる人格形成の機会が減少するおそれがある。 | 私立・理工学系 |
| ●充実させていくことは大切だが、安売りにならない配慮が重大。 | 私立・人文科学系 |
| ●コンテンツが揃えば、バーチャルユニバーシティの方向性をも志向すべきであろう。道は遠いが…。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育の質の向上、より開かれた大学へ進めるための道具として有用な方策と考えられるので歓迎できる。しかし、従来の教育システムとは全く異なる考え方、授業スキルが要請される為、急激に政策として進められることには抵抗がある。現実的な範囲から前向きに進めていきたい。 | 国立・教育学系 |
| ●成績評価が適正に行うことが出来れば学位取得が可能の場合があるが、医科大学等専門職の場合は、実習が必須でオンライン教育のみでは不可能である。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●・受講者が本人であるかどうかの確認が難しい。・強力なサポートスタッフが必要となる。・時間の拘束や制限がないので、学生は受講しやすいのではないかとされる。 | 私立・その他 |
| ●職業を持つ社会人が、働きながら学位取得ができることはとても有効だと思う。首都圏以外の地方でも活発に利用出来る事を望む。 | 私立・人文科学系 |
| ●本学の建学理念になじまない。 | 私立・その他 |
| ●社会人に学習の機会を提供するためには、是非とも必要である。特に非同時的に学習できるインターネットの利用は、今後ニーズが高まるものと思われ検討を要する。 | 国立・教育学系 |
| ●社会人、特に主婦層・高齢者に対する大学開放、正規生としての在籍などの面から活性化が期待されるものと思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●これからの大学は、遠隔教育システムが日常的になって行くものと思われる。 | 国立・理工学系 |

| | |
|---|-------------|
| <p>●現代人の多様なライフスタイルやニーズに適合した高等教育を提供するには、オンライン上での学位取得が可能ないわゆるバーチャルユニバーシティは非常に魅力的だと思われる。遠隔教育については、放送大学の放送エリア拡大及び、地域学習センターの充実により、主として教養教育の面での拡充が図られてきたので、各大学がインターネットにより提供する教育サービスは各大学の地域性や専門的独自性に基づく個性的なものであることが望ましい。また既存の大学単位でバーチャルユニバーシティを運営する必要はなく、例えばどこかに設けた拠点組織（拠点校）が、一定の企画のもとに全国の大学教官からオンラインで提供する教育メニューを募集し、それをまとめて一つの＜学部教育＞を構成し、そのことによって時宜に適い且つ柔軟な高等教育を施す場を設けることも将来的には可能であろう。さらに、例えば岡山県内には情報ハイウェイと呼ばれる高速情報通信網が敷設されているので、それを利用することによって地域住民のために開かれている公開講座をオンラインで流し、県内遠隔地域にいても受講出来る一種の地域型バーチャルユニバーシティを目指すというのも一つの案であろう。</p> | 国立・社会科学系 |
| <p>●そういう形があっても良いと思う。</p> | 国立・人文科学系 |
| <p>●特に米国では地理的制約条件が存在する為、盛んに行われている状況であるが我国では対面講義の補助システムとして活用されるべき（自習及び資料収集）だと考える。</p> | 国立・社会科学系 |
| <p>●文系では可能だと思うが、理工系では実習等が多いため困難だと思われる。</p> | 私立・農学系 |
| <p>●＜メリット＞距離や時間の制約から解放されることにより、社会人や僻地の学生にも教育の機会が与えられる。18才人口が減少する中、私学としてはマーケットが広がる。＜デメリット＞教員と学生の触れ合いが希薄になる。教材の作成、機器の操作などに手間がかかり教員や支援スタッフに多大な負担がかかる。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●技術取得を目的とした単位の取得については有効と考えるが、総合的な学習効果を問題とする学位取得については対人関係の教育が必要であり、それのみで行うことは適切ではないと考える。</p> | 私立 |
| <p>●将来的には充分可能であると思われる。しかし、インターネットが各大学に普及したとはいえ、本当の意味でのマルチメディア情報を流すには、あまりに通信キャパシティーが小さすぎる。その辺のインフラ整備を行わずにバーチャルユニバーシティを考えても、ただの机上の空論に過ぎない。</p> | 私立・医・歯・薬・保系 |
| <p>●大学内のネットワーク・サーバ環境とスタッフさえ充実していれば</p> | 国立・教育学系 |

| | |
|---|-------------|
| ば、現行の授業の一部をストリーミングで配信するだけで、バーチャルユニバーシティに近いところまで実現できる。 | |
| ●実技、実習、演習等では対面式による授業が必要と考えられるため、バーチャルユニバーシティが有効なものであるか疑問である。 | 国立・教育学系 |
| ●夢として考えることは出来るが、繰り返し実験しデータを集め分析してみないとその効果、有効性などは分からない。現状では問題が多すぎて無理である。 | 国立・教育学系 |
| ●特に工学分野では考えにくい。 | 国立・理工学系 |
| ●授業内容が豊富になり学生の選択肢も増すので、この傾向は好ましいが通信環境、個別指導、単位認定制度等の問題点も多い。 | 国立・教育学系 |
| ●スクーリングが、学位取得には不可欠である。 | 国立・社会科学系 |
| ●相互批判を欠いた大学は考えられない。 | 国立・人文科学系 |
| ●オンライン上のみだと自分が学生であるという認識が薄れるかも知れません。社会人の学生にとってはいいのでしょうか。 | 国立・理工学系 |
| ●事前の打ち合わせが不可欠。 | 国立・理工学系 |
| ●一部の分野についてはますます発展し、研究者のすそ野を広げる役割を果たすことになるであろうが、実験・実習等の実体験を必要とする自然科学分野では、バーチャルのみでは不可能と考える。 | 国立・農学系 |
| ●・生身の人間がその場で講義するのとオンラインだけの講義は全く質が異なる。・専門分野に依ると思うが、オンラインのみではとても無理があると考え。・生物学の様な、実物を見、実験を行う必要のある分野では、極めて困難である。・仮想世界での大学教育を全て行うのは奇異に感じる。やはり、一部時間をかけて、教官対学生という実対面で教育を行う必要あり。 | 国立・理工学系 |
| ●本学部は実験が行なわれないと学習効果が上がらない分野であるので、オンラインのみでの単位取得は困難と思われます。 | 国立・理工学系 |
| ●教育は教師と学生間のトータルな相互交流を基盤としているので、バーチャルのみでは必要十分とは言えない。やはり、現在言う所のスクーリングのようなものが必要と考える。・可能なものは拡大し、社会人教育とすると有効では。但し、安易に単位を与えるべきでなく、厳密なる評価の存続が不可欠と考えます。・教育内容の性質上、技術習得を目的とする実技演習および実習が不可欠なので、当教育研究分野（学部）教育においては、「単位」取得はあっても「学位」取得はあり得ないと考えます。・特殊な条件下にある学生、例えば重度の障害を有する学生などに対して、学位取得の門戸を広げるという事については有用であると思う。 | 国立・医・歯・薬・保系 |

| | |
|---|-------------|
| ●卒業研究は、学生と教育者の1対1の会話を必要とする。大学4年間の最後にそういうものがあるかないかは、大学教育の質を大きく左右すると考える。したがって、バーチャル・ユニバーシティを普通の一般の大学と同等のものとすることは出来ない。 | 私立・理工学系 |
| ●積極的に導入すべきである。学ぶ意欲のある人全てに開かれた大学になるべきである。バーチャル・ユニバーシティはそのための1ステップであり、遅々として進まない現状の大学改善にとっても、良き刺激となる。 | 私立・教育学系 |
| ●よいアイデアと考える。しかし、その実現のためには、いくつかの課題があるように考えられる。社会科学系の教育になじむかどうか、どの程度の高度な教育が可能か検討してみる必要がある。 | 私立・社会科学系 |
| ●十分にあり得ることと考えるが、専門分野によって、適合性に差がある。たとえば、法律学の教育において対面的な討論による訓練をバーチャルに実施しうるのかどうか、よくわからないところがある。技術の進歩と先進事例の開発に期待したい。 | 公立・社会科学系 |
| ●単なる知識の伝達のみであれば、オンライン上の教育のみで可能かもしれない。しかし、フェーストゥフェースでなければ伝わらない、その学問等への教員の思い入れや雰囲気等は、後々自分がどの様に人生を切り開いていく上で重要と思われる。この点を何らかの形で補う必要があろう。 | 私立・芸術系 |
| ●補助的使用の範囲にとどめるべきである。人的ふれあいが大切。 | 私立・社会科学系 |
| ●双方向性といっても限界がある。学生間のコミュニケーションによる協同的理解や、啓発を望めない。実験系の薬学部にあっては不可能と考える。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●現状では、設備（サーバーや高速通信網やシステム単位認定や課金制度）が実験段階のため、導入についての検討はされていないが、社会のニーズや大学の社会的役割を考え、積極的に取り組む必要があると考えます。また、第三者評価機関を設けて、複数の大学で単位取得した者でも学位取得が可能となれば、ニーズはさらに広がると考えます。 | 国立・その他 |
| ●本学は実技教育を主体とした大学であるため、オンライン上の教育のみでは学習成果が得られず、学位取得はあり得ないと考えられる。 | 国立・芸術系 |
| ●ある程度は対面式のコミュニケーションが必要と考える（学習センターのような）。 | 国立・教育学系 |
| ●教育方法の1つとして有望と思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●非常に期待している。特に卒業生や社会人のライフスタイルやリズムに合わせた生涯学習として有効であると思う。いずれ、オン | 私立・その他 |

| | |
|--|-------------|
| ラインのリアルタイム双方向性の授業が展開出来るので、衛星による社会的な異なる地域間でのライブによる討論に魅力がある。 | |
| ●将来的には可能か。 | 私立・社会科学系 |
| ●レポートシステムやスクーリングシステムが有効妥当に働くならば、通信制の大学等と同様に考えることができよう。その限りで学位の授与も構想することは可能だろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●高度情報化社会の一つの方向として考慮する必要があるが、当分はモデルケースで取り組み、その日本社会への適性についてチェックする時間が必要かと思われる。 | 公立・社会科学系 |
| ●医学教育では、実際に患者と接する必要性があり、不可能と考えます。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●欧米ですでに実施されており、日本でも可能である。しかし、人間的触れ合いが欠け、教育として若干問題があると思われる。 | 国立・社会科学系 |
| ●オンラインのみで学位取得を可能とすることは、大学がその起源からいっても「教授と学生の共同体」(univesitate)という理念に反しますので反対です。カウンセリング、ゼミナール、演習は絶対に必要です。ただ現在の通常大学に教育工学機器を導入し、講義及び演習の一部をvirtual化することは大切だと考えます。特に教授内容、方法の現代化のためのToolとして重要だと存じます。 | 私立・社会科学系 |
| ●対面教育でのアウェアネスに対応する機能が必要となります。そしてそれを組み込んだリアルタイム試験が必要と考えます。 | 公立・理工学系 |
| ●勉学に対する姿勢や、本人確認ができないという問題がある。対面式のスクーリングやテストが必要と考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは既存の概念を超えた発想であり、IT(情報技術)新時代の新たな形態として注目しており、評価しております。ただ、大学の教育・研究(特に教育)においては、教員と学生とのface to faceのコミュニケーションが極めて重要な意味を持つものと考えます。この観点からすると、リアル・ユニバーシティは不可欠であり、バーチャルはそれを補足する形で実用化していくのではないかと考えております。 | 私立・社会科学系 |
| ●マルチメディアは対面式の授業・教育の補助としては活用出来るが、そのみの活用によって学位取得が可能になるようなことは、すべきでないと思います。教育の根幹は人と人との関係をいかに育成するかだと思いますので、機械を通してのものは必要最小限にとどめることが肝要だと考えます。 | 公立・人文科学系 |
| ●教官が学生の対面交流の中から生まれる教育環境が重要なので、あまり賛成できない。放送大学においても、面接授業、卒業研究 | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|-------------|
| は重要であると評価されている。 | |
| ●教官側における負担はかなり増加すると考えられるが、是非実施すべきである。身体的・地理的なハンディキャップがかなり軽減されると考えられる。 | 国立・社会科学系 |
| ●本学では何の準備もしておらず、この可能性はないが、出来るのなら大いに結構だと思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●オンライン上の情報だけでは、教官と学生の十分なコミュニケーションがとれないので、場合によってはレポート提出や面談が必要である。 | 国立・理工学系 |
| ●のみではだめ。人間的な触れ合いが必要。 | 私立・社会科学系 |
| ●実験研究を伴う理工学分野では不適當。 | 私立・理工学系 |
| ●ある程度は、このような（バーチャル・ユニバーシティ）も良いと思うが、教育は単なる知識の高度化、深化、集積だけではありませんので、実験系やそれに近い分野では別の要素を十分に採り入れる必要があるでしょう。 | 公立・農学系 |
| ●1. 科目によるであろうが、オンライン上の手段のみでの単位取得は不適切であると考ええる。2. 受身的な学習態度・意欲に裏打ちされた学位取得が困難になると思われる。文系のバーチャル・ユニバーシティはある程度有効と思われるが、理系の場合には、多くの点で実践性が欠落するのが危惧される。現時点ではバーチャル・ユニバーシティは時期早尚と思われる。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●オンライン上のみでは教育といえない。今日、大学教育では知識の伝授のみではない部分が重要となっている。ここでは人間的ふれあい、相互反応が重要であり、教師对学生、学生对学生の影響の度合いが重要である。バーチャル・ユニバーシティは自習には有効である。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●夏休み期間の登校、集中授業も併用すべき。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●とても良いことです。 | 国立・教育学系 |
| ●知識の習得には効果があり、学生の利便性は向上すると思われるが、技能・技術的な能力の養成など、対面式の授業でしか得られない分野にはなじまない。既存の一部の単位認定の方法としてはあり得ると思う。VUの内容と方法を明確にする必要がある。 | 国立・教育学系 |
| ●以前から取り組みたかったが、今年度NIME、北陸先端大との協同で予算がついたので、手間をいとわず、今後推進したい。 | 国立・理工学系 |
| ●これからの社会変化の中で、教育等を受ける機会・環境も変化してきます。その一つとしてバーチャル・ユニバーシティが導入され、ネットワークを利用する教育によって多くの人が時間・距 | 私立・芸術系 |

| | |
|--|-------------|
| 離・年齢にとらわれず教育を受けるチャンスが与えられることは大変良いことと考えます。 | |
| ●実務系の教育ならば、ある程度は有効だろうが、教育学研究はかなりキメ細かな指導を個別に行うことが必要であり、バーチャル・ユニバーシティにはなじまない。 | 国立・教育学系 |
| ●可能性について検討していく必要がある。 | 私立・社会科学系 |
| ●科目・授業内容によって導入が好ましいもの、そうでないものがある。大学は部活動や教師・学生コミュニケーション等を通した総合的な人間涵養の場としての役割が少なくとも学部段階では今後、ますます求められるようになるのではないか。多くの理由から導入には積極的であるべきだが、それは、大学院、社会人、学部授業の一部に対するものであり、すべてを対面の授業や相談に代替すべきではないと思われる。 | 私立・社会科学系 |
| ●学習の機会や巾が拡大するので、望ましいシステムと考える。 | 国立・農学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは日本ではまだまだ市民権を得てはいないと考える。しかし、情報通信、マルチメディアの急速な発達、旧来の対面教育を重視する考え方から、これらの技術を利用していく方向へと移行していくことになるかと考える。本学では、建学の精神であるキリスト教に基づく人間教育の立場からも、当面、本来の意味でのバーチャル化を考えるのではなく、あくまで対面教育の補助的手段として、マルチメディアの利用を促進していきたいと考えている。 | 私立・人文科学系 |
| ●本学のように、医・歯・薬・保健系大学においては、オンライン上の教育のみで学位取得が可能とはなり得ない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●学生の理解度に柔軟に対応し、教えることが教育であると考えるので、相手の理解度の尺度となる表情が見えない状態では、真の教育はできないと思う。教育の機会の増加という長所は認めるが、一部の勤勉な学生にしか効果はないと思う。また、そういう学生はバーチャル・ユニバーシティを利用せずとも勉強する。もっとも大学卒業という履歴が欲しいなら別かもしれない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●学位（大学卒業）は授業だけでなく、その大学の学校文化や隠れたカリキュラムを身につけた上での〇〇大学卒業である。バーチャル・ユニバーシティで上記の事がどうなるのか関心がある。 | 私立・人文科学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは、情報通信技術の発達によってますます時間・距離・費用等の制約を小さくし、高等教育を受ける機会を様々な人に提供することが出来ると思われる。しかし、いわゆるオン・キャンパスの中で創られる人と人とのコミュニケーションの部分をどのようにして補うのが課題となる。あるいは、 | 私立・人文科学系 |

| | |
|--|-------------|
| <p>敢えてそういった部分を排除することによって、ある一定の目的を持った人々への特殊な履修形態として発展していく可能性も大きいと思われる。</p> | |
| <p>●学生が教員や他の学生と全く接触しないのは問題であるが、オンライン上で学習する者は、本当に向学心のある者であろうと期待し、良い意味で学生が淘汰されるのではないかと思う。</p> | 私立・人文科学系 |
| <p>●大学を社会教育、生涯教育の場とし、知識の伝達、リカレントを目的とするならば意味もあるものと考えられる。アメリカにおける学部レベルでの導入例があるが、まだ一般的ではないし、face to faceの教育が大前提である。</p> | 私立・社会科学系 |
| <p>●1. 専門的理系教育機関としては、そのようなものは無意味である。2. 資格取得のための教育や基礎的教育などには役に立つと思うが高度な研究能力の獲得には、それほど役に立たないと思われる。大学の果たすべき役割の一つとして、それぞれの学問分野への研究上の寄与があると思うが、この点ではまだ、マンツーマンの現在のような教育（研究者養成のため）は不可欠であろう。3. 対面式の補助として限定的にのみ用いるべきと思われる。以上のような意見がある。</p> | 国立・理工学系 |
| <p>●現時点では、将来構想としてヴァーチャル・ユニバーシティ化することは全く考えていない。本学部では、学生定員が少ない（昼間部170人、夜間部60人）ことを活かし、1学年10人程度の演習を重視した教育を行っている。少人数の演習は、報告・討論を通じて主体的に学ぶことを身に付けさせ、一方向的な講義の欠点を補うとともに、教員・学生間および学生同士の交流を図り、幅の広い人間を育成することを目指すもので、本学部の特色をなしている。オンライン上での教育では、双方向の授業は実現可能であろうが、学生同士の討論を活発に行うことや参加者間の交流を図ることは非常に困難である。それゆえ、オンライン上の教育をもって演習に代えてしまうことは適当でなく、オンラインでの教育はせいぜい従来の対面式の教育の補完的なものにとどまるべきだと考えている。</p> | 公立・社会科学系 |
| <p>●教科の性格上、あてはまるものと、あてはまらないものがある。</p> | 国立・人文科学系 |
| <p>●ほとんどの学問領域において、実験・実習が重要な意味をもっており、高等教育をオンライン上のみで行うことは不可能である。</p> | 公立・医・歯・薬・保系 |
| <p>●対面授業にも有利な点が多々あるので、すべてオンライン教育にすることは考えていない。</p> | 国立・その他 |
| <p>●オンライン上の教育のみでなく、オフラインの教育も交えながら、バーチャル・ユニバーシティを実現することが大切である。</p> | 国立・教育学系 |

| | |
|--|----------|
| ●不可能であるとは思えないが、大学というものは別の教育機関ではないかと思う。そのような方向に進むのが望ましいとは思えない。 | 国立・人文科学系 |
| ●だれが、その授業の責任をもつかはっきりさせないといけない。授業への出席、レポートはだれが書いたのかの判断ができなければ、本当に学生のための教育は難しいと思われる。 | 国立・教育学系 |
| ●現段階では可能でない。討議の必要がある。 | 私立・人文科学系 |
| ●客観的な授業評価も実施し易く、教員と履修者との双方向性を大前提として確保できるのであれば、大いに促進されるべきであると考えます。対面式であろうとオンラインであろうと教育のコンテンツが最も重要であり、本来的なものであることにかわりありません。 | 私立・社会科学系 |
| ●修得の確認をオンラインだけで済ませるかどうかが。大学に実際に来て授業を受ける機会を設けた方が効果的であろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●何らかの技術習得を目的とした教育においては、学生個々人の能力に応じた教育が必要であり、学生の習熟度を確認する必要があるため、オンライン教育では適さない。学位取得可能な教育をオンラインで行うのであれば、その意味で限られた分野となると考えられる。 | 国立・理工学系 |
| ●高等教育の形態として、非常に有効であると思う。しかし、単なる知識の蓄積、およびそれを基とした学問の研究だけが高等教育の役割ではないと考える。希薄な人的接触の中で学生の社会性をどのように育てるのかなど、バーチャルな環境の中で生じる問題点を見据え、このような問題点を克服するための方策を考えるべきであろう。 | 公立・理工学系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティに積極的な意見もあるが、全体的にはまだ検討もしていない。従来の対面的な教育の必要性も否定できない。オンライン上の教育と対面的な教育とが相互に補完しあうシステムが望ましいと考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●・教育的なものなら認めてもよい。専門的なものは困難ではないか。・対面式でないと学習する意欲が薄れるため、基本的には難しいと考える。・広範囲な人々が学問・教育に接し、関心をもつことが可能となる反面、教育の質を保証することができない危険性がある。 | 国立・家政系 |
| ●学習機会が多様化し、そのニーズに応えるには、通信教育・昼夜開講・インターネット等を利用したリカレント教育は大変有効な教育システムとなり得るものと考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●空間および、または時間を共有して、face to faceのコミュニケー | 国立・社会科学系 |

| | |
|---|-------------------------|
| <p>ションの中で共に学ぶことの意義を熟慮しないまま、インフラ先導で進むことに強い懸念を覚える。</p> | |
| <p>●実技系の大学では実態にそぐえない場合があります。</p> | <p>私立・芸術系</p> |
| <p>●スクーリングが必要である。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●受講場所にも拘束されず、いつでも受講者の自由な時間に教育を受けることができるという点で画期的だと思う。ただ、質疑応答など双方向の情報の流れがいかにか簡単にやれるかがポイントだと考える。</p> | <p>私立・医・歯・ 薬・保系</p> |
| <p>●呉大学では少人数編成の対面式教育を実施し、教育効果を上げている。インターネットを利用した授業・教材はこれらの対面式教育を補完することにはなるが、独立した授業形態になることは困難であると考えている。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●大学というのは一つの空間であって、それはバーチャルな空間ではカバーしきれないものがあると思う。</p> | <p>公立・その他</p> |
| <p>●・文科系では問題が少ないと思われるが、文科系以外では実験などが重要な部分を占めるため、オンライン上の教育のみでは極めて不十分である。・現在いくつかの大学で行われている通信教育制度の延長線上にあり、しかもより質の高い教育が行えるものと考えられる。しかし日本の場合、通信のためのコスト（電話回線費）がかかることがネックとなりうるので、この点をまず第一に改善すべきである。</p> | <p>私立・その他</p> |
| <p>●現段階のマルチメディア技術では、これを使って、討論、演習、実験実習などの学習を、実際に、「その場」で体験するようには行えない。さらに、学習者は学習過程の中で相互の啓発によって成長するが、オンライン上の教育だけでは、そのような相互啓発の場も与えられない。従って、現状では、時期尚早である。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●文科系では可能であるし、望ましい場合もあるが、理科系では実習が重要。</p> | <p>国立・医・歯・ 薬・保系</p> |
| <p>●具体的な検討課題になっていない。</p> | <p>私立・社会科学系</p> |
| <p>●対面式の授業でなければできない部分もあるので、全ては無理であろう。分野によって違いがあるので、一様にはできないであろう。</p> | <p>私立・人文科学系</p> |
| <p>●多様な教育環境を作り、学問を志す者に対して地域・年齢等を問わず均等に門戸を開放するための手段としては効果があると思われる。ただし、当然ではあるが技術的手段が目的になってはならない。現状のカリキュラムをそのままバーチャルに置き換えても効果があるとは限らない。また制度、運営面でも既存の大学のシステムの集合体として扱うのか、法人格として真にバーチャルな</p> | <p>私立・人文科学系</p> |

| | |
|---|-------------|
| 大学を新設するのかわでも、例えば入試選抜、単位認定の透明性・公平性等について議論が別れる所であろう。しかしこれからあくまで一面的議論であり、バーチャル大学に対して本質的に必要な議論として、教育環境が挙げられる。大学教育が「講義の集合体」としてモデル化されるか否かは議論が必要であろう。教育環境としては「文化・風土」といった「場」の形成も重要であり、これは日常の相互干渉、相互理解の中から生れる。単純に情報通信技術＋コンテンツ（講義）のモデルで無く、国際化社会、少子高齢化社会における我が国の大学のあり方を討論した上で、既存のシステムと共生可能な新しい概念の大学像を実現することが期待される。 | |
| ●バーチャル・ユニバーシティという考え方には興味を持っている。ただし具体的な中身の構築がどれほど難しいものか想像できない。創造性豊かな人材の育成を目指す教育の中で、オンライン教育の在り方は真剣に考えていかなければならない課題の一つである。 | 国立・理工学系 |
| ●技術進歩により、増加するが教室における対面授業が全くないということは問題があると思う。 | 私立・その他 |
| ●医学部においては、face to faceの教育を重視している。バーチャルなものは講義の補助として利用できると考えているが、バーチャル・ユニバーシティでは医学に関して学位取得は難しいと考える。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●今後、導入を検討してゆきたいと考えている。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後の大学の一つの方向として大学のオープン化が挙げられるが、オープン化のための一手段として、バーチャル・ユニバーシティが存在しよう。バーチャル・ユニバーシティの導入により、単位互換教育の拡大、教材の共有化、生涯教育への利用など利点も多いと考えられるので、積極的な導入を考えたい。 | 私立・理工学系 |
| ●バーチャルだけでは困難な面があると思われる。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●バーチャル・リアリティにおいてのみ真に実現可能な妄想の産物。オンライン上のみでということは、スクーリングなしでということでしょうが、第2・第3の学位取得のためならまだしも、オンライン教育のみで最初からというのは、考えられません。 | 国立・人文科学系 |
| ●経済構造の変化の中で新しい産業分野へいかにスムーズに労働力をシフトさせるかが課題となっている。その際、教育を通じた知識、技能、資格を身につける機会を提供すること。つまり教育機会を労働者一般に広く準備することは新しいセーフティネットで | 国立・教育学系 |

| | |
|---|-------------|
| あると考えられる。バーチャル・ユニバーシティは、そうした意味では有力な教育主体になりうるのではないかと思う。 | |
| ●一般的には望ましいが、本学部のように実習が必須な分野では不可能である。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●やはり、教官あるいは他の学生と直接話し合う機会をもつことも大事です。又、特に工学部では、実験あるいは実習も必要ですので、オンライン上の教育のみでは問題があります。 | 国立・理工学系 |
| ●一つの選択肢として今後の可能性はあるが、資格取得など特定の分野のみに限定されるであろう。当学部（理学部）の高度な教育内容をバーチャル・ユニバーシティ方式で行えるとは思えない。単に補完的なものにとどまるであろう。 | 国立・理工学系 |
| ●医学部、薬学部、工学部などの実験科学系では不可能なことである。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●対面型授業でないと得られない教育的効果の問題が残ろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育の提供の機会を増やす事ができるという利点がある。又、社会人等の教育にも利点があるが、理科系における実験などの教育が困難である。又、人間同志の接触において豊かになる人間性が育ちにくいと思われる。オンラインのみでは現実的でない併用型が自然。 | 国立・その他 |
| ●将来的には導入されるであろう大学のあり方（手段）の1つであると思うが、授業に対する（自習を含む）習熟度の認定や、それに伴う単位数や単位認定方法をよく検討する必要があると考える。でないと現状の大学で認定している学位との間に、全てにおいて差が生じる可能性があると思われる。 | 私立・理工学系 |
| ●1. 分野によって異なる。2. 実験系や実習（実技）系では難しいのではないかと。3. 講義のみであれば可能かもしれない。 | 国立・教育学系 |
| ●受講生が授業科目の内容に対して、ある程度の基礎知識を持ち合わせていれば、教員と受講生との意思疎通はスムーズにいくと思うが、そうでない場合は受講生が途中で挫折してしまうのではないかと。 | 私立・理工学系 |
| ●薬学の専門教育を行う上でオンライン上の教育のみで学位取得を認めるようなシステムは考えにくい。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●実験系教育にはあてはまらない。 | 公立・医・歯・薬・保系 |
| ●基本的には、積極的に促進すべきだと考える。その理由は、1. オンライン教育によって、教育の機会が格段に増加するため。2. オンライン教育では、教育内容を従来のように1人の教員が1から0まで担わずにすむ潜在的可能性があり、このことによって、 | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|--------------------|
| <p>教育の質が「一定水準まではスタンダード化できる」という意味で確保できると考える。ただしこれは、教育内容を細かくモジュール化し、組み合わせや独自性を各教員が工夫することによって成り立つ。大学は将来、1) 双方向通信を利用したマルチメディアコンテンツのジェネレーター、2) 配信者としての意味の方が、従来型の集合・対面教育の場としての意味よりも大きくなると考えている。また大学は、社会的教育ニーズと教育の理想の間でうまくバランスをとりながら、教育のトータルシステム構想を立て、それにそって種々の人材やメディア、市民活動を融通無碍に組み合わせ、サービスや場所の提供を行う結節点になると考えている。その意味でも、大学は、ヴァーチャル・ユニバーシティの機能を望むと望まざるに関わらず取り込むことになるだろう。</p> | |
| <p>●分野によっては積極的に進めるべきである。例えばsoftware。情報関連の分野は適している。多様な道を許容する枠組みが必要である。MITでは Software Development and Management というコースが成功している。</p> | <p>私立・理工学系</p> |
| <p>●資格試験にパスするようにする教育であればよいが、(人) 技術者を育てる工学部ではなじまない。対面式授業も必要。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●学問分野によって異なるのだと思いますが、実験、実習を伴う分野ではオンライン上のみの教育は想定しにくい。考え難いことであるが教育の質を変更するのであれば、可能である。</p> | <p>国立・その他</p> |
| <p>●学生層の多様化等のメリットはあるが、少子化時代に向けて需要関係に問題があるのではないか。</p> | <p>私立・その他</p> |
| <p>●理系では不可能。実験はどうする？</p> | <p>国立・その他</p> |
| <p>●本学のような医歯系学部では、バーチャルな環境は本学の授業の一形態として考えられる。しかし、バーチャルなオンライン上の教育のみで学位取得まで行うことは現状では困難である。</p> | <p>国立・医・歯・薬・保系</p> |
| <p>●大学院教育などの高いレベルの学生を対象にした教育には適していると思うが、手とり足とりじっくり教えるタイプの教育には不適。また、実習（実験）を含むカリキュラムでは単位取得は不可能である。</p> | <p>公立・理工学系</p> |
| <p>●対面状況での議論が実現できれば、効果は大きい。</p> | <p>国立・その他</p> |
| <p>●バーチャルは教育とマッチしない面が多く、基本的には反対である。特に理工系ではリアリティがより求められ、バーチャル・ユニバーシティで人間として育つか疑問である。</p> | <p>国立・理工学系</p> |
| <p>●本部局では実験に重点を置いています。有用ではありません。</p> | <p>私立・理工学系</p> |
| <p>●Campus Schooling等、対面教育と組み合わせるべきである。“学位なし” “但し、単位はある範囲でどこ大学でも生かせる” と</p> | <p>私立・その他</p> |

| | |
|---|-------------|
| いう形が望ましい。 | |
| ●オンライン教育は、教育の可能性や機会を従来より格段に広げることが出来ると期待している。しかし、オンライン上のみとなると現在のプログラムとの関係／特色をどれだけ活かせるかといった点も課題になると考えている。 | 私立・社会科学系 |
| ●技術の習得のみが強調されるような特殊な分野では、工夫次第では可能でしょうが殆どの分野では現実的ではないと思います。 | 国立・理工学系 |
| ●具体的に検討していない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●難しい。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●専攻分野によっては、有効であると考ええる。 | 私立・社会科学系 |
| ●本学部では考えられない。学部の教育理念の実現のためには、遠隔地からの情報提供等のみでは無理と考えている。 | 私立・人文科学系 |
| ●バーチャルユニバーシティの概念は、筆者も次世代教育の一つの大きな柱になると考えており、文部省に対して概算要求を行っている。 | 国立・農学系 |
| ●自宅、遠方からでも単位取得が可能になり非常に有用である。 | 私立・理工学系 |
| ●本人の確認が困難であり、本人が対応しているのか代理人が対応しているのかわからない。少なくとも対面式のセミナーや学位論文発表会等を併用すべきである。 | 国立・理工学系 |
| ●今後一般的になっていくと考える。通信教育部を中心に組み込んでいきたい。 | 私立・芸術系 |
| ●勤労者・山村僻地・海外居住者等にとってはメリットがあると思われる。しかし、対面教育が軽視される点が問題であろう。 | 国立・その他 |
| ●可能性について前向きに検討したい。 | 私立・社会科学系 |
| ●将来的には普及は必至と思われます。その場合の留意点として、各期の試験・卒業試験については、本人であることが認証されるシステムの下で実施されるべきと考えております。 | 私立・社会科学系 |
| ●フェイスtoフェイスの教育で、補完していく必要が一部残っていくものとする。 | 私立・社会科学系 |
| ●部分的には賛同できる。コンテンツ作りに時間、労力がかかりすぎる。 | 公立・社会科学系 |
| ●補助的にオンラインを使うのは良い方法であるが、教育の基本は対面と考える。 | 私立・社会科学系 |
| ●工学系では、実験等もあり難しいのでは？文系ならば出来るかもしれない。 | 公立・理工学系 |
| ●学習継続支援の為のオフラインの体制が重要（既存の通信教育課 | 私立・社会科学系 |

| | |
|---|----------|
| 程と同様)。それを着実に実現する為には地理的条件からの解放(国際化)等には、自ずと限界がある。むしろオンライン活動は、フィジカルなコミュニティの基盤を継続する為の手段として有効ではないか。 | |
| ●対面での指導がない場合、条件(論文のレベルなど)を高くする などが必要ではないか。 | 私立・社会科学系 |
| ●フェイスtoフェイスによるコミュニケーションは必要。音声や映像による情報は限られる。人間と人間のコミュニケーションによる教育力は、実際に会って話をするのが一番である。 | 私立・理工学系 |
| ●大学教育においても人間形成的側面が無視できないので、現状ではこのことが可能であるとは考えられない。 | 私立・人文科学系 |
| ●時間・空間・世代間のギャップを埋める重要な手段である。一方で、通学・対面型の教育は引き続き必要。 | 私立・人文科学系 |
| ●現在、首都圏の大学は少子化・大学冬の時代の生き残りのため、社会人をいかに取り込むかを真剣に考えている。また、国公立志向と不況の影響か地方の学生が減少している。このような状況の中で、時間的・空間的制約という問題を一気に解決するバーチャルユニバーシティは、注目に値する。ただ、完全なオンラインのみで学位取得させるのではなく、やはり指導教官との対面的指導や生徒同士の討論の場も重要な側面であり、その要素を含めたバーチャルユニバーシティの環境を各大学で創造すべきであろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●単位取得の前提としての試験の形態が良くわからない。オンライン上での試験では、本人か本人以外かの確定が困難なのではないかとの疑問がある。 | 公立・社会科学系 |
| ●体制が整えば可能だと思われるが、人員がそれには割けないと思う。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後進めてゆくべき取り組みです。 | 国立・理工学系 |
| ●主に社会人のために積極的に進めるべきである。取得できる単位数の上限などの制約は廃すべきである。 | 公立・社会科学系 |
| ●大学の社会的責任としても一考すべき。新しい大学の可能性を開拓できるかも知れない。 | 国立・理工学系 |
| ●若い世代で、特にインターネット上であらゆる情報が得られる事を当り前と考える風潮が今後ますます強くなるだろうし、彼らはバーチャルな世界に違和感なくとけ込むだろう。その成否はともかくとして、バーチャルユニバーシティへのニーズは高いと見る。 | 私立・人文科学系 |
| ●いくつかクリアすべきハードルがあるように思う(人文)。 | 国立・その他 |
| ●試みは理解できるが、今のところ現実的でない面も多い。十分な検討が必要と思われる。 | 私立・その他 |

| | |
|---|----------|
| ●1.最近のインターネットショッピングでも問題となっているが、注文した物と別の品物が届けられたり注文した品物が来なかったり等のトラブルが多い。授業における単位認定は、非常に慎重に行うべきものを考慮すると、教育者及び教育を受ける者双方の情報処理能力が必要である。2.実験の必要な部門では、あくまで「バーチャル」であって補助的な教育でしかない。全てプログラム化された教育からは、新しい事の生まれる可能性は非常に低い。3.実験実習等教材にじかに手をつけて行う教育が不可欠なので、利用に制限が付く。 | 国立・理工学系 |
| ●一定レベルの学歴を有する者（例：社会人大学院）にとっては、時間の有効活用の一助となるが学部学生にとっては、教員との対面授業の補助教材として使用するにとどめるべきである。 | 私立・社会科学系 |
| ●今後は必要だと思う。 | 私立・理工学系 |
| ●バーチャルユニバーシティで教育できる対象者と限定せざるを得ない。例えば、社会人とかその分野の素養を身につけたものでなければ、教育効果は上がらないと思われる。 | 私立・理工学系 |
| ●放送大学の方式でも学位取得が必ずしも容易ではない。知識のみの教授で果たして学問の深淵に触れることが可能なのか。又人間陶冶の面で対面授業と同様に学ぶ事が可能であるのか不安である。当面限定された科目において実施するべきであると考えている。 | 私立・社会科学系 |
| ●現在、本学では通信教育部を開設しているが、通信教育などに利用する価値は大きいと考える。しかしその一方で、危惧すべきはレポート・試験などの情報も学生相互で交換されることがあり、教育上の効果、またその評価が難しい側面を持つと考える。 | 私立・教育学系 |
| ●社会人の学位取得には有効と考える。実験系の場合は、導入に工夫が必要になると思う。 | 国立・農学系 |
| ●教育における生き生きとした人間関係が失われる可能性が高い。 | 私立・社会科学系 |
| ●スクーリングの併用によって、バーチャルユニバーシティが可能になると思う。特に社会人教育には有効と考える。 | 公立・社会科学系 |
| ●自主的に学習を進める意欲が不可欠。社会人教育には、高い効果が期待できる。 | 私立・その他 |
| ●放送大学の次に来る将来型大学像と考えます。 | 私立・社会科学系 |
| ●補助利用であって、バーチャルユニバーシティには法的に整備の課題が多い。 | 公立・社会科学系 |
| ●それはバーチャルな学位にすぎない。人間的触れ合いのない教育に実質は求められない。 | 国立・理工学系 |
| ●★理論上は可能であるが、教育効果の面でどこまで成果が上がる | 国立・人文科学系 |

| | |
|--|-------------|
| のか未知数である。★専門分野によっては、オンラインとオフラインを組み合わせないと不可能なものもあるが、社会人教育や生涯教育を促進する意味では、これからは是非本格的に検討していただきたい。★facetoface型の教育が基本であり、その他の教育はあくまで制限付きで行われるべきであろう。知識の習得、道具操作能力の向上を中心とした技術重視の教育は問題が多い。人格形成という古典的な目標をもっと重視すべきであり、そのためには機械・道具を介在させないコミュニケーションが必要であろう。 | |
| ●将来的には可能。準備に支援が必要。 | 国立・理工学系 |
| ●放送大学や通信教育と違って双方向性のコミュニケーションが特色となって、学位が取得しやすくなるバーチャルユニバーシティ（カレッジでもOK）が出現すれば、マルチメディア教材作りの価値が高まると思いますが、著作権のトラブルのないようにする事、バーチャル学位取得者の社会的地位、企業の受け入れ態勢を整える事、パソコン画面だけからの教育の限界など、十分に検討しておく必要があるように思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●単純な内容の資格取得のための研修や訓練は別として、教育の場では本来顔を見て話せることが基本要件である。情報革命の今日、人間教育が強く指摘されているが本来は、人間守漫の理念と建学の指針としており、この事からもインターネットだけに依存する狭義のバーチャルユニバーシティでなく、これに画像音声の双方向性を取り入れ、また必要に応じて対面式も加味した柔軟なバーチャルユニバーシティを目指したいと考えている。 | 私立・家政系 |
| ●それのみですと問題が出てくるように考えます。 | 私立・人文科学系 |
| ●理念、ないし理想としては素晴らしいが、現状から判断すると現実に実現するには相当の努力が必要。なおかつ一部教職員に相当の負担がかかろう、従って相当の熱意ある教員のいない限り実現不可能。 | 私立・社会科学系 |
| ●開設するのは良いが、本人が直接対応している証も必要。一定期間のスクーリングが必要と思われる。 | 国立・農学系 |
| ●教育には、対面授業は欠かすことができない。 | 私立・社会科学系 |
| ●当部局のように、実験科学分野を主体とする部局では実現可能性は極めて厳しいように思われる。しかし理科系でも、一部の分野では近い将来自宅で実習可能となることも考えられるため、全く実現不可能であるとは考えていない。又、実験実習を除いた単位のみによるバーチャルユニバーシティ用の学位ができるのであれば、前向きに取り組むべき課題だと考えている。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●最大の問題として、学生当人かどうか確認ができないと思われる。 | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|-------------|
| 学生主体としたゼミ・グループワーク・ディスカッション等の授業が出来ない。TVゲーム感覚で知識の提供のみで良いものか疑問に思う。 | |
| ●本学のような語学系大学では実現が困難であるように思う。 | 公立・その他 |
| ●積極的に考えていく。 | 国立・人文科学系 |
| ●放送大学のように一定のスクーリングと併用することが必要と史料。 | 私立・ |
| ●日本でも具体化させるべき。 | 私立・社会科学系 |
| ●コミュニケーションの形態上、教育に十分な双方向性が実現できるとは思えない。本のみによる独学で学位を取得できることと大差はなく、教育の本来の目的からはずれているように思える。 | 私立・社会科学系 |
| ●医学部教育には全くあてはまらない。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●将来的には検討の余地があろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●英国著名大学ではじまったことで注目したが、やはり中身がよく判らない。適したものもあるが、不適なものも多いと考える。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは将来的に認めることになると思いますが、いくつかの問題点があり、それらに対して十分な検討が必要です。検討を要する問題をいくつかあげてみます。(1) 試験以外の教育効果の測定をどうするかー或いは勉強の進展状況の把握(2) 科目毎に異なる大学を受けることの制限ー学科または科目の受講生数の制限ー無制限にすると、特定教員に受講生が集中する(評判の良い教員と簡単に単位をくれる教員)ー一定員に対する考え方ー教育の画一化(3) 授業の与え方ーオンライン授業は電話料との関係で事実上困難、CD等の媒体を利用し受講生の質問などをオンラインとするなど。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●全体的には賛成だが、科目によっては、難しい面もあると思われる。但し、バリアフリーの側面からも、積極的に押し進める必要があるだろう。 | 私立・その他 |
| ●分野によれば、オンライン上の教育のみで学位取得は可能であろう。今までの論文博士であれば、論文のみで学位が取得できたのであるから。しかし実験などを必要とする分野ではオンラインのみでは不可能である。可能な分野は積極的にバーチャル・ユニバーシティを進展すべきであり、社会人でも学位取得の可能性が多いことは望ましい。 | 私立・人文科学系 |
| ●方法には相当な工夫が必要であるが、良い試みである。 | 私立・人文科学系 |
| ●実技等の教育機関ですから、オンラインによる学位取得は不可能です。 | 公立・芸術系 |

| | |
|---|-----------------|
| ●部局内で議論しておりません。 | 国立・理工学系 |
| ●本部局においても重要な課題のひとつである。 | 私立・人文科学系 |
| ●余り具体的に考えていない。 | 私立・人文科学系 |
| ●実現すれば、素晴らしいと考える。だが、完全にオンライン上の教育のみでは実施できないと思う。オンラインではない部分の工夫が必要になるであろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●検討してみる余地はあるが、大学教育が知識の授受のみではなく、教職員との日常的交流のなかに人格形成等をも含めた教育目的、理念を持っていることから、オンライン上の教育のみというのは考えられない。 | 国立・農学系 |
| ●対面授業が基本であり、あくまで補助。 | 私立・理工学系 |
| ●通信教育と同時に考えれば可能でしょう。しかし、私達はそうした問題を考えたことがなく、答えようがありません。 | 国立・社会科学系 |
| ●遠隔地や社会人の学生など学生層が広がるのは、非常に魅力的だと思います。その一方で、従来の学位取得との関係を考えていく必要があると思います。 | 私立・社会科学系 |
| ●学生については十分可能。大学院についても文系なら可能。 | 公立・その他 |
| ●学生の顔が見えない、インフラ整備の費用、教員の授業サポート体制等问题があるが、今後の教育ツールの1つになることは間違いないと思料する。 | 私立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●現在の技術を用いれば、バーチャル・ユニバーシティによる教育は決して困難なものではないと考える。しかしながら、教育成果の確認方法については、いろいろな問題が残されていると考える。教育を受けた本人の実力のみで成績を評価するための要件（例：試験の解答）が提出されることを保証する必要があるのではないか。 | 公立・その他 |
| ●すべての講義で可能ではないと思いますが、可能なものから実現していくとよいと思う。 | 私立・その他 |
| ●学位取得の中心は対面授業であるべきでオンラインはあくまでもその補助であると考ええる。 | 私立・社会科学系 |
| ●オンラインでは対話のニュアンスが伝わらず、また相互の情報量が不足する。あくまでも補助手段であって、バーチャルのみで教育が完成するとは思えない。 | 私立・理工学系 |
| ●時間や教室などの制約がなく自由度が高いことは、教育の場・方法として大変有効であると考ええる。しかし、オンライン上ではない人との直接コミュニケーションの機会も学位取得については必要であり、重要であると考ええる。 | 私立・社会科学系 |
| ●教育は知識取得のみで足りるものではないと考えるので何らかの | 私立・社会科学系 |

| | |
|--|----------|
| 対面授業は必要。 | |
| ●不可能ではないが解決すべき点が多い。 | 私立・芸術系 |
| ●学位は単に知識に与えられるものではない。又、知識教育においてもオンライン上では不可能な事が多く、バーチャル・ユニバーシティでの学位はバーチャルだと思う。 | 国立・農学系 |
| ●評価にあたって複数の評価者が意見交換する方式を取り入れる必要がある。 | 私立・理工学系 |
| ●オンライン上だけでの学位取得は、個人特定やセキュリティの面から見ても対面授業がある程度同時に行うことが必要である。反面、生涯教育を考えると非常に有効な手段であると考ええる。 | 私立・理工学系 |
| ●時間的な制約などで、学校へ通うことができない場合にはオンライン教育のみで学位が取得できることに対して理解できる。但し教育現場では教師と学生すなわち人と人との信頼関係で授業が成り立っているものと考えられる。教師と学生が同じ場所で対面しないオンライン教育では、少し冷たいような（人間味のない）気がする。本来は従前からの教師対学生の授業形態が望ましいが、何らかの理由で通学できない場合には、オンライン上の教育がよいと考えられる。 | 私立・人文科学系 |
| ●居住地に関係なく、遠隔地において何時でも授業を受けることができ、教育の機会均等が図られる。ただし、知識や教養の修得を行えるが、人とのふれあいによる人間性の向上に関し、困難な点があろう。なお、実験・実習を重んずる科目については別途、工夫が必要と考える。 | 私立・農学系 |
| ●学生人口が減少する中、生涯学習を軸とした社会人学生の受け入れを検討していく必要がある。この時、それが1つの手段となるはずである。 | 私立・人文科学系 |
| ●オンライン上の授業はいいと思うが、どのような授業内容をどのように進めていくかが問題である。 | 私立・その他 |
| ●文化系学部の場合には、比較的学位取得は容易であろう。しかし、本学のような理科系学部の場合には、実際に経験することが非常に重要である。まだ、もう少し時間がかかるのではないだろうか。 | 私立・理工学系 |
| ●よくわからないが、うまくやれば効果がある間もあろう。 | 私立・人文科学系 |
| ●慎重に考えていく必要がある。 | 私立・人文科学系 |
| ●教育は基本的にはフェイス・トゥー・フェイスで行なわれるべきものと思う。教員と学生との人間的な接触こそが、次の時代を担うべき学生の人格形成に役立つのではないか。 | 私立・社会科学系 |

| | |
|---|-------------|
| ●質の低いカルチャースクールの域を出ない恐れが大きい。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●医学部のような実地体験教育が求められる分野では、スクーリングのようなものでも代替することは不可。特に、高学年では患者とのコミュニケーション・スキルを習熟することが必要なため、コンピュータシミュレーションによるバーチャルリアリティー（VR）では実地教育が出来ないため絶対不可。なお、博士号および博士号の学位取得は、個人毎の研究成果が評価された結果であるため、教育とは、別のカテゴリーの問題ではないでしょうか。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●産業保健学部のような実地体験教育が求められる分野では、スクーリングのようなものでも代替することは不可。特に、高学年では患者とのコミュニケーション・スキルを習熟することが必要なため、コンピュータシミュレーションによるバーチャルリアリティー（VR）では実地教育が出来ないため絶対不可。なお、博士号および修士号の学位取得は、個人毎の研究成果が評価された結果であるため、教育とは、別のカテゴリーの問題ではないでしょうか。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●この方式のみで取得した学位が社会的評価を正しく受ける為には、多くの課題があると思います。 | 私立・家政系 |
| ●人間同志の微妙なコミュニケーションは、教育の場では不可欠と考えているので、バーチャル・ユニバーシティに見る学位授与は考えられない。特に工科系であるため。 | 私立・理工学系 |
| ●伝送品質がある程度向上すれば、実用化できると考えられる。しかし、スクーリングを併用するなど、教育の質も十分配慮しなければ、ニーズを満たせないを考える。 | 国立・その他 |
| ●オンライン上の教育のみでは教育にはならない。 | 公立・理工学系 |
| ●現在する放送大学と同様なたちで成立し得ると思う。しかし、オンライン用の教材を新に作製しなければならず、スタートするまでに時間がかかる。 | 国立・農学系 |
| ●新しい試みとして注目したい。 | 私立・社会科学系 |
| ●特定の知識・技術の習得（→学位・資格取得）のための学習システムとしては、一つの方法と考えるが、「学校教育」のパラダイムにはなじまないのでは…。 | 私立・人文科学系 |
| ●勉学志向の強い学生には教育の機会拡大のために必要であると考えます。しかし、一般的には継続性を保つことが難しいのではないかと思います。 | 私立・家政系 |
| ●教育には、Man to Manの精神的なコンタクトが最も重要である。バーチャル・ユニバーシティはバーチャルでしかない。 | 国立・理工学系 |

| | |
|--|-------------|
| ●技術的に可能になりつつあるが、課題もある。(1) 学生はどこで授業を受けると想定するか(例えば、家庭、サテライト教室)。(2) 実験系の学部・研究科をどうするのか。また質疑応答をどうするか。しかし、バーチャル・ユニバーシティのような“学生のいない大学”は一つの流れになりつつあると考えて対応を検討し始めている。 | 国立・理工学系 |
| ●知識を与えることは出来るが、教員との対面交流なしに学者は養成できないであろう。 | 私立・社会科学系 |
| ●対面学習が基本的に必要。 | 私立・農学系 |
| ●具体的に検討していない。 | 私立・医・歯・薬・保系 |
| ●今後のインターネット等の進展を考えると、バーチャル・ユニバーシティを実現しないと時代の流れにとり残される可能性がある。その実現に向けて種々の構想を立てておかないといけない。 | 私立・社会科学系 |
| ●単位とか学位を考えずに知識探索・好奇心で学ぶではいけませんか。 | 国立・医・歯・薬・保系 |
| ●○どのような科目・専攻なら可能なのか不明○実習やフィールドワークなどを伴う学科が多いので関心は高くない○「なりすまし」受講などにはどう対処するのか○受ける側が経済的負担を大きく強いられるのではないかとどこかへ出向いてオンライン授業を受けるのであればわざわざオンラインにしくなくてもよいのでは？ | 公立・人文科学系 |
| ●将来は社会人の大学院生などに利用されるようになると思う | 国立・理工学系 |
| ●好ましいことではない。対面式と組み合わせて実施すべきである。 | 国立・教育学系 |
| ●単位互換制度の導入や社会人学生の増加等によりいつでもどこでも受講可能なバーチャルユニバーシティは必要不可欠と考えている。 | 私立・社会科学系 |
| ●物理的な様々な理由で大学等に通うことが不可能であった者や今後の高齢化社会に対応した一つの有益な構想であると思う。 | 私立・家政系 |
| ●物理的な様々な理由で大学等に通うことが不可能であった者や今後の高齢化社会に対応した一つの有益な構想であると思う。 | 私立・人文科学系 |
| ●各大学がどんなに学生を育てたいかが重要であり、何のためにオンラインを利用した教育をする必要があるかを明確にすべきだと考える。また大学院においては、修了単位のうち、何単位かはマルチメディアを利用し、オンライン上の教育を有効な手段と考えるが、研究指導等については、特に直接体面した教育も必要と考える。 | 私立・人文科学系 |
| ●○条件付で賛成です。その条件とは、登録された学習者本人が学 | 国立・その他 |

| | |
|--|-----------------|
| 習している、又は学習したことを何かの形で補償する必要があると思われます。現時点で声紋や指紋などの照合では充分でなく、各地域にサイトを設けて、年4回位来てもらって本人が学習した結果を確認する事が必要だと思います。21世紀は、この方向による教育が世界中で行われるので、日本も是非積極的に行って頂きたいと思います。 | |
| ●スクーリングは必要であろう。 | 国立・人文科学系 |
| ●教育は教員と学生との直接的な関係なしには完結しないと考えるのでバーチャルユニバーシティーのみで学位取得は不可能と思われる。ただし学問分野によっては可能かも知れない。 | 国立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●当学部（薬学部）は講義と同程度に実習に重きを置いているので将来的にも不可能である。 | 国立・医・歯・ 薬・保系 |
| ●本学部のような理工系学部においては各学位条件を満たすための諸カリキュラムのうち、物理現象、工学技術に係わる教育をバーチャルな手段で伝授できないであろう。バーチャル・ユニバーシティーは、かなり限定された分野で実現されるであろう。 | 私立・理工学系 |
| ●教育は教師と学生との信頼関係が大切であり、対面式の教育が中心となっている。社会人や何らかの理由により、対面式の授業が無理な時はオンラインでもやむを得ないが、オンラインの教育のみは、不可であると考えている。 | 私立・その他 |
| ●現在放送大学があり、そこで学社会人も多い。オンライン上の教育では放送による教育より双方向の（特に学生からの）発信とそれに対する対応が頻繁になり、よりキメの細かい学習が可能となる。バーチャルユニバーシティーは、放送大学以上に効果的な教育ができるものと思われる。 | 私立・人文科学系 |
| ●医学部の教育には適さないと思う。 | 公立・医・歯・ 薬・保系 |

<短期大学>

| | |
|---|----|
| ●ぜひ早期に実現して欲しい。 | 私立 |
| ●大変良いことと思います。しかし現状では内容が不明。 | 私立 |
| ●多様な社会のニーズに対応する為には、必然的にそういう方向に行かざるをえないであろう。 | 私立 |
| ●修業年限を廃止したうえで、必要な単位数を取得したものに学位を授与する累積単位制度の導入には基本的に賛成である。この場合において、バーチャル・ユニバーシティの講座は質・量ともに単位認定の基準として位置付けられると思われる。学生にとっては、課目の選択肢が広がり自学自習の支援になると思われる。教員にとっては類似課目の提供は教育内容の向上に積極的に関与する契機となると思われる。 | 私立 |
| ●現在の授業内容、方法等の流用ではなく、新しい方法を検討する必要がある。 | 私立 |
| ●現状では通信教育と同程度のものとする。 | 私立 |
| ●将来性はあると思うが、まだまだ実現するのは難しい。オンライン上で本人を識別（特定）することが出来ない。 | 私立 |
| ●費用の割には教育効果は少ないと思う。 | 私立 |
| ●修士以上については、生涯教育の観点から良い。 | 私立 |
| ●地方都市の大学が行った場合の利用率等に問題があると思われる。 | 私立 |
| ●今後一般的に利用されていくと考える。 | 私立 |
| ●開発をすすめるべき事柄だと思う。 | 公立 |
| ●大学のあり方が変革していくものと考えられるが、再び既存の講義方式の授業が見直される時期が来るとも考えられる。いずれにしろ新たな試みとして行う高等教育機関が増えると思う。 | 公立 |
| ●現状では、学生の情報リテラシーが十分とはいえないため（質問の半分以上が情報機器の製作やソフトウェア使用に関係している）、オンラインのみの教育は難しい。 | 公立 |
| ●遠隔授業のみならず、質の高い生涯教育にも利用の可能性が広がると思われる。しかし、設備投資、管理運営の費用面を考えると単独開設はなかなか難しい。各エリアごとの大学、共同利用機関、または民間企業など連合組織作りが早急に望まれる。 | 私立 |
| ●いずれは、このような学校が誕生すると思います（欧米ではすでに実施されています）。社会人等を中心に需要があると思っています。 | 私立 |
| ●大切なものが欠ける気がする。 | 私立 |
| ●完全なオンライン化は難しいと思われる。現在ある通信制課程に置き換わる形で当面は推移してゆくのではないかと。 | 私立 |
| ●本学の各学科とも、実習・実技を中心とした専門職業教育を行っており、文部省の基準も同様の内容となっている。したがって、バーチャル・ユニバーシティを本学で適用するのは困難であると考えます。 | 公立 |

| | |
|--|----|
| ●相互コミュニケーションの欠如や実験・実習等の学習方法に問題があると考え る。 | 私立 |
| ●より良い授業を提供できれば、このシステムは積極的に行うべきだ。ただし、 大学と教員の選別・淘汰になると思う。 | 私立 |
| ●コストがかなりかかるのではないかと心配しています。 | 私立 |
| ●将来的には、日本でもこの種のタイプの大学が増加していくように思う。 | 私立 |
| ●一部の講義形式の授業科目については、オンライン上の教育によつての単位取 得は可能であり、学生層の幅も広がると思われる。しかし、演習・実技形式の 授業科目においては、オンライン上の教育は対面式の授業の補助として用いる べきである。以上のことから考えると、オンライン上の教育のみでの学位取得 は困難であると思われる。 | 私立 |
| ●学部・学科にもよるが、あまり好ましいとは思えない。対面教育が1／3以上 は必要であろう。 | 私立 |
| ●教育にはやはり対面教育が必要である。 | 私立 |
| ●そのような機関があってもよいと思うが、本学には適切でない。 | 私立 |
| ●本人であることの確認が不確かであり、学位や資格を与える場合に問題になる のではないかと思います。 | 私立 |
| ●教育・研究は人間と人間が直接触れ合いながら、行われるのが本来の姿であろ う。通信回線を介しての“バーチャル”な大学で果たして本当の教育が可能な のであろうか。また、学生の学力認定があいまいになる恐れがある。しかし 「教育とは知識や技術の伝達である」という立場にたてば、それなりの意義は あるであろう。 | 公立 |
| ●有意義なことであると考え。しかし、私共のような演習・実習の多い分野で は、それだけでは完結しない。 | 国立 |
| ●ア. 講義教材として利用できるか？イ. 学内での単位認定が可能か？ウ. 通学 日数が減少する学生の生活指導を如何とするか？ | 私立 |
| ●全く対面教育が実施されないのは疑問。 | 私立 |
| ●ある程度の結果がでないと分からないので、しばらく様子をみたい。 | 公立 |
| ●授業参加状況の把握と評価方法が困難と思う。 | 私立 |
| ●本学では予定していません。その可能性などについて、今後研究していく必要 があると考えています。光と影を十分に検討することが重要でしょう。 | 私立 |
| ●特定の技能資格についてはオンライン上の教育で取得可としても良いであろ うが、大学教育とそれにとまなう学位取得を考えると、教育の内容に様々な人 間関係と時間・空間性の要因を無視できないように思われる。人間形成の点か らは伝統による方向づけ、教え教えられる者の間の人間関係、志向の異なる他 者の存在と感化など、バーチャルには解決できない問題があろうかと思う。 | 私立 |
| ●わからない。 | 私立 |
| ●・「なりすまし」の危険性を持つこと。・サブカルチャアの要素が強くなるこ | 私立 |

| | |
|---|----|
| と。・ネット上のコミュニケーションのルールが定まっていないこと。本人との対面は教育上不可欠と考える。また、コミュニケーションで相手及び第三者の意見を聞くことも不可欠と考える。時期尚早と考える。 | |
| ●離島・へき地や難病などで通学困難な学生には、非常にメリットがある。 | 公立 |
| ●今後検討する必要があると思う。 | 私立 |
| ●わかりません。 | 私立 |
| ●非常に面白い試みである。但し、現状ではインフラの整備が追いついていない。 | 私立 |
| ●本学は実技教育が中心なので、オンライン上での教育は考えていません。 | 私立 |
| ●定期的なスクーリングが必須であると思う。受講者の本人か否かの認証を充分に行うべきと思います。 | 私立 |
| ●海外の先進的な取り組みにより新しい教育環境が構築されつつあるが、どれだけ充実したコンテンツ（教材）が制作され、提供されるかにかかっていると思う。コンテンツ制作のための組織や要員養成が先決問題である。 | 私立 |
| ●確かに画期的な試みとは思いますが、教員?学生間のインターフェイスがより希薄になり、“人間教育”の観点からみると、若干問題があるのではと思います。 | 私立 |
| ●オンライン教育のみで卒業できる形態は社会的に広く普及するとは思われない。教育と研究に対面授業なり指導を欠くことは、不可能に近い。そのような教育で学位を取得しても、人格形成を含む高等教育を受けた者とは評価されない。バーチャルユニバーシティは、特定の技術的な分野に限定されることになるだろう。 | 私立 |
| ●本学は、音楽実技の学校であり当てはまりにくい。 | 私立 |
| ●基本的に不可能であると考え。これは学位に対する考え方の違いと思われるが、技術・能力の確認をオンライン上で可能であると判断していない。 | 公立 |
| ●日本の現状を考慮すると、社会人へのリカレント教育が中心になるのではないか。 | 公立 |
| ●少子化傾向が進む中、在宅での授業は社会人の学習参加がしやすいバーチャルユニバーシティは、今後検討していく必要があると思われるが、コスト面からまた実技・実習、演習といった授業内容についての実施については、なかなか難しい問題があるように思う。 | 私立 |
| ●今のところ考えていない。 | 私立 |
| ●技術教育（看護婦養成）を専らとする短大であるので、不可能。実技教育、実技の評価、実習があり、学位等は与えられない。 | 公立 |
| ●アメリカ等の大学で成功している事例などは、聞いており興味は抱く。ただし、日本国内でのPCの個人ユーザー普及率や設備投資に関わる負担を考えると、現時点での導入は困難である。 | 私立 |
| ●今後の高度学習社会においては不可欠であると思う。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●講義のみのものは可能だが、演習等必要な科目も多いのではないか。 | 私立 |
| ●バーチャルユニバーシティは空間的、時間的制約を超えて、誰もがいつでも学ぶことの出来る新しい教育の形態として期待される。しかしその一方で、オンライン上の教育のみでは直接的な対人関係のコミュニケーション不足がもたらす影響も心配される。またオンライン上の教育によく対応できる教育分野と、対応が困難な分野も予想される。 | 私立 |
| ●積極的に進めて欲しい。 | 私立 |
| ●今後このような形態は促進するものと思われるが、教育現場における全体的調整にはかなり無理がある。従って研修等のプログラムを浸透させて、現場の理解を深めていく必要を痛感する。 | 私立 |
| ●基礎教育の分野におけるネットワーク上の教育システムは、教育の普及と機会均等性確保や効率性などの点で、それなりに十分活用できると考えます。しかし、応用知識教育レベルにおいては教育・指導者と学習・研究者との人間としての触れ合いの環境の中で、種々の創造性などが育まれていく部分が多いのではないかと思いますので、その活用が限られてくると考えます。 | 私立 |
| ●そのような形態が必要な人及び、機関には必要性があるかもしれないが当機関では導入の考えすらない。 | 公立 |
| ●地理的、時間的制約条件を大幅に緩和するものとして、将来的には普及していくものと思われる。但し、人間対人間の関係性に基づく広範囲対精神面での刺激というものの重要性がより高まるものと思われる。 | 私立 |
| ●人間対人間の接触のないオンライン上の教育は、大学という学校機関の教育としては学校の存在が無意味となる。学校という機関での教育においては、コンピュータを含めて機器は補助的手段に過ぎないと思う。 | 私立 |
| ●通信教育を進化させた教育システムだと思います。郵便の代わりに電子ネットワークを使うため情報のやりとりが迅速になり、効率的でストレスのない情報・意見の交換を可能にしたいと思います。また、ネットワーク上では1対1の授業となるので対面式の授業に比べ、より細かい指導を行う利点があると思います。ただし、いくらパソコンが普及したとはいえ、機械が苦手な女性や中高年にはバーチャルユニバーシティは遠い存在かもしれません。 | 私立 |
| ●現在生涯教育への関心が高まっており、社会人でも学習意欲のある人は多い。そういった人に対する教育の一つの形態として、バーチャルユニバーシティは非常に有効であり、今後かなり普及していくと思われる。 | 私立 |
| ●通信インフラの整備が家庭にまで及べば、放送大学等に代わる遠隔授業の有望なメディアになると思われる。 | 私立 |
| ●従来の通信教育の様に、スクーリングが必要なくなるのでは？ | 私立 |
| ●講義科目に関しては、特に問題ないと思うが演習・実習科目等については、どうしてもオンラインとは別に補習の教育を行う必要があると思う。 | 私立 |
| ●社会人や障害者に対して、門戸が広がるという点では期待が持てる。しかし、 | 私立 |

| | |
|--|----|
| 本学のような歯科技工士及び歯科衛生士を養成する特殊な学校においては、その教育内容などからバーチャルユニバーシティのようなものを行うのは適さないと考える。 | |
| ●米国の例を参考にしながら、積極的に導入を検討していくべき時期に来ていると考える。 | 国立 |
| ●学生本人の特定、及び勉学意欲の維持が困難であるため教育の質の低下を招く。 | 私立 |
| ●短大の場合、財政的・技術的問題が大きいとオンラインの導入などに取り組みにくい。 | 私立 |
| ●方向としてはそのようになるだろうが、問題点が多く考えられるので現段階では回答できません。 | 私立 |
| ●ライフスタイルが多様化する現代社会において、学ぶ意欲を継続的に保持しているものにとっては有効な機会となろう。今後、高等教育の明確な一つの機会として大衆化していくことが予想される。 | 私立 |
| ●対面授業がないのは問題である。単に学位取得だけで、人間形成がなくなる。大学・短期大学の存続が危うくなる。 | 私立 |
| ●情報処理科単科の女子短期大学という性格上、対面授業が最も重要であり「オンライン教育のみ」で準学士の取得可能な状況を、今想像することはできない。 | 私立 |
| ●授業形態の多様化の一つと考えられるが、現状では社会人等に限定した大学院または夜間且つ少人数のカリキュラム展開での有効性しか認められない。 | 私立 |
| ●教育の機会均等を図る上で、身体的にハンディキャップを持った人達への門戸が開かれることが出来、大変意義あることである。 | 私立 |
| ●社会人の再教育、生涯教育の場として具体的到達目標を持つ新たな教育環境・形態となる。様々な問題、課題についてはその対応策を探り、積極的に検討を進めるべきと考える。 | 私立 |
| ●専門の教職員を配置した組織が必要であろう。 | 私立 |
| ●貴センターの調査資料（高等教育におけるマルチメディアの活用－海外編－、ビデオとCD-ROM）のように日本でも技術的に可能と思います。特に時間的な制約のある社会人向けの博士・修士課程では有効でしょう。また、必要に迫られての資格取得でもバーチャルユニバーシティは有効な方法でしょう。今後、日本でも考える必要がある。 | 私立 |
| ●単に知識のみではいけない部分がある。教育では、教員と学生との人間関係も必要だと思う。オンライン上での教育のみでは不十分であり、従来からの教育も必要ではないかと思う。 | 私立 |
| ●対面式授業を何回かで導入する必要がある。 | 私立 |
| ●興味がある。しかし学力保持をどうするかが問題であろう。勉強する意欲の高い学生や社会人に便利で質の高い教育を提供できる良いシステムだと思う。ま | 私立 |

| | |
|---|----|
| た実在する大学にも良い影響と刺激を与えるものと思われる。 | |
| ●経営的な問題を解決できれば、バーチャルユニバーシティは意味ある。しかし、デジタルで提供できる教育と現場でしか提供出来ない教育があるので、その使い分けが今後大切と考える。 | 私立 |
| ●これこそ将来の大学の姿となるであろうと想像します。その上に実際に顔を合わせ、ものに触れての実地教育の意義もまた明確になるわけです。バーチャル教育と実地教育の併存・統合が、これからの高等教育機関の姿となるでしょう。 | 私立 |
| ●現在の大学、大学院の通信教育をさらに質の高い教育を可能にすることが出来ると思われるので、積極的に考えてよいと思われる。 | 私立 |
| ●諸外国では既に導入しており、国内においても近い将来実用化することが想定される。しかし、本来教育の原点から単に知識取得の手法として発展したものではなく、人間社会における文化の形成、継承などの観点から教育の必要性が存在しており、特に近年問われている人格形成、生涯教育との関係における諸問題の対処に若干の不安があると思われる。 | 私立 |
| ●高等教育全体をバーチャルにするのは不可能である。 | 私立 |
| ●①双方向通信について、さらに高度な条件が整備されないと教育の質が水準に達しない。②直接的対面教育が全くない場合は、個々の学生に対する質が維持できない。 | 公立 |
| ●受学者にとって利便性が高いが、教育は（18～22歳）教員の人格、人間性との触れ合いは無視できないものがある。このためオンライン教育のみでの学位取得は、社会人・中高年は除いて成長期の学生に対しては、適切ではない。学位だけ取ればよいという考え方でなく、教育内容をさらに重視し、ゼミナール・演習の実体験復習の場を経由してこそ、人間先達者との交流が図られ、望ましい結果が期待される。「のみ」には反対。 | — |
| ●教材のデジタル化がまだあまり進んでいない現段階においては、時期尚早の感がある。 | 私立 |
| ●そういった教育の場が増えることは望ましい。しかし現状では、単位や学位を与えるのは無理があると思われる。 | 私立 |
| ●18才受験者数の減少に伴い、生涯教育の場として取り組んでいくべきであると考ええる。 | 私立 |
| ●工学系における完全なバーチャルユニバーシティ化はかなり難しいと思われますが、学科によっては可能性があると思います。その場合、従来の講義中心の授業形態から自学自習または、演習中心の授業形態に移行すると考えられますが、特に学生へのコンテンツの提示法及び、コンテンツの収集支援体制に十分な工夫が必要ではないでしょうか。 | 私立 |
| ●ネットワーク上のメディアや、リアルタイム性のあるマルチメディア通信が整備される中で現実性のあるものとなろう。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●将来的には、具体化されると思うが、現時点ではそこまで踏み込んで考えられない。 | 私立 |
| ●相当の法的条件、一般の了解が揃った上でないと不可能に近い。又、現在の技術レベルでは対面授業と差が違いすぎる。せめて、放送大学程度の発信が各大学独自で簡単にできなくてはVirtual Universityは現実とはならない。 | 私立 |
| ●現状では困難だが将来的には主流となると考えられる。 | 私立 |
| ●将来的に可能性が全く無いとはいえないが、Master Doctorについては当面考えられない。 | 公立 |
| ●・記入担当者の個人的意見ですが、教育のバーチャル化が進むに比例し、教育機関の実態は縮小・解体あるいは合併・統合の方向へと向かうと考えられます。従って、現在ある個々の大学が、設置形態を変えずに徐々にバーチャル・ユニバーシティへ移行するということはあるえないと思います。・現実には、ニーズがありなおかつ利用環境の整っている人々のためのものとして一部に定着してゆくのではないのでしょうか。 | 私立 |
| ●実施と実現では難しいと思う。 | 私立 |
| ●短大レベルの教育では難しいと思われる（文字情報だけでは伝えられない部分がある）。 | 私立 |
| ●完全なバーチャル・ユニバーシティは、不適切である。教育の多面性を考える時、対面授業も重要である。 | 国立 |
| ●非常に効率のよい方法だと考えます。我が国にもそのような高等教育機関が設置されるとのことの意義は大きいと思います。 | 国立 |
| ●教育の機会均等や福祉などの面から考えて、むしろ望ましいことであると考えます。特にTV会議システムやTV電話システムなども安価になってきており、対面による個別指導も不可能ではなくなりつつある。このような点からも今後、バーチャル・ユニバーシティは発達していくだろう。しかし、それを可能とする設備への投資や人材育成は、必ずしも全ての大学・短大で可能とは言えず、困難な問題も多いだろう。 | 私立 |
| ●教育の機会を拓けるという意味ではあってもよいと思うが、その教育効果を十分に吟味したうえで実行していくのがよいのではなかろうか。 | 私立 |
| ●貴機関作成のCDを拝見させて頂きましたが、文科系での利用方法が難しい様な気がします。 | 私立 |
| ●講義だけを履修する文系の学生には実現可能であり、いずれ多くの大学が実現できるでしょうが、制作を必修としている系列（工芸等）の学生には、利便性が低いのではないのでしょうか。又、現在の試験形態、単位認定方法をどう適用するか、という問題もあります。 | 国立 |
| ●生涯学習という視点からは、学習機会の拡大につながり有益なものである。だが、大学の個性が失われる。講義以外の副次的機能が減衰するなどのデメリットの方が大きいように思われる。また、それだけでなく少子化等で運営の厳し | 私立 |

| | |
|---|----|
| い高等教育機関をさらに苦しめることになりかねない。学術成果の公開等、学習者への情報提供ということにはオンラインメディアの利用は大いに有効だが、それ「のみ」に高等教育がシフトすることには様々な意味で危惧を感じざるをえない。 | |
| ●学位了能にすべきではない。学習の効果の評価が困難である。 | 公立 |
| ●社会の情報化が進み、今後インターネットを使ったオンラインエデュケーションが急成長すると思われるが、中・小規模の学校では人材及び資金の面で問題が生じ導入が難しい面もあるので、公的な支援を期待します。 | 私立 |
| ●障害者等のために有用なものだと存じますが、例えば実習・実技等の科目には対応が難しいと考えられますので、制限も多いかと存じます。また、学生本人の確認のシステムが構築しがたいのではと存じます。 | 私立 |
| ●基本的コンセプトには、賛成・理解しうる所があるが、クリアすべき問題が多いと思う。教育には、直接的コミュニケーションは必要と考える。 | 私立 |
| ●前問で回答したように「オンライン上の教育のみ」というのは時期早尚であり、技術や教育方法、社会での認知等の成熟を待つべきと考えます。それまでは、対面式授業の補助として促えるのが望ましく考えます。 | 私立 |
| ●この関係の技術及び体制の普及にまだ相当の時間がかかり、その見通しが不明確と考えるので、現在は何とも言えない。 | 私立 |
| ●現状では、その効果については判断しかねる。学科によっても異なると思う。本学（英語科）においては、あくまで対面式の授業展開への比重が圧倒的に高く、その面での教育の意義もあるので、オンライン上での教育は、現状では補助的手段と考えている。 | 私立 |
| ●学校での教育は、知識のみを習得するだけでなく、学生生活の中から、人間関係等、学んでいくものだと思うので、あまり賛成できない。しかし、中には大学に通うことが困難な人もいるので、そのような人達にとっては、効果的な方法ではあると思う。従ってメリット・デメリットを考えるとどちらとも言えない。 | 私立 |
| ●文系・理系で考え方が異なると思います。理系では、実験的内容が重要視されると思いますので、オンライン上の教育のみでは大変と思います。 | 私立 |
| ●スクーリング等の対面授業がまだまだ必要と考える。 | 私立 |
| ●便利さや、大学教育を受ける機会が拡大することはメリットであるが、教育では対面による学生同士や教官と学生間の人間関係の構築も大きな要素である。従ってオンライン上の教育のみでは、無機的な感じが強く、学位取得が単なる手段にすぎない感じがする。 | 国立 |
| ●全てをオンラインで教育を出来るのか少し疑問です。 | 私立 |
| ●対面教育も重要であり、オンライン上の教育のみについては疑問がある。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティについては賛成である。しかし、教育の方法としてはこれのみでなく、直接対面しながら学習することも大切である。それぞれ | 私立 |

| | |
|---|----|
| の特徴を有効に活用して、多面的な学習を成立させるべきである。ひとつでベストのものではない。それぞれがもつ良さをプラスして、幾何級数的に効果を求めるべきだと考える。 | |
| ●「対面授業」の方が望ましい。 | 私立 |
| ●実習が教育の重要な要素をしめる医・歯・薬・看護系でオンライン教育のみのバーチャル・ユニバーシティは不可能であるし、また、行うべきではない。しかし、実験・実習を含まない、あるいはレポート・課題で代替えが可能な学部や文系の学部では可能であるし、積極的に行って良いと思う。但し、インターネット回線の低価格化・容量の拡大などの環境整備が不可欠であるし、また教員の意識改革、学生のパソコンやインターネット・Eメール操作の習熟、自分の意見を明確に表現・主張できるような幼児からの教育環境や習慣の育成も必要であろう。 | 私立 |
| ●オンライン教育は、それまで対面で行っていた学生－教員間に、新たな情報交換の機会を創出したというのが、現段階であるとの認識を持つ。バーチャル・ユニバーシティにおいて、対面でなしえていた質を仮想空間でも損なわない教育手法の確立等も重要であるが、急速な技術革新下にある環境故に、その時点での技術を上手く取り込みながら、利点を発揮できるような柔軟な適応を行っていかなければならない。また、単位・学位授与に対する考え方、学費にたいする課金・支払いについての仕組みなど、実現のためには、既存概念との差別化、機能的融合とを精査し、新たな枠組みを整える必要があると考える。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティで学位の取得ができる事に関して何ら問題はないと思う。機構としては現在の通信制大学、大学・学部の通信教育課程の発達した形として考えればすぐにも実現しそうな気がする。オンライン、双方向授業で実際に講義を受けるのであれば、ドロップアウトの減少も期待できる。実技、実験、実習などの授業がオンラインのみでできるようになれば、スクーリングも必要なくなるかもしれない。しかし、例えば体育実技をオンラインで指導することは可能だと思うが、単位の認定をどうするかなど、技術的な問題はあ | 私立 |
| ●時間や教室などの制約がなく自由度が高いことは、教育の場・方法として大変有効であると考え。しかし、オンライン上ではない人との直接コミュニケーションの機会も学位取得については必要であり、重要であると考え。 | 私立 |
| ●芸術系、特に音楽を専門とする大学にとっては難しい。 | 私立 |
| ●本人が受講しているかどうかの確認が難しいのではないのでしょうか？ | 私立 |
| ●教育形態としてはよいと思うが、ユーザー認証、授業料の徴集等が問題になってくるとされる。 | 私立 |
| ●不可能である。 | 私立 |
| ●日々情報化が進み、日常生活の全てがオンライン上で行える時代も遠くないような現在、大学授業のオンライン化も例外とは言えなくなっていると思 | 私立 |

| | |
|---|----|
| <p>ます。事実、本学のある学部でもバーチャルゼミナールを実施する事を検討していたこともあります。オンライン上の教育は遠隔授業と同様に技術的には可能であると思いますが、実際に全ての教育がオンライン教育に適しているかどうかは疑問です。そのコンテンツを考えると共に、これを実施する教員とサポートする職員の技量や体制面、加えて費用面を考慮すると教育の実施には時間を要すると考えます。ましてや単位取得ではなく、学位取得となりますと実施するのは難しいと考えます。</p> | |
| <p>●コースワーク（授業）の大半については十分対応できる。ただし、個人の技能習得に必要な実験実習などについては、ハードな設備のある教育・研究機関が必要である。また論文作成はオンラインでも可能であるが、特定の指導教員（質の高い）が必要である。</p> | 私立 |
| <p>●技術取得を目的とした単位の取得については有効であると考えられるが、総合的な学習成果を問題とする学位取得については対人関係の教育が必要であり、そのみで行うことは適切ではないと考える。</p> | 私立 |
| <p>●オンライン上の授業はいいと思うが、どのような授業内容をどのように進めていくかが問題である。</p> | 私立 |
| <p>●・オンライン上の教育だけでは、より良い高等教育の実現は不可能である。・人的支援が非常に重要であるのではないか。</p> | 私立 |
| <p>●通信教育や放送大学の一つの形の考えられると思います。ただし、バーチャルと言うからには、通信教育とは学友・同級生・先輩後輩がいて、学生間での議論などが充分出来るようなシステム作りが必要かと思います。</p> | 私立 |
| <p>●積極的に考えなければならないと思うが、大学あるいは担当教員の単位ではなく、全国あるいは国際的レベルでの運営なら意味も大きくなるのではないのでしょうか。</p> | 公立 |
| <p>●検討する価値がある。</p> | 私立 |
| <p>●存在意義は認めるが、本学では未検討である。</p> | 私立 |
| <p>●日本の現在の大学の教育水準は、低下傾向にある。そのため学士までは認めても、それ以上はレベルアップが解決されれば可能と考える。</p> | 私立 |
| <p>●一方的は講義だけでは教育は不十分であるので、夏期等を活用したスクーリングは必要と考える。従って、バーチャル・ユニバーシティには学生と教師とのface to faceによる何らかの教育装置が必要であると思う。</p> | 私立 |
| <p>●平素は、DCS設立準備委員会において、大変お世話になっております。本学では、平成12年度県費予算でハワイ大学との看護学のTV会議授業を実施する予定です。DCスクールにつきましては、単科大学であるため、微力ではありますが、出来る範囲で参加協力させていただく予定でおります。短い手紙の文章でもお互いの想いを伝えあえるように、マルチメディアの双方向リアルタイム授業でも教える者と学ぶ者が意志疎通することは可能かと思います。「学ぶ」ということの本質を考え直させられます。</p> | 公立 |

| | |
|---|----|
| ●全てをオンライン化することは、まだ共通理解が得られない。技術・コスト・教育内容・教材など多くの部分で未解決な部分がある。ただ、将来に向けて研究は必要。 | 私立 |
| ●すべてオンライン上の教育のみで行うのには疑問がある。少なくとも対面でのヒアリング等が必要と思われる。また、オンラインで本人の確認等の問題がある。 | 私立 |
| ●その利点としては、社会的・地域的・身体的等種々の要因で従来高等教育を受ける機会を持てなかった人々への機会拡大と、受けられる教育の選択の幅の拡大が考えられると思います。しかし、現行の大学とは異なった運用をされる大学であれば、入学する学生の目的、質、また教える側の教授法も従来とは異なってくると考えられるため、バーチャル・コンバーシティの基本理念を明確にする必要があるのではないのでしょうか。また、バーチャルはあくまでバーチャルですので、スクーリング等何らかの形でそれを補うものも必要と感じます。 | 私立 |
| ●人間同士のコミュニケーションの欠如が問題となっている。昨今の状況と、学位が社会的活動に与える影響を考えると、オンライン教育のみのバーチャル・ユニバーシティによる教育はあまりにも効率優先の考えに基づくものであり、むしろその弊害を危惧する。社会生活を営むヒトの教育にヒトとのかかわりを無くすことに大いなる疑問を持つ。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは、情報通信技術の発達によってますます時間・距離・費用等の制約を小さくし、高等教育を受ける機会を様々な人に提供することができるとされる。しかし、いわゆるオン・キャンパスの中で創られる人と人とのコミュニケーションの部分をどのようにして補うのかが課題となる。あるいは、敢えてそういった部分を排除することによって、ある一定の目的を持った人々への特殊な履修形態として発展していく可能性も大きいと思われる。 | 私立 |
| ●アメリカでは既に行われている。日本でも今後、この形態の大学が出来てくるとされる。 | 国立 |
| ●アメリカで既に実施されているのを見ればこの考えは成立するように思える。しかし日本でこれを実施しようとするには、授業の教材制作に非常な手間暇がかかると予想され、また、受講生側の意識が高いかどうかという需要の問題とインターネットへの家庭からのアクセスが容易で安価であるかどうかという3つの側面が考えられる。日本での最大の問題は2番目と3番目であろう。 | 私立 |
| ●難しいと思う。というより高等教育の内容は、本来学生自らが自主的に行うことによって、得られるものであり、本に依ろうと、通信システムに依ろうとメディアの問題は大きな問題ではない。どちらにせよ、そういう内容のプレゼンテーションを大学なり高等教育機関が行うかどうかという問題である。しかし、経験では対面講義にまさる方法はないと思う。 | 公立 |
| ●将来的には拡大していくと思われるが、社会的評価が得られるか否かという問 | 私立 |

| | |
|--|----|
| 題がある。社会的評価が得られれば、その専門領域での普及は案外早いかもしれない。 | |
| ●本学院2000年4月から四年制大学を開設しますが、キャンパスが分散するため、インターネットテレビ会議システムを用いた遠隔授業を行い、双方で互いの単位を取得できるようにする予定です。この遠隔授業の教室は、京都市内の短大京都校舎にも導入し、大学コンソーシアム京都の単位互換制度の科目や、社会人のために施設を開放できるように環境を整えていく予定です。これは将来的にバーチャル・ユニバーシティに繋がる構想だと考えています。 | 私立 |
| ●好きな場所で、好きな時間に勉強が出来ることは魅力的なことであるが、提供する方からいえば？教材を用意すること、維持するための労力は膨大なものとなると思われる。また、学習者の修得状況の正確な把握が困難と思われる。従来、直接対面して表情や反応など（ノンバーバルコミュニケーション）で伝わる部分があったが、これがないために起こる問題点を整理し、対策がとられれば、極めて有望なものになると思われます。 | 私立 |
| ●現在、本学におけるオンライン上での教育は、その試行が始まったばかりであり、教育をすべてオンライン上で行うことについては、今後の大きな検討課題である。 | 私立 |
| ●仕事を持ちながら、勉学を希望する社会人への教育の門戸を開くものであり、有意義と考える。また、高齢者等の再教育を希望する方々へ大学をより開放するものであり、社会の活性化を高められると思われる。 | 国立 |
| ●技術的にはかなり困難と思う。 | 私立 |
| ●部門、分野によっては可能性があると思われるが、教育の根本は対面式の授業であり、学習者と指導者との直接対話を忘れないようにすべきだと思われる。バーチャルなものを対面式の授業の補助教材として利用する場合、大きな効果をあげることは有りうると思う。 | 私立 |
| ●今後、機器設備の高機能化やネットワーク帯域の高速化などが進展すれば、大いに可能性が高まると考えられる。現状では通信コストが高いことや、オンライン上のみでの十分な表現力を発揮できるマルチメディアソフトがあまり多くないなどの問題点があると思う。またオンライン講義に対する学生の質問が同時に多数ある場合の効率的な対応方法などのフィードバックに関するシステムについても考えなければならないであろう。 | 私立 |
| ●教育の質を保つためには、スクーリングなど支援するシステムを開発する必要があると思う。 | 公立 |
| ●対人関係のない教育は考えられない。 | 私立 |
| ●現在のところ実施していないが、将来に向けての要検討課題と考えている。 | 私立 |
| ●いつでもどこにいても学位取得が可能であるということは魅力です。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティは今後発展してゆくと思われるが、教育方法など課題は多い。 | 私立 |

| | |
|--|----|
| ●好ましいと思われるが、本学ではまだ学内でのインフラが未完成で、LAN、管理機構、予算会計処理ですら追いつかない状況にある。残念ながら早期対応は困難であります。 | 私立 |
| ●積極的に認めてほしい。認められれば、実施可能である。 | 私立 |
| ●学ぶ人の多様化に対応するために学ぶ場所にも多様な設定が必要である。しかし、学ぶ側にも教える側にも教育の場所と方法に対する意識の変革が求められ、そのための研究と啓蒙が必要である。我が国に定着させるためには、何が大切かを公的研究機関を中心に、十分な検討と実践的研究がなされて欲しい。 | 私立 |
| ●当面は面接授業との併用が必要であると。 | 公立 |
| ●素晴らしい試みだと思います。 | 私立 |
| ●十分に学習が可能であり、学習成果が正しく評価されるのであれば、学位取得は問題ない。 | 私立 |
| ●就労者など時間はないが、勉学意欲の有る者にとっては非常に有難いシステムであり、制度と考える。現在の放送大学などの従来からのメディアを用いたシステムに比しても、より時間の制約がなく、門戸が広がるであろうと期待できる。しかし、受講者の機材購入費や通信費などの経済的負担は非常に大きくなることが予想され、情報ハイウェイなどインフラの整備が必要であろう。また現在、インターネット環境が整備されている教育機関に在学している学生にとっては、在学校にない単位の取得などにおいても有効と思われる。このように、その知識の授受には有効な方法の1つであろうが、本学のような医療系の短期大学であると知識教育はもちろんであるがそれ以上に人格教育が重要であり、顔と顔が会う物理的にも精神的にも距離のない教育が重要であると考えます。 | 私立 |
| ●学習を希望する者の居所にかかわらず、学習の機会を与えられるので、単なる通信教育以上のリアルタイム性を生かした形でのサービスが行えると考えています。また、時間的な制約のある社会人にも効果的です。また学校という物理的な枠そのものが最近の若者には、うまく対応できていないので、その点でも可能性があるかも知れません。 | 私立 |
| ●オンライン教育のみでの学位取得には少し無理があると思います。放送大学でもやられているようにある程度スクーリングを行って対面での授業、教員、学生間のコミュニケーションを行う必要があると思います。 | 私立 |
| ●数年後閉学予定。 | 公立 |
| ●今後日本の大学が世界へ展開していくためにも、積極的に構想を進めてゆくべきだと思うが、個別の小規模短大単独では技術的、資金的にも厳しいと思う。 | 私立 |
| ●オンラインのみでの単位取得は基本的には望ましくないものと考えている。オンラインにおける技術がいかに発展しても人対人のコミュニケーションは大事である。 | 私立 |
| ●人と人とのかわりを大切にすることがそこなわれていくようで不安である（教育の教のみとなって育が不在となる不安である）。 | 私立 |

| | |
|---|----|
| ●本機関においても重要な課題のひとつである。 | 私立 |
| ●オンラインのみでなく、実際に顔を合わせることが、教育には必要であると思う。 | 国立 |
| ●社会人には有効であると思います。 | 私立 |
| ●オンライン教育による学位取得については、学科によって、可能性が十分あります。但し、理工系、芸術系学科では、実習や実験科目が多く、人間の五感を働かせて習得させる科目等には限界があるものと考えられます。 | 私立 |
| ●現在、様々なタイプの学生が在学しており、中には家庭におけるバーチャル・ユニバーシティなど在宅授業の方が向いている者もいる。しかし、研究者として個人の世界のみで生きていくなら別だが、社会の一員としての教育が出来るかは不安。身体的な理由などの実施については有効かもしれない。 | 私立 |
| ●バーチャル・ユニバーシティができたとしても、まず教育内容が最も重要なことであり、即学位に結びつける必要はないと考えます。 | 私立 |
| ●今後、教職員研修を深め、充分検討し、積極的な導入を考えていきたい。 | 私立 |
| ●必要とする人には大いに結構。しかし、教育の主体はface to face。 | 私立 |
| ●学習者への時間空間の制約をある程度解決し、教育機会を拡大できる有効な方法であり、急速な産業構造の変化に対応できる生涯教育やグローバルな対応を求められる分野の教育に特に効力を発揮するものと期待される。 | 私立 |
| ●質問や疑義についての即答が可能であれば。 | 私立 |
| ●生涯学習という観点から、バーチャル・ユニバーシティなどのネットワーク活用教育は推奨されるべきである。ただし、これも教育方法の多様化の選択肢の1つとして位置づけるべきであろう。学びにおいては、対面での人間の五感をフルに使った学習経験が人間形成の上で重要な位置づけを保ちつつづけているであろうと思われる。 | 公立 |
| ●教育の定義にもよるが知識を増加させるというだけでなければ、「バーチャル・ユニバーシティ」なるものも可能だろう。 | 私立 |
| ●技術の習得については、オンライン学習でも可能と考えるが、卒業となると教師や友人とのコミュニケーションから人間を学ぶことが必要である。 | 私立 |
| ●教員の人的指導、教育配慮等の必要性を感じるが…。 | 私立 |
| ●時間的な制約などで、学校に通うことが出来ない場合にはオンライン教育のみで学位が取得できることに対して理解できる。但し教育現場では教師と学生すなわち人と人との信頼関係で授業が成り立っているものと考えられる。教師と学生が同じ場所で対面しないオンライン教育では、少し冷たいような気がする。従って本来は従前からの教師対学生の授業形態が望ましいが、何らかの理由で通学できない場合には、オンライン上の教育がよいと考えられる。 | 私立 |
| ●居住地に関係なく、遠隔地において何時でも授業を受けることができ、教育の機会均等が図られる。但し、知識や教養の修得を行えるが、人とのふれあいによる人間性の向上に関し、困難点であろう。なお、実験・実習に重ずる科目に | 私立 |

| | |
|--|----|
| については別途工夫が必要と考える。 | |
| ●高等教育機関の役割は、知識のみではないと考える。オンライン上で対面教育的な指導が可能になれば、検討しても良いと考える。 | 私立 |
| ●現在導入について検討中 | 私立 |
| ●大学運営の将来見通しの中で取り組みたい教育形態ではあるが短期的には無理と考えています。 | 公立 |
| ●近年の学生の学習意欲の低下状況下においては、極めて困難。大学院レベルあるいは社会人対象では大いに期待できる。 | 私立 |

| | |
|---|----|
| <高等専門学校> | |
| ●これからの学習形態としては、歓迎されるものと考えます。 | 国立 |
| ●フィールドワーク（実習・実験）の必要な授業科目をどのようにするのか？フィールドワークの大切さを理解させる方法は？単位取得だけが目的とならないように、いかに魅力ある大学にするか？ | 国立 |
| ●学位というのは様々な形態が考えられるので、オンライン上の教育では現時点では不可能だと思う。単に言葉で考えた場合、ユニバーシティとはバーチャル化され得ないものであって、バーチャル化したものはユニバーシティではないと考える。 | 国立 |
| ●工業分野の教育では実験実習が不可欠である。従ってバーチャルのみでの学位取得は不可能と考える。あくまで補完機能としての役割を担うものと思う。 | 国立 |
| ●地域にとっては有利であり、制度化は必要である。 | 国立 |
| ●国土の広い国ではメリットがあると考えられるが、我国のように交通機関等移動手段に恵まれている国では、やはり対面的な指導が主流であるべきと考えます。 | 国立 |
| ●一般教養的な知識は得られるが、実技や実験実習を必要とする専門的な知識は得られない。バーチャル・ユニバーシティのみでスペシャリストを養成することはできない。 | 国立 |
| ●技術的には可能でも、無意味であると考える。時間、空間を越えた効率的な情報収集は可能でも、物づくりや対人関係などの教育には無力であり、そのみに頼るのはむしろ有害である。2つが車の両輪として機能して初めて教育の実があがる。 | 国立 |
| ●社会人の生涯学習を可能にする方法として有効であり、衛星放送などと併用すると効果が高いと思う。動画を自由に扱うには通信技術がまだ力不足な現在においては、印刷物・ビデオ・CAIなどの他の教材との組み合わせによって効果を上げる方法を模索すべきだと思う。 | 国立 |
| ●高専教育が優れている点は少人数教育（ほとんど40名くらい）であり、高専の教官は研究する時間がないくらいに面倒をみている。ある意味では効率が悪いが、やりたくない学生も存在することも事実で、ある程度負担を減らすためにバーチャル・ユニバーシティのようなことも必要であると考える。 | 国立 |
| ●研究の推進には数多くの人との議論が不可欠だと思いますが、それをオンライン上でのみ行うというのはかなり無理がある様に思われます。 | 国立 |
| ●色んな場面で学習研究ができることは大い良いと思う。そのようにして生まれた研究成果が評価されるシステムが整備されることは必要なことと思われる。 | 国立 |
| ●単位修得に対する授業料等の支払いがどうなるのか、不安点として考える。 | 国立 |
| ●学習機会の公平を保証するために推進すべきである。 | 国立 |
| ●人間教育が必要と考えるので、対面教育は不可欠だと思う。科目の単位取得や資格取得程度にすべきだと思う。 | 国立 |

| | |
|--|----|
| ●従来の通信制のものにとって代わるもの、あるいはその一種として考えています。 | 国立 |
| ●すべてオンラインで済ますのは時期尚早と思われる。 | 国立 |
| ●高等専門学校である本校としては、大学との間の単位互換協定が導入できないことがネックである。 | 国立 |
| ●教育は対面授業が基本であると考え。また技術教育では実験・実習が極めて重要であり、実際に装置や測定器を使うことにより理解が深まるという要素が強いので、オンライン上の教育のみでは、十分な教育効果が期待できないと考えるので、実験・実習などのスクーリングとオンラインの教育を組合せたプログラムを行う必要があると考える。 | 国立 |
| ●色々問題はあると思われるが、試行の価値は充分にあると考える。工学系では全てをバーチャル・ユニバーシティで行うには限界があると思われる。しかし大学等も国境を越えられる為、著名人の講義の受講が可能になると思う。指導教授も複数で、所属も世界に点在するといった形態が出現する。学位の与え方も変わってくると思われる。 | 国立 |
| ●1. モラルを守るための評価方法の確立が必要。マルチメディアを用いる学生側からの応答は、ネット上の種々の媒体からのカット&ペーストでレポートを作成できる。個々の単元の知識確認には小テストなどを課し、また最終的な評価には口頭試問を導入するなどのチェックが必要である。自分の努力なしで身に付いていない知識は評価されるべきではない。2. 単位取得の可否は専攻にも依存する。単なる知識のみの教育で良く、一般的な広く浅い教育をめざすのか、または実務に直接関わることのできる技術教育を行うのか。工学系の専攻ではその根本的な目的を明確にする必要があり、オンラインのみで学位取得を可能とすることは例えば高専などの存在意義に大きく影響する。高専から大学編入が増え完成教育の意味も変化しつつある今日、広い意味での検討が必要である。 | 国立 |
| ●実体験に欠ける点や問題演習が必要な学問分野をどのように扱うのが問題。本人以外の使用で取得が可能になったりしないか。 | — |
| ●単なる知識の修得に終わる危険があるように思います。色々なトレーニングを通じて、問題解決能力は育成されるもので、オンライン教育のみでは不十分と考えます。 | 国立 |
| ●特に考えていない。社会が豊かになり、直接授業を受ける機会が多い。基本的には教師と学生が接して単なる教科の伝達でなく、授業を通じて人間性を養う必要がある。 | 国立 |
| ●教育の複線化に沿う考え方の一つとして、積極的な推進に賛成する。 | 国立 |
| ●実験・実習が重要な分野での学位取得は、バーチャル・ユニバーシティでは難しい。また人格形成の重要な年齢にある学生には不向きであると思う。一方各分野での学問的・技術的発展はめざましいものがあり、社会人となった人が学 | 国立 |

| | |
|---|----|
| 際的な分野で新しい学位を取得しようとする時、願ってもない教育機関となる可能性がある。 | |
| ●実験・実習を重要視している工学の分野では、全ての科目をオンラインに依存することはできないのでは、と考えている。 | 国立 |
| ●現在の通信教育課程に代わるものとして、実現する可能性はあると思う。 | 国立 |
| ●環境整備や単位認定の問題等、課題は多いが、将来は実現されるのではないと思う。機器の管理運営のための人材の増員が必要である。 | 国立 |
| ●現実の大学でも学生の出席率を考えると、バーチャル・ユニバーシティの出欠の問題は、考慮する必要がないと思われる。(オンデマンドの場合) 学生が好きな時に受講できるため、実質的な講義の受講率は高いと思われる。また、理解し難い箇所は繰り返し、同じ講義を受講できるため、講師が同じ質問を受けなくて済む。試験も暗記型のものから、自ら調べてレポートする形式のものが主体になると思われるため、学生の勉強する幅が広がることにつながると考えられる。 | 公立 |
| ●良いことであると思いますが、図書館などの施設が使えないのは、学生にとってはマイナスだと思います。担当教官の指導も大変だと思います。教材などに苦勞すると思います。分野にもよると思いますが、全てがバーチャルでは問題であるが、他の面をカバーすることは難しいのではないかと。対面教育が重要であり、あくまでメディアを使用するのは補助的なもの、もしくはメディアが向いているものに利用するのが良いと思う。機会を広げる意味で歓迎する。ただし実施にあたっては問題点を解決する必要がある。 | 国立 |
| ●現行の通信教育同様、オフラインでの一定期間のセミナーが必要となるだろう。単位設定に伴う個人IDの特定をどのように実現するかが、技術上の最大の争点となるだろう。 | 国立 |
| ●理工学系では、実験実習等の演習が欠かせない。仮想的に出来ないこともないが、万全ではない。オンラインのみでの学位取得は分野によっては無理な気もする。 | 国立 |
| ●新しい環境における個人レベルでの教育は、今までに無かった可能性を見出せるか興味がある。 | 国立 |
| ●よくわからない。 | 国立 |
| ●日本にいながら外国の大学の学位を取得する場合、また遠隔地にある大学の学位を取得する場合などに意義がある。しかし対面式の授業は残すべきである。 | 公立 |
| ●生涯教育の多様性のひとつとして意義がある。技術系に限って言うなら、日本の多くの技術者は時間が充分に取りにくい。教育機会の多様化という点から、大学院を含めて整備を早急に行っていただきたい。既にいくつかの組織で計画化されていますが、産業教育の補強という視点から工学関連コースの充実を望みます。 | 国立 |
| ●国内外を問わず広がる可能性あり。本人認証と学位認定の方法が問題。基本的 | 私立 |

| | |
|---|----|
| には通信制の延長に他ならない。 | |
| <p>●バーチャル・ユニバーシティなるものの機能を深くは知りませんが、自ずと性的に制約があるものと思います。分野によっては対面・面接授業、意思交換が最も重要なファクターになる場合もありましょう。</p> | 国立 |

5. 調査の概要

メディア教育開発センター

平成 11 年度
「高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査」概要

1. 調査の回収状況
2000 年 1 月に全国の高等教育機関（大学本部、大学学部・研究科、短大、高専）に対して実施したアンケート調査の回収状況は表 1 のとおりである。

表 1 調査の回収率

| | 配布数 | 有効回収数 | 回収率 (%) |
|----------|------|-------|---------|
| 大学本部 | 620 | 449 | 72.4 |
| 大学学部・研究科 | 1606 | 1059 | 65.9 |
| 短大 | 582 | 406 | 69.8 |
| 高専 | 62 | 58 | 93.6 |

2. マルチメディア全般の利用状況
オーディオ・ビデオ・カセットやビデオが中心、電子メールは一定範囲利用されているが、それ以外のインターネットの利用や通信衛星などの利用は少ない。国立大学では電子メールなどによる事務連絡やシラバスのインターネットなどによる公開、通信衛星などによる授業が、公立、私立よりも多く行われている。

表 2 マルチメディアの利用状況（よく行われている）+（ある程度行われている）

| | 大学学部・研究科 | | | | 短大 | 高専 |
|----------------------------------|----------|------|------|------|------|------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | | |
| 1. 衛星ビデオの授業への利用 | 86.3 | 87.8 | 77.9 | 86.6 | 90.0 | 81.0 |
| 2. 授業資料のデータ・ベース化 | 76.9 | 86.6 | 86.3 | 75.8 | 68.3 | 79.3 |
| 3. オーディオ・カセット教材の利用 | 70.9 | 53.3 | 64.0 | 79.5 | 80.8 | 79.3 |
| 4. R・G映像・コンピュータ（D・V・M・V）による「ビデオ」 | 63.5 | 74.4 | 62.8 | 61.9 | 55.1 | 81.1 |
| 5. 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 64.8 | 82.9 | 69.8 | 56.3 | 40.0 | 94.9 |
| 6. インターネットによる教材の提供 | 56.3 | 55.9 | 52.3 | 56.7 | 46.4 | 60.4 |
| 7. 電子メールによる課題の提出 | 52.6 | 59.7 | 52.3 | 49.5 | 40.1 | 56.9 |
| 8. 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の切磋 | 47.9 | 54.2 | 39.5 | 46.2 | 36.1 | 43.1 |
| 9. ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | 47.1 | 50.7 | 48.8 | 43.2 | 62.1 | 39.6 |
| 10. CD-ROM教材の利用 | 45.1 | 40.4 | 47.7 | 46.7 | 45.4 | 31.0 |
| 11. マルチメディア教材の作成 | 37.0 | 39.0 | 36.1 | 36.3 | 40.1 | 37.9 |
| 12. シラバスのインターネットなどによる公開 | 31.9 | 49.9 | 23.3 | 24.4 | 11.2 | 31.0 |
| 13. 校風の授業の WWW 上への公開 | 10.7 | 14.4 | 15.1 | 8.5 | 3.7 | 10.3 |
| 14. 通信衛星などによる授業 | 10.2 | 23.9 | 2.4 | 5.4 | 0.9 | 12.0 |

平成 11 年度

「高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査」概要

メディア教育開発センター

3. ITの利用状況

衛星通信、地上系通信、インターネットのITの教育などへの利用状況を見ると、地上系通信の利用が多い。衛星通信については、国立大学の64校で利用しないし利用予定にある。インターネットの教育への利用は、予定されていないところが多い。利用頻度は、地上系通信の方が利用頻度が高い。利用される場面は、専攻の共通教育と専門教育で多いが、研究会や会議でも利用されている。通信の方向は、同時双方向が多いが、地上系ではその他の方法でも行われている。接続地点については、衛星系・地上系では国内の他機関と接続している場合が多いが、インターネットでは教員の授業をWebなどに載せている場合が多い。

表3 ITの利用状況

| 衛星通信 | 大学学部・研究科 | 利用している | | 利用を予定している | | (%) |
|-------------------------------|----------|--------|-----|-----------|-----|------|
| | | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | |
| 地上系通信 (DINなど) | 計 | 301 | 174 | 127 | 100 | 67.9 |
| | 国立 | 332 | 194 | 138 | 100 | 70.2 |
| | 私立 | 247 | 141 | 106 | 100 | 69.2 |
| インターネットを 利用したオンライ ン上の教育 | 計 | 261 | 116 | 145 | 100 | 62.3 |
| | 国立 | 286 | 170 | 116 | 100 | 62.9 |
| | 私立 | 261 | 116 | 145 | 100 | 62.3 |
| 地上系通信 | 計 | 172 | 121 | 51 | 100 | 70.7 |
| | 国立 | 171 | 127 | 44 | 155 | 70.2 |
| | 私立 | 204 | 114 | 90 | 100 | 68.2 |
| 地上系通信 | 計 | 141 | 101 | 40 | 100 | 71.6 |
| | 国立 | 140 | 105 | 35 | 100 | 75.0 |
| | 私立 | 161 | 135 | 26 | 100 | 75.9 |
| 地上系通信 | 計 | 172 | 121 | 51 | 100 | 70.7 |
| | 国立 | 171 | 127 | 44 | 155 | 70.2 |
| | 私立 | 204 | 114 | 90 | 100 | 68.2 |

表4 ITの活用状況の活用状況 (利用している)と「利用を予定している」を対照

| 衛星通信 | 大学学部・研究科 | 利用している | | 利用を予定している | | (%) |
|----------|----------|--------|-----|-----------|-----|------|
| | | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | |
| 1. 衛星通信 | 計 | 132 | 298 | 46 | 73 | 4.4 |
| | 国立 | 64 | 152 | 23 | 31 | 0.5 |
| | 公立 | 27 | 45 | 0.0 | 22 | 0.7 |
| | 私立 | 18 | 42 | 0.0 | 10 | 0.2 |
| | 計 | 32 | 55 | 1.1 | 25 | 0.2 |
| 2. 地上系通信 | 計 | 95 | 135 | 69 | 81 | 9.1 |
| | 国立 | 91 | 111 | 80 | 81 | 3.9 |
| | 公立 | 49 | 55 | 46 | 47 | 2.5 |
| | 私立 | 16 | 14 | 23 | 16 | 0.7 |
| | 計 | 167 | 138 | 138 | 182 | 17.2 |

表5 ITによる教育 (利用している)と「利用を予定している」を対照

| 衛星通信 | 大学学部・研究科 | 利用している | | 利用を予定している | | (%) |
|-------|----------|--------|-----|-----------|------|------|
| | | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | |
| 地上系通信 | 計 | 88 | 152 | 23 | 68 | 3.9 |
| | 国立 | 130 | 263 | 23 | 87 | 4.2 |
| | 公立 | 112 | 284 | 11 | 47 | — |
| | 私立 | 54 | 62 | 1.1 | 5.6 | 3.0 |
| | 計 | 21 | 1.4 | 0.0 | 2.7 | 12.1 |
| | 国立 | 108 | 204 | 4.6 | 7.4 | 15.5 |
| | 公立 | 129 | 339 | 5.7 | 4.7 | 10.1 |
| | 私立 | 80 | 204 | 1.1 | 3.6 | 32.8 |
| 地上系通信 | 計 | 197 | 166 | 31 | 207 | 20.0 |
| | 国立 | 265 | 246 | 23.0 | 27.9 | 25.1 |
| | 公立 | 164 | 208 | 11.5 | 15.1 | — |
| | 私立 | 122 | 55 | 18.4 | 14.2 | 11.1 |
| | 計 | 80 | 59 | 6.9 | 9.0 | 8.6 |
| | 国立 | 162 | 170 | 13.8 | 16.1 | 12.3 |
| | 公立 | 166 | 208 | 11.5 | 15.4 | 12.8 |
| | 私立 | 203 | 260 | 17.2 | 18.2 | 12.1 |
| 地上系通信 | 計 | 111 | 104 | 138 | 111 | 13.3 |
| | 国立 | 192 | 197 | 12.6 | 19.9 | 15.5 |
| | 公立 | 92 | 138 | 6.9 | 7.6 | — |
| | 私立 | 80 | 31 | 8.0 | 10.1 | 7.9 |
| | 計 | 55 | 17 | 6.9 | 7.0 | 5.2 |
| | 国立 | 86 | 93 | 11.5 | 7.9 | 8.6 |
| | 公立 | 57 | 73 | 4.6 | 5.2 | 3.4 |
| | 私立 | 111 | 104 | 13.8 | 11.1 | 12.1 |

表6 ITの活用状況 (利用している)と「利用を予定している」を対照

| 衛星通信 | 大学学部・研究科 | 利用している | | 利用を予定している | | (%) |
|----------------------|----------|--------|-----|-----------|-----|------|
| | | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | |
| 1. 双方の音声・映像による同時の双方向 | 計 | 204 | 512 | 31 | 98 | 2.5 |
| | 国立 | 30 | 45 | 23 | 25 | 1.0 |
| | 公立 | 25 | 45 | 0.0 | 1.9 | 0.2 |
| | 私立 | 3.6 | 5.5 | 23 | 30 | 12 |
| | 計 | 36 | 55 | 23 | 30 | 12 |
| 2. 一方の音声・映像による同時の双方向 | 計 | 233 | 298 | 172 | 213 | 12.1 |
| | 国立 | 107 | 90 | 103 | 114 | 10.6 |
| | 公立 | 105 | 111 | 57 | 108 | 10.8 |
| | 私立 | 117 | 104 | 103 | 124 | 12.1 |
| | 計 | 117 | 104 | 103 | 124 | 12.1 |

表7. ITの施設・地点（利用している」と「利用を予定している」を併録）

| <施設・地点> | 大学部・研究科 | | | | 全体に対する割合 | |
|-------------|---------|------|------|------|----------|------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高等 |
| 1. 同一機関 | 4.4 | 6.6 | 1.1 | 3.9 | 1.0 | 3.4 |
| 2. 国内の他機関 | 20.7 | 53.3 | 1.1 | 9.3 | 3.9 | 46.6 |
| 3. 海外の他機関 | 3.4 | 3.5 | 2.3 | 3.6 | 0.5 | 1.7 |
| <地上・衛星通信> | | | | | | |
| <地上・衛星通信> | 大学部・研究科 | | | | 全体に対する割合 | |
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高等 |
| 1. 同一機関 | 27.8 | 30.8 | 17.2 | 27.9 | 16.5 | 8.6 |
| 2. 国内の他機関 | 22.3 | 22.5 | 25.3 | 21.8 | 20.7 | 31.0 |
| 3. 海外の他機関 | 7.7 | 6.2 | 6.9 | 8.4 | 5.7 | 5.2 |
| <インターネット> | | | | | | |
| <インターネット> | 大学部・研究科 | | | | 全体に対する割合 | |
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高等 |
| 1. 教室内の授業 | 21.4 | 20.4 | 14.9 | 22.7 | 19.0 | 20.7 |
| 2. 同一機関の遠隔地 | 7.2 | 7.6 | 5.7 | 7.5 | 3.7 | 1.7 |
| 3. 国内の他機関 | 7.6 | 9.0 | 8.0 | 7.0 | 3.7 | 5.2 |
| 4. 海外の他機関 | 4.4 | 3.8 | 3.4 | 4.7 | 1.2 | 5.2 |
| 5. 一般への公開 | 7.5 | 8.0 | 10.3 | 7.0 | 3.7 | 5.2 |

4. 支援組織

マルチメディアの利用のための支援センターや全学委員会は大抵の機関ですべてに設置、ないし設置が予定されている。教員がマルチメディア教材を自作する場合に、それを組織的に支援する体制は充分とはいえないが、そのなかでは私立大学がもっとも管内組織の整備が図られている。

表8. 支援センターや全学委員会の設置

| <支援センター> | 設置している | | | | 予定している | | 予定はない | |
|----------|--------|------|------|------|--------|------|-------|------|
| | 大学 | 短大 | 計 | 割合 | 大学 | 短大 | 計 | 割合 |
| 大学 | 55.0 | 25.9 | 47.4 | 10.5 | 9.2 | 64.8 | 34.4 | 64.8 |
| 短大 | | | | | 12.3 | 40.4 | | |
| 計 | | | | | | | | |
| <全学委員会> | | | | | | | | |
| <全学委員会> | 設置している | | | | 予定はない | | | |
| | 大学 | 短大 | 計 | 割合 | 大学 | 短大 | 計 | 割合 |
| 大学 | 62.8 | 49.5 | 62.2 | 11.3 | 8.5 | 42.0 | 26.0 | 42.0 |
| 短大 | | | | | 10.5 | 26.3 | | 26.3 |
| 計 | | | | | | | | |

表9. マルチメディア教材制作の支援（よく行われている」と「ある程度行われている」）

| 1. 学内組織（制作・制作・制作）の組織的支援 | 大学部・研究科 | | | | 全体に対する割合 | |
|-------------------------|---------|------|------|------|----------|------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高等 |
| 1. 学内組織（制作・制作・制作）の組織的支援 | 30.5 | 21.2 | 21.2 | 35.8 | 15.4 | 12.1 |
| 2. 教室内の担当教員の支援 | 31.1 | 26.5 | 30.6 | 33.3 | 32.9 | 31.6 |
| 3. ボランティア教員の支援 | 32.5 | 32.5 | 28.2 | 32.9 | 24.2 | 31.1 |
| 4. ボランティア学生の支援 | 23.0 | 28.5 | 18.9 | 21.2 | 9.8 | 20.7 |
| 5. 民間企業などへの外注 | 12.5 | 11.2 | 11.8 | 13.1 | 10.3 | 5.2 |

5. 利用目的と利用の障害

マルチメディアの教育への利用目的は、学生の動機づけを高め、教育効果をあげるため、新技術の応用や機関の広報など、教員の負担を減少すること、教育コストを下げることは重要な目的とはされていない。設置者の違いは、国立大学で教育運営の効率化や機関の公開を目的とするところが多く、私立や短大では新たな学生層の開拓を目的とするところが多いことにみられる。

利用にあたっての障害は、設備機器の導入や維持にかかる費用の問題、支援スタッフが不足し特定の者には負担が大きいという人的資源の問題、準備時間がかかるという時間の問題をあげることができる。ただし、教育効果がない、授業で利用する必要があるとは思えない、設置者別の違いは、私立大学や短大で教員や学生のメディアの活用能力が低いことを障害とするところが多いことにみられる。

表10. マルチメディアの利用目的（よくあてはまる」と「ある程度あてはまる」）

| | 大学部・研究科 | | | | 全体に対する割合 | |
|------------------|---------|------|------|------|----------|-------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高等 |
| 1. 教育の効果をあげるため | 96.7 | 95.1 | 97.7 | 97.3 | 98.0 | 100.0 |
| 2. 学生の動機づけを高めるため | 90.7 | 89.7 | 86.2 | 91.8 | 89.9 | 91.4 |
| 3. 広域活動のため | 86.7 | 90.3 | 88.5 | 84.9 | 83.8 | 86.2 |
| 4. 新技術を開発・応用するため | 85.1 | 82.7 | 90.8 | 85.4 | 87.1 | 91.4 |
| 5. 研究上の調査を共有するため | 84.0 | 82.0 | 88.5 | 84.3 | 74.7 | 79.3 |
| 6. 機関の活動の公開のため | 82.4 | 90.0 | 89.6 | 78.2 | 69.1 | 75.8 |
| 7. 教育運営の効率化のため | 77.0 | 86.2 | 79.3 | 72.8 | 76.2 | 66.7 |
| 8. カリキュラム改革のため | 67.6 | 70.5 | 59.8 | 67.5 | 69.4 | 65.5 |
| 9. 新たな学生層を開拓するため | 56.2 | 46.6 | 45.4 | 61.8 | 66.5 | 39.6 |
| 10. 教員の負担を減少するため | 33.2 | 38.4 | 38.4 | 30.3 | 30.2 | 34.4 |
| 11. 教育のコストを減らすため | 20.3 | 24.5 | 18.8 | 18.7 | 20.9 | 21.1 |

表11. マルチメディアの利用の障害（よくあてはまる」と「ある程度あてはまる」）

| | 大学部・研究科 | | | | 全体に対する割合 | |
|--------------------|---------|------|------|------|----------|-------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高等 |
| 1. 機器設備の導入費用がゆか | 95.6 | 94.7 | 92.0 | 96.4 | 96.3 | 93.1 |
| 2. 支援スタッフが不足している | 95.1 | 97.2 | 96.5 | 94.1 | 91.4 | 98.2 |
| 3. 特定の者に負担がゆか | 94.7 | 97.9 | 92.0 | 93.8 | 93.1 | 100.0 |
| 4. 機器設備の維持費用がゆか | 90.8 | 91.9 | 95.0 | 91.0 | 93.1 | 88.0 |
| 5. 機器設備の更新がゆか | 89.0 | 93.3 | 77.9 | 88.6 | 84.4 | 79.3 |
| 6. 利用の準備に時間がかか | 87.7 | 88.4 | 84.9 | 87.8 | 80.3 | 89.5 |
| 7. 利用できる教員が不足している | 77.2 | 77.8 | 75.9 | 77.1 | 68.4 | 84.5 |
| 8. 教員のメディア活用能力が低い | 73.9 | 67.3 | 68.6 | 77.4 | 80.4 | 60.3 |
| 9. 専任教員が対応できない | 60.7 | 62.9 | 65.1 | 59.0 | 58.4 | 52.6 |
| 10. 学生のメディア活用能力が低い | 33.1 | 28.6 | 24.8 | 36.1 | 44.7 | 22.4 |
| 11. 授業で利用する必要がある | 23.2 | 23.8 | 22.9 | 23.1 | 20.0 | 22.4 |
| 12. 利用による教育効果がない | 14.3 | 14.8 | 9.4 | 14.7 | 8.4 | 10.3 |

6. インターネットの利用

将来的にもインターネットは、電子メールなどによる事務連絡や図書館のオンラインカタログ化など授業の周辺で利用が主に考えられており、インターネットによって授業を行うことは課題とはなっていない。国立大学では、授業の周辺での利用に積極的である。

インターネットによる双方向授業については、授業以外の学習の支援、対面式授業の補助として、あるいは対面式授業を補助しての利用が必要とする意見が主流である。インターネットによる授業が教育の質を下げることはないという予測されているが、それによって教育のコストも減少しないし、教員の負担も減少するのではないと考えられている。私立大学では、最先端の情報を収集した授業を行うことができ、高等教育が活性化するという意見が多い。国立大学では社会人学生の増加が期待されている。

表12 インターネットの授業的な利用（積極的に利用したい）

| | 大学学部・研究科 | | | | 高専 | |
|--------------------------------|----------|------|------|------|------|------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高専 |
| 1. 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 71.2 | 79.6 | 79.1 | 66.5 | 52.7 | 84.2 |
| 2. 授業資料のオンライン化 | 70.1 | 74.1 | 80.5 | 67.0 | 49.1 | 71.9 |
| 3. 電子図書館 | 58.6 | 72.7 | 60.5 | 52.2 | 35.4 | 54.4 |
| 4. 電子メールによる学生からのレポートなどの提出 | 54.1 | 54.9 | 56.3 | 53.5 | 50.9 | 38.6 |
| 5. 電子メールや電子掲示板による授業への質問や学生間の相談 | 53.7 | 51.8 | 54.0 | 54.4 | 46.2 | 41.4 |
| 6. 学生がインターネットを利用して収集した情報による授業 | 42.3 | 42.0 | 40.2 | 42.7 | 35.1 | 32.8 |
| 7. 学生がインターネットを利用して収集した情報による授業 | 36.3 | 28.3 | 38.4 | 39.5 | 42.5 | 35.1 |
| 8. 授業の提供 | 35.7 | 32.0 | 30.2 | 38.0 | 35.9 | 29.3 |
| 9. 他機関との単位互換による授業 | 21.9 | 25.1 | 18.1 | 21.0 | 14.2 | 19.6 |
| 10. WWW上での公開講座 | 21.1 | 23.5 | 24.4 | 19.7 | 13.9 | 12.5 |
| 11. WWW上への授業の授業の公開 | 14.9 | 16.1 | 18.1 | 14.0 | 9.8 | 7.1 |

表13 対面授業と比較したインターネット利用の双方向授業（よくあてはまる）・（ある程度あてはまる）

| | 大学学部・研究科 | | | | 高専 | |
|----------------------|----------|------|------|------|------|------|
| | 計 | 国立 | 公立 | 私立 | 短大 | 高専 |
| 1. 授業以外の学習支援が必要 | 91.9 | 90.7 | 89.7 | 93.1 | 92.1 | 94.5 |
| 2. 教材の制作が容易ではない | 86.0 | 88.0 | 85.7 | 85.2 | 85.1 | 96.4 |
| 3. 対面式の授業の補助が必要 | 83.1 | 82.2 | 86.6 | 83.0 | 83.2 | 75.5 |
| 4. 授業準備の活性化につながる | 81.1 | 73.0 | 77.1 | 85.1 | 88.0 | 85.2 |
| 5. 対面式の補助として用いるべき | 79.6 | 78.7 | 81.7 | 79.7 | 76.7 | 83.3 |
| 6. 最先端の情報を収集した授業ができる | 77.9 | 70.7 | 73.5 | 81.5 | 80.3 | 77.8 |
| 7. 他機関との交換授業が増加する | 76.6 | 79.4 | 78.4 | 75.3 | 72.1 | 76.0 |
| 8. 社会人学生が増加する | 71.6 | 80.3 | 69.5 | 68.2 | 68.3 | 52.8 |
| 9. 民間企業との連携が増加する | 58.0 | 56.5 | 59.0 | 58.6 | 53.7 | 74.8 |
| 10. 学生の学習態度が増加する | 52.1 | 49.8 | 57.8 | 52.3 | 58.6 | 54.7 |
| 11. 学生の学習の継続が促進 | 38.6 | 45.4 | 37.3 | 35.8 | 45.6 | 55.8 |
| 12. 教育の質が下がる | 19.8 | 27.1 | 26.5 | 15.9 | 17.4 | 14.8 |
| 13. 教育のコストが下がる | 17.0 | 15.8 | 18.1 | 17.3 | 18.4 | 7.4 |
| 14. 教員の授業負担が減少する | 11.5 | 11.4 | 14.4 | 11.2 | 14.4 | 5.6 |

6. 調査票

この調査では、「マルチメディア」は文字・音声・映像などのメディアの多様な組み合わせによる情報提供・伝達を、「情報通信技術」はそれらのマルチメディア・コンピュータを衛星や地上系のネットワークによって相互伝達する技術をさして用います。

平成12年1月1日現在の状況についてお答えください。

問1 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用を促進するための支援センターを設置されていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 設置している 2. 設置を予定している 3. 設置する予定はない
(設置予定時期：平成 年 月)

問1で「1. 設置している」と答えた方にかがいます。

問1SQ1 そのセンターの名称を記入し、所属に○をつけ、それぞれの常勤と非常勤のスタッフの人数をお答えください。

A. 名 称 : _____

B. 所 属 : 1. 全学附属施設 2. 部局附属施設 3. その他 (具体的に:)

C. 教 員 : 常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人

D. 技術職員 : 常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人

E. 事務職員 : 常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人

F. 学 生 : TA・RA () 人 短期アルバイト () 人

問1SQ2 そのセンターでは、どのようなサービスを行っていますか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 積極的に 行っている | | 行っていない | | まったく 行っていない | |
|-------------------------|---------------|---|--------|---|----------------|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 1. マルチメディア機器の活用方法の講習 | | | | | | |
| 2. コンピュータ・プログラミング講習 | | | | | | |
| 3. データベース・サービス | | | | | | |
| 4. ネットワークの管理 | | | | | | |
| 5. マルチメディア教材の制作ならびにその支援 | | | | | | |
| 6. マルチメディア機器の利用相談 | | | | | | |

上記以外のサービス (具体的に: _____)

II

大学本部

高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査

平成12年1月

＜調査の趣旨とお願ひ＞

高度情報通信社会を迎えて、高等教育における教育の方法は大きく変わろうとしております。ご案内の様に、この問題について、昨年11月には文部大臣から2つの審議会に対し、諮問がなされております。

大学審議会では「高等教育における情報通信技術能力の育成と情報通信技術の活用による教育提供等を推進するための方策について」、生涯学習審議会では「衛星通信やインターネットを活用した大学等の公開講座等の全国的な提供システムの確立等について」審議することになっております。

すでに日本の高等教育機関でも、マルチメディアおよび通信衛星・インターネットなどの情報通信技術を教育に活用する事例が急増しております。文部省所管の大学共同利用機関でありますマルチメディア教育開発センターは、「多様なメディアを高度に利用して行う教育の内容、方法等の研究及び開発並びにその成果の提供」を任務としております。その一環として、高等教育機関におけるマルチメディア利用に関する各種情報の収集につとめておりますが、このたびは、わが国の「高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査」を実施することになりました。この調査は、全国の大学・短期大学及び高等専門学校のご協力をいただきアンケート形式で行うものですが、今回を第1回として、今後定期的にを行い、高等教育機関におけるマルチメディア利用がどのように推移していくのかに関する情報を掌握し、関係者の方々の利用に供することを目的といたします。調査を通して、転換期を迎えているわが国の高等教育の将来の在り方を考える上での、重要な手がかりが得られることを願っております。お寄せいただいたデータはすべて統計的に処理し、個々の機関や教員名等を公表することはありません。また、調査の結果は、当センターのホームページや印刷物等でご提供させていただきます。つきましては、公衆お忙しい中を大変恐縮でございますが、事情ご理解の上、ぜひとも調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

メディア教育開発センター所長 坂元 昂

＜調査の問い合わせ先＞

メディア教育開発センター事業部情報資料基データベース管理課
〒261-0014 千葉県美浜区若葉2-12
Tel: 043-298-8165, Fax: 043-298-8479, E-mail: lisweb@nime.ac.jp

問 2. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用に関する全学レベルの委員会が設けられていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 設置している 2. 設置を予定している 3. 設置する予定はない
(設置予定時期：平成 年 月)

問 2 で、「1. 設置している」と答えた方にうかがいます。

問 2SQ その委員会の特徴について、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- A. 委員の人数： 1. ～5 人 2. 6～10 人 3. 11～15 人
4. 16～20 人 5. 21 人～

B. 締密内容：

【過去 1 年間の状況についてお答えください】

| | よく答 える | ときどき 答える | あまり答 えない | ほとんど 答えない |
|-------------------------------|-----------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 機器・設備の選定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. マルチメディア関連カリキュラムの問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. マルチメディア支援センターの構築・運営 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. マルチメディア利用の将来計画の策定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. ネットワーク・セキュリティの問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. マルチメディア利用に関するソフトウェア・ハードウェア | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. マルチメディアの遠隔教育利用の問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 知的所有権処理の問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外の審議内容

(具体的に：

)

III

問 3. 貴機関では、下記の人々を対象としたマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育や研修を、(イ) 現在、行っていますか。また、(ロ) 将来的に在り方についてどのようにお考えですか。(イ) (ロ) について、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | (イ) 現状 | | (ロ) 将来の在り方 | |
|----------|--------------|--------|---------------------|----------------|
| | 完全に 行っている | 行っていない | もっと 行うべき までよい | あまり行わ なくてよい |
| 1. 教員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. TA・RA | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 大学院生 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 学部学生 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 4. 貴機関では、現在、下記の情報通信技術を教育などに利用されていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 利用している | 利用を 予定している | 利用する 予定はない |
|--------------------|--------|---------------|---------------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 |

問 5. 貴機関ではインターネットを導入されていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 導入している 2. 予定している (導入予定時期：平成 年 月)
3. 導入の予定はない

問 6. 貴機関では、インターネットを利用したオンライン上の教育などを行っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 行っている 2. 予定している (開始予定時期：平成 年 月)
3. 行う予定はない

IV

問 10. 貴機関の設置形態と学部数・研究科数は次のどれですか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

A 設置形態： 1. 国立 2. 公立 3. 私立

B 学部数: 1. 1 学部 2. 2 学部 3. 3 学部
4. 4~5 学部 5. 6 学部~

C 研究科数: 1. 1 研究科 2. 2 研究科 3. 3 研究科
4. 4~5 研究科 5. 6 研究科~

問 11. マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関してのご意見を、ご自由にお書きください。

[illegible]

これで終わりです。ご協力どうもありがとうございました。

VII

*メディア教育開発センターでは、マルチメディアや情報通信技術等を高等教育で利用されている機関の情報の収集につとめております。貴機関の名称をご記入のうえ、お差し支えなければご連絡を差し上げる担当の方をお教えいただけませんでしょうか。今後の訪問調査の資料とさせていただきます。ただ、このアンケートでお答えいただいた個別機関の内容を外部に公表することはございません。

＜貴機関の名称＞

学大

＜連絡先＞

| | |
|-------------------|--|
| 担当者ご氏名 (所属部署名) | |
| TEL | |
| FAX | |
| E-mail | |

VIII

高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査

< 調査の趣旨とお願い >

高度情報通信社会を迎えて、高等教育における教育の方法は大きく変わろうとしております。ご案内の様に、この問題について、昨年11月には文部大臣から2つの審議会に対し、質問がなされております。

大学審議会では「高等教育における情報通信技術能力の育成と情報通信技術の活用による教育提供等を推進するための方策について」、生涯学習審議会では「生涯学習やインターネットを活用した大学等の公開講座等の全国的な提供システム等の確立等について」審議することになっております。

すでに日本の高等教育機関でも、マルチメディアおよび通信衛星・インターネットなどの情報通信技術を教育に活用する事例が急増しております。文部省所管の大学共同利用機関であります当メディア教育開発センターは、「多様なメディアを高度に利用して行う教育の内容、方法等の研究及び開発並びにその成果の提供」を任務としております。その一環として、高等教育機関におけるマルチメディア利用に関する各種の情報の収集につとめておりますが、このたむわが国の「高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査」を実施することになりました。この調査は、全国の大学・短期大学及び高等専門学校のご協力をお願いいたします。この調査は、全国の大学・短期大学及び高等専門学校にも定期的に、高等教育機関におけるマルチメディア利用がどのように移行しているのかに関する情報を蓄積し、関係者の方々の利用に供することを目的とするものです。調査を通して、転換期を迎えているわが国の高等教育の現状の在り方を考える上での、重要な手がかりが得られることを願っております。お寄せいただいたデータはすべて統計的に処理し、個々の機関や教員名等を公表することはありません。また、調査の結果は、当センターのホームページや印刷物等で提供させていただきます。つきましては、公認忙しい中大変恐縮でございますが、事情ご理解の上、ぜひとも調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

回答は、とくにことわりのない限り平成 12 年 1 月 1 日での状況をお答えいただきます。平成12年1月31日(月)までに、同封の封筒によりご返送ください。

メディア教育開発センター所長 坂元 昂

< 調査の問い合わせ先 >

メディア教育開発センター事業部情報資料室データベース管理係

〒261-0014 千葉県美浜区新築 2-12

Tel: 043-298-3165, Fax: 043-298-3479, E-mail: lisweb@nime.ac.jp

この調査では、「マルチメディア」は文字・音声・映像などのメディアの多様な組み合わせによる情報媒体・手段を、「情報通信技術」はそれらのマルチメディア・コンテンツを衛星や地上系のネットワークによって相互伝達する技術を含めて用います。

*平成 12 年 1 月 1 日現在の、学部と研究科とを合わせた状況についてお答えください。

1. マルチメディア一般の利用についてうかがいます

問 1. 貴部局では、下記のマルチメディアや情報通信技術をどの程度利用されていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく行われている | ある程度行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|--------------------------------|----------|------------|------------|-------------|
| 1. オーディオ・カセット教材の利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 録画ビデオの授業への利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. CD-ROM 教材の利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. インターネットによる教材の提供 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. マルチメディア教材の作成 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. パーソナルコンピュータによるプレゼンテーション | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の相談 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 電子メールによる課題の提出 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 図書館資料のデータベース化 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. シラバスのインターネットなどによる公開 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 通信衛星などによる授業 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 教室の授業の WWW 上への公開 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 2. 貴部局では、下記の人々を対象としたマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育や研修を、(イ) 現在、行っていますか。また、(ロ) 将来的な在り方についてどのようなお考えですか。(イ) (ロ) について、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | (イ) 現状 | | | (ロ) 将来的な在り方 | | |
|----------|--------------|---------------|--------|--------------|--------------|----------------|
| | 完全に 行っている | ある程度 行っている | 行っていない | もっと 行なうべき | 現状の ままでよい | あまり行わ なくてよい |
| 1. 教員 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 3. TA・BA | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 大学院生 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 5. 学部学生 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |

問 3. 貴部局では、教員がマルチメディア教材を自作する場合、以下のような支援が行われていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく行わ れている | ある程度 行われている | あまり行わ れていない | ほとんど行 われていない |
|---------------------------|--------------|----------------|----------------|-----------------|
| 1. 学内組織（部局が「びわか」などの組織的支援） | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 部局内の担当教職員の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. ボランティア教員の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. ボランティア学生の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 民間企業などへの外注 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 4. 貴部局では、マルチメディアや情報通信技術を利用される目的をどのようにお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく あてはまる | ある程度 あてはまる | あまり あてはまらない | まったく あてはまらない |
|------------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 教育のコストを削減するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. カリキュラム改革のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 教育の効果を上げるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 新技術を教育へ応用するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 新たな学生層を開拓するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 研究上の知見を共有するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 教員の負担を減少するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生の動機づけを高めるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 機関の活動の公開のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 広報活動のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 事務運営の効率化のため | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 5. 貴部局では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用に関して、以下の人々の間にはどのような要望がありますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全体として 積極的 | 一部が 積極的 | 一部が 消極的 | 全体として 消極的 |
|-----------|--------------|------------|------------|--------------|
| 1. 本部の管理層 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 教員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 大学院生 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 学部学生 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 6. 貴部局では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用にあたって、何が重要になると思われますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よくあてはまる | ある程度あてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|-------------------|---------|-----------|------------|-------------|
| 1. 機器設備の導入費用がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機器設備の数が不十分 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 機器設備の維持費用がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 教員のメディア活用能力が低い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 授業で利用する必要がない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 利用による教育効果がない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 利用できる教員が不足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生のメディア活用能力が低い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 教員職能が不十分でない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 文庫スタッフが不足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 利用の準備に時間がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 特定の者に負担がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |

II. 衛星通信や地上系通信の利用についてうかがいます

問 7. 貴部局では、現在、下記の情報通信技術を教育などに利用されていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 利用している | 利用を予定している | 利用する予定はない |
|--------------------|--------|-----------|-----------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 |

問 7 で、「1. 利用している」、「2. 利用を予定している」と答えた方にかがいます。

問 7SQ1 それば、1 年間にどの程度利用されますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | ～6 回 | 6～16 回 | 16～26 回 | 26～36 回 | 36 回～ |
|--------------------|------|--------|---------|---------|-------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 7SQ2 それば、どのような場面に用いますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|-------------------|------|-------|
| 1. 長距離遠隔教育 (一級教育) | 1 | 2 |
| 2. 学部生対象の専門教育 | 1 | 2 |
| 3. 大学院生対象の教育 | 1 | 2 |
| 4. 留学教育 | 1 | 2 |
| 5. 補習教育 | 1 | 2 |
| 6. 社会人対象の研修や公開講座 | 1 | 2 |
| 7. 教員や大学教員の研修会 | 1 | 2 |
| 8. 教員や教員の会議 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

問 7SQ3 それば、どのような方法によって通信を確保していますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|---|------|-------|
| 1. 双方向の音声・映像による同時の双務 | 1 | 2 |
| 2. 音声・映像による送信と、同時にその他の手段 (電話・ファクシミリ・電子メールなど) による返信 | 1 | 2 |
| 3. 音声・映像による送信と、その後にその他の手段 (電話・ファクシミリ・電子メールなど) による返信 | 1 | 2 |
| 4. 一方方向の音声・映像 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

問 7SQ4 それば、どの地点と接続していますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|-------------|------|-------|
| 1. 同一キャンパス内 | 1 | 2 |
| 2. 国内の他機関 | 1 | 2 |
| 3. 海外の他機関 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

Ⅲ. インターネットの利用についてうかがいます

問 8. 貴部局ではインターネットを導入されていますか。

1. 導入している 2. 導入を予定している (予定時期: 平成 年 月)
3. 導入の予定はない

問 8 で「1. 導入している」「2. 導入を予定している」と答えた方にうかがいます。

問 8SQ1 貴部局では、教職員や学生にインターネット利用可能な ID を与えていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全員に 与えている | 希望者に 与えている | 一部に 与えている | 与えて いない |
|----------|--------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 教職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 大学教生に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 学部学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 本学学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 8SQ2 貴部局では、インターネットの利用に関する教育や研修を行っていますか。

| | 全員に 行っている | 希望者に 行っている | 一部に 行っている | 行っ ていない |
|----------|--------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 教職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 大学教生に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 学部学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 9. 貴部局では、学生に個人用のパソコンの所持を奨励していますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全員に 奨励している | 一部に 奨励している | 推奨している | どちらでもない |
|----------|---------------|---------------|--------|---------|
| 1. 大学教生に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 学部学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

7

問 10. 貴部局では WWW 上にホームページを作成していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 公報のページを作成している 2. 非公報のページがある 3. 作成していない

問 10 で「1. 公報のページを作成している」と答えた方にうかがいます。

問 10SQ1 そのホームページの作成・更新は、主に下記の誰が担当していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 担当委員会の教職員 2. 事務職員 3. TA や RA
4. ボランティアの教職員 5. ボランティアの学生 6. 外部企業に委託
7. その他 (具体的に:)

問 10SQ2 そのホームページでは、下記のどのような内容を外部に公表していますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 公表 している | 一部公表 している | 公表を計画 している | 掲載 していない |
|------------------|------------|--------------|---------------|-------------|
| 1. 部局の沿革・組織構成 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 部局のニュース・イベント | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 履修科目一覧・シラバス | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 授業の内容・課題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 授業の教材など | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 入学要件・入試情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 図書館の蔵書カタログ・検索 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 教員・研究員の紹介 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 学生のサークル活動 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 就職・求人情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 同窓会情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 外部関連サイトへのリンク | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外の公表内容 (具体的に:)

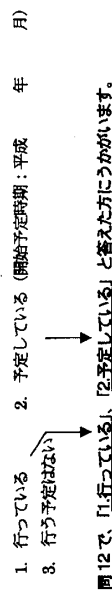
8

問 11. 貴部局では、今後、インターネットを下記のことからにどの程度利用しようとお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 積極的に 利用したい | ある程度 利用したい | 利用の 必要がない |
|------------------------------------|---------------|---------------|--------------|
| 1. 授業の提供 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 学生がインターネットによって収集した 情報による授業 | 1 | 2 | 3 |
| 3. 電子メールによる学生からのレポート等の提出 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 電子メールや電子掲示板による授業への 質問や学生間の討議 | 1 | 2 | 3 |
| 5. 電子メールや電子掲示板による教員連絡 | 1 | 2 | 3 |
| 6. ホームページを利用した学生の情報交換 | 1 | 2 | 3 |
| 7. 図書館のオンライン・カタログ化 | 1 | 2 | 3 |
| 8. 電子図書館 | 1 | 2 | 3 |
| 9. 他機関との単位互換による授業 | 1 | 2 | 3 |
| 10. WWW 上での公開講座 | 1 | 2 | 3 |
| 11. WWW 上への教室の授業の一般公開 | 1 | 2 | 3 |

上記以外の利用
(具体的に：)

問 12. 貴部局では、インターネットを利用したオンライン上の教育などを行っていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。



問 12SQ1 それば、どのような場面に用いますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

1. 共通教養教育 (一般教育)
2. 学部生対象の専門教育
3. 大学院生対象の教育
4. 留学教育
5. 補習教育
6. 教員や大学院生の研究会
7. 社会人対象の研修や公開講座
8. その他 ()

問 12SQ2 それば、どの範囲で行われますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

1. 教室内の授業
2. 同一機関の遠隔地
3. 国内の他機関
4. 海外の他機関
5. 一般への公開
6. その他 (具体的に：)

問 13. インターネットを利用した双方向授業は、教室における対面授業と比較してどのようなものになるとお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく あてはまる | ある程度 あてはまる | あまりあて はまらない | まったくあて はまらない |
|----------------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 最先端の情報を収集した教育ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 社会人学生が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生が学習の進捗が把握 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 教材の制作が容易ではない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 民間企業との連携が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 授業以外の学習支援が必要 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 対面式の補助として用いるべき | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生の教育費負担が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 対面式の授業の補助が必要 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 教員の授業負担が減少する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 教育のコストが下がる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 他機関との交換授業が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 教育の質が下がる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 高等教育の活性化につながる | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外 (具体的に：)

問14. オンライン上の教育のみで学位取得が可能か、いわゆるバーチャル・ユニバーシティについてどのようにお考えですか。ご自由にお答えください。

問 15. 貴部局の設置形態ならびに部局の専門は次のどれですか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

- A. 設置形態

1. 国立 2. 公立 3. 私立

B. 部局

1. 人文科学系 6. 医・歯・薬・保健系

2. 社会科学系 7. 芸術系

3. 教育学系 8. 家政系

4. 理工学系 9. その他（具体的に：

5. 農学系)

問 16. マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関してのご意見を、ご自由にお書きください。

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。

* メディア教育開発センターでは、マルチメディアや情報通信技術を高等教育で利用されている機関の情報の収集につとめております。貴部局の名称をご記入のうえ、お差し支えなければご連絡を差し上げる担当の方をお教えいただけますでしょうか。今後の訪問調査の資料とさせていただきます。ただし、このアンケートでお答えいただいた個別部局の内容を外部に公表することはありません。

<貴部局の名称>

| | |
|-----|----|
| 大学 | 学部 |
| 研究科 | |

<連絡先>

| | |
|--------|--|
| 担当者ご氏名 | |
| TEL | |
| FAX | |
| E-mail | |

高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査

＜ 調査の趣旨とお願い ＞

高度情報通信社会を迎えて、高等教育における教育の方法は大きく変わろう
らる2つの審議会に対し、質問がなされております。

大学審議会では「高等教育における情報通信技術能力の育成と情報通信技術の活用による教育提供等を推進するための方策について」、生涯学習審議会では「衛星通信やインターネットを活用した大学等の公開講座等の全国的な提供システムの確立等について」審議することになっています。

すでに日本の高等教育機関でも、マルチメディアおよび通信衛星・インターネットなどの情報通信技術を教育に活用する事例が急増しております。文部省所管の大学共同利用機関であり、マルチメディア教育開発センターは、「多様な学習のニーズを高度に利用して行い、教育の内容、方法等の研究及び開発並びにその成果の提供」を任務としております。その一環として、高等教育機関におけるマルチメディア利用に関する各様の情報の収集につとめておりますが、このたびは、わが国の「高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査」を実施することになった。「調査は、全国の大学・短期大学及び高等専門学校とのご協力いただきアンケート形式で行うものですが、今回第1回として、今後とも定期的にを行い、高等教育機関に関するマルチメディア利用の状況を推移していくのかにに関する情報を蓄積し、関係者の方々の利用に供することを目指的」とするものです。調査を通して、転換期を迎えているわが国の高等教育の将来の在り方を考える上で、重要な手がかりが得られることを願っております。お寄せいただいたデータは、まず、統計的に処理し、個々の機関や教員名等を公表することはいりません。また、調査の結果は、当センターのホームページ上でお覧いただきご提供させていただきます。つきましては、公衆お忙しい中大変とお察しでございますが、事情ご容察の上、ぜひとも調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

回答は、とくにことわりのない限り平成12年1月1日での状況をお答えいた
ただき、平成12年1月31日(月)までに、同封の封筒によりご返送ください。

メディア教育開発センター所長 坂元 昂

＜調査の問い合わせ先＞

メデアイア教育開発センター事業部情報資料室データベース管理係

千261-0014 千基市美浜区若基 2-12

Tel: 043-298-3165, Fax: 043-298-3479, E-mail: lis-web@nime.ac.jp

*平成12年1月1日現在の状況についてお答えください。

1. マルチメディア一般の利用についてうかがいます

質問 1. 貴機関では、下記のマルチメディアや情報通信技術をどの程度利用されていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| よく行われて いる | やや行われて いる | あまり行われ ていない | ほとんど行わ れていない |
|---------------------------------------|--------------|----------------|-----------------|
| | 1 | 2 | 3 4 |
| 1. オーディオ・カセット教材の利用 | 1 | 2 | 3 4 |
| 2. 録画ビデオの授業への利用 | 1 | 2 | 3 4 |
| 3. CD-ROM 教材の利用 | 1 | 2 | 3 4 |
| 4. インターネットによる教材の提供 | 1 | 2 | 3 4 |
| 5. マルチメディア教材の作成 | 1 | 2 | 3 4 |
| 6. パーナルコンピュータ（バリボンなど） によるプレゼンテーション | 1 | 2 | 3 4 |
| 7. ビデオカメラやデジタルカメラの 授業での利用 | 1 | 2 | 3 4 |
| 8. 電子掲示板や電子メールによる授 業への質問や学生間の討議 | 1 | 2 | 3 4 |
| 9. 電子メールや電子掲示板による事 務連絡 | 1 | 2 | 3 4 |
| 10. 電子メールによる課題の提出 | 1 | 2 | 3 4 |
| 11. 図書館資料のデータ・ベース化 | 1 | 2 | 3 4 |
| 12. シラバスのインターネットなどに よる公開 | 1 | 2 | 3 4 |
| 13. 通信衛星などによる授業 | 1 | 2 | 3 4 |
| 14. 教室の授業の WWW 上への公開 | 1 | 2 | 3 4 |

問2 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用を促進するための支援センターを設置されていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 設置している 2. 設置を予定している 3. 設置する予定はない
(設置予定時期：平成 年 月)

問2で、「1. 設置している」と答えた方にうかがいます。

問2SQ1 そのセンターの名称を記入し、所属に○をつけ、それぞれの常勤と非常勤のスタッフの人数をお答えください。

- A. 名称：
B. 所属：1. 全学附属施設 2. その他 (具体的に：)
C. 教員：常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人
D. 技術職員：常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人
E. 事務職員：常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人
F. 学生：TA・RA () 人 短期アルバイト () 人

問2SQ2 そのセンターでは、どのようなサービスを行っていますか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 積極的に 行っている | 行っている | 行っていない | あまり行 っていない | まったく行 っていない |
|-------------------------|---------------|-------|--------|---------------|----------------|
| 1. マルチメディア機器の利用方法の講習 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 2. コンピュータ・プログラミング講習 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 3. データベース・サービス | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 4. ネットワークの管理 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 5. マルチメディア教材の制作ならびにその支援 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 6. マルチメディア機器の利用相談 | 1 | 2 | 3 | 4 | |

上記以外のサービス (具体的に：)

問3 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用に関する全学レベルの委員会が設けられていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 設置している 2. 設置を予定している 3. 設置する予定はない
(設置予定時期：平成 年 月)

問3で、「1. 設置している」と答えた方にうかがいます。

③

問3SQ その委員会の特徴について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

- A. 委員の人数： 1. ～5人 2. 6～10人 3. 11～15人
4. 16～20人 5. 21人～

B. 審議内容：

【過去1年間の状況についてお答えください】

| | よく審 議する | ときどき 審議する | あまり審 議しない | ほとんど審 議しない |
|----------------------------|------------|--------------|--------------|---------------|
| 1. 機器・設備の選定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. マルチメディア関連カリキュラムの問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. マルチメディア支援センターの構築・改革 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. マルチメディア利用の将来計画の策定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. ネットワーク・セキュリティの問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. マルチメディア利用に関するアカデミックイベント | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. マルチメディアの遠隔教育利用の問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 知的所有権処理の問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外の審議内容 (具体的に：)

問4 貴機関では、以下の人々を対象としたマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育や研修を、(イ) 現在、行っていますか。また、(ロ) 将来的な在り方についてどのようにお考えですか。(イ) (ロ) について、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | (イ) 現状 | | | (ロ) 将来の在り方 | | |
|----------|--------------|-------------|--------|-------------|--------------|----------------|
| | 十分に 行っている | やや 行っている | 行っていない | もっと 行うべき | 現状の ままでよい | あまり行わ なくてよい |
| 1. 教員 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 3. TA・RA | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 学生 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |

④

問 5. 貴機関では、教員がマルチメディア教材を自作する場合、以下のような支援が行われているでしょうか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく行われている | やや行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|---------------------------|----------|----------|------------|-------------|
| 1. 学内組織（学内研修、研究会など）の組織的支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機関内の担当教職員の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. ボランティア教員の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. ボランティア学生の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 民間企業などへの外注 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 6. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術を利用される目的をどのようにお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よくあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|------------------|---------|---------|------------|-------------|
| 1. 教育のコストを抑えるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. カリキュラム改革のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 教育の効果をあげるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 新技術を教育へ応用するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 新たな学生層を開拓するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 研究上の知見を共有するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 教員の負担を減少するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生の動機づけを高めるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 機関の活動の公開のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 広報活動のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 事務運営の効率化のため | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑤

問 7. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用に関して、以下の人々の間にはどのような雰囲気がありますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全体として積極的 | 一部が積極的 | 一部が消極的 | 全体として消極的 |
|-----------|----------|--------|--------|----------|
| 1. 本部の管理層 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 教員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 学生 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 8. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用にあたって、何が障害になると思われますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よくあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|-------------------|---------|---------|------------|-------------|
| 1. 機器設備の導入費用がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機器設備の数が不十分 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 機器設備の維持費用がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 教員のメディア活用能力が低い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 授業で利用する必要がある | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 利用による教育効果がない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 利用できる教材が不足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生のメディア活用能力が低い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 事務職員が対応できない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 支援スタッフが不足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 利用の準備に時間がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 特定の者に負担がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |

⑥

II. 衛星通信や地上系通信の利用についてうかがいます

問9. 貴機関では、現在、下記の情報通信技術を教育などに利用されていますか、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 利用している | 利用を予定している | 利用する予定はない |
|--------------------|--------|-----------|-----------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 |

問9で、「1.利用している」、「2.利用を予定している」と答えた方にうかがいます。

問9SQ1. それは、1年間にどの程度利用されますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

| | ～3回 | 6～15回 | 16～25回 | 26～35回 | 36回～ |
|--------------------|-----|-------|--------|--------|------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問9SQ2. それは、どのような場面に用いますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|------------------|------|-------|
| 1. 共通教養教育 (一般教育) | 1 | 2 |
| 2. 専門教育 | 1 | 2 |
| 3. 留学教育 | 1 | 2 |
| 4. 補習教育 | 1 | 2 |
| 5. 社会人対象の研修や公開講座 | 1 | 2 |
| 6. 教員や学生の研究会 | 1 | 2 |
| 7. 教員や職員の会議 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

⑦

問9SQ3. それは、どのような方法によって通信を確保していますか、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|--|------|-------|
| 1. 双方向の音声・映像による同時の通信 | 1 | 2 |
| 2. 音声・映像による送信と、同時にその他の手段 (電話・ファクス・電子メールなど) による返信 | 1 | 2 |
| 3. 音声・映像による送信と、その後その他の手段 (電話・ファクス・電子メールなど) による返信 | 1 | 2 |
| 4. 一方方向の音声・映像 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

問9SQ4. それは、どの地点と接続していますか、それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|-----------|------|-------|
| 1. 同一機関内 | 1 | 2 |
| 2. 国内の他機関 | 1 | 2 |
| 3. 海外の他機関 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

III. インターネットの利用についてうかがいます

問10. 貴機関ではインターネットを導入されていますか。

1. 導入している 2. 導入を予定している (予定時期: 平成 年 月)
3. 導入の予定はない

問10で「1. 導入している」「2. 導入を予定している」と答えた方にうかがいます。

⑧

問 10SQ1 貴機関では、教職員や学生にインターネット利用可能な ID を与えていますか、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全員に 与えている | 希望者に 与えている | 一部に 与えている | 与えて いない |
|----------|--------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 教員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 卒業生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 10SQ2 貴機関では、インターネットの利用に関する教育や研修を行っていますか。

| | 全員に 行っている | 希望者に 行っている | 一部に 行っている | 行っ ていない |
|----------|--------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 教員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 11. 貴機関では、学生に個人用のパソコンの所持を義務づけていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 義務づけている
- 一部に義務づけている
- 推奨している
- どちらでもない

問 12. 貴機関では WWW 上にホームページを作成していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 公認のページを作成している
- 非公認のページがある
- 作成していない

問 12 で、「1. 公認のページを作成している」と答えた方にかかいます。

問 12SQ1 そのホームページの作成・更新は、主に下記の誰が担当していますか。
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- 担当委員会の教員
- 事務職員
- TA や RA
- ボランティアの教員
- ボランティアの学生
- 外部企業に委託
- その他（具体的に：_____）

⑨

問 12SQ2 そのホームページでは、下記のどのような内容を外部に公表していますか、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 公表 している | 一部公表 している | 公表を計画 している | 掲載 していない |
|------------------|------------|--------------|---------------|-------------|
| 1. 機関の沿革・組織構成 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機関のニュース・イベント | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学科紹介 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 開講科目一覧・シラバス | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 授業の内容・課題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 授業の教材など | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 入学要件・入試情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 図書館の蔵書カタログ・検索 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 教員・研究室の紹介 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 学生のサークル活動 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 就職・求人情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 同窓会情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 外部関連サイトへのリンク | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外の公表内容

（具体的に：_____）

⑩

問 13. 貴機関では、今後、インターネットを下記のことからにどの程度利用しようとお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 積極的に 利用したい | ある程度は 利用したい | 利用の 必要がない |
|------------------------------------|---------------|----------------|--------------|
| 1. 授業の提供 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 学生がインターネットによって収集した 情報による授業 | 1 | 2 | 3 |
| 3. 電子メールによる学生からのレポート等の提出 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 電子メールや電子掲示板による授業への 質問や学生間の討議 | 1 | 2 | 3 |
| 5. 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 1 | 2 | 3 |
| 6. ホームページを利用した学生の情報交換 | 1 | 2 | 3 |
| 7. 図書資料のオンライン・カタログ化 | 1 | 2 | 3 |
| 8. 電子図書館 | 1 | 2 | 3 |
| 9. 他機関との単位互換による授業 | 1 | 2 | 3 |
| 10. WWW 上での公開講座 | 1 | 2 | 3 |
| 11. WWW 上への教室の授業の一般公開 | 1 | 2 | 3 |

上記以外の利用 (具体的に:)

問 14. 貴機関では、インターネットを利用したオンライン上の教育などを行っていますか。
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 行っている 2. 予定している (開始予定時期: 平成 年 月)
3. 行う予定はない

問 14 で、「1. 行っている」、「2. 予定している」と答えた方にうかがいます。

問 14SQ1 それほ、どのような場合に用いますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

1. 共通教養教育 (一般教育) 5. 教員の研究会
2. 専門教育 6. 社会人対象の研修や公開講座
3. 語学教育 7. その他 ()
4. 補習教育

⑪

問 14SQ2 それほ、どの範囲で行われますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

1. 教室内の授業 2. 同一機関の遠隔地 3. 国内の他機関
4. 海外の他機関 5. 一般への公開
6. その他 (具体的に:)

問 15. インターネットを利用した双方向授業は、教室における対面授業と比較してどのようなものになるとお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく あてはまる | あまりあて はまらない | まったくあて はまらない |
|----------------------|-------------|----------------|-----------------|
| 1. 最先端の情報を収集した教育ができる | 1 | 2 | 3 |
| 2. 社会人学生が増加する | 1 | 2 | 3 |
| 3. 学生の学習の継続が促進 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 教材の制作が容易ではない | 1 | 2 | 3 |
| 5. 民間企業との連携が増加する | 1 | 2 | 3 |
| 6. 授業以外の学習支援が必要 | 1 | 2 | 3 |
| 7. 対面式の補助として用いるべき | 1 | 2 | 3 |
| 8. 学生の教育費負担が増加する | 1 | 2 | 3 |
| 9. 対面式の授業の補助が必要 | 1 | 2 | 3 |
| 10. 教員の授業負担が減少する | 1 | 2 | 3 |
| 11. 教育のコストが下がる | 1 | 2 | 3 |
| 12. 他機関との交換授業が増加する | 1 | 2 | 3 |
| 13. 教育の質が下がる | 1 | 2 | 3 |
| 14. 高等教育の活性化につながる | 1 | 2 | 3 |

上記以外

(具体的に:)

⑫

問 16. オンライン上の教育のみで学位取得が可能な、いわゆるバーチャル・ユニバーシティについてどのようにお考えですか。ご自由にお答えください。

問 17. 貴機関の設置形態や学科数は次のどれですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- A. 設置形態： 1. 国立 2. 公立 3. 私立
- B. 学科数： 1. 1学科 2. 2学科 3. 3学科
4. 4~5学科 5. 6学科~

問 18. マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関してのご意見を、ご自由にお書きください。

[illegible]

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。

⑬

*メディア教育開発センターでは、マルチメディアや情報通信技術を高
等教育で利用されている機種の情報の収集につとめております。貴機関
の名称をご記入のうえ、お差し支えなければご連絡を差し上げる担当
方をお教えいただければと思います。今後の訪問調査の資料とさせて
いただきます。ただし、このアンケートでお答えいただいた個別機関の
内容や内部に公表することにはございません。

＜貴機関の名称＞

短期大学

＜連絡先＞

| | |
|-------------------|--|
| 担当者ご氏名 (所属部署名) | |
| TEL | |
| FAX | |
| E-mail | |

14

高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査

< 調査の趣旨とお願い >

高度情報通信社会を迎えて、高等教育における教育の方法は大きく変わろうとしております。ご案内の様に、この問題について、昨年11月には文部大臣から2つの審議会に対し、諮問がなされております。

大学審議会では「高等教育における情報通信能力の育成と情報通信技術の活用による教育提供等を推進するための方策について」、生涯学習審議会では「情報通信やインターネットを活用した大学等の公開講座等の全国的な連携システムの確立等について」審議することになっております。

すでに日本の高等教育機関でも、マルチメディアおよび通信衛星・インターネットなどの情報通信技術を教育に活用する事例が急増しております。文部省所管の大学共同利用機関であります当メディア教育開発センターは、「多様なメディアを高度に利用して行う教育の内容、方法等の研究及び開発並びにその成果の提供」を任務としております。その一環として、高等教育機関におけるマルチメディア利用に関する各種の情報の収集につとめておりますが、このたび、わが国の「高等教育機関におけるマルチメディア利用実態調査」を実施することになりました。この調査は、全国の大学・短期大学及び高等専門学校のご協力をいただきアンケート形式で行うものですが、今回を第1回として、今後定期的に行い、高等教育機関におけるマルチメディア利用がどのように推移していくのかに関する情報を蓄積し、関係者の方々の利用に供することを目的とするものです。調査を通して、転換期を迎えているわが国の高等教育の将来の在り方を考える上での、重要な手がかりが得られることを願っております。

お寄せいただいたデータはすべて統計的に処理し、個々の機関や教員名等を公表することとはございません。また、調査の結果は、当センターのホームページや印刷物等でご提供させていただきます。つきましては、公称おしい中を大変恐縮でございますが、事情ご理解の上、ぜひとも調査にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

回答は、とくにことわりのない限り平成12年1月1日での状況をお答えいただき、**平成12年1月31日(月)**までに、同封の封筒によりご返送ください。

メディア教育開発センター所長 坂元 昂

< 調査の問い合わせ先 >

メディア教育開発センター事業部情報資料室データベース管理係

〒261-0014 千葉県美浜区若葉 2-12

Tel: 043-298-3165, Fax: 043-298-3479, E-mail: lia-web@nime.ac.jp

この調査では、「マルチメディア」は文字・音声・映像などのメディアの多様な組み合わせによる情報媒体・手段を、「情報通信技術」はそれらのマルチメディア・コンテンツを衛星や地上基のネットワークによって相互伝達する技術をさして用います。

*平成12年1月1日現在の状況についてお答えください。

1. マルチメディア一般の利用についてうかがいます

問 1. 貴機関では、下記のマルチメディアや情報通信技術をどの程度利用されていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく行われている | やや行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|-------------------------------------|----------|----------|------------|-------------|
| 1. オーディオ・カセット教材の利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 録画ビデオの授業への利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. CD-ROM 教材の利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. インターネットによる教材の提供 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. マルチメディア教材の作成 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. パーカ・コンピュータ (バリポイント) によるプレゼンテーション | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. ビデオカメラやデジタルカメラの授業での利用 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 電子掲示板や電子メールによる授業への質問や学生間の討議 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 電子メールによる課題の提出 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 図書資料のデータ・ベース化 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. シラバスのインターネットなどによる公開 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 通信衛星などによる授業 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 教室の授業の WWW 上への公開 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 2 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用を促進するための支援センターを設置されていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 設置している 2. 設置を予定している 3. 設置する予定はない
(設置予定時期：平成 年 月)

問 2 で、「1. 設置している」と答えた方にかがいます。

問 2SQ1 そのセンターの名称を記入し、所属に○をつけ、それぞれの常勤と非常勤のスタッフの人数をお答えください。

- A. 名 称： _____
- B. 所 属： 1. 全学附属施設 2. その他 (具体的に： _____)
- C. 教 員： 常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人
- D. 技術職員： 常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人
- E. 事務職員： 常勤 () 人 非常勤 (兼任を含む) () 人
- F. 学 生： TA・RA () 人 短期アルバイト () 人

問 2SQ2 そのセンターでは、どのようなサービスを行っていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 機密に 行っている | 行っている | あまり行 っていない | まったく行 っていない |
|-------------------------|--------------|-------|---------------|----------------|
| 1. マルチメディア機器の利用方法の講習 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. コンピュータ・プログラミング講習 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. データベース・サービス | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. ネットワークの管理 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. マルチメディア教材の制作ならびにその支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. マルチメディア機器の利用相談 | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外のサービス (具体的に： _____)

問 3 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の利用に関する全学レベルの委員会が設けられていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 設置している 2. 設置を予定している 3. 設置する予定はない
(設置予定時期：平成 年 月)

問 3 で、「1. 設置している」と答えた方にかがいます。

- ④ -

問 3SQ2 その委員会の特徴について、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- A. 委員の人数： 1. 5 人 2. 6~10 人 3. 11~15 人
4. 16~20 人 5. 21 人~

B. 審議内容：

【過去 1 年間の状況についてお答えください】

| | よく審 議する | ときどき 審議する | あまり審 議しない | ほとんど審 議しない |
|-----------------------------|------------|--------------|--------------|---------------|
| 1. 機器・設備の選定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. マルチメディア関連カリキュラムの問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. マルチメディア支援センターの構築・改革 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. マルチメディア利用の将来計画の策定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. ネットワーク・セキュリティの問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. マルチメディア利用に関するファシリテーターの選定 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. マルチメディアの遠隔教育利用の問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 知的所有権処理の問題 | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外の審議内容 (具体的に： _____)

問 4 貴機関では、以下の人々を対象としたマルチメディアや情報通信技術の利用に関する教育や研修を、(イ) 現在、行っていますか。また、(ロ) 将来的な在り方についてどのようにお考えですか。(イ) (ロ) について、それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | (イ) 現状 | | | (ロ) 将来的な在り方 | | |
|----------|--------------|-------------|--------|---------------------|--------------|----------------|
| | 充分に 行っている | やや 行っている | 行っていない | もっと 行わねば ならない | 現状の ままでよい | あまり行わ なくてよい |
| 1. 教員 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 3. TA・RA | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 学生 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |

- ④ -

問 5. 貴機関では、教員がマルチメディア教材を自作する場合、以下のような支援が行われていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく行われている | やや行われている | あまり行われていない | ほとんど行われていない |
|--------------------------|----------|----------|------------|-------------|
| 1. 学内組織（学務部、教務部など）の組織が支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機関内の担当教職員の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. ボランティア教員の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. ボランティア学生の支援 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 民間企業などへの外注 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 6. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術を利用される目的をどのようなようにお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よくあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|------------------|---------|---------|------------|-------------|
| 1. 教育のコストを削減するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. カリキュラム改革のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 教育の効果を上げるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 新技術を教育へ応用するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 新たな学生層を開拓するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 研究上の知見を共有するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 教員の負担を減少するため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生の動機づけを高めるため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 機関の活動の公開のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 広報活動のため | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 事務運営の効率化のため | 1 | 2 | 3 | 4 |

- ⑤ -

問 7. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用に関して、以下の人々の間にはどのような要望がありますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全体として積極的 | 一部が積極的 | 一部が消極的 | 全体として消極的 |
|-----------|----------|--------|--------|----------|
| 1. 本部の管理職 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 教員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 事務職員 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 学生 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 8. 貴機関では、マルチメディアや情報通信技術の導入や利用にあたって、何が障害になると思われますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よくあてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | まったくあてはまらない |
|-------------------|---------|---------|------------|-------------|
| 1. 機器設備の導入費用がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機器設備の数が不十分 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 機器設備の維持費用がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 教員のメディア活用能力が低い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 授業で利用する必要がない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 利用による教育効果がない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 利用できる教員が不足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生のメディア活用能力が低い | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 事務職員が対応できない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 支援スタッフが不足している | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 利用の枠組に時間がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 特定の者に負担がかかる | 1 | 2 | 3 | 4 |

- ⑥ -

II. 衛星通信や地上系通信の利用についてうかがいます

問9. 貴機関では、現在、下記の情報通信技術を教育などに利用されていますか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 利用している | 利用を予定している | 利用する予定はない |
|--------------------|--------|-----------|-----------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 |

問9で、「1.利用している」、「2.利用を予定している」と答えた方にうかがいます。

問9SQ1. それは、1年間にどの程度利用されますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

| | ～5回 | 6～15回 | 16～25回 | 26～35回 | 36回～ |
|--------------------|-----|-------|--------|--------|------|
| 1. 衛星通信 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. 地上系通信 (ISDN など) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問9SQ2. それは、どのような場面に用いますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|------------------|------|-------|
| 1. 共通職業教育 (一般教育) | 1 | 2 |
| 2. 専門教育 | 1 | 2 |
| 3. 語学教育 | 1 | 2 |
| 4. 補習教育 | 1 | 2 |
| 5. 社会人対象の研修や公開講座 | 1 | 2 |
| 6. 教員や学生の研究会 | 1 | 2 |
| 7. 教員や職員の間 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

・ ⑩ ・

問9SQ3. それは、どのような方法によって通信を確保していますか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|---|------|-------|
| 1. 双方向の音声・映像による同時の交信 | 1 | 2 |
| 2. 音声・映像による送信と、同時にその他の手段 (電話・FAX・電子メールなど) による返信 | 1 | 2 |
| 3. 音声・映像による送信と、その後その他の手段 (電話・FAX・電子メールなど) による返信 | 1 | 2 |
| 4. 一方方向の音声・映像 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

問9SQ4. それは、どの地点と接続していますか。それぞれあてはまる番号1つに○をつけてください。

| | 衛星通信 | 地上系通信 |
|-----------|------|-------|
| 1. 同一機関内 | 1 | 2 |
| 2. 国内の他機関 | 1 | 2 |
| 3. 海外の他機関 | 1 | 2 |

上記以外 (具体的に:)

III. インターネットの利用についてうかがいます

問10. 貴機関ではインターネットを導入されていますか。

1. 導入している 2. 導入を予定している (予定時期: 平成 年 月)
3. 導入の予定はない

問10で「1. 導入している」、「2. 導入を予定している」と答えた方にうかがいます。

・ ⑪ ・

問 10SQ1 貴機関では、教職員や学生にインターネット利用可能な ID を与えていますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 全員に 与えている | 希望者に 与えている | 一部に 与えている | 与えて いない |
|----------|--------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 教員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 卒業生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 10SQ2 貴機関では、インターネットの利用に関する教育や研修を行っていますか。

| | 全員に 行っている | 希望者に 行っている | 一部に 行っている | 行っ ていない |
|----------|--------------|---------------|--------------|------------|
| 1. 教員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 事務職員に | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生に | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 11 貴機関では、学生に個人用のパソコンの所持を義務づけていますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 義務づけている
2. 一部に義務づけている
3. 推奨している
4. どちらでもない

問 12 貴機関では WWW 上にホームページを作成していますか。あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 公認のページを作成している
2. 非公認のページがある
3. 作成していない

問 12 で、「非公認のページを作成している」と答えた方にうかがいます。

問 12SQ1 そのホームページの作成・更新は、主に下記の誰が担当していますか。
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 担当委員会の教員
2. 事務職員
3. TA や RA
4. ボランティアの教員
5. ボランティアの学生
6. 外部企業に委託
7. その他（具体的に：_____）

問 12SQ2 そのホームページでは、下記のどのような内容を外部に公表していますか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 公表 している | 一部公表 している | 公表を計画 している | 掲載 していない |
|------------------|------------|--------------|---------------|-------------|
| 1. 機関の沿革・組織構成 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 機関のニュース・イベント | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学科紹介 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 開講科目一覧・シラバス | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 授業の内容・課題 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 授業の教材など | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 入学要件・入試情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 図書館の蔵書カタログ・検索 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 教員・研究室の紹介 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 学生のサークル活動 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 就職・求人情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 同窓会情報 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 外部関連サイトへのリンク | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外の公表内容

（具体的に：_____）

問 13. 貴機関では、今後、インターネットを下記のことからにどの程度利用しようとお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | 積極的に 利用したい | ある程度は 利用したい | 利用の 必要がない |
|------------------------------------|---------------|----------------|--------------|
| 1. 授業の提供 | 1 | 2 | 3 |
| 2. 学生がインターネットによって収集した 情報による授業 | 1 | 2 | 3 |
| 3. 電子メールによる学生からのレポート等の提出 | 1 | 2 | 3 |
| 4. 電子メールや電子掲示板による授業への 質問や学生間の討議 | 1 | 2 | 3 |
| 5. 電子メールや電子掲示板による事務連絡 | 1 | 2 | 3 |
| 6. ホームページを利用した学生の情報交換 | 1 | 2 | 3 |
| 7. 図書館資料のオンライン・カタログ化 | 1 | 2 | 3 |
| 8. 電子図書館 | 1 | 2 | 3 |
| 9. 他機関との単位互換による授業 | 1 | 2 | 3 |
| 10. WWW 上での公開講座 | 1 | 2 | 3 |
| 11. WWW 上への教室の授業の一般公開 | 1 | 2 | 3 |

上記以外の利用 (具体的に:)

問 14. 貴機関では、インターネットを利用したオンライン上の教育などを行っていますか。
あてはまる番号 1 つに○をつけてください。

1. 行っている 2. 予定している (開始予定時期: 平成 年 月)
3. 行う予定はない

問 14 で、「1」行っている」、「2」予定している」と答えた方にうかがいます。

問 14SQ1 それでは、どのような場面に用いますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

1. 共通教養教育 (一般教育) 5. 教員の研究会
2. 専門教育 6. 社会人対象の研修や公開講座
3. 語学教育 7. その他 ()
4. 補習教育

- ⑩ -

問 14SQ2 それは、どの範囲で行われますか。あてはまる番号いくつでも○をつけてください。

1. 教室内の授業 2. 同一機関の遠隔地 3. 国内の他機関
4. 海外の他機関 5. 一般への公開
6. その他 (具体的に:)

問 15. インターネットを利用した双方向授業は、教室における対面授業と比較してどのようなものになるとお考えですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

| | よく あてはまる | ある程度 あてはまる | あまりあて はまらない | まったくあて はまらない |
|----------------------|-------------|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 最先端の情報を収集した教育ができる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 社会人学生が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 学生の学習の継続が困難 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 教材の制作が容易ではない | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. 民間企業との連携が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 授業以外の学習支援が必要 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. 対面式の補助として用いるべき | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 学生の教育費負担が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 対面式の授業の補助が必要 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 教員の授業負担が減少する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 教育のコストが下がる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 他機関との交換授業が増加する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 教育の質が下がる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 高等教育の活性化につながる | 1 | 2 | 3 | 4 |

上記以外
(具体的に:)

- ⑪ -

問 16. オンライン上の教育のみで学位取得が可能な、いわゆるバーチャル・ユニバーシティについてどのようにお考えですか。ご自由にお答えください。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |

問 17. 貴機関の設置形態や学科数は次のどれですか。それぞれあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

- A. 設置形態： 1. 国立 2. 公立 3. 私立
- B. 学科数： 1. 1 学科 2. 2 学科 3. 3 学科
4. 4～6 学科 5. 6 学科～

問 18. マルチメディアや情報通信技術の高等教育への利用に関してのご意見を、ご自由にお書きください。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

これで終わりです。ご協力ありがとうございました。

* メディア教育開発センターでは、マルチメディアや情報通信技術を高等教育で利用されている機関の情報の収集につとめております。貴機関の名称をご記入のうえ、お差し支えなければご連絡を差し上げる担当の方をお教えいただけますでしょうか。今後の訪問調査の資料とさせていただきます。ただし、このアンケートでお答えいただいた個別機関の内容を外部に公表することはありません。

<貴機関の名称>

| |
|--------|
| 高等専門学校 |
|--------|

<連絡先>

| | |
|-------------------|--|
| 担当者ご氏名 (所属部署名) | |
| TEL | |
| FAX | |
| E-mail | |